岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 623 集

二又（ふたまた）遺跡第 11・12 次発掘調査報告書

主要地方道盛岡和賀線道路改良工事関連遺跡発掘調査

２０１４

岩手県盛岡広域振興局土木部

（公財）岩手県文化振興事業団

二又遺跡第 11・12 次発掘調査報告書

主要地方道盛岡和賀線道路改良工事関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、主要地方道盛岡和賀線道路改良工事に関連して平成23・24年度に発掘調査された盛岡市二又遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査により、平安時代の竪穴住居跡と掘立柱建物跡、土師器・須恵器を主体として、多くの遺構・遺物が確認されました。周辺地域における過去の暮らしを知るための手がかりとなる、貴重な資料を得ることができました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県盛岡広域振興局土木部、盛岡市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成26年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長　池　田　克　典

例　　言

1　本報告書は、岩手県盛岡市下飯岡1地割55-1ほかに所在する二又遺跡の発掘調査成果を収録したものである。

2　本遺跡の調査は、主要地方道盛岡和賀線道路改良工事に伴う緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と岩手県盛岡広域振興局土木部との協議を経て、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3　岩手県遺跡台帳に登録される本遺跡の遺跡番号と遺跡略号は、次のとおりである。

遺跡番号：LE26-0024、遺跡略号：IFT-11-11・IFT-12-12

4　発掘調査の調査面積／期間／担当者、室内整理の期間／担当者は、次のとおりである。

平成23年度　野外調査（第11次）

調査面積：3,460㎡／調査期間：平成23年5月6日～8月31日、9月16日～10月14日／調査担当者：川又　晋・金子昭彦・巴　亜子

平成24年度　野外調査（第12次）

調査面積：2,830㎡／調査期間：平成24年7月17日～11月1日／調査担当者：北村忠昭・福島正和・小林弘卓

平成23年度　室内整理

整理期間：平成23年11月1日～平成24年3月30日／整理担当者：川又　晋・巴　亜子

平成24年度　室内整理

整理期間：平成24年11月1日～平成25年3月31日／整理担当者：北村忠昭

5　野外調査における委託業務は、次の機関に委託した。

基準点測量：北栄調査設計株式会社　　航空写真撮影：東邦航空株式会社

6　野外調査、室内整理にあたり盛岡広域振興局土木部、盛岡市上下水道局、盛岡市教育委員会、国立大学法人岩手大学、近隣住民の方々の御理解と御協力を頂いた。

7　室内整理における委託業務は、次の機関に委託した。

石材鑑定：花崗岩研究会（代表矢内桂三）　　火山灰分析：火山灰考古学研究所

炭化材同定：阿部利吉　　放射性炭素年代測定（AMS測定）：加速器分析研究所

8　本報告書の執筆は、Ⅰ章を岩手県盛岡広域振興局土木部に依頼し、Ⅱ章以降を北村と川又が分担して行った。文末に文責を示した。報告書の編集・校正は、北村が行った。

9　本報告書では、国土地理院発行「盛岡　1：50,000」「日詰　1：50,000」「盛岡　1：25,000」「小岩井農場　1：25,000」地形図を使用した。

10　土層注記及び出土土器の色調の記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所　色票監修『新版　標準土色帖』2006年度版に準拠した。

11　本遺跡の調査成果は、調査概報、当センターホームページなどで概要を報告しているが、本書の内容が優先するものである。

12　本遺跡の調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過……1

Ⅱ　遺跡の立地・環境……2

1　地理的環境……2
(1) 遺跡の位置と立地……2
(2) 遺跡周辺の地形と地質……2
(3) 基本層序……5
2　歴史的環境……5

Ⅲ　調査の方法……10

1　野外調査……10
2　室内整理……13

Ⅳ　分類基準……18

1　土器類……18
2　石器類……19
3　金属製品……19

Ⅴ　検出遺構と出土遺物……21

1　竪穴住居跡（RA）……21
2　掘立柱建物跡（RB）……70
3　土坑（RD）……78
4　竪穴建物跡・住居状遺構（RE）……91
5　溝跡（RG）……92
6　円形周溝（RX）……100
7　不明遺構（RZ）……100
8　柱穴（P）……100
9　遺構外出土遺物……102

Ⅵ　まとめ……181

附編　二又遺跡の自然科学分析……189

放射性炭素年代測定１……189
放射性炭素年代測定２……193
火山灰分析……195
報告書抄録……287

図版目次

第 1 図　遺跡位置図 …… 1
第 2 図　地形分類図 …… 3
第 3 図　基本層序 …… 4
第 4 図　周辺の遺跡 …… 6
第 5 図　二又遺跡と過去の調査 …… 7
第 6 図　グリッド配置図 …… 11
第 7 図　調査区区分図 …… 12
第 8 図　遺構配置図 …… 17
第 9 図　土器分類図 …… 20
第 10 図　RA003（1） …… 22
第 11 図　RA003（2） …… 23
第 12 図　RA003（3） …… 24
第 13 図　RA004（1） …… 25
第 14 図　RA004（2） …… 26
第 15 図　RA012（1） …… 28
第 16 図　RA012（2） …… 29
第 17 図　RA013（1） …… 30
第 18 図　RA013（2） …… 31
第 19 図　RA014 …… 33
第 20 図　RA015 …… 34
第 21 図　RA016（1） …… 36
第 22 図　RA016（2） …… 37
第 23 図　RA017（1） …… 38
第 24 図　RA017（2） …… 39
第 25 図　RA018（1） …… 41
第 26 図　RA018（2） …… 42
第 27 図　RA019（1） …… 44
第 28 図　RA019（2） …… 45
第 29 図　RA020（1） …… 46
第 30 図　RA020（2） …… 47
第 31 図　RA021（1） …… 49
第 32 図　RA021（2） …… 50
第 33 図　RA021（3） …… 51
第 34 図　RA022 …… 53
第 35 図　RA023（1） …… 55
第 36 図　RA023（2） …… 56
第 37 図　RA023（3） …… 57
第 38 図　RA024（1） …… 59
第 39 図　RA024（2） …… 60
第 40 図　RA024（3） …… 61
第 41 図　RA025 …… 63
第 42 図　RA026（1） …… 64
第 43 図　RA026（2） …… 65
第 44 図　RA026（3） …… 66
第 45 図　RA027（1） …… 68
第 46 図　RA027（2） …… 69
第 47 図　RB001（1） …… 72
第 48 図　RB001（2） …… 73
第 49 図　RB001（3） …… 74
第 50 図　RB001（4） …… 75
第 51 図　RB002 …… 76
第 52 図　RB003 …… 77
第 53 図　RB004 …… 78
第 54 図　RD（1） …… 85
第 55 図　RD（2） …… 86
第 56 図　RD（3） …… 87
第 57 図　RD（4） …… 88
第 58 図　RD（5） …… 89
第 59 図　RD（6） …… 90
第 60 図　RE006 …… 93
第 61 図　RE007 …… 94
第 62 図　RG（1） …… 97
第 63 図　RG（2） …… 98
第 64 図　RG（3） …… 99
第 65 図　RX001 …… 101
第 66 図　RZ001 …… 102
第 67 図　柱穴（1） …… 103
第 68 図　柱穴（2） …… 104
第 69 図　柱穴（3） …… 105
第 70 図　柱穴（4） …… 106
第 71 図　柱穴（5） …… 107
第 72 図　柱穴（6） …… 108
第 73 図　柱穴（7） …… 109
第 74 図　柱穴（8） …… 110
第 75 図　出土遺物（1） …… 112
第 76 図　出土遺物（2） …… 113
第 77 図　出土遺物（3） …… 114
第 78 図　出土遺物（4） …… 115
第 79 図　出土遺物（5） …… 116
第 80 図　出土遺物（6） …… 117
第 81 図　出土遺物（7） …… 118
第 82 図　出土遺物（8） …… 119
第 83 図　出土遺物（9） …… 120
第 84 図　出土遺物（10） …… 121

第 85 図　出土遺物（11）…… 122
第 86 図　出土遺物（12）…… 123
第 87 図　出土遺物（13）…… 124
第 88 図　出土遺物（14）…… 125
第 89 図　出土遺物（15）…… 126
第 90 図　出土遺物（16）…… 127
第 91 図　出土遺物（17）…… 128
第 92 図　出土遺物（18）…… 129
第 93 図　出土遺物（19）…… 130
第 94 図　出土遺物（20）…… 131
第 95 図　出土遺物（21）…… 132
第 96 図　出土遺物（22）…… 133
第 97 図　出土遺物（23）…… 134
第 98 図　出土遺物（24）…… 135
第 99 図　出土遺物（25）…… 136
第 100 図　出土遺物（26）…… 137
第 101 図　出土遺物（27）…… 138
第 102 図　出土遺物（28）…… 139
第 103 図　出土遺物（29）…… 140
第 104 図　出土遺物（30）…… 141
第 105 図　出土遺物（31）…… 142
第 106 図　出土遺物（32）…… 143
第 107 図　出土遺物（33）…… 144
第 108 図　出土遺物（34）…… 145
第 109 図　出土遺物（35）…… 146
第 110 図　出土遺物（36）…… 147
第 111 図　出土遺物（37）…… 148
第 112 図　出土遺物（38）…… 149
第 113 図　出土遺物（39）…… 150
第 114 図　出土遺物（40）…… 151
第 115 図　出土遺物（41）…… 152
第 116 図　出土遺物（42）…… 153
第 117 図　出土遺物（43）…… 154
第 118 図　出土遺物（44）…… 155
第 119 図　出土遺物（45）…… 156
第 120 図　出土遺物（46）…… 157
第 121 図　土器集成図（1）…… 185
第 122 図　土器集成図（2）…… 186
第 123 図　平安時代の遺構配置…… 187

表　目　次

第 1 表　周辺の遺跡 …… 6
第 2 表　二又遺跡調査一覧 …… 8
第 3 表　調査報告書一覧 …… 9
第 4 表　遺構名対照表 …… 15
第 5 表　柱穴一覧 …… 158 ～ 160
第 6 表　土器観察表（縄文土器）…… 161
第 7 表　土器観察表（陶磁器）…… 161
第 8 表　石器・石製品観察表 …… 161
第 9 表　土器観察表（土師器・須恵器）
…… 162 ～ 179
第 10 表　土製品観察表 …… 178
第 11 表　金属製品観察表 …… 180
第 12 表　銭貨観察表 …… 180

写真図版目次

写真図版 1　航空写真（1）…… 203
写真図版 2　航空写真（2）…… 204
写真図版 3　H23 年度調査区（1）…… 205
写真図版 4　H23 年度調査区（2）…… 206
写真図版 5　H23 年度調査区（3）…… 207
写真図版 6　H23 年度調査区（4）…… 208
写真図版 7　H24 年度調査区（1）…… 209
写真図版 8　H24 年度調査区（2）…… 210
写真図版 9　H24 年度調査区（3）…… 211
写真図版 10　RA003（1）…… 212
写真図版 11　RA003（2）…… 213
写真図版 12　RA004 …… 214
写真図版 13　RA012 …… 215
写真図版 14　RA013 …… 216
写真図版 15　RA014（1）…… 217
写真図版 16　RA014（2）…… 218
写真図版 17　RA015 …… 219
写真図版 18　RA016 …… 220
写真図版 19　RA017 …… 221
写真図版 20　RA018 …… 222
写真図版 21　RA019 …… 223
写真図版 22　RA020（1）…… 224
写真図版 23　RA020（2）…… 225
写真図版 24　RA020（3）…… 226
写真図版 25　RA021（1）…… 227
写真図版 26　RA021（2）…… 228

写真図版 27　RA021（3）…… 229
写真図版 28　RA022 …… 230
写真図版 29　RA023（1）…… 231
写真図版 30　RA023（2）…… 232
写真図版 31　RA024（1）…… 233
写真図版 32　RA024（2）…… 234
写真図版 33　RA025 …… 235
写真図版 34　RA026（1）…… 236
写真図版 35　RA026（2）…… 237
写真図版 36　RA027（1）…… 238
写真図版 37　RA027（2）…… 239
写真図版 38　RB001（1）…… 240
写真図版 39　RB001（2）…… 241
写真図版 40　RB001（3）…… 242
写真図版 41　RB003・004 …… 243
写真図版 42　RD（1）…… 244
写真図版 43　RD（2）…… 245
写真図版 44　RD（3）…… 246
写真図版 45　RD（4）…… 247
写真図版 46　RD（5）…… 248
写真図版 47　RE006 …… 249
写真図版 48　RE007 …… 250
写真図版 49　RG（1）…… 251
写真図版 50　RG（2）…… 252
写真図版 51　RG（3）…… 253
写真図版 52　RX001・RZ001…… 254
写真図版 53　現地説明会・現地公開 …… 255
写真図版 54　出土遺物（1）…… 256
写真図版 55　出土遺物（2）…… 257
写真図版 56　出土遺物（3）…… 258
写真図版 57　出土遺物（4）…… 259
写真図版 58　出土遺物（5）…… 260
写真図版 59　出土遺物（6）…… 261
写真図版 60　出土遺物（7）…… 262
写真図版 61　出土遺物（8）…… 263
写真図版 62　出土遺物（9）…… 264
写真図版 63　出土遺物（10）…… 265
写真図版 64　出土遺物（11）…… 266
写真図版 65　出土遺物（12）…… 267
写真図版 66　出土遺物（13）…… 268
写真図版 67　出土遺物（14）…… 269
写真図版 68　出土遺物（15）…… 270
写真図版 69　出土遺物（16）…… 271
写真図版 70　出土遺物（17）…… 272
写真図版 71　出土遺物（18）…… 273
写真図版 72　出土遺物（19）…… 274
写真図版 73　出土遺物（20）…… 275
写真図版 74　出土遺物（21）…… 276
写真図版 75　出土遺物（22）…… 277
写真図版 76　出土遺物（23）…… 278
写真図版 77　出土遺物（24）…… 279
写真図版 78　出土遺物（25）…… 280
写真図版 79　出土遺物（26）…… 281
写真図版 80　出土遺物（27）…… 282
写真図版 81　出土遺物（28）…… 283
写真図版 82　出土遺物（29）…… 284
写真図版 83　出土遺物（30）…… 285
写真図版 84　出土遺物（31）…… 286

Ⅰ　調査に至る経過

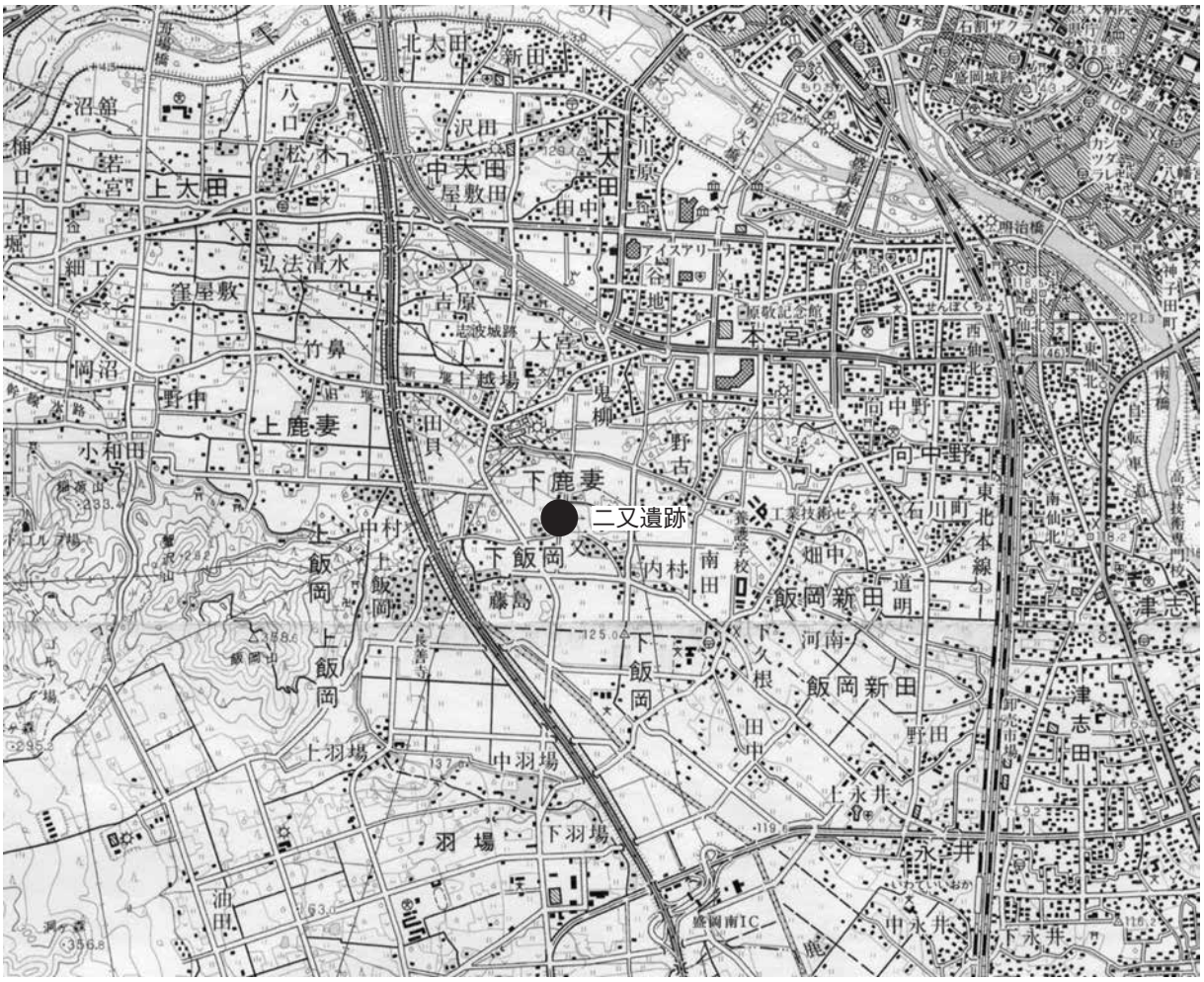
二又遺跡は、主要地方道盛岡和賀線の道路改良計画区域内に存在し、道路改良工事を進捗するにあたり発掘調査が必要となったことから実施したものである。

主要地方道盛岡和賀線羽場地区は盛岡市本宮地区から盛岡市羽場地区までの道路改良工事であり、本路線は慢性的な交通渋滞が発生しているほか、郊外を迂回する２車線道路であるため、４車線化及びバイパス工事を行う事業である。

当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成22年５月10日付盛広土第7016号で岩手県教育委員会に対して「二又遺跡」の試掘調査を依頼し、平成22年５月12日に「二又遺跡の隣接地」、５月13日に「二又遺跡」の試掘を実施した。さらに、家屋移転のため調査が未了であったことから、平成22年11月25日付盛広土第7065号で8,500㎡の試掘を依頼したものである。

試掘の結果、埋蔵文化財の存在が確認され、平成22年12月14日付教生第1118号により、工事に着手するには二又遺跡の発掘調査が必要となったことから、岩手県教育委員会と協議・調整を行い、平成23年４月15日及び平成24年６月13日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し発掘調査の実施に至ったものである。

（盛岡広域振興局土木部道路整備課）



1：50,000「盛岡」「日詰」

第１図　遺跡位置図

Ⅱ　遺跡の立地・環境

1　地 理 的 環 境

(1) 遺跡の位置と立地

二又遺跡の所在する岩手県盛岡市は、西の奥羽山脈と東の北上山地との間を南流する北上川が形成した北上盆地の北端に位置し、北は八幡平市、岩手郡岩手町･葛巻町、東は宮古市、下閉伊郡岩泉町、南は花巻市、紫波郡矢巾町・紫波町、西は岩手郡雫石町・滝沢村の3市6町1村と接している（平成25年3月現在）。盛岡市の町造りは慶長2（1597）年に南部信直が盛岡城の築城に取りかかったことに始まる。明治22年には全国39都市の一つとして市制が施行され、現在は岩手県の県庁所在地であり、東西約45.5㎞、南北約40㎞、総面積886.5㎢、総人口約30万人を有する県最大の都市である（第1図、平成25年3月現在）。市域の西側を東北地方交通の大動脈である東日本旅客鉄道東北新幹線と東北縦貫自動車道、国道4号が南北に縦貫し、東日本旅客鉄道秋田新幹線と国道46号が西の秋田県に通じている優位性を活かして、北部太平洋側における中核都市として発展を続けている。

二又遺跡は、東日本旅客鉄道盛岡駅から南南西方向約3.5㎞、盛岡市役所から南西方向約4.5㎞に位置し、盛岡市下飯岡1地割55-1ほかに所在している。国土地理院発行の2万5千分の1地形図「盛岡」NJ-54-13-14-2（盛岡14号-2）、同5万分の1地形図「盛岡」NJ-54-13-14（盛岡14号）の図幅に含まれ、北緯39度40分29秒、東経141度06分53秒付近に位置する（第2図）。

調査区は雫石川右岸の低位段丘上に立地する。幅約26m、長さ約190m（東西幅最大約130m、南北幅最大約210m）の道路に沿った細長い範囲で、第11次調査は3,460㎡、第12次調査は2,830㎡である。平成9年に行われた第2次調査は第11次調査の範囲内にあり、平成22年に行われた第9次調査は第11次調査と隣接している。現況での標高は127m前後である。本遺跡の約1.5㎞北西には国指定史跡の志波城跡が位置している。（北村）

(2) 遺跡周辺の地形と地質

盛岡市域の中央部を北上川が、支流の雫石川・中津川・簗川と合流して南流し、東西に迫る山々に挟まれた盛岡盆地を形成している。市街地はこの盆地の中心部に広がっており、市街地からは、北西側に「南部片富士」や「巌鷲山」と呼ばれる岩手山（標高2,038.2m）、北東側には姫神山（標高1,124.5m）、南東側には北上山地最高峰である早池峰山（標高1,913.5m）を望むことができる。

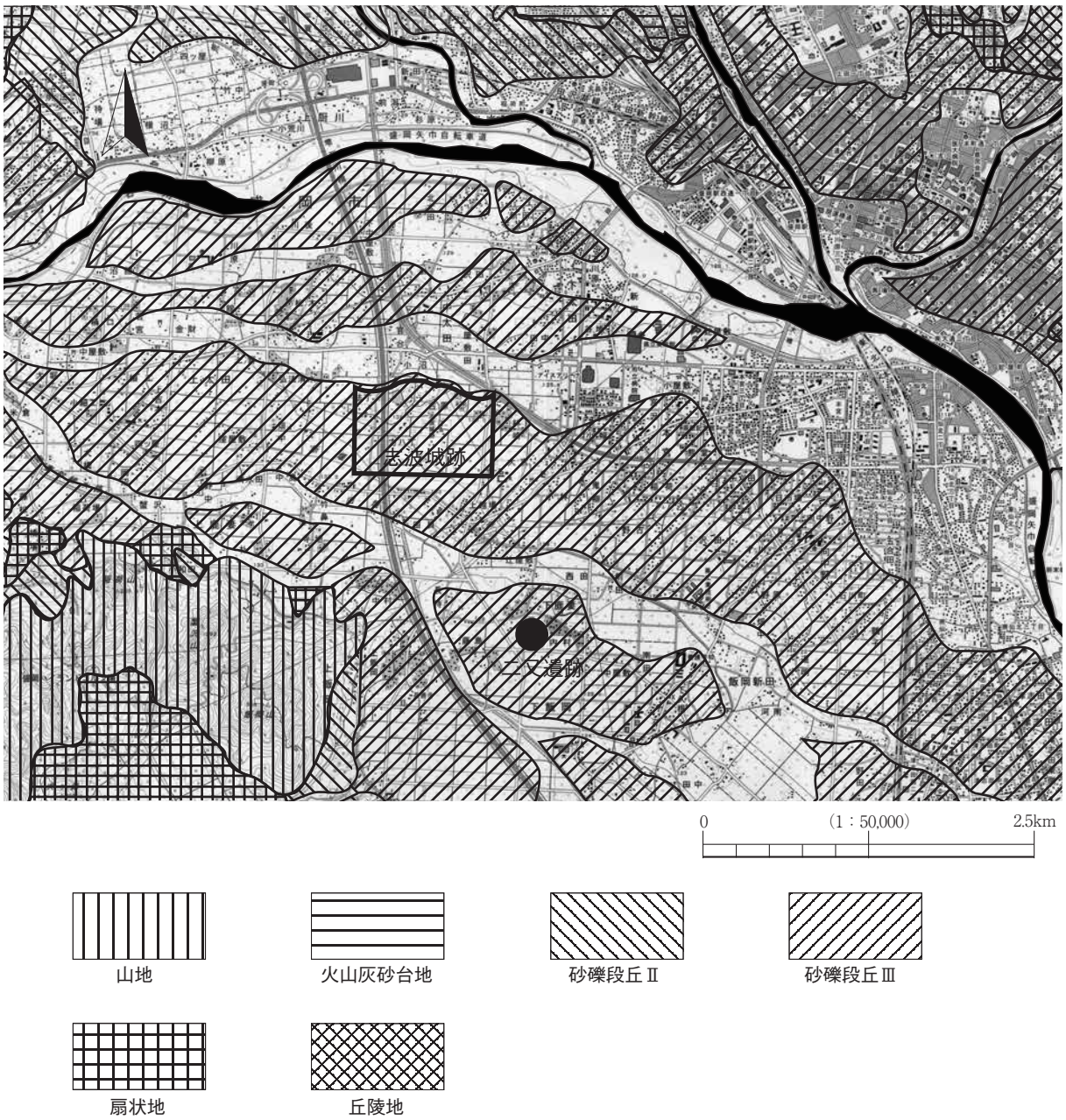
北上川は県北部の岩手町御堂観音境内にその源を発し、延長243㎞、流域面積10,720㎢、支流数216を数える、東北地方最大の一級河川であり、北上川の西側に連なる奥羽脊梁山脈と東側に広がる北上山地の間の低地帯を涵養し、宮城県石巻湾に注いでいる。この流域は盛岡市北部の四十四田峡谷と一関市狐禅寺峡谷を境にして上・中・下流に分けられ、盛岡市は中流域の上部にあたる。北上川右岸には新第三紀層の砂岩・凝灰岩を基盤とする台地、扇状地の末端に侵食崖を形成している。

北上川中流域の地形は背後に控える山地構造の違いによって対照的な様相を呈している。新第三系及び火山岩類を主体とする褶曲山地である奥羽山脈は、北上川に注ぐ多くの支流を持ち、それぞれに多量の土砂を供給し、北上川右岸に大小の段丘や扇状地、河岸平野、起伏量の小さい丘陵地が複雑に入り組む扇状地状の広い平坦面を作り出している。これらの平坦面の大部分は更新世中・後期に形成されたもので、支流によって開析され段丘化したものである。これに対して、老年期山地がその後の

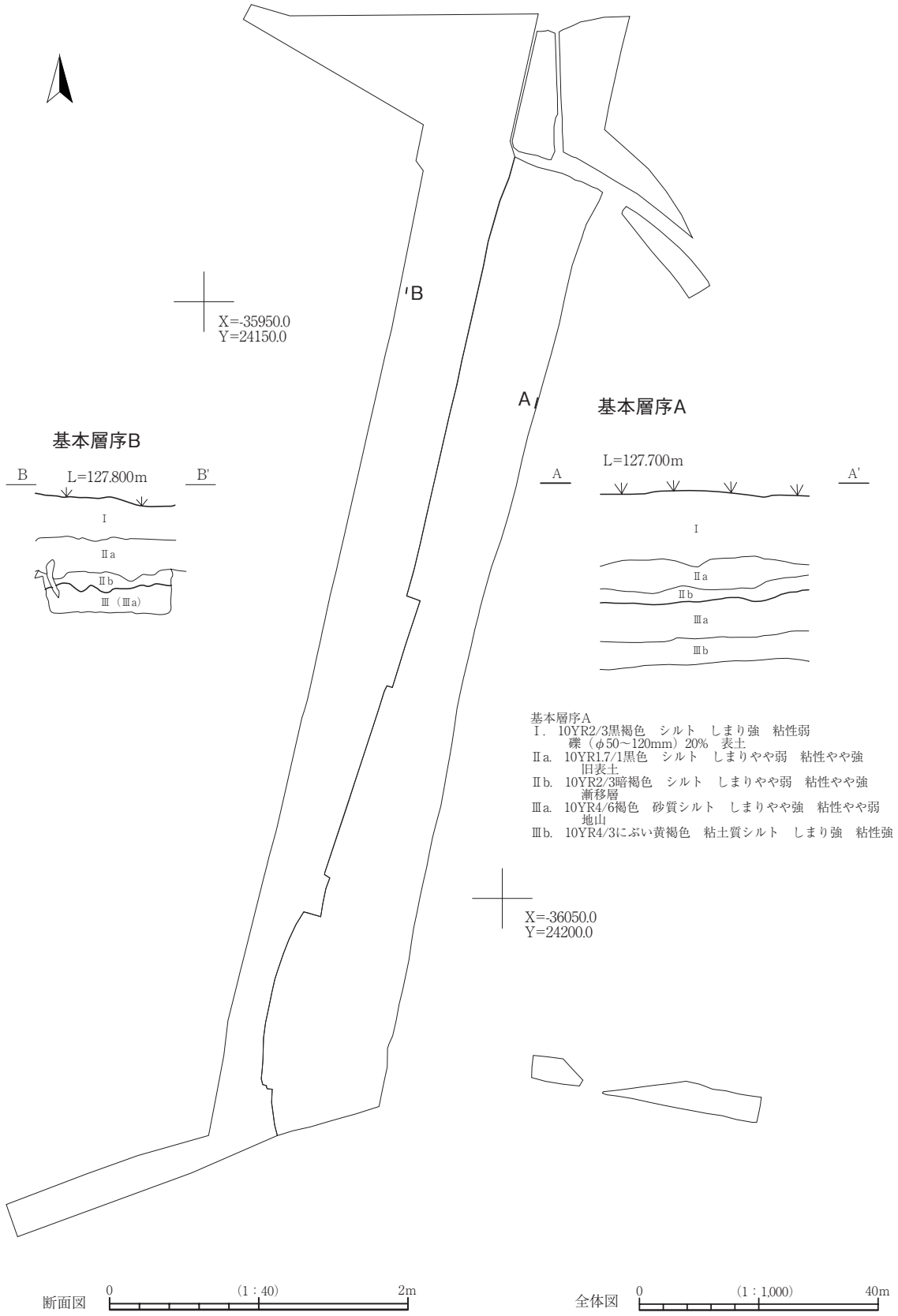
地殻変動によって隆起準平原化した北上山地側では、山地に続く丘陵部縁辺部に小規模な段丘と沖積地が認められるにすぎない。

北上川流域の第四系及び地形の研究を行っている中川久夫らは、中流域の段丘を上部から西根段丘、村崎野段丘、金ヶ崎段丘に分類し、中流域北部ではこれらに相当するものとして高位の石鳥谷段丘、中位の二枚橋段丘、低位の花巻段丘・都南段丘に区分している（中川ほか　1963）。

二又遺跡の所在する北上川中流域北部右岸では、大規模な平坦面と奥羽脊梁山脈から供給される多量の堆積物による扇状地が形成されており、雫石川以南北上川以西には雫石川の下刻・堆積作用により上位から、渋民火山灰層上部以上を載せる段丘「砂礫段丘Ⅰ」、分火山灰層を載せる段丘「砂礫段丘Ⅱ」、沖積段丘「砂礫段丘Ⅲ」が形成されている（第２図）。低位の「砂礫段丘Ⅲ」面には雫石川の連続する大きな旧河道が４条確認されている。文献資料等によれば、志波城は雫石川の水害が原因で廃絶されたとされており、発掘調査の結果からも志波城北辺部は雫石川の旧河道により消失している



第２図　地形分類図


X=-35950.0
Y=24150.0
B
A
基本層序B
B
L=127.800m
B'
Ⅰ
Ⅱa
Ⅱb
Ⅲ（Ⅲa）
基本層序A
L=127.700m
A
A'
Ⅰ
Ⅱa
Ⅱb
Ⅲa
Ⅲb
基本層序A
Ⅰ．10YR2/3黒褐色　シルト　しまり強　粘性弱
礫（φ50～120mm）20%　表土
Ⅱa．10YR1.7/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強
旧表土
Ⅱb．10YR2/3暗褐色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強
漸移層
Ⅲa．10YR4/6褐色　砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
地山
Ⅲb．10YR4/3にぶい黄褐色　粘土質シルト　しまり強　粘性強
X=-36050.0
Y=24200.0
断面図
0
(1：40)
2m
全体図
0
(1：1,000)
40m

第３図　基本層序

ことが確認されている。さらに小規模な旧河道が網目状に入り組んでおり、小規模な自然堤防状微高地を形成している。本遺跡を含めた、古代遺跡の多くは「砂礫段丘Ⅲ」面の微高地や扇状地の縁辺部に位置している。（北村）

(3) 基　本　層　序（第３図、写真図版４・９）

基本層序は、Ⅰ～Ⅲ層に大別した。Ⅰ層は現表土で、道路部分の砂利、畑の耕作土、宅地の造成土など、近現代の造成によるとみられるものはすべてこれに含む。

Ⅱ層は、旧表土で、黒色～黒褐色土が主体である。落ち込みなどの低地部分で厚く堆積する地点もあったが、削平により残存せず、Ⅰ層直下がⅢ層となる範囲も大きい。

Ⅲ層は、黄褐色土層、地山層である。（川又）

翌年度にあたる第12次調査においても、上記の層序を基本とした。区域により層高の差は見られるものの、第11次調査との差は確認できなかったため、第11次調査の層序を使用している。（北村）

2　歴 史 的 環 境

盛岡市に所在する遺跡は岩手県教育委員会が作成した2000年度版『岩手県遺跡情報検索システム（盛岡地方振興局管内南部）』によると516箇所が登録されている。多数の遺跡が登録されているが、全てにふれることは困難であり、これまで発刊された報告書等（第３表参照）でも詳しく述べられていることから、飯岡地区、本宮地区を中心に概観する。第４図と第１表にまとめた。

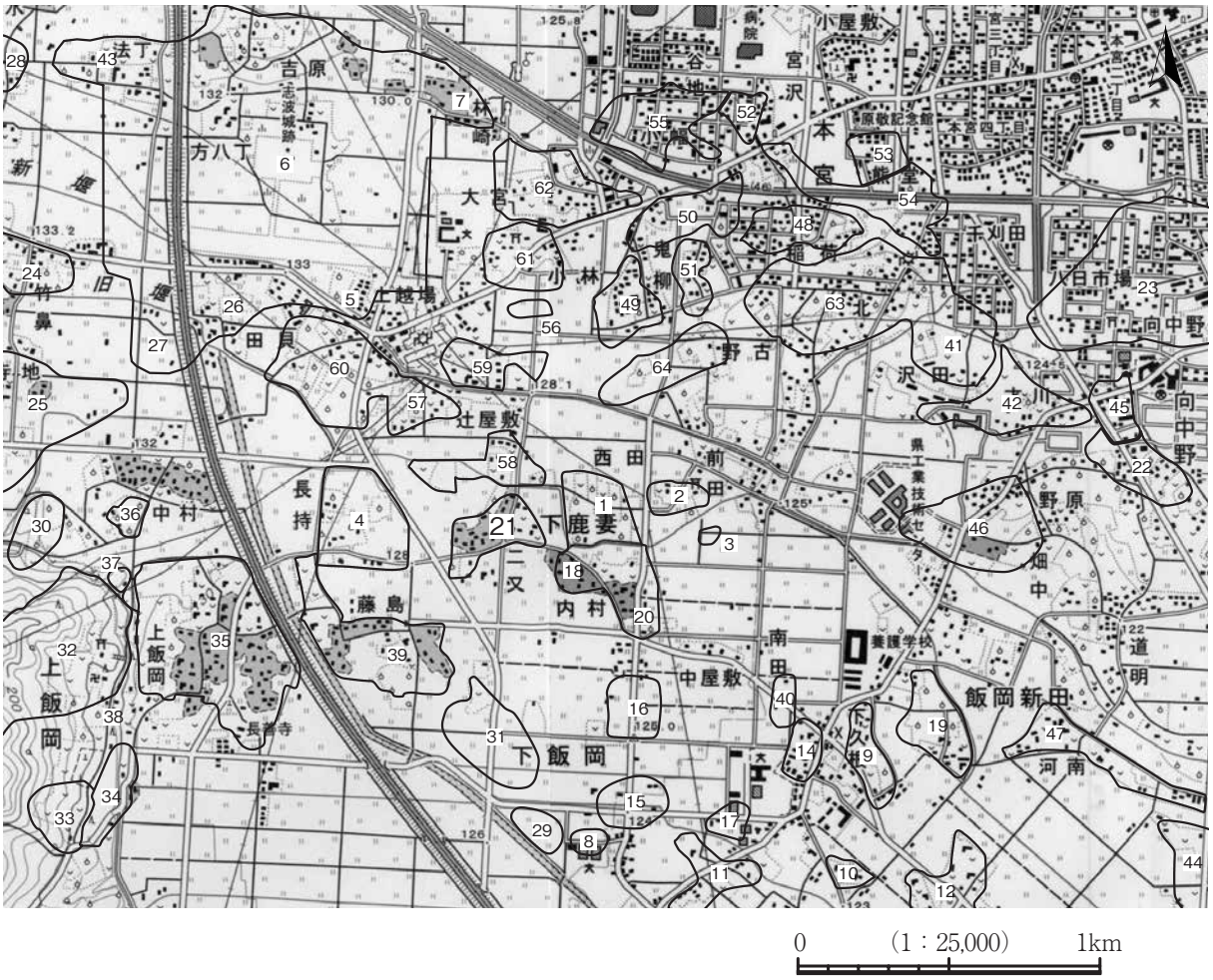
旧石器時代の遺跡は確認されていない。縄文時代には雫石川の旧河道及びそこへ流れ込む小河川が網の目状に確認されており、その周辺では陥し穴を利用した狩猟が盛んに行われている。新堰端遺跡（第４図5）、飯岡沢田遺跡（同41）、飯岡才川遺跡（同42）、矢盛遺跡（同46）、本宮熊堂Ｂ遺跡（同54）、野古Ｂ遺跡（同64）等の遺跡が該当する。遺構の形状から縄文時代中期以降のものと考えられる。集落が形成されるようになるのは、縄文時代晩期になってからで、細谷地遺跡（同22）、台太郎遺跡（同23）、本宮熊堂Ａ遺跡（同53）で居住域が確認された。

その一方で、古代以降になると、集落遺跡が増加する。台太郎遺跡では古墳時代末から平安時代の竪穴住居が600棟以上確認された。この他にも本宮熊堂Ｂ遺跡、野古Ａ遺跡（同63）等で奈良時代や平安時代の集落跡、飯岡沢田遺跡や飯岡才川遺跡では古墳と集落跡が確認された。これらの遺跡は盛岡南新都市土地区画整理事業に伴い、平成５年度から継続的に発掘調査が行われた遺跡である。本遺跡の約1.5㎞北西には古代城柵の一つである志波城跡（同6）が所在する。803年に造営された志波城跡は、廃止時期の記事は文献には見られないが、征夷将軍文屋綿麻呂がたびたび水害を受けるので便地に転移すべきであると奏言しているように、雫石川の水害が影響でその機能を814年までには徳丹城に移したと考えられている。

中世以降は認識されている遺跡数が少ないこともあるのか、市内に散在する程度に留まる。台太郎遺跡で中世の礎石を伴う建物跡、堀跡、土壙墓群、矢盛遺跡で堀に囲まれた居館跡と集落跡、向中野館遺跡（同45）では城館跡が発掘調査により確認された。

近世の遺構・遺物は各遺跡でわずかながらもみられるが、まとまって確認されているのは細谷地遺跡、台太郎遺跡、矢盛遺跡、小幅遺跡（同55）など限られている。

二又遺跡では、平成８年度に盛岡市教育委員会が個人住宅建築に伴って発掘調査を行って以降、平成22年までに10度の調査が行われ（第５図、第２表）、平安時代の集落跡が検出されている。本遺



第４図　周辺の遺跡

第１表　周辺の遺跡

No.	遺跡名	種別	時代
1	西田Ａ	集落跡	古代
2	西田Ｂ	集落跡	古代
3	前田	集落跡	古代
4	辻屋敷	集落跡	古代
5	新堰端	城柵跡	縄文・古代（平安）
6	志波城	城柵跡	古代（平安）
7	林崎	集落跡	古代（平安）
8	上新田	集落跡	古代・平安
9	下久根Ⅰ	散布地	縄文・古代
10	下久根Ⅱ	散布地	縄文・古代
11	熊堂Ⅰ	集落跡	縄文・古代
12	松島	集落跡	古代
13	熊堂Ⅲ	集落跡	古代・平安
14	高屋敷Ⅱ	散布地	古代・平安
15	深淵Ⅰ	集落跡	古代・平安
16	深淵Ⅱ	集落跡	古代・平安
17	西	集落跡	古代・平安
18	内村	集落跡	古代・平安
19	石持	散布地	古代
20	中屋敷	散布地	古代
21	二又	集落跡	縄文・平安

No.	遺跡名	種別	時代
22	細谷地	集落跡	縄文・古代
23	台太郎	集落跡	縄文・古代
24	五兵衛新田	集落跡	古代
25	竹鼻	集落跡	古代
26	田貝	集落跡	古代
27	竹花前	集落跡	古代（平安）
28	畑中	集落跡	古代
29	飯岡林崎Ⅰ	集落跡	古代・平安
30	月見山	散布地	縄文・古代
31	飯岡林崎Ⅱ	集落跡	古代
32	飯岡館	城館跡	中世
33	飯岡赤坂	散布地	古代
34	赤坂Ⅱ	散布地	平安？
35	大柳Ⅰ	集落跡	古代
36	堤	散布地	縄文・古代
37	高館古墳跡	古墳	奈良～平安
38	高館	散布地	縄文
39	藤島	集落跡	縄文・平安
40	高屋敷Ⅰ	散布地	古代
41	飯岡沢田	集落跡	古代
42	飯岡才川	集落跡	古代
43	小沼	集落跡	古代（平安）

No.	遺跡名	種別	時代
44	横屋	集落跡	古代
45	向中野館	集落跡 城館跡	平安 中世
46	矢盛	散布地	古代
47	夕覚	散布地	古代
48	稲荷	集落跡	古代
49	鬼柳Ｂ	集落跡	古代
50	鬼柳Ａ	集落跡	古代
51	鬼柳Ｃ	集落跡	古代
52	宮沢	集落跡	古代
53	本宮熊堂Ａ	集落跡	縄文・古代
54	本宮熊堂Ｂ	集落跡	古代
55	小幅	集落跡	古代
56	小林	集落跡	古代
57	上越場Ａ	集落跡	古代
58	上越場Ｂ	集落跡	古代
59	水門	集落跡	古代
60	石仏	集落跡	古代
61	大宮	集落跡	古代・中世
62	大宮北	集落跡	古代
63	野古Ａ	集落跡	古代・平安
64	野古Ｂ	散布地	古代

座標値は日本測地系（地震前）

0　（1：2,000）　80m

第５図　二又遺跡と過去の調査

跡は南北を自然流路に挟まれた微高地上に立地しており、集落はその微高地に形成されている。そのため、集落は東西に細長く広がるものと考えられる。これまでの調査が離れた地点の小規模なものが多いため、断定はできないが、竪穴住居跡の検出状況を概観すると、竪穴住居跡が集中する区域が複数あるものと考えられる。そのなかでも、本調査区が集落の中心部の一部である可能性が高く、隣接する第９次調査では多くの竪穴住居跡を検出している。（北村）

引用参考文献

岩手県企画開発室　1974　『北上川系開発地域土地分類基本調査　－日詰－』

1978　『北上川系開発地域土地分類基本調査　－盛岡－』

中川久夫ほか　1963　「北上川上流沿岸の第四系および地形」『地質学雑誌』69

第２表　二又遺跡調査一覧

次数	調査方法	所在地	面積（㎡）	調査期間	調査原因	調査機関
1	本調査	盛岡市下飯岡１地割 54	100	19960403 ～ 0502	個人住宅建築	盛岡市教育委員会
2	本調査	盛岡市下飯岡１地割地内	230	19971117 ～ 1211	排水管敷設	盛岡市教育委員会
3	試掘調査	盛岡市下飯岡１地割 49-2	98	19990611	個人住宅建築	盛岡市教育委員会
4	試掘調査	盛岡市下飯岡１地割 83	49.6	20030407	農作業小屋建築	盛岡市教育委員会
5	本調査	盛岡市下飯岡１地割 35-1	77.5	20030901 ～ 0918	個人住宅建築	盛岡市教育委員会
6	試掘調査	盛岡市下飯岡１地割 21-2 盛岡市下飯岡１地割 21-6	37.5	20040304	個人住宅建築	盛岡市教育委員会
7	試掘調査	盛岡市下飯岡１地割 44	116	20040406	個人住宅建築	盛岡市教育委員会
8	試掘調査	盛岡市下飯岡１地割 34	118	20091026	個人住宅建築	盛岡市教育委員会
9	本調査	盛岡市下飯岡１地割 59-9	500	20100506 ～ 0610	個人住宅建築	盛岡市教育委員会
10	本調査	盛岡市下飯岡１地割 55-1	40	20100604 ～ 0609	農業用倉庫建築	盛岡市教育委員会

第３表　調査報告書一覧

（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター発行報告書
（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター発行報告書

書名例：『**矢盛遺跡第１次**発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 205 集　太字部分を表記
略報＝岩手県埋蔵文化財発掘調査略報

№.	書名（略）	発刊年	集数
19	矢盛遺跡第１次	1994	205
20	本宮熊堂Ｂ遺跡第１次	1995	226
21	小幅遺跡第２次	1996	244
22	略報（平成７年度分）	1996	246
23	小幅遺跡第４次	1996	265
24	略報（平成８年度分）	1997	266
25	小幅遺跡第５次・第７次	1998	267
26	大宮北遺跡・本宮熊堂Ａ遺跡	1998	281
27	略報（平成９年度）	1998	282
28	熊堂Ｂ遺跡第５次・台太郎遺跡第 16 次	1999	293
29	熊堂Ｂ遺跡第４次・鬼柳Ａ遺跡第４次	1999	308
30	台太郎遺跡第 15 次	1999	309
31	略報（平成 10 年度）	1999	311
32	向中野館跡第４次・小幅遺跡第 11 次・台太郎遺跡第 19 次	2000	321
33	向中野館跡第３次・小幅遺跡第 10 次	2000	338
34	略報（平成 11 年度）	2000	340
35	台太郎遺跡第 22 次	2001	365
36	台太郎遺跡第 18 次	2001	369
37	略報（平成 12 年度）	2001	370
38	熊堂Ｂ遺跡第 10 次	2002	377
39	飯岡才川遺跡第３次	2002	393
40	略報（平成 13 年度）	2002	397
41	細谷地遺跡第４・５次	2003	414
42	台太郎遺跡第 23 次	2003	415
43	台太郎遺跡第 26 次	2002	416
44	台太郎遺跡第 35 次	2003	417
45	飯岡沢田遺跡第３次	2003	418
46	飯岡沢田遺跡第５次	2003	419
47	野古Ａ遺跡第 12 次	2003	420
48	野古Ａ遺跡第 15 次	2003	421
49	台太郎遺跡第 44 次	2003	422
50	略報（平成 14 年度）	2003	423
51	矢盛遺跡第３次・熊堂Ｂ遺跡第 14 次	2004	451
52	本宮熊堂Ａ遺跡第 17 次	2004	453
53	細谷地遺跡第８次	2004	454
54	略報（平成 15 年度）	2004	455
55	本宮熊堂Ｂ遺跡第 18 次	2005	458
56	本宮熊堂Ｂ遺跡第 13・15・20 次	2004	467
57	台太郎遺跡第 51 次	2005	468
58	平成 16 年度発掘調査報告書	2005	469
59	矢盛遺跡第６次	2005	488
60	本宮熊堂Ａ遺跡第 24 次・本宮熊堂Ｂ遺跡第 25 次	2006	470
61	台太郎遺跡第 54 次	2006	486
62	本宮熊堂Ｂ遺跡第 27 次	2006	487
63	飯岡沢田遺跡第９・10 次	2006	489
64	平成 17 年度発掘調査報告書	2006	490
65	飯岡才川遺跡第８・９次	2007	494
66	細谷地遺跡第９次・第 10 次	2007	500
67	野古Ａ遺跡第 23・24・29 次	2007	501
68	本宮熊堂Ａ遺跡第 26・29 次	2007	502
69	向中野館遺跡第５・６次	2007	503
70	向中野館遺跡第７・８次	2007	504
71	飯岡才川遺跡第７・13 次・細谷地遺跡第 12 次・矢盛遺跡第９次	2008	508
72	細谷地遺跡第 13 次・第 14 次	2008	513
73	細谷地遺跡第 15 次	2008	514
74	飯岡才川遺跡第 12 次	2008	515
75	矢盛遺跡第 10・11 次・向中野館遺跡第９次・台太郎遺跡第 58 次	2008	516
76	平成 19 年度発掘調査報告書	2008	524
77	矢盛遺跡第 12・13 次	2009	534
78	細谷地遺跡第 16・17 次	2009	535
79	平成 20 年度発掘調査報告書	2009	546
80	矢盛遺跡第 18・19 次	2010	555
81	細谷地遺跡第 19・20 次	2010	556
82	向中野館遺跡第 10・11 次	2010	557
83	平成 21 年度発掘調査報告書	2010	571
84	細谷地遺跡第 24・25 次・向中野館遺跡第 12・13 次	2011	577
85	矢盛遺跡第 23・24 次	2011	578
86	台太郎遺跡第 66 次	2011	579
87	飯岡才川遺跡第 16 次	2011	580
88	平成 22 年度発掘調査報告書	2011	588
89	矢盛遺跡第 27 次・野古Ａ遺跡第 30 次	2012	594
90	細谷地遺跡第 26 次	2012	595
91	平成 23 年度発掘調査報告書	2012	603

Ⅲ　調 査 の 方 法

1　野　外　調　査

(1) 調　査　方　法（平成 23 年度）

＜調査区＞　調査区は、北側からＡ区・Ｂ区・Ｃ区・Ｄ区・Ｅ区のように区分した。基準点は、6 点打設した。東日本大震災の影響により、基準杭の座標が出なかったため、当初は地震前の仮座標値を使用した。調査中に最新の座標値が公表されたが、混乱を防ぐため、調査終了まで当初の仮座標値を使用した。過年度の盛岡市教育委員会の調査では、日本測地系座標を用いている。

点名	X 座標	Y 座標	標高 m	備考
№1	－ 36,367.198	24,472.211	127.101	震災前日本測地系
№2	－ 36,222.389	24,510.816	126.693	震災前日本測地系
区画 1	－ 36,341.376	24,479.193	127.370	震災前日本測地系
区画 2	－ 36,320.949	24,485.384	127.393	震災前日本測地系
区画 3	－ 36,280.126	24,496.545	127.389	震災前日本測地系
区画 4	－ 36,250.755	24,504.033	127.344	震災前日本測地系

＜試掘・表土除去・遺構検出＞　人力による試掘を行い、検出面までの深さや層序を把握した後、バックホーによる表土除去を行った。表土除去は、Ⅲ層上面までを目安として行った。表土除去の後、遺構検出を行い、確認したプランについては精査作業を進めた。

＜遺構名登録・遺構精査＞　遺構名は、略号と番号で表記した。使用した略号は以下の通りである。略号の後に精査順の番号を付し、SI01、SK01 のように表記した。遺構精査は、土坑など小規模な遺構は 2 分法、竪穴住居跡など大規模な遺構は 4 分法を原則とし、土層観察用のセクションを設定した。ベルトの設定位置や方向は遺構の状況に応じて決定した。

SI：竪穴住居跡　SKI：竪穴住居状遺構・竪穴建物　SK：土坑　SKF：フラスコ土坑

SKT：落とし穴　SD：溝　P：柱穴

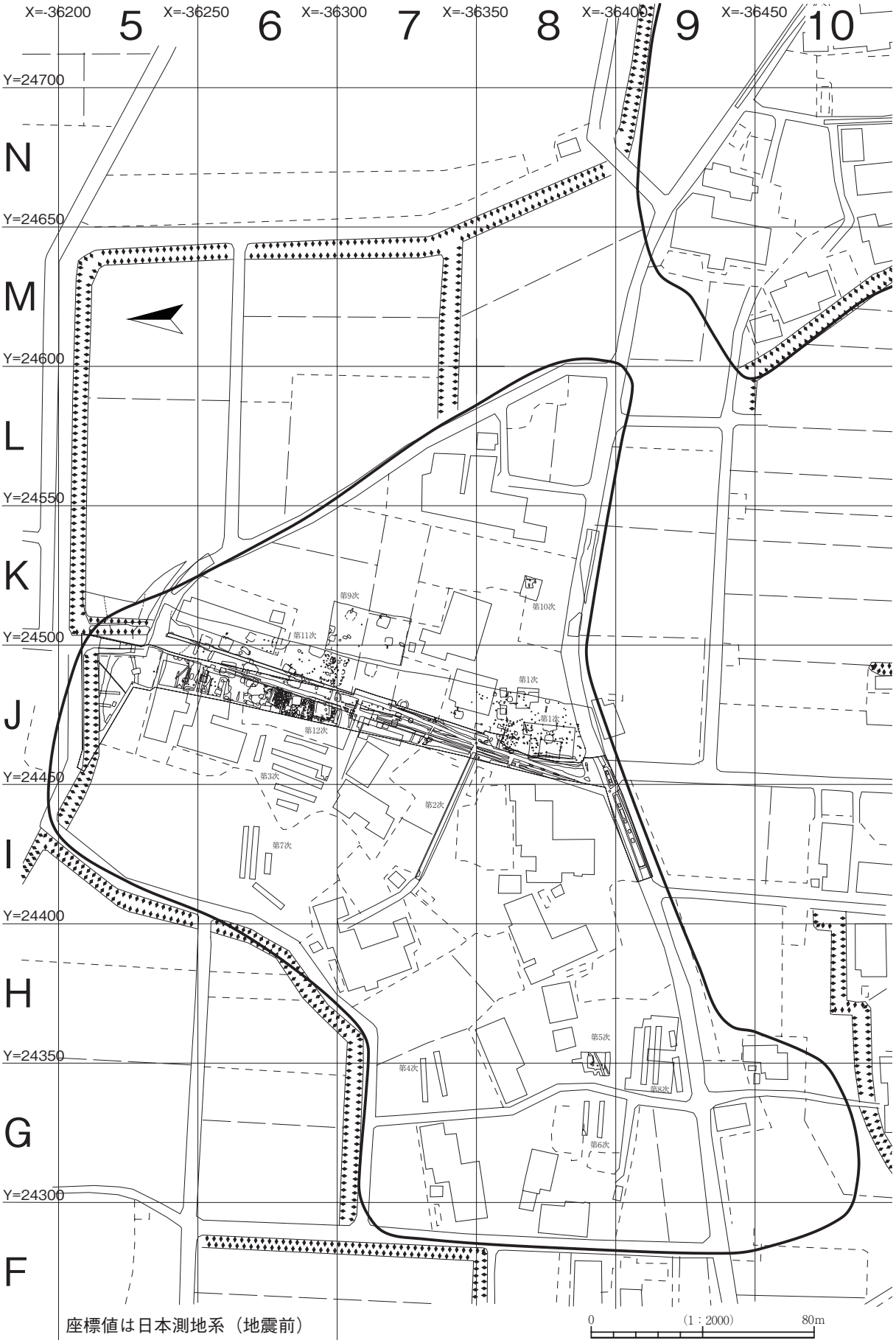
＜写真撮影・実測・土層注記＞　埋土の断面を観察し、断面写真撮影・断面実測・土層注記を行った。土層注記は『新版標準土色帖』（2006 年版、小山正忠・竹原秀雄著）を用い、土色・締まり・粘性・混入物などを記録した。埋土の記録を作成した後、完掘作業・完掘写真撮影・平面実測を行った。

写真撮影は、一眼レフデジタルカメラ、6 × 7 判モノクロカメラを使用した。

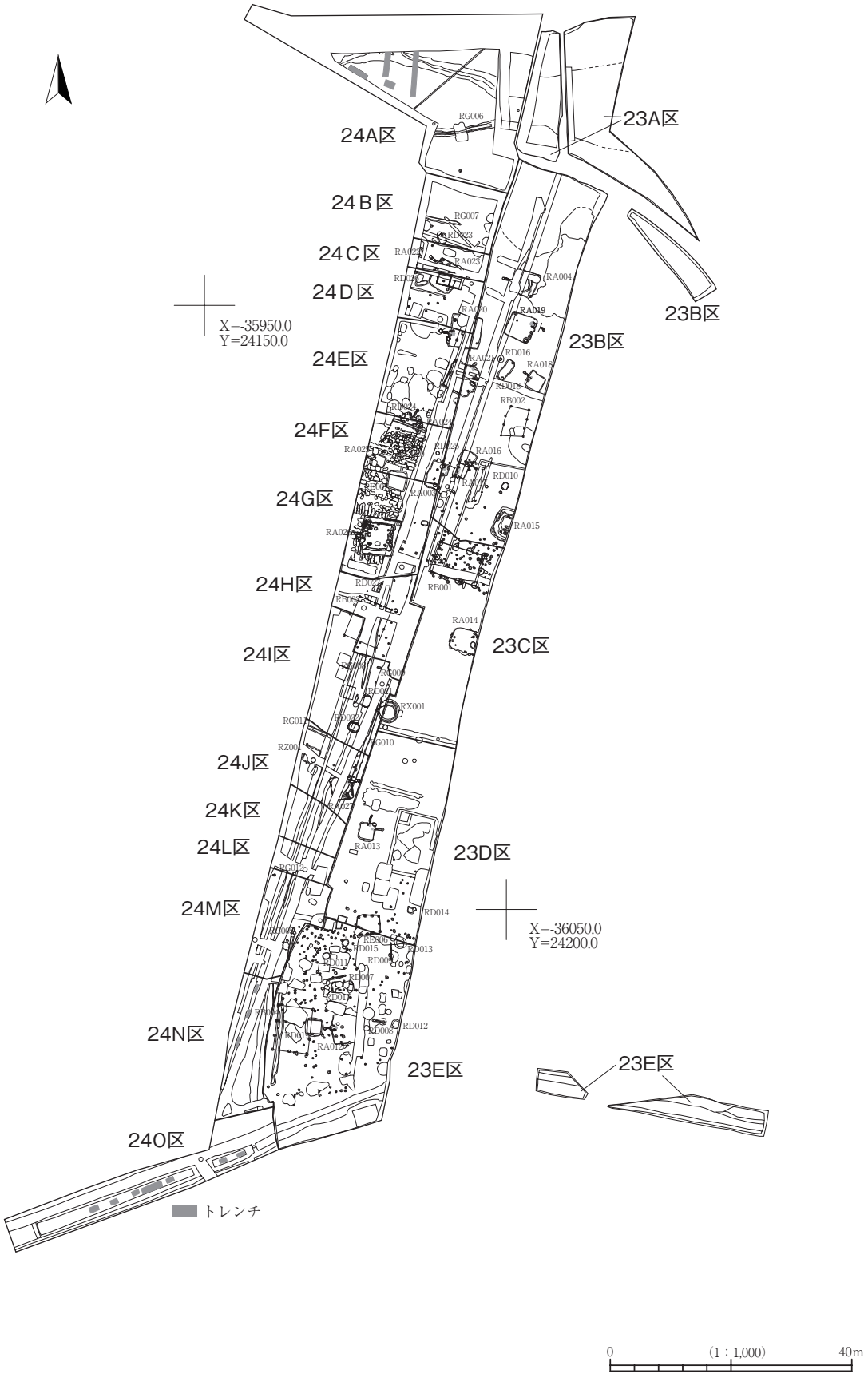
断面実測は、手書きによる従来の方法でマイラー用紙に記録した。平面実測は、基本的には電子平板を用い、一部の微細図のみ手書きで作成した。（川又）

(2) 調　査　方　法（平成 24 年度）

＜調査区＞　平成 24 年度の調査区は第 6 図に示したとおり、移設された道路（第 11 次調査区）と個人宅（民地）の間にあり、個人宅の進入路を確保しながらの発掘調査となった。そのため、第 7 図のように調査区を細分して、進入路部分を切り替えながら調査を行った。調査区は北側から A 区～O 区の 15 区分した。O 区は盛岡市道辻屋敷線にあたる。A 区東側に用水路が縦断しており、東西に分けて調査を行った。基準点は、今後の利便性を考慮して、震災後の世界測地系で 8 点打設を行った。


X=-36200
X=-36250
X=-36300
X=-36350
X=-36400
X=-36450
5
6
7
8
9
10
Y=24700
Y=24650
Y=24600
Y=24550
Y=24500
Y=24450
Y=24400
Y=24350
Y=24300
N
M
L
K
J
I
H
G
F
第9次
第10次
第11次
第1次
第11次
第12次
第3次
第2次
第7次
第5次
第4次
第8次
第6次
座標値は日本測地系（地震前）
0
(1：2000)
80m

第６図　グリッド配置図


23A区
24A区
24B区
24C区
24D区
23B区
X=-35950.0
Y=24150.0
24E区
23B区
24F区
24G区
24H区
23C区
24I区
24J区
24K区
24L区
23D区
24M区
X=-36050.0
Y=24200.0
24N区
23E区
23E区
24O区
トレンチ
0
(1：1,000)
40m

第７図　調査区区分図

点名	X 座標	Y 座標	標高 m
H24 №1	− 36,082.355	24,164.132	127.376
H24 №2	− 36,010.022	24,170.979	127.492
H24 区画 1	− 36,054.291	24,169.096	127.553
H24 区画 2	− 35,970.468	24,178.482	127.415
H24 区画 3	− 35,958.512	24,190.561	127.295
H24 区画 4	− 35,939.814	24,194.165	127.212
H24 区画 5	− 35,907.139	24,192.924	127.356
H24 区画 6	− 35,914.131	24,182.468	126.605

＜試掘・表土除去・遺構検出＞　作業方法は基本的に第 11 次調査と同じである。バックホーによる表土除去も第 11 次調査の成果を参考に、基本的にはⅢ層上面まで行っている。しかし、一部では遺物包含層であるⅡｂ層が確認されており、その部分はⅡｂ層で止めている。

＜遺構名登録・遺構精査＞　遺構名・遺構精査についても第 11 次調査を踏襲し、遺構名は第 11 次調査を引き継いで使用した。第 11 次調査と異なる点は次の 2 点である。①不明遺構の略号を SX としたこと、②フラスコ（状）土坑の略号を SK としたこと。

＜写真撮影・実測・土層注記＞　写真撮影・実測・土層注記についても第 11 次調査を踏襲した。

（北村）

(3) 広 報 活 動 等

平成 23 年 8 月 6 日　現地説明会実施（74 名参加）
平成 23 年 8 月 8 日　教職員 10 年研修受け入れ（2 名）
平成 24 年 8 月 2 日　教職員 10 年研修受け入れ（2 名）
平成 24 年 9 月 24 ～ 27 日　岩手大学大学院生・学部生発掘参加受け入れ（3 名）
平成 24 年 10 月 24 日　現地公開実施（21 名参加）　（北村）

2　室　内　整　理

遺構　遺構図面は電子データの加工・修正を行い、版下を作成した。その際に、攪乱層にも番号が付されていたため、整理しなおして番号を変更している。遺物の観察表は変更後の名称を使用しているが、遺物の注記には変更前の名称が使用されているため、対照表を第 4 表に示した。遺構図の縮尺は図版毎にスケールを付すと同時に縮尺を記載したので参照して頂きたい。遺構図に使用した記号・網掛け等は凡例に示した。

第 11 次調査は前述のとおり、震災以前の日本測地系で測量を行ったため、震災後の世界測地系に変換する必要が生じた。基準点を打設した北栄調査設計株式会社に 6 点の基準点を震災後の世界測地系に変換した座標の成果も納品されているが、東日本大震災による地表面の変動が場所によって異なるため、ある 1 点の変換した基準点に合わせて野外で測量した図面に反映させると、それ以外の基準点すべてに誤差が生じてしまう。そのため、次のような方法で図面の合成を行った。

第 12 次調査の測量で使用した基準点のうち、調査区中央付近に打設した H24 №2（A）と H24 区画 2（B）を使用。

①ＡとＢの震災前の日本測地系をもとに、第12次調査の図面を震災前の日本測地系に変換（C）。
②Ｃを第11次調査の図面に合成。
③合成した図面にＡとＢの点を新たに打設し、第11次調査のみの図面にコピー（D）。
④Ｄの値を震災後の世界測地系に変換し、第11次調査の図面全体を震災後の世界測地系に変換。

そのときに使用した第11次調査の基準点成果と基準点毎に変換した世界測地系は以下のとおりである。

点名	X座標	Y座標	標高m	備考
№1	-36,060.703	24,174.116	127.101	使用座標
№1	-36,060.684	24,174.065	127.101	変換世界測地系
№2	-35,915.894	24,212.718	126.693	使用座標
№2	-35,915.916	24,212.723	126.693	変換世界測地系
区画1	-36,034.882	24,181.098	127.370	使用座標
区画1	-36,034.864	24,181.038	127.370	変換世界測地系
区画2	-36,014.454	24,187.288	127.393	使用座標
区画2	-36,014.437	24,187.259	127.393	変換世界測地系
区画3	-35,973.631	24,198.447	127.389	使用座標
区画3	-35,973.641	24,198.434	127.389	変換世界測地系
区画4	-35,944.259	24,205.935	127.344	使用座標
区画4	-35,944.279	24,205.935	127.344	変換世界測地系

第6図は、盛岡市教育委員会が使用しているグリッド（調査座標原点X=-36,000.000、Y=24,000.000：震災前日本測地系）で示したが、他の遺構図版は震災後の世界測地系を示している。

遺構の計測は電子データ上で、次の方法で行った。①主軸方向は基本的に長軸または長辺方向である。②長径は長軸方向の最大距離を、短径は長径に直行する軸で最大径を計測した。③深さは上端で最も高い部分と底面の比高差で計算した。④溝跡などの長大な遺構の長さは電子平板システム内で、遺構の中心線を3回計測した値の平均値を記載した。⑤溝跡の幅は長軸方向に直交する場所で計測し、最大幅と最小幅を記載した。

遺物　出土遺物は水洗、仕分、出土地点の確認を行い、種類毎に次のとおりにした。遺物図版に使用した表現方法及び網掛け等は凡例に示した。番号は選別時に種別毎に整理番号を付し、掲載遺物決定後に変更している。掲載番号は本文、観察表、図版、写真図版すべて一致している。遺構外から出土した資料は区域毎の名称で取り上げを行っている。そのため、出土地点の名称で同一名が存在することとなってしまった。その混乱を避けるため、室内整理時に調査区前に年度を入れて記載している。

＜土器類・土製品＞　取り上げてきた袋毎に重量計測（g単位：少数第1位を四捨五入）を行い、台帳に記載した。その後、注記を行い、接合作業と資料の選択・登録作業を行った。選択にあたっては全ての資料を登録・分類・図化する時間的余裕がないため、次の選定基準を設定し行った。①全体の形状が把握できるもの、②口径もしくは底径が算出できる資料、③胴部破片で反転実測が可能な資料、④口縁部もしくは底部の一部が残存する資料、⑤胴部の断片的な資料。基本的には①～③の基準で選別を行ったが、遺構内出土資料や文様のある資料、資料数の少ない器種については④や⑤から採用した。その後、必要に応じて石膏による復元作業を行い、拓影図作成を含む図化作業、トレース作業、写真撮影を行った。

＜石器・石製品＞　1点毎に整理番号を付し、重量計測（g単位：少数第2位を四捨五入、大形の礫塊石器は少数第1位まで計測）を行い、台帳に記載した。その後、掲載遺物を選別し、図化･トレース作業を行った。

＜金属製品＞　まず、簡単に土砂の除去を行った後、X線写真撮影を行い、もとの形状を確認した。その上で、図化作業を行った。機械を使用した錆落としは行っていない。図化終了後、トレース作業、写真撮影を行った。遺構内から出土した主な資料は保存処理を行った。

写真　野外調査時に撮影した遺構などの写真には6×7判モノクローム、デジタルデータがある。モノクローム写真は主に保存用に撮影したもので、アルバムに整理し、台帳を作成した。デジタルデータはRAWデータとJPEGデータを同時に撮れるモードで撮影を行い、写真図版作成用に使用した。デジタルデータは当センターの規定に則った整理を行い、台帳を作成した。遺物写真は室内整理時にデジタルカメラでJPEG撮影モードの撮影を行った。これらの遺構写真と航空写真及び遺物写真で図版を作成した。なお、遺構の断面写真は基本的には図版の断面図と同じ方向から撮影したものである。（北村）

第4表　遺構名対照表

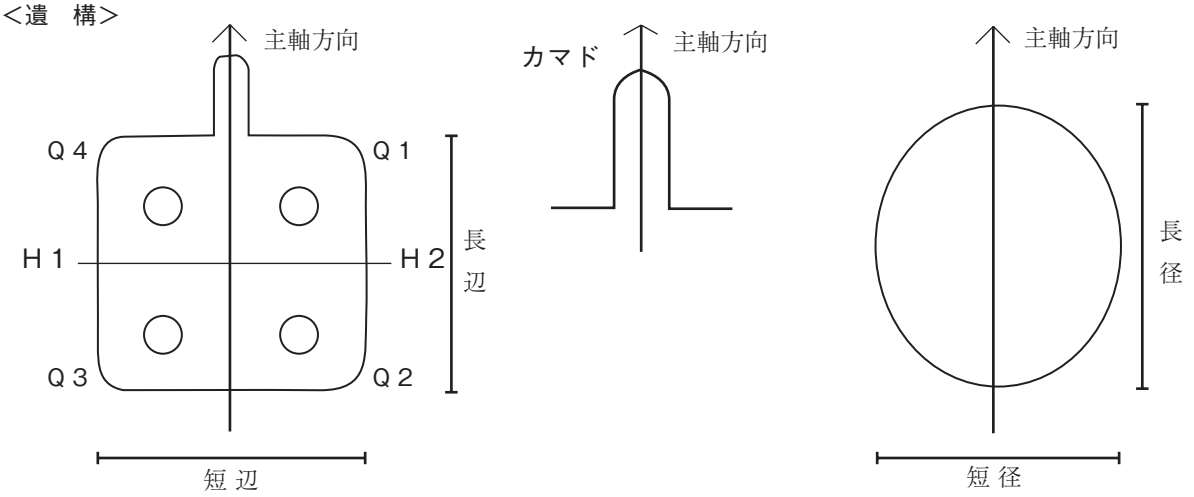
遺構名	現場名	区域
RA003	SI10	23B
RA004	SI08	23B
RA012	SI01	23E
RA013	SI02	23D
RA014	SI03	23C
RA015	SI04	23B
RA016	SI05	23B
RA017	SI05B	23B
RA018	SI06	23B
RA019	SI07	23B
RA020	SI09	23B
RA021	SI11	23B
RA022	SI18	24CD
RA023	SI17	24CD
RA024	SI15	24F
RA025	SK26	24F
RA026	SI12	24G
RA027	SI16	24J
RB001	SB01	23C
RB001P1	SK15	23C
RB001P2	SK12	23C
RB001P3	SK13	23C
RB001P4	SK14	23C
RB001P5	SK10	23C
RB001P6	SK09	23C
RB001P7	SK07	23C
RB001P8	SK06	23C
RB001P9	SK17	23C
RB001P10	SK16	23C
RB002	SB02	23B
RB003	SB04	24H
RB003P1	P431	24H
RB003P2	P425	24H
RB003P3	P432	24H
RB003P4	P429	24H
RB003P5	P436	24I
RB003P6	P437	24I
RB003P7	P418	24H
RB003P8	P419	24H
RB004	SB03	24N
RB004P5	P403	24N

遺構名	現場名	区域
RB004P6	P402	24N
RB004P7	P401	24N
RB004P8	P404	24N
RD007	SKT01	23E
RD008	SKT02	23E
RD009	SKT03	23E
RD010	SKF01	23B
RD011	SK01	23E
RD012	SK02	23E
RD013	SK03	23E
RD014	SK04	23D
RD015	SK05	23E
RD016	SK18	23B
RD017	SN04	23E
RD018	SX02	23B
RD019	SX01	23E
RD020	SK23	24F
RD021	SK21	24I
RD022	SK22	24I
RD023	SK30	24C
RD024	SK19	24F
RD025	SK24	24F
RD026	SK29	24D
RD027	SK28	24H
RE006	SKI01	23D
RE007	SI14	24G
RG005	SD01	23E
RG006	SD08	24A
RG007	SD10	24C
RG008	SD03	24I
RG009	SD04	24I
RG010	SD05	24I
RG011	SD09	24J
RG012	SD06	24M
RG013	SD07	24A 西
RX001	SD02	23C
RZ001	SX04	24J
P011	P448	24A
P013	P455	24B
P072	P456	24C
P133	P452	24D

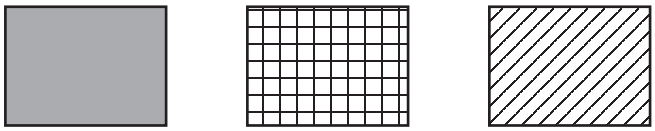
遺構名	現場名	区域
P138	P453	24D
P144	P451	24D
P159	P449	24D
P164	P457	24D
P199	P450	24D
P210	P454	24D
P211	P413	24G
P212	P408	24G
P213	P406	24G
P214	P407	24G
P215	P411	24G
P216	P438	24H
P217	P439	24H
P240	P417	24H
P295	P420	24H
P296	P422	24H
P297	P434	24H
P298	P433	24H
P299	P424	24H
P300	P428	24H
P301	P423	24H
P302	P435	24H
P303	P421	24H
P304	P426	24H
P305	P430	24H
P306	P427	24H
P307	P409	24I
P308	P412	24I
P309	P410	24I
P310	P441	24J
P311	P443	24J
P312	P440	24J
P313	P447	24J
P314	P445	24J
P315	P446	24J
P316	P444	24J
P317	P442	24J
P318	P414	24M
P319	P415	24M
P320	P416	24M
P321	P405	24N

凡　例

＜遺　構＞



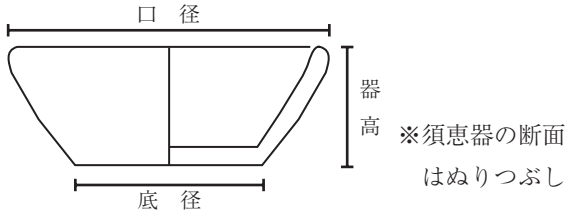
〔使用トーン〕



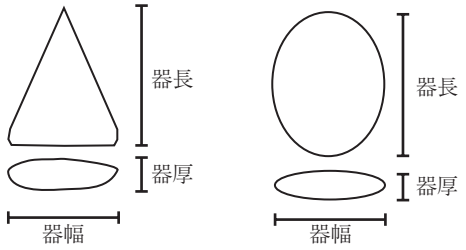
現地性焼土　　ブロック焼土　　炭化物範囲

＜遺　物＞

土器類



石器類

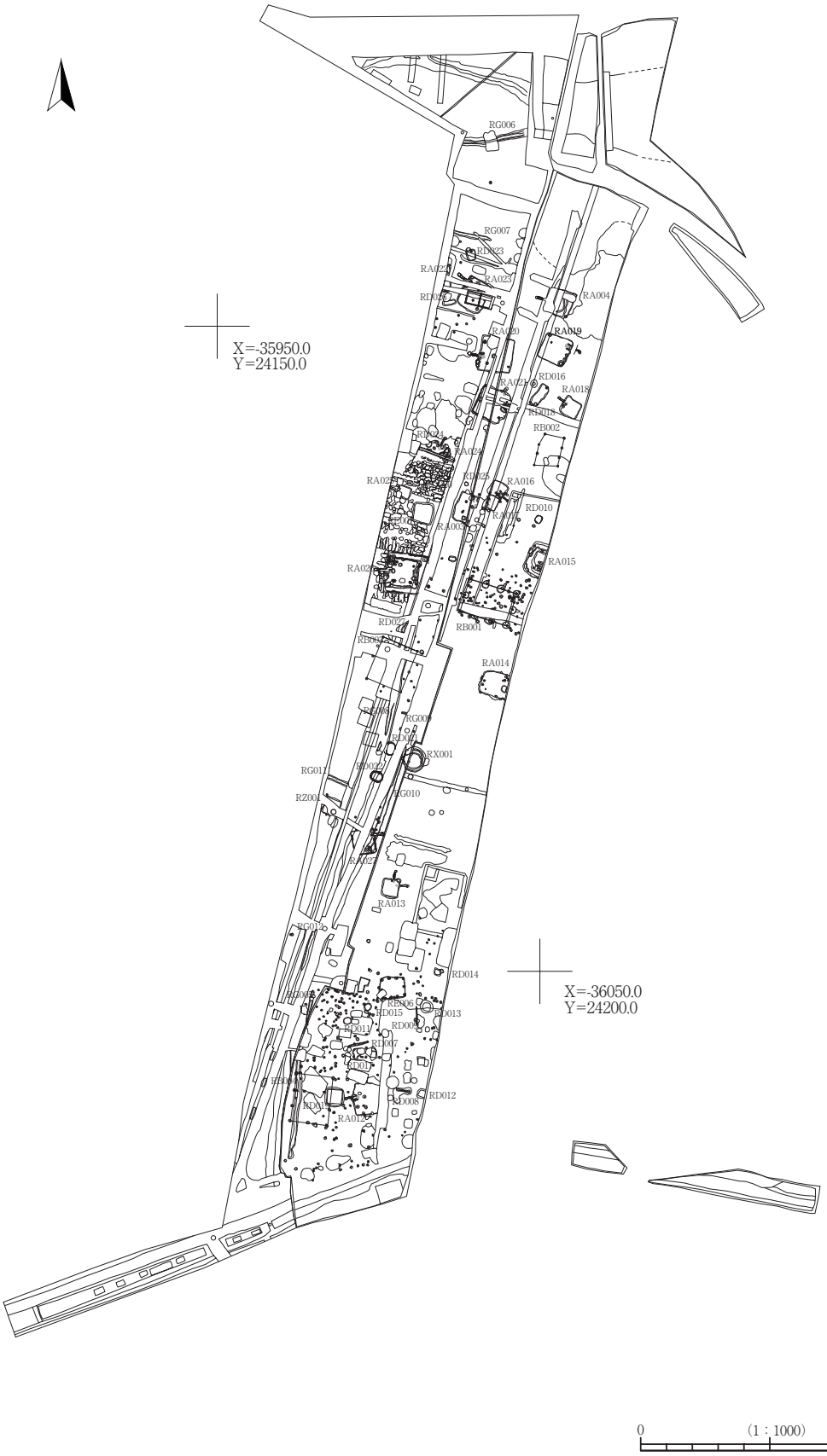


〔表現方法・使用トーン〕

ヘラナデ　ヘラケズリ　ハケメ　回転ナデ　ミガキ　黒色処理　石器使用面

当センターで使用しているコンテナの大きさは以下の通りである。

大コンテナ：42×32×30 ㎝　中コンテナ：42×32×20 ㎝　小コンテナ：42×32×10 ㎝



0　(1：1000)　40m

第８図　遺構配置図

Ⅳ　分　類　基　準

1　土　器　類

土器類には、縄文土器、土師器、須恵器、陶器、磁器がある。土師器・須恵器以外については、分類できるほどの数量がないため、個別に記載している。

(1) 土　師　器

土師器の器種は坏・高台付坏・皿・耳皿・鉢・甕・羽釜がある。ここでは器種毎に細分を行い報告する。分類基準は以下のとおりである。

＜坏＞

すべてロクロを使用したものである。内外面の黒色処理の有無により大別を行い、器形・口縁端部形状により細分を行った。

坏Ⅰ類：非黒色処理のもの。

　ⅠA：a・b・e　ⅠB：a・b・d・e　ⅠC：a・b・d・e　ⅠD：a・b　ⅠE：e

坏Ⅱ類：内面黒色処理のもの。

　ⅡB：a・b・d・e　ⅡC：a・d　ⅡD：a・d

坏Ⅲ類：内外面黒色処理のもの。

　ⅢB：b・d　ⅢC：a

＜高台付坏＞

すべてロクロを使用したものである。内外面の黒色処理の有無により大別を行い、器形・口縁端部形状により細分を行った。坏と比較すると、該当する項目が少ないが、同一基準で観察するため、統一した。

高台付坏Ⅰ類：非黒色処理のもの。

　ⅠA：c　ⅠB：a　ⅠC：e

高台付坏Ⅱ類：内面黒色処理のもの。

　ⅡB：a

＜皿・耳皿＞

出土点数が各１点であるため細分していない。

＜鉢＞

出土点数が４点と少ないため、内外面の黒色処理の有無のみ分類した。

鉢Ⅰ類：非黒色処理のもの。

鉢Ⅱ類：内面黒色処理のもの。

＜甕＞

甕類には小甕も含んでいる。小甕は基本的にロクロを使用している。全体の法量が判明している場合には、口径14cm、器高12cm以下のものを指す。底部付近のみ残存するものについては回転糸切りのものを小甕とした。ロクロ使用の有無により大別を行い、口縁部形状により細分を行った。

甕ⅰ類：非ロクロのもの（a・c・d・e・f)。

甕ⅱ類：ロクロ使用のもの（a・b・c・d)。

＜羽釜＞

出土点数が１点であるため細分していない。

（北村）

(2) 須　恵　器

須恵器の器種は坏・甕・壺がある。基本的にロクロを使用しており、土師器におけるⅠ類は存在しない。ここでは器種毎に細分を行い報告する。分類基準は以下のとおりである。

＜坏＞

器形・口縁端部形状により細分を行った（Ae・Ba・Bd・Be）。

＜甕＞

甕類には大甕も含んでいる。口縁端部形状ｃ類しか確認できないため、細分を行っていない。断片的な資料であるため、甕類か壺類の判断ができないものは「袋物」として一括して扱った。

＜壺＞

壺類は断片的な資料が多く、細分は行っていない。詳細な器種が特定できるもの（広口壺や長頸壺等）についてはその器種を記載した。その他については壺とした。

坏類器形		坏類口縁端部形状		甕類口縁端部形状	
A	底部から直線的に立ち上がる	a	外反	a	外反し、断面形は「く」の字状を呈する
B	体部下半に丸みを帯びる	b	直立	b	外反し、端部が上方に引き出される
C	体部に段がみられる	c	水平に面取り	c	外反し、端部が上下に肥厚する
D	体部下半が外反気味に立ち上がる	d	内湾	d	外反するが、断面形が「く」の字状にならない
E	中間部に変化点を持ち上半で開く	e	直線的	e	直立気味にたちあがる
－	不明	－	不明	f	ほぼ直立し、直角に曲がる
				－	不明

（北村）

2　石　器　類

石鏃、鍬形石器、磨石、敲石、砥石、台石、石臼等がある。磨石と敲石には複数の機能を有するものがあるが、顕著な機能を優先した。（北村）

3　金　属　製　品

金属製品には鉄製品、銅製品がある。鉄製品には鉄鏃、鋤先、紡錘車、刀子、不明鉄製品があり、銅製品には煙管、簪がある。製品ではないが、鉄塊も含めている。刀子は関の有無や平面形により複数の種類が存在するが、点数が少ないことから細分は行っていない。（北村）

＜土師器＞

坏

ⅠA　ⅠB　ⅠC　ⅠD

ⅠE　ⅡB　ⅡC　ⅡD

ⅢB

高台付坏

ⅠA　ⅠB

ⅢC

ⅠC　ⅡB

Ⅲ

鉢

Ⅰ

Ⅱ

甕

i　ii

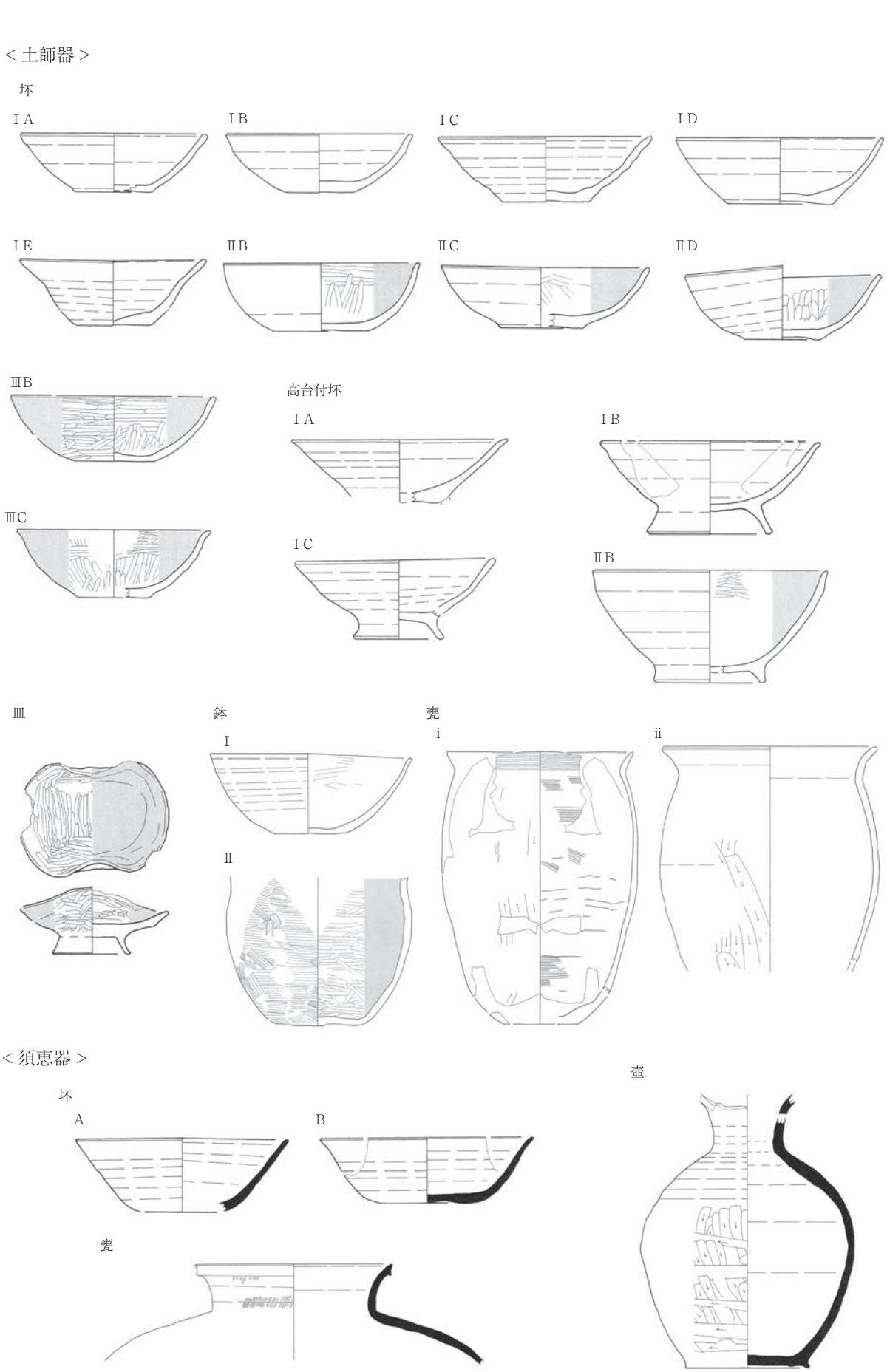
＜須恵器＞

坏

A　B

甕

壺



第９図　土器分類図

Ⅴ　検出遺構と出土遺物

1　竪 穴 住 居 跡（RA）

RA003 竪穴住居跡（SI10）

遺構（第 10 ～ 12 図、写真図版 10・11）

［位置・検出状況］23B 区～ 24F 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。第 11 次調査ではカマドを中心とする東側半分を調査し、第 12 次調査では、残りの西側半分を調査した。第 2 次調査区内で RA017（第 2 次調査では RD002）と重複する部分が確認されており、本遺構が古いと判断されている。また、東壁とその周辺は、第 2 次調査時に調査されている。

［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形である。規模は、南北方向が 480㎝、東西方向が 420㎝である。Ⅲ層を掘り込み、Ⅲ層に起因する褐色シルト（A8 層）や黒褐色シルト（C8・9 層）を主体とする掘り方埋土を床材として、平坦な床面を構築している。壁は外傾する。検出面から床面までの深さは 46㎝である。

［カマド］東壁の 2 箇所に確認した（カマド 1・カマド 2）。

　カマド 1 は東壁の南寄りに位置する。確認できたのは煙道部の先端のみで、軸方向は E24° S、残存長は 62㎝である。

　カマド 2 は東壁の北寄りに位置する。

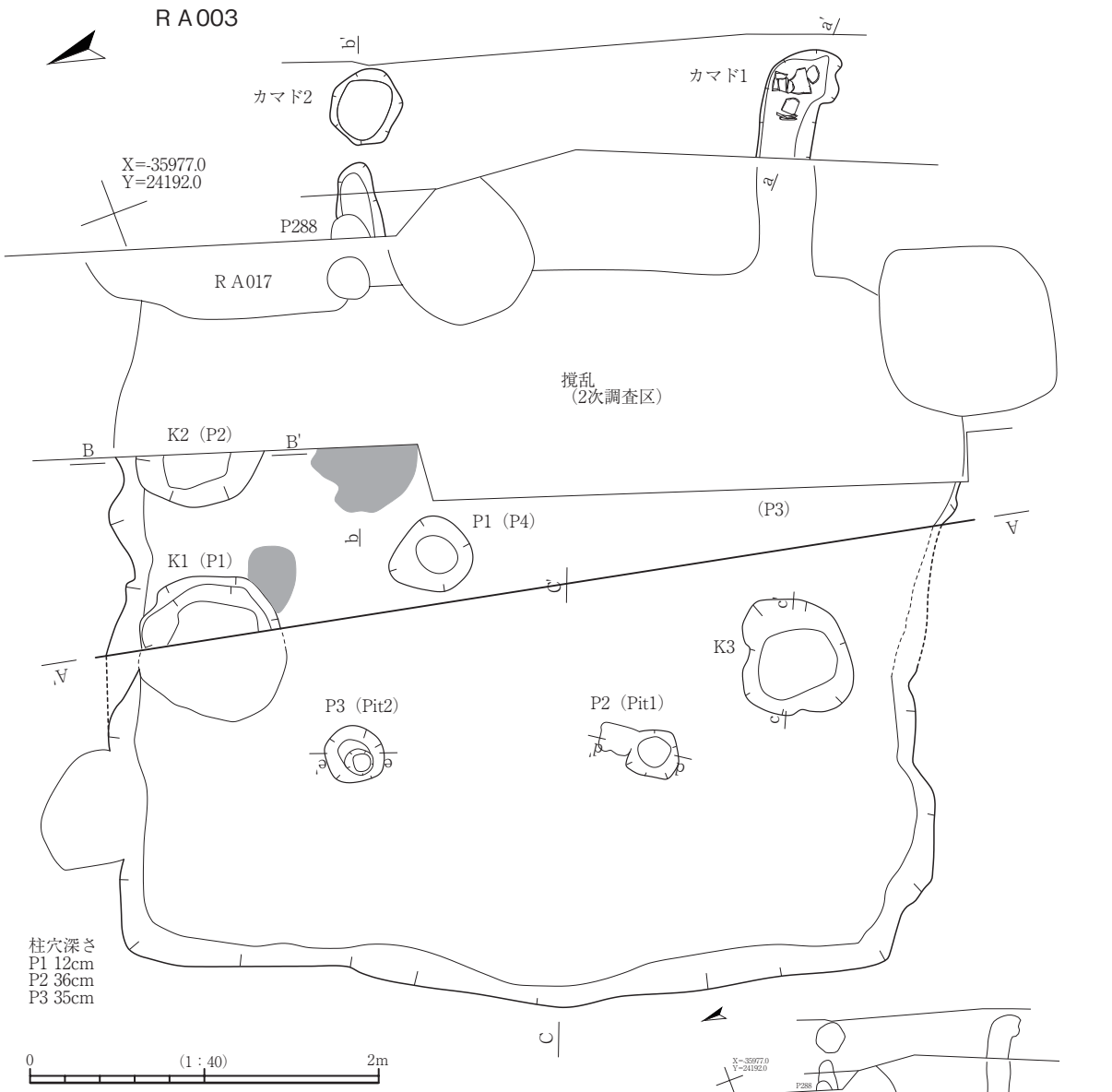
［付属施設］北壁中央付近、北東隅付近、南壁中央付近で土坑を確認し、それぞれ K1、K2、K3 とした。K1 は第 11 次調査、第 12 次調査にまたがっているが、第 12 次調査では明らかに新しい堆積土で埋没しており、撹乱扱いとなっている。第 11 次調査では住居の堆積土より古く、本遺構に伴う可能性が高いものと判断している。平面形は円形基調で、長辺 85㎝、短辺 84㎝、深さは最大で 27㎝である。黒褐色～暗褐色シルトを主体とする。K2 は第 2 次調査にまたがっており、詳細な規模は不明であるが、平面形は円形基調、埋土は黒色～黒褐色シルトを主体とする。確認できた深さは 43㎝である。K3 は歪な円形を呈し、長辺 73㎝、短辺 65㎝、深さは最大で 29㎝である。焼土粒や炭化物を多量に含む黒褐色シルトの単層で、人為堆積である。竪穴部のほぼ中央（P1）に 1 個、南西（P2）、北西（P3）で 1 個、計 3 個の柱穴を確認した。P2･3 は位置関係から主柱穴の可能性が高いが、相対する位置（東側）で柱穴が確認されていないため、詳細な配置は不明である。黒色シルトや黒褐色シルトの単層である。

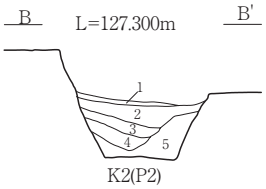
［埋土］第 11 次調査では 3 層、第 12 次調査では 5 層に細分した。黒褐色シルト～暗褐色シルトを主体とする。

遺物（第 75・76 図、写真図版 54）

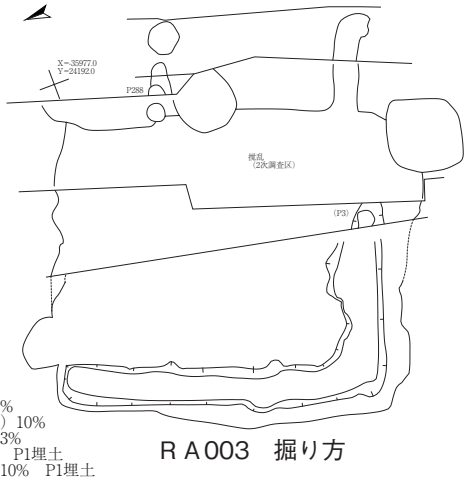
［土器］4787.6g（土師器 4145.9g、須恵器 641.7g）出土した。掲載遺物は土師器坏 11 点、土師器甕 1 点、須恵器甕 1 点、須恵器壺 3 点である。1・6 はⅠC 類、2・4 はⅠA 類、3・7 はⅠD 類、5・8 はⅠB 類、9 はⅡB 類、10 はⅢB 類、11 はⅢ類の土師器坏である。1 は土坑（K1）から出土したものである。12 は i 類、13 は ii 類の土師器甕である。12 はカマド 1 の煙出し Pit から出土したものである。14 は須恵器甕、15 ～ 17 は須恵器壺である。14 は床面から出土したものである。上記以外に埋土上部から陶磁器（36.8g）が出土したが、耕作に伴う近年の混入の可能性が高い。

［石器類］掲載遺物は砥石 1 点、碁石状石製品 1 点である。18 はデイサイト製の中砥である。四角く面取りされており、4 面とも使用されている。19 は頁岩製の碁石状を呈するものである。大きさや色

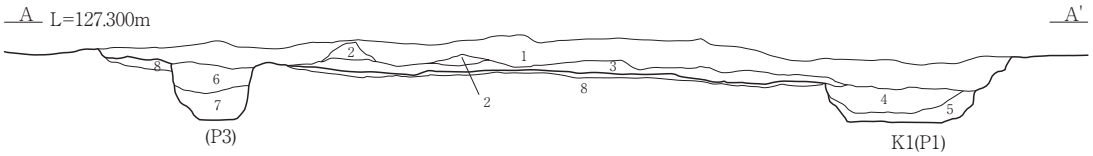




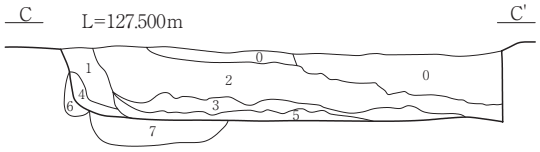
R A003　断面B
1. 10YR2/1黒色　シルト　しまり中　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ5mm）3%
2. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性やや弱
　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ10mm）10%
3. 10YR2/3黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ5mm）5%
4. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ3mm）15%
5. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ20mm）10%



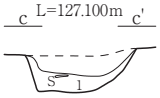
R A003　断面A
1. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ5～10mm）5%
2. 10YR3/4暗褐色　シルト　しまりやや強　粘性弱　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ20mm～）10%
3. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性中　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ10mm）3%
4. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり中　粘性中　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ20mm）15%　P1埋土
5. 10YR3/3暗褐色　シルト　しまり中　粘性中　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ20～50mm）10%　P1埋土
6. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまり中　粘性中　黄褐色土30%　P3埋土
7. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり中　粘性中　黒褐色土5%　P3埋土
8. 10YR4/4褐色　シルト　しまり堅　粘性中　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ50mm）15%　貼り床



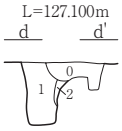
第10図　RA003（1）



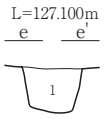
R A003　断面 C
0.　撹乱
1.　10YR2/1 黒色　シルト　しまり弱　やや粘質　植物攪乱
2.　10YR3/4 暗褐色　シルト　地山 B（φ1 cm大）斑状にまんべんなく含む
3.　10YR3/2 黒褐色　シルト　地山 B 多く含む、部分的に黒色土壌化
4.　10YR3/3 暗褐色　シルト　やや粘質　質感は地山に近いがくすみあり
5.　10YR3/4 暗褐色　シルト　しまり弱　中粒砂小量混　しまりによって床面と区分される
6.　10YR3/2 黒褐色　シルト　しまり弱　やや粘質（貼床）
7.　10YR3/1 黒褐色　シルト　地山 B 多量に含む（貼床）



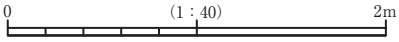
R A003　断面 c
1.　7.5YR3/2 黒褐色　シルト　焼土粒・炭化物多量に含む



R A003　断面 d
0.　カクラン
1.　10YR2/1 黒色　シルト　炭化物粒小量含む
2.　10YR4/4 褐色　シルト



R A003　断面 e
1.　10YR3/2 黒褐色　シルト　地山 B 多量含む



第 11 図　RA003（2）

調が碁石に類似することに注目して報告する。

［その他］鉄鏃が 1 点出土した。20 は尖端が尖り長三角形を呈する柳葉状の鉄鏃で、側縁の一部と茎部の一部を欠損している。腸抉の入るタイプである。

時期　平安時代（10 世紀前半）と推定される。　（川又・北村）

RA004 竪穴住居跡（SI08）

遺構（第 13・14 図、写真図版 12）

［位置･検出状況］23B 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。精査は 2 段階に分けて行い､1 回目で東側、2 回目で西側煙道部の精査を行った。重複する遺構はないが、広範囲わたって撹乱に壊されている。西壁とカマド本体部分を含む西側は、第 2 次調査で調査されている。

［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形と推定される。規模は、南北方向が 486cm、東西方向の残存長が 184cmである。床面は概ね平坦で、壁は外傾する。検出面から床面までの深さは 16cmである。貼床は、床面の内側に施される。

［カマド］煙道部のみを確認した。西壁のほぼ中央に位置するものと推定される。煙道部の軸方向は、W19° N で、残存長は 113cmである。

［付属施設］Pit1 個（P3）を確認した。

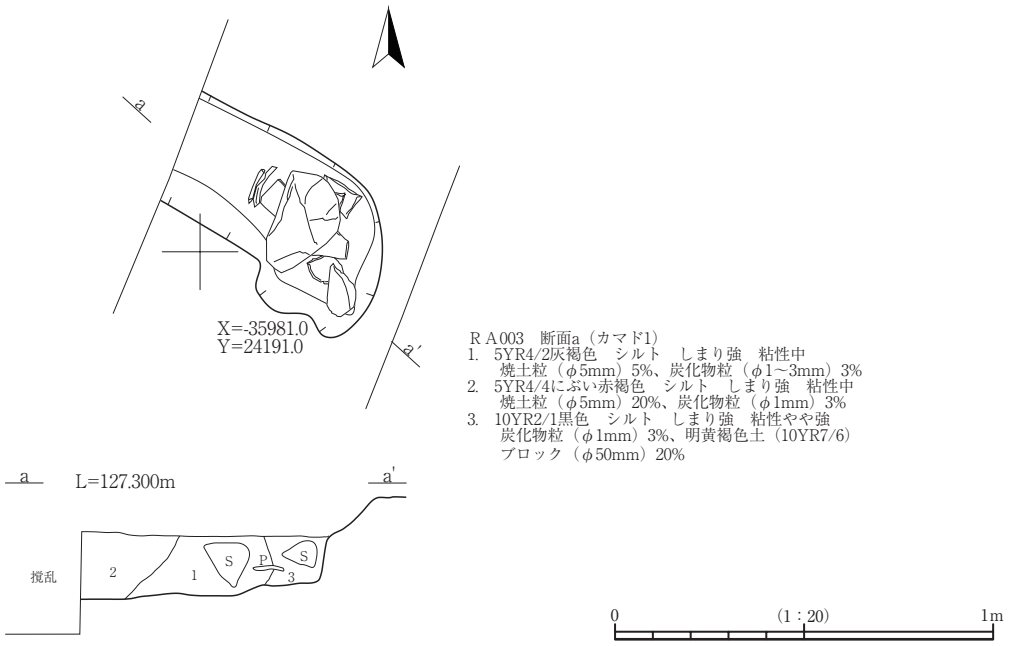
［埋土］5 層に細分した。黒褐色土を主体とする。

遺物（第 76・77 図、写真図版 55）

［土器］3775.6g（土師器 3095.6g､須恵器 680.0g）出土した。掲載遺物は土師器坏 1 点､土師器甕 7 点、須恵器坏 2 点、須恵器大甕 1 点、須恵器壺 1 点である。21 はⅠ C 類の土師器坏である。P3 から出土した。22 ～ 25 は i 類、26 ～ 28 は ii 類の土師器甕である。22 ～ 24・26 は煙道～煙出し Pit から、25 は主に P1 から出土した。29・30 は須恵器坏、31 は須恵器大甕、32 は須恵器壺である。

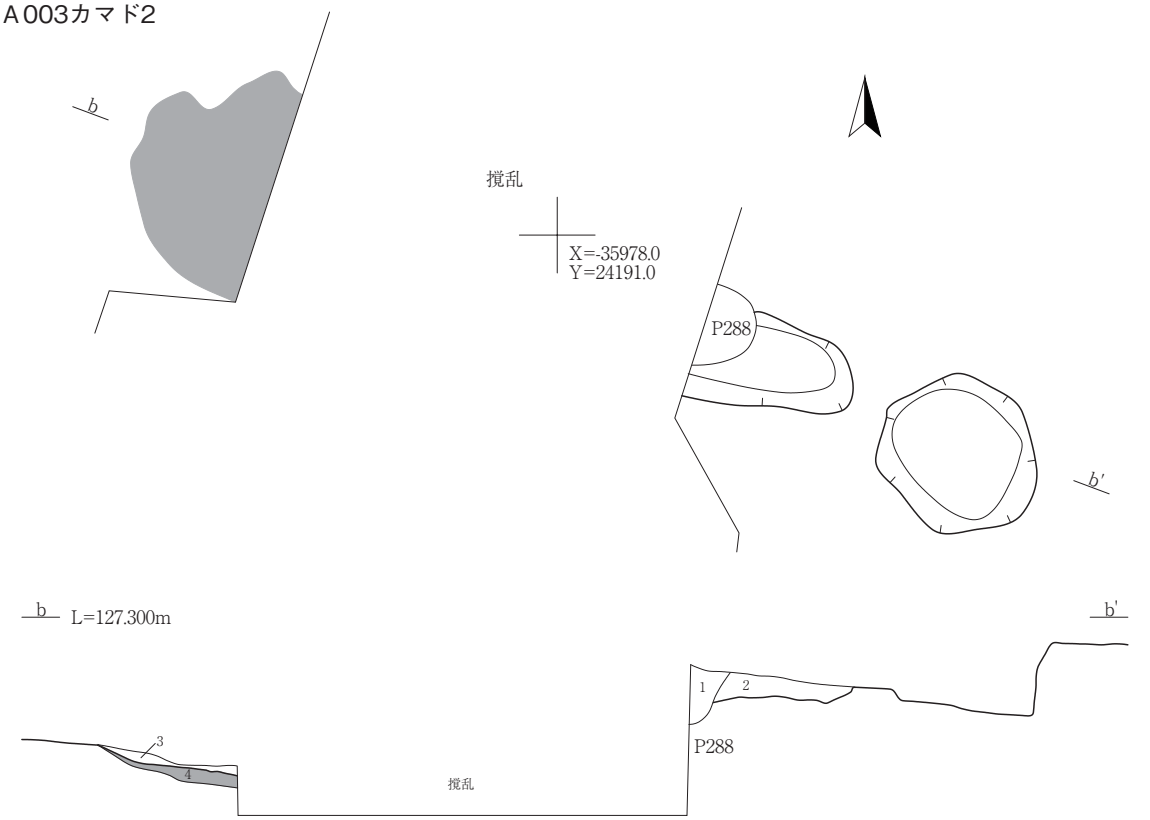
時期　平安時代（10 世紀前半）と推定される。　（川又・北村）

ＲＡ003カマド1



ＲＡ003　断面a（カマド1）
1.　5YR4/2灰褐色　シルト　しまり強　粘性中
　焼土粒（φ5mm）5%、炭化物粒（φ1～3mm）3%
2.　5YR4/4にぶい赤褐色　シルト　しまり強　粘性中
　焼土粒（φ5mm）20%、炭化物粒（φ1mm）3%
3.　10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性やや強
　炭化物粒（φ1mm）3%、明黄褐色土（10YR7/6）
　ブロック（φ50mm）20%

ＲＡ003カマド2

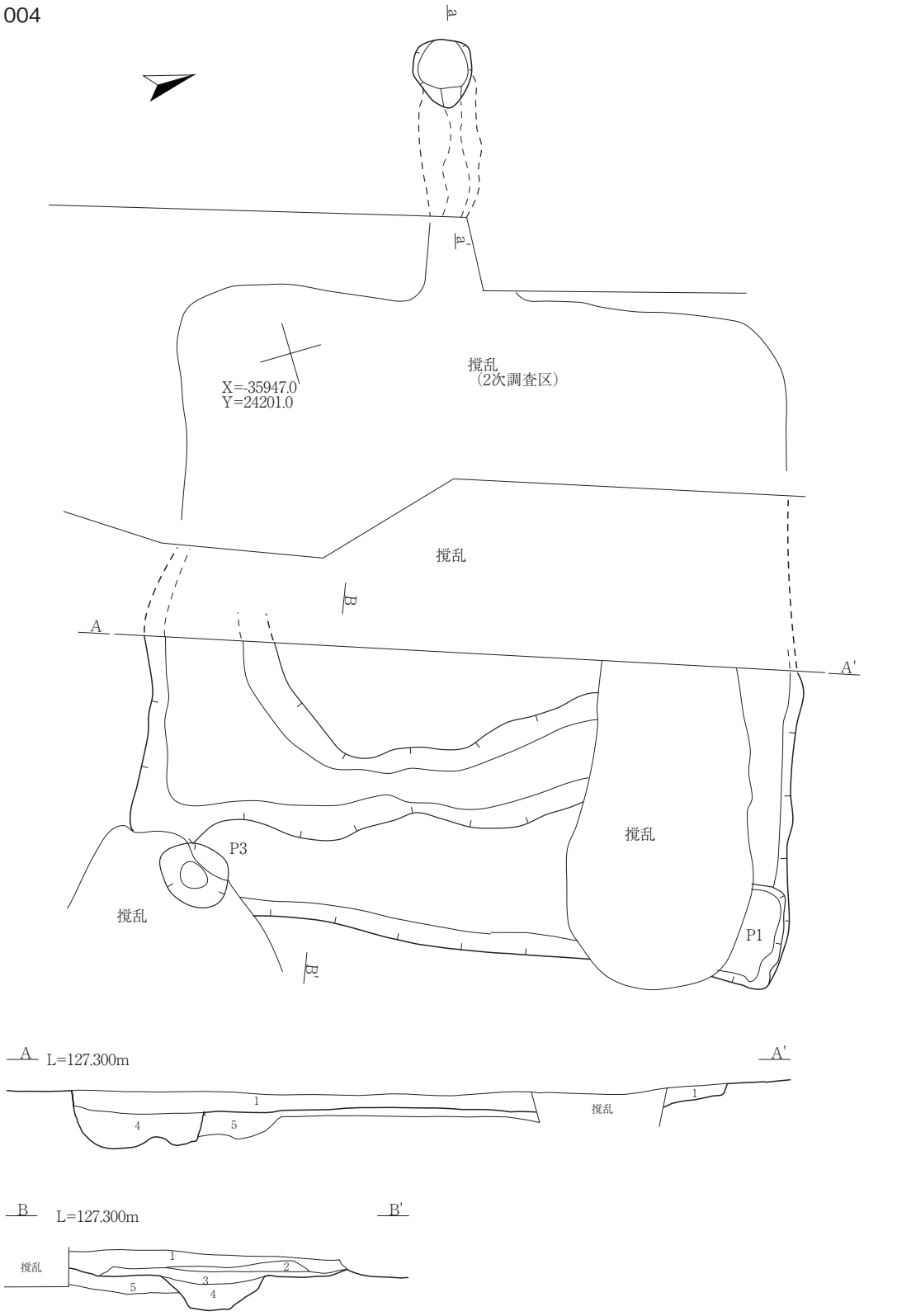


ＲＡ003　断面b（カマド2）
1.　10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中　炭化物粒（φ2mm）3%　P288埋土
2.　2.5YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中　焼土粒（φ3mm）1%、炭化物粒（φ5mm）3%
3.　5YR2/1黒褐色　シルト　しまり強　粘性中　焼土粒（φ50～mm）10%、炭化物粒（φ10mm）3%
4.　2.5YR4/1にぶい赤褐色　シルト　しまり強　粘性弱　黒褐色土（5YR2/1）5%　燃焼部焼土

0　(1：20)　1m

第12図　RA003（3）

R A 004

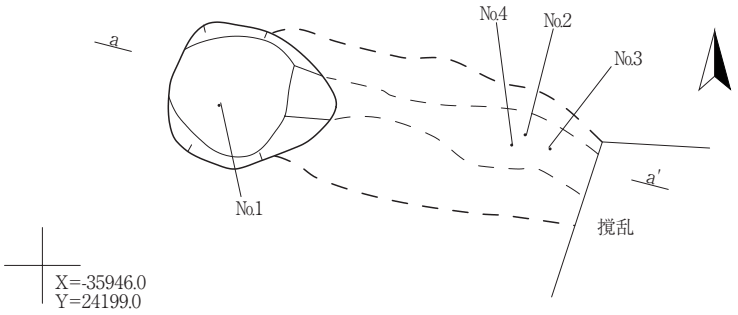


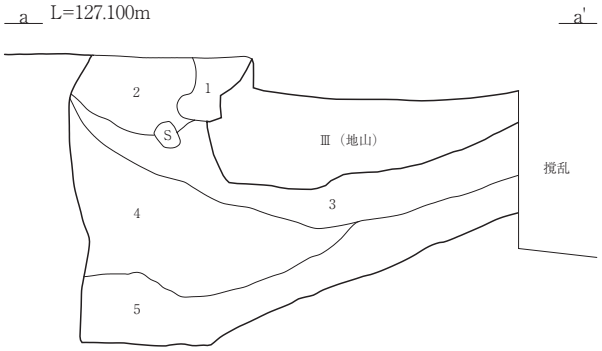
R A 004　断面A・B
1.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性中　黄褐色土ブロック1%
2.　10YR5/4にぶい黄褐色　シルト　しまり堅　粘性なし　黒褐色土粒5%
3.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性弱　焼土粒3%、黄褐色土ブロック30%
4.　10YR3/3暗褐色　シルト　しまりやや強　粘性弱　黄褐色土ブロック20%
5.　10YR4/6褐色　シルト　しまり堅　粘性弱　黒褐色土粒1%　貼り床

0　(1：40)　2m

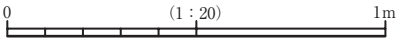
第13図　RA004（1）

ＲＡ004カマド





ＲＡ004カマド　断面a
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色土粒20%
2.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色土粒10%
3.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性中　焼土粒1%、黄褐色土粒10%
4.　10YR2/1黒色　シルト　しまり弱　粘性やや強　黄褐色土ブロック（φ10～30mm）10%
5.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強　焼土ブロック（φ10～20mm）5%



第 14 図　RA004（2）

RA012 竪穴住居跡（SI01）

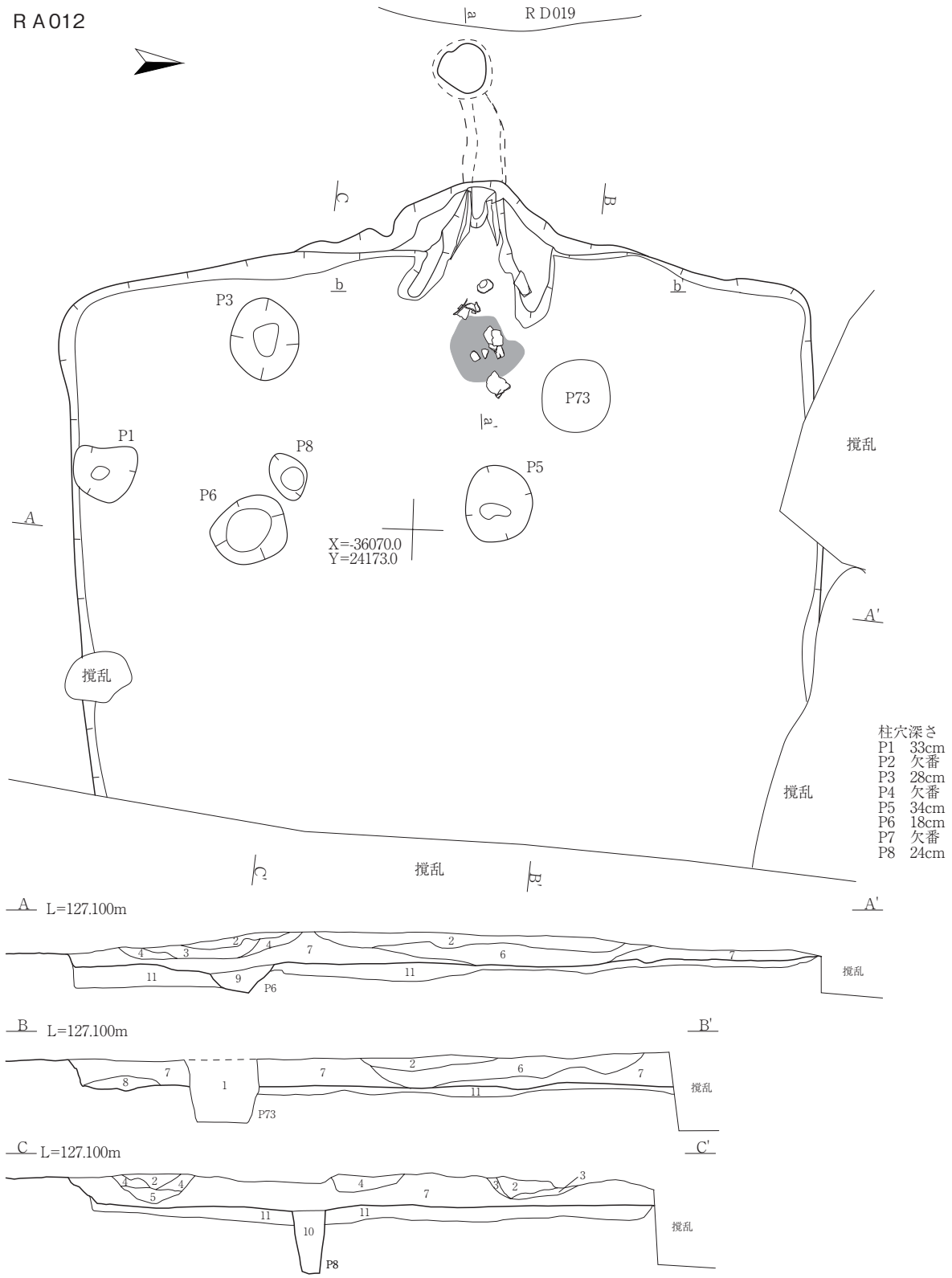
遺構（第 15・16 図、写真図版 13）

［位置・検出状況］23E 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。P073 に切られ、東壁の全体と北壁の一部は撹乱により削平される。

［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形と推定される。規模は、南北方向が 498cm、東西方向の残存長が 400cmである。床面は概ね平坦であり、壁は外傾する。検出面から床面までの深さは 20cmであ

る。貼床は、竪穴部のほぼ全体に施される。
［カマド］西壁のほぼ中央に設置される。煙道部は刳り抜き式であり、軸方向がW4°Sで、西壁に対しほぼ直交する。煙出しに向かって下がり、先端部までの長さは94cmである。煙出しPitは、開口部32×31cm、深さ62cmで、底部付近が開口部よりもやや外側へ膨らむ。燃焼部焼土は、48×42cmの範囲で強く焼成を受け、焼成深度は5cmである。袖は燃焼部焼土の両側に残存し、北側の袖には芯材の礫が残存する。
［付属施設］柱穴5個（P1・3・5・6・8）を検出した。配列に規則性はない。
［埋土］11層に細分した。黒褐色土が主体である。
遺物（第77～79図、写真図版55～57）
［土器］5519.6g（土師器4911.8g、須恵器607.8g）出土した。掲載遺物は土師器坏9点、土師器甕8点、須恵器坏4点、須恵器大甕1点である。33はⅠ類、34はⅠC類、35・36・38～41はⅡB類、37はⅡ類の土師器坏である。33・34・38はカマド袖から、35・36は床面から、37はP8から、40は主にカマドから出土したものである。42～47はⅰ類、48・49はⅱ類の土師器甕である。42～45・48は主にカマドから、46はカマド焼土から、47は主に床面から出土したものである。50・51・53はB類、52はA類の須恵器坏である。50はカマドから、51・52は床面から、53はP5から出土したものである。54は須恵器の大甕である。カマドから出土した。
［その他］鉄製品1点（55）が出土した。環状で、用途は不明である。
時期　平安時代（10世紀前半）と推定される。　（川又・北村）

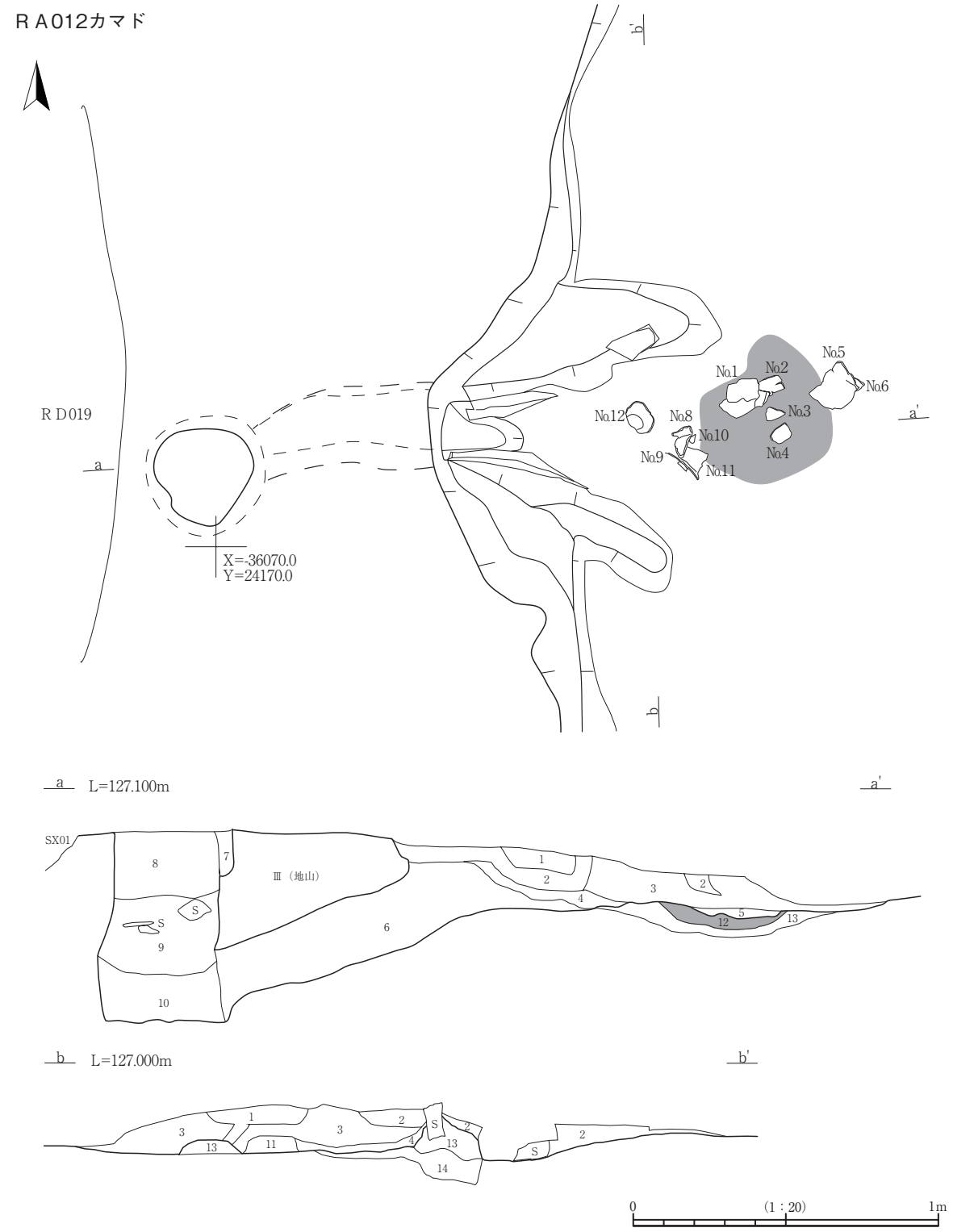
RA013 竪穴住居跡（SI02）
遺構（第17・18図、写真図版14）
［位置・検出状況］23D区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はない。
［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形である。規模は、南北方向が306cm、東西方向が276cmである。床面は概ね平坦であり、壁は外傾する。検出面から床面までの深さは20cmである。貼床は、床面の北側にのみ施される。
［カマド］東壁と北壁の2箇所で確認され、カマド1、カマド2とした。
カマド1は、東壁の北寄りに位置する。煙道部は刳り抜き式で、天井部が崩落したものと推定される。軸方向がE3°Sで、東壁に対しほぼ直交する。煙出しに向かって下がり、先端部までの長さは142cmである。煙出しPitの深さは33cmである。燃焼部焼土は、28×25cmの範囲で、焼成深度は3cmである。袖は残存しない。
カマド2は、北壁の東寄りに位置する。煙道部は刳り抜き式であり、軸方向がN12°Eで、北壁に対しほぼ直交する。先端部までの長さは136cmで、煙出しに向かって下がっていく。煙出しPitは、開口部32×31cm、深さ47cmである。燃焼部焼土は、29×28cmの範囲で、焼成深度は4cmである。袖は燃焼部の両側に確認され、両側とも芯材の礫が残存していた。
［付属施設］土坑1基（K1）を確認した。
［埋土］6層に細分した。
遺物（第80・81図、写真図版57・58）
［土器］3129.1g（土師器2210.7g、須恵器918.4g）出土した。掲載遺物は土師器坏4点、土師器甕8点、須恵器坏3点、須恵器大甕1点である。56はⅠ類、57・59はⅡB類、58はⅡ類の土師器坏である。56・57はカマド2焼土直上から、58は床面から、59は貼床から出土した。57の底部外面には「×」



R A012　断面A・B・C
1.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性弱　黄褐色土ブロック少量　P73埋土
2.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性弱　黄褐色土粒微量
3.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり堅　粘性弱　明赤褐色焼土（2.5YR5/8）ブロック多量
4.　7.5YR4/6褐色　シルト　しまり強　粘性弱　黒褐色土（10YR2/2）多量
5.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　焼土粒少量、炭化物粒多量
6.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色土ブロック多量
7.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性やや弱　黄褐色土粒少量
8.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまり強　粘性やや強　黄褐色土ブロック多量　カマド構築土？
9.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまり中　粘性中　褐色土5%　P6埋土
10.　10YR4/3にぶい黄褐色　シルト　しまり中　粘性中　炭化物粒3%、褐色土5%　P8埋土
11.　10YR4/6褐色　シルト　しまり強　粘性やや強　黒褐色土ブロック少量　貼り床

0　(1：40)　2m

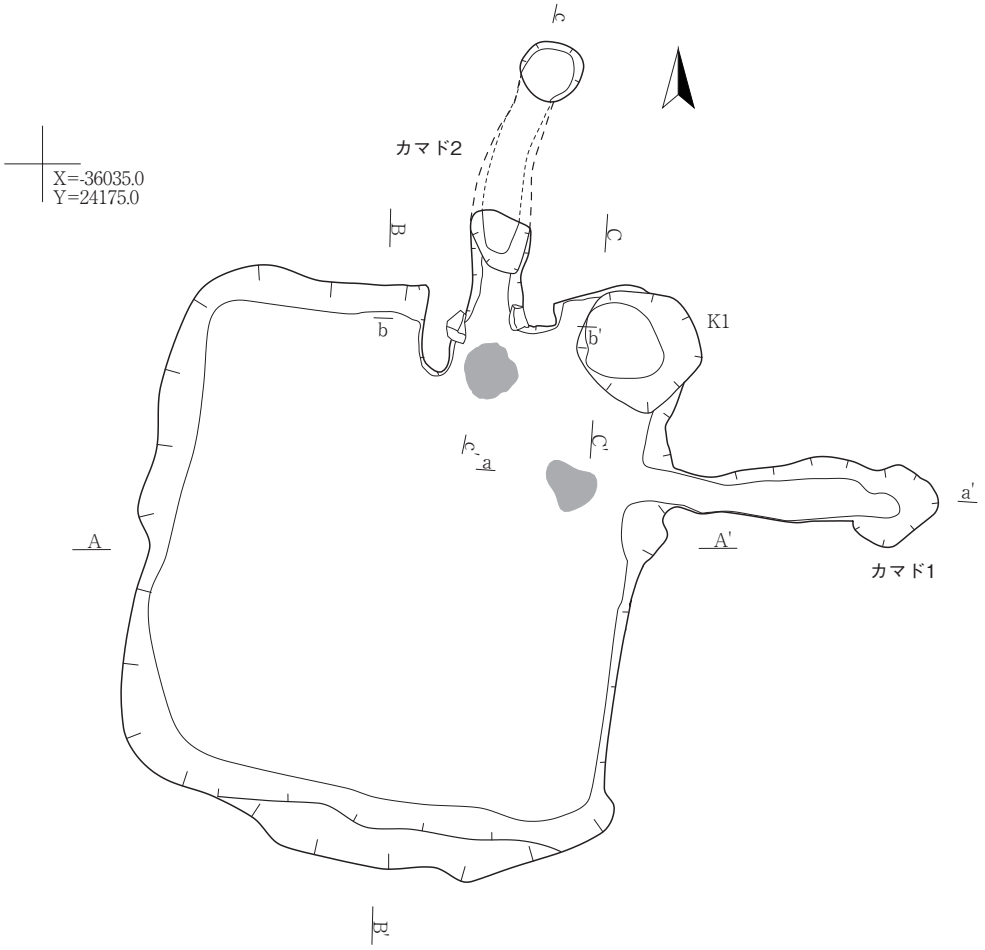
第15図　RA012（1）

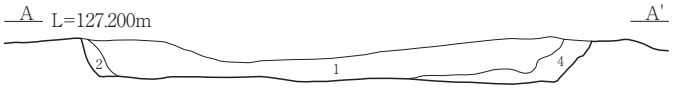


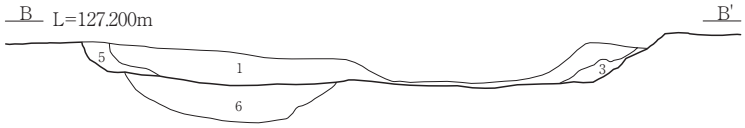
ＲＡ012　断面a・b（カマド）
1.　5YR4/6赤褐色　シルト　しまり中　粘性弱　炭化物ブロック（φ10mm）3%、褐色土（10YR4/4）粒（φ5mm）5％
2.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまり強　粘性やや強　黄褐色土ブロック多量
3.　10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性中　赤褐色焼土（5YR4/6）粒（φ3mm）1%、炭化物ブロック（φ10mm ）3%、褐色粘土（10YR4/4）ブロック（φ20mm）5%
4.　10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性中　赤褐色焼土（5YR4/6）粒（φ1mm）5%、炭化物粒（φ1mm）1%
5.　10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性中　赤褐色焼土（5YR4/6）粒（φ1mm）5%、炭化物粒（φ1mm）1%
6.　10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性弱　赤褐色焼土（5YR4/6）粒（φ5mm）1%、炭化物粒（φ1mm）1%
7.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまり強　粘性弱　地山土粒（φ2～3mm）5%
8.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまり強　粘性弱　赤褐色焼土（5YR4/6）ブロック（φ1～20mm）20%
9.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまり強　粘性弱　赤褐色焼土（5YR4/6）ブロック（φ10mm）1%
10.　10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性弱　炭化物微量、地山土粒（φ15mm）10%
11.　10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中　赤褐色焼土（5YR4/6）粒（φ1mm）1%
12.　5YR5/8明赤褐色　シルト　しまり強　粘性弱　燃焼部焼土
13.　10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中　カマド構築土？
14.　10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性強　明赤褐色焼土（5YR5/8）粒（φ3mm）3%、褐色土（10YR4/4 ）粒（φ5mm）5%　貼り床

第16図　RA012（2）

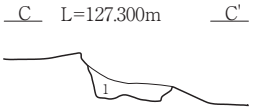
R A013



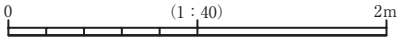




R A013　断面A・B
1.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強
2.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強　黄褐色土粒少量
3.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強　灰色粘質土ブロック多量
4.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強　焼土粒少量、黄褐色土粒多量
5.　10YR4/6褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　カマド1崩落土？
6.　10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり中　粘性中　褐灰色土（10YR4/1）20%　貼り床

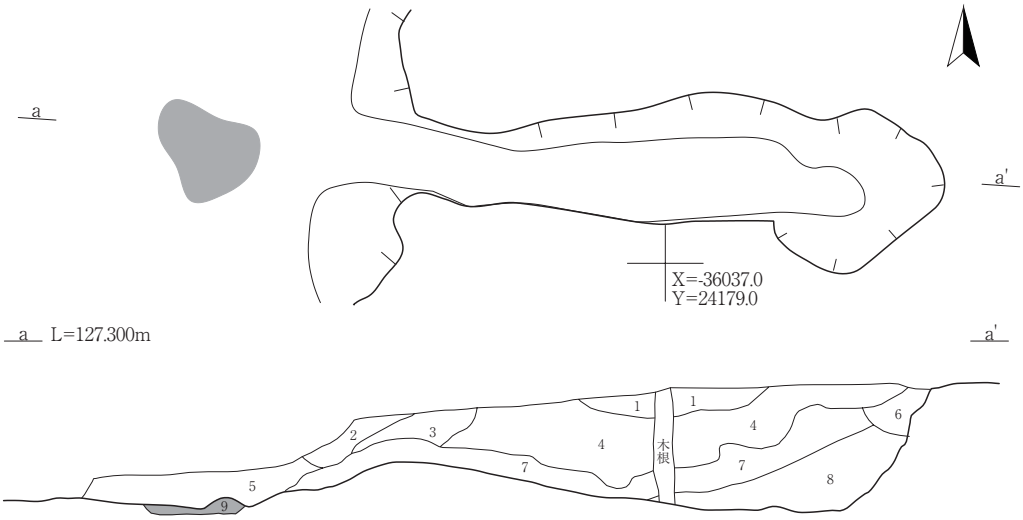


R A013　断面C（K1）
1.　10YR2/3黒褐色　シルト　やや弱　やや弱　焼土粒多量

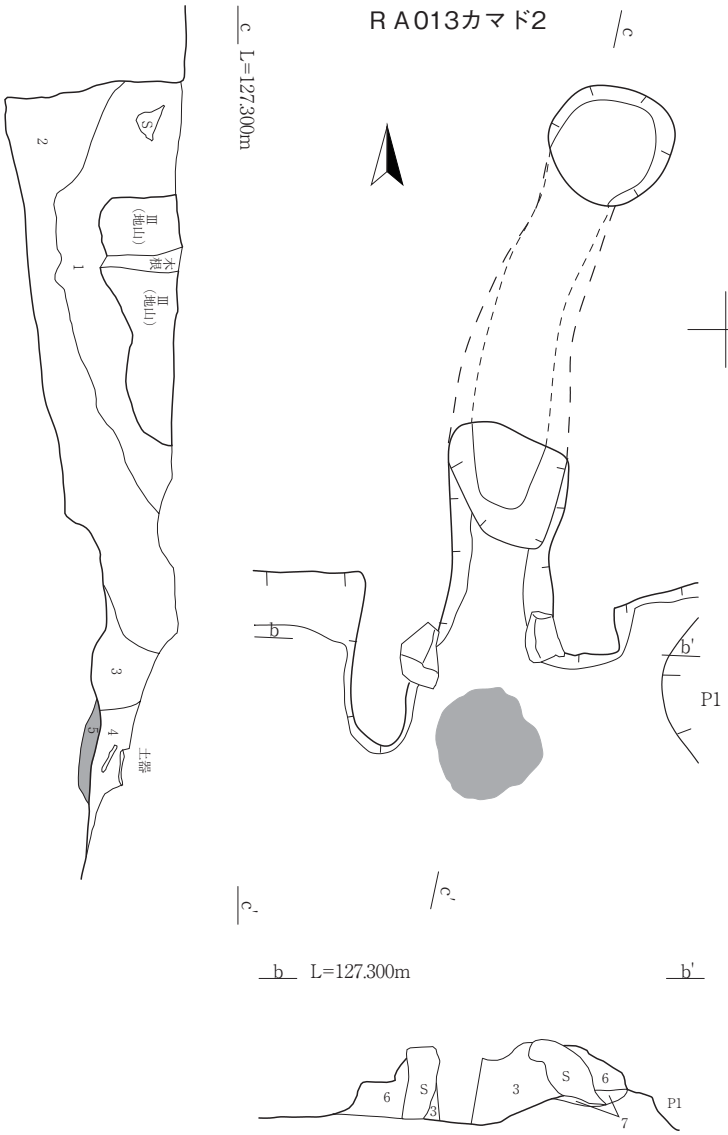


第17図　RA013（1）

ＲＡ013カマド1



ＲＡ013カマド2



ＲＡ013　断面a（カマド1）
1. 5YR3/6暗赤褐色　シルト　しまりやや強　粘性中
　焼けた煙道天井部が崩落したもの
2. 5YR2/1黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性中
　焼土粒少量
3. 10YR3/4暗褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強
　焼土粒少量、黒色土粒少量
4. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性やや弱
　焼土ブロック多量
5. 7.5YR3/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　焼土粒多量
6. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性やや弱
　焼土ブロック多量、黄褐色土粒少量
7. 7.5YR4/6褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強
　焼土ブロック多量　天井崩落土？
8. 10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強
9. 5YR3/4暗赤褐色　シルト　しまり強　粘性やや弱
　燃焼部焼土

ＲＡ013　断面b・c（カマド2）
1. 10YR2/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強
　黄褐色土ブロック少量
2. 10YR3/4暗褐色　シルト　しまりやや強　粘性強
　黄褐色土ブロック多量
3. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性やや弱
　焼土粒微量、黄褐色土粒微量
4. 10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強
　焼土粒多量
5. 5YR5/6明赤褐色　シルト　しまり堅　粘性弱
　燃焼部焼土
6. 10YR4/4褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　黒褐色土粒10%　カマド袖構築土
7. 10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　礫掘り方埋土

0　(1：20)　1m

第18図　RA013（2）

印が記されている。60 ～ 64 は i 類、65 ～ 67 は ii 類の土師器甕である。60 は主にカマド 2 から、61 はカマド 2 焼土直上から、62 は貼床から、65 は K1 から、66 は主にカマド 2 焼土直上から出土した。68 は A 類、69・70 は B 類の須恵器坏である。69 は主にカマド 2 焼土直上から出土した。71 は須恵器大甕である。

時期　平安時代（10 世紀前半）と推定される。（川又・北村）

RA014 竪穴住居跡（SI03）

遺構（第 19 図、写真図版 15・16）

［位置・検出状況］23C 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。東壁は調査区外にある。重複する遺構はないが、壁の一部を撹乱に切られる。

［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形と推定される。規模は、南北方向が 420cm、東西方向は確認できた長さが 424cmである。床面は概ね平坦であり、壁は外傾する。検出面から床面までの深さは 32cmである。貼床は、床面のほぼ全体に施される。

［カマド］確認していない。東側調査区外にあるものと推定される。

［付属施設］Pit10 個（K1･P2 ～ 10）を確認した。P2 ～ 10 は柱穴と推定されるが、配置に規則性はない。

［埋土］6 層に細分した。黒褐色～黒色土が主体である。床面上に、炭化材が多く出土した（炭 1 ～ 11）。

遺物（第 81 ～ 85 図、写真図版 58 ～ 60）

［土器］11913.5g（土師器 7469.0g、須恵器 4444.5g）出土した。掲載遺物は土師器 18 点、土師器高台付坏 2 点、土師器鉢 1 点、土師器甕 9 点、須恵器坏 1 点、須恵器大甕 3 点、須恵器壺 5 点である。72・77・78・80・82 はⅠB 類、73・74・76・83 ～ 85 はⅠC 類、75 はⅠE 類、79 はⅠ類、81 はⅠD 類、86・87 はⅡC 類、88・89 はⅢB 類の土師器坏である。72 ～ 75・86 は主に K1 から、77 は P5 から出土したものである。77 の底部外面には「×」印が記されている。90 はⅠC 類、91 はⅡB 類の高台付坏である。90 は K1 から出土した。92 はⅠ類の土師器鉢である。主に K1 から出土した。93 は i 類、94 ～ 101 は ii 類の土師器甕である。93 ～ 95 は主に K1 から出土したものである。102 は須恵器坏である。103 ～ 105 は須恵器大甕である。106 ～ 110 は須恵器壺である。

［石器類］掲載遺物は磨石 1 点である。111 は埋土下位から出土した安山岩製の磨石である。使用面は 1 面である。

［その他］鉄製品 2 点が出土した。112 は床面から出土したほぼ完形の鋤先である。113 は紡錘車である。軸部は両端とも欠損している。

時期　平安時代（10 世紀前半）と推定される。（川又・北村）

RA015 竪穴住居跡（SI04）

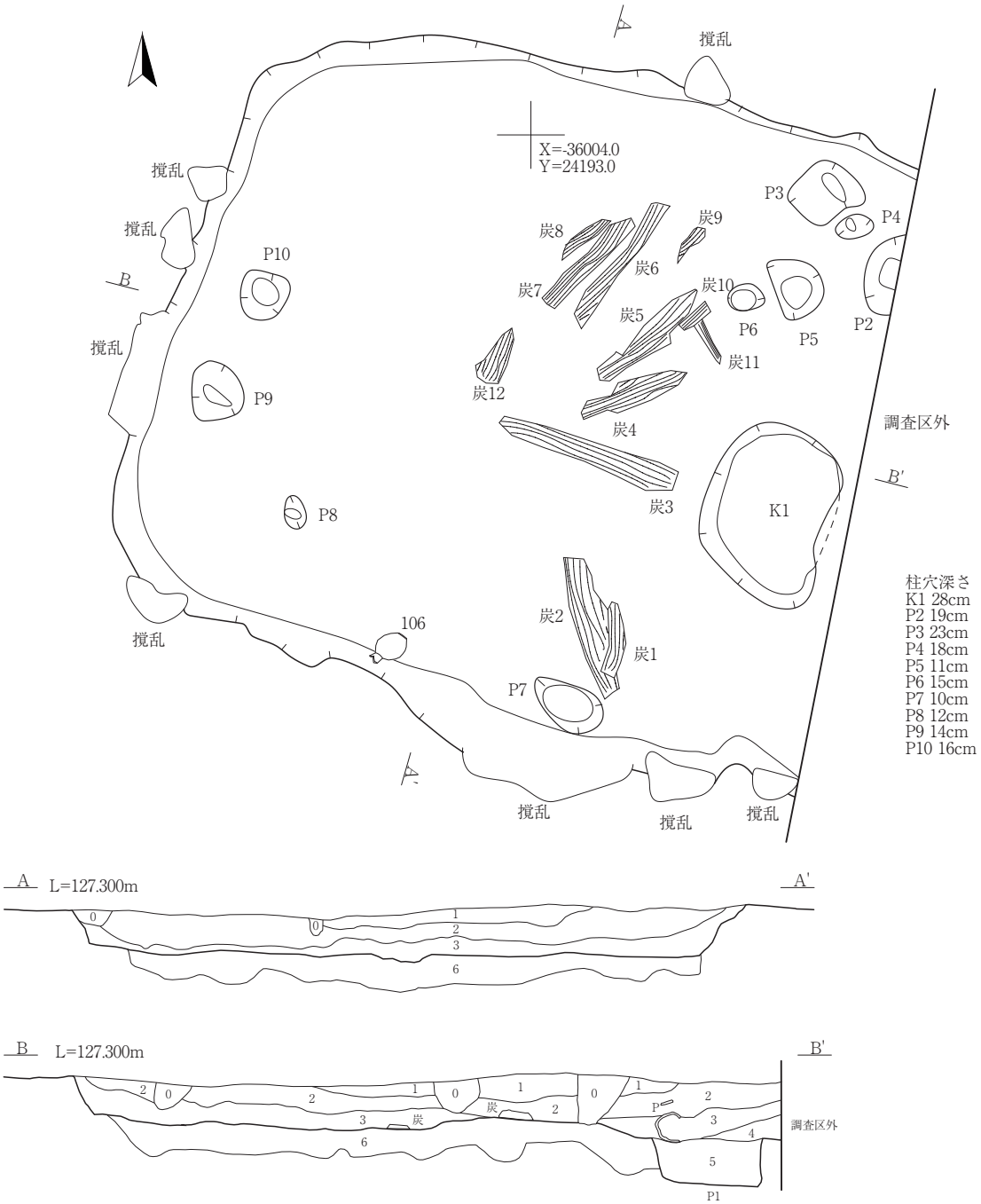
遺構（第 20 図、写真図版 17）

［位置・検出状況］23B 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。東壁は調査区外にある。重複する遺構はない。

［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形と推定される。規模は、南北方向が 562cm、東西方向は確認できた長さが 288cmである。床面は概ね平坦であり、壁は外傾する。検出面から床面までの深さは 32cmである。貼床は、床面の一部に施される。

［カマド］確認していない。東側調査区外にあるものと推定される。

R A014

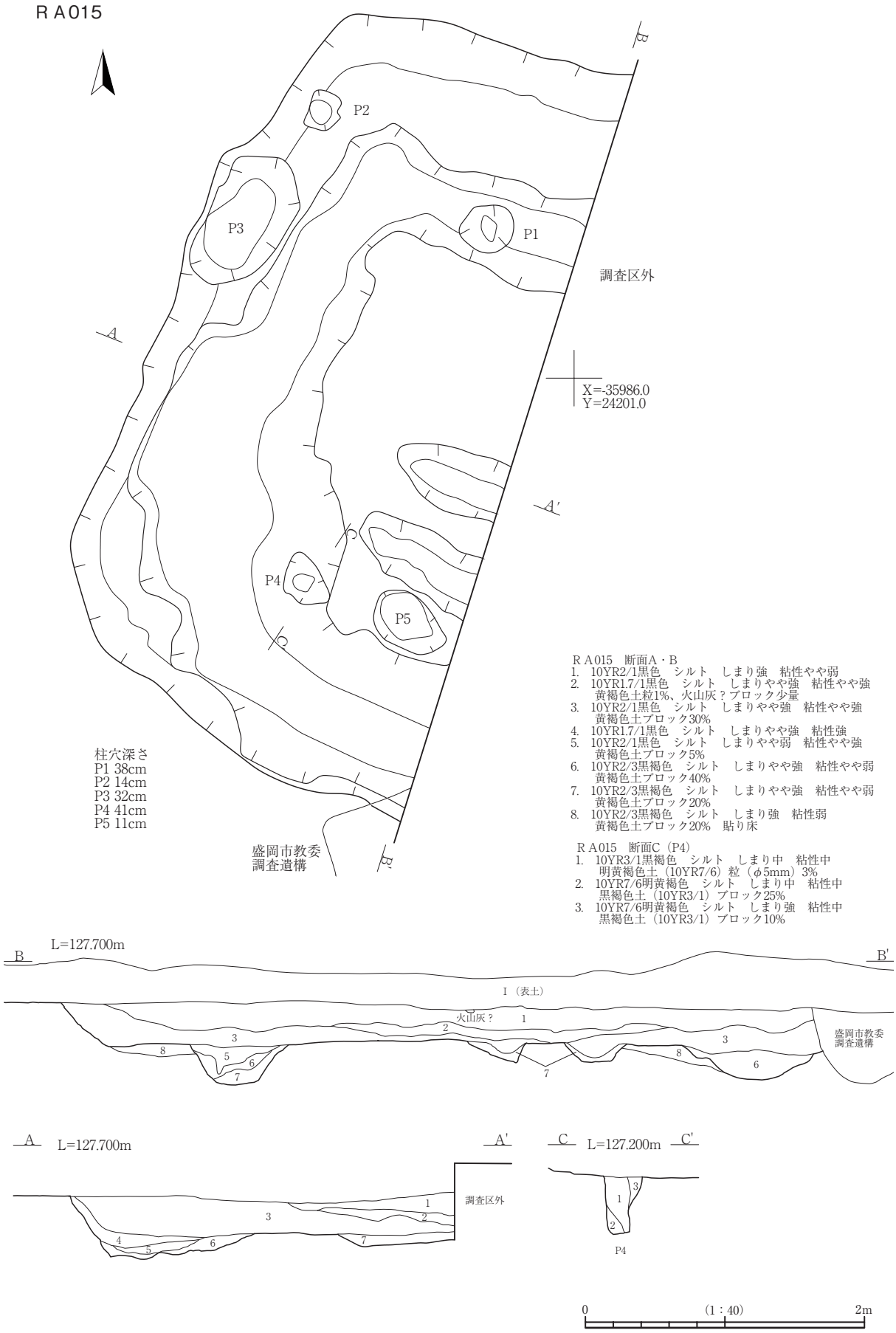


柱穴深さ
K1 28cm
P2 19cm
P3 23cm
P4 18cm
P5 11cm
P6 15cm
P7 10cm
P8 12cm
P9 14cm
P10 16cm

R A014　断面A・B
0.　撹乱
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性やや弱
2.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物粒微量、黄褐色土粒多量
3.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　焼土粒少量、炭化物粒多量、黄褐色土粒少量
4.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強
5.　10YR3/1黒褐色　シルト　しまり中　粘性中　炭化物粒10%、黄褐色土粒（φ5mm）5%、黄褐色土ブロック（φ25mm）15%　P1埋土
6.　10YR4/6褐色　シルト　しまり強　粘性強　黒褐色土粒多量　貼り床

0　(1：40)　2m

第19図　RA014

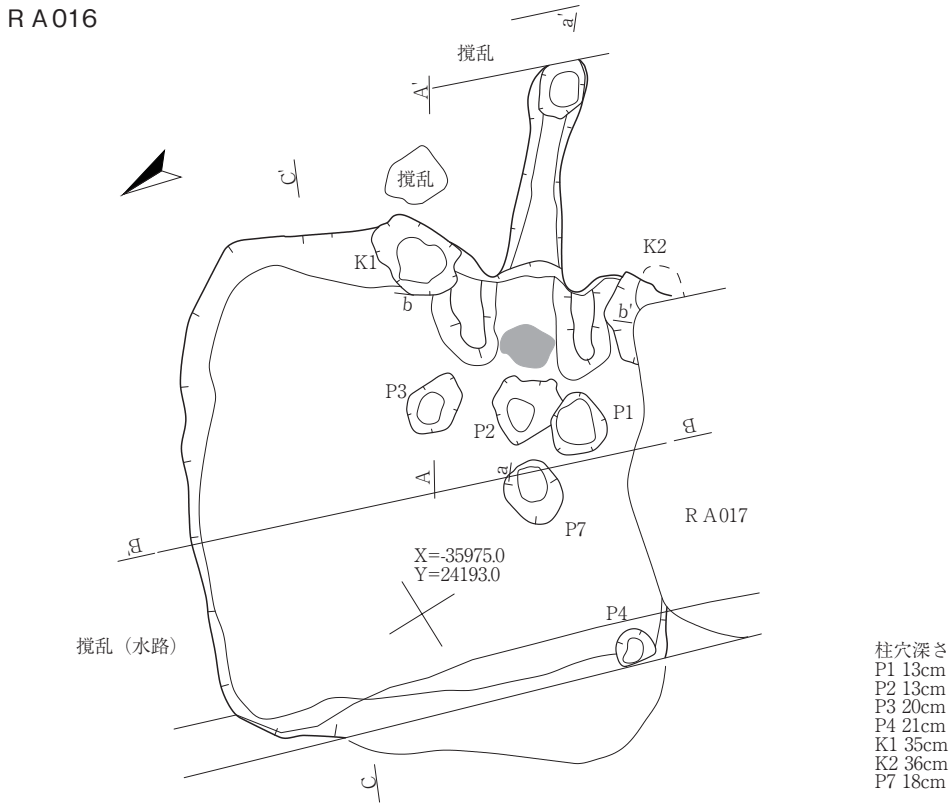

R A015
P1
P2
P3
P4
P5
調査区外
X=-35986.0
Y=24201.0
A
A'
B
B'
C
C'
柱穴深さ
P1 38cm
P2 14cm
P3 32cm
P4 41cm
P5 11cm
盛岡市教委
調査遺構
R A015　断面A・B
1.　10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性やや弱
2.　10YR1.7/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性やや強
黄褐色土粒1%、火山灰？ブロック少量
3.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性やや強
黄褐色土ブロック30%
4.　10YR1.7/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性強
5.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強
黄褐色土ブロック5%
6.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱
黄褐色土ブロック40%
7.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱
黄褐色土ブロック20%
8.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまり強　粘性弱
黄褐色土ブロック20%　貼り床
R A015　断面C（P4）
1.　10YR3/1黒褐色　シルト　しまり中　粘性中
明黄褐色土（10YR7/6）粒（φ5mm）3%
2.　10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり中　粘性中
黒褐色土（10YR3/1）ブロック25%
3.　10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
黒褐色土（10YR3/1）ブロック10%
L=127.700m
I（表土）
火山灰？
盛岡市教委
調査遺構
L=127.700m
調査区外
L=127.200m
P4
0
(1：40)
2m

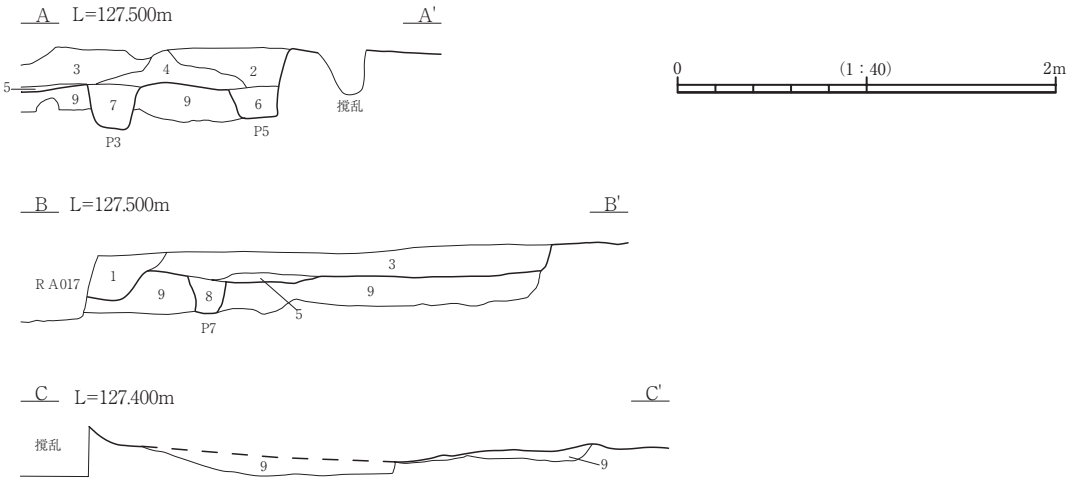
第20図　RA015

［付属施設］Pit5 個（P1 ～ 5）を確認した。P1 と P4 は対称的な位置関係にあり、建物の主柱穴と考えられる。溝 3 条を確認した。溝 1 は、竪穴部の壁に沿うような形で内側を巡る。溝 2・3 は、溝 1 の内側に平行する。
［埋土］8 層に細分した。黒色土を主体とする。
遺物（第 85・86 図、写真図版 60）
［土器］2314.5g（土師器 1920.7g、須恵器 393.8g）出土した。掲載遺物は土師器坏 4 点、土師器甕 4 点、須恵器坏 8 点、須恵器大甕 1 点である。114 はⅠ C 類、115 はⅠ B 類、116 はⅠ類、117 はⅡ B 類の土師器坏である。118 は i 類、119 ～ 121 は ii 類の土師器甕である。119 は床溝から、120 は床面から出土した。122・127 は細分ができなかった、123・124・126 は B 類、125・128 は C 類の須恵器坏である。122 ～ 124 は主に床面から、125 は主に床溝から出土した。130 は須恵器大甕である。
時期　平安時代（10 世紀前半）と推定される。　（川又・北村）

RA016 竪穴住居跡（SI05）
遺構（第 21・22 図、写真図版 18）
［位置・検出状況］23B 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。精査は 2 段階に分けて行い、1 回目は B 断面より東側の部分、2 回目で西側の部分の精査を行った。RA017 に南壁を切られる。煙出し Pit の一部を撹乱に切られる。
［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形と推定される。規模は、東西方向が 265㎝、南北方向が 240㎝である。床面は概ね平坦で、壁はやや外傾する。検出面から床面までの深さは 20㎝である。貼床は、床面のほぼ全体に施される。
［カマド］東壁の南寄りに位置する。煙道部は掘り込み式であり、軸方向が E40° S で、東壁に対しほぼ直交する。煙出しに向かって下がり、先端部までの長さは 105㎝である。燃焼部焼土は、29 × 22㎝の範囲で、焼成深度は 2㎝である。袖は燃焼部の両側に残存する。
［付属施設］Pit7 個を確認した。P4 以外はカマドを囲むような位置にある。
［埋土］9 層に細分した。黒褐色土を主体とする。
遺物（第 86・87 図、写真図版 61）
［土器］970.4g（土師器 663.3g、須恵器 307.1g）出土した。掲載遺物は土師器坏 3 点、土師器高台付坏 1 点、土師器甕 3 点、須恵器大甕 1 点である。131 はⅠ A 類、132 はⅠ C 類、133 はⅢ類の土師器坏である。131 は煙出しから、132 は主にカマド燃焼部上から出土したものである。134 はⅠ類の土師器高台付坏である。K1 から出土したものである。135・137 は i 類、136 は ii 類の土師器甕である。136 はカマド燃焼部上から、137 は床面から出土したものである。138 は須恵器大甕である。
　上記の他に本遺構と重複している RA017 から出土したものが接合した資料が 2 点（土師器坏 1 点、土師器甕 1 点）ある。本遺構に含めて報告する。139 はⅠ類の土師器坏である 140 は i 類の土師器甕である。140 は RA017 の床面から出土しており、RA017 に帰属する可能性を含んでいる。
時期　平安時代（10 世紀前半）と推定される。　（川又・北村）

RA017 竪穴住居跡（SI05B）
遺構（第 23・24 図、写真図版 19）
［位置・検出状況］23B 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。精査は 2 段階に分けて行い、1 回目は B 断面より東側の部分、2 回目で西側の部分の精査を行った。RA016 を切る。また、第 2 次調査の範

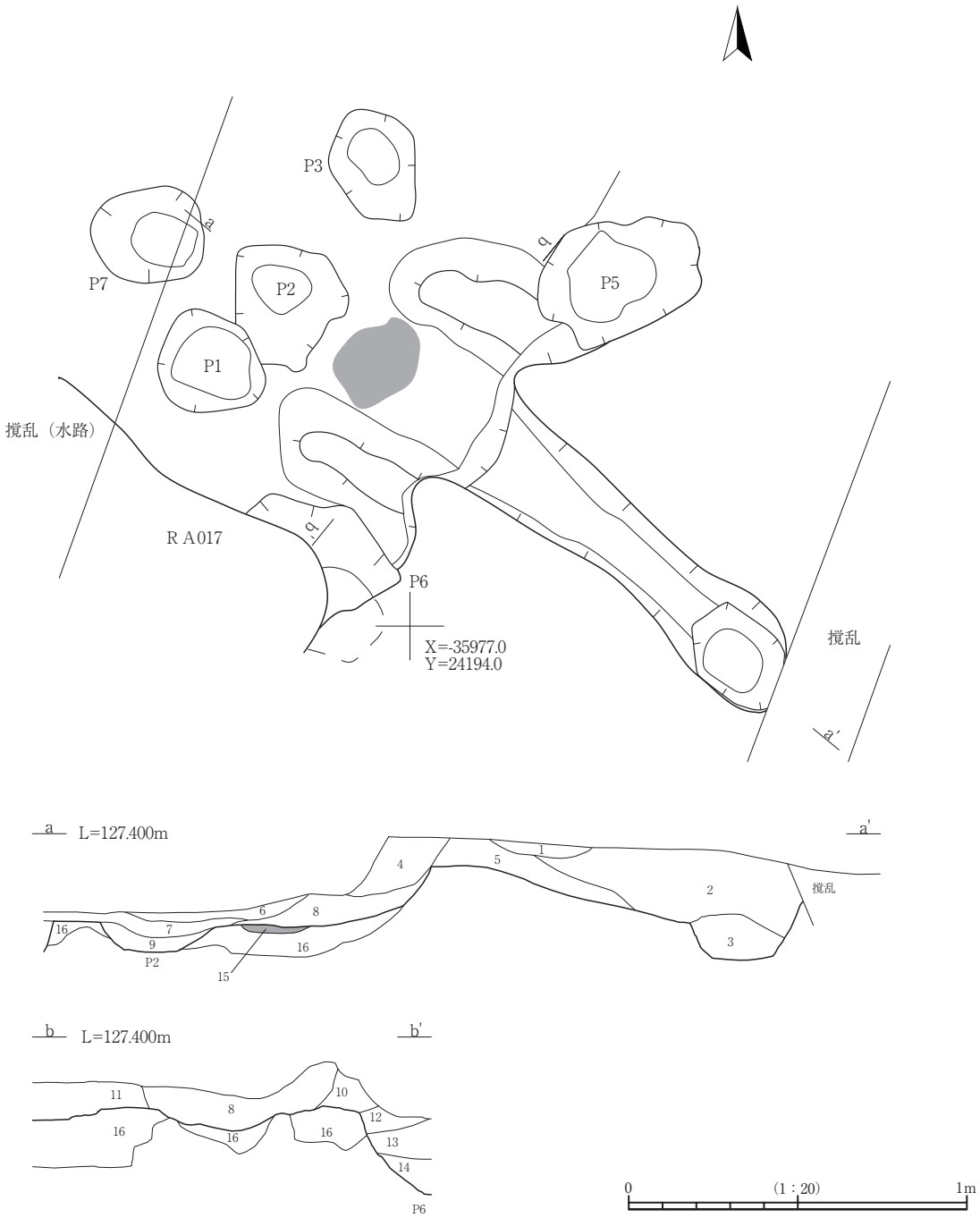




R A016　断面A・B・C
1. 10YR2/1黒色　シルト　しまり堅　粘性やや弱　黄褐色土ブロック50%
2. 10YR2/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色土ブロック1%
3. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色土粒20%
4. 10YR2/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　黄褐色土粒5%
5. 10YR1.7/1黒色　シルト　しまり堅　粘性強
6. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまり中　粘性中　黄褐色土粒15%
P5埋土
7. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまり中　粘性中　黄褐色土粒3%、黄褐色土ブロック15%
P3埋土
8. 2.5YR3/4暗赤褐色　シルト　しまり中　粘性中　黒色土粒5%
新P7埋土
9. 10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性弱　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ1～15mm）3%
貼り床

第21図　RA016（1）

ＲＡ016カマド



ＲＡ016カマド　断面a・b
1.　10YR2/1黒色　シルト　しまり弱　粘性やや弱
2.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　焼土ブロック5%、黄褐色土ブロック5%
3.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱
4.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　焼土ブロック1%
5.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　焼土粒5%、黄褐色土粒1%
6.　10YR4/4褐色　シルト　しまりやや強　粘性強　焼土粒5%、黒褐色土粒5%
7.　10YR2/1黒色　シルト　しまり弱　粘性強　焼土粒1%、炭化物粒1%
8.　10YR3/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　焼土ブロック30%
9.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　焼土粒1%、黄褐色土粒10%
　P2埋土
10.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　焼土粒1%、黄褐色ブロック5%
11.　10YR3/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　焼土粒1%
12.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色土粒1%
13.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　黄褐色土粒5%
14.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性強　黄褐色土粒1%
　P6埋土
15.　2.5YR4/6赤褐色　シルト　しまり中　粘性中
　燃焼部焼土
16.　10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性弱　明黄褐色土ブロック3%
　貼り床

第22図　RA016（2）

囲内でRA003との重複が確認されており、本遺構が新しいと判断されている。煙道部の大部分は第2次調査区内に存在するが、竪穴住居と認識されていないため、詳細は不明である。

［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形と推定される。規模は、南北方向が214cm、東西方向が186cmである。床面は概ね平坦で、壁はやや外傾するが直立に近い。検出面から床面までの深さは46cmである。貼床は確認されなかった。

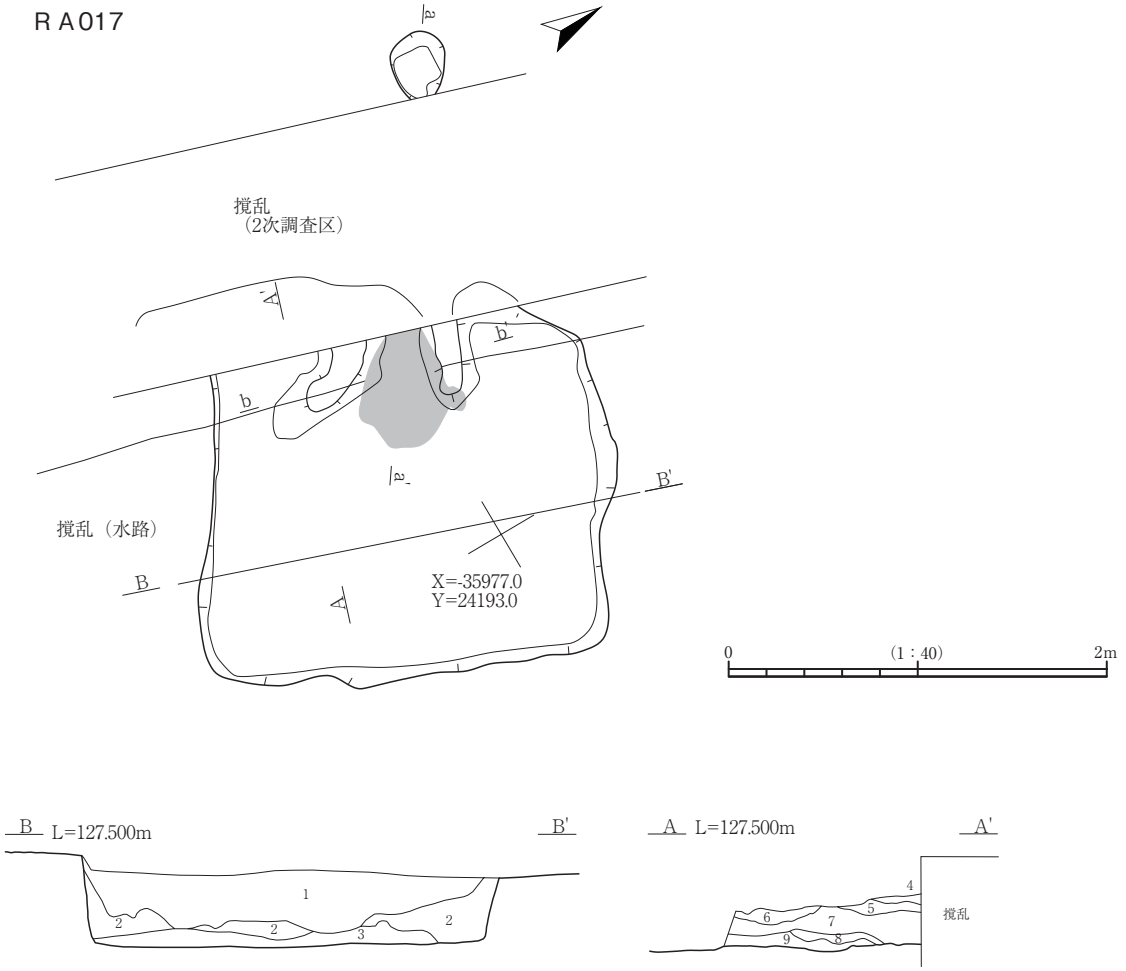
［カマド］西壁の中央に位置する。煙道部は軸方向がW32°N付近と推定され、煙出しPitの深さは50cmである。燃焼部焼土は、60×55cmの範囲で、焼成深度は5cmである。袖は地山土を削り出したもので、燃焼部の北側の方が高く残存する。

［付属施設］なし。

［埋土］9層に細分した。黒色土を主体とする。

遺物（第87・88図、写真図版61）

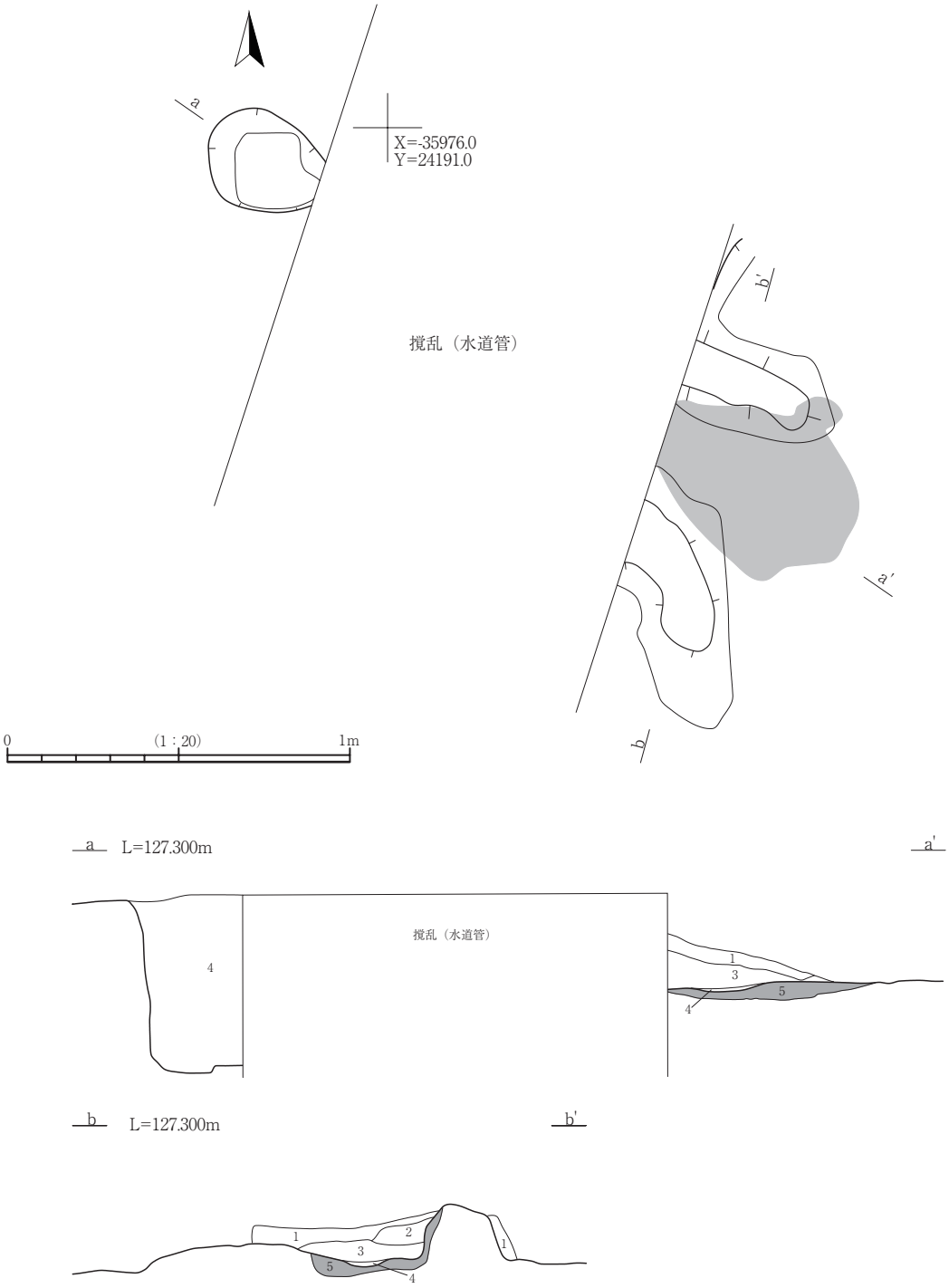
［土器］1892.6g（土師器1847.5g、須恵器45.1g）出土した。掲載遺物は土師器坏5点、土師器甕2点、



RA017　断面A・B
1.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強　黄褐色土ブロック30%
2.　10YR1.7/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性強　黄褐色土ブロック1%
3.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　黄褐色土ブロック30%
4.　10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中
5.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性中　黄橙色土（10YR8/6）ブロック（φ20mm）10%
6.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中　黄橙色土（10YR8/6）ブロック（φ5mm）5%
7.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性中　黄橙色土（10YR8/6）ブロック（φ20mm）15%
8.　10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中　黄橙色土（10YR8/6）ブロック（φ5mm）3%
9.　10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中　黄橙色土（10YR8/6）ブロック（φ20mm）20%

第23図　RA017（1）

ＲＡ017カマド



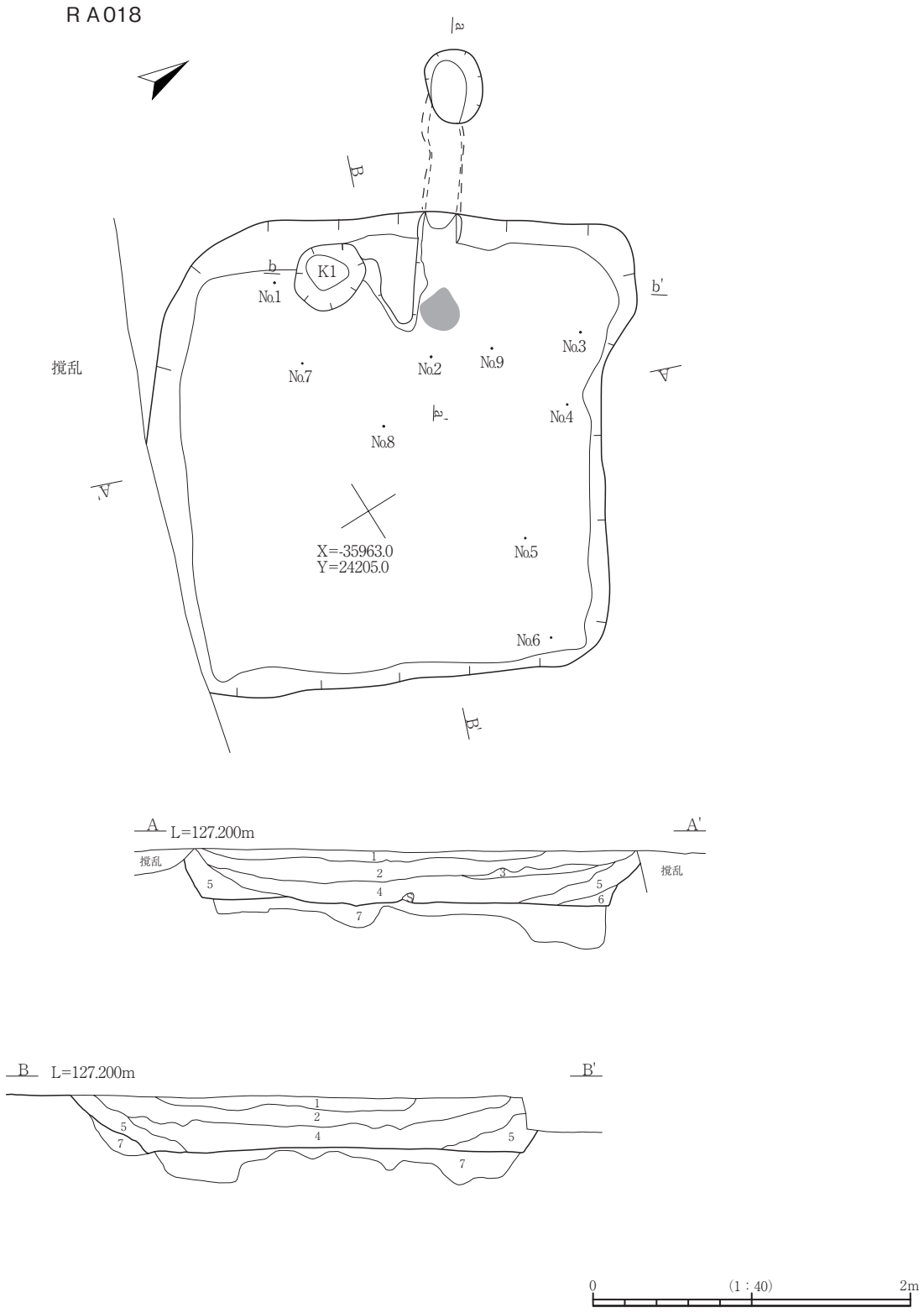
ＲＡ017カマド　断面a・b
1.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまり強　粘性中　黄橙色土（10YR8/6）ブロック（φ10～25mm）3%
2.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり中　粘性中　黄橙色土（10YR8/6）ブロック（φ10～30mm）10%
3.　10YR6/6明黄褐色　粘土質シルト　しまり強　粘性中
4.　7.5YR3/1黒褐色　シルト　しまり中　粘性中　焼土粒（φ5～10mm）5%、炭化物粒（φ10～15mm）3%
5.　2.5YR5/4にぶい赤褐色　シルト　しまり中　粘性中　褐灰色土（10YR4/1）5%、炭化物粒3%　燃焼部焼土

第24図　RA017（2）

須恵器坏２点である。141 ～ 143 はⅠＡ類、144・145 はⅡＢ類の土師器坏である。141・142・144・145 は床面から出土したものである。146・147 はⅱ類の土師器甕である。２点とも主に床面から出土したものである。147 は体部外面に「生 ?」が記されている。148 はＢ類、149 は細分ができなかった須恵器坏である。２点とも主に床面から出土したものである。
［その他］なし。
時期　平安時代（10 世紀前半）と推定される。　（川又・北村）

RA018 竪穴住居跡（SI06）
遺構（第 25・26 図、写真図版 20）
［位置・検出状況］23B 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、南壁の一部を撹乱に切られる。
［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形で、北西隅がやや歪に広がる。規模は、南北方向が 288cm、東西方向が 298cmである。床面は概ね平坦で、壁は外傾する。検出面から床面までの深さは 34cmである。貼床は、床面のほぼ全体に施される。
［カマド］西壁のほぼ中央に位置する。煙道部は刳り抜き式であるが、天井の一部が崩落している。軸方向は W35° N で、西壁に対しほぼ直交する。煙出しに向かって下がり、先端部までの長さは 102 cmである。燃焼部焼土は 27 × 24cmの範囲で、焼成深度は 3cmである。袖は燃焼部の南側のみ僅かに残存する。北側にも地山を多く含む土の高まり（カマド９・10 層）を確認したが、10 層の下位には混入物の多い層（12 層）があり、北袖は崩壊もしくは破壊されたものと判断した。
［付属施設］Pit1 個（P1）を確認した。
［埋土］７層に細分した。黒褐色土を主体とする。
遺物（第 88 ～ 90 図、写真図版 62）
［土器］1853.5g（土師器 658.9g、須恵器 1194.6g）出土した。掲載遺物は土師器坏４点、土師器甕２点、須恵器坏５点、須恵器大甕１点である。150 はⅠＢ類、151 はⅡＢ類、152 はⅡ類、153 はⅡＣ類の土師器坏である。150 は主に床面から、151 は煙出し底部から出土した。154 はⅰ類、155 はⅱ類の土師器甕である。156・157 はＢ類、158 ～ 160 は細分ができなかった須恵器坏である。156・157 は主に床面から、158 は貼床から出土した。161 は須恵器大甕である。主に床面から出土した。
［石器類］掲載遺物は磨石２点、敲石１点である。162・163 は床面から出土したもので、162 はデイサイト製、163 は安山岩製の磨石である。162 の使用面は３面、163 の使用面は４面である。164 は埋土中から出土した細粒閃緑岩製の敲石である。凹石としても使用され、表裏面に凹部、一端と一側面に敲打痕が確認できる。
［その他］なし。
時期　平安時代（10 世紀前半）と推定される。　（川又・北村）

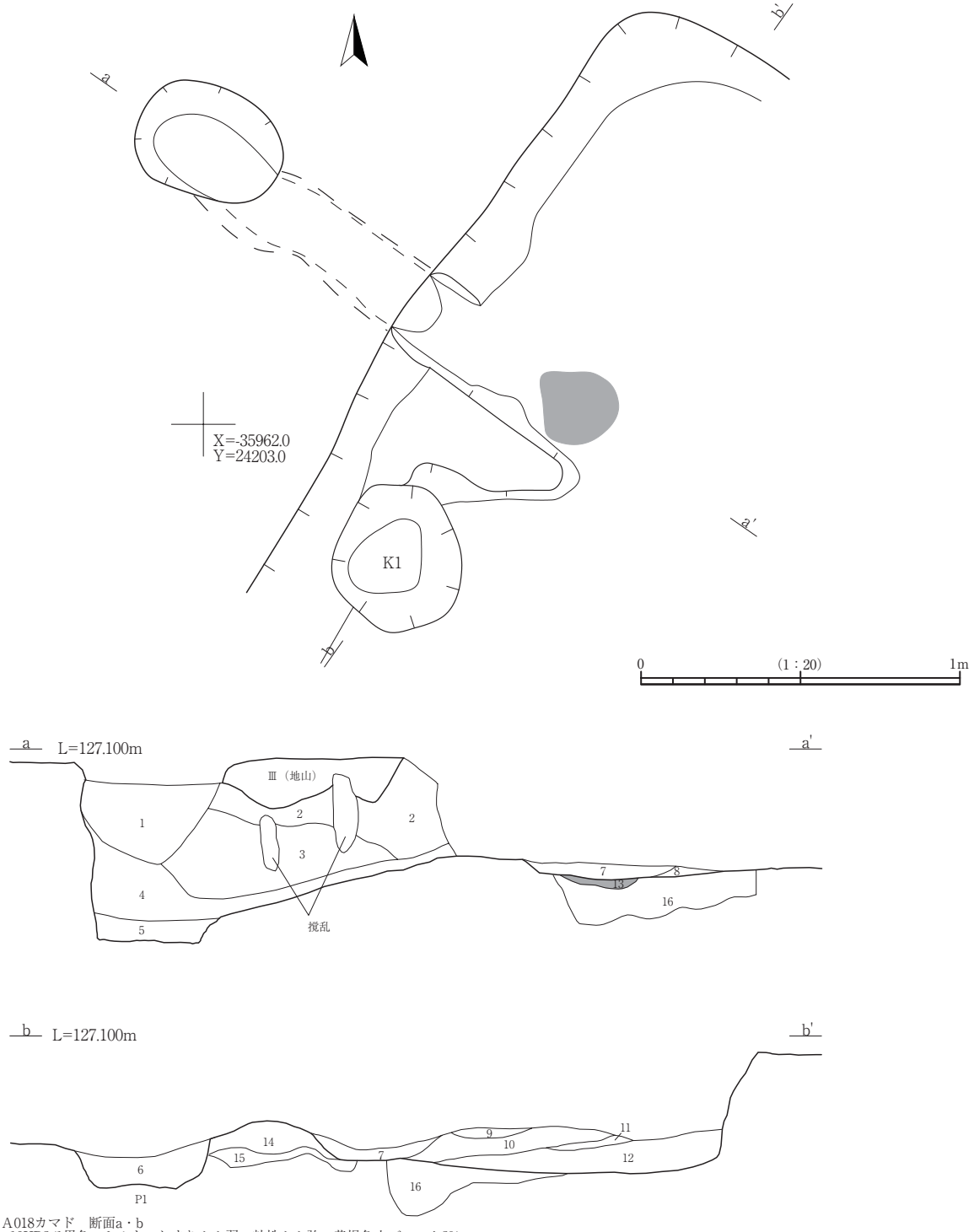
RA019 竪穴住居跡（SI07）
遺構（第 27・28 図、写真図版 21）
［位置･検出状況］23B 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。精査は２段階に分けて行い､1 回目で東側、2 回目で西壁付近の精査を行った。重複する遺構はないが、煙道部は撹乱に削平され、全体的に遺構の上位が削平を受けている。
［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形である。規模は、東西方向が 450cm、南北方向が 442cmであ



ＲＡ018　断面Ａ・Ｂ
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱
2.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色土粒10%
3.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性中　黄褐色土粒1%
4.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまり中　粘性中　焼土粒1%、黄褐色土ブロック20%
5.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性中　黄褐色土粒1%
6.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強　黄褐色土粒20%
7.　10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり中　粘性中　黒褐色土粒30%　貼り床

第25図　RA018（1）

ＲＡ018カマド

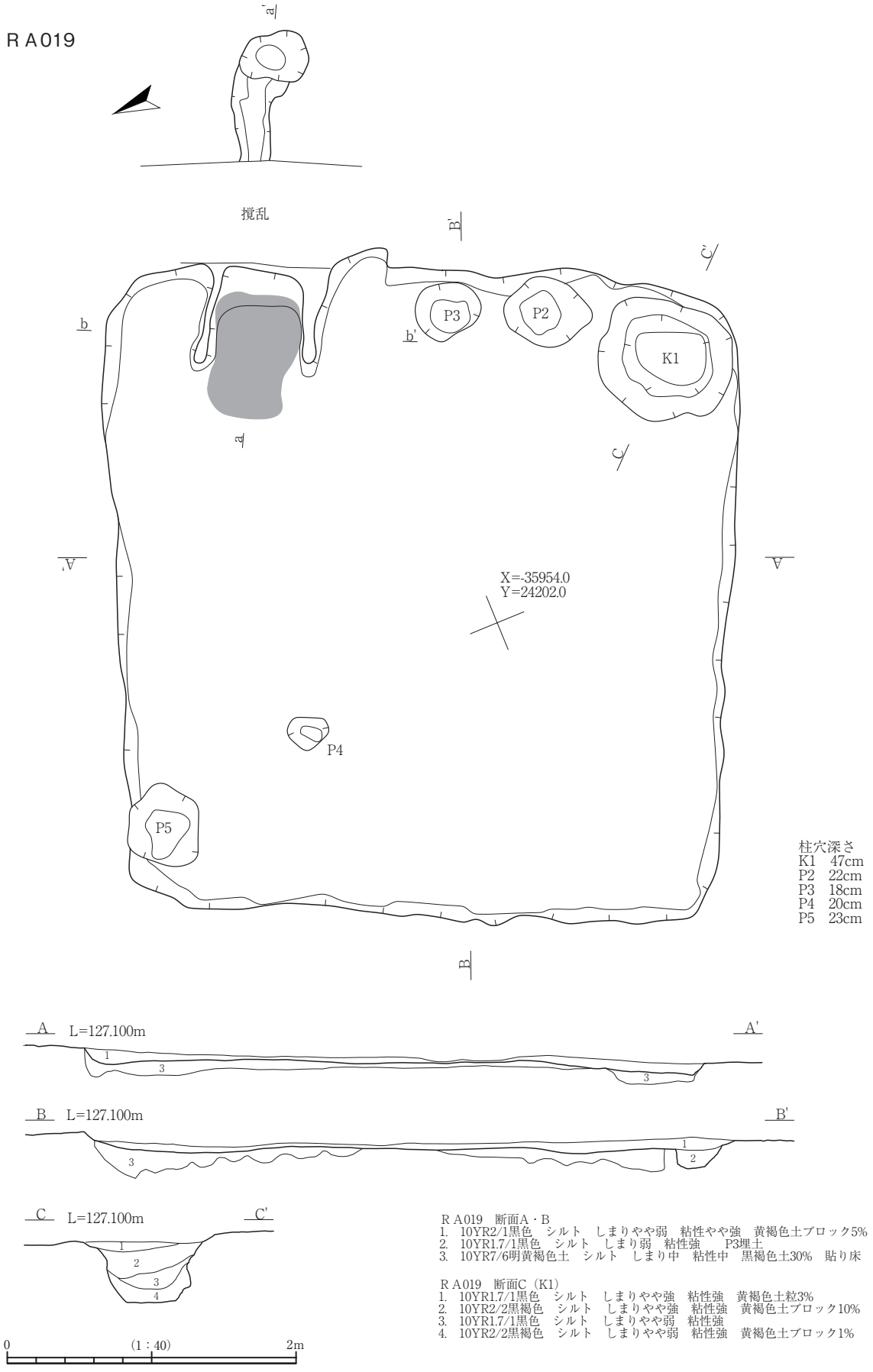


ＲＡ018カマド　断面a・b
1.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強　黄褐色土ブロック2%
2.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　黄褐色土ブロック10%
3.　10YR4/4褐色　シルト　しまりやや強　粘性中　黒褐色土粒1%　煙道天井崩落土
4.　10YR3/1黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性強　焼土粒1%、黄褐色土粒2%
5.　10YR3/4暗褐色　粘土質シルト　しまりやや弱　粘性強　黄褐色土粒1%
6.　7.5YR3/3暗褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　焼土ブロック5%、炭化物粒10%、黄褐色土粒5% P1埋土
7.　7.5YR4/4褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　焼土粒10%、炭化物粒1%
8.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり弱　粘性やや強　焼土粒1%、炭化物粒10%
9.　5YR3/4暗赤褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　焼土粒30%
10.　10YR3/4暗褐色　シルト　しまり強　粘性やや強　焼土粒1%、炭化物粒1%
11.　10YR1.7/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性強
12.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　焼土ブロック30%、炭化物粒10%
13.　5YR3/6暗赤褐色　シルト　しまり強　粘性やや弱　燃焼部焼土
14.　10YR4/4褐色　シルト　しまり強　粘性やや強　焼土粒1%、暗褐色土粒1%　カマド構築土
15.　10YR2/3暗褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　黄褐色砂ブロック5%　貼り床
16.　10YR1.7/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　黄褐色土ブロック50%　貼り床

第26図　RA018（2）

る。床面は概ね平坦で、壁は外傾する。検出面から床面までの深さは10cmである。貼床は、床面のほぼ全体に施される。
［カマド］東壁の北寄りに位置する。煙道部は削平を受け、底面付近のみ残存する。軸方向は、E27°Sで、東壁に対しほぼ直交する。煙出しに向かって下がり、先端部までの長さは167cmである。煙出しPitの深さは12cmである。燃焼部焼土は、85 × 58cmの範囲で、焼成深度は6cmである。袖は燃焼部の両側に残存する。
［付属施設］Pit5個（K1、P2 ～ 5）を確認した。
［埋土］3層に細分した。黒色土を主体とする。
遺物（第90図、写真図版62・63）
［土器］840.5g（土師器791.4g、須恵器49.1g）出土した。掲載遺物は土師器坏6点、須恵器坏1点である。165 ～ 167はⅠB類、168はⅠ類、169はⅡB類、170はⅡ類の土師器坏である。165・167・168・170は主にカマド燃焼部上から出土した。171は細分のできなかった須恵器坏である。
［石器］掲載遺物は磨石1点である。172は床面から出土したデイサイト製の磨石である。使用面は3面で、この他、平坦な広い面と一端に敲打痕が確認でき、敲石としても使用されている。
［その他］なし。
時期　平安時代（10世紀前半）と推定される。　（川又・北村）

RA020 竪穴住居跡（SI09）
遺構（第29・30図、写真図版22 ～ 24）
［位置･検出状況］23B区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。第11次調査では西側の1/3 ～ 1/4を調査し、残りの大部分を第12次調査で調査した。重複する遺構はないが、地下埋設物敷設や近年の掘削によって一部を壊されている。
［形状･規模］竪穴部の平面形は隅丸方形である。規模は、南北方向が557cm、東西方向が555cmである。Ⅲ層を掘り込み、Ⅲ層に起因する褐色シルトと黒色シルト（7層）の掘り方埋土を床材として、平坦な床面を構築している。壁は外傾する。検出面から床面までの深さは69cmである。
［カマド］西壁の中央から南寄りに位置する。煙道部は刳り貫き式である。軸方向がW11°Nで、西壁に対してほぼ直交する。煙出しに向かって下がり、先端部までの長さは211cmである。煙出しPitは、開口部55 × 54cm、深さ64cmで、底部の一部が開口部よりもやや外側へ膨らむ。燃焼部焼土は、59 × 56cmの範囲で焼成を受け、焼成深度は13cmである。袖は燃焼部焼土の両側に残存し、地山の削りだし部分を芯として、地山塊を含む黒褐色～暗褐色シルトで構築している。
［付属施設］南西隅で土坑2基を確認し、北側をK1、南側をK2とした。K1はK2より古いもので、地山と黒色シルトの混合土、黒色シルトで埋め戻されている。平面形は楕円形基調で、長辺64cm、短辺54cm、深さは43cmである。西側の底面は開口部よりも外側へ膨らんでいる。K2はK1を埋め戻して構築している。平面形は楕円形基調で、長辺73cm、短辺51cm、深さは42cmである。地山塊を含む黒褐色シルトの単層である。この他4個のPitを確認した。P1・P3は形状や配置から主柱穴の可能性が想定される。北側は床面まで撹乱の影響が及んでおり、柱穴の有無を確認できなかった。P1 ～ P3の埋土は黒褐色シルト主体である。P4は貼床（7層）に覆われたPitで、竪穴部のほぼ中央に位置する。焼土塊を含む地山に起因する褐色シルトと黒色シルトの混合層の単層で、人為堆積である。東側を地下埋設物敷設によって壊されており、詳細な規模は不明である。深さは最大で25cmである。
［埋土］第11次調査では3層、第12次調査では6層に細分した。西側上部から東側は黒色シルトを

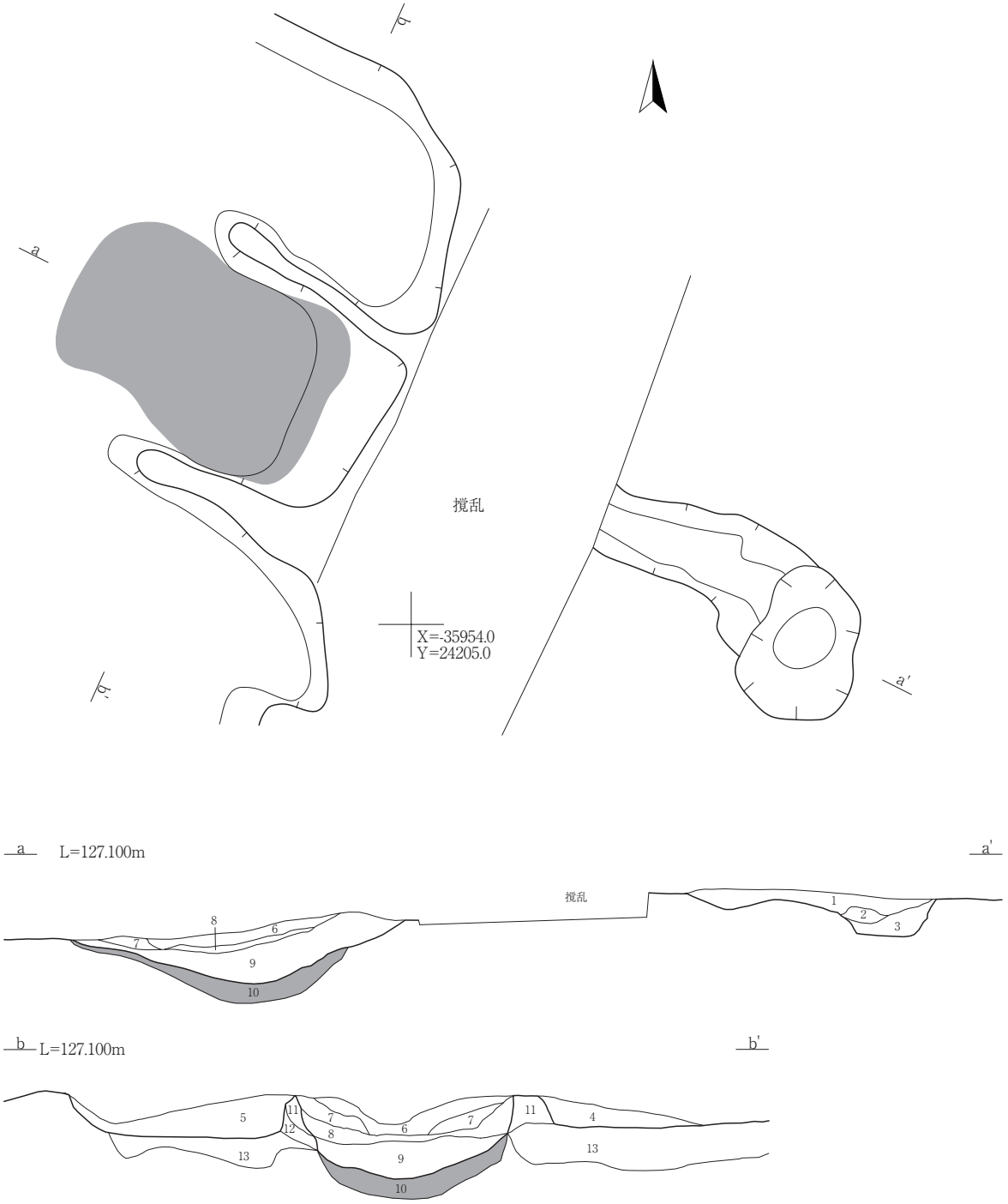


R A019　断面A・B
1.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強　黄褐色土ブロック5%
2.　10YR1.7/1黒色　シルト　しまり弱　粘性強　　P3埋土
3.　10YR7/6明黄褐色土　シルト　しまり中　粘性中　黒褐色土30%　貼り床

R A019　断面C（K1）
1.　10YR1.7/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性強　黄褐色土粒3%
2.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性強　黄褐色土ブロック10%
3.　10YR1.7/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性強
4.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性強　黄褐色土ブロック1%

第27図　RA019（1）

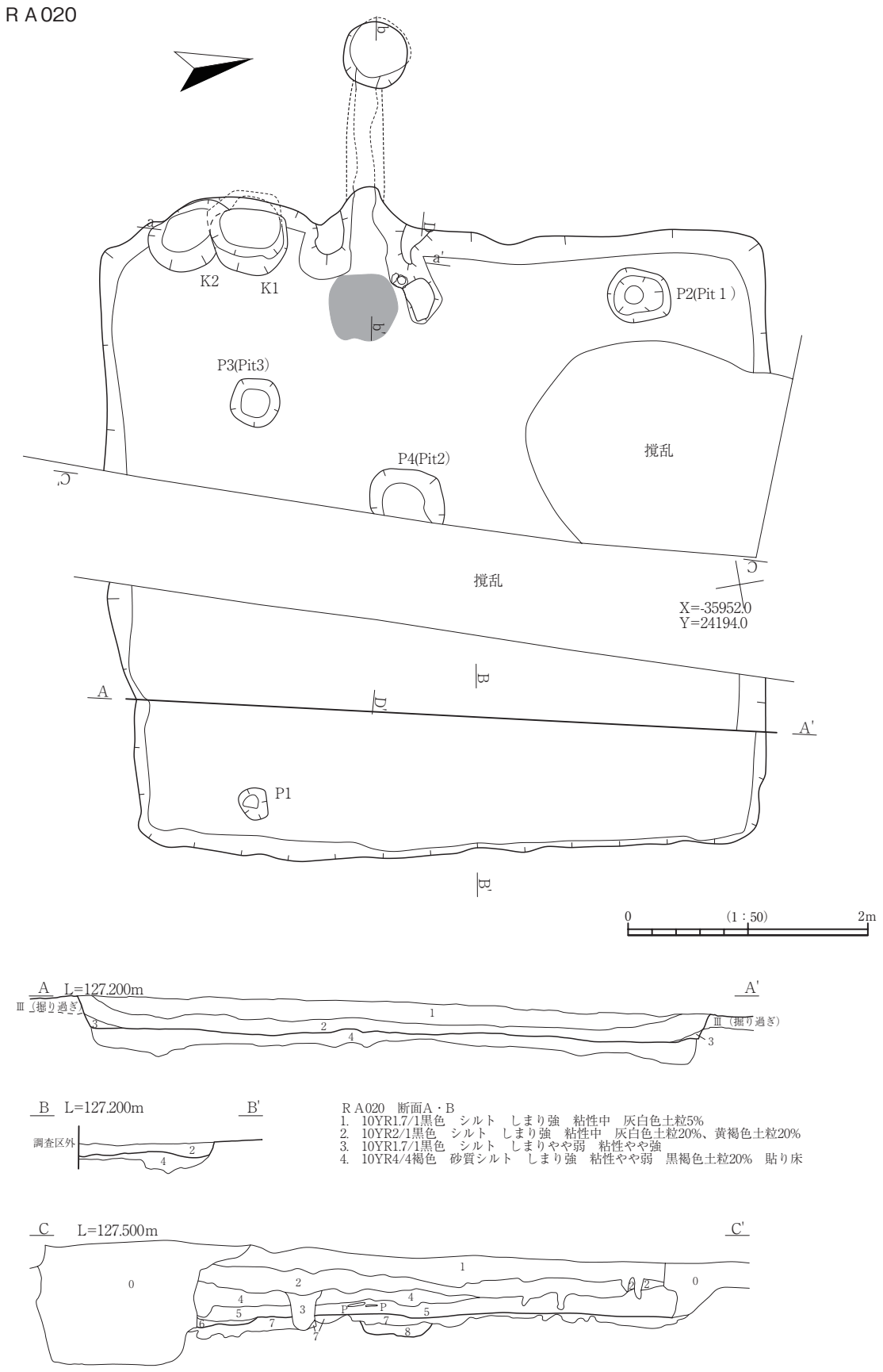
ＲＡ019カマド



ＲＡ019カマド　断面a・b
1.　5YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性中　焼土粒1%
2.　5YR3/6暗赤褐色　シルト　しまり中　粘性中　焼土のブロック？
3.　5YR2/1黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　焼土粒1%、炭化物粒1%
4.　5YR2/1黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱
5.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　焼土粒5%、炭化物粒5%、砂粒5%
6.　10YR4/3にぶい黄褐色　砂　しまり弱　粘性なし　焼土粒1%、炭化物粒1%
7.　5YR3/6暗赤褐色　砂　しまり弱　粘性なし
8.　10YR3/3暗褐色　砂質シルト　しまり弱　粘性弱　炭化物50%
9.　5YR2/3極暗赤褐色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強
　焼土ブロック30%、炭化物粒5%、焼成粘土ブロック20%
10.　5YR4/8赤褐色　砂質シルト　しまり強　粘性なし　燃焼部焼土
11.　10YR3/4暗褐色　砂質シルト　しまり弱　粘性弱　袖構築土
12.　10YR3/4暗褐色　砂質シルト　しまり強　粘性弱　袖構築土
13.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまり堅　粘性弱　貼り床

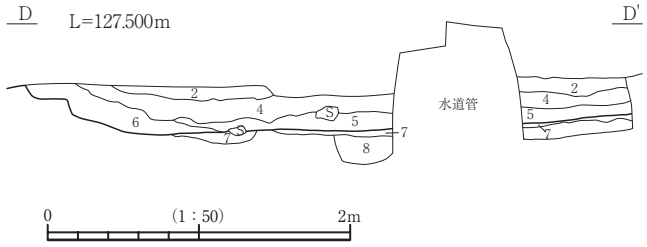
0　(1：20)　1m

第28図　RA019（2）



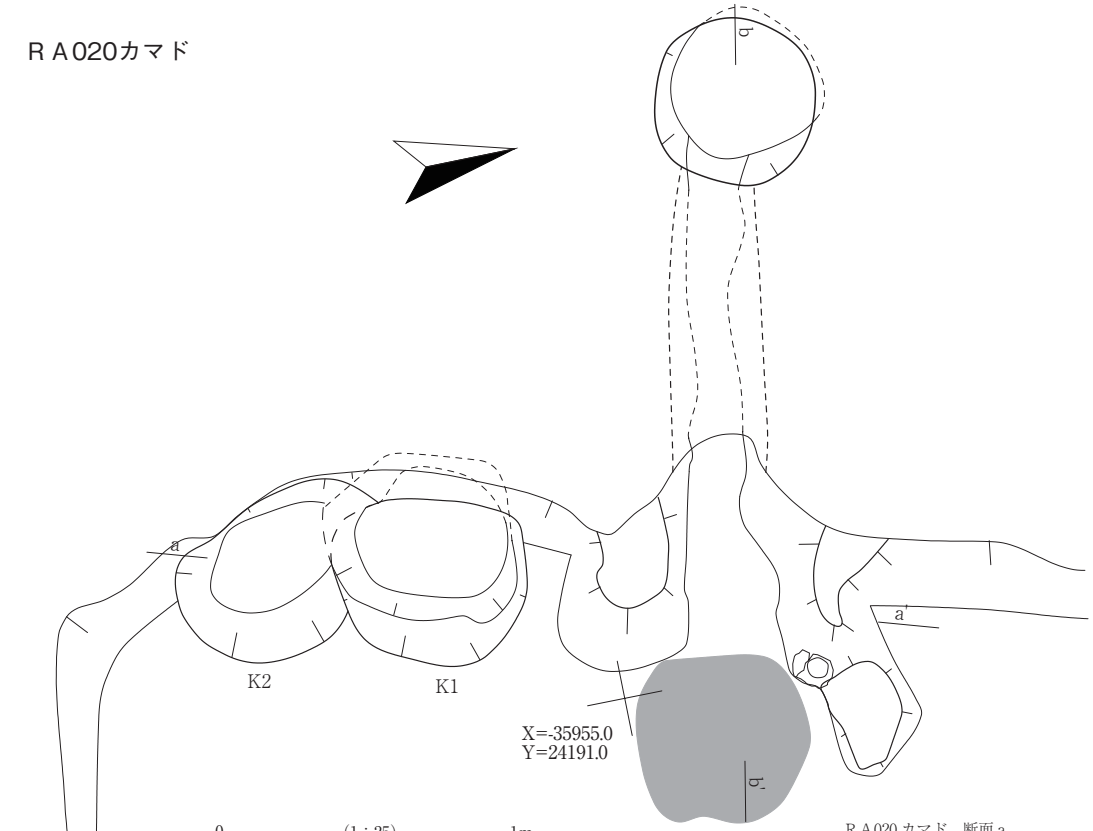
ＲＡ020　断面Ａ・Ｂ
1.　10YR1.7/1黒色　シルト　しまり強　粘性中　灰白色土粒5%
2.　10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中　灰白色土粒20%、黄褐色土粒20%
3.　10YR1.7/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強
4.　10YR4/4褐色　砂質シルト　しまり強　粘性やや弱　黒褐色土粒20%　貼り床

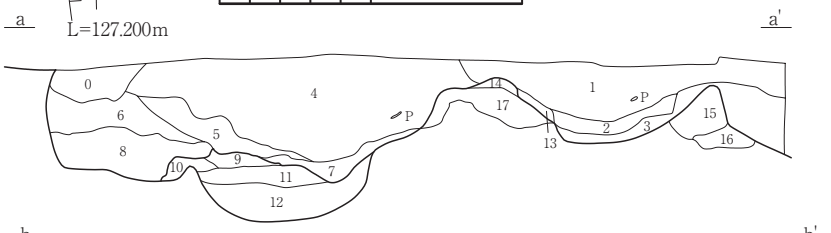
第29図　RA020（1）



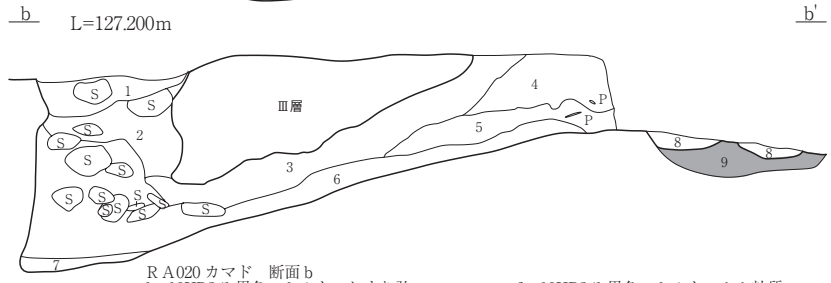
ＲＡ020　断面Ｃ・Ｄ
0. 撹乱
1. 10YR2/1 黒色　シルト　木・礫等雑物多い
2. 10YR2/1 黒色　シルト　しまり強　やや粘質
3. 10YR2/1 黒色　粘質シルト　地山Ｂ多量に含む
4. 10YR2/2 黒褐色　シルト　焼土粒極少量含む
5. 10YR2/3 黒褐色　シルト　地山Ｂ多く含む
6. 10YR3/2 黒褐色　シルト　地山Ｂ（φ3㎝大）多量に含む
7. 10YR2/1 黒色シルトと 10YR4/4 褐色シルトの混合層
8. 10YR4/4 褐色シルトと 10YR2/1 黒色シルトの混合層　焼土Ｂ含む

ＲＡ020カマド





ＲＡ020 カマド　断面ａ
0. 撹乱
1. 10YR2/2 黒褐色　シルト　地山Ｂ　多量に含む
2. 7.5YR4/4 褐色　シルト　炭化物・地山Ｂ極少量含む
3. 10YR3/2 黒褐色　シルト　地山Ｂ多量に含む
4. 10YR2/2 黒褐色　シルト　地山Ｂ多量に含む
5. 10YR1.7/1 黒色　粘質シルト　しまり弱
6. 10YR2/1 黒色　シルト　地山Ｂ多く含む
7. 10YR2/1 黒色　シルト　地山Ｂ多量に含む
8. 10YR3/1 黒褐色　シルト　地山小Ｂ含む
9. 10YR2/1 黒色　粘質シルト　しまり弱　地山Ｂ極小量含む
10. 10YR7/6 明黄褐色シルトと 10YR3/1 黒褐色シルト混合土
11. 10YR6/6 明黄褐色シルトと 10YR2/1 黒色粘質シルトの混合土
12. 10YR2/1 黒色　シルト　地山Ｂ少量含む
13. 焼土ブロック層
14. 7.5YR3/3 暗褐色　シルト
15. 10YR2/3 黒褐色　シルト
16. 10YR3/1 黒褐色　シルト　地山Ｂ含む
17. 10YR3/3 暗褐色　シルト　地山Ｂ含む



ＲＡ020 カマド　断面ｂ
1. 10YR2/1 黒色　シルト　しまり強
2. 10YR2/2 黒褐色　シルト　地山Ｂ帯状に入る
3. 10YR1.7/1 黒色　シルト　しまり弱　やや粘質
4. 10YR3/4 暗褐色　シルト　地山Ｂ（大小）多量
5. 5YR3/4 暗赤褐色　シルト　焼土Ｂで構成される
6. 10YR2/1 黒色　シルト　やや粘質
7. 10YR2/1 黒色　シルト
8. 7.5YR3/4 暗褐色　シルト　焼土Ｂ主体
9. 7.5YR4/6 褐色　シルト　焼土層

第 30 図　RA020（2）

主体とし、西側下部（CD4 ～ 6 層）は黒褐色シルトを主体とする。全体的に混入物が多く、人為堆積の可能性が高いと考えられる。

遺物（第 90 ～ 93 図、写真図版 63・64）

［土器］7945.3g（土師器 3953.3g、須恵器 3992.0g）出土した。掲載遺物は土師器坏 5 点、土師器甕 6 点、須恵器坏 5 点、須恵器甕 1 点、須恵器大甕 1 点、須恵器壺 1 点、須恵器袋物 1 点である。173・177 はⅡB 類、174 はⅡ類、175・176 はⅡD 類の土師器坏である。173・174 は主に床面直上から出土したものである。178 ～ 180 は i 類、181 ～ 183 は ii 類の土師器甕である。180 はカマドの覆土から、181・182 は貼床から出土したものである。184 ～ 188 は B 類の須恵器坏である。184 はカマド袖から、185 は主に床面から、186・187 は主に床面直上から出土したものである。189 は須恵器甕の口縁部資料、190 は須恵器大甕の体部から底部にかけての資料、191 は須恵器長頸壺の口縁部から頸部にかけての資料、192 は須恵器の体部片で器種が特定できなかったものである。上記以外に埋土上部から陶磁器（1.1g）が出土したが、耕作に伴う近年の混入の可能性が高い。

［石器類］掲載遺物は砥石 1 点である。193 は貼床から出土した凝灰岩製の砥石である。

［その他］金属製品 44.29g 出土した。掲載遺物は刀子 1 点と鉄塊 1 点である。194 は刀子の刀身部の一部と考えられる資料である。両端とも欠損しており、関部の有無は不明である。背と刃はほぼ平行しており、ふくらを有する大形のものと考えられる。

時期　平安時代（10 世紀前半）と推定される。　（川又・北村）

RA021 竪穴住居跡（SI11）

遺構（第 31 ～ 33 図、写真図版 25 ～ 27）

［位置・検出状況］23B 区～ 24F 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、地下埋設物敷設により部分的に壊されている。カマド 1 の煙道より煙出し Pit 側は第 2 次調査に RD006 土坑として調査されている。

［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形である。規模は南北方向が 518cm、東西方向が 505cmである。Ⅲ層を掘り込み、黒褐色シルト（AB6・7 層）を主体とする掘り方埋土を床材として、平坦な床面を構築している。壁は直立気味に立ち上がる。検出面から床面までの深さは 44cmである。

［カマド］東壁と北壁の 2 箇所で確認した（カマド 1・カマド 2）。

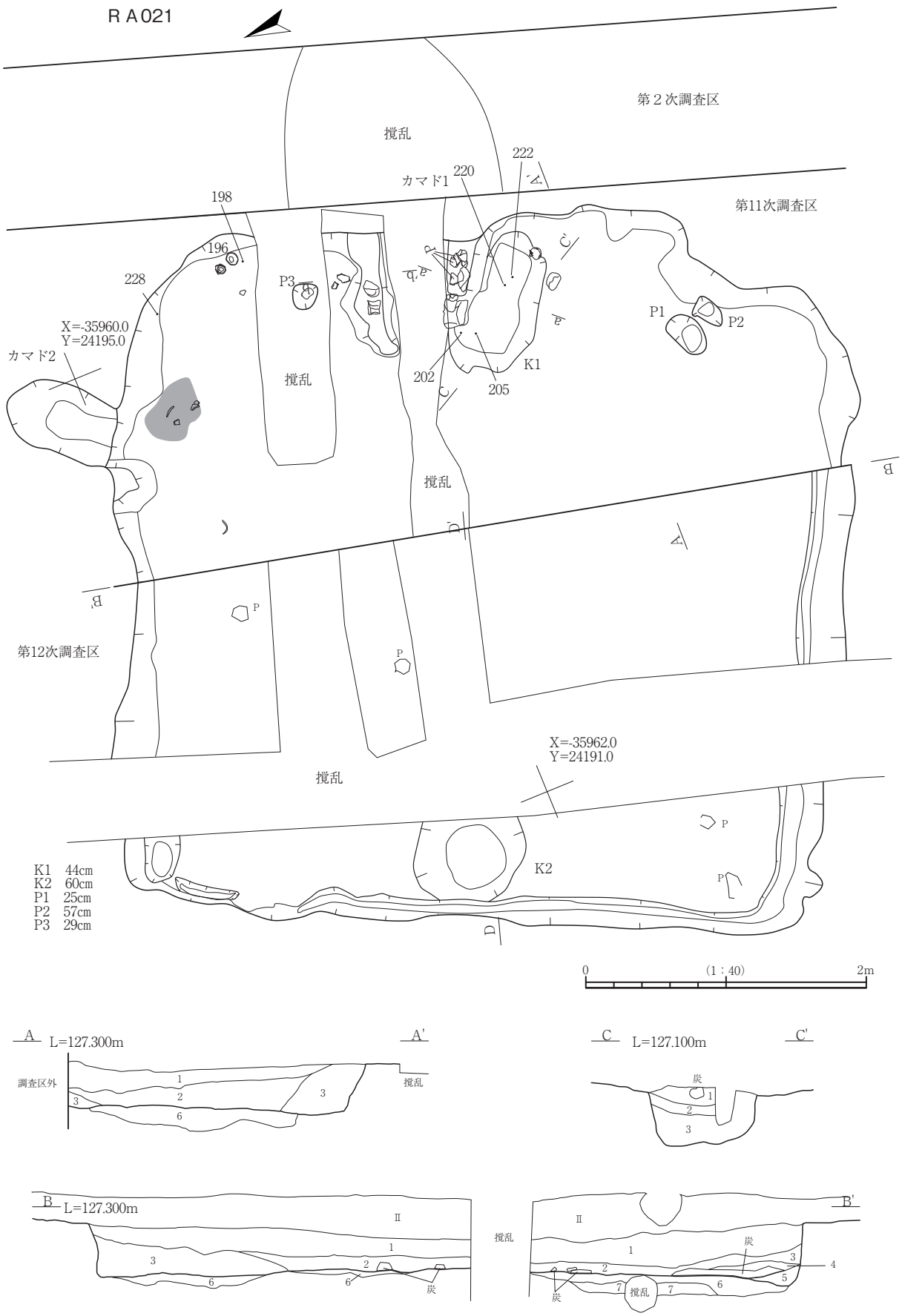
　カマド 1 は、東壁のやや北寄りに位置する。確認できたのは袖部分のみである。袖は褐色土で構築され、芯材の礫が残存していた。

　カマド 2 は、北壁に位置する。煙道部は浅い掘り込みで、軸方向が N39° E で、長さ 80cmである。付け根の東側に、袖と思われる地山土の高まり、西側に燃焼部とみられる弱い焼土を確認した。遺存状態は良くない。カマド 1 よりも旧期のものの可能性がある。

［付属施設］カマド 1 の南袖付近、西壁中央で土坑を確認し、それぞれ K1（SK1）、K2（K1）とした。K1 は、カマド 1 袖の下部にあり、カマド 1 の構築以前に掘り込まれた可能性がある。平面形は隅丸長方形で、黒褐色シルトを主体とする。長辺は 107cm、短辺 64cm、深さは最大で 44cmである。K2 は東側を地下埋設物敷設によって壊されている。平面形は円形基調で、確認できる規模は東西方向 61cm、南北方向 84cmである。深さは最大で 36cmである。地山塊や炭化物粒を多く含む黒褐色シルトの単層で、人為堆積である。この他に Pit を 3 個（P1 ～ 3）確認した。

［炭化材］床面上に多く出土した。配置に規則性は見出せない。北側に多く、南側には少ない。

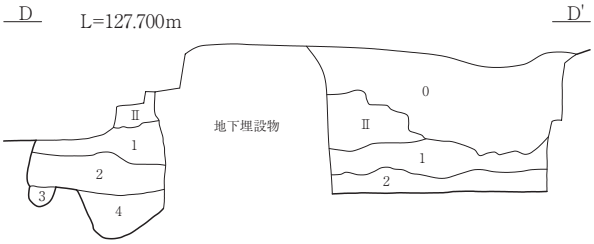
　第 11 次調査、第 12 次調査とも炭化材が出土しており、肉眼観察による樹種同定を行った。第 11


R A 021
第２次調査区
第11次調査区
第12次調査区
撹乱
カマド1
カマド2
198
196
228
220
222
202
205
P1
P2
P3
K1
K2
X=-35960.0
Y=24195.0
X=-35962.0
Y=24191.0
K1　44cm
K2　60cm
P1　25cm
P2　57cm
P3　29cm
0
(1：40)
2m
A
A'
L=127.300m
調査区外
撹乱
C
C'
L=127.100m
炭
B
B'
L=127.300m
Ⅱ
炭

第 31 図　RA021（1）

R A021A・B
1.　10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性やや弱
2.　10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物ブロック5%、黄褐色土粒10%
3.　10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性やや弱　焼土粒5%、炭化物粒5%、黄褐色土粒10%
4.　5YR4/6赤褐色　シルト　しまりやや弱　粘性中　焼土
5.　10YR3/2黒褐色　シルト　しまり中　粘性中　炭化物ブロック5%
6.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強　黄褐色土粒20%　貼り床
7.　10YR3/2黒褐色　シルト　しまり中　粘性中　焼土粒（φ20mm）10%　貼り床

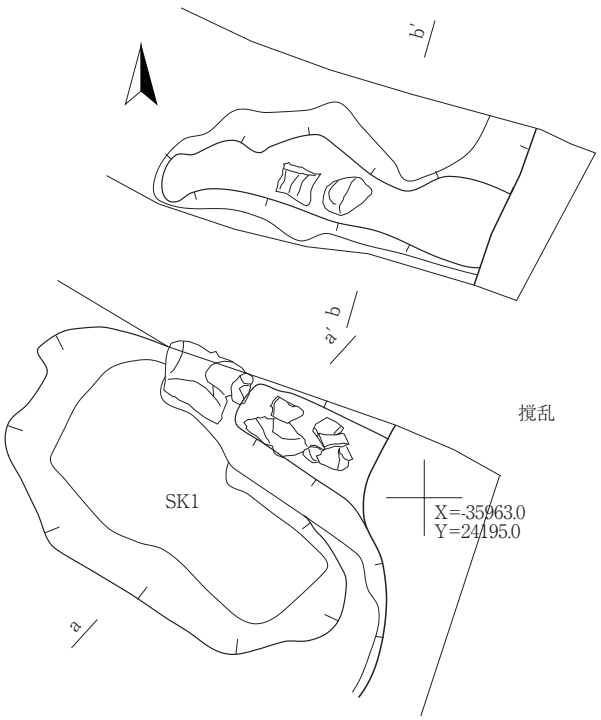
R A021C（K1）
1.　10YR3/1黒褐色　シルト　しまり強　粘性中　焼土粒（φ5mm）5%、炭化物10%
2.　10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中　炭化物3%、黄褐色土（10YR5/6）ブロック（φ20mm）10%
3.　10YR3/1黒褐色　シルト　しまり強　粘性中　炭化物粒（φ20mm）10%、黄褐色土（10YR5/6）粒（φ20mm）5%

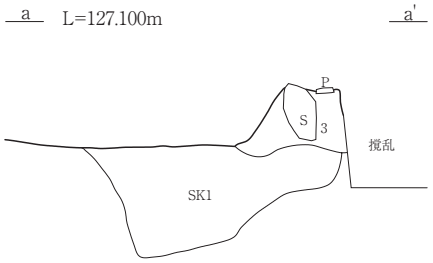


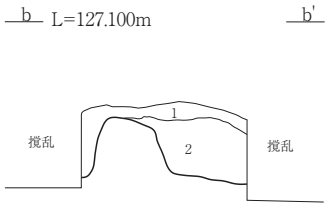
R A021D
1.　10YR3/2黒褐色　シルト　地山Ｂ（小）少量　炭化物微量に含む
2.　10YR2/2黒褐色　シルト　地山Ｂ多量　炭化物粒（大小）・焼土Ｂ多量に含む
3.　10YR3/2黒褐色　シルト　地山小Ｂ少量含む
4.　10YR2/2黒褐色　シルト　炭化物粒（φ3cm大）・地山Ｂ（φ3cm大）多く含む

第 32 図　RA021（2）

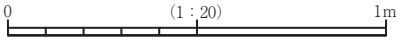
ＲＡ021カマド1



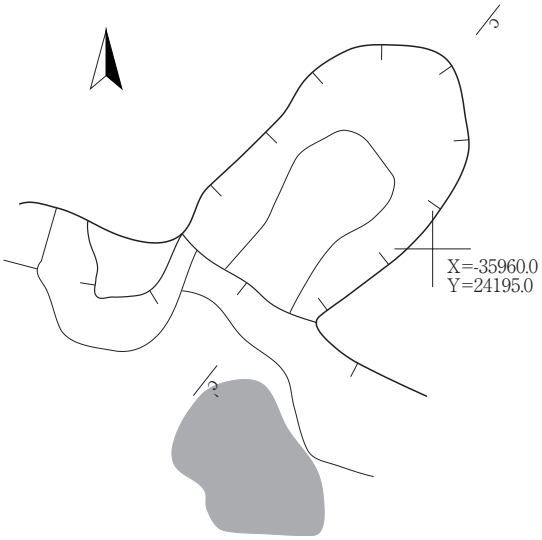


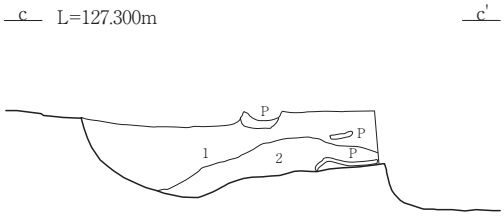


RA021a・b（カマド1）
1. 10YR3/1黒褐色　シルト　しまり弱　粘性中
　焼土粒（φ10mm）5%、炭化物粒（φ5mm）5%
2. 10YR5/6黄褐色　粘土質シルト　しまり中　粘性強
　黒褐色土（10YR3/1）ブロック（φ10mm）5%
3. 10YR4/6褐色　シルト　しまり中　粘性中
　黄褐色土（10YR5/6）10%　袖構築土

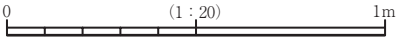


ＲＡ021カマド2





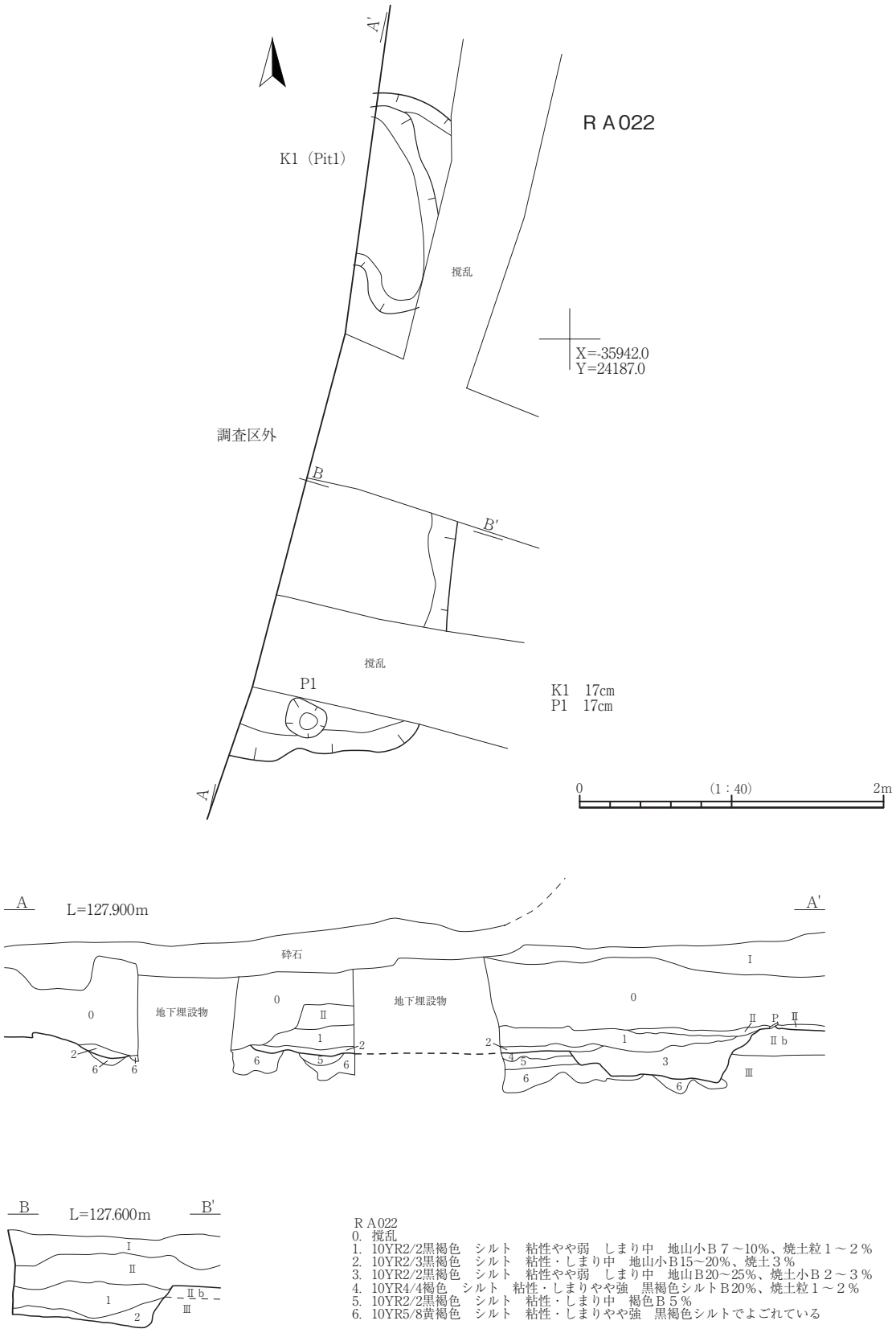
RA021c（カマド2）
1. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強
　黄褐色土粒1%、土器片少量
2. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強
　黄褐色土ブロック（φ10～20mm）5%、土器片少量



第33図　RA021（3）

次調査では、大半はクリ材で、クルミ、ナラ、ホオノキ、センノキが少量確認された。第12次調査では少なくとも、クリ材とアカマツ材の2種類が使用されていることが判明した。
［埋土］第11次調査では5層、第12次調査では2層に細分した。壁際に焼土層（AB4層）や炭化物とともに黒褐色シルト主体の堆積層（AB3･5･6層）が確認できる。大部分は黒色シルト（AB1･2層）や黒褐色シルト（C1・2層）主体で、埋土下部には地山塊・炭化物・焼土塊を多く含んでいる。焼失住居であり、自然堆積である。
遺物（第93～97図、写真図版65～67）
［土器］20833.2g（土師器12843.4g、須恵器7989.8g）出土した。掲載遺物は土師器坏24点、土師器高台付坏7点、土師器皿?1点、土師器耳皿1点、土師器甕10点、須恵器大甕2点、須恵器壺2点である。196・202・208・211・214はⅠC類、197・200・205はⅠD類、198・209はⅠB類、199・201・203・204・206・207・212・213はⅠ類、210・215はⅠA類、216はⅡD類、217・219はⅡ類、218はⅡB類の土師器坏である。199は床面直上から、200・201は床面から、202～207は主にK1から、218はP1から、219は貼床から出土した。220～222・225はⅠB類、223・224はⅠ類、226はⅡB類の土師器高台付坏である。222はK1から、226は貼床から出土した。227は土師器皿と考えられる資料である。床面から出土した。228はほぼ完形の土師器耳皿である。両面とも黒色処理が施されている。229～231はⅰ類、232～238はⅱ類の土師器甕である。231はK2から、232～234は主にカマド及びその周辺から、235・236・238は主に床面から、237はK1から出土した。239・240は須恵器大甕、241は須恵器広口壺、242は須恵器壺である。242は床面から出土した。上記以外に埋土上部から陶磁器（20.9g）が出土したが、耕作に伴う近年の混入の可能性が高い。
［石器類］掲載遺物は磨石1点､台石1点である。243は安山岩製の磨石である。使用面は1面である。244は安山岩製の台石である。一部が火を受けて変色している。
時期　平安時代（10世紀前半）と推定される。　（川又・北村）

RA022 竪穴住居跡（SI18）
遺構（第34図、写真図版28）
［位置･検出状況］24CD区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。西側の大半が調査区外に広がっており、確認できたのは、東辺を中心とした一部である。重複する遺構はないが、水道管や下水等の地下埋設物敷設に伴って、一部が壊されている。
［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形と推定される。確認できた規模は、南北方向が440㎝、東西方向が165㎝である。Ⅲ層を深く掘り込み、Ⅲ層に起因する褐色～黄褐色シルト（4・6層）や黒褐色シルト（5層）の掘り方埋土を床材として、平坦な床面を構築しているものと考えられる。壁は外傾する。検出面から床面までの深さは30㎝である。
［カマド］調査区内では確認されなかった。調査区外に存在するものと考えられる。
［付属施設］北東隅で土坑（K1）を1基確認した。地下埋設物敷設により大きく壊されているが、南北方向に長い不整楕円形を呈するものと考えられる。確認できた規模は長辺134㎝、短辺66㎝、深さは最大で21㎝である。埋土は地山塊、焼土塊を含む黒褐色シルトの単層で、人為堆積である。
［埋土］6層に細分した。3層はK1の埋土、4～6層は貼床である。床面付近に地山小塊や焼土粒を含む黒褐色シルト層（2層）が薄く堆積し、2層と類似するが混入物の比率が低い黒褐色シルトで完全に埋没している。夾雑物が多く、人為堆積の可能性が高い。
遺物（第97図、写真図版67）

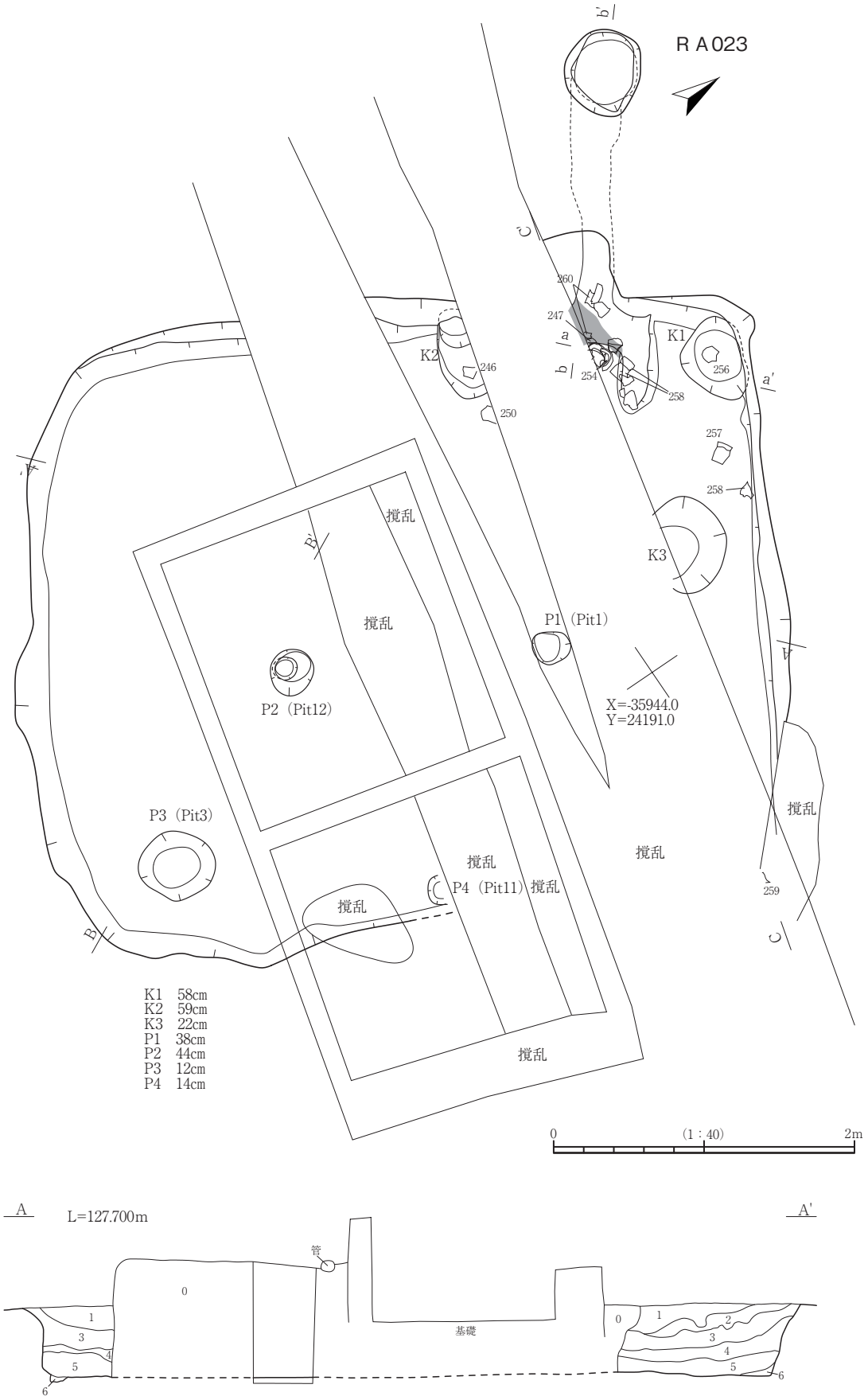


R A022
0. 撹乱
1. 10YR2/2黒褐色　シルト　粘性やや弱　しまり中　地山小Ｂ７～10%、焼土粒１～２％
2. 10YR2/3黒褐色　シルト　粘性・しまり中　地山小Ｂ15～20%、焼土３％
3. 10YR2/2黒褐色　シルト　粘性やや弱　しまり中　地山Ｂ20～25%、焼土小Ｂ２～３％
4. 10YR4/4褐色　シルト　粘性・しまりやや強　黒褐色シルトＢ20%、焼土粒１～２％
5. 10YR2/2黒褐色　シルト　粘性・しまり中　褐色Ｂ５％
6. 10YR5/8黄褐色　シルト　粘性・しまりやや強　黒褐色シルトでよごれている

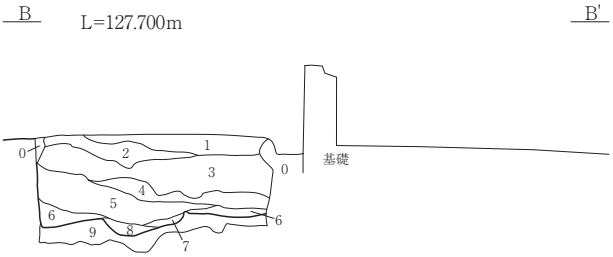
第 34 図　RA022

［土器］221.0g（土師器 184.3g、須恵器 36.7g）出土した。掲載遺物は土師器坏 1 点である。245 はⅡB 類の土師器坏である。埋土から出土したもので、口縁部を欠損している。上記以外に埋土から陶磁器（1.1g）が出土したが、耕作に伴う近年の混入の可能性が高い。
［その他］埋土から金属製品 1.76g 出土した。掲載遺物はない。
時期　平安時代（9 世紀後半）と推定される。（北村）

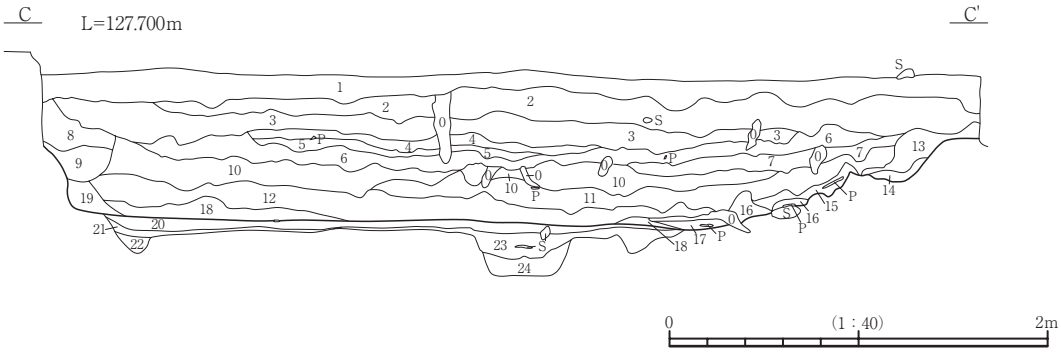
RA023 竪穴住居跡（SI17）
遺構（第 35 ～ 37 図、写真図版 29・30）
［位置・検出状況］24CD 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。プラン全体を確認しているが、中央の広範囲にわたって住宅の基礎と地下埋設物により破壊されている。重複する遺構はない。
［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形である。規模は、北東南西方向が 512㎝、北西南東方向が 445㎝である。Ⅲ層を深く掘り込み、Ⅲ層に起因する褐色～黄褐色シルト（C20 層）や暗褐色シルト（B9 層）を主体とする掘り方埋土を床材として、平坦な床面を構築している。残存状態が良好で、壁の下半はほぼ直立し、上半は開き気味に立ち上がる。検出面から床面までの深さは 73㎝である。
［カマド］北西壁の北寄りに位置する。煙道部は刳り貫き式である。軸方向が W37° N で、北西壁に対してほぼ直交する。煙出しに向かって下がるが、煙出し Pit に向かうほど水平になる。先端部までの長さは 196㎝である。煙出し Pit は、開口部 57 × 51㎝、深さ 46㎝で、中間部でやや狭くなっている。燃焼部焼土は、地下埋設物によって確認できなかった。袖は北側のみ確認できた。地山の削りだしにより構築している。土師器甕を利用した支脚が設置された状態で出土した。炭化物が土壌化したと考えられる黒色シルトで埋没していた。その上部はカマドを覆うように焼土層とにぶい黄褐色シルトが広がっており、カマドがそのまま潰れて埋没した可能性が高い。
［付属施設］カマドの両脇及び、北東壁中央寄りで土坑を確認し、カマド北側のものを K1、南側のものを K2、北東壁中央寄りのものを K3 とした。K1 は歪な円形を呈し、長辺 57㎝、短辺 47㎝、深さは 16㎝である。埋土は黒色～暗褐色シルト主体である。K2・K3 は地下埋設物敷設の範囲内に広がっており、詳細な規模は不明である。平面形は円形基調である。この他、4 個の Pit を確認した。P1・P2 は配置から主柱穴の可能性が高い。
［埋土］19 層に細分した。全体的に黒色～黒褐色シルトを主体とし、上部（C3 ～ 7 層）より下部（AB3 ～ 5 層・C10 ～ 12 層）では地山塊の混入が多い傾向が見られる。この他、堆積過程での掘り込みにより堆積層（8・9 層）も確認でき、堆積途中で人為的な影響を受けているものと考えられる。1・2 層は住居埋没後の堆積層である。
遺物（第 97 ～ 99 図、写真図版 67・68）
［土器］6824.1g（土師器 6345.9g、須恵器 478.2g）出土した。掲載遺物は土師器坏 6 点、土師器高台付坏 2 点、土師器甕 7 点、土師器羽釜 1 点、須恵器坏 1 点、須恵器甕 1 点である。246･248 はⅠC 類、247 はⅠ類、249 ～ 251 はⅡB 類の土師器坏である。246 はカマドの左袖脇にある土坑（K2）から出土した。247 はカマド天井部分の被熱層から出土した。底部付近が約 1/2 残存する。周縁の破損部は磨かれたように平滑になっている。容器以外の用途に転用された可能性が想定される。249 はカマドの状況確認のため、地下埋設物のギリギリまで掘削した際に、左袖から出土したものである。252 はⅠA 類、253 はⅠ類の土師器高台付坏である。252 は貼床から出土した。254 ～ 258 はⅰ類、259・260 はⅱ類の土師器甕である。254 はカマドの支脚として利用されたもので、倒位の状態で出土した。255 はカマド袖から、259 は東隅付近の床面直上から出土した。256 は北隅の土坑（K1）の最下部か


R A 023
b'
c'
a
b
a'
A
A'
B
B'
C
C'
K1
K2
K3
P1（Pit1）
P2（Pit12）
P3（Pit3）
P4（Pit11）
246
247
250
254
256
257
258
259
260
撹乱
X=-35944.0
Y=24191.0
K1　58cm
K2　59cm
K3　22cm
P1　38cm
P2　44cm
P3　12cm
P4　14cm
0
(1：40)
2m
A
L=127.700m
A'
管
基礎
0
1
2
3
4
5
6

第 35 図　RA023（1）



R A023AB
1. 10YR1.7/1黒色　シルト　しまり弱　やや粘質
2. 10YR2/2黒褐色　シルト　やや粘質　地山極少Ｂ（φ2mm大）多量含む
3. 10YR1.7/1黒色　シルト　しまり弱　地山Ｂ（φ1cm大）極少量含む
4. 7.5YR2/1黒色　粘質シルト　地山極少Ｂ（φ1～3cm大）多量含む
5. 10YR2/1黒褐色　シルト　やや粘質　地山Ｂ（φ3cm大）極少量含む
6. 10YR2/2黒褐色　シルト　やや粘質　地山Ｂ少量含む
7. 10YR2/1黒色　粘質シルト
8. 10YR3/2黒褐色　シルト　地山Ｂ少量含む
9. 10YR3/4暗褐色　シルト　地山Ｂ多量含む



R A023C
0. 撹乱
1. 10YR2/1黒色　シルト　やや粘質　中粒砂混、地山Ｂ少量含む
2. 10YR2/1黒色　シルト　やや粘質
3. 10YR1.7/1黒色　シルト　しまり弱　やや粘質
4. 10YR1/1黒色　シルト　地山Ｂ（φ1cm大）少量含む
5. 10YR2/2黒褐色　シルト　地山Ｂ少量含む
6. 7.5YR2/1黒色　粘質シルト　地山極少Ｂ及びφ1～3cm大多量に含む
7. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまり弱　やや粘質　地山Ｂ（φ3cm大粒）少量含む
8. 10YR2/1黒色　シルト　しまり弱　やや粘質
9. 10YR2/3黒褐色　シルト　下部に地山Ｂ少量含む
10. 10YR2/1黒色　粘質シルト　地山Ｂ（大小様々）多量に含む
11. 10YR2/2黒褐色　粘質シルト　地山Ｂ多量に含む
12. 10YR2/1黒色　シルト　やや粘質　地山Ｂ（φ5cm大）斑状に含む
13. 10YR2/1黒色　粘質シルト　地山Ｂ少量含む
14. 10YR2/1黒色　粘質シルト　粘性強　地山Ｂ多量含む
15. 10YR4/3にぶい黄褐色　砂質シルト　炭化物少量含む
16. 7.5YR2/3暗褐色　シルト　φ5cm大焼土Ｂ多量に含む
17. 10YR2/1黒色　粘質シルト
18. 10YR3/4暗褐色　シルト　地山Ｂ大小様々多様に含む
19. 10YR3/2黒褐色　シルト　炭化物・焼土Ｂ少量、地山Ｂ多量に含む
20. 10YR4/6～5/6褐色～黄褐色　シルト
21. 10YR2/1黒色　シルト
22. 10YR4/4褐色シルトと10YR2/1黒色シルトの混合土
23. 7.5YR3/4暗褐色　シルト　焼土Ｂ・地山Ｂ多量含む　K3埋土
24. 10YR3/2黒褐色　シルト　焼土Ｂ・地山Ｂ多量含む　K3埋土

第 36 図　RA023（2）

ら出土したものと埋土から出土したものが接合したもの、257 はカマド崩落土層直上と埋土から出土したものが接合したもの、258 はカマド右袖の直上、埋土最下層、埋土から出土したものが接合したもの、260 はカマド構築土直上、カマド天井被熱層から出土したものが接合したものである。261 は土師器羽釜の口縁部片である。北側埋土から出土した。262 は須恵器坏の口縁部片で、ベルトから出土したものである。263 は須恵器甕の底部のみの断片的な資料で、床面から出土した。上記以外に埋土から陶磁器（62.8g）が出土したが、耕作に伴う近年の混入の可能性が高い。

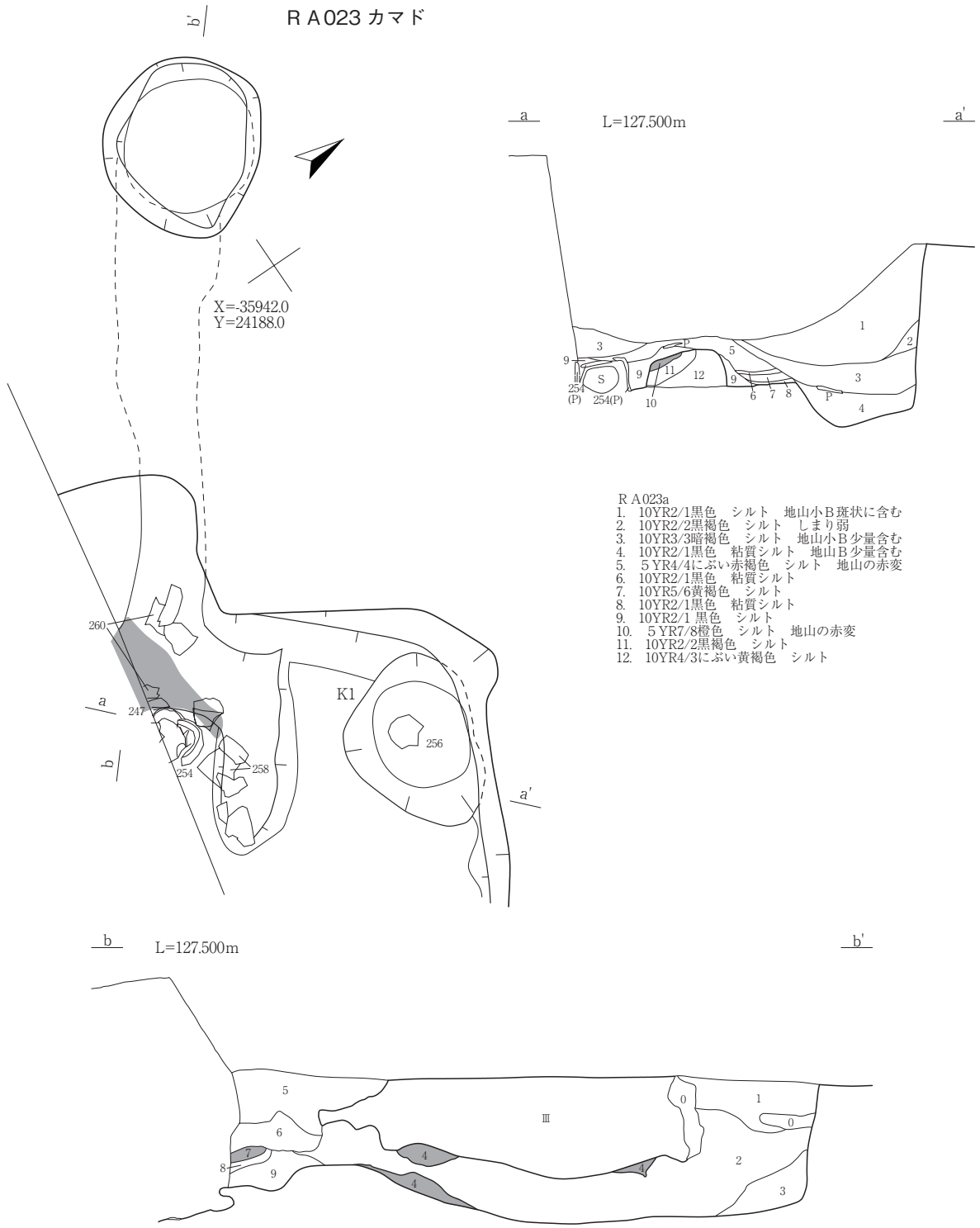
［石器類］264 は埋土下部から出土した凝灰岩製の砥石である。四角く面取りされており、4 面とも使用されている。線条痕が顕著に観察できる。

時期　平安時代（10 世紀前半）と推定される。　（北村）

RA024 竪穴住居跡（SI15）

遺構（第 38 ～ 40 図、写真図版 31・32）

［位置・検出状況］24F 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。プラン全体が調査区内に存在するが、



R A023a
1.　10YR2/1黒色　シルト　地山小Ｂ斑状に含む
2.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり弱
3.　10YR3/3暗褐色　シルト　地山小Ｂ少量含む
4.　10YR2/1黒色　粘質シルト　地山Ｂ少量含む
5.　５YR4/4にぶい赤褐色　シルト　地山の赤変
6.　10YR2/1黒色　粘質シルト
7.　10YR5/6黄褐色　シルト
8.　10YR2/1黒色　粘質シルト
9.　10YR2/1 黒色　シルト
10.　５YR7/8橙色　シルト　地山の赤変
11.　10YR2/2黒褐色　シルト
12.　10YR4/3にぶい黄褐色　シルト

R A023b
0.　撹乱
1.　10YR3/1黒褐色　シルト　微顆粒砂混　焼土Ｂ（φ5cm大）少量含む
2.　10YR2/1黒色　粘質シルト　しまり弱
3.　10YR2/1黒色　粘質シルト　しまり弱　地山Ｂ多量
4.　5YR3/4暗赤褐色　シルト
5.　10YR2/1黒色　粘質シルト　やや粘質　地山Ｂ（φ1cm大）少量含む
6.　10YR2/1黒色　粘質シルト　やや粘質　地山Ｂ（φ2cm大）多量に含む
7.　5YR4/4にぶい赤褐色　シルト　地山（10YR4/4褐色シルト）の赤変
8.　10YR4/3にぶい黄褐色　砂質シルト
9.　10YR3/3暗褐色　砂質シルト　地山・黒色シルト・褐色シルトＢ多量に含む

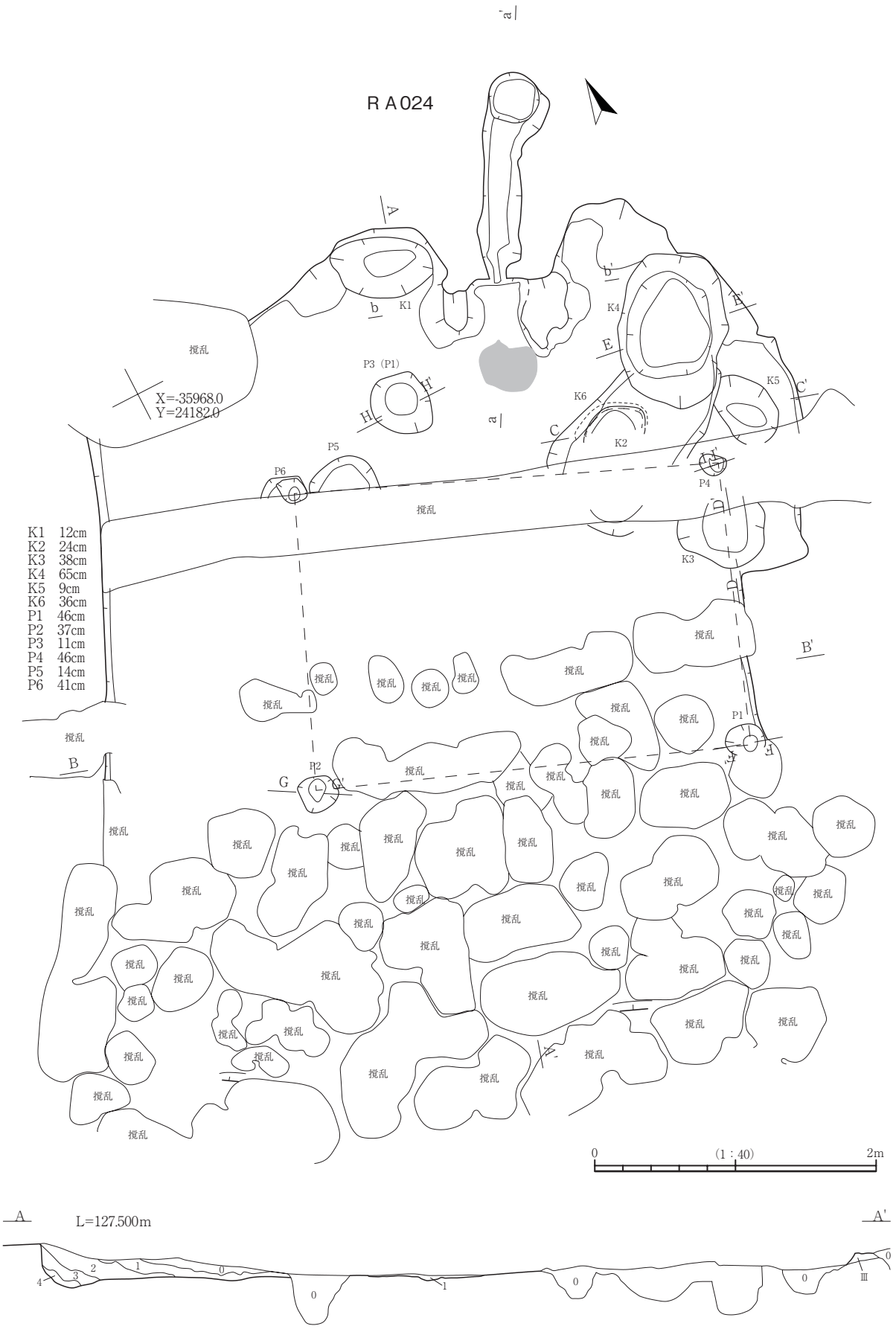
0　(1：20)　1m

第 37 図　RA023（3）

南側の大部分が近年の耕作により、断片的にしか残存していない。また、煙出し Pit の上部及び竪穴部北西隅も撹乱により壊されている。RD024 と重複しており、本遺構が古い。
［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形基調と推定されるが、カマド周辺の壁は外側に張り出している。確認できた規模は、南北方向が 535㎝、東西方向が 497㎝である。
［カマド］北壁の中央付近に位置する。煙道部は上部が撹乱の影響を受けており、掘り込み式か刳り貫き式かの判断はできなかった。軸方向は N28° E で、北壁に対してほぼ直交する。焚き口から煙道部に向かって段を持つように上がり、煙出し Pit に向かって緩やかに下がっている。先端部までの長さは 183㎝である。煙出し Pit は、開口部 36 × 36㎝、深さ 27㎝である。燃焼部焼土は、43 × 36㎝の範囲で焼成を受け、焼成深度は 4㎝である。袖は礫を芯材とし、主に褐色シルトと黒褐色シルトの混合土で構築されている。
［付属施設］カマド周辺から竪穴部北東側で土坑 6 基を確認し、K1 ～ K6 とした。K1 はカマドの西側にあり、その他は東側に密集している。K2・K5 が古く、K6、K4 と新しくなる。K4 では人為的に埋め戻された後、掘り返されて、新たな土坑を構築している。中～下部では多数の土師器坏が乱雑に、重なるようにして出土した。埋土は、K1 が暗褐色シルト、K2 が黒色～黒褐色シルト、K3 が黒褐色シルト、K4 が黒色～黒褐色シルト、K5 が黒褐色シルト、K6 が暗褐色シルト主体である。この他に 6 個の Pit を確認した。P1・2・4・6 は配置から主柱穴と考えられる。埋土は黒色～黒褐色シルトを主体とする。
［炭化材］竪穴部南西隅から炭化材が出土したが、樹種同定は行っていない。
［埋土］2 層に細分した。黒褐色シルトを主体とするが、前述のとおり、残存状態が悪いため、部分的にしか確認できない。
遺物（第 99 ～ 101 図、写真図版 68 ～ 70）
［土器］7067.3g（土師器 6613.7g、須恵器 453.6g）出土した。掲載遺物は土師器坏 26 点、土師器鉢 1 点、土師器甕 4 点である。265・269・272・274・276・285 はＩＢ類、266・268・270・273・275・277 ～ 280･282 ～ 284 はＩＣ類、267･271 はＩＤ類、281 はＩ類、286･287 はⅡＢ類、288 はⅡＣ類、289 はⅢＣ類、290 はⅢ類の土師器坏である。265 ～ 267 は主にカマド東側の土器集中部から、268・269 は床面直上から、270・271 は主に K1 から、272・273 は主に K2 から、274 は K3 から、275 ～ 282・286・289 は K4 から、283・287 は主に K5 から出土した。291 は主に K3 から出土したⅡ類の土師器鉢である。292 ～ 294 はｉ類、295 は細分できなかった土師器甕である。292 は主に床面直上から､293 は K2 から､295 はカマド東側の土器集中部から出土した。上記以外に埋土から陶磁器（25.5g）が出土したが、耕作に伴う近年の混入の可能性が高い。
［その他］金属製品 20.06g が出土した。掲載遺物はない。
時期　平安時代（10 世紀前半）と推定される。　（北村）

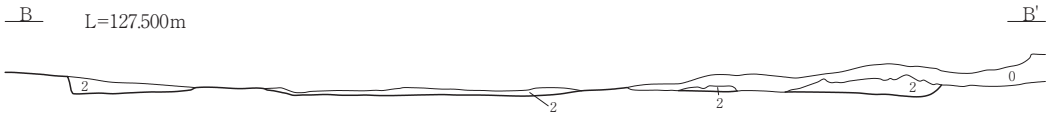
RA025 竪穴住居跡（SK26）

遺構（第 41 図、写真図版 33）
［位置･検出状況］24F 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。調査前まで畑として利用されていた場所で、深い耕作痕がいたるところで確認される。そのため、遺構は部分的に壊されている。重複する遺構はない。
［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形である。規模は、南北方向が 199㎝、東西方向が 220㎝である。Ⅲ層を掘り込み、Ⅲ層に起因する褐色シルト（5 層）を主体とする掘り方埋土を床材として、平

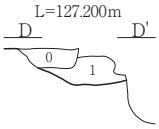

R A 024
X=-35968.0
Y=24182.0
K1 12cm
K2 24cm
K3 38cm
K4 65cm
K5 9cm
K6 36cm
P1 46cm
P2 37cm
P3 11cm
P4 46cm
P5 14cm
P6 41cm
P3（P1）
P5
P6
P4
P1
P2
K1
K2
K3
K4
K5
K6
撹乱
0
（1：40）
2m
A
A'
L=127.500m

第 38 図　RA024（1）

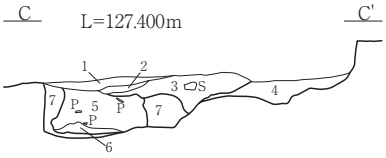
1　竪穴住居跡（RA）



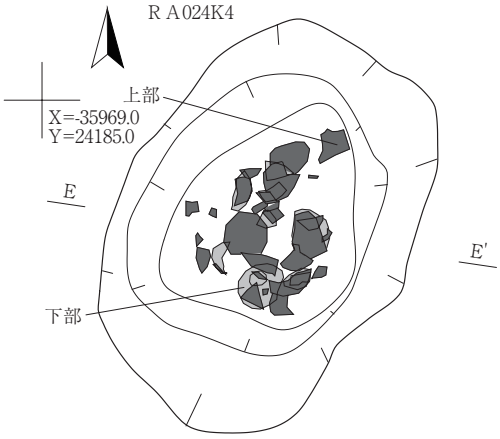
R A024AB
0.　撹乱
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　地山小Ｂ・焼土粒少量含む
2.　10YR2/3黒褐色　シルト　炭化物・焼土粒多量に含む
3.　10YR4/2灰黄褐色　シルト　炭化物・焼土粒（各小粒）多量に含む
4.　10YR3/4暗褐色　シルト　炭化物・焼土Ｂ・地山Ｂ（各小粒）多量に含む

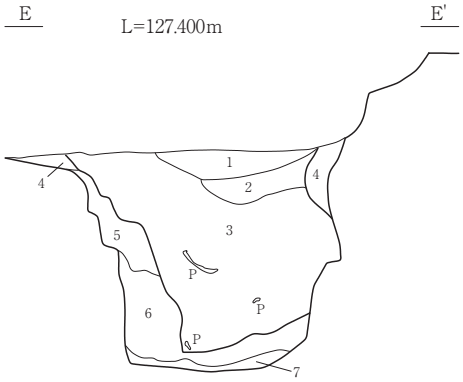


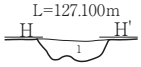
R A024D
0.　撹乱
1.　10YR2/2黒褐色　シルト
　　地山Ｂ・焼土Ｂ含む



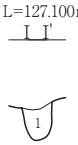
R A024C
1.　10YR2/1黒色　シルト　地山Ｂ・炭化物多量含む
2.　10YR2/1黒色　シルト　地山Ｂ・炭化物少量含む
3.　10YR3/4暗褐色　シルト　地山小Ｂ極多量に含む
4.　10YR2/2黒褐色　シルト　地山小Ｂ少量含む
5.　10YR2/2黒褐色　シルト　やや粘質
　　大小様々な地山Ｂ多量に含む、炭化物極少量含む
6.　10YR2/1黒色　粘質シルト
7.　10YR3/3暗褐色　シルト　炭化物・焼土Ｂ含む







R A024H
1.　10YR2/3黒褐色　シルト　焼土Ｂ・地山Ｂ・炭化物含む



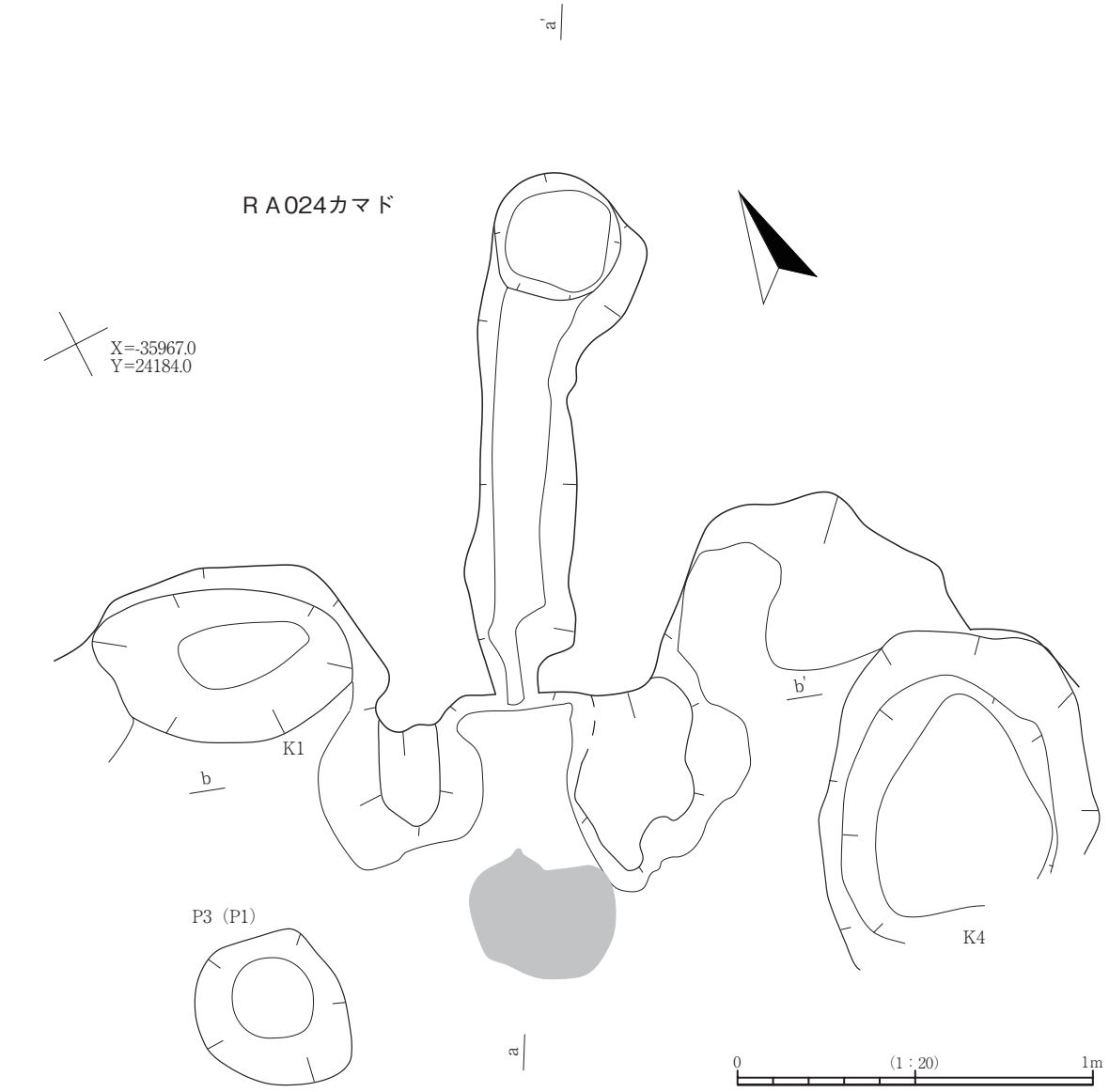
R A024I
1.　10YR2/1黒色　シルト　やや粘質

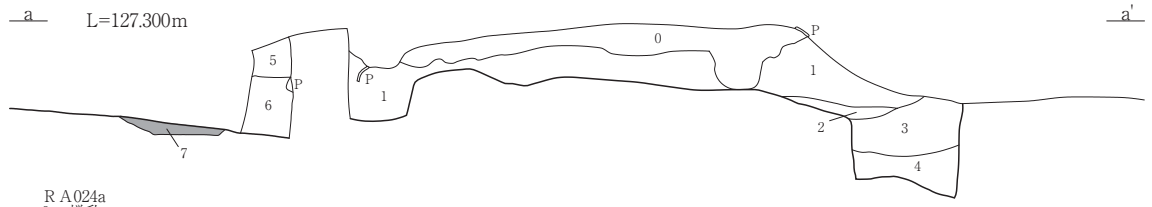
R A024E
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　地山Ｂ多量に含む
2.　10YR2/1黒色　シルト　しまり弱　やや粘質
3.　10YR2/3黒褐色　シルト　焼土粒・炭化物極少量含む
　　地山Ｂ多量に含む　中～下部にかけて多類の土師器が
　　乱雑にそして重なるようにまとまって出土
4.　10YR2/2黒褐色　シルト　焼土・炭化物・黒色土Ｂ多量に含む
5.　10YR3/3暗褐色　シルト　地山Ｂ（φ3㎝大）・炭化物・
　　焼土Ｂ多量に含む
6.　10YR4/4褐色　粘質シルト　炭化物少量含む
7.　10YR2/1黒色　粘質シルト　有機質の土壌化層

0　(1：40)　2m

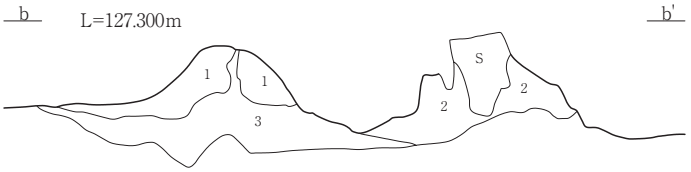
R A024K4　0　(1：20)　1m

第39図　RA024（2）





R A024a
0.　撹乱
1.　10YR3/2黒褐色　シルト　地山Ｂ少量、焼土Ｂ・炭化物多く含む
2.　10YR3/2黒褐色　シルト
3.　7.5YR2/3極暗褐色　シルト　炭化物・焼土Ｂ少量含む
4.　10YR3/3暗褐色　シルト
5.　10YR3/1黒褐色　シルト
6.　10YR4/2灰黄褐色　シルト　焼土Ｂ多量
7.　7.5YR4/3褐色　シルト　焼土層

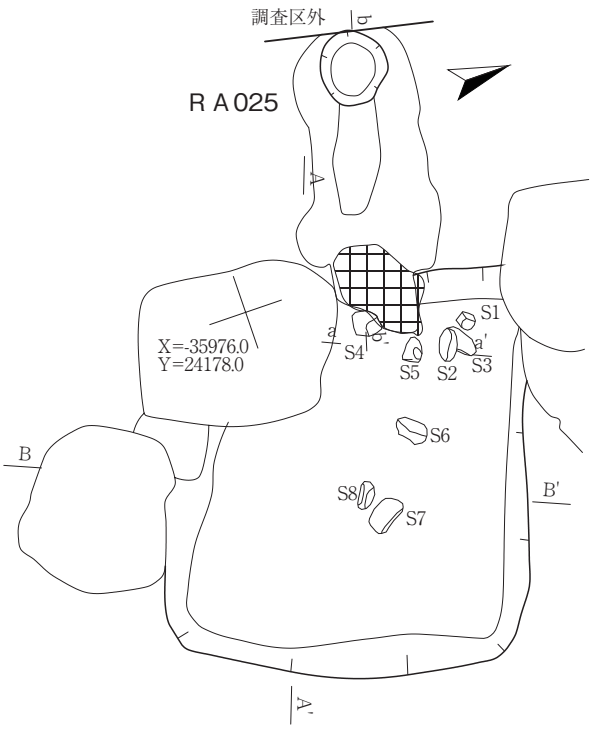


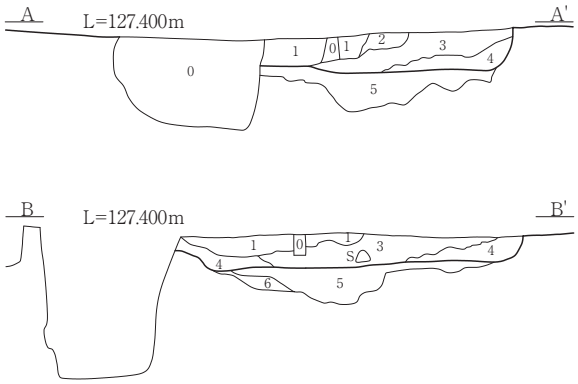
R A024b
1.　10YR3/3暗褐色　シルト　焼土Ｂ・炭化物・地山Ｂ
　　まばらに含む
2.　10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/4褐色シルトの混合土
3.　10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/4褐色シルトの混合土
　　地山Ｂ・炭化物・焼土含む

第 40 図　RA024（3）

坦な床面を構築している。壁は直立気味に外傾する。検出面から床面までの深さは28cmである。
［カマド］赤変した燃焼部は確認できなかったが、西壁の中央部から延びる煙道と煙出しPitの可能性が高い掘り込みが確認された。上部の大半を撹乱により破壊されている。主軸方向はW16°Nで、西壁にほぼ直交するものと考えられる。煙出しPitに向かって下降しており、先端部までの長さは115cmである。明瞭な被熱層は確認できなかったが、燃焼部と考えられる部分で51×48cmのブロック焼土を確認した。袖は確認できなかったが、芯材と考えられる礫（S5）が出土した。灰黄褐色シルト（ab2層）で据えられており、袖の一部である可能性がある。
［付属施設］なし。
［埋土］4層に細分した。壁際には三角形状に黒色シルト（4層）が堆積し、黒褐色シルト（2・3層）、暗褐色シルト（1層）の順で堆積している。混入物が少なく、レンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積の可能性が高いと考えられる。
遺物
［土器］14.0g（土師器4.0g、須恵器10.0g）出土した。掲載遺物はない。
［その他］なし。
時期　平安時代と推定される。（北村・福島）

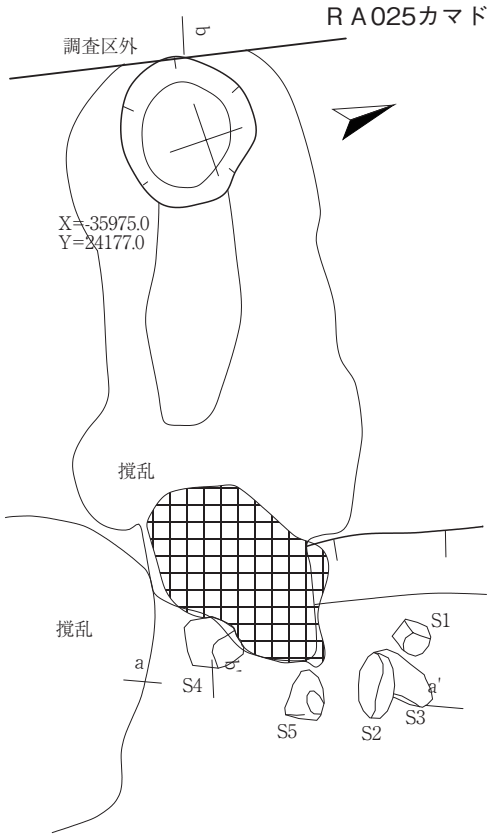
RA026 竪穴住居跡（SI12）
遺構（第42～44図、写真図版34・35）
［位置・検出状況］24G区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、本遺構もRA024と同様に、広範囲にわたって近年の耕作の影響を受けている。また、東壁の大部分が地下埋設物（下水）敷設により残存していない。
RA026 新段階
［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形である。確認できた規模は、南北方向が630cm、東西方向の残存長が666cmである。カマドのある西壁以外の古段階の竪穴部を拡張して構築している。壁は外傾する。検出面から床面までの深さは41cmである。
［カマド］西壁のほぼ中央に位置する。煙道部上部を削平されているが、煙道横断面の状況から判断すると、刳り貫き式の可能性が高い。軸方向がW6°Nで、西壁に対してほぼ直交する。煙出しに向かって下がり、先端部までの長さは217cmである。煙出しPitは、開口部59×43cm、深さ65cmである。燃焼部焼土は、64×53cmの範囲で焼成を受け、焼成深度は3cmである。袖は燃焼部焼土の両側に残存し、地山の削りだしで構築している。
［付属施設］多数の土坑類・Pit類を確認した。断面図を作図していないものは、黒色～黒褐色シルトの単層である。K1・K2はカマドの両側に構築された土坑で、土師器坏甕や須恵器坏がまとまって出土した。P4・7・9・13は位置関係から新段階の主柱穴の可能性が高いものである。
［埋土］14層に細分した。竪穴部の埋土は1～3層で、地山小塊を含む黒褐色シルト主体である。壁際には焼土塊（2ab層）が確認できる。
RA026 古段階
［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形である。カマドを中心とする西壁を共通と捉えると、規模は、南北方向486cm、東西方向519cmである。Ⅲ層を掘り込み、Ⅲ層に起因する黄褐色シルト（13・14層）主体の掘り方埋土を床材として、平坦な床面を構築している。拡張により、古段階の壁・床面は残存していない。

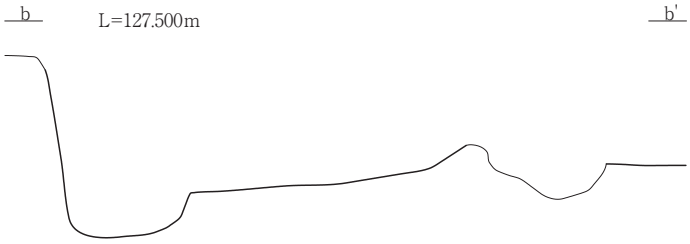


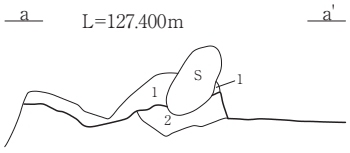


ＲＡ025
0.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり弱　部分的に粘質
　　地山Ｂ（φ５㎝）大多量に含む
1.　10YR3/4暗褐色　シルト　しまり弱
2.　10YR3/1黒褐色　シルト　粗粒砂混じる　地山Ｂ極小量含む
3.　10YR3/2黒褐色　シルト　しまり弱　地山小Ｂ含む
4.　10YR2/1黒色　シルト　しまり弱　やや粘質　炭化物少量含む
5.　10YR4/4褐色　シルト　黒色Ｂ（φ２㎝）少量含む
6.　10YR2/1黒色　シルト　しまり弱　やや粘質

0　(1：40)　2m



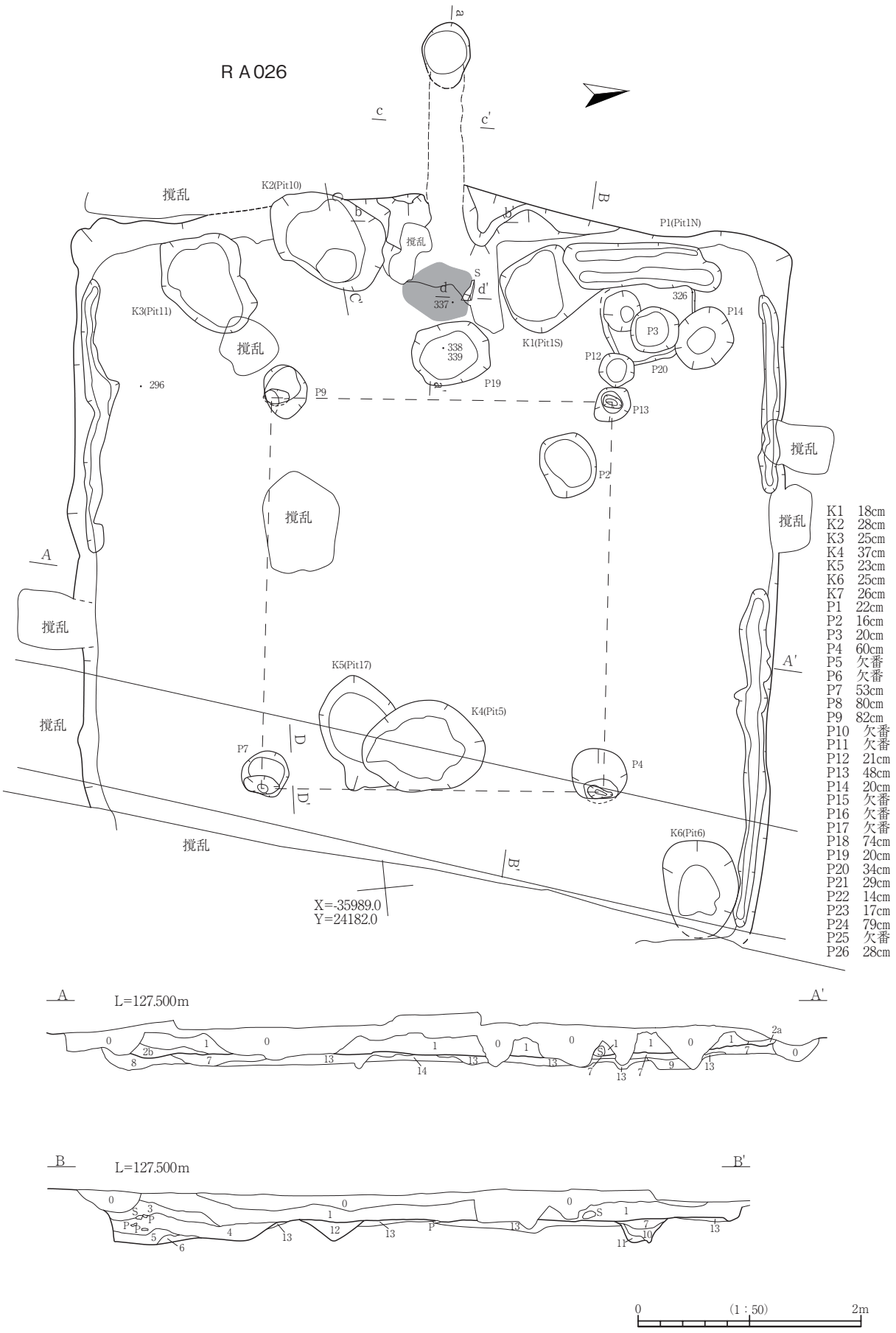




ＲＡ025a
1.　10YR3/2黒褐色　シルト　焼土Ｂ・地山小Ｂ含む
2.　10YR4/2灰黄褐色　シルト　黒色シルトＢ含む

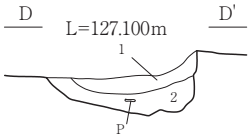
0　(1：20)　1m

第 41 図　RA025


R A 026
撹乱
K2(Pit10)
P1(Pit1N)
K3(Pit11)
K1(Pit1S)
P3
P14
P12
P20
P19
P9
P13
P2
K5(Pit17)
K4(Pit5)
P7
P4
K6(Pit6)
X=-35989.0
Y=24182.0
K1 18cm
K2 28cm
K3 25cm
K4 37cm
K5 23cm
K6 25cm
K7 26cm
P1 22cm
P2 16cm
P3 20cm
P4 60cm
P5 欠番
P6 欠番
P7 53cm
P8 80cm
P9 82cm
P10 欠番
P11 欠番
P12 21cm
P13 48cm
P14 20cm
P15 欠番
P16 欠番
P17 欠番
P18 74cm
P19 20cm
P20 34cm
P21 29cm
P22 14cm
P23 17cm
P24 79cm
P25 欠番
P26 28cm
L=127.500m
L=127.500m
0 (1：50) 2m

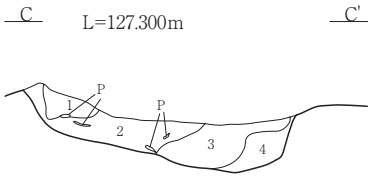
第 42 図　RA026（1）

R A026AB
0.　撹乱
1.　10YR2/2.5黒褐色　シルト　粘性弱　しまり中　地山小B７～10%
2a.　5YR3/3暗赤褐色　シルト　粘性弱　しまりやや弱　地山B２～３%、黒褐色B20～25%
2b.　5YR3/3暗赤褐色　シルト　粘性弱　しまりやや弱　地山B５～７%
3.　10YR2/2黒褐色　シルト　粘性・しまり中　地山B３～５%
4.　10YR3/2黒褐色　シルト　粘性・しまり中　地山B２～３%、焼土小B２～３%、土器片含む
5.　10YR1.7/1黒色　シルト　粘性中　しまりやや弱　地山B２～３%
6.　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性やや強　しまり中　黒褐色B２～３%
7.　10YR2/2黒褐色　シルト　粘性・しまり中　地山B20～25%
8.　10YR2/1黒色　シルト　粘性弱　しまりやや弱　地山B５～７%
9.　10YR4/4褐色　シルト　粘性やや強　しまり中　黒褐色B５～７%
10.　10YR2/2黒褐色　シルト　粘性強　しまりやや弱　地山B３～５%
11.　10YR/4褐色　シルト　粘性やや強　しまり中　黒褐色小B５～７%
12.　10YR2/3黒褐色　シルト　粘性やや弱　しまり中　地山小B２～３%、焼土小B３～５%
13.　10YR4.5/6黄褐色　シルト　粘性中　しまりやや強　黒褐色小B（φ10～20㎜）７～10%
14.　10YR5/6黄褐色　砂質シルト　粘性中　しまり強　黒褐色小B（φ10～20㎜）７～10%



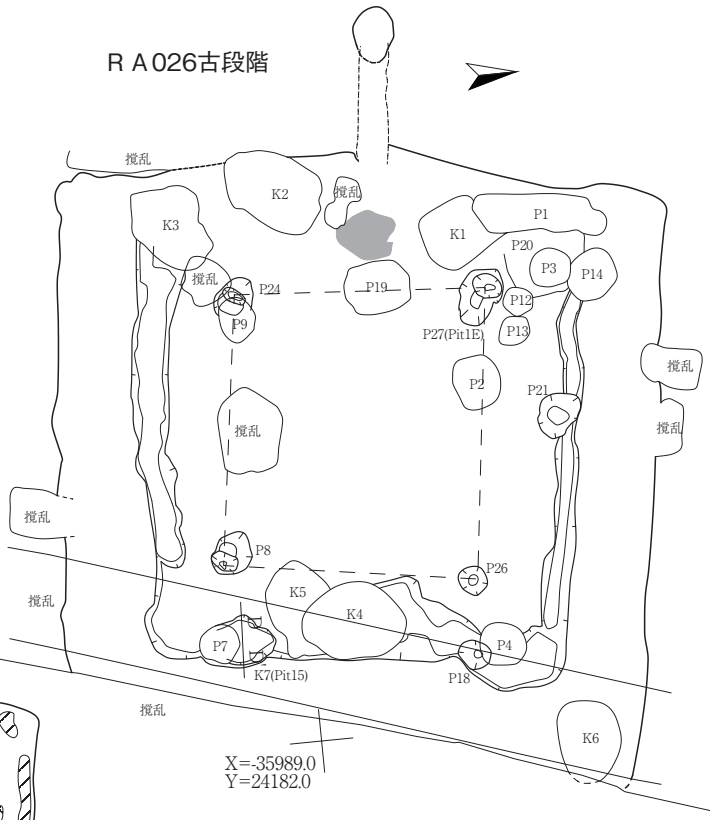
R A026D
1.　10YR5/6黄褐色　シルト　粘性中　しまりやや強
　焼土小B３～５%
2.　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性・しまり中
　焼土B7～10%

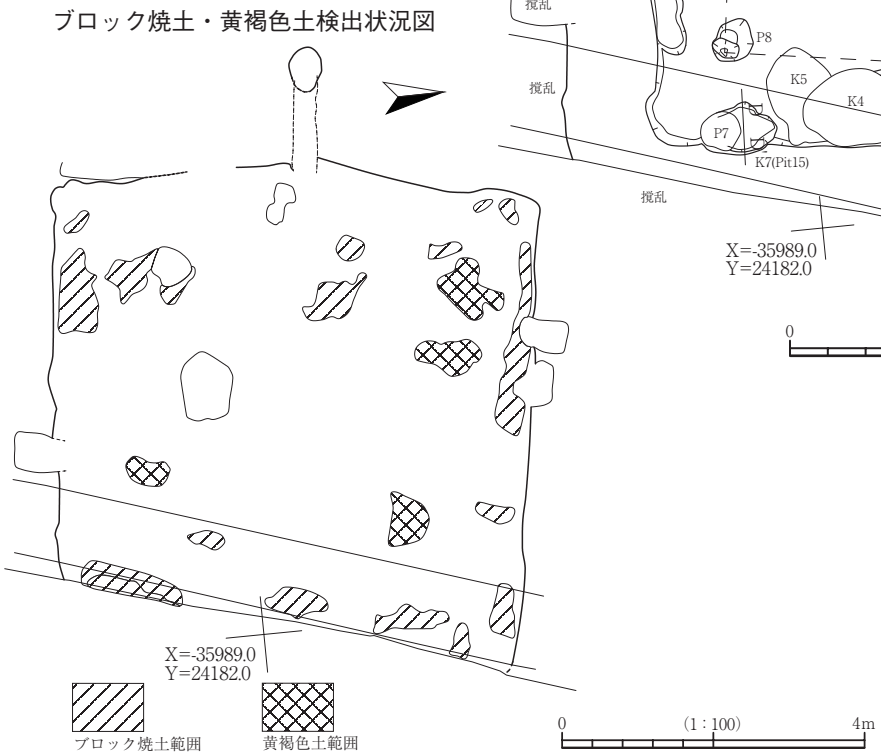
0　(1：25)　1m



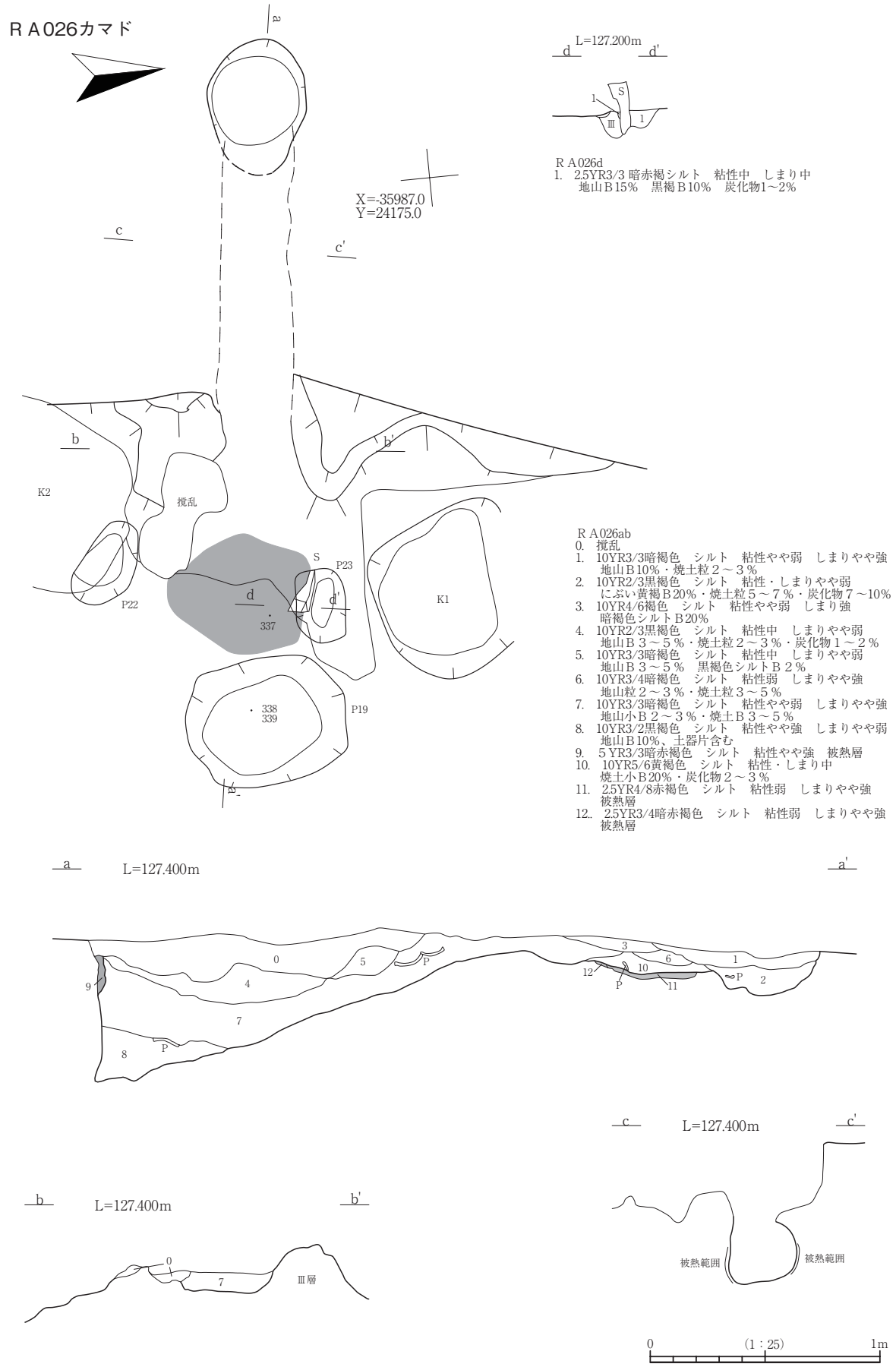
R A026C
1.　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　地山B10%・焼土粒１～２%
2.　５YR2/2黒褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　焼土B10%・炭化物３%
3.　10YR2/1黒色　シルト　粘性中　しまりやや弱
　地山B５～７%・焼土B３～５%
4.　10YR4/4褐色　シルト　粘性中　しまりやや強
　黒褐色シルトB10%・焼土B１～２%

0　(1：25)　1m





第43図　RA026（2）

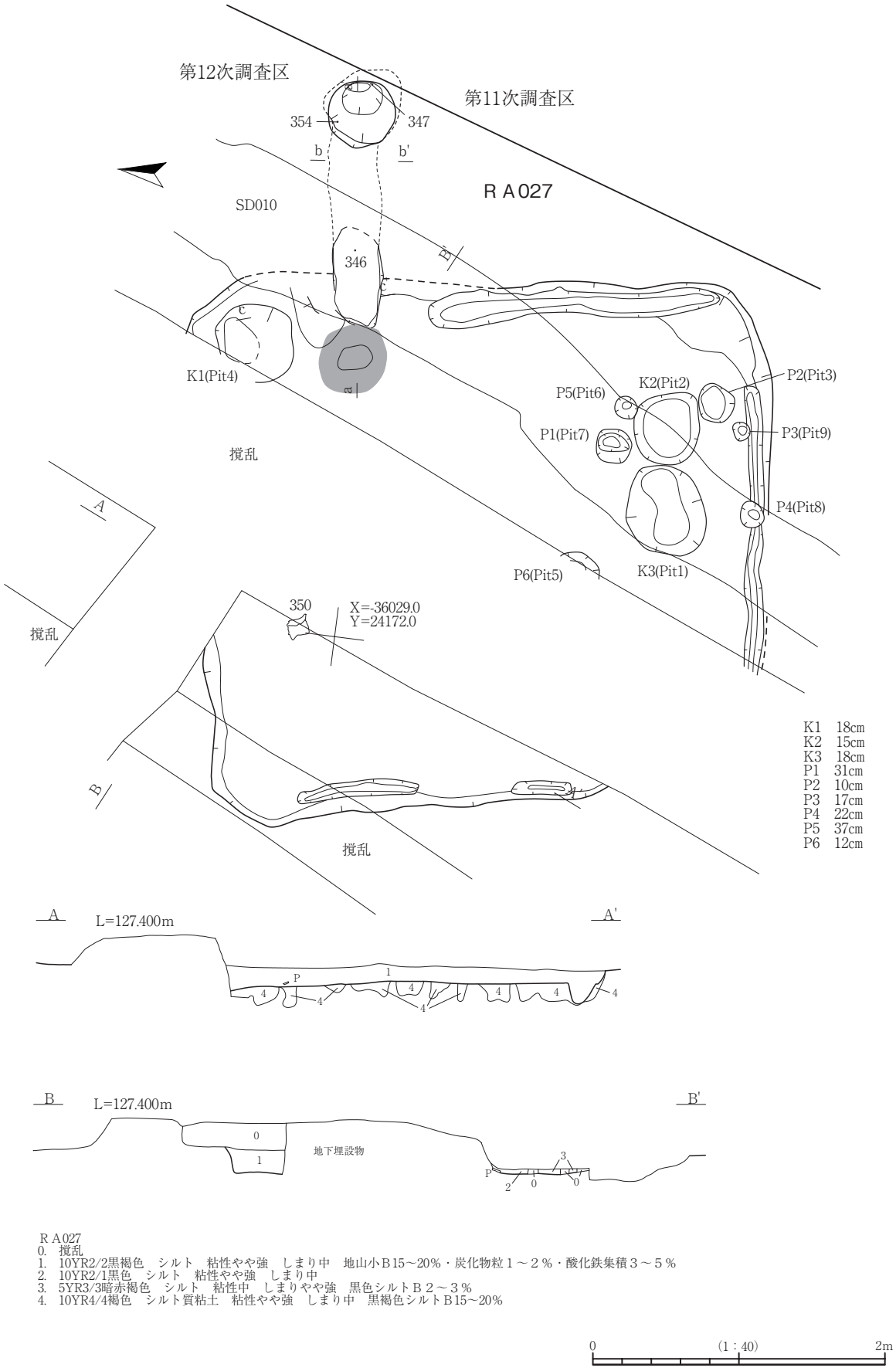

ＲＡ026カマド
L=127.200m
d
d'
S
1
Ⅲ
1
ＲＡ026d
1.　2.5YR3/3 暗赤褐シルト　粘性中　しまり中
地山Ｂ15%　黒褐Ｂ10%　炭化物1～2%
X=-35987.0
Y=24175.0
c
c'
b
b'
K2
撹乱
S
P23
d
d'
P22
337
K1
338
339
P19
ＲＡ026ab
0.　撹乱
1.　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや強
地山Ｂ10%・焼土粒２～３%
2.　10YR2/3黒褐色　シルト　粘性・しまりやや弱
にぶい黄褐Ｂ20%・焼土粒５～７%・炭化物７～10%
3.　10YR4/6褐色　シルト　粘性やや弱　しまり強
暗褐色シルトＢ20%
4.　10YR2/3黒褐色　シルト　粘性中　しまりやや弱
地山Ｂ３～５%・焼土粒２～３%・炭化物１～２%
5.　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性中　しまりやや弱
地山Ｂ３～５%　黒褐色シルトＢ２%
6.　10YR3/4暗褐色　シルト　粘性弱　しまりやや強
地山粒２～３%・焼土粒３～５%
7.　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや強
地山小Ｂ２～３%・焼土Ｂ３～５%
8.　10YR3/2黒褐色　シルト　粘性やや強　しまりやや弱
地山Ｂ10%、土器片含む
9.　5YR3/3暗赤褐色　シルト　粘性やや強　被熱層
10.　10YR5/6黄褐色　シルト　粘性・しまり中
焼土小Ｂ20%・炭化物２～３%
11.　2.5YR4/8赤褐色　シルト　粘性弱　しまりやや強
被熱層
12..　2.5YR3/4暗赤褐色　シルト　粘性弱　しまりやや強
被熱層
a
L=127.400m
a'
0
5
P
3
6
1
9
4
12
10
P
11
P
2
7
8
P
c
L=127.400m
c'
被熱範囲
被熱範囲
b
L=127.400m
b'
0
7
Ⅲ層
0
(1：25)
1m

第 44 図　RA026（3）

［カマド］カマドの作り替えは確認されなかった。
［付属施設］古段階に帰属すると考えられるものは、土坑（K7）1基と柱穴6個である。K7は新段階の主柱穴の可能性が高いP7により切られており、古段階の土坑と判断した。P8・24・26・27は位置関係から主柱穴の可能性が高い。P24はP9に切られている。
遺物（第102～106図、写真図版70～73）
［土器］14364.2g（土師器11566.1g、須恵器2798.1g）出土した。掲載遺物は土師器坏8点、土師器高台付坏1点、土師器鉢1点、土師器甕12点、須恵器坏15点、須恵器壺1点、須恵器袋物1点である。296・297はⅠB類、298はⅡ類、299～302はⅢB類、303はⅢ類の土師器坏である。298はP12から、299はK1から、300は主にP1から出土した。304はⅡB類の土師器高台付坏である。305はⅡ類の土師器鉢である。306～314はⅰ類、315～317はⅱ類の土師器甕である。306・307は主に床面直上から、308～310は主にカマド及び煙道から、311～313は主にK1から、316・317は主にP14から出土した。318～332はB類の須恵器坏である。318は床面直上から､319～322は主にK1から、323はP2から、324は主にK2から、325はP15から、326は埋土最下部（P1）から、327・328は主にカマド周辺から出土した。333は須恵器壺、334は細分のできなかった須恵器である。上記以外に埋土から陶磁器（24.8g）が出土したが、耕作に伴う近年の混入の可能性が高い。
［土製品］335は洋梨形をした用途不明の土製品である。カマド付近の埋土から出土した。
［石器類］掲載遺物は砥石1点である。336は埋土下部から出土したデイサイト製の砥石である。比較的大形のもので、置砥石の可能性が高い。面取りは行われていない。
［その他］金属製品216.89g出土した。掲載遺物は刀子5点、鉄塊1点である。337は刀身部を欠損した刀子である。2点が接合した。無関で、背と刃はほぼ平行している。338は刀子の刀身部の一部と茎部の大半を欠損しているものである。2点が接合した。両関のもので、刀身部は細身でほぼ平行している。340と同一個体の可能性が高い。339・341は刀子の茎部の一部である。340は刀子の刀身部の一部である。細身のもので、背と刃はほぼ平行している。ふくらを有する小形のものである。
時期　平安時代（10世紀前半）と推定される。（北村）

RA027 竪穴住居跡（SI16）

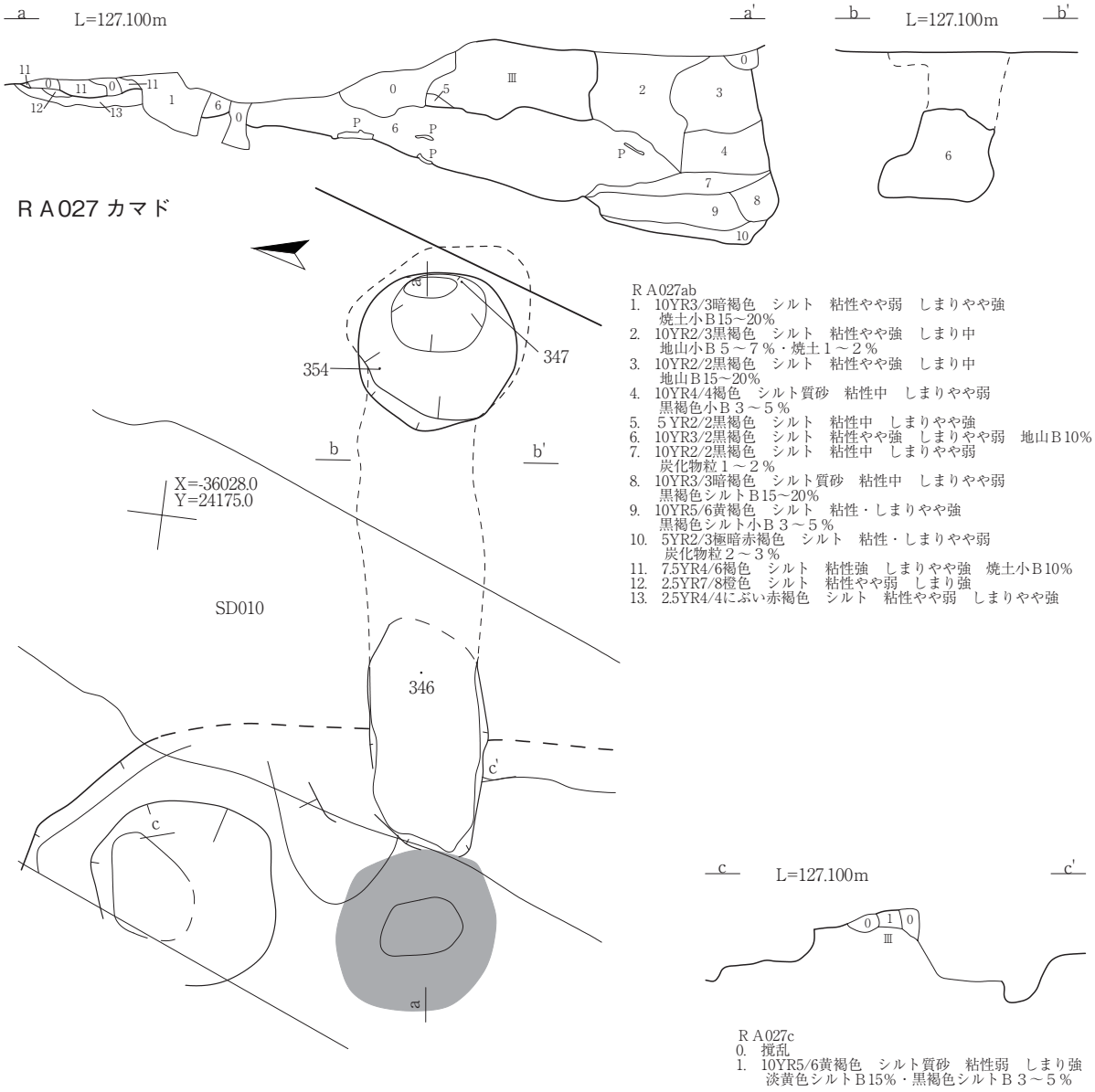
遺構（第45・46図、写真図版36・37）
［位置・検出状況］24J区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。RG010と重複しており、本遺構が古い。また、中央の広い範囲を地下埋設物敷設によって壊されている。
［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸長方形である。規模は、北西南東方向が390㎝、北東南西方向が354㎝である。Ⅲ層を掘り込み、Ⅲ層に起因する褐色シルト（4層）主体の掘り方埋土を床材として、平坦な床面を構築している。壁の残存状態は良くないが、残存する部分では直立気味になっている。検出面から床面までの深さは26㎝である。
［カマド］北東壁の北寄りに位置する。煙道部は刳り貫き式である。軸方向がＥ５°Ｎで、北東壁に対してほぼ直交する。煙出しに向かって下がり、先端部までの長さは165㎝である。煙出しPitは、開口部46×46㎝、深さ63㎝で、中間部の一部が開口部よりもやや外側へ膨らむ。燃焼部焼土は、47×47㎝の範囲で焼成を受け、焼成深度は0㎝である。袖は燃焼部焼土の北側のみ残存し、地山の削りだし部分を芯として、Ⅲ層に起因する黄褐色シルトで構築している。
［付属施設］北隅で1基、東側で2基の土坑を確認し、K1～K3とした。K1は地山塊・焼土塊・黒色シルト塊を含む暗褐色シルトの単層で、人為堆積の可能性が高い。埋土から須恵器が出土した。



R A 027
0.　撹乱
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　粘性やや強　しまり中　地山小Ｂ15～20％・炭化物粒１～２％・酸化鉄集積３～５％
2.　10YR2/1黒色　シルト　粘性やや強　しまり中
3.　5YR3/3暗赤褐色　シルト　粘性中　しまりやや強　黒色シルトＢ２～３％
4.　10YR4/4褐色　シルト質粘土　粘性やや強　しまり中　黒褐色シルトＢ15～20％

0　(1：40)　2m

第 45 図　RA027（1）



第 46 図　RA027（2）

K2 は黒褐色シルト塊や焼土粒を含む暗褐色シルト、K3 は地山塊や焼土粒を含む黒色シルトの単層である。この他、6 個の Pit を確認したが、東側に偏っており、規則性は見いだせなかったが、P1 が他のものと比較すると、深度があり、主柱穴の可能性がある。

［埋土］4 層に細分した。4 層は貼床である。カマド周辺では赤変している堆積層が確認できるが、大部分は混入物の多い黒褐色シルト（1 層）で埋没している。人為堆積の可能性が高いと捉えている。

遺物（第 106・107 図、写真図版 73・74）

［土器］3217.5g（土師器 2458.2g、須恵器 759.3g）出土した。掲載遺物は土師器坏 2 点、土師器鉢 1 点、土師器甕 3 点、須恵器坏 1 点、須恵器壺 2 点、須恵器袋物 1 点である。343・344 はⅠ B 類の土師器坏である。2 点とも主に燃焼部周辺から出土した。345 はⅠ類の土師器鉢である。燃焼部周辺から出土した。346 ～ 348 は ii 類の土師器甕である。346 は煙道底面直上から、347 は煙出し Pit 埋土下部から、348 は K2 から出土した。349 は細分できなかった須恵器坏である。350・351 は須恵器壺である。350

は床面直上から出土した。352 は K3 から出土した須恵器の袋物である。詳細な器種は特定できなかった。
［石器］縄文時代の石鏃が 1 点出土したが、本遺構に帰属するものではないため、遺構外遺物として報告する。
［その他］金属製品 49.19g 出土した。掲載遺物は刀子 3 点である。353・354 は刀身部を欠損した刀子である。4 点の破片で出土したが、刀身部の錆膨れがひどく、刀身部～茎部と刀身部の 2 点となったため、前者を 353、後者を 354 とした。両関のもので、背と刃はほぼ平行している。ふくらを有する大形のものと考えられる。木質部が残存している。355 は刀子の刀身部である。353・354 と同一個体の可能性がある。
時期　平安時代（10 世紀前半）と推定される。（北村）

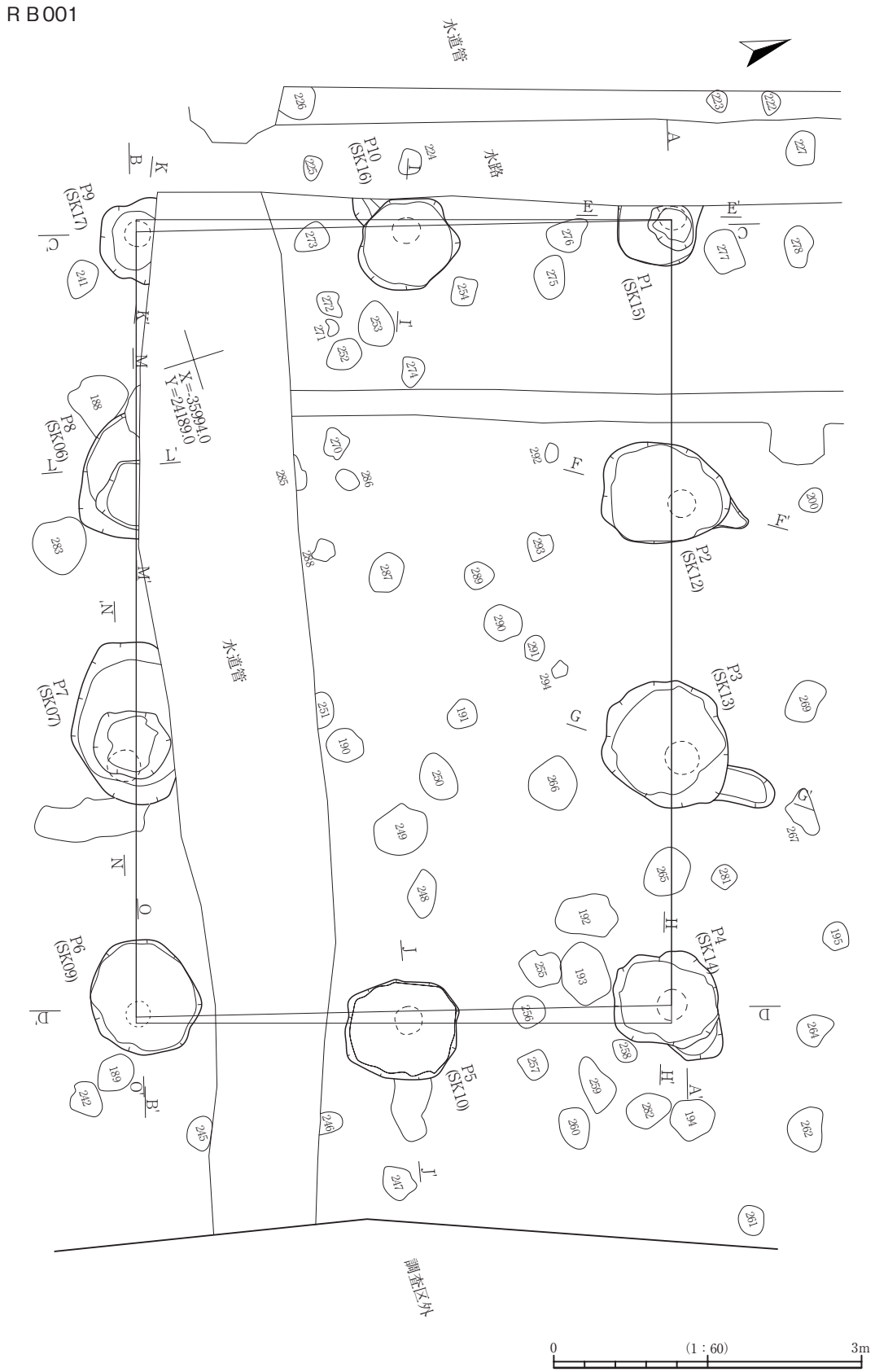
2　掘立柱建物跡（RB）

RB001 掘立柱建物跡（SB01）

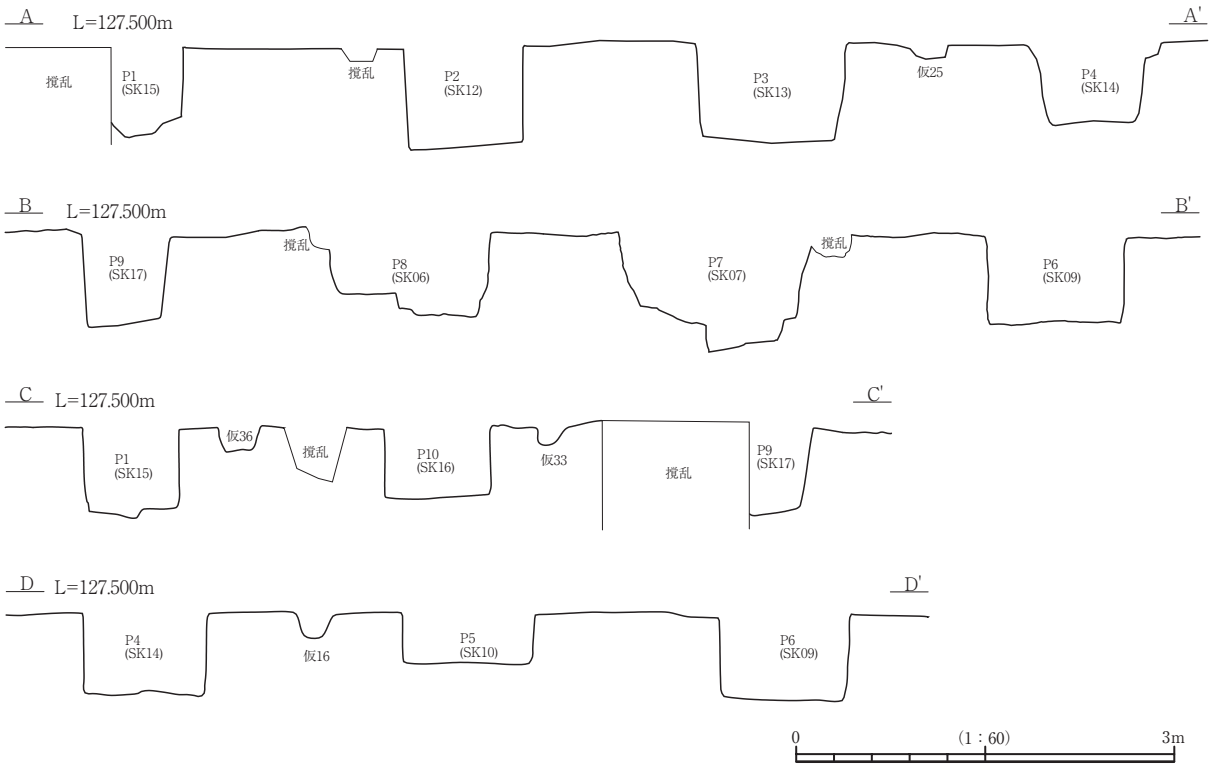
遺構（第 47 ～ 50 図、写真図版 38 ～ 40）
［位置・検出状況］C 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。検出当初は、P2 ～ 8 を含む範囲しか表土を除去しておらず、P1・9・10 は表土下であった。断面に柱痕跡らしき状況を確認したため、西側の表土も除去した結果、P1・9・10 を検出し、掘立柱建物と判断した。また、検出時点では掘立柱建物の柱穴ということは想定していなかったため、柱痕跡を確認せずに半裁を行っている。
［建物の形状・規模］長軸方向は、W17.5° N である。柱痕跡の位置を結ぶと、桁方向、梁方向とも向かい合う 2 辺は平行であるが、桁と梁が直交からややずれ、平行四辺形となる。このラインから規模を推定すると、桁行は全長 7.65m で柱間 2.55m × 3 間、梁行は 5.22m で柱間 2.61m × 2 間である。
［埋土］柱痕跡は、黒色～黒褐色土主体である。柱痕跡の上位が大きく広がるものがあり、これらは柱の抜き取りが行われたものと推定している。掘り方埋土は、黒褐色土主体で、黄褐色土ブロックが多く混入する層とあまり混入しない層が交互に水平に堆積し、人為的に埋め戻された状況が伺える。
［柱穴］10 個の柱穴（P1 ～ 10）で構成される。
P1　建物の北西隅に位置する。東側は撹乱により削平される。掘り方の平面形は方形と推定され、開口部径は南北方向で 78㎝、深さ 68㎝である。底面は、北側が 1 段下がる。壁は直立に近く、開口部より下位がやや外側へ広がる。柱痕跡は、柱穴の中央よりやや北寄りにある。直径 24㎝程度で、開口部から底面まで達する。
P2　北辺側に位置する。平面形は方形基調で、北東側に突出する。開口部径 128 × 98㎝、深さ 78㎝である。底面は平坦である。壁は、開口部付近がやや開くものの、下位は直立に近い。柱痕跡は、中央からやや北西寄りに位置する。開口部付近の広がりは、柱の抜き取りにより破壊されたものと推測される。
P3　北辺側に位置する。平面形は方形基調で、開口部径 134 × 116㎝、深さ 68㎝である。北西側に、細長く浅い掘り込みが付随し、抜き取り痕と判断した。上位は抜き取り後の埋没と考えられる。底面は平坦で、壁は直立に近い。掘り方のやや北西寄りに柱があったと推定される。
P4　北東隅に位置する。平面形は方形基調である。開口部径 106 × 92㎝、深さ 66㎝である。底面は平坦で、壁は直立に近い。北西側が突出し、抜き取りの痕跡と推測される。柱は、掘り方の中央からやや北西寄りにあったと推定される。

P5　東辺中央に位置する。掘り方の平面形は方形基調で、開口部径 106 × 94cm、深さ 46cmである。底面は概ね平坦で、壁はほぼ直立する。柱痕跡は中央からやや北西寄りに位置する。
P6　南東隅に位置する。掘り方の平面形は円形基調で、開口部径 112 × 106cm、深さ 68cmである。底面は平坦で、壁は直立に近い。柱痕跡はやや東寄りの位置に確認した。上位の 1 ～ 3 層は抜き取り後埋め戻されたものと推定される。
P7　建物の南辺側に位置する。北側は撹乱により大きく削平され、東側は壁の上位を撹乱に切られる。平面形は楕円形と推定される。開口部径は東西 156cm、南北方向の残存値が 98cm、深さは 86cmである。壁は外傾し、底面は、東側が一段深くなる。柱痕跡は、柱穴の東側に確認した。断面の上位までは達しておらず、抜き取られたものと推測される。
P8　建物の南辺側に位置する。北側は撹乱により大きく削平される。開口部径は東西 124cm、南北方向の残存値が 56cm、深さ 64cmである。壁は直立し、底面は東側が 1 段深くなる。柱痕跡は、平面・断面いずれにおいても確認できなかった。
P9　建物の南西隅に位置する。北側は撹乱により大きく削平される。平面形は円形または方形基調と推測され、開口部径は、東西 84cm、南北方向の残存値が 50cm、深さ 72cmである。柱痕跡は、埋土上位を少し掘り下げた段階で、平面的に確認した。柱穴の中央付近に位置する。底面までは達していない。撹乱のある北側方向から抜き取られた可能性がある。
P10　建物の西辺中央に位置する。平面形は円形基調で、開口部径 94 × 88cm、深さ 58cmである。柱痕跡は、柱穴の中央やや南西よりに位置する。上部が広がり、抜き取りにより削平された可能性がある。
遺物（第 108 図、写真図版 74）
［土器］P1 から 263.1g（土師器 121.9g、須恵器 141.2g）、P2 から 145.0g（土師器のみ）、P3 から 31.2g（土師器 14.0g、須恵器 17.2g）、P4 から 146.0g（土師器 78.5g、須恵器 67.5g）、P5 から 94.8g（土師器のみ）、P6 から 62.5g（土師器 27.9g、須恵器 34.6g）、P7 から 142.9g（土師器 105.1g、須恵器 37.8g）、P8 から 53.6g（土師器 42.0g、須恵器 11.6g）、P9 から 74.3g（土師器 59.9g、須恵器 14.4g）、P10 から 80.3g（土師器のみ）が出土した。掲載遺物は土師器坏 4 点、土師器甕 4 点、須恵器坏 6 点、須恵器壺 2 点である。356・357 はⅠ類、358・359 はⅡ類の土師器坏、360 ～ 362 は i 類、363 は ii 類の土師器甕、364 ～ 369 は細分のできなかった須恵器坏、370・371 は須恵器壺である。356・364 ～ 366 は P1 から、357・362 は P2 から、358・370 は P4 から、359 は P5 から、360・361・371 は P6 から、363 は P10 から、367 は P8 から、368・369 は P9 から出土した。
［その他］なし。
時期　平安時代と推定される。　（川又・北村）

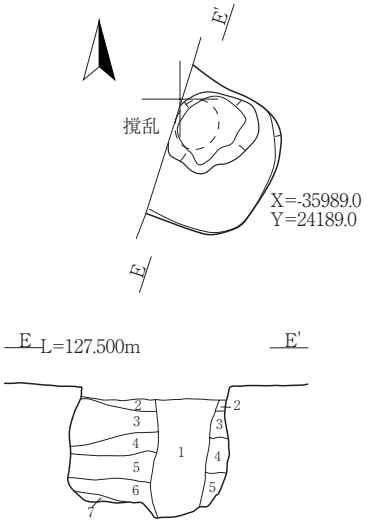
RB002 掘立柱建物跡（SB02）
遺構（第 51 図）
［位置・検出状況］B 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。
［建物の形状・規模］平面形は、長方形とはならず歪である。構成する柱穴は計 8 個（P1 ～ 8）で、東辺と西辺それぞれ 4 個ずつである。東辺は柱穴がほぼ等間隔で一直線状に配列するが、西辺は配列が乱れる。北辺と東辺のみ直交し、向かい合う辺どうしは平行とならない。東辺を基準とすれば、長軸方向は、N13° E である。規模は、北辺長 256cm、東辺長 444cmである。
遺物
［土器］P7（P213）から土師器 8.0g が出土した。掲載遺物はない。


RB001
水道管
水路
P1 (SK15)
P2 (SK12)
P3 (SK13)
P4 (SK14)
P5 (SK10)
P6 (SK09)
P7 (SK07)
P8 (SK06)
P9 (SK17)
P10 (SK16)
X=-35994.0
Y=24189.0
調査区外
0
(1：60)
3m

第47図　RB001（1）

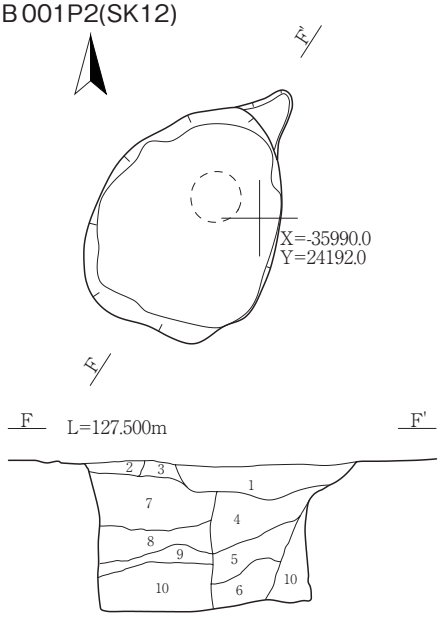


R B 001P1(SK15)



RB001P1(SK15)
1. 10YR3/1黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　炭化物粒（φ5mm）1%、黄橙色土（10YR7/8）粒（φ1～15mm）15%
2. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒褐色土（10YR3/1）15%
3. 10YR3/1黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）10%
4. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒色土（10YR2/1）5%
5. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）粒（φ5mm）5%
6. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり中　粘性中
　黒褐色土（10YR3/1）15%
7. 10YR3/1黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR6/8）ブロック（φ10mm）10%

R B 001P2(SK12)

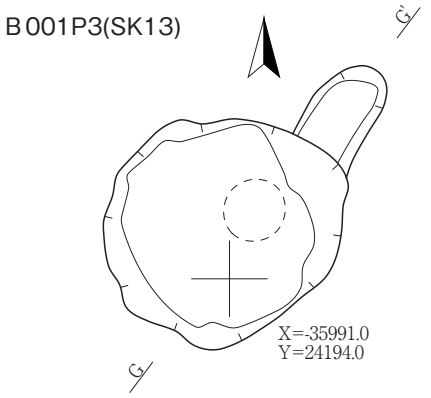


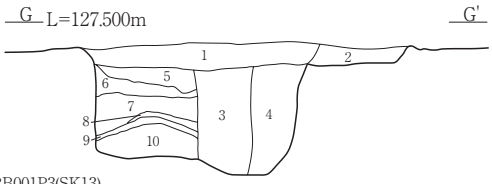
RB001P2(SK12)
1. 10YR3/1黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　褐色土（10YR4/6）ブロック（φ10mm）3%
2. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　黒色土（10YR2/1）ブロック（φ50mm）5%
3. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　黒色土（10YR2/1）ブロック（φ10mm）3%
4. 10YR3/1黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　炭化物粒（φ1～2mm）、褐色土（10YR4/6）ブロック（φ1～20mm）20%
5. 10YR3/1黒褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　褐色土（10YR4/6）ブロック（φ20mm）3%
6. 10YR4/6褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　黒褐色土（10YR3/1）ブロック（φ50mm）10%
7. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　黒色土（10YR2/1）ブロック（φ50mm）5%、黒褐色土（10YR3/1）10%
8. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　黒色土（10YR2/1）ブロック（φ50mm）3%、黒褐色土（10YR3/1）20%
9. 10YR3/1黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）5%
10. 10YR4/3褐色　シルト　しまり強　粘性弱　黒褐色土3%

0　(1：40)　2m

第48図　RB001（2）

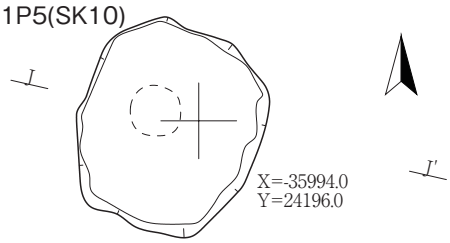
R B 001P3(SK13)

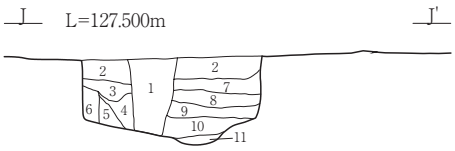




RB001P3(SK13)
1. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性弱
　褐色土（10YR4/6）ブロック（φ10mm）10%
2. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　褐色土（10YR4/6）ブロック（φ30mm）20%
3. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　炭化物粒（φ1～5mm）3%、明黄褐色土（10YR7/6）粒（φ1～10mm）20%
4. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）粒（φ1～5mm）7%
5. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　黒褐色土（10YR2/3）25%
6. 10YR3/1黒褐色　シルト　しまり中　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ10mm）3%
7. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒褐色土（10YR3/2）25%、黒色土（10YR2/1）5%
8. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒褐色土（10YR3/2）3%
9. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり中　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）10%
10. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒色土（10YR2/1）ブロック（φ50mm）5%、黒褐色土（10YR3/2）20%

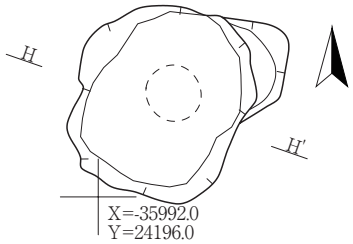
R B 001P5(SK10)

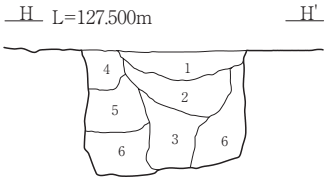




RB001P5(SK10)
1. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性強
　炭化物粒（φ5～15mm）5%、明黄褐色土（10YR6/8）ブロック（φ50mm）3%、
　明黄褐色土（10YR6/8）粒（φ3mm）1%
2. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　明黄褐色土（10YR6/8）ブロック（φ10mm）10%
3　10YR2/1黒色　シルト　しまり中　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）粒（φ1～10mm）1%
4. 10YR4/4褐色　シルト　しまり中　粘性弱
　明黄褐色土（10YR6/8）ブロック（φ10mm）5%、黒色土（10YR2/1）5%
5. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR6/8）粒（φ2mm）5%、黒色土（10YR2/1）3%
6. 10YR3/3暗褐色　シルト　しまり中　粘性中
　明黄褐色土（10YR6/8）ブロック（φ10mm）5%、黒褐色土（10YR3/2）10%
7. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒色土（10YR2/1）5%、黒褐色土（10YR3/2）3%
8. 10YR7/8黄橙色　シルト　しまり強　粘性中
　黒褐色土（10YR3/2）1%、黒色土（10YR2/1）3%
9. 10YR3/1黒褐色　シルト　しまり中　粘性中
　明黄褐色土（10YR6/8）ブロック（φ10mm）3%、黒褐色土（10YR3/2）15%
10. 10YR7/8黄橙色　シルト　しまり中　粘性中
　黒褐色土（10YR3/2）3%、黒色土（10YR2/1）5%
11. 10YR2/1黒色　シルト　しまり中　粘性中　明黄褐色土（10YR7/8）1%

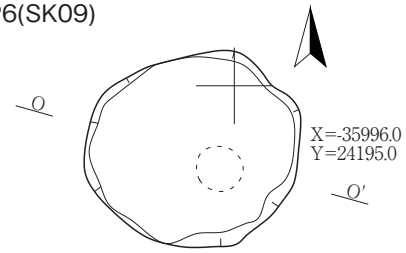
R B 001P4(SK14)

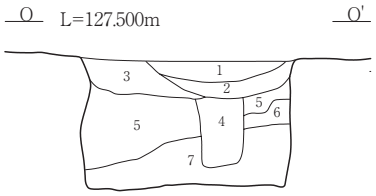




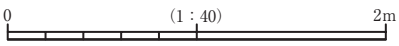
RB001P4(SK14)
1. 10YR3/1黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　褐色土（10YR4/6）粒（φ5mm）5%
2. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性強
　褐色土（10YR4/6）ブロック（φ30mm）10%
3. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性強
　炭化物粒（φ10mm）1%、
　褐色土（10YR4/6）ブロック（φ30～50mm）10%
4. 10YR4/6褐色　シルト　しまり強　粘性強
　黒褐色土（10YR2/2）（φ10mm）5%
5. 10YR3/1黒褐色　シルト　しまり強　粘性強
　明黄褐色土（10YR6/8）ブロック（φ50mm）15%
6. 10YR4/6褐色　シルト　しまり強　粘性強
　黒褐色土（10YR2/2）ブロック（φ10mm）5%

R B 001P6(SK09)



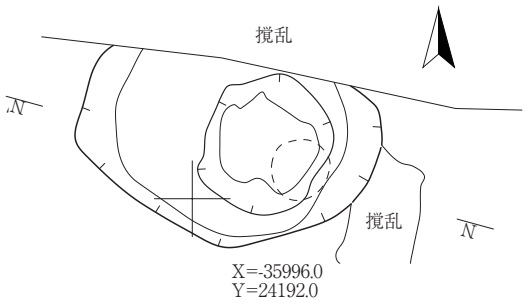


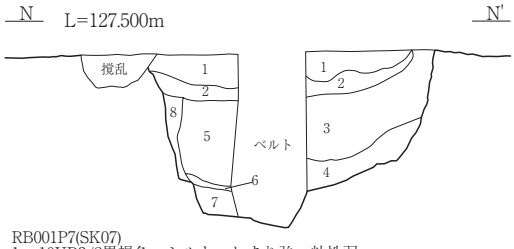
RB001P6(SK09)
1. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　明黄褐色土（10YR6/8）粒（φ5mm）15%
2. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性弱
　明黄褐色土（10YR6/8）粒（φ3mm）3%
3. 10YR4/4褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　黒褐色土（10YR2/2）ブロック（φ10mm）5%
4. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR6/8）粒（φ1～25mm）15%
5. 10YR4/6褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒色土（10YR2/1）ブロック（φ15mm）5%、
　黒褐色土（10YR2/2）粒（φ5mm）3%
6. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中
　褐色土（10YR4/6）ブロック（φ10mm）3%
7. 10YR4/6褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒色土（10YR2/1）ブロック（φ10mm）3%、
　黒褐色土（10YR2/2）15%



第 49 図　RB001（3）

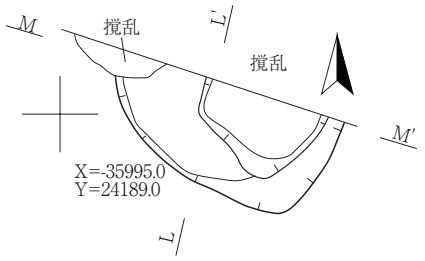
ＲＢ001P7(SK07)

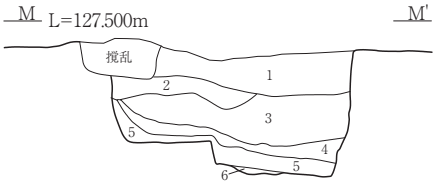


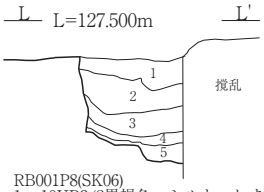


RB001P7(SK07)
1. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　褐色土（10YR4/6）ブロック（φ50～mm）15%
2. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中
　褐色土（10YR4/6）ブロック（φ10mm）3%
3. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　褐色土（10YR4/6）ブロック（φ50mm）50%
4. 10YR4/6褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒褐色土（10YR3/2）ブロック（φ30mm）10%
5. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　炭化物粒（φ10mm）1%、褐色土（10YR4/6）ブロック（φ30mm）10%
6. 10YR4/6褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　黒色土（10YR2/1）ブロック（φ10mm）3%
7. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中
　黒褐色土（10YR3/2）ブロック（φ50mm）10%
8. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ25mm）20%、
　黒色土（10YR2/1）ブロック（φ20mm）5%

ＲＢ001P8(SK06)

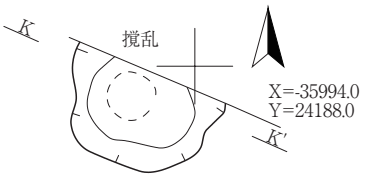


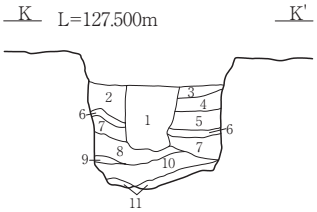




RB001P8(SK06)
1. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　褐色土（10YR4/6）ブロック（φ10mm）15%
2. 10YR6/8明黄褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　黒褐色土（10YR3/2）ブロック（φ30mm）15%
3. 10YR6/8明黄褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　黒色土（10YR2/1）ブロック（φ15mm）5%
4. 10YR2/1黒色　シルト　しまり中　粘性中
5. 10YR6/8明黄褐色　シルト　しまり強　粘性弱
6. 7.5YR4/3褐色　シルト　しまり中　粘性中
　黒色土粒10%

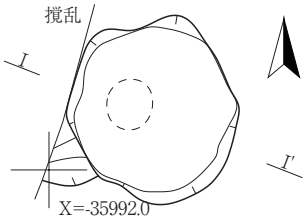
ＲＢ001P9(SK17)

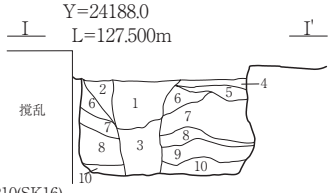




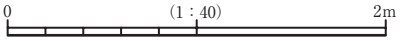
RB001P9(SK17)
1. 10YR3/1黒褐色　シルト　しまり中　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ25mm）10%
2. 10YR2/1黒色　シルト　しまり中　粘性中
　黄橙色土（10YR7/8）粒（φ5mm）5%
3. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり中　粘性中
　黒褐色土（10YR3/1）5%
4. 10YR7/8黄橙色　シルト　しまり強　粘性弱
　黒褐色土（10YR3/1）ブロック（φ10mm）5%
5. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり中　粘性中
　黒色土（10YR2/1）ブロック（φ50mm）15%
6. 10YR7/8黄橙色　シルト　しまり強　粘性中
　黒褐色土（10YR3/1）粒（φ5mm）1%
7. 10YR2/3黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）粒（φ1～10mm）15%、黒色土（10YR2/1）5%
8. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ15mm）3%
9. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまり中　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ10mm）1%
10. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒色土（10YR2/1）5%
11. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）粒（φ5mm）5%

ＲＢ001P10(SK16)





RB001P10(SK16)
1. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中
　炭化物粒（φ25mm）1%、黄橙色土（10YR7/6）ブロック20%
2. 10YR2/1黒色　シルト　しまり中　粘性中　黄褐色土粒4%
3. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中
　黄褐色土ブロック5%、炭化物粒5%
4. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒褐色土（10YR2/3）粒5%、黒色土（10YR2/1）粒3%
5. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中
　黒褐色土（10YR2/3）ブロック（φ10mm）3%
6. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒褐色土（10YR2/3）5%
7. 10YR2/3黒褐色　シルト　しまり強　粘性強
　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ10mm）3%、
　黒褐色土（10YR2/3）粒（φ5mm）10%
8. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒色土（10YR2/1）20%
9. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色土（10YR7/6）ブロック（φ10mm）3%
10. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒褐色土（10YR3/2）ブロック（φ10mm）5%



第50図　RB001（4）

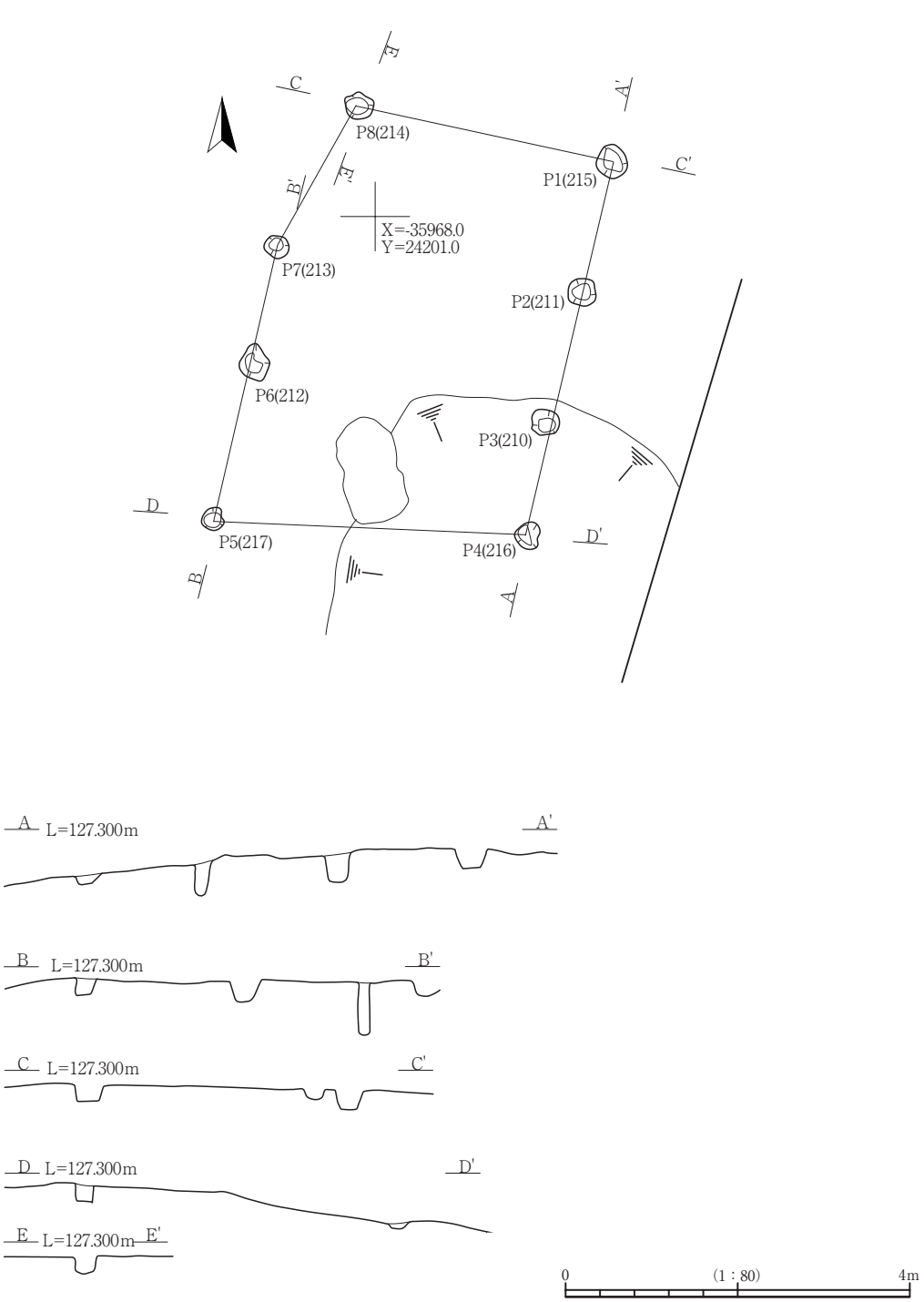
時期　平安時代と推定されるが、詳細は不明である。　（川又）

RB003 掘立柱建物跡（SB04）

遺構（第 52 図、写真図版 41）

［位置・検出状況］24HI 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、地下埋設物敷設により P3 の一部が壊されている。

［建物の形状・規模］平面形は長方形である。構成する柱穴は 8 個で、中央に柱穴のない、2 × 2 間



第 51 図　RB002

の建物である。長軸方向は、N22° E である。規模は北辺長 575cm、東辺長 686cmである。

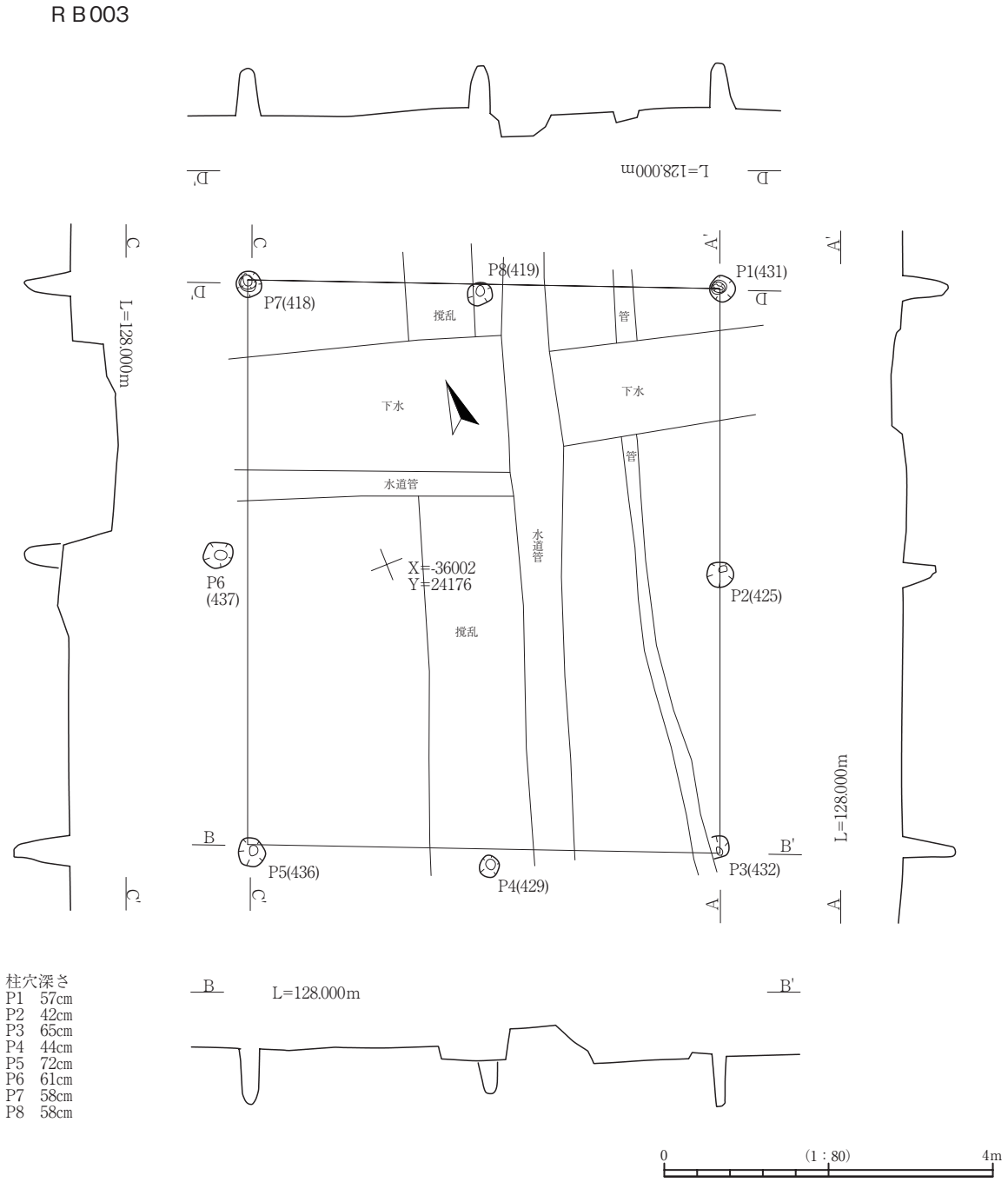
［埋土］P4 は地山塊を含む黒色シルトの単層であるが、その他は地山塊を含む黒褐色シルトの単層である。

遺物

［土器］P3（P432）から土師器 2.4g、P4（P429）から土師器 3.9g、P6（P437）から土師器 4.2g、P7（P418）から土師器 10.1g、P8（P419）から土師器 1.7g が出土した。小片のみであり、掲載遺物はない。

［その他］なし。

時期　平安時代と推定される。　（北村）



第 52 図　RB003

RB004 掘立柱建物跡（SB03）

遺構（第 53 図、写真図版 41）

［位置・検出状況］23E 区に位置する。P5 ～ P8 を第 12 次調査で検出し、図面上で復元した建物である。いずれの柱穴もⅢ層上面で検出した。重複する遺構はないが、大きな撹乱が隣接しており、柱穴 2 個を壊しているものと考えられる。

［建物の形状･規模］平面形は長方形である。構成する柱穴は 8 個で､2 × 3 間の建物である。長軸方向は、N7° E である。規模は北辺長 565cm、東辺長 750cmである。

［埋土］いずれも黒褐色シルト主体である。

遺物（第 115 図、写真図版 80）

［土器］P7（P401）から土師器 4.6g が出土した。小片のみであり、掲載遺物はない。

［その他］P2（P159）から寛永通寶が 1 点（455）出土し、掲載した。

時期　遺物量が少ないため、断定はできないが、P2 から寛永通寶が出土しており、近世に帰属する可能性が高い。（北村）

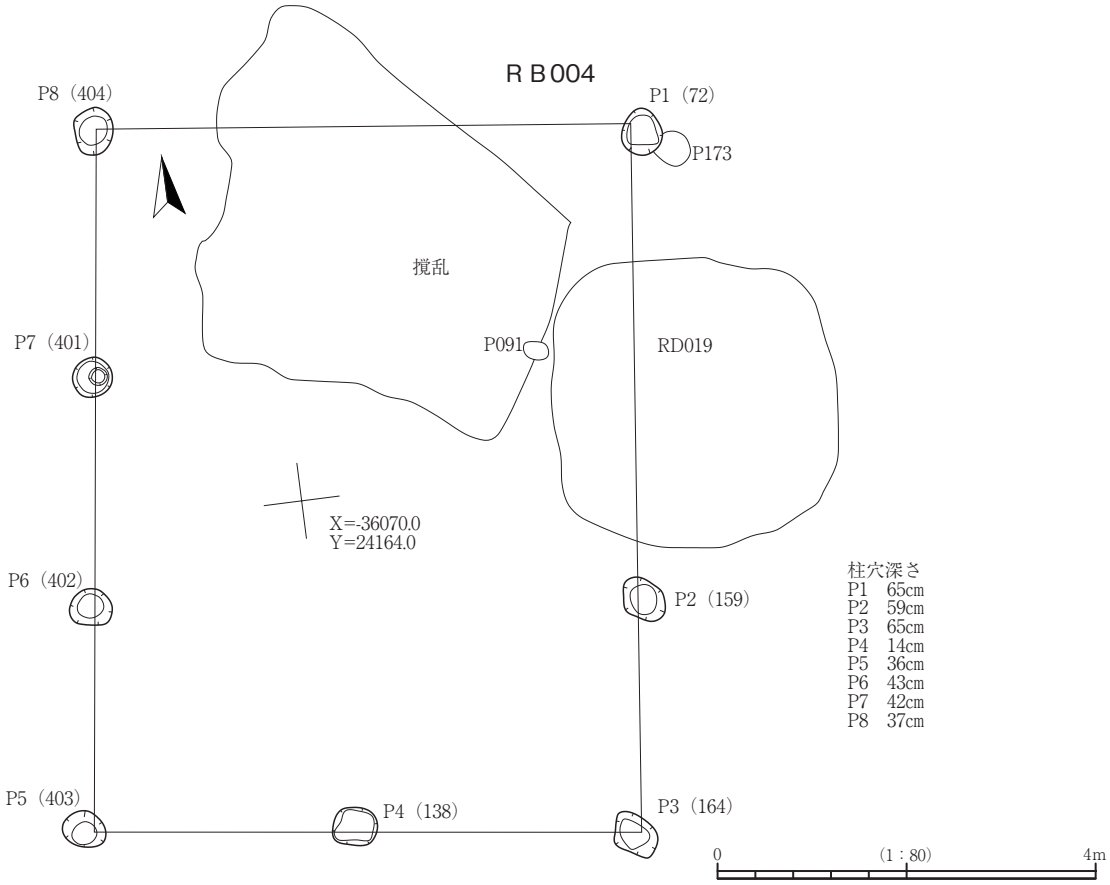
3　土　　坑（RD）

RD007 陥し穴状遺構（SKT01）

遺構（第 54 図、写真図版 42）

［位置・検出状況］23E 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。P130 に北壁の一部を切られる。

［形状・規模］平面形は溝状で、ほぼ直線状に延びる。長軸方向は E13° N、規模は、326 × 32cm、深



第 53 図　RB004

さ 48cmである。壁は、下位がほぼ直立し、開口部が外傾する。
［埋土］4 層に分層した。
遺物　なし。
時期・性格　遺構の形態から、縄文時代の陥し穴と推定される。（川又）

RD008 陥し穴状遺構（SKT02）
遺構（第 54 図、写真図版 42）
［位置・検出状況］23E 区に位置し、撹乱の底面で検出した。重複する遺構はないが、遺構の上位は全体的に削平されている。
［形状・規模］平面形は溝状で、ほぼ直線状に延びる。長軸方向は E9° N、規模は、326 × 32cm、深さ 48cmである。壁は、下位がほぼ直立し、開口部が外傾する。
［埋土］黒褐色土主体である。
遺物　なし。
時期・性格　遺構の形態から、縄文時代の陥し穴と推定される。（川又）

RD009 陥し穴状遺構（SKT03）
遺構（第 54 図、写真図版 42）
［位置・検出状況］23E 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。P143 に南東壁の一部を切られる。遺構の上位は撹乱により全体的に削平され、底部付近のみが残存していた。
［形状・規模］平面形は溝状で、ほぼ直線状に延びる。長軸方向は N1° W、規模は、290 × 16cm、深さ 16cmである。
［埋土］黒褐色シルトを主体とする。
遺物　なし。
時期・性格　遺構の形態から、縄文時代の陥し穴と推定される。（川又）

RD010 フラスコ状土坑（SKF01）
遺構（第 54 図、写真図版 42）
［位置・検出状況］23B 区に位置する。撹乱の底面で検出した。重複する遺構はないが、開口部付近は撹乱により全体的に削平されている。
［形状・規模］平面形は円形基調である。規模は、開口部径 112 × 94cm、深さ 52cmである。底面は概ね平坦である。壁は内傾し、底部は開口部より外側へ広がる。
［埋土］9 層に細分した。
遺物　土師器 3.5g が出土した。掲載遺物はない。
時期･性格　出土遺物から平安時代以降と推定される。遺構の形態から貯蔵穴の可能性がある。（川又）

RD011 土坑（SK01 土坑）
遺構（第 55 図、写真図版 43）
［位置・検出状況］23E 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はない。
［形状・規模］平面形は円形に近い。規模は、開口部径 120 × 106cm、深さ 12cmである。底面は概ね平坦であり、壁は外傾する。

［埋土］黒色土を主体とする。
遺物
［土器］須恵器 25.0g が出土した。掲載遺物はない。
時期・性格　平安時代の遺構と推定される。（川又）

RD012 土坑（SK02 土坑）
遺構（第 55 図、写真図版 43）
［位置・検出状況］23E 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はない。東側は調査区外にある。
［形状・規模］平面形は方形基調と推定される。開口部径は、南北方向が 144cm、東西方向は確認できた長さが 118cmである。底面は概ね平坦で、壁は外傾する。
［埋土］黒褐色土主体である。
遺物
［土器］土師器 37.6g が出土した。掲載遺物はない。
時期・性格　平安時代の遺構と推定される。（川又）

RD013 土坑（SK03 土坑）
遺構（第 55 図、写真図版 43）
［位置・検出状況］23E 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はない。
［形状・規模］平面形は円形基調である。規模は、開口部径 212 × 192cm、深さ 104cmである。
［埋土］4 層に細分した。上位は暗褐色土、下位は黒色土主体である。
遺物　なし。
時期・性格　不明。平安時代以降と思われる。遺構の形態から井戸の可能性がある。（川又）

RD014 土坑（SK04 土坑）
遺構（第 55 図、写真図版 43）
［位置・検出状況］23D 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。P145 に東側を切られる。
［形状・規模］平面形は不整形である。規模は、開口部径 142 × 110cm、深さ 16cmである。底面は概ね平坦で、壁は外傾する。
［埋土］2 層に細分した。
遺物（第 108 図、写真図版 74）
［土器］201.7g（土師器 105.2g、須恵器 96.5g）が出土した。掲載遺物は須恵器坏 1 点、須恵器大甕 1 点である。372 は細分のできなかった須恵器坏である。373 は須恵器大甕である。
時期・性格　平安時代の遺構と推定される。（川又・北村）

RD015 土坑（SK05 土坑）
遺構（第 56 図、写真図版 44）
［位置・検出状況］23E 区に位置する。Ⅲ層上面で検出し、北西側を P006、南側を P076 に切られる。
［形状・規模］平面形は円形に近い。規模は、開口部径 122 × 108cm、深さ 30cmである。底面は概ね平坦で、壁は直立に近い。

［埋土］2 層に細分した。
遺物（第 108・109 図、写真図版 74）
［土器］599.1g（土師器 181.1g、須恵器 418.0g）出土した。掲載遺物は土師器坏 2 点、須恵器坏 1 点、須恵器甕 1 点、須恵器壺 1 点である。374 はⅡ類、375 はⅡ B 類の土師器坏である。376 は細分のできなかった須恵器坏である。377 は須恵器甕、378 は須恵器壺である。
時期・性格　平安時代の遺構と推定される。（川又・北村）

RD016 土坑（SK18 土坑）
遺構（第 56 図、写真図版 44）
［位置・検出状況］23B 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はない。
［形状・規模］平面形は楕円形に近い。規模は、開口部径 124 × 102cm、深さ 32cmである。底面は概ね平坦で、壁は外傾する。
［埋土］黒褐色土主体である。
遺物（第 109 図、写真図版 75）
［土器］土師器 70.0g が出土した。掲載遺物は土師器甕 1 点である。379 は ii 類の土師器甕である。
時期・性格　平安時代の遺構と推定される。RD018 と合わせて、竪穴住居内の施設であった可能性が考えられる。（川又・北村）

RD017 土坑（SN04 土坑）
遺構（第 57 図）
［位置・検出状況］23E 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。西側を P186・187、東側・南側を撹乱に切られる。
［形状・規模］平面形は不整形である。南北方向 180cm前後、東西方向 130cm前後と推定される。底面は凹凸があり、壁は外傾する。
［埋土］3 層に細分した。2 層は焼土の層であるが、後世に形成されたものと考えられる。
遺物
［土器］113.3g（土師器 28.9g、須恵器 84.4g）出土した。掲載遺物はない。
時期・性格　平安時代の遺構と推定される。（川又）

RD018 土坑（SX02）
遺構（第 56 図、写真図版 44）
［位置・検出状況］23B 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はない。
［形状･規模］平面形は長方形に近く、規模は、開口部径 364 × 154cm、深さ 18cmである。柱穴 3 個（P1 ～ 3）が付随する。
［埋土］2 層に細分した。
遺物（第 109・110 図、写真図版 75）
［土器］2000.9g（土師器 1994.5g、須恵器 6.4g）出土した。掲載遺物は土師器坏 4 点、土師器高台付坏 1 点、土師器甕 3 点である。380・381 はⅠ C 類、382・383 はⅠ類の土師器坏である。384 はⅠ類の土師器高台付坏である。385・386 は i 類、387・388 は ii 類の土師器甕である。
［石器類］389 はデイサイト製の磨石である。棒状の礫を素材とし、使用面は 3 面である。

時期・性格　平安時代と推定される。竪穴住居跡の掘り方部分であった可能性がある。（川又・北村）

RD019 土坑（SX01）
遺構（第 57 図、写真図版 44）
［位置・検出状況］23E 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はない。
［形状・規模］平面形は正方形に近い。規模は、開口部径 310 × 300cm、深さ 54cmである。底面は概ね平坦で、壁は外傾する。
［埋土］4 層に細分した。
遺物（第 110 ～ 112 図、写真図版 76 ～ 78）
［土器］4.1g（土師器 2.6g、須恵器 1.5g）出土した。掲載したものはない。
［その他］銭貨 41 点（390 ～ 430）が出土した。390 ～ 414 は寛永通寶、415 ～ 419 は文久永寶、420・421 は天保通寶、422 ～ 425 は明治以降の半銭銅貨、426 ～ 428 は一銭銅貨、429・430 は二銭銅貨である。
時期・性格　近代以降（大正 ?）と推測される。性格は不明である。（川又）

RD020 フラスコ状土坑（SK23）
遺構（第 58 図、写真図版 45）
［位置・検出状況］24F 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、上部を近年の耕作により消失している。
［形状･規模］平面形は円形基調で､規模は､開口部径 84 × 82cm､深さ 62cmである。底面は概ね平坦で、壁はほぼ直立する。
［埋土］4 層に細分した。地山層起源と考えられるオリーブ褐色シルト層とやや粘質の黒色・黒褐色シルト層の互層である。人為堆積の根拠は見いだせなかった。
遺物　なし。
時期・性格　時代を特定しうる遺物が伴わないが、褐色系のシルト層で堆積していることや、遺構の形態から縄文時代の貯蔵穴と捉えている。（北村）

RD021 フラスコ状土坑（SK21）
遺構（第 58 図、写真図版 45）
［位置・検出状況］24I 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、地下埋設物敷設により東西両端を壊されている。
［形状・規模］残存する部分から判断すると、平面形は楕円形基調である。確認できる規模は、開口部径 205 × 152cm､深さ 92cmである。底面は概ね平坦で､壁はオーバーハングしており､いわゆる「フラスコ状」を呈している。上部は開き気味である。
［埋土］11 層に細分した。全体の 1/3 程は褐色シルト層（11 層）で一気に埋没しており､短期間に（自然に）埋没したものと考えられる。中間部は壁の崩落土層である黄褐色シルト層（10 層）が確認でき、南北両側からある程度時間を要して埋没したものと考えられる。上部は縄文土器を包含する層で、人為堆積の可能性が高い。
遺物（第 113 図、写真図版 78）
［土器］1111.9g（すべて縄文土器）出土した。3 点を掲載した。3 点とも地文のみのものである。

431・432 は口縁部、433 は体部片である。
［石器］剥片が 2 点出土したが、掲載したものはない。
［その他］埋土下部から炭化物が出土した。年代測定を実施する目的でサンプルを採取している。詳細は附編を参照して頂きたい。
時期・性格　埋土上部ではあるが、縄文時代晩期の土器が出土しており、本遺構も同時期の遺構の可能性が高い。遺構の形態から貯蔵穴と考えられる。（北村）

RD022 フラスコ状土坑（SK22）
遺構（第 58 図、写真図版 45）
［位置・検出状況］24I 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、地下埋設物敷設により中央部を壊されている。
［形状・規模］残存する部分から判断すると、平面形は円形基調である。確認できる規模は、開口部径 184 × 152cm、深さ 107cmである。底面は中央部が浅くくぼむが、目立つ凹凸は見られない。壁はオーバーハングしており、いわゆる「フラスコ状」を呈している。上部は開き気味である。
［埋土］8 層に細分した。全体の 1/3 程は褐色シルト層（8 層）で一気に埋没しており、短期間に（自然に）埋没したものと考えられる。RD021 と類似している。その上部に黒褐色シルト層（7 層）が堆積し、北側には壁の崩落土層（6 層）が確認できる。遺物は伴わないが、混入物の多い暗褐色シルト層（1 層）で完全に埋め戻されている。最終段階は人為堆積の可能性が高い。
遺物　なし。
時期・性格　時代を特定しうる遺物が伴わないが、RD021 と堆積状況が類似しており、同時期の遺構と捉えている。遺構の形態から貯蔵穴の可能性が高い。（北村）

RD023 土坑（SK30）
遺構（第 58 図、写真図版 45）
［位置・検出状況］24C 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、北西隅を近年の掘削により、中央部及び南壁を地下埋設物敷設により壊されている。
［形状・規模］残存する部分から判断すると、平面形は隅丸方形を呈するものと考えられる。確認できた規模は、開口部径 187 × 148cm、深さ 37cmである。底面に明瞭な凹凸は見られないが、西側に緩く傾斜している。大部分の壁は下部で直立気味に立ち上がり、中間部で変化点を持ち、外傾しながら立ち上がる。東側の一部が底面からなだらかに立ち上がる。北壁寄りに柱穴 1 個を検出した。
［埋土］4 層に細分した。下部（3 層）は混入物が多く人為堆積の可能性が高い。上部（1・2 層）も土器片や焼土ブロックなどの混入物が確認でき、人為堆積の可能性が高いと考えられる。
遺物
［土器］122.9g（土師器 98.8g、須恵器 24.1g）出土した。掲載したものはない。
時期・性格　平安時代（10C 前半）の遺構と推定される。遺構の性格については特定できなかった。（北村）

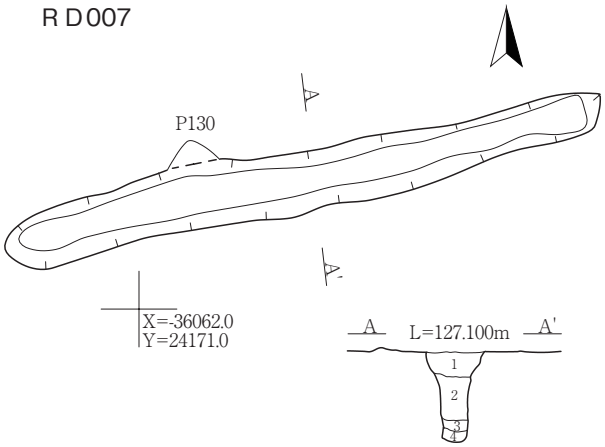
RD024 土坑（SK19）
遺構（第 59 図、写真図版 46）
［位置･検出状況］24F 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。RA024 と重複し、本遺構が新しい。また、

北西 1/4 を近年の掘削により壊されている。
［形状・規模］平面形は円形基調である。確認できた規模は、開口部径 99 × 89cm、深さ 25cmである。底面は概ね平坦で、壁はオーバーハング気味である。
［埋土］3 層に細分した。最下層に薄く炭化物主体の層が堆積し、混入物の多い暗褐色シルト、黒褐色シルトの順で埋没している。人為堆積である。
遺物（第 113・114 図、写真図版 79）
［土器］376.6g（土師器のみ）出土した。掲載遺物は土師器坏 1 点、土師器甕 2 点である。434 はⅠB 類の土師器坏である。435 は i 類、436 は ii 類の土師器甕である。
［その他］金属製品と炭化物が出土した。437 は茎部の一部を欠損した刀子である。2 点が接合した。刀身部の幅が鋒に向かって細くなっており、刀身部の形状が長三角形状を呈するものである。両関であるが、刃関は撫関状である。木質部も残存している。
時期・性格　平安時代（10C 前半）の遺構と推定される。貯蔵穴の可能性が高い。（北村）

RD025 土坑（SK24）
遺構（第 59 図、写真図版 46）
［位置・検出状況］24F 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はない。
［形状･規模］平面形は円形基調である。規模は、開口部径 65 × 64cm、深さ 28cmである。底面は狭く、皿状を呈する。壁は直線的に立ち上がる。埋土中から完形の土師器坏が正位で 1 点、底面直上から残存状態の良好な土師器坏が倒位で 2 点出土した。
［埋土］色調や混入物により 3 層に細分したが、出土している土器に時間差が見られないことから、短期間に人為的に埋め戻されたものと考えられる。
遺物（第 114 図、写真図版 79）
［土器］774.5g（土師器のみ）出土した。掲載遺物は土師器坏 3 点である。438・439 は底面付近から、440 はやや埋土上部から出土した。438・439 はⅠC 類、440 はⅡC 類の土師器坏である。
時期・性格　平安時代（10C 前半）の遺構と推定される。住居脇に構築された貯蔵穴の可能性が想定される。（北村）

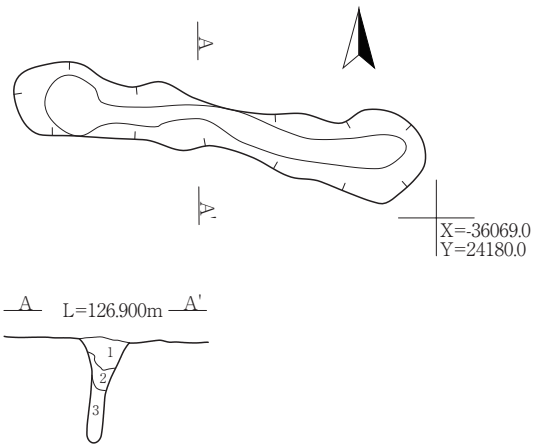
RD026 土坑（SK29）
遺構（第 59 図、写真図版 46）
［位置・検出状況］24D 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、北壁の一部を撹乱に切られている。
［形状・規模］平面形は長楕円形基調である。規模は、開口部径 215 × 77cm、深さ 28cmである。底面は概ね平坦で、壁は一部がオーバーハングするものの、大部分は底面から外傾しながら立ち上がる。
［埋土］2 層に細分した。下部（2 層）は地山ブロックの混入量が多く、人為堆積の可能性が高い。上部については混入物が少なく、人為堆積の根拠は見いだせなかった。
遺物
［土器］13.9g（土師器のみ）出土した。掲載したものはない。
時期・性格　遺物量が少なく、時代を特定し得なかったが、埋土の状況から判断すると、古代以降の可能性が高い。遺構の性格は不明である。（北村）

ＲＤ007



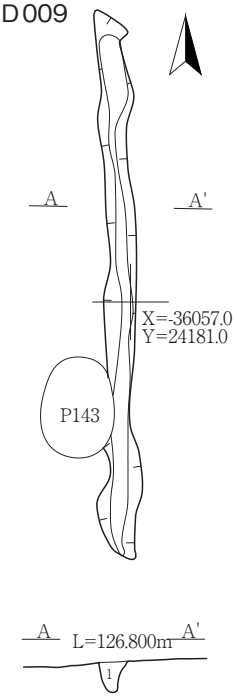
ＲＤ007
1. 10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性弱
　黄褐色土粒多量
2. 10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性やや弱
　黄褐色土粒多量
3. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強
　黄褐色土ブロック多量
4. 10YR3/4暗褐色　シルト　しまりやや弱　粘性強

ＲＤ008



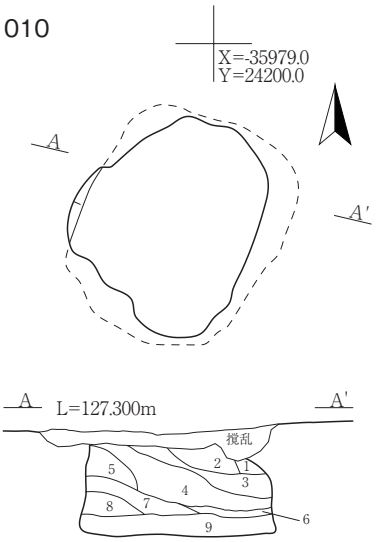
ＲＤ008
1. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強
　黄褐色土ブロック多量
2. 10YR3/3暗褐色　粘土質シルト　しまりやや強
　粘性やや強
3. 10YR2/1黒色　粘土質シルト　しまり弱　粘性強
　黄褐色土ブロック多量

ＲＤ009

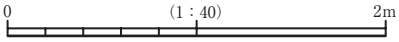


ＲＤ009
1. 10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強

ＲＤ010

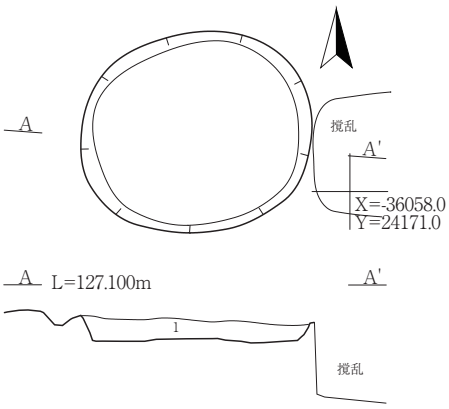


ＲＤ010
1. 10YR7/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒褐色土（10YR3/1）粒（φ1mm）1%
2. 10YR3/3暗褐色　シルト　しまり中　粘性中
　黄橙色土（10YR7/8）ブロック10%、黒褐色土（10YR3/1）粒3%
3. 10YR6/6明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　暗褐色土（10YR3/3）粒20%、黒色土（10YR2/1）粒10%
4. 10YR3/3暗褐色　シルト　しまり中　粘性中
　黄橙色土（10YR7/8）粒（φ5mm）10%
5. 10YR6/8明黄褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　暗褐色土（10YR3/3）粒10%
6. 10YR6/8明黄褐色　シルト　しまりやや強　粘性中
　黒褐色土（10YR3/1）3%
7. 10YR3/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性中
　明黄褐色土（10YR6/8）ブロック15%、明黄褐色土（10YR6/8）粒5%
8. 10YR6/8明黄褐色　シルト　しまり強　粘性中
　黒色土（10YR2/1）粒（φ5mm）3%
9. 10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性中
　明黄褐色（10YR6/8）ブロック5%



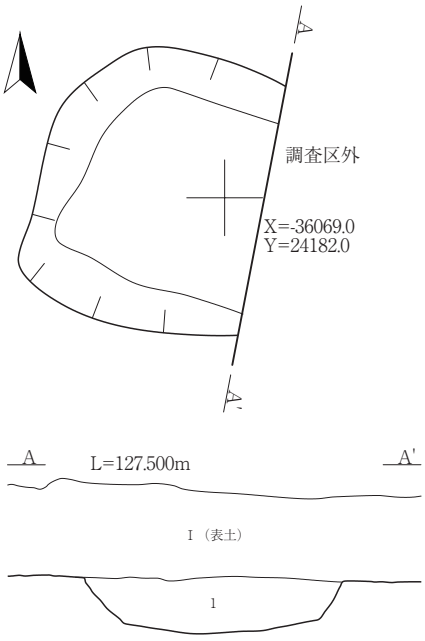
第54図　RD（1）

R D011



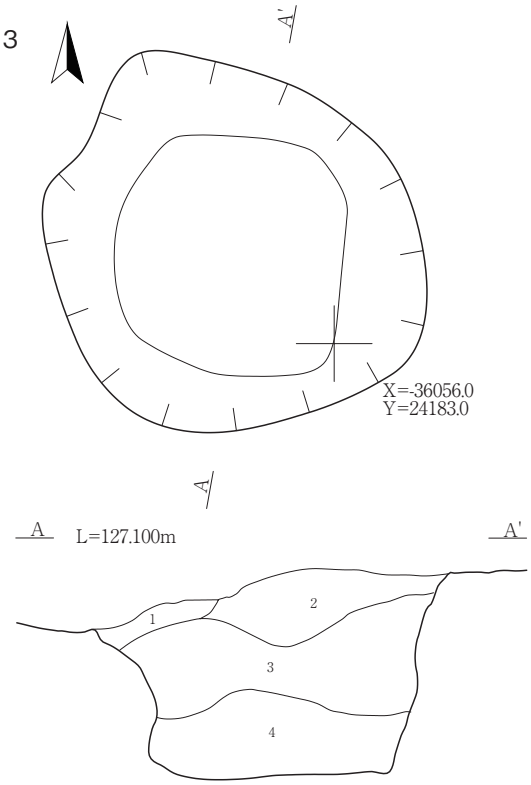
R D011
1.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性やや強
　　黄褐色土粒微量

R D012



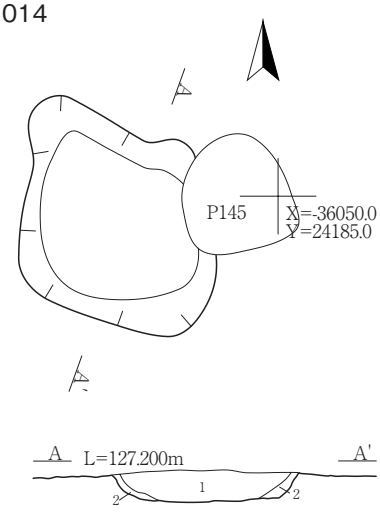
R D012
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性やや強
　　黄褐色土粒微量

R D013



R D013
1.　10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　　砂利多量
2.　10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　　黄褐色土粒微量
3.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや弱　粘性やや強
　　黄褐色土粒少量、礫多量
4.　10YR1.7/1黒色　粘土質シルト　しまりやや弱　粘性強
　　礫多量

R D014

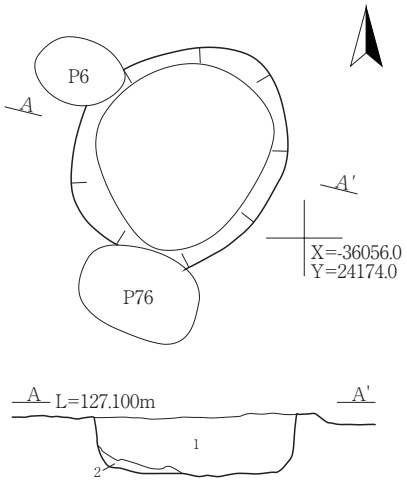


R D014
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや弱　粘性弱
　　黄褐色土粒多量
2.　10YR3/4暗褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや強

0　(1：40)　2m

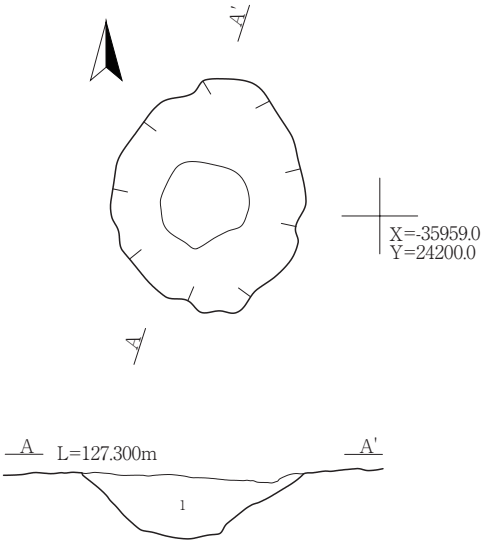
第55図　RD（2）

R D015



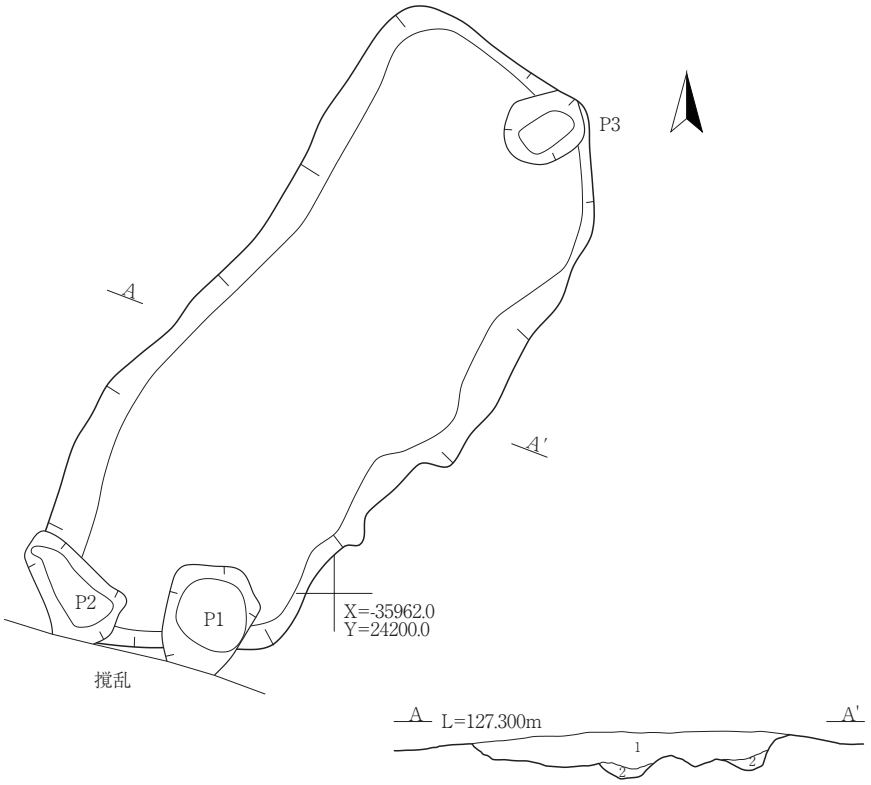
R D015
1.　10YR2/1黒色　シルト　しまりやや強　粘性やや強
2.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性やや強
　　黄褐色土ブロック多量

R D016



R D016
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性中
　　黄褐色土粒10%

R D018

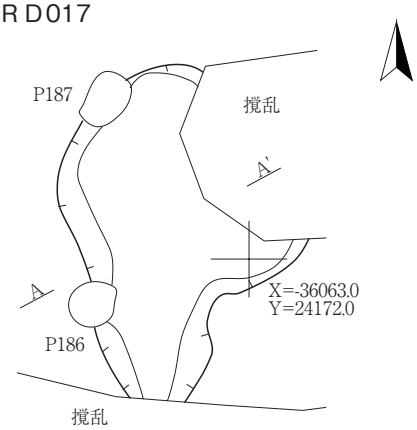


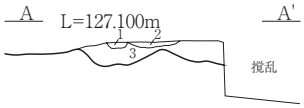
R D018
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色土ブロック20%
2.　10YR3/4暗褐色　シルト　しまり強　粘性やや弱

0　(1：40)　2m

第56図　RD（3）

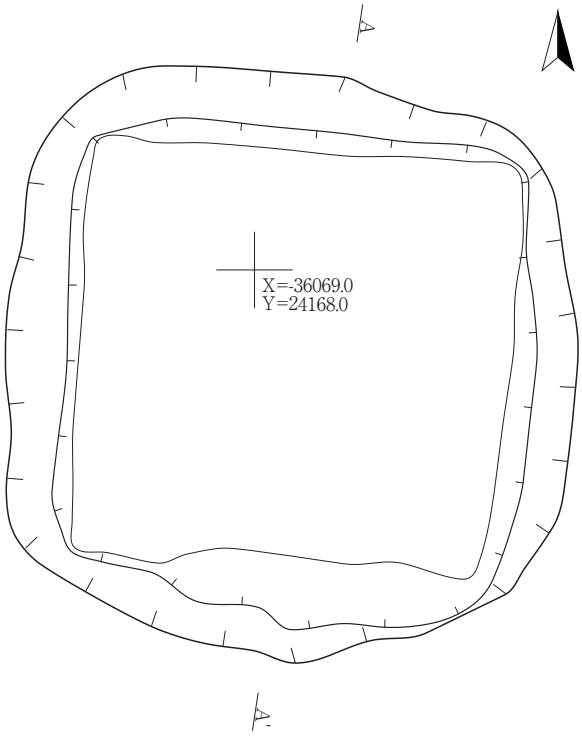
ＲＤ017

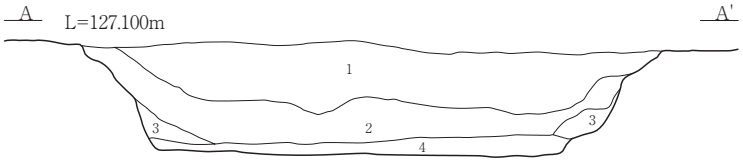




ＲＤ017
1.　10YR1.7/1黒色　シルト　しまり強　粘性弱
2.　5YR4/4にぶい赤褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　　黒色土（10YR2/1）ブロック（φ10mm）5%
3.　10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性弱
　　褐色土（10YR4/4）ブロック（φ15mm）5%

ＲＤ019



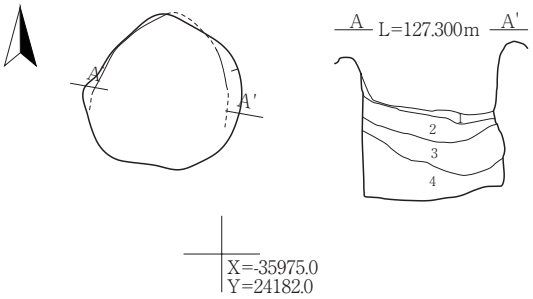


ＲＤ019
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり中　粘性弱　褐色土（10YR4/6）ブロック（φ50mm～）50%
2.　10YR3/2黒褐色　シルト　しまり強　粘性中　褐色土（10YR4/4）ブロック（φ50mm）10%、黒褐色土（10YR2/2）ブロック（φ10mm）5%
3.　10YR4/4褐色　シルト　しまり弱　粘性強　黒褐色土（10YR2/3）ブロック（φ15mm）10%、黄褐色粘土（10YR5/8）ブロック（φ10mm）5%
4.　10YR2/3黒褐色　シルト　しまり中　粘性強　黄褐色粘土（10YR5/8）ブロック（φ10mm）20%

0　(1：40)　2m

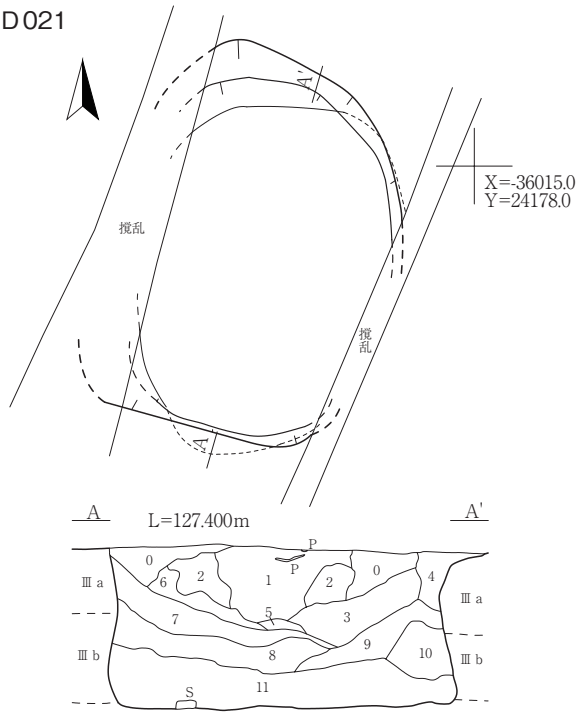
第57図　RD（4）

ＲＤ020



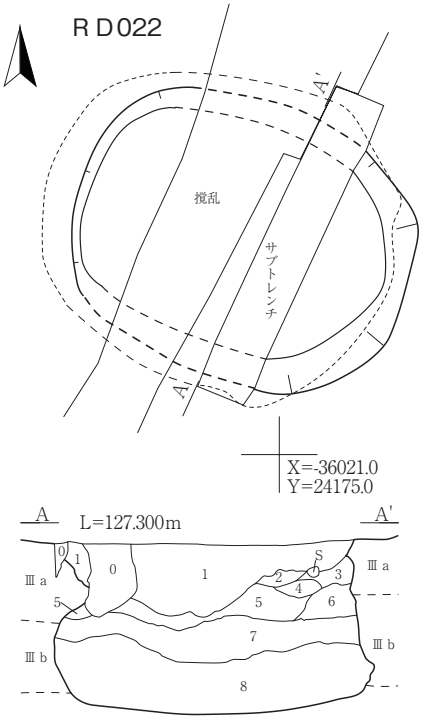
ＲＤ020
1.　10YR3/1黒褐色　シルト　しまり弱　やや粘質
2.　2.5Y4/3オリーブ褐色　粘質シルト　しまり弱
3.　10YR2/1黒色　シルト　やや粘質
4.　2.5Y4/4オリーブ褐色　シルト
　　地山の可能性はあるが、所々黒色土が混じる

ＲＤ021



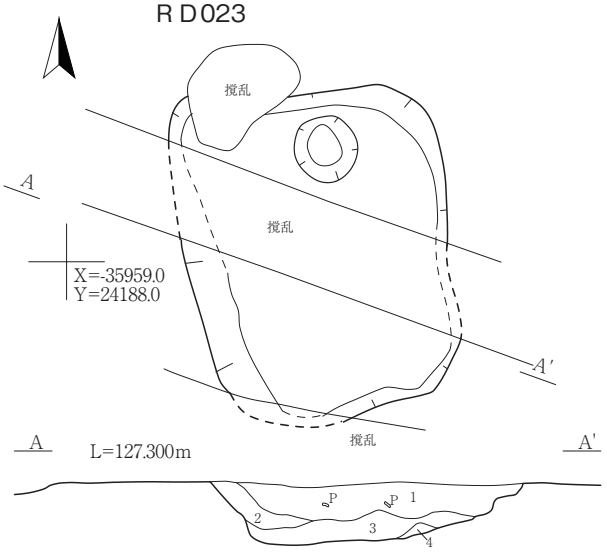
ＲＤ021
0.　撹乱
1.　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性やや弱　しまり中　地山小Ｂ10～15%　土器片含む
2.　10YR4.5/6黄褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや強　黒褐色小Ｂ２～３％
3.　10YR2/1黒色　シルト　粘性やや強　しまりやや弱　地山Ｂ15～20%
4.　10YR5/6黄褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや強　黒褐色Ｂ10%
5.　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性中　しまりやや弱　地山小Ｂ１～２％
6.　10YR2/1黒　シルト　粘性やや強　しまり中　地山小Ｂ５～７％
7.　10YR2/3黒褐色　シルト　粘性やや強　しまりやや弱　地山Ｂ20～25%
8.　10YR4/3にぶい黄褐色　シルト　粘性やや強　しまりやや弱　黒褐色Ｂ３％、
　　地山小Ｂ２～３％
9.　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性やや強　しまり弱　褐色Ｂ30～40%
10.　10YR5/6黄褐色　シルト　粘性やや強　しまり中　暗褐シルトしみ状にみられる
11.　10YR4/4褐色　シルト　粘性中　しまりやや弱　黒褐色小Ｂ３～５％

ＲＤ022



ＲＤ022
0.　撹乱
1.　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　　地山Ｂ10～15%、亜円礫(φ15～20㎜)３～５％
2.　10YR4.5/6褐色～黄褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　　黒褐色Ｂ10%
3.　10YR4/4褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　　黒褐色Ｂ５～７％
4.　10YR2/2黒褐色　シルト　粘性・しまり中　地山小Ｂ２～３％
5.　10YR5/6黄褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや強
　　黒褐色Ｂ２～３％、礫(φ5～10㎜)２～３％、
　　礫(φ10～20㎜)１～２％
6.　10YR4/6褐色　シルト　粘性・しまり中
7.　10YR2/2黒褐色　シルト　粘性・しまり中　地山Ｂ２～３％、
　　地山小Ｂ10%
8.　10YR4/4褐色　シルト　粘性中　しまりやや弱　黒褐色小Ｂ２～３％

ＲＤ023

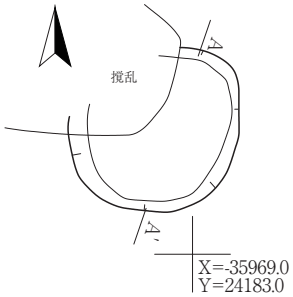


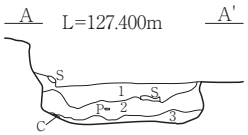
ＲＤ023
1.　10YR2/1黒色　シルト　粘性やや弱　しまり中　地山小Ｂ５％、焼土Ｂ５～７％
2.　10YR5/8黄褐色　シルト　粘性やや強　しまりやや弱　地山小Ｂ５％、焼土Ｂ５～７％
3.　10YR3/4暗褐色　シルト　粘性中　しまりやや弱　地山Ｂとの混合(40～50%)層
4.　10YR5/8黄褐色　砂質シルト　粘性やや弱　しまり中　黒褐色小Ｂ３～５％

0　(1：40)　2m

第58図　RD（5）

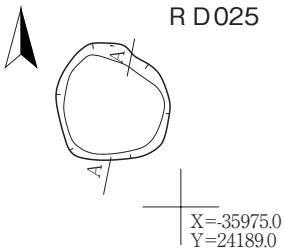
ＲＤ024

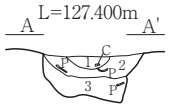




ＲＤ024
1.　10YR3/1黒褐色　シルト
　　地山Ｂ（φ1cm以下）多く含む
2.　10YR3/4暗褐色　シルト　地山Ｂ・
　　粘土Ｂ・炭化物まばらに含む
3.　10YR2/1黒色　粘質シルト

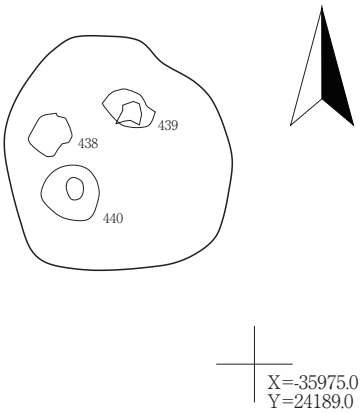
ＲＤ025





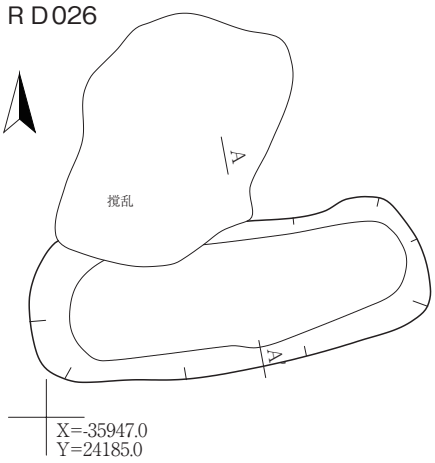
ＲＤ025
1.　10YR2/1黒色　シルト　炭化物小量含む
2.　10YR3/3暗褐色　シルト　焼土小Ｂ斑状少量含む
3.　10YR2/3黒褐色　シルト　地山Ｂ少量含む

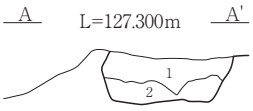
ＲＤ025 遺物出土状況



出土状況図のみ　0　(1：20)　1m

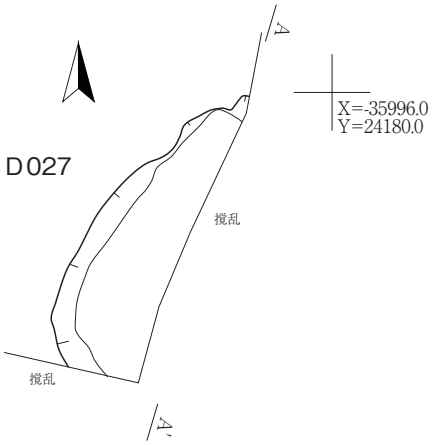
ＲＤ026

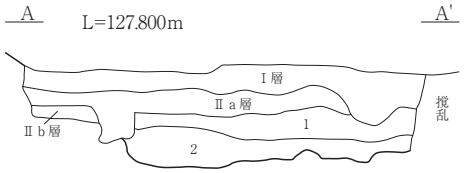




ＲＤ026
1.　10YR2/1黒色　シルト　やや粘質　地山Ｂ少量含む
2.　10YR3/1黒褐色　シルト　地山Ｂ多量に含む

ＲＤ027





ＲＤ027
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　粘性やや弱　しまり中　地山小Ｂ５～７％、
　　炭化物粒３～５％
2.　10YR2/3黒褐色　シルト　粘性中　しまりやや弱　地山との混合層、
　　焼土粒１％

0　(1：40)　2m

第59図　RD（6）

RD027 土坑（SK28）
遺構（第 59 図、写真図版 46）
［位置・検出状況］24H 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、地下埋設物敷設により一部しか残存していない。
［形状・規模］一部しか残存していないため、平面形・規模とも不明である。残存する深さは 24cmである。底面には細かな凹凸が目立つ。残存する壁は底面から外傾しながら立ち上がる。
［埋土］混入物の違いにより 2 層に分層したが、黒褐色シルトを主体としている。特に 2 層は地山との混合層であり、人為堆積の可能性が高い。
遺物
［土器］1.3g（土師器のみ）出土した。掲載したものはない。
［その他］埋土上部から炭化物が出土した。年代測定を実施する目的でサンプルを採取している。詳細は附編を参照して頂きたい。
時期・性格　遺物量が少なく、時代を特定し得なかったが、放射性炭素年代測定結果によると、古代に帰属する可能性が示唆される。遺構の性格は不明である。（北村）

4　竪穴建物跡・住居状遺構（RE）

RE006 竪穴建物跡（SKI01）
遺構（第 60 図、写真図版 47）
［位置・検出状況］23E 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。P142・P148 に切られ、竪穴部の南西隅、南壁の一部を撹乱に削平される。
［形状・規模］竪穴部の平面形は隅丸方形である。規模は、東西方向 402cm、南北方向が推定 336cmである。
［付属施設］柱穴 10 個（P1 ～ 10）を確認した。ほぼ同規模で、竪穴の壁の内側に沿って等間隔に配列する。
［埋土］黒褐色土を主体とする。
遺物（第 114 図、写真図版 79）
［土器］竪穴部、柱穴から計 313.5g（土師器 114.9g、須恵器 198.6g）出土した。掲載遺物は土師器甕 1 点、須恵器坏 1 点、須恵器大甕 1 点である。441 は i 類の土師器甕である。442 は細分のできなかった須恵器坏、443 は須恵器大甕である。
時期　出土遺物から平安時代以降で、遺構の形態から中世の可能性が高い。（川又・北村）

RE007 住居状遺構（SI14）
遺構（第 61 図、写真図版 48）
［位置・検出状況］24G 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、西壁の南側から南壁は近年の耕作により壊されている。
［形状・規模］竪穴部の平面形は歪な隅丸方形である。規模は、東西方向 330cm、南北方向が 343cmである。Ⅲ層を深く掘り込み、Ⅲ層に起因する褐色シルト（8 層）の掘り方埋土を床材として、平坦な床面を構築している。壁の下半は丸みを帯びるが、上半は直立気味に立ち上がる。検出面から床面までの深さは 66cmである。

［その他］断面図には反映されていないが、北西隅で炭化物と焼土層が確認された。床面よりは若干高く、埋没の過程で形成されたものと考えられる。
［埋土］7 層に細分した。床面及び壁付近には壁崩落土層（6 層）や地山の流入土層（7 層）が確認される。色調や混入物の違いにより細分しているが、混入物の多い黒褐色シルトを主体としており、人為堆積の可能性が高い。
遺物（第 114・115 図、写真図版 79）
［土器］埋土を中心に計 1434.6g（土師器 1334.7g、須恵器 99.9g）出土した。掲載遺物は土師器坏 3 点、土師器甕 2 点、須恵器坏 1 点、須恵器甕類 1 点である。444 はⅠ類、445 はⅠC 類、446 はⅡB 類の土師器坏である。444 は床面直上から出土した。447・448 は ii 類の土師器甕である。449 は細分のできなかった須恵器坏である。450 は須恵器の甕類と考えられる資料の体部片である。上記以外に埋土上部から陶磁器（6.2g）が出土したが、耕作に伴う近年の混入の可能性が高い。
時期　出土遺物から平安時代（10 世紀前半）と推定される。（北村）

5　溝　　跡（RG）

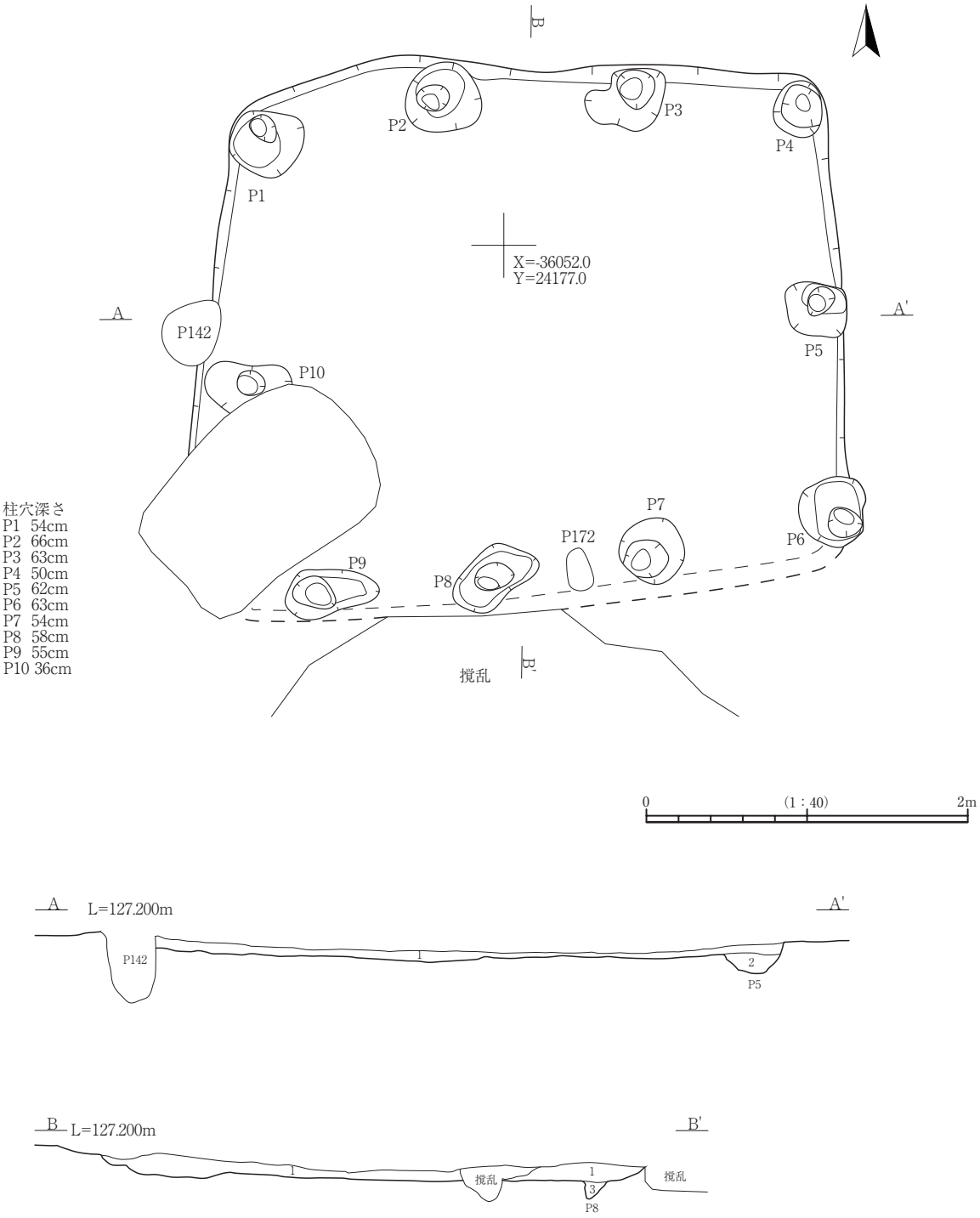
RG005 溝跡（SD01 溝跡）

遺構（第 62 図、写真図版 49）
［位置・検出状況］23E 区～ 24M 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。RB004P8、P131・132・134 ～ 137 に切られる。
［形状･規模］ほぼ直線状に延びる。南側は調査区内で途切れる。北側は途中､撹乱により途切れるが、第 12 次調査区で確認でき、調査区内で途切れる。調査区内で確認できた長さは 26.3m、上幅は最大で 1.00m である。検出面からの最大の深さは 27㎝で、断面形は皿状を呈する。
［埋土］黒色シルトを主体とする。
遺物　なし。
時期・性格　RB004 との重複関係から近世もしくは近世以前の可能性が高い。性格は不明である。
（川又・北村）

RG006 溝跡（SD08 溝跡）

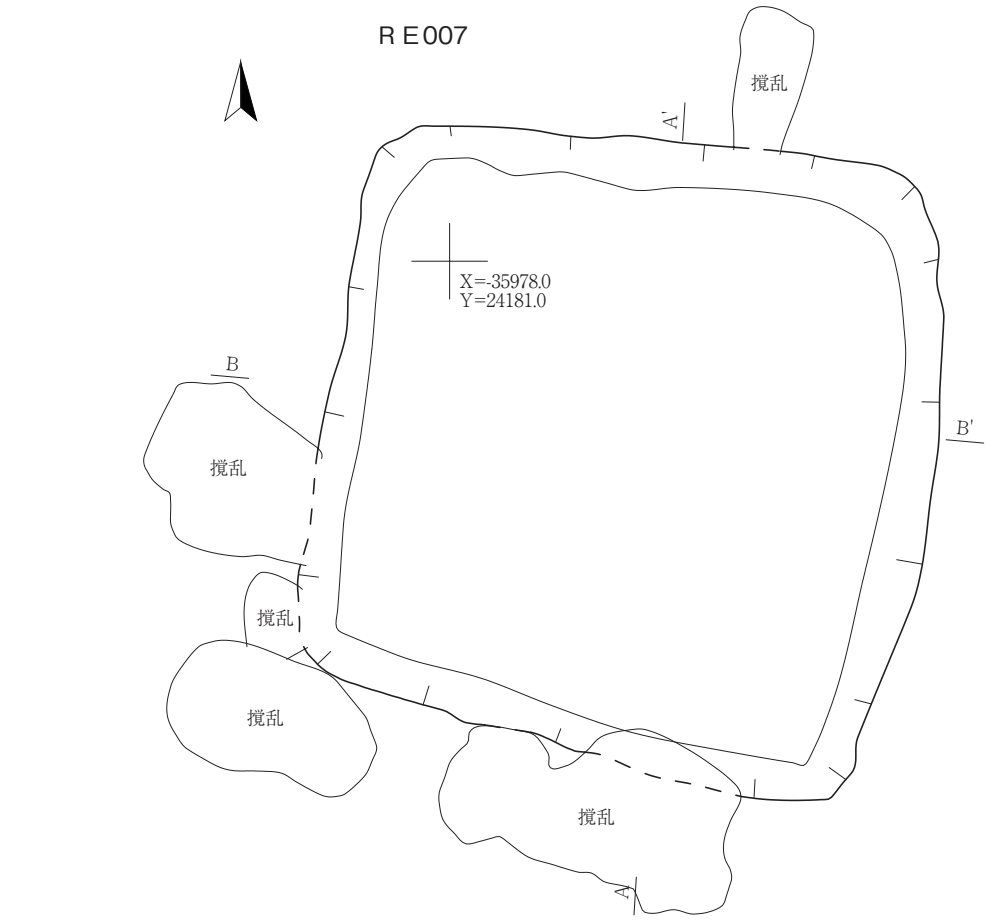
遺構（第 62 図、写真図版 49）
［位置・検出状況］24A 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はない。
［形状・規模］第 12 次調査区を横断して東西方向に延び、西側は調査区外に延びている。東側は第 11 次調査区へ向かっているが、確認されておらず、詳細は不明である。調査区内で確認できた長さは 10.5m、上幅は最大で 1.48m である。検出面からの最大の深さは 57㎝で、断面形は逆台形を呈する。
［埋土］6 層に細分した。最下部には地山起源の褐色シルト層が堆積するが、大部分は黒色～黒褐色シルト主体である。ラミナが観察でき、水成堆積によって埋没すると、掘り返して復元している様子が窺える。混入物が多いが、自然堆積の可能性が高いと捉えている。
遺物　33.2g の土師器が出土した。掲載したものはない。
時期・性格　少量であるが、土師器が出土しているため、古代以降の可能性が高いが、詳細な時代は不明である。地形の変化点に構築され、堆積土に水の影響を受けた痕跡が見られることから、用水路･排水路としての機能が想定される。（北村）

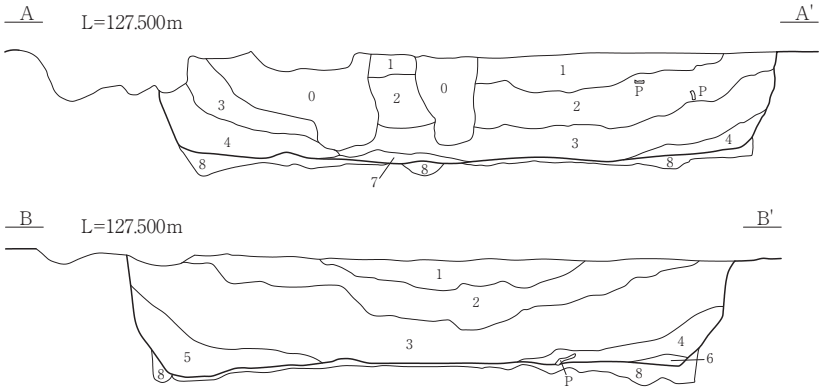
ＲＥ006



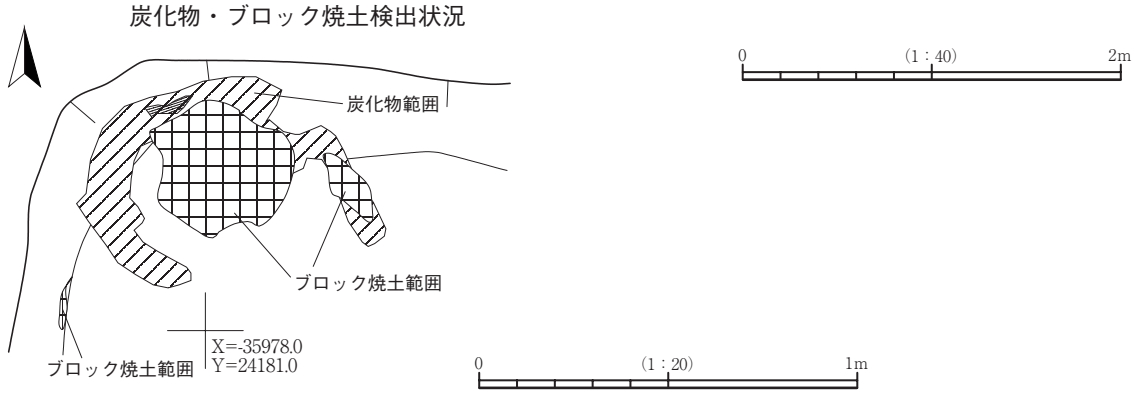
ＲＥ006　断面Ａ・Ｂ
1.　10YR2/1黒色　シルト　しまり強　粘性やや弱　黄褐色土粒多量
2.　10YR1.7/1黒色　シルト　しまり中　粘性中　炭化物粒5%、明黄褐色土ブロック10%　P5埋土
3.　10YR1.7/1黒色　シルト　しまり中　粘性中　炭化物粒3%、明黄褐色土粒5%　P8埋土

第60図　RE006





ＲＥ007
0.　撹乱
1.　10YR2/3黒褐色　シルト　粘性弱　しまり中
　焼土小Ｂ１％、地山Ｂ7～10%
2.　10YR2/3黒褐色　シルト　粘性やや弱
　しまり中　地山Ｂとの混合層
3.　10YR2/3黒褐色　シルト　粘性・しまりやや弱
　地山Ｂ15～20%、暗褐色シルト15～20%
4.　10YR3/2.5黒褐～暗褐色　シルト　粘性・
　しまり中　地山Ｂ10～15%、黒褐色小Ｂ10%
5.　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性中
　しまりやや強　黒褐色土Ｂ7～10%
6.　10YR4/4褐色　シルト　粘性・しまり中
　黒褐色粒２～３％
7.　10YR4/4褐色　シルト　粘性・しまり中
　黒褐色粒３～５％
8.　10YR4/4褐色　シルト　粘性やや強　しまり弱
　地山Ｂ５％



第 61 図　RE007

RG007 溝跡（SD10 溝跡）
遺構（第 63 図、写真図版 49）
［位置・検出状況］24C 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、地下埋設物敷設によって一部を壊されている。
［形状･規模］調査区内を東西方向に延び､東側は調査区内で途切れる｡西側は調査区外へと延びている。調査区内で確認できた長さは 5.9m、上幅は最大で 0.69m である。検出面からの最大の深さは 14㎝で、断面形は皿状を呈する。
［埋土］地山ブロックを含む黒褐色シルトの単層である。混入物が多く、人為堆積の可能性があるが、層高がないため、断定はできない。
遺物　縄文土器 6.3g、須恵器 15.5g が出土した。掲載したものはない。
時期・性格　遺物量が少なく、時代を特定するには至らなかった。遺構の性格も不明である。（北村）

RG008 溝跡（SD03 溝跡）
遺構（第 63 図、写真図版 50）
［位置・検出状況］24I 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はない。
［形状・規模］ほぼ南北方向に延び、南側は調査区内で途切れる。残存状態が悪く、北側は削平により失われている。調査区内で確認できた長さは、途切れる部分も含めて 7.6m、上幅は最大で 0.72m である。検出面からの最大の深さは 21㎝で、断面形は皿状を呈する。
［埋土］地山ブロックを含む黒褐色シルトの単層である。層高がないため、自然堆積か人為堆積かの判断はできなかった。
遺物　土師器 20.1g が出土した。掲載したものはない。
時期・性格　遺物量が少なく、時代を特定するには至らなかった。遺構の性格も不明である。（北村）

RG009 溝跡（SD04 溝跡）
遺構（第 63 図、写真図版 50）
［位置・検出状況］24I 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、地下埋設物敷設によって一部しか残存しない。
［形状・規模］調査区内を東西方向に延びると考えられるが、地下埋設物敷設によって大きく壊されている。西側は調査区内で途切れる。東側は第 11 次調査区へと向かっているが、確認されておらず、詳細は不明である。調査区内で確認できた長さは 0.8m、上幅は最大で 0.3m である。検出面からの最大の深さは 20㎝で、断面形は逆台形状を呈する。
［埋土］地山小ブロックを含む黒褐色シルトの単層である。混入物が多く、人為堆積の可能性が高いと捉えている。
遺物　なし。
時期・性格　遺物が伴わず、時代を特定するには至らなかった。遺構の性格も不明である。（北村）

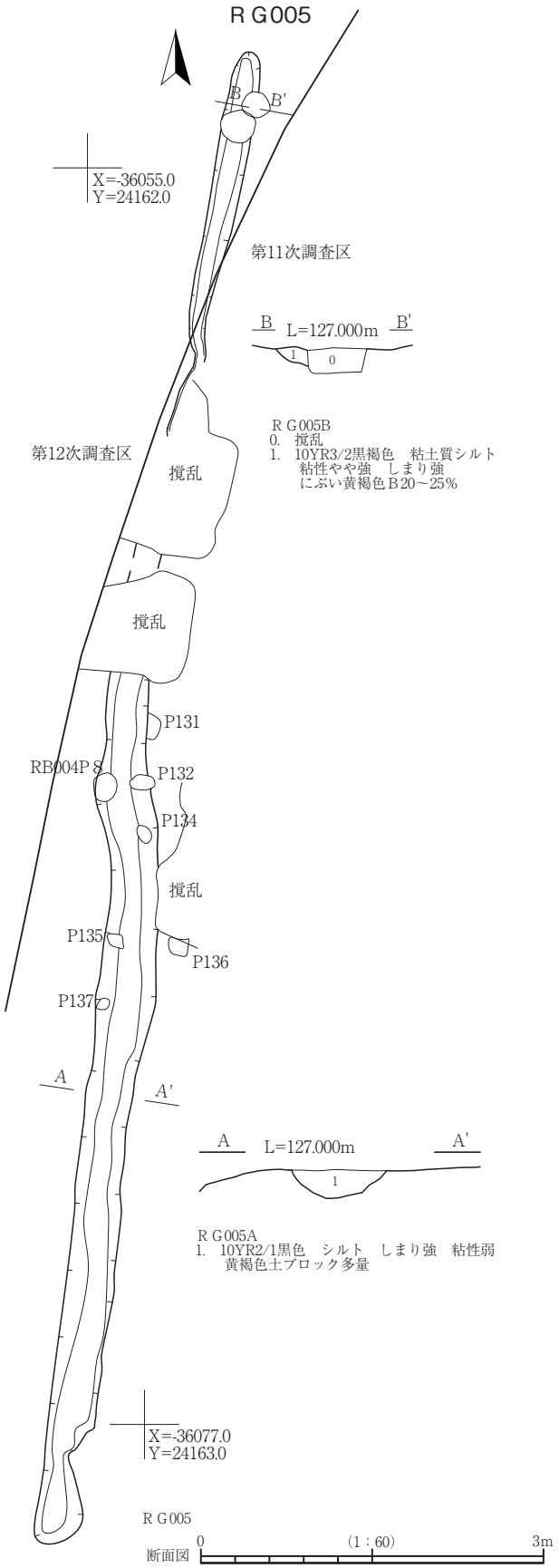
RG010 溝跡（SD05 溝跡）
遺構（第 63 図、写真図版 50）
［位置・検出状況］24I 区～ 24J 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。RA027、RX001、P309・316・317 と重複し､RA027 を切り､P309 に切られる。RX001､P316･317 とは新旧関係が判断できなかった。

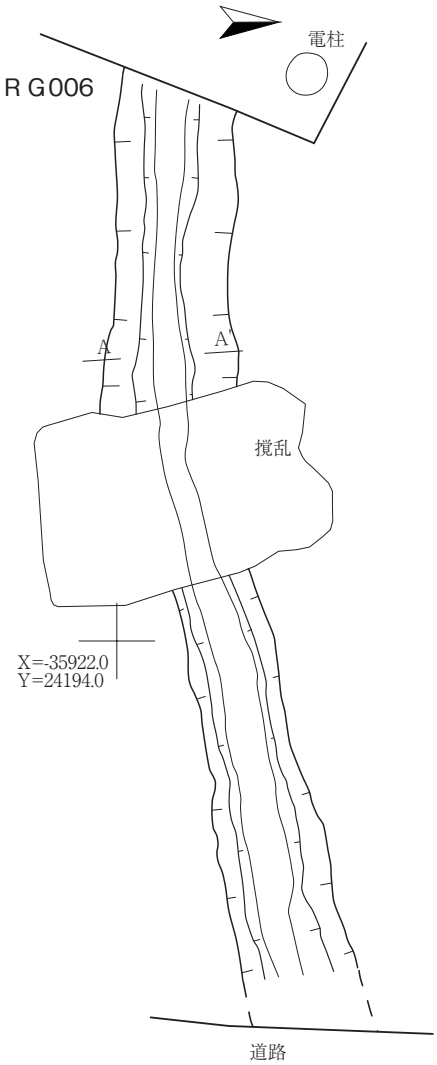
［形状・規模］南北方向に延び、北側は地下埋設物敷設によって失われ、南側は溝状の撹乱よって切られている。調査区内で確認できた長さは 16.8m、上幅は最大で 0.86m である。検出面からの最大の深さは 23㎝で、断面形は基本的に浅い逆台形状を呈するが、RA027 周辺では皿状を呈する。
［埋土］地山ブロックを含む黒～黒褐色シルトの単層である。層高がないため、自然堆積か人為堆積かの判断はできなかった。
遺物（第 115 図、写真図版 79）
土師器 40.4g、鉄釘 1 点、不明鉄製品 4 点が出土した。このうち不明鉄製品を掲載した。451 は刃物の一部であるが、器種の特定をなしえなかったものである。2 点が接合した。
時期・性格　遺物量が少なく、時代を特定するには至らなかった。遺構の性格も不明である。（北村）

RG011 溝跡（SD09 溝跡）
遺構（第 63 図、写真図版 51）
［位置・検出状況］24J 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、地下埋設物敷設によって東側を壊されている。
［形状・規模］調査区内を東西方向に延び、東側は地下埋設物敷設箇所で切られ、それ以上東側では確認できない。西側は調査区外へと延びている。調査区内で確認できた長さは 3.3m、上幅は最大で 0.73m である。検出面からの最大の深さは 23㎝で、断面形は逆台形状を呈する。
［埋土］黒褐色シルトの単層である。人為堆積の根拠は見いだせなかった。
遺物　土師器 9.5g、須恵器 204.6g が出土した。掲載したものはない。
時期・性格　出土遺物から平安時代に帰属する可能性があるが、近年の各種掘削の影響を検出面まで受けていること、遺構の層高があまりないことなどから、断定はできなかった。（北村）

RG012 溝跡（SD06 溝跡）
遺構（第 64 図、写真図版 51）
［位置・検出状況］24M 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、地下埋設物敷設及び溝状の撹乱によって一部しか残存しない。
［形状・規模］調査区内をほぼ南北方向に延び、地下埋設物・溝状の撹乱により失われている。調査区内で確認できた長さは 6.2m、上幅は最大で 0.55m である。検出面からの最大の深さは 22㎝である。
［埋土］地山ブロックを含む黒褐色シルトの単層である。層高がないため、自然堆積か人為堆積かの判断はできなかった。
遺物　須恵器 35.9g が出土した。掲載したものはない。
時期・性格　遺物量が少なく、時代を特定するには至らなかった。遺構の性格も不明である。なお、RG010 と同一遺構の可能性がある。（北村）

RG013 溝跡（SD07 溝跡）
遺構（第 64 図、写真図版 51）
［位置・検出状況］24A 区に位置する。Ⅲ層上面と同一面で広がるオリーブ黒色層上面で検出した。当初は旧河道の一部と判断していたが、主に、南側から流れ込んで堆積している層を切り込んで、埋没している部分が確認できたため、遺構と判断した。第 11 次調査では、このような確認ができなかったため、遺構とは判断されていない。重複する遺構はない。

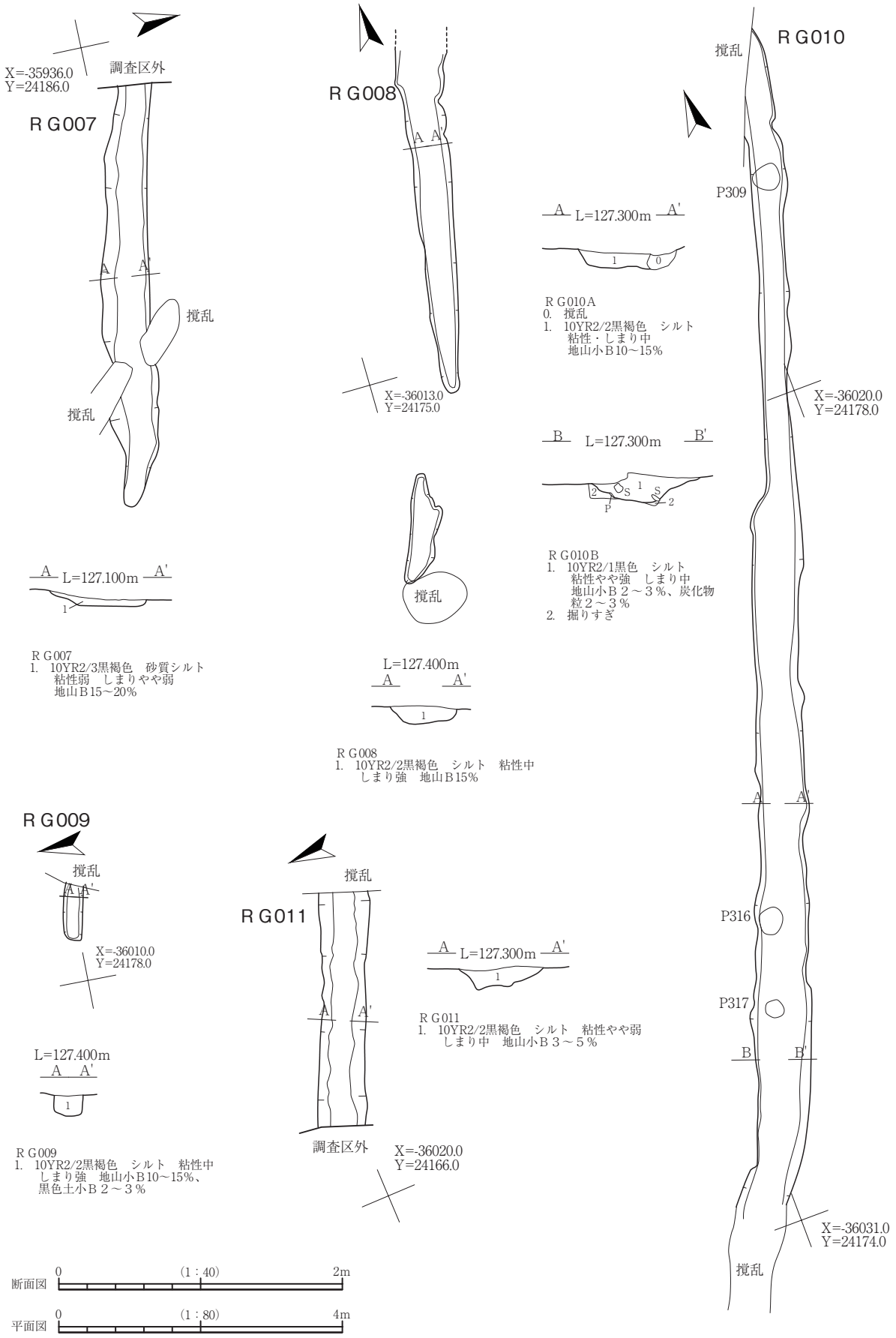




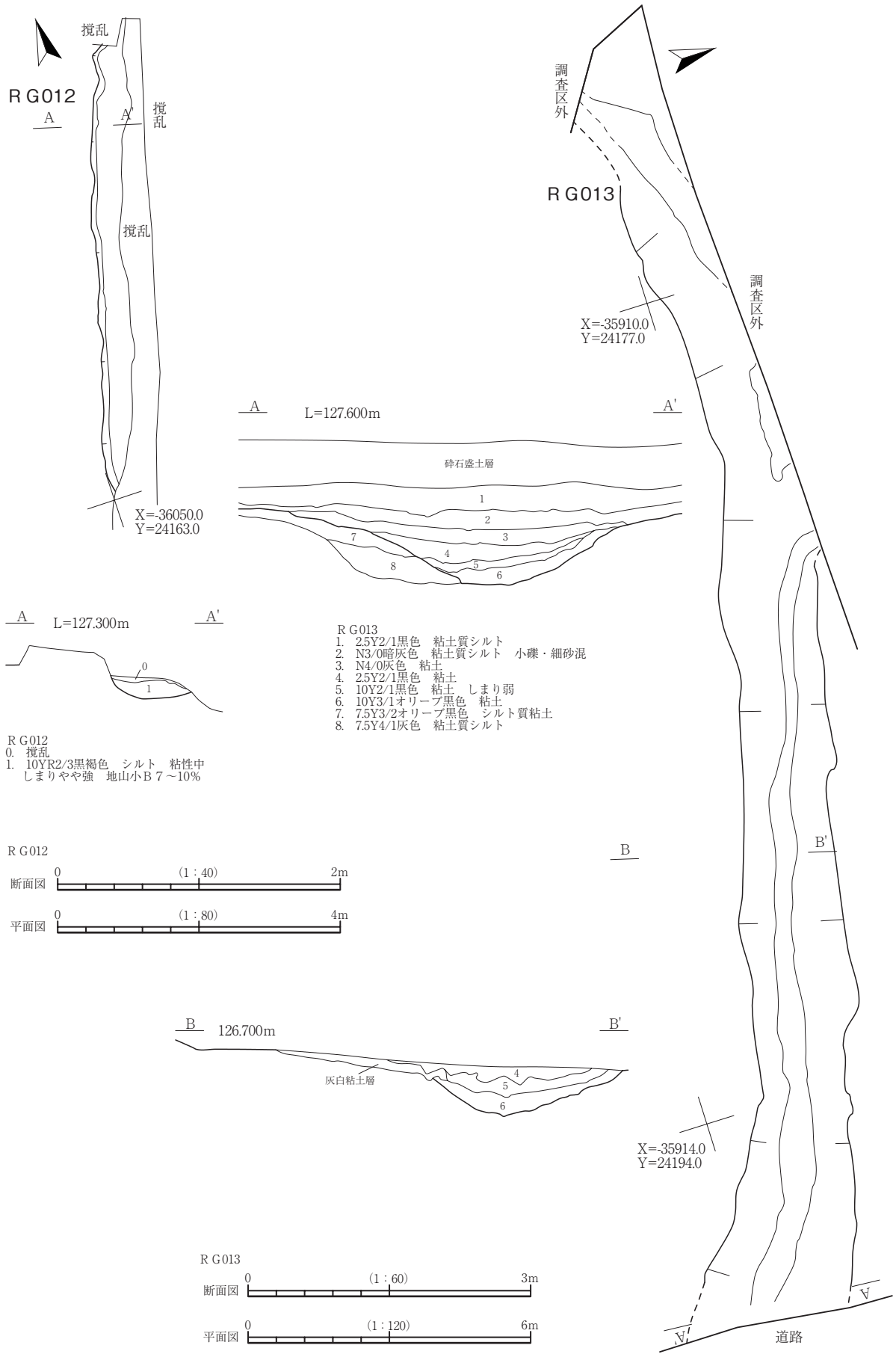
R G005
断面図 0 (1：60) 3m
平面図 0 (1：120) 6m

R G006
断面図 0 (1：40) 2m
平面図 0 (1：80) 4m

第62図　RG（1）


RG007
X=-35936.0
Y=24186.0
調査区外
A
A'
撹乱
撹乱
A L=127.100m A'
1
RG007
1.　10YR2/3黒褐色　砂質シルト
粘性弱　しまりやや弱
地山B15～20%
RG008
A A'
X=-36013.0
Y=24175.0
撹乱
L=127.400m
A A'
1
RG008
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　粘性中
しまり強　地山B15%
A L=127.300m A'
1 0
RG010A
0.　撹乱
1.　10YR2/2黒褐色　シルト
粘性・しまり中
地山小B10～15%
B L=127.300m B'
2 S 1 S 2
P
RG010B
1.　10YR2/1黒色　シルト
粘性やや強　しまり中
地山小B２～３%、炭化物
粒２～３%
2.　掘りすぎ
RG010
撹乱
P309
X=-36020.0
Y=24178.0
A A'
P316
P317
B B'
X=-36031.0
Y=24174.0
撹乱
RG009
撹乱
A A'
X=-36010.0
Y=24178.0
L=127.400m
A A'
1
RG009
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　粘性中
しまり強　地山小B10～15%、
黒色土小B２～３%
RG011
撹乱
A A'
調査区外
X=-36020.0
Y=24166.0
A L=127.300m A'
1
RG011
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　粘性やや弱
しまり中　地山小B３～５%
断面図　0　(1：40)　2m
平面図　0　(1：80)　4m

第63図　RG（2）


R G012
A
A'
撹乱
撹乱
撹乱
X=-36050.0
Y=24163.0
A
L=127.600m
A'
碎石盛土層
1
2
3
4
5
6
7
8
A
L=127.300m
A'
0
1
R G012
0.　撹乱
1.　10YR2/3黒褐色　シルト　粘性中
　しまりやや強　地山小B７～10%
R G013
1.　2.5Y2/1黒色　粘土質シルト
2.　N3/0暗灰色　粘土質シルト　小礫・細砂混
3.　N4/0灰色　粘土
4.　2.5Y2/1黒色　粘土
5.　10Y2/1黒色　粘土　しまり弱
6.　10Y3/1オリーブ黒色　粘土
7.　7.5Y3/2オリーブ黒色　シルト質粘土
8.　7.5Y4/1灰色　粘土質シルト
R G012
断面図　0　(1：40)　2m
平面図　0　(1：80)　4m
B
B'
B
126.700m
B'
灰白粘土層
4
5
6
R G013
断面図　0　(1：60)　3m
平面図　0　(1：120)　6m
調査区外
R G013
調査区外
X=-35910.0
Y=24177.0
X=-35914.0
Y=24194.0
A
A'
道路

第64図　RG（3）

［形状・規模］調査区内を横断しているが、上述のとおり第 11 次調査では確認されていない。東側は調査区外へと延びている。調査区内で確認できた長さは 27.8m、上幅は最大で 2.97m である。検出面からの最大の深さは 104㎝で、断面形は浅い逆台形状～皿状を呈する。
［埋土］遺構部分は 4 層に細分した。灰色～黒色の粘土層で埋没している。酸化鉄が集積し、水の影響を受けた自然堆積と考えられる。
遺物　土師器 10.2g、須恵器 350.7g が出土した。掲載したものはない。
時期・性格　古代の遺物が出土する砂礫層より上部の層を切り込んでおり、平安時代以降の溝跡であることは確かであるが、詳細な年代は不明である。自然流路が埋没した部分に構築されており、自然地形を利用した用水路・排水路としての機能が想定される。（北村）

6　円　形　周　溝（RX）

RX001 円形周溝（SD02 溝跡）

遺構（第 65 図、写真図版 52）
［位置・検出状況］23C 区～ 24I 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。RG010、P309 と重複し、P309 に切られる。RG010 とは新旧関係が判断できなかった。
［形状・規模］円形に巡る。規模は、南北方向で 388㎝である。断面形は、南側では台形に近く、北側では開口部が広がる。
［埋土］4 層に細分した。黒褐色土主体で、下位は黄褐色土ブロックを多く含む。
遺物　土師器 9.1g が出土した。掲載遺物はない。
時期・性格　出土遺物から、平安時代以降と考えられる。性格は不明である。（川又・北村）

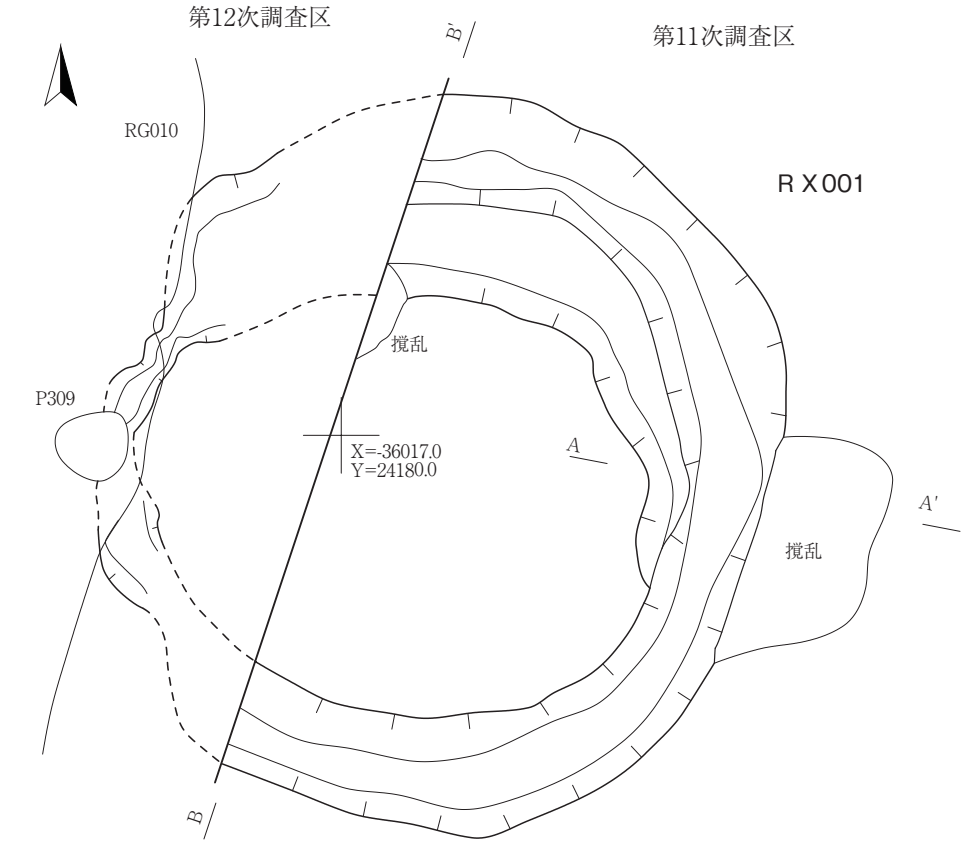
7　不　明　遺　構（RZ）

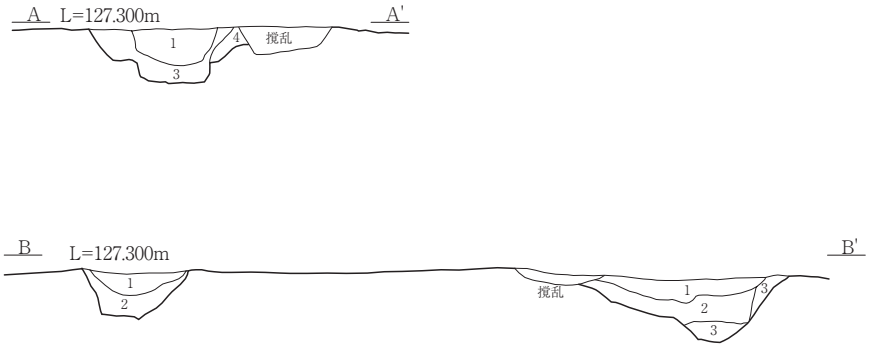
RZ001 不明遺構（SX04）

遺構（第 66 図、写真図版 52）
［位置・検出状況］24J 区に位置する。Ⅲ層上面で検出した。重複する遺構はないが、地下埋設物敷設により中央部を大きく壊されている。
［形状・規模］残存する部分から判断すると、一辺 2.7m 前後の隅丸方形を呈するものと考えられ、残存する深さは 43㎝である。底面は概ね平坦で、壁は外傾する。
［埋土］地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトの単層で、人為堆積の可能性が高い。
遺物　土師器 19.1g、須恵器 350.7g 出土した。掲載したものはない。
時期・性格　遺物量が少なく、時代を特定するに至らなかった。遺構の性格も不明である。（北村）

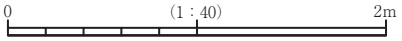
8　柱　　穴（P）

遺構（第 67 ～ 74 図）
　掘立柱建物跡や柱穴列等の遺構にならなかった（組めなかった）柱穴である。第 11 次調査で 276 個、第 12 次調査で 45 個、計 321 個を検出した。この中には、掘り方が非常に浅く、平面形が不明瞭なものも含まれるが、一括している。柱穴の番号は、野外調査時においては、それぞれの調査で 1 番から





R X 001
1.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり弱　粘性なし　黄褐色土粒5%
2.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまり弱　粘性なし　黄褐色土ブロック50%
3.　10YR2/2黒褐色　シルト　しまりやや強　粘性なし　黄褐色土ブロック70%
4.　10YR3/3暗褐色　シルト　しまり強　粘性なし　黄褐色土ブロック10%



第 65 図　RX001

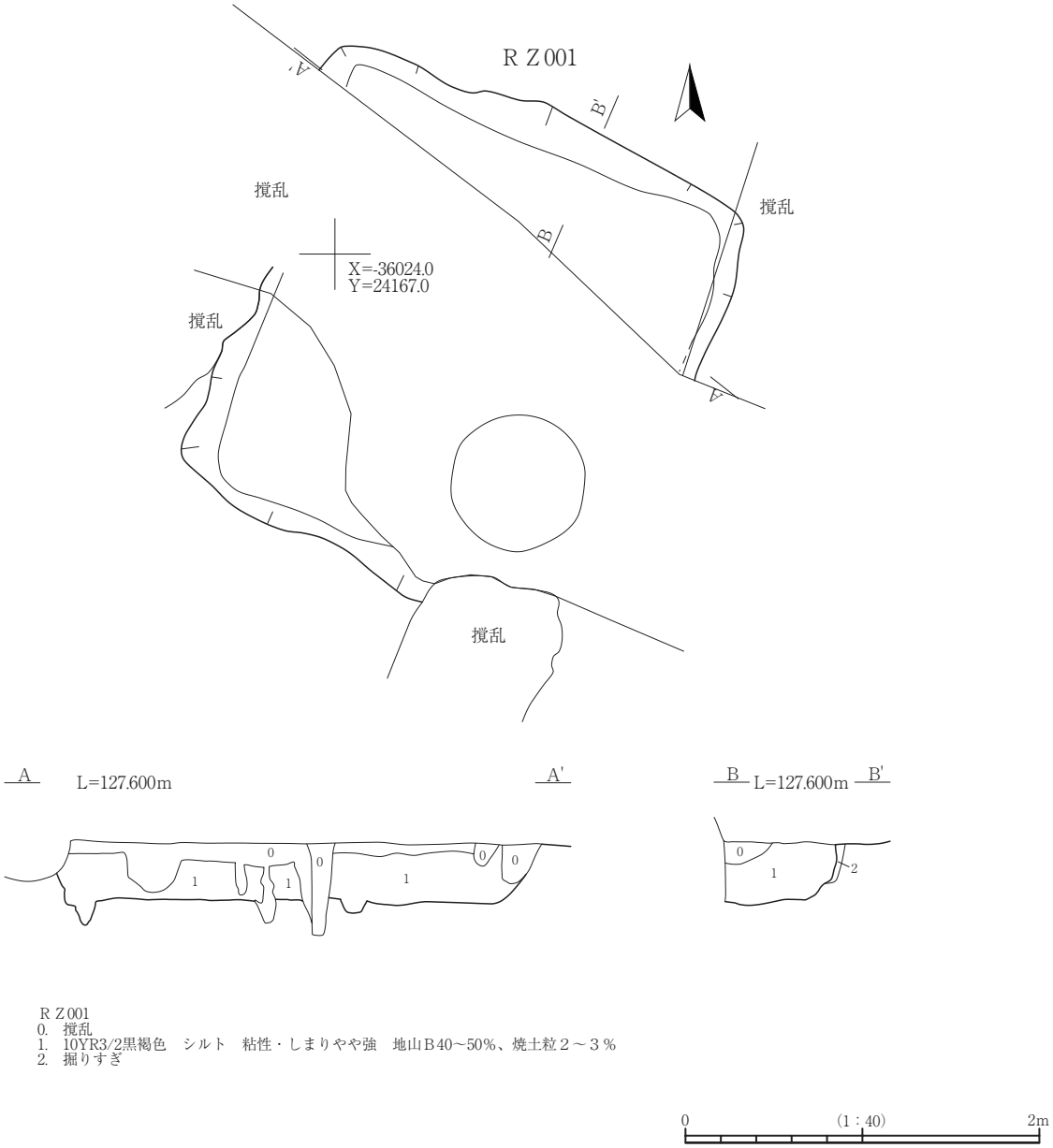
付したが、室内整理時において、連番になるように変更している。変更した内容は第 4 表を参照して頂きたい。柱穴の分布は 23C 区北側、23E 区に集中しており、調査区北側では散発的である。詳細は第 5 表を参照して頂きたい。

遺物（第 115 図、写真図版 79・80）

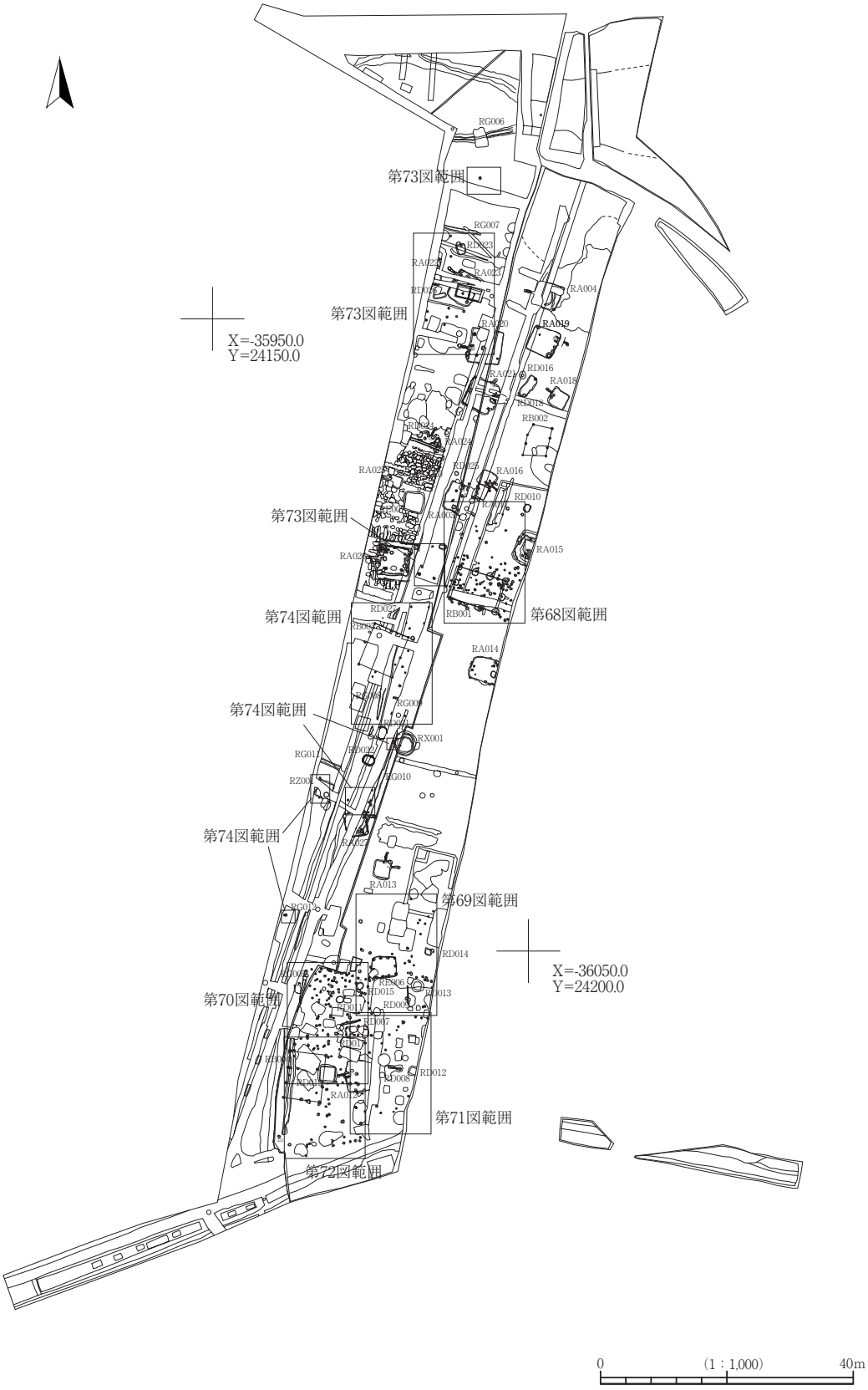
個別の出土量は第 5 表を参照して頂きたい。掲載遺物は、土師器甕 3 点、須恵器坏 1 点である。452 は P127 から、453･454 は P145 から出土した i 類の土師器甕である。3 点とも底部付近の資料である。456 は P208 から出土した須恵器坏の底部資料である。

9　遺構外出土遺物（第 115 ～ 120 図、写真図版 80 ～ 84）

縄文土器（457 ～ 469）　457・458 は浅鉢、459 ～ 463 は鉢、464・467 は台付鉢、465・466・469 は鉢と考えられる資料、468 は深鉢である。断片的な資料が多く、全体の様相が窺えるのは 457 のみである。

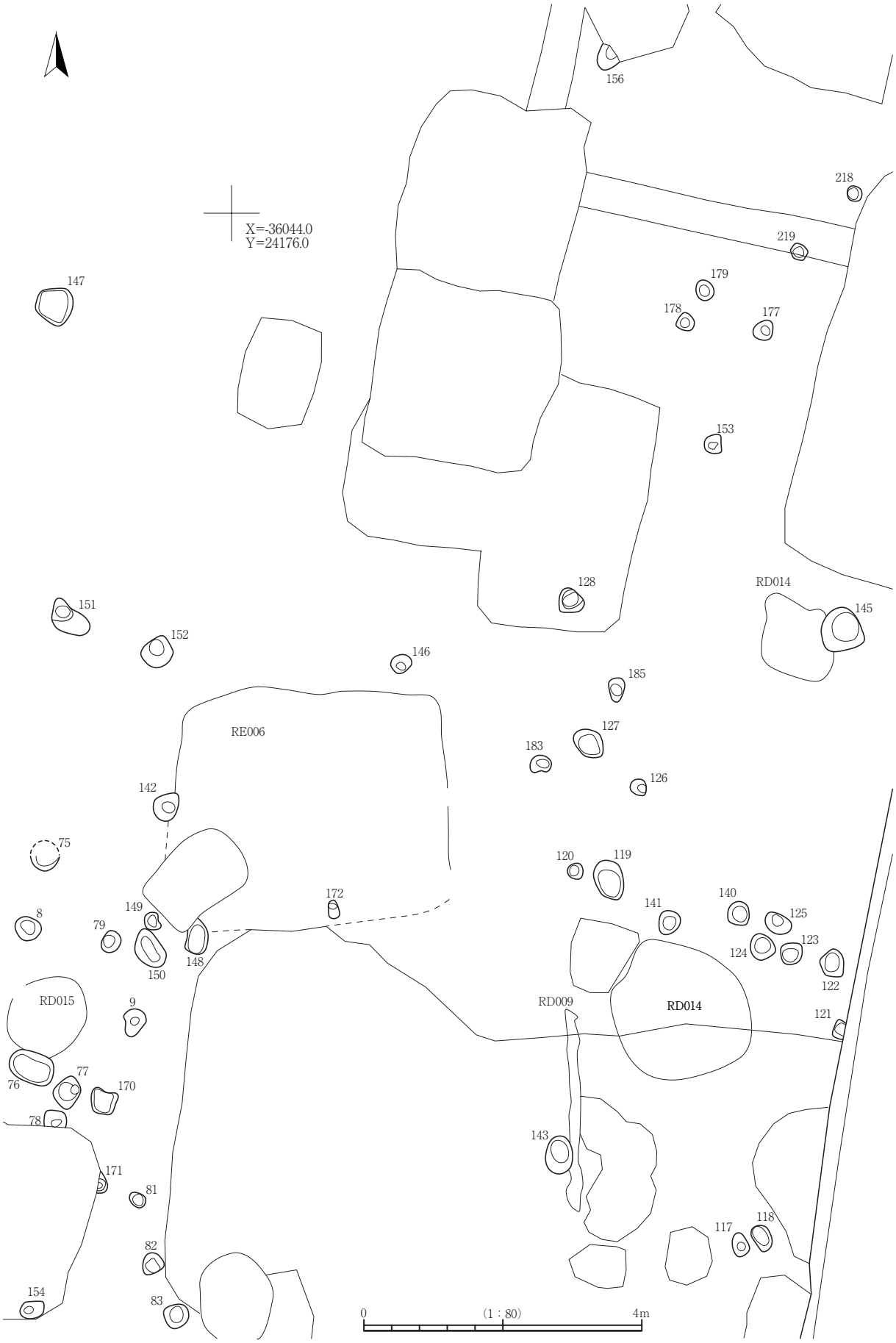


第 66 図　RZ001


第73図範囲
第73図範囲
X=-35950.0
Y=24150.0
第73図範囲
第74図範囲
第68図範囲
第74図範囲
第74図範囲
第69図範囲
X=-36050.0
Y=24200.0
第70図範囲
第71図範囲
第72図範囲
0
(1：1,000)
40m

第 67 図　柱穴（1）

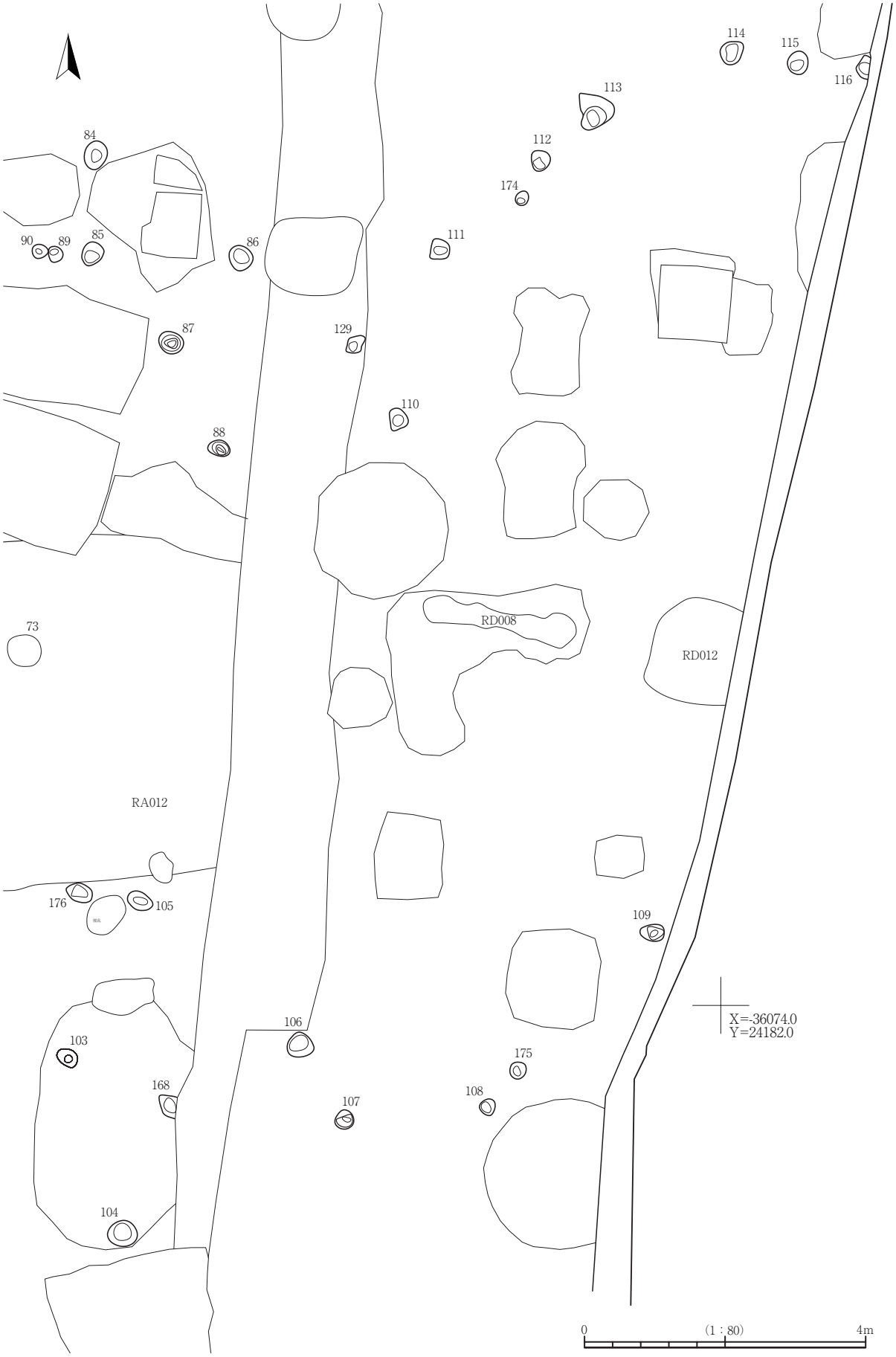
第68図　柱穴（2）


X=-36044.0
Y=24176.0
156
218
219
179
178
177
147
153
128
RD014
145
151
152
146
185
127
183
126
RE006
142
75
120
119
172
141
140
125
123
124
122
8
149
79
150
148
RD015
9
RD009
RD014
121
76
77
170
78
143
171
81
117
118
82
154
83
0
(1：80)
4m

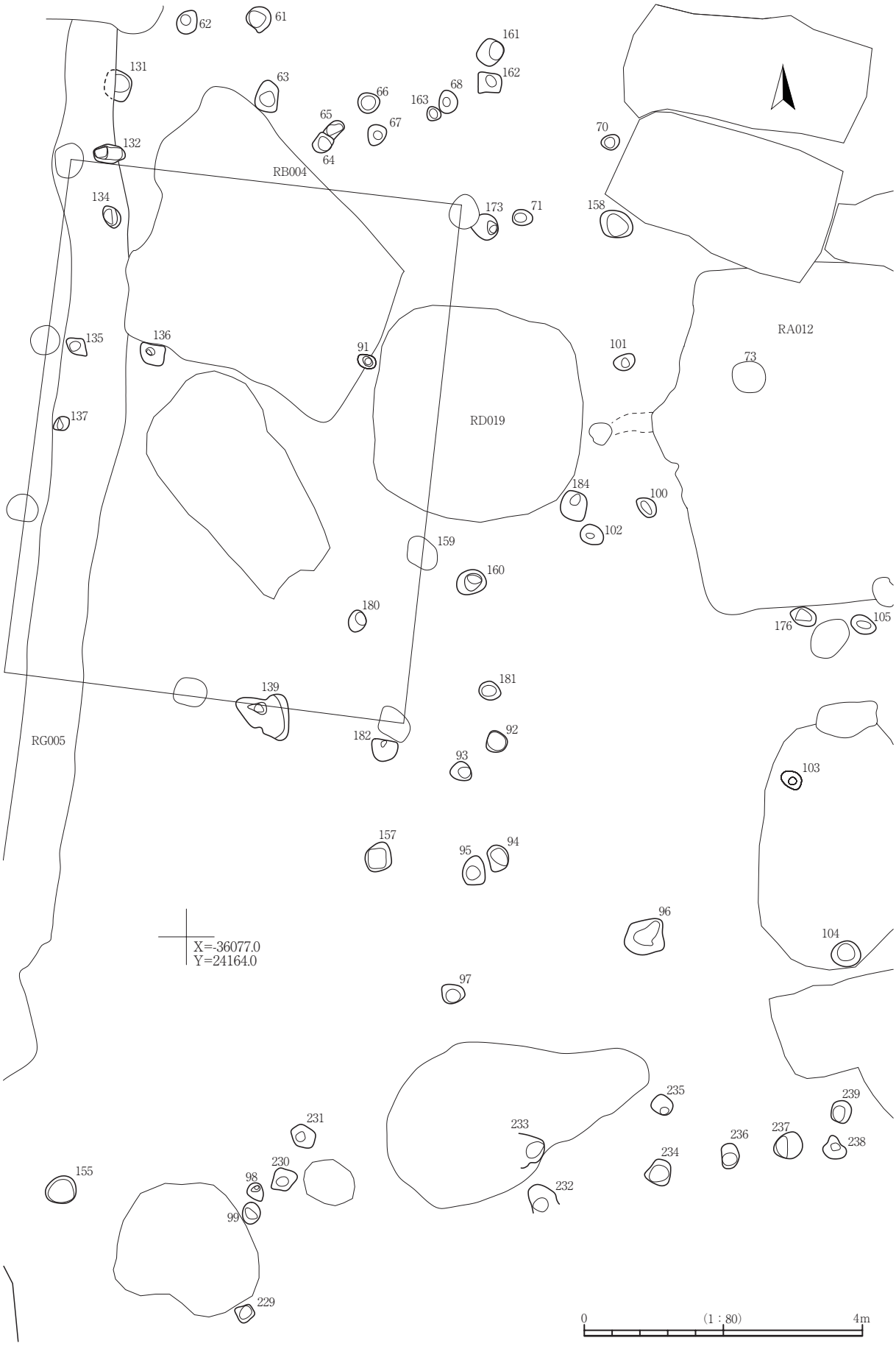
第69図　柱穴（3）

X=-36054.0
Y=24163.0
RG005
RD015
RD011
RD007
RD017
RB004
RA012
RD019
320（416）
0
（1：80）
4m

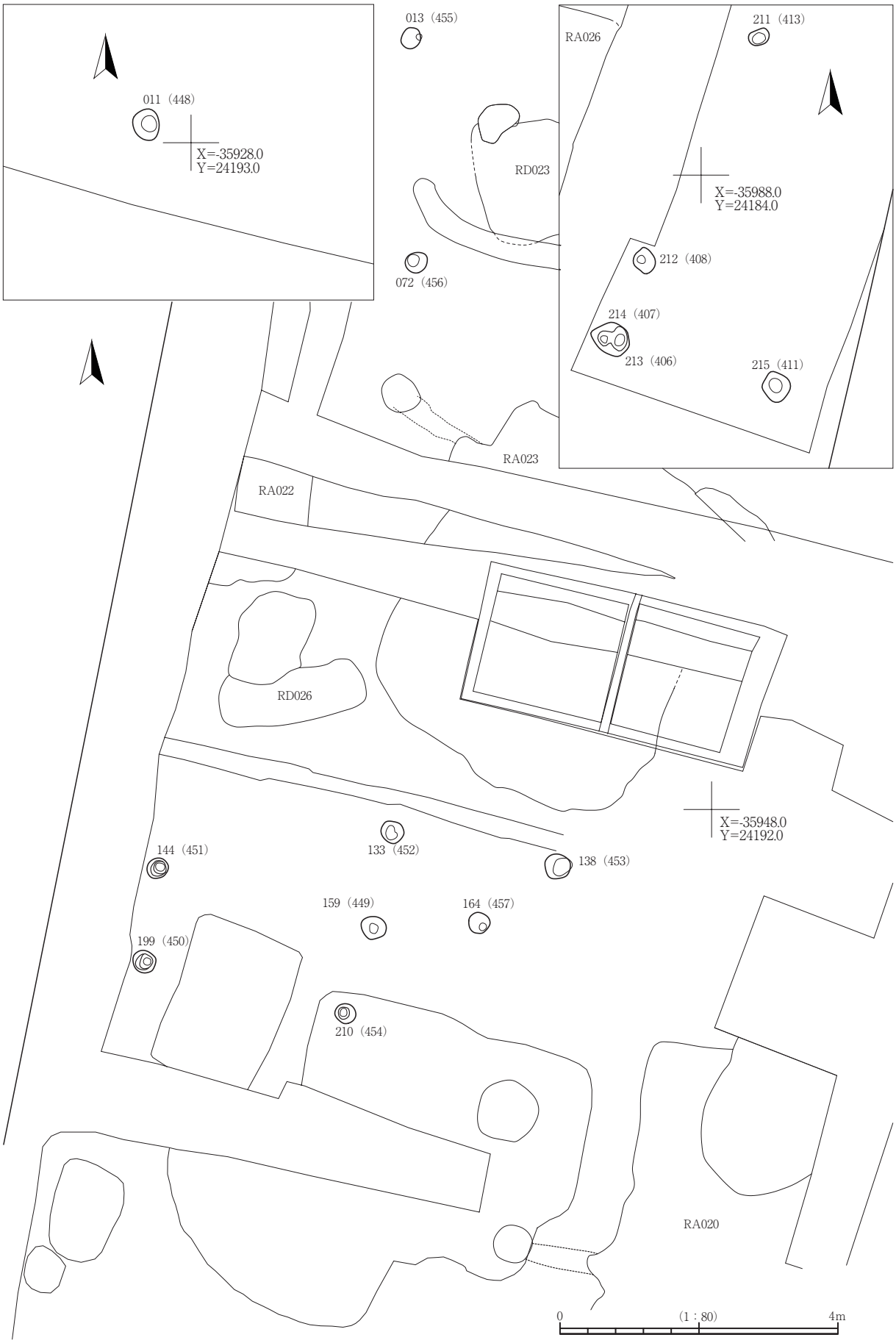
第70図　柱穴（4）


114
115
116
113
112
174
84
90
89
85
86
111
87
129
110
88
73
RD008
RD012
RA012
176
105
109
X=-36074.0
Y=24182.0
106
103
175
168
108
107
104
0
(1：80)
4m

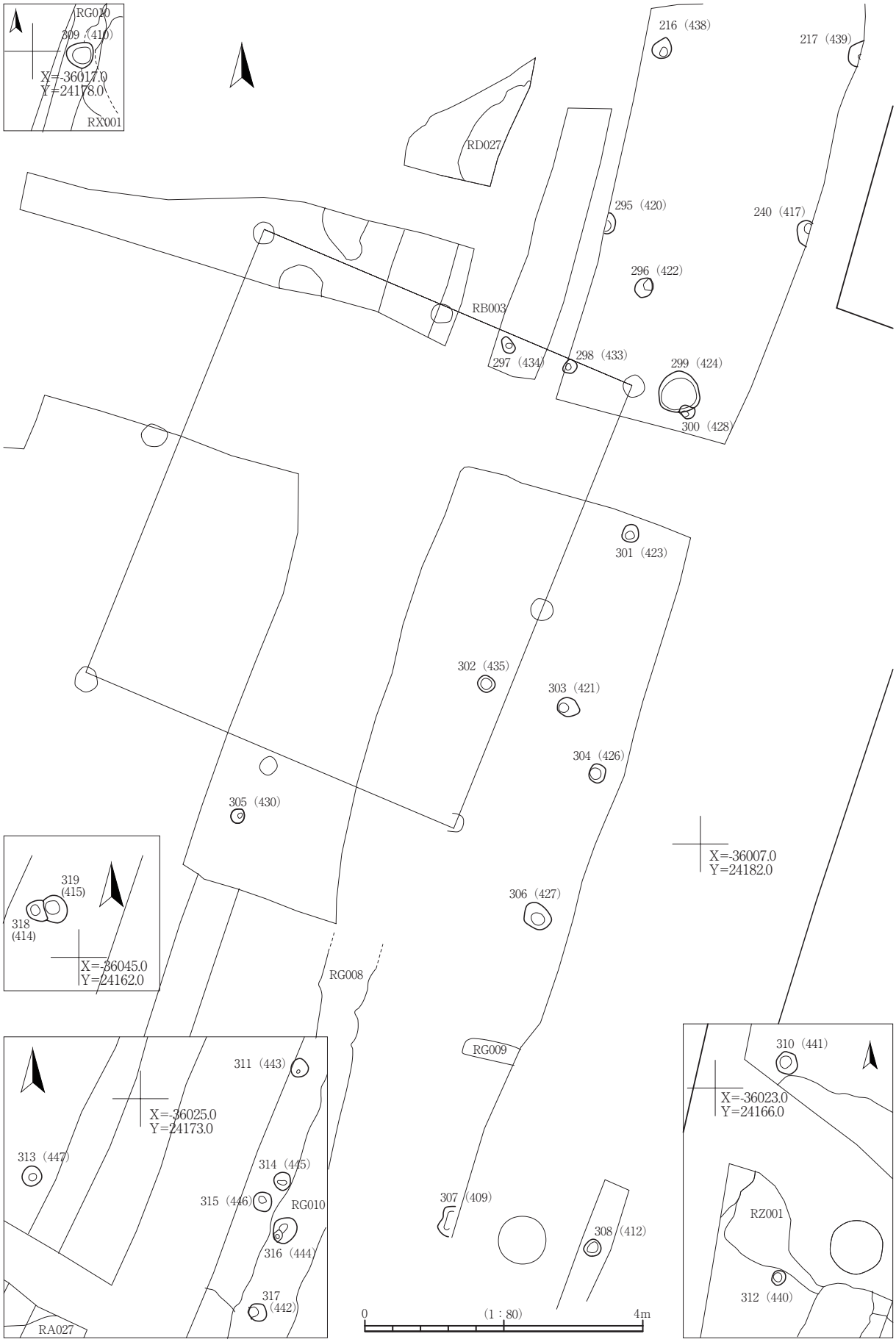
第 71 図　柱穴（5）


62
61
161
131
162
63
66
68
163
65
67
70
132
64
RB004
134
173
71
158
RA012
135
136
91
101
73
137
RD019
184
100
102
159
160
180
176
105
181
139
92
182
RG005
93
103
157
95
94
96
X=-36077.0
Y=24164.0
104
97
235
239
231
233
236
237
238
234
230
155
98
232
99
229
0
(1：80)
4m

第72図　柱穴（6）


011（448）
X=-35928.0
Y=24193.0
013（455）
RA026
211（413）
RD023
X=-35988.0
Y=24184.0
212（408）
072（456）
214（407）
213（406）
215（411）
RA023
RA022
RD026
X=-35948.0
Y=24192.0
144（451）
133（452）
138（453）
159（449）
164（457）
199（450）
210（454）
RA020
0
（1：80）
4m

第73図　柱穴（7）


RG010
309（410）
X=-36017.0
Y=24178.0
RX001
216（438）
217（439）
RD027
295（420）
240（417）
296（422）
RB003
297（434）
298（433）
299（424）
300（428）
301（423）
302（435）
303（421）
304（426）
305（430）
X=-36007.0
Y=24182.0
319
(415)
318
(414)
X=-36045.0
Y=24162.0
306（427）
RG008
RG009
311（443）
X=-36025.0
Y=24173.0
313（447）
314（445）
315（446）
RG010
316（444）
317
（442）
RA027
307（409）
308（412）
0
(1：80)
4m
310（441）
X=-36023.0
Y=24166.0
RZ001
312（440）

第74図　柱穴（8）

468 のみが縄文時代中期中葉の大木 8a 式～大木 8b 式に相当し、その他は縄文時代晩期中葉の大洞 C1 式～大洞 C2 式に相当するものと考えられる。

石器：縄文時代（470 ～ 473）　470・471 は頁岩製の石鏃で、2 点とも凸基有茎鏃である。両面とも入念な調整が施されている。472 は頁岩製の鍬形石器である。細部調整は周縁部のみに行われ、粗雑な印象を受ける。刃部に作り出しも弱く、未製品の可能性も想定される。473 はデイサイト製の磨石である。使用面は 2 面である。使用面とは別の平坦な面に凹部があり、凹石としても使用されている。

土師器（474 ～ 483）　474・476 はＩＣ類、475 はＩＢ類、477 はＩ類、478 はⅢ類の坏である。477 は底部に孔が穿たれている。胎土に金雲母を含むものが多い。479 はⅡ類の高台付坏である。480 ～ 482 は i 類の甕である。胎土に砂粒を含んでいる。483 は ii 類の小甕である。底部の小片であるが、孔が穿たれているのに注目して報告する。

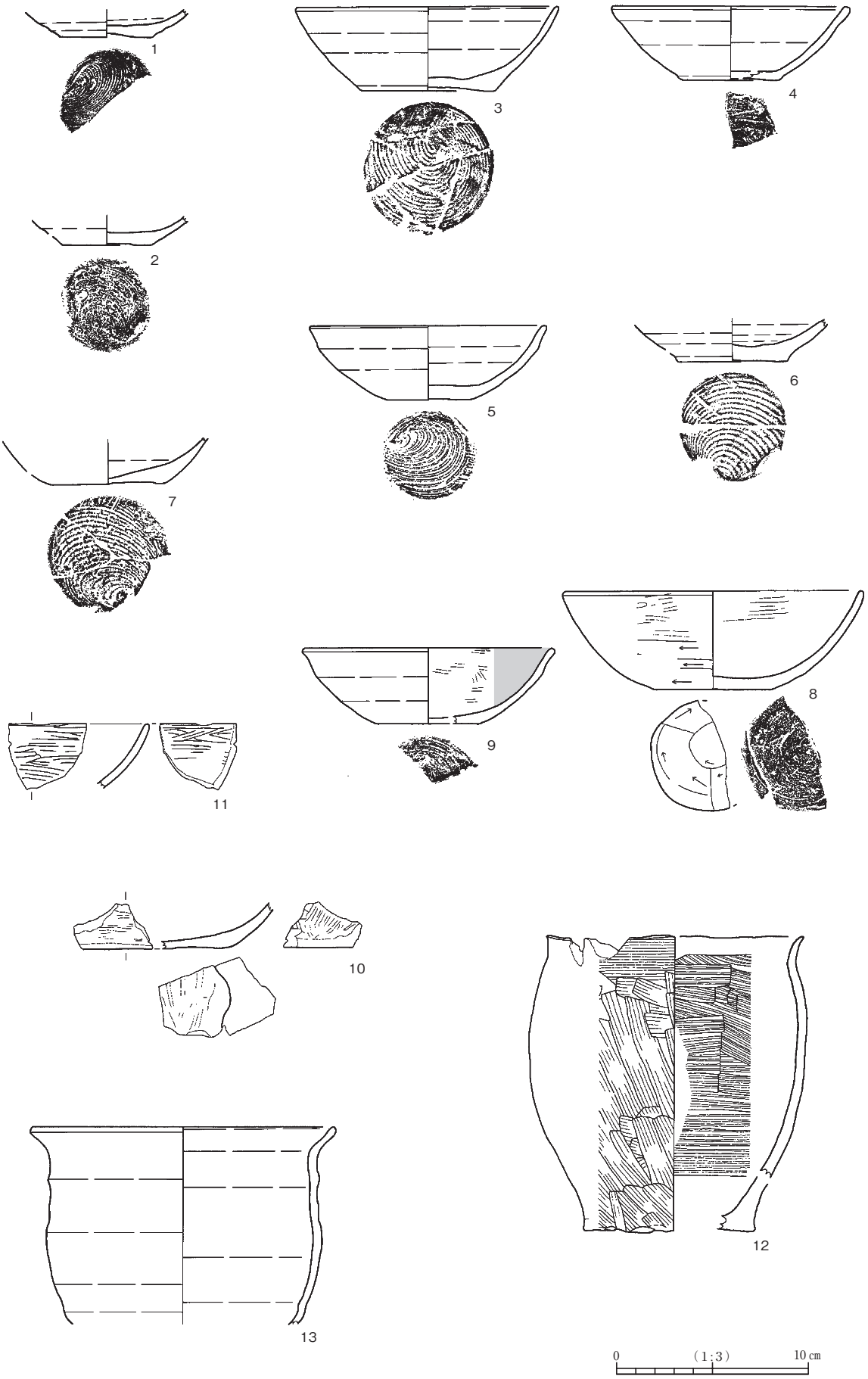
須恵器（484 ～ 495）　484 はＢ類、488 はＣ類、485 ～ 487 は分類不明の坏である。胎土に砂粒を含んでいる。486 ～ 488 はＡ区で確認できた自然流路の最下部である砂礫層から出土したものである。489 は甕、490 は大甕、491 ～ 495 は壺である。

陶磁器（496 ～ 509）　496 は大堀相馬産と考えられる碗である。497 は唐津産の皿である。藁灰釉がやや厚くかけられている。498 は獣面装飾のある鉢と考えられる産地不明の陶器である。近代以降のものと考えられる。499 は猿投窯の灰釉陶器である。長頸瓶の頸部の断片的な資料である。500 は波佐見産と考えられる青磁の碗である。釉薬は明緑灰色を呈し、両面とも約 1㎜の厚さがある。501 は産地が想定できなかった青磁の壺の底部付近の資料である。近代以降のものと考えられる。502 は産地や製作年代が不明の青磁の皿である。草花文と考えられる文様が描かれている。503 は磁器碗、504 ～ 507 は磁器皿、508・509 は紅皿である。製作地は 503・504・508・509 が肥前、505 が波佐見と考えられる。506 と 507 は特定できなかった。

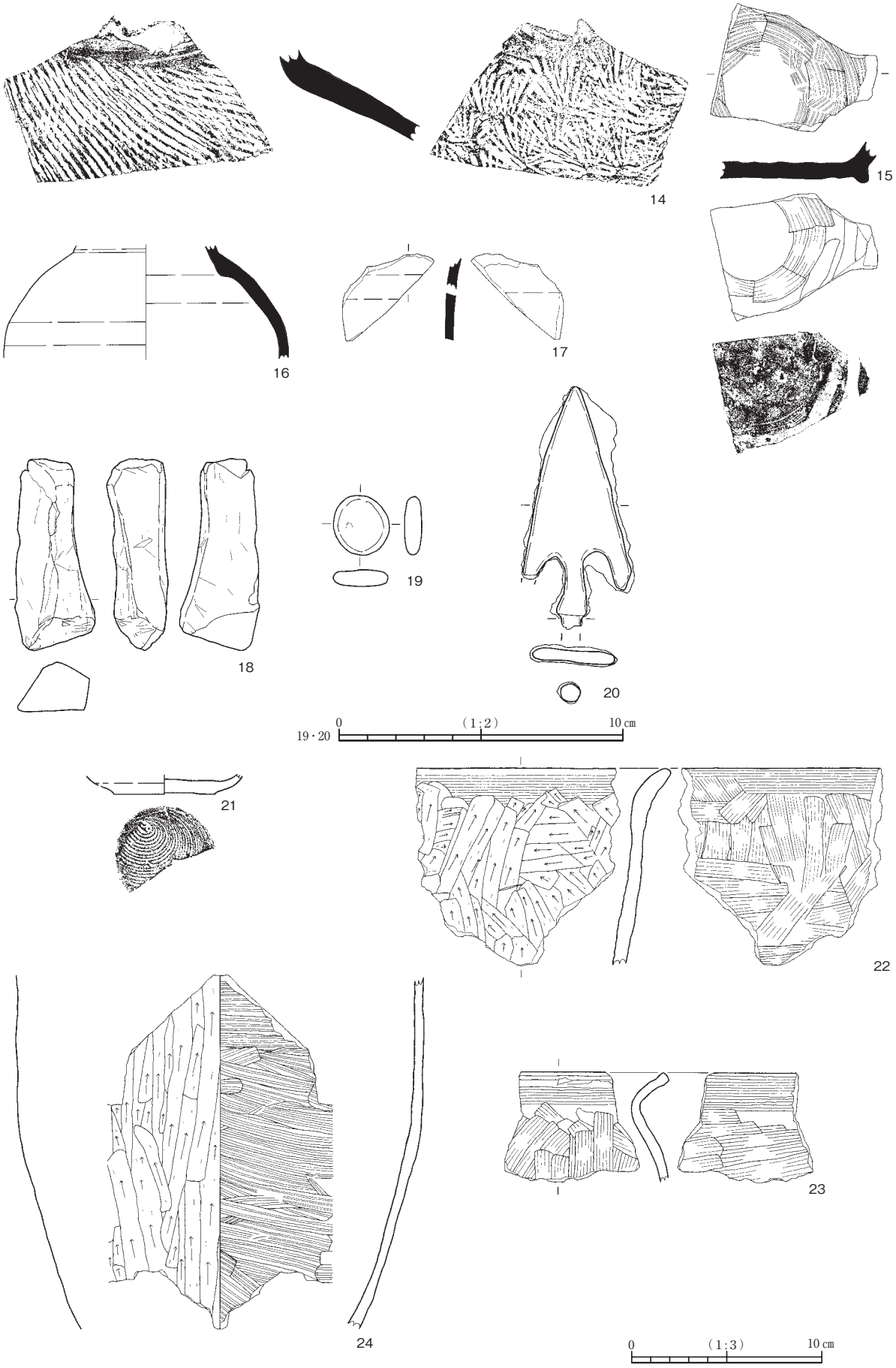
石器：古代以降（510 ～ 514）　510 ～ 513 は砥石である。510 は安山岩製の荒砥で、2 面を使用面としている。面取りは行われていない。511 ～ 513 はデイサイト製の中砥である。面取りが行われており、両端以外の 4 面を使用面としている。514 は安山岩製の石臼である。

金属製品（515 ～ 517）　515・516 は煙管の雁首である。515 は断面形が六角形を呈し、梅と考えられる花が描かれている。516 と比較すると重量感のあるものである。517 は耳かき付きの簪である。

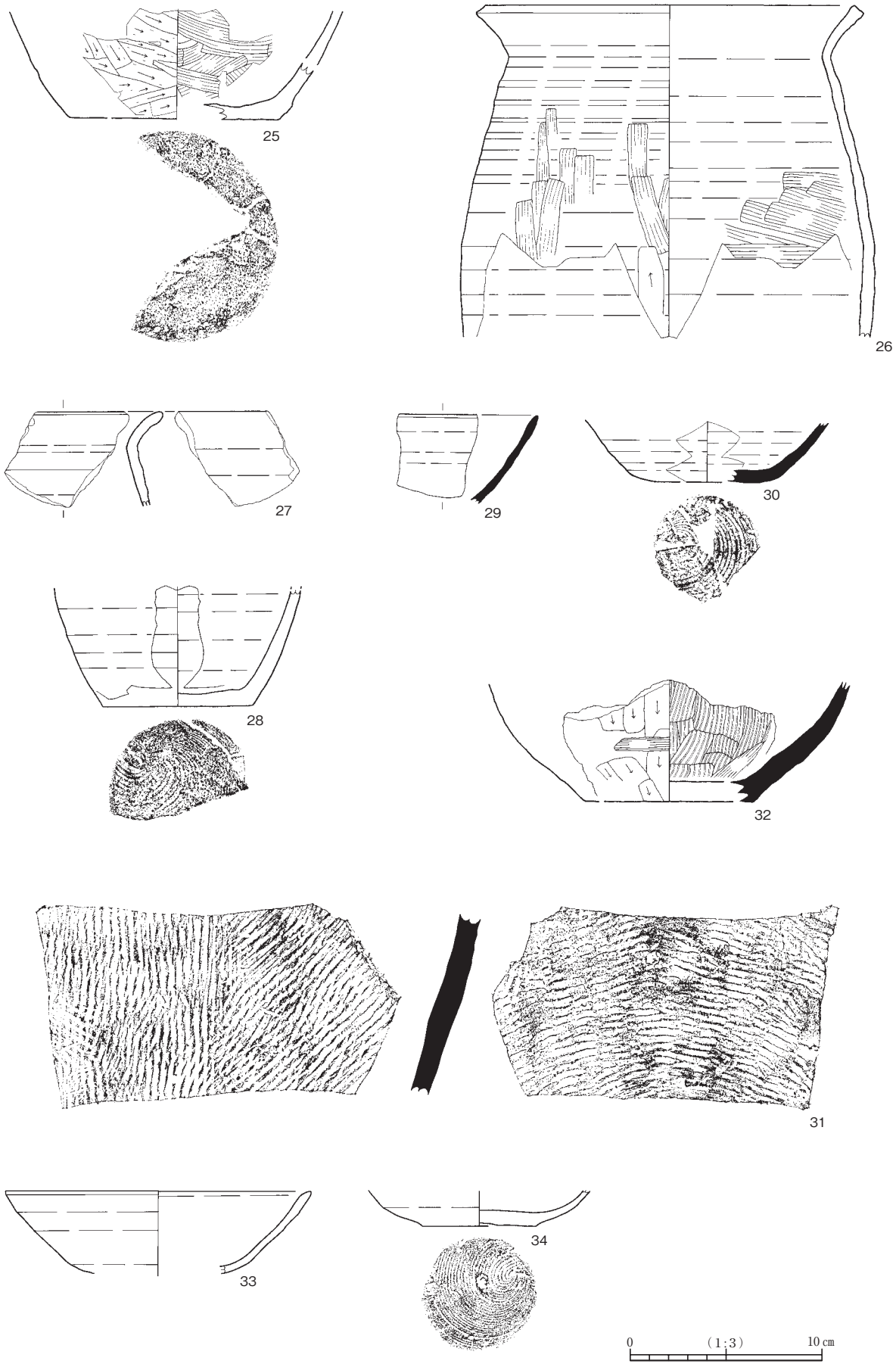
銭貨（518 ～ 534）　518 ～ 528 は寛永通寶、529･530 は文久永寶、531 ～ 534 は明治時代以降のもので、531・532 は半銭銅貨、533・534 は一銭銅貨である。（北村）



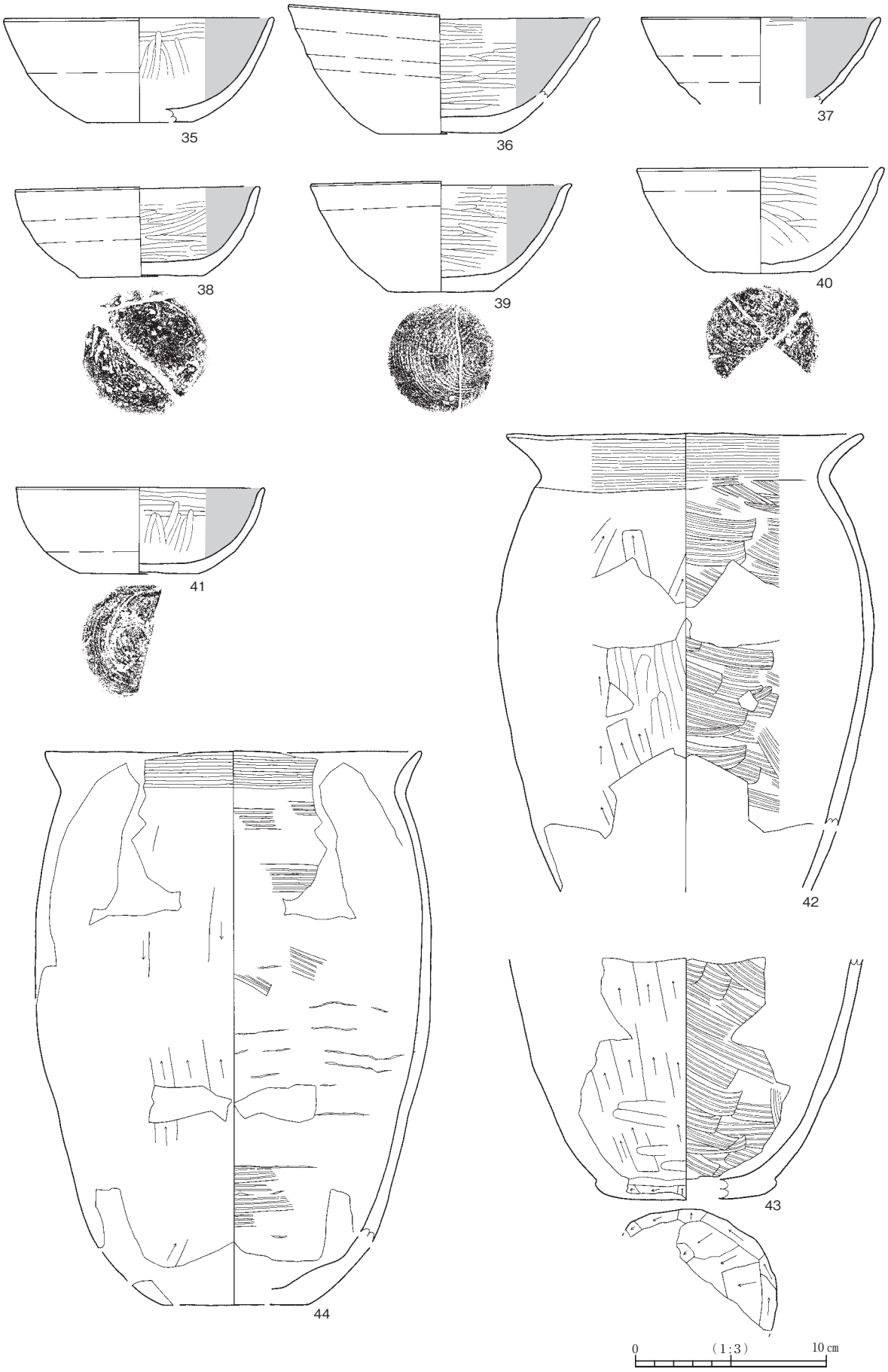
第75図　出土遺物（1）



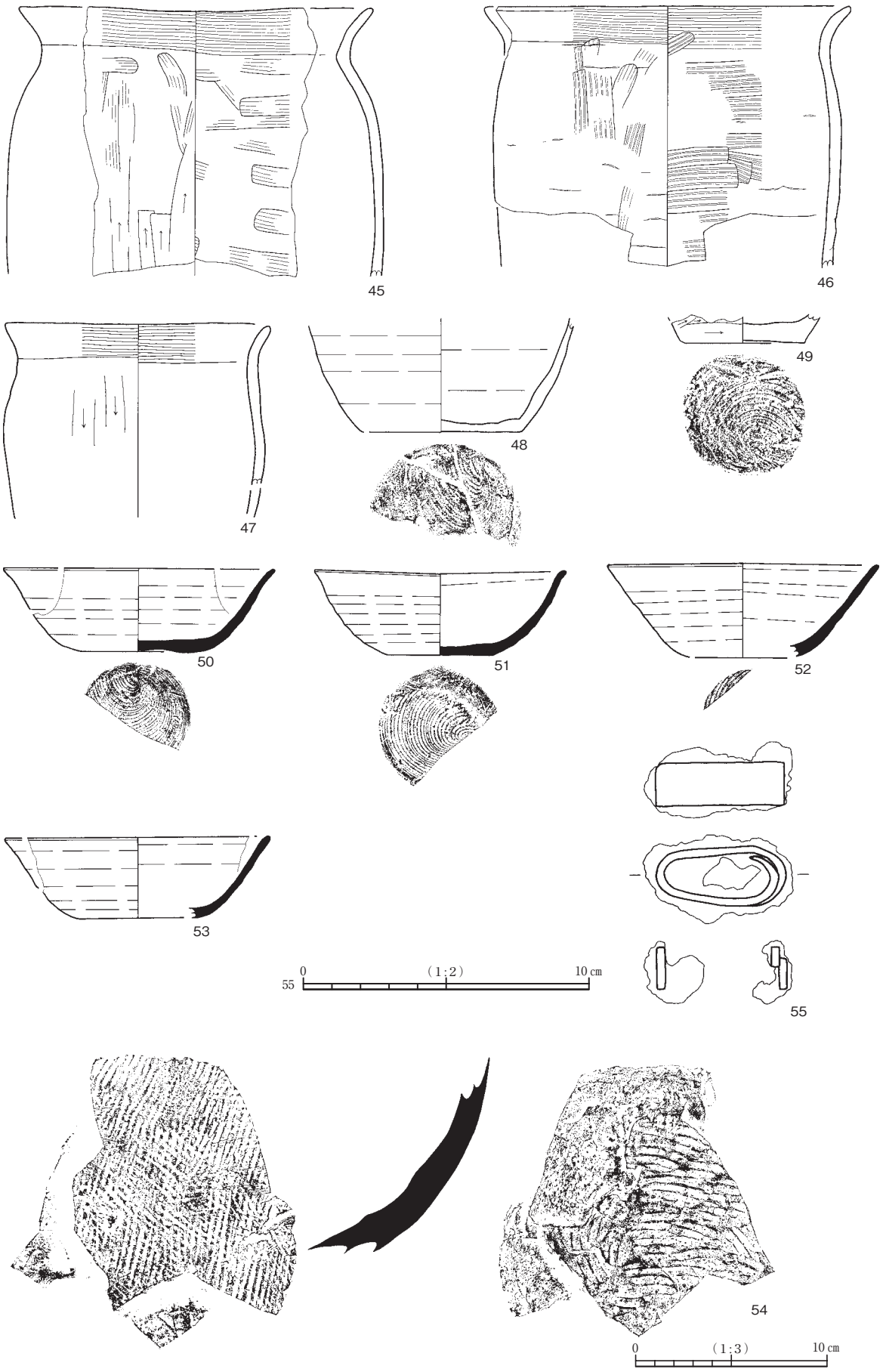
第 76 図　出土遺物（2）



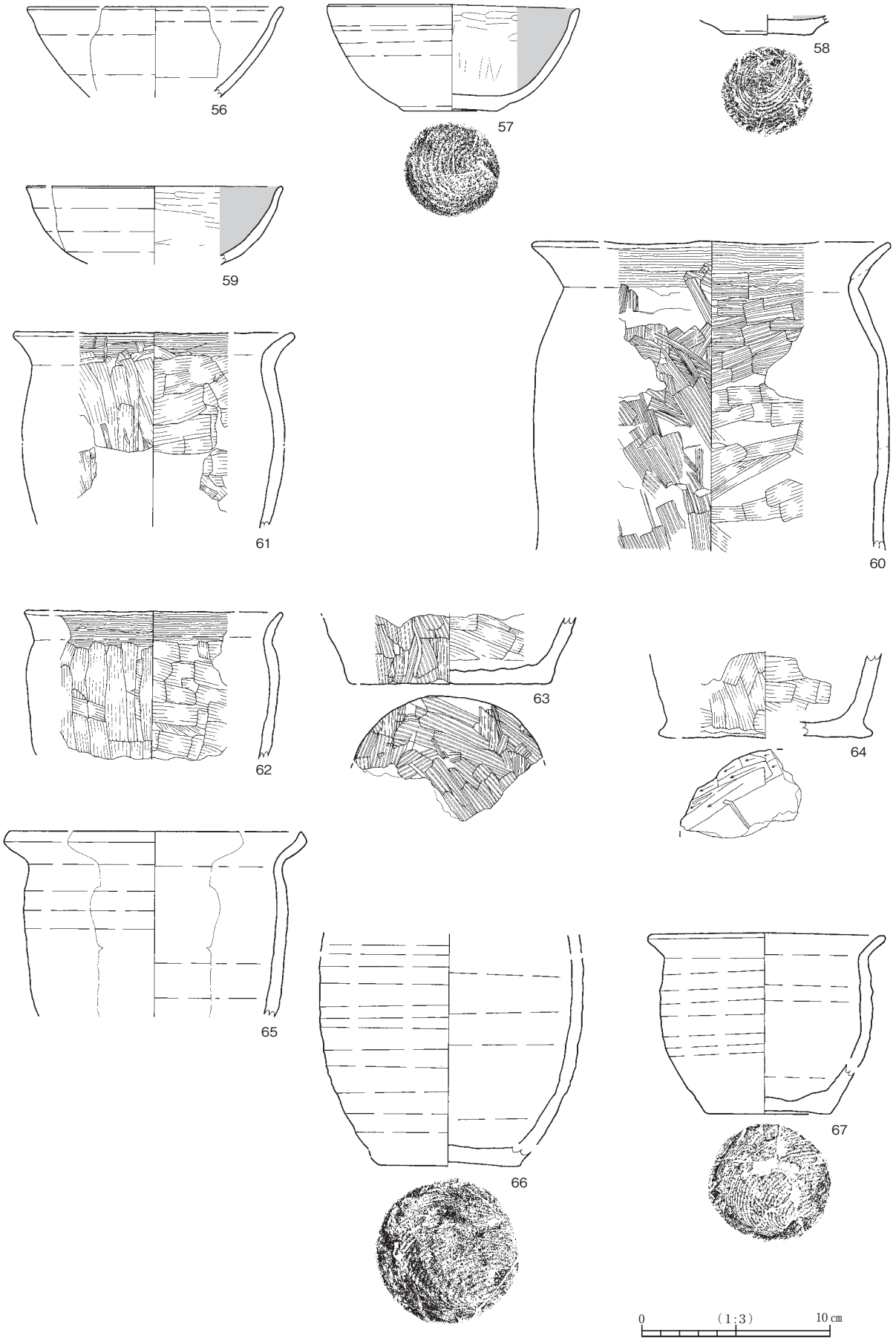
第77図　出土遺物（3）



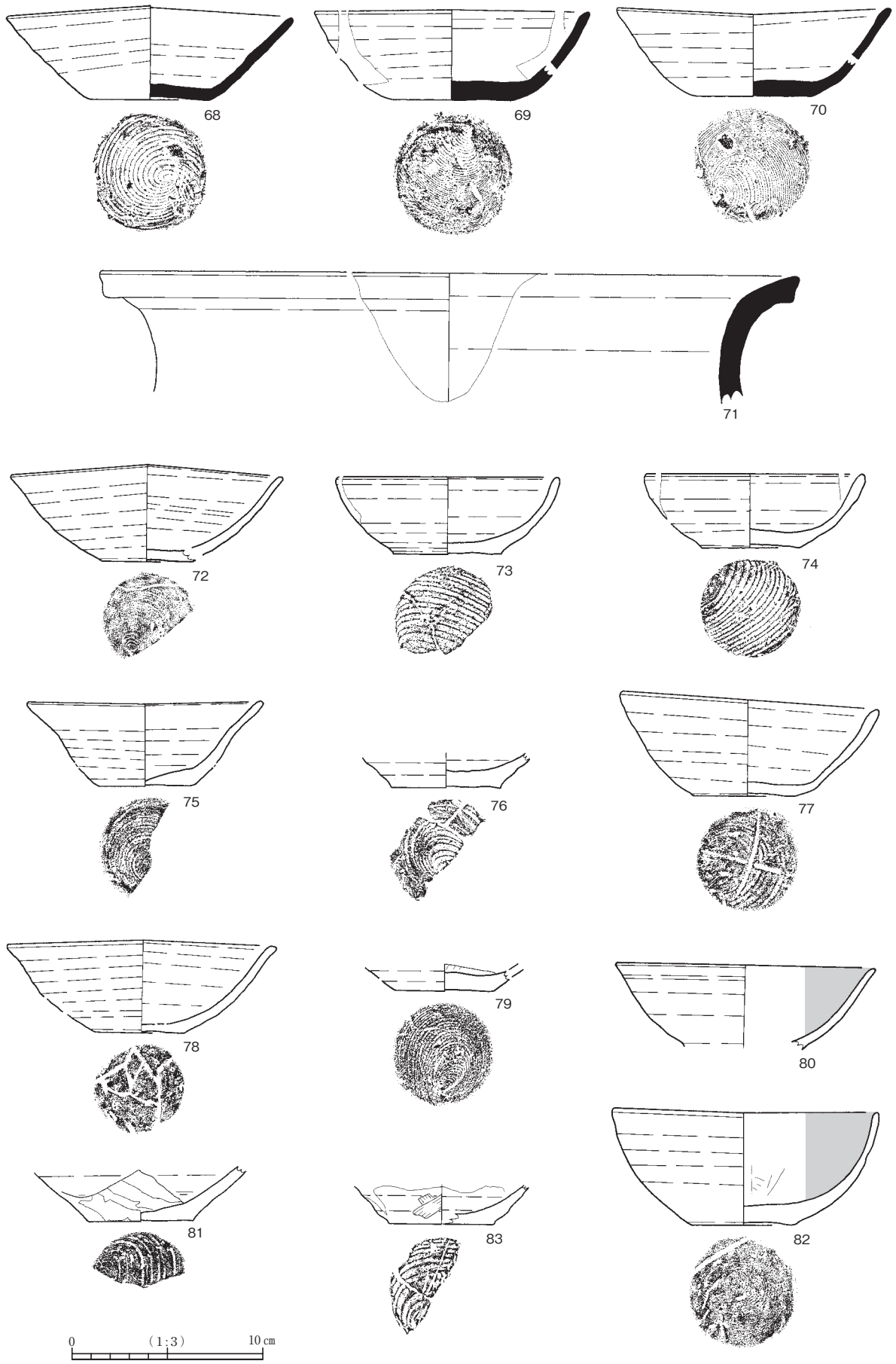
第78図　出土遺物（4）



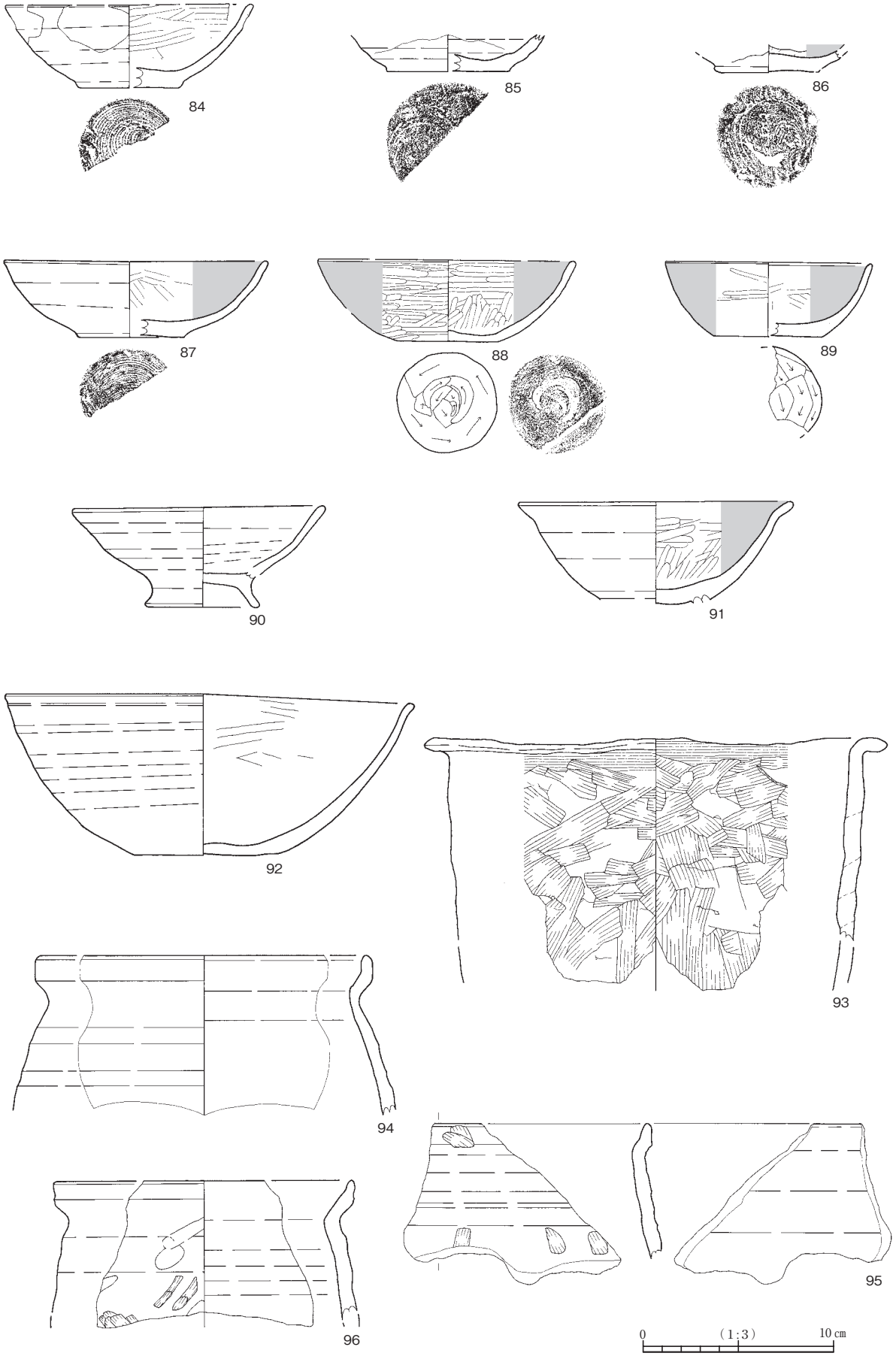
第 79 図　出土遺物（5）



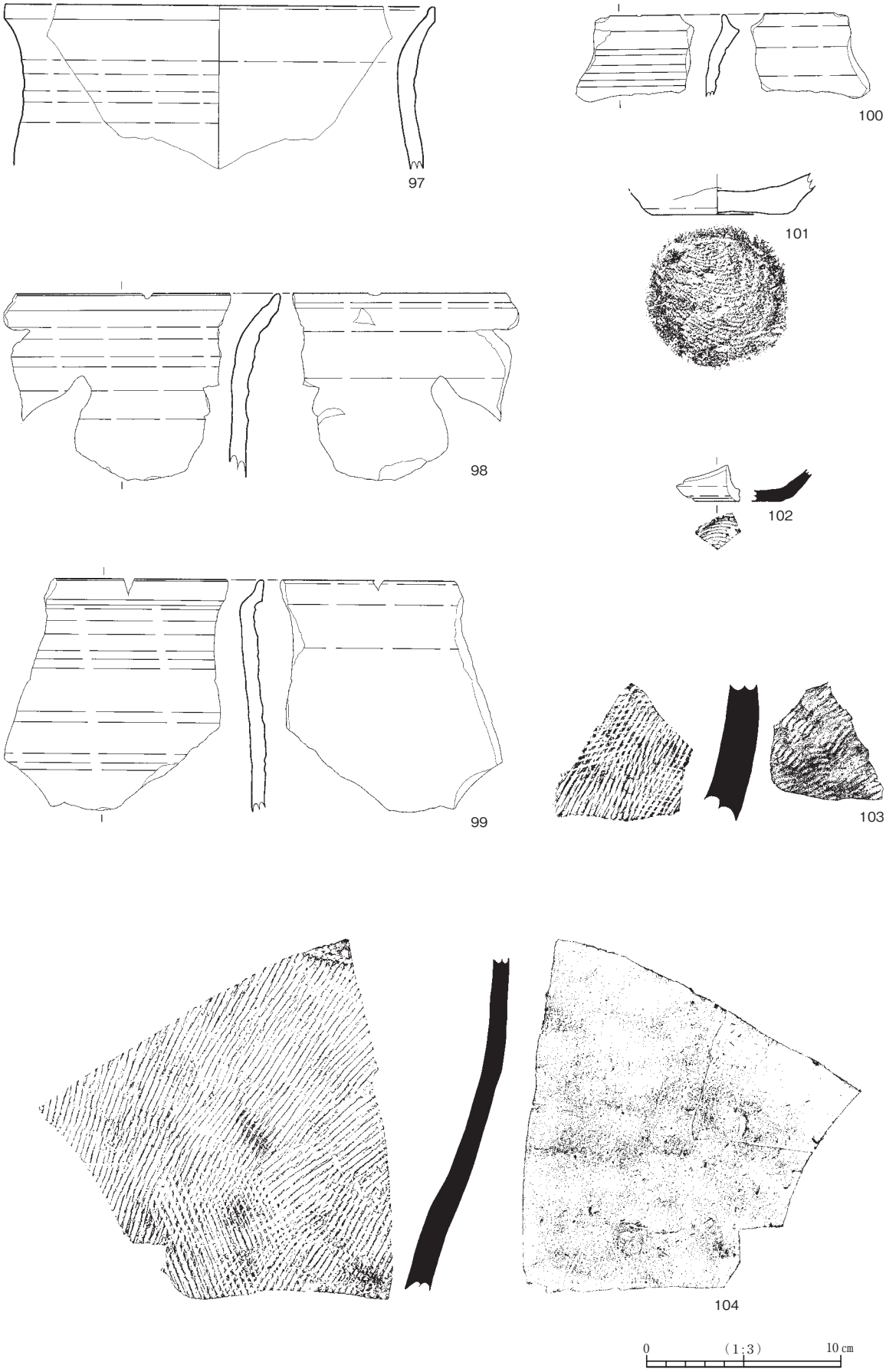
第 80 図　出土遺物（6）



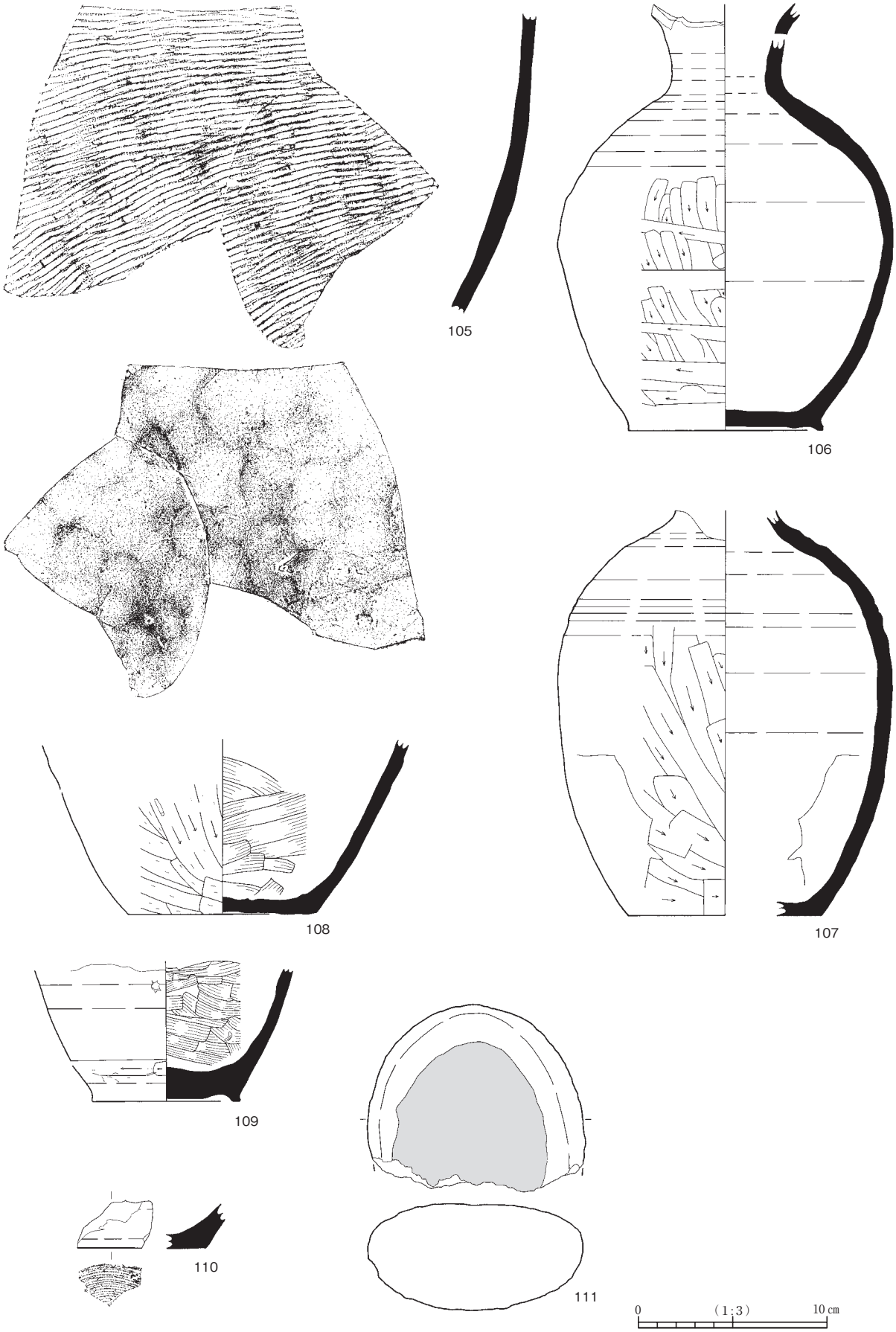
第 81 図　出土遺物（7）



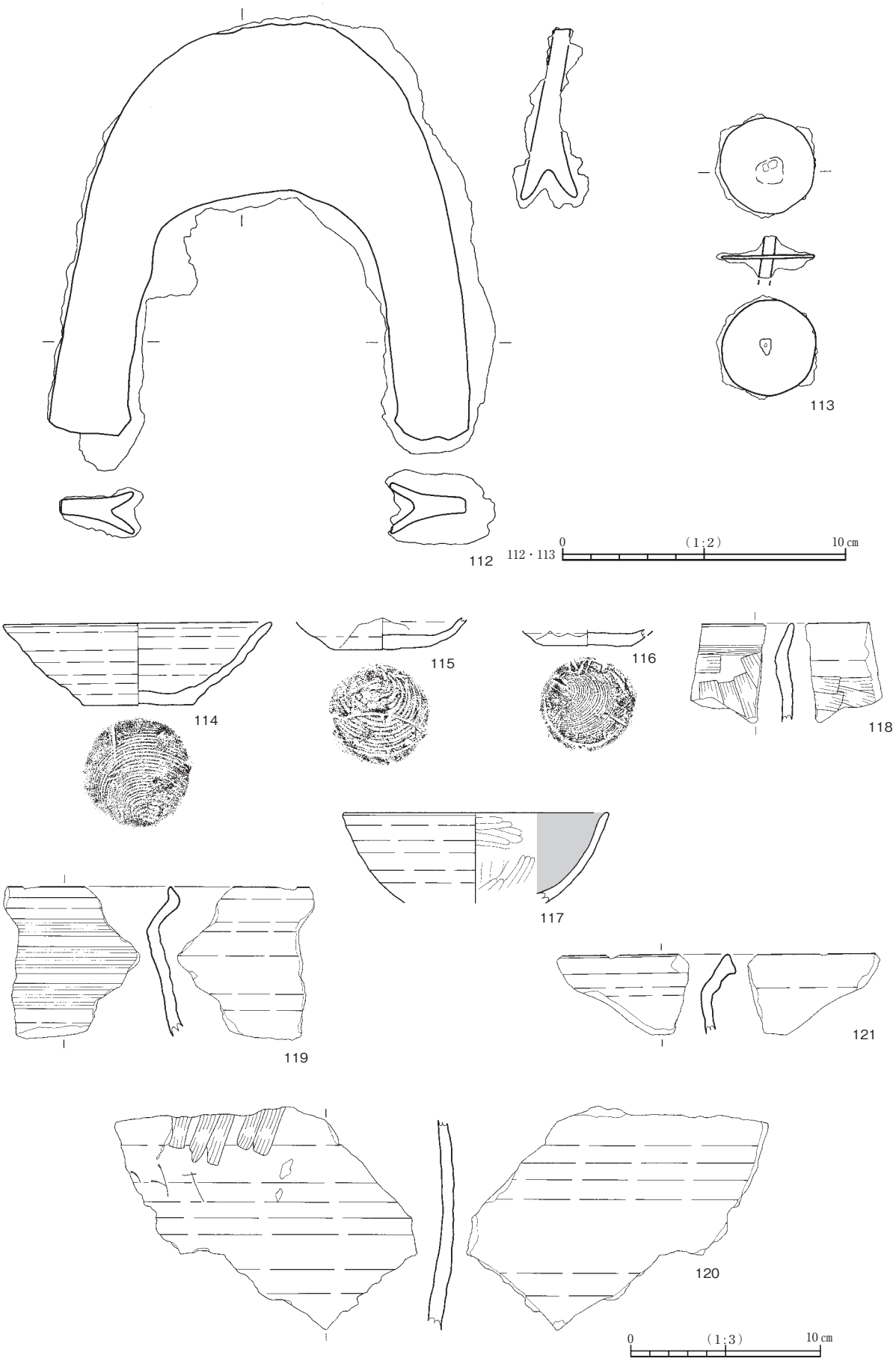
第82図　出土遺物（8）



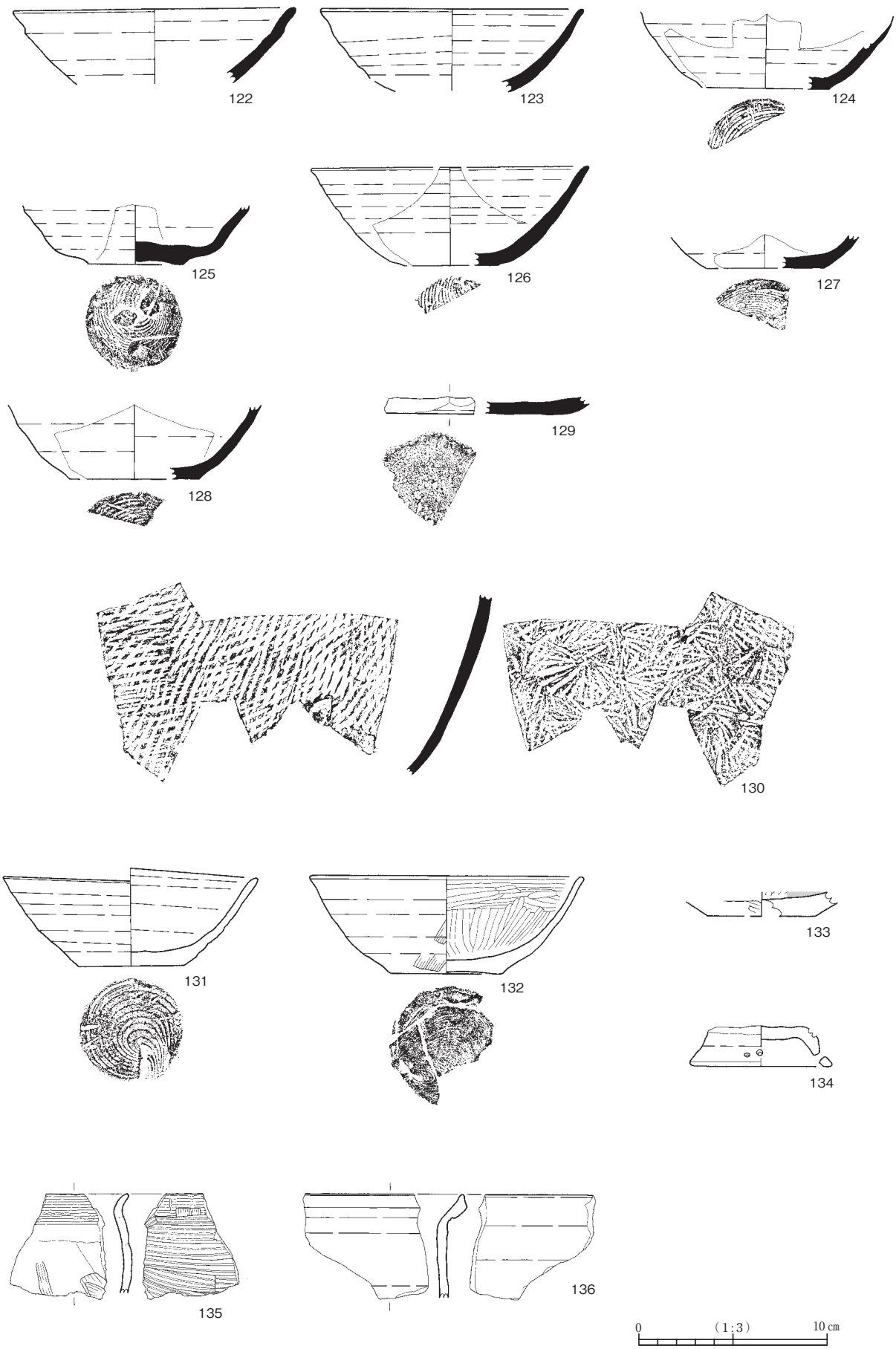
第 83 図　出土遺物（9）



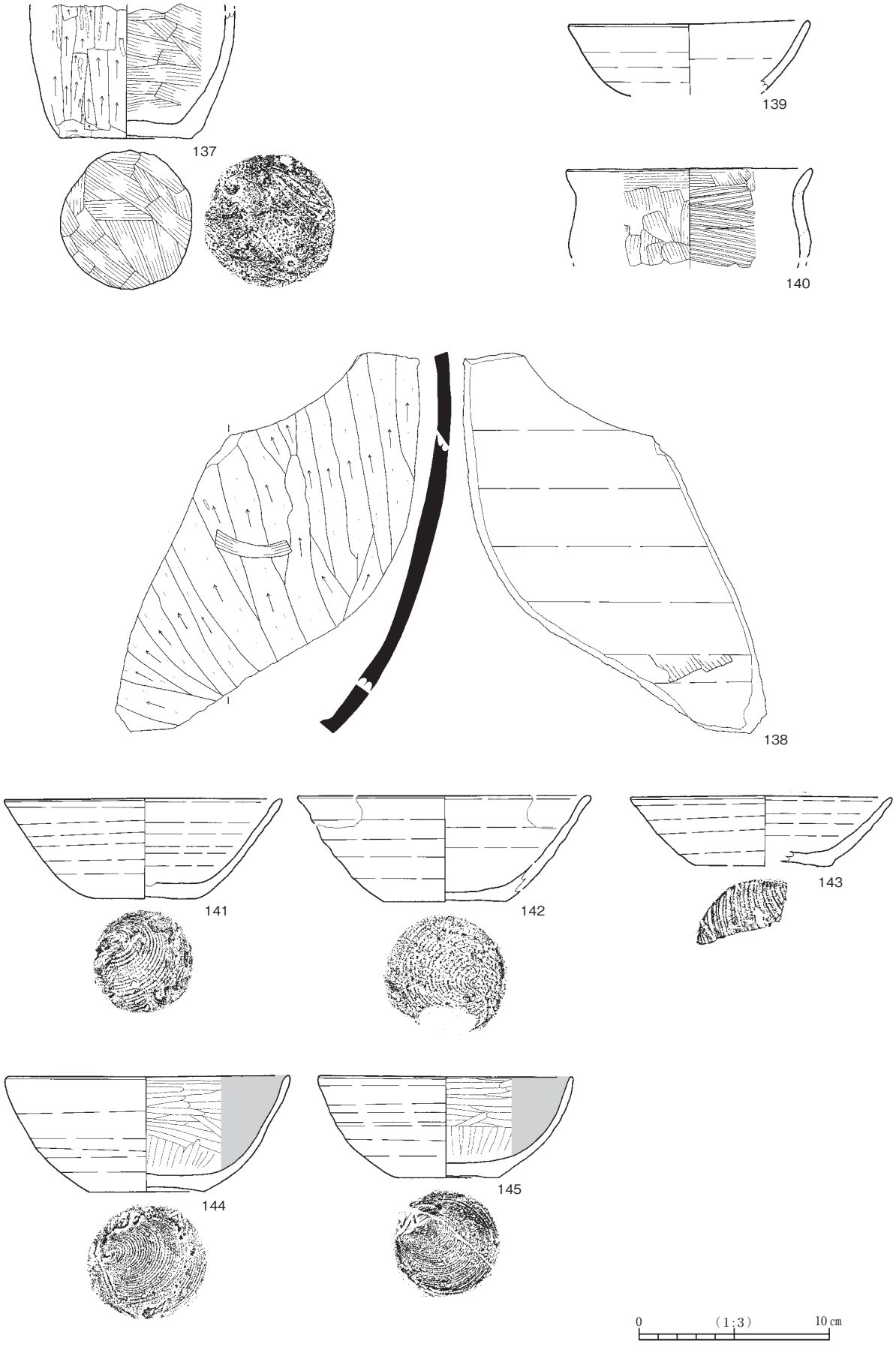
第84図　出土遺物（10）


112
113
112・113
0
(1:2)
10cm
114
115
116
118
117
119
121
120
0
(1:3)
10cm

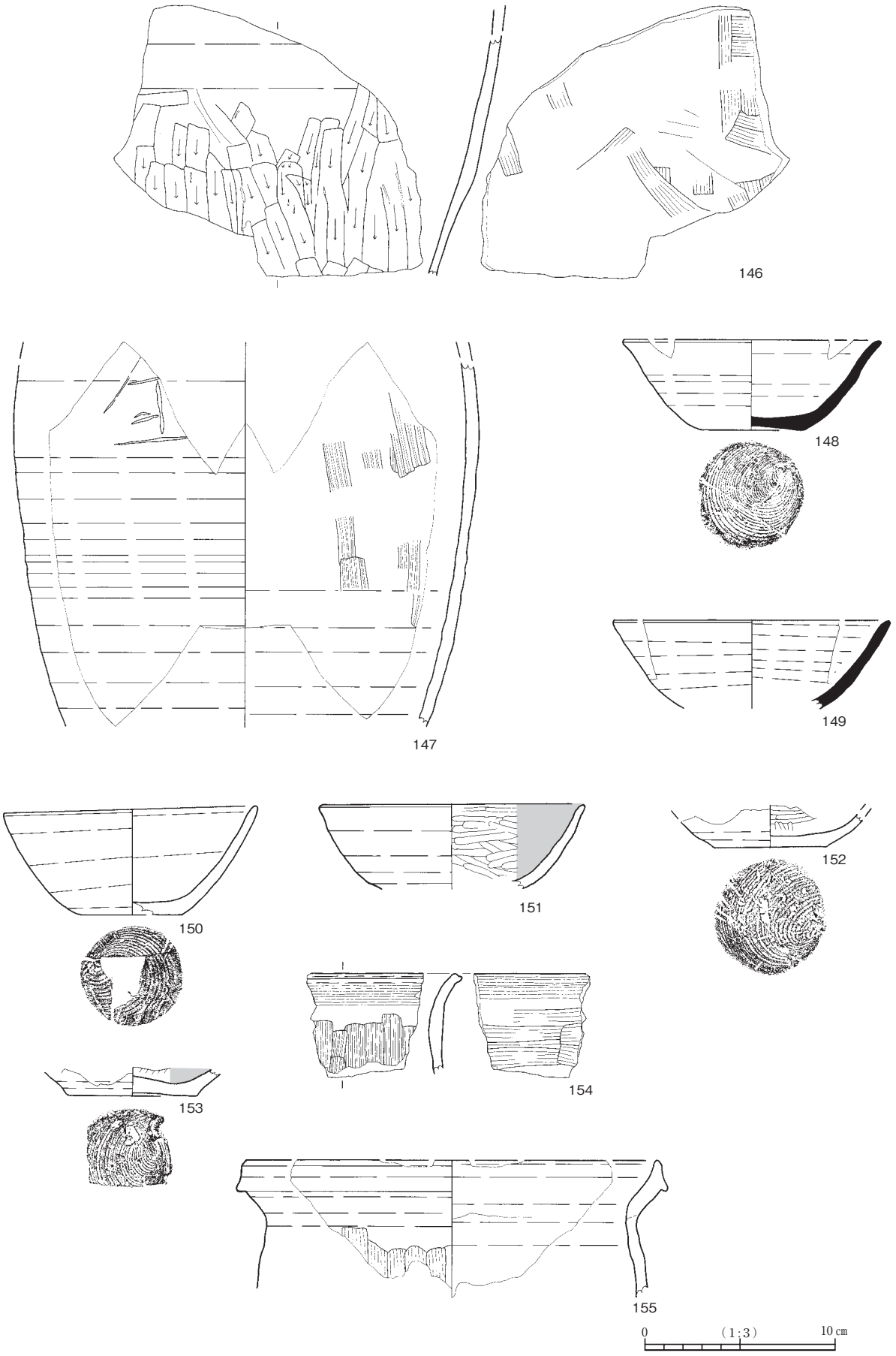
第85図　出土遺物（11）


122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
0
(1:3)
10cm

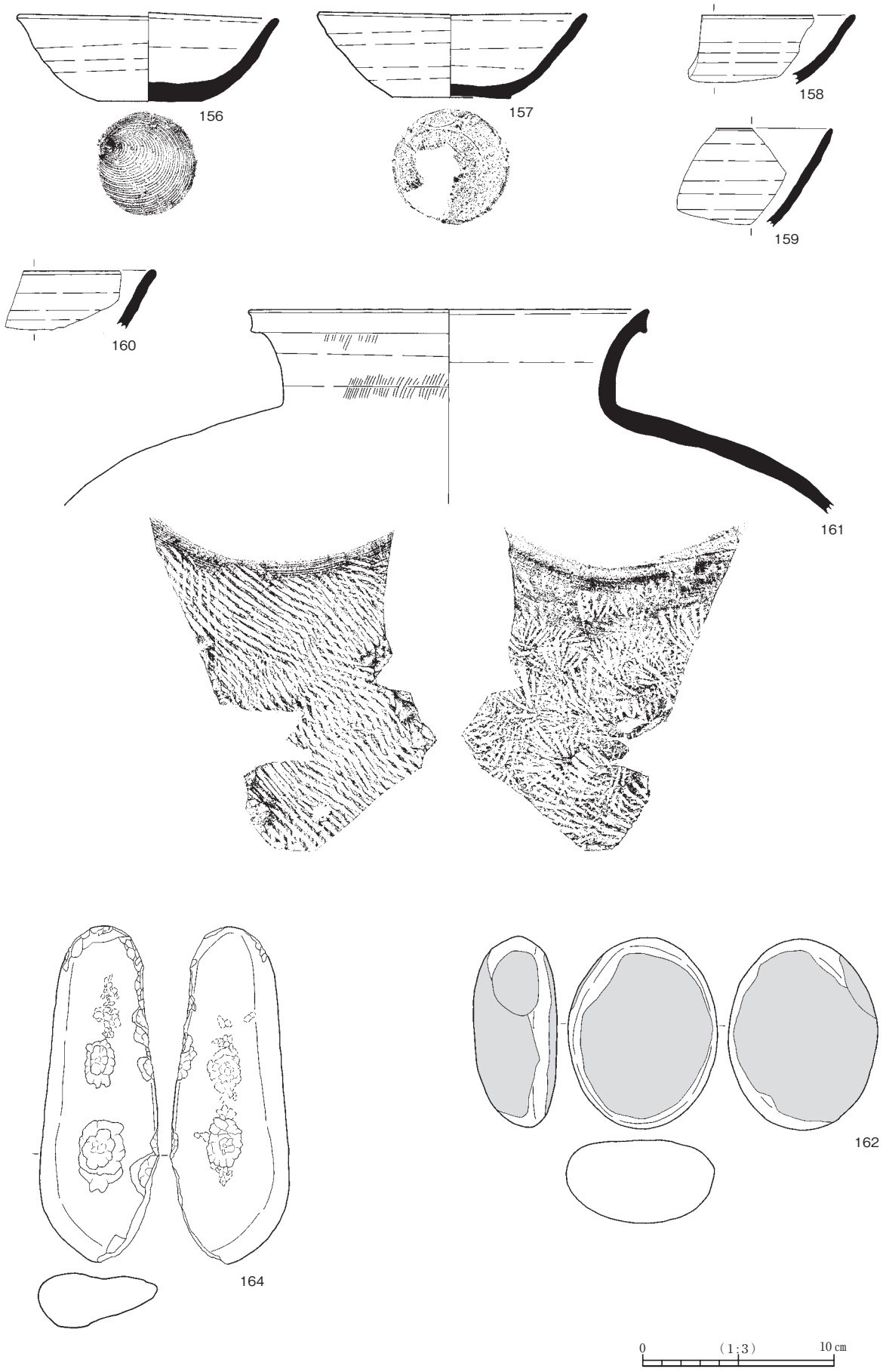
第86図　出土遺物（12）



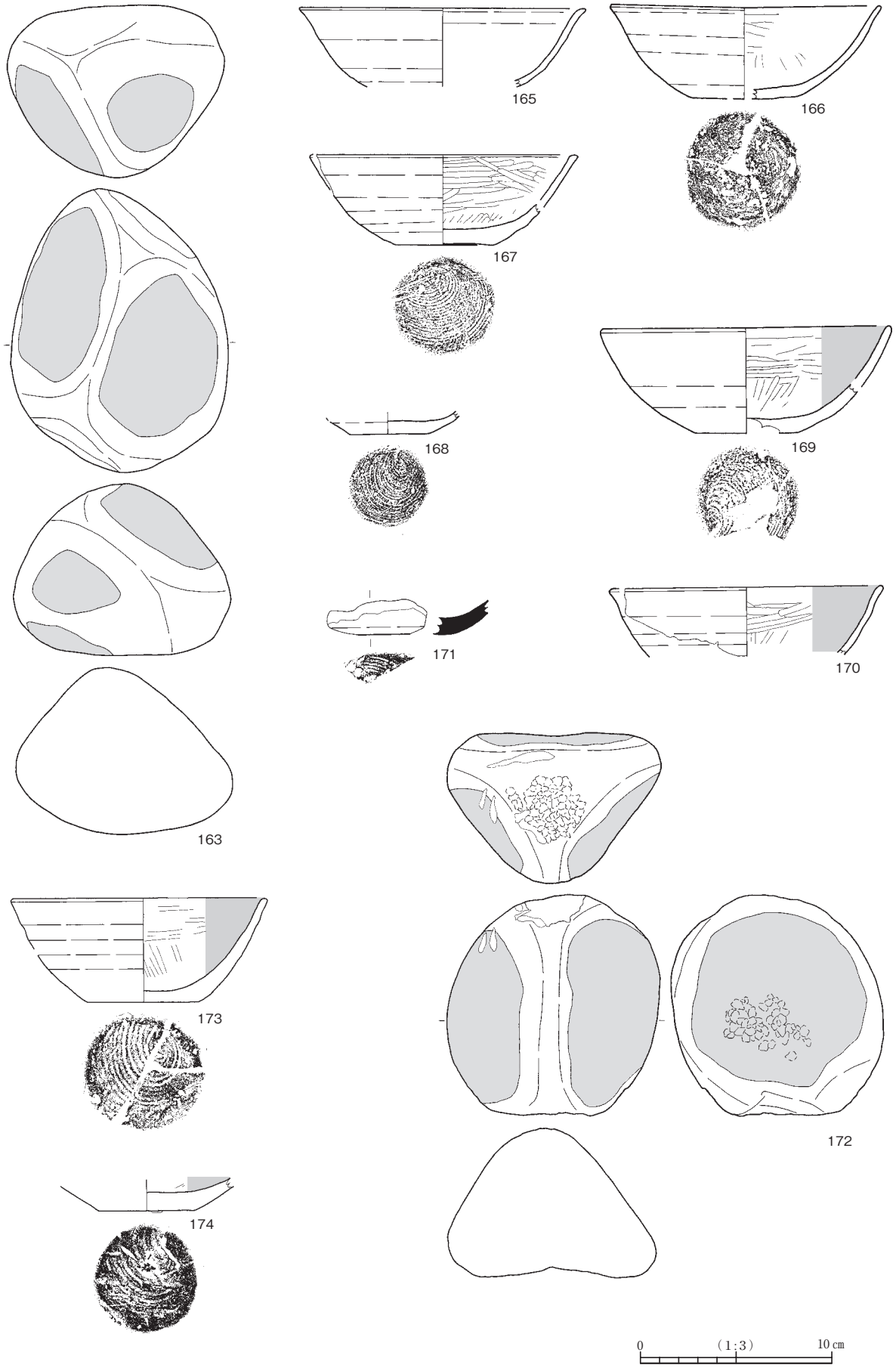
第87図　出土遺物（13）



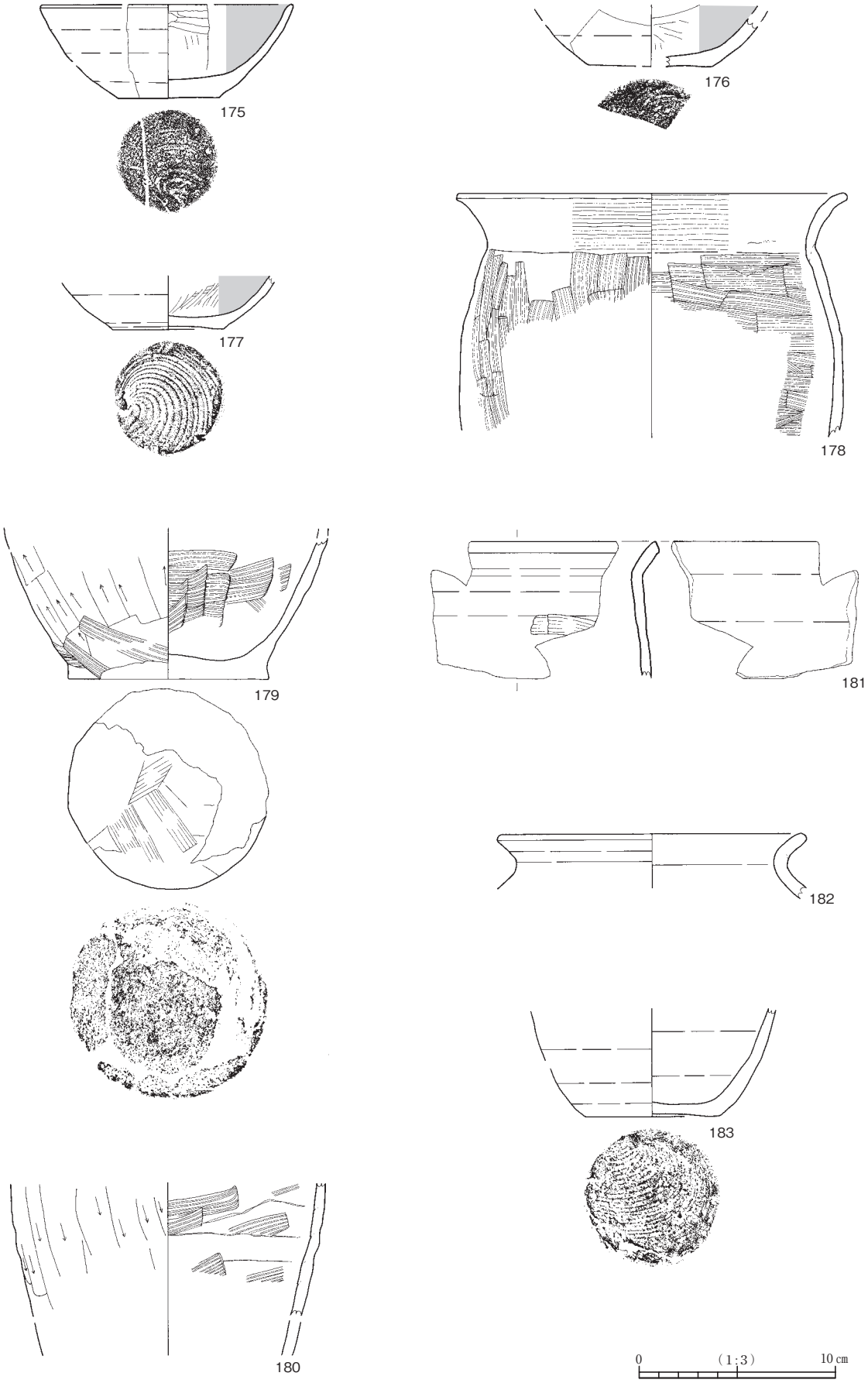
第88図　出土遺物（14）



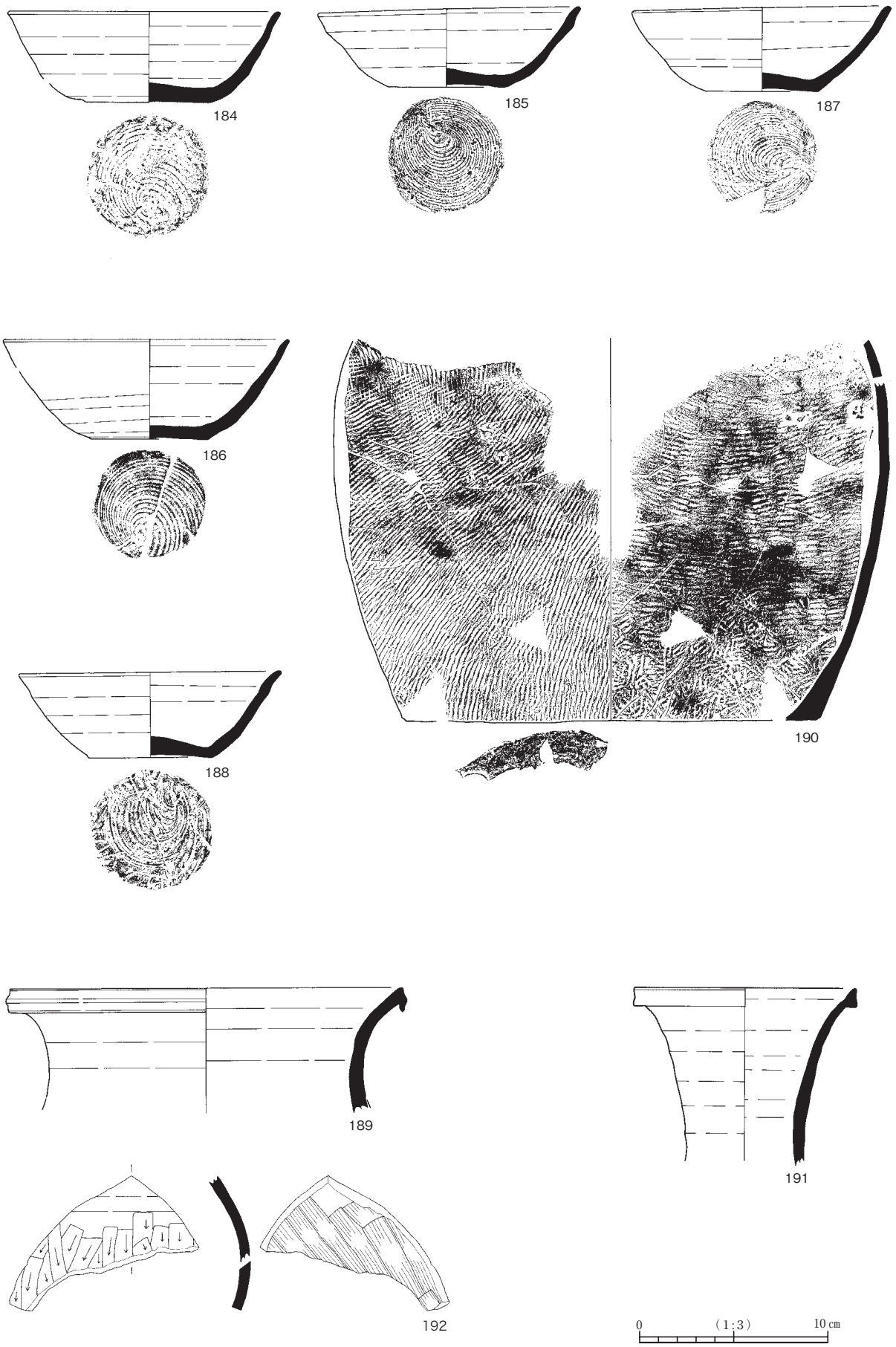
第 89 図　出土遺物（15）



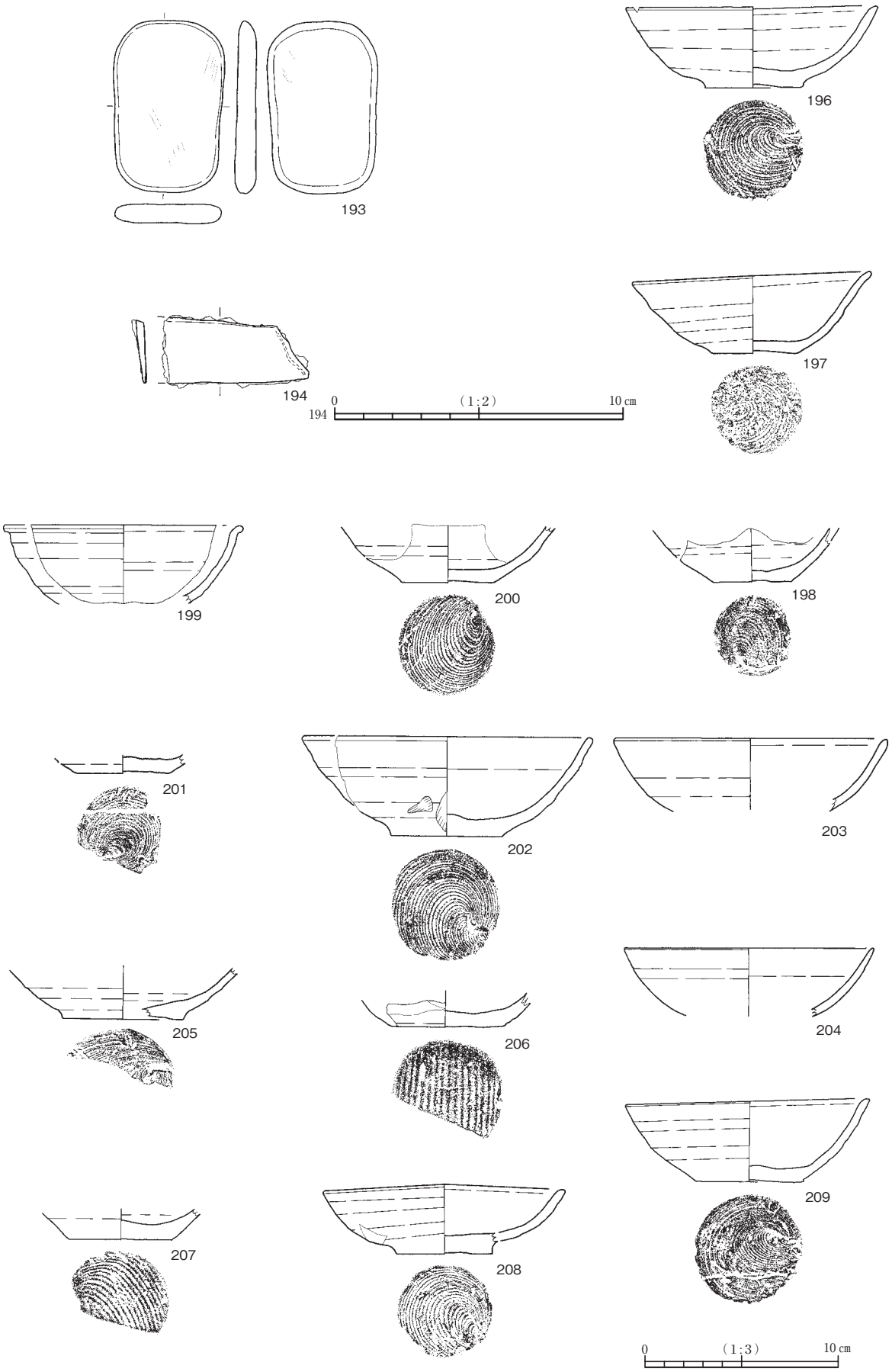
第 90 図　出土遺物（16）



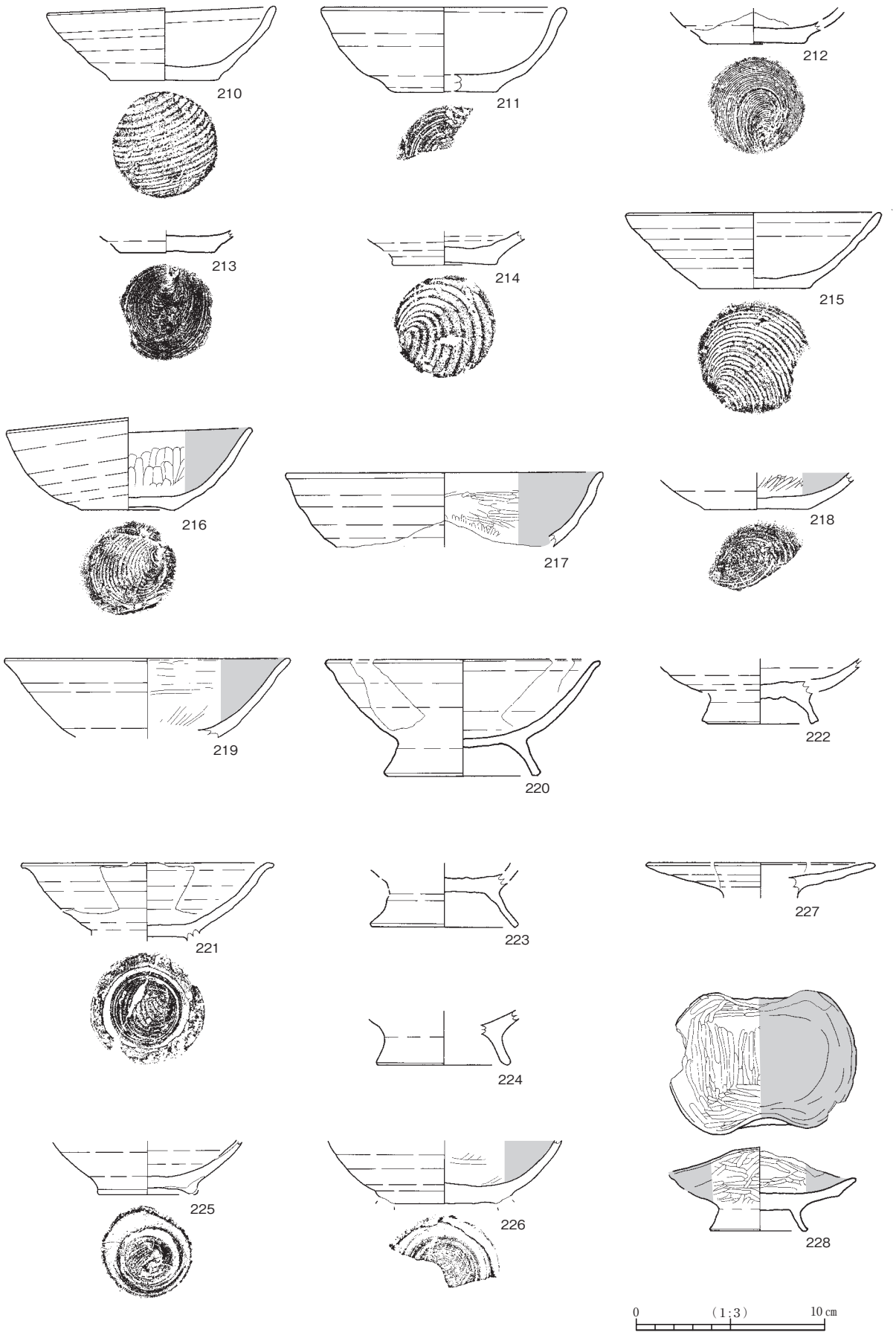
第91図　出土遺物（17）



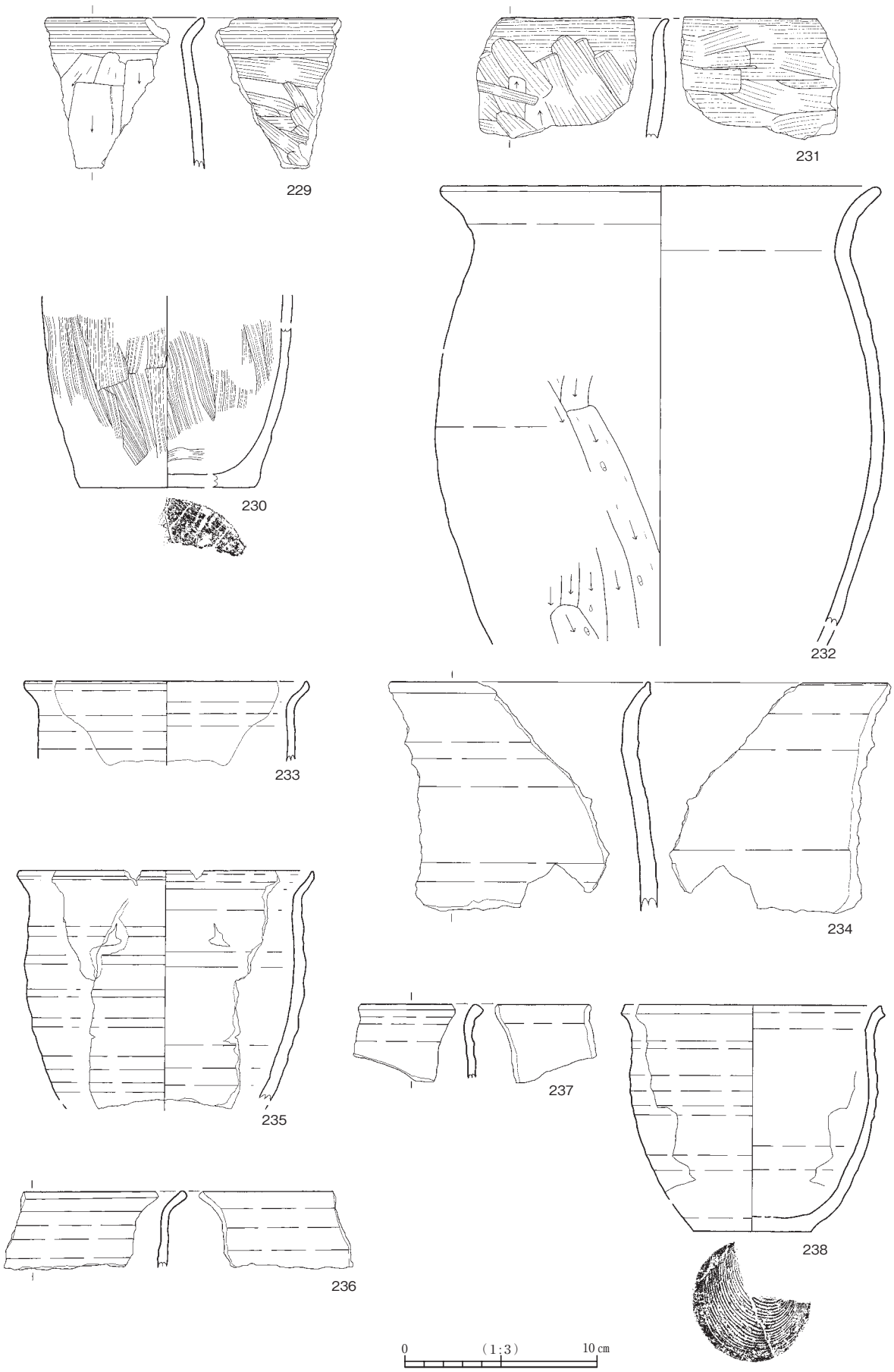
第92図　出土遺物（18）


193
194
194
0
(1:2)
10cm
196
197
199
200
198
201
202
203
205
206
204
207
208
209
0
(1:3)
10cm

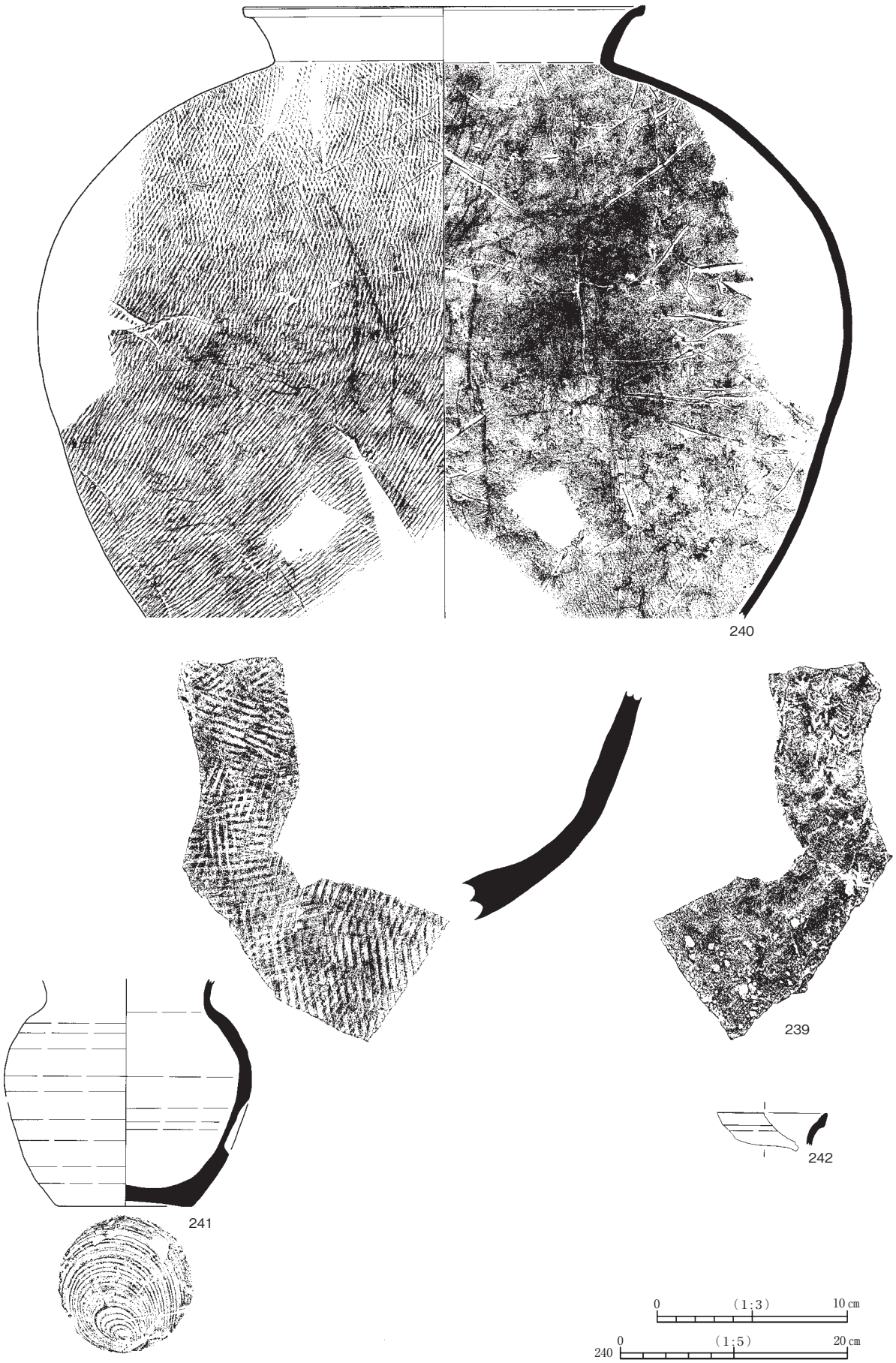
第93図　出土遺物（19）


210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
222
221
223
227
224
225
226
228
0
(1:3)
10cm

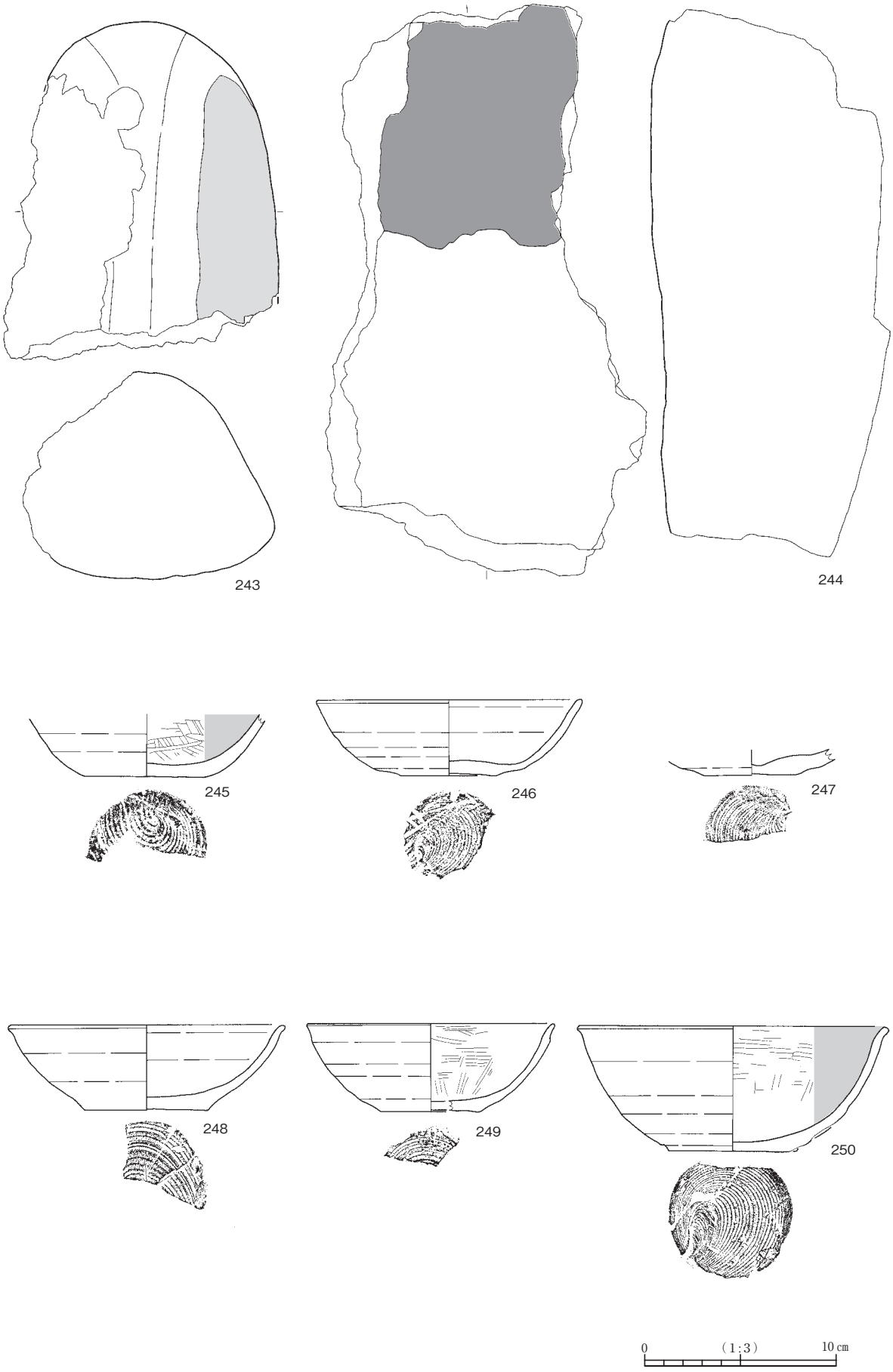
第 94 図　出土遺物（20）



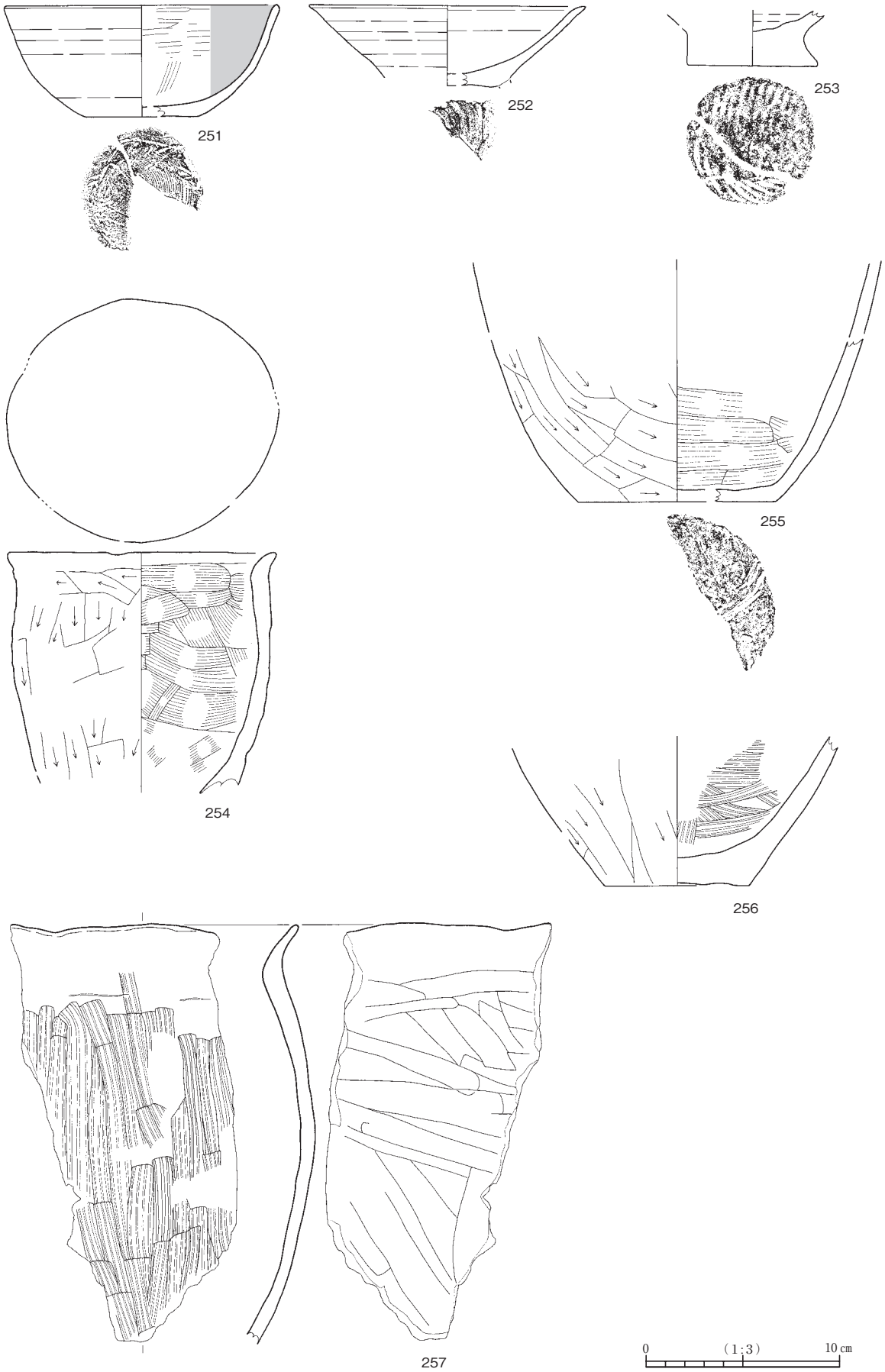
第95図　出土遺物（21）



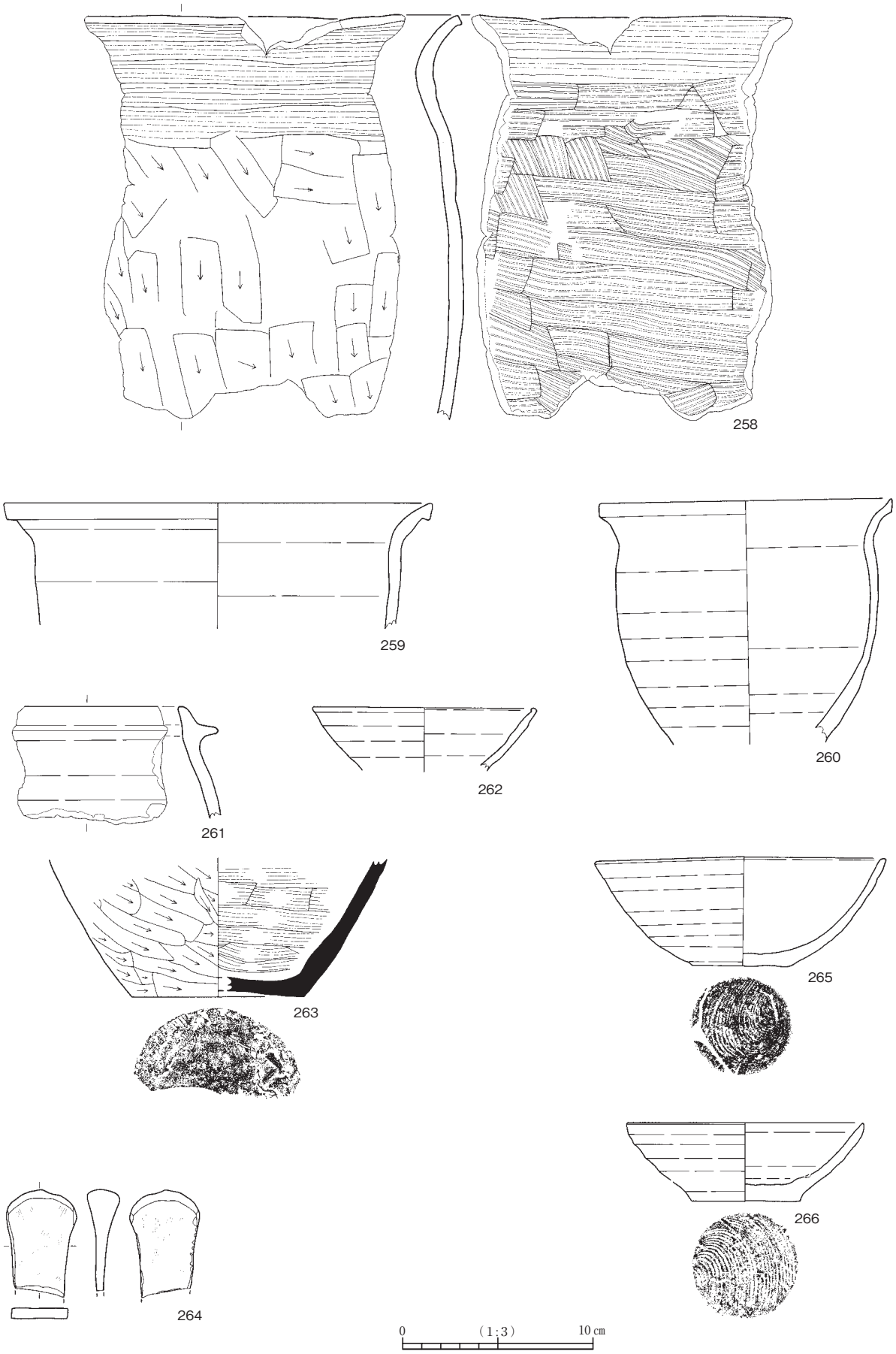
第 96 図　出土遺物（22）



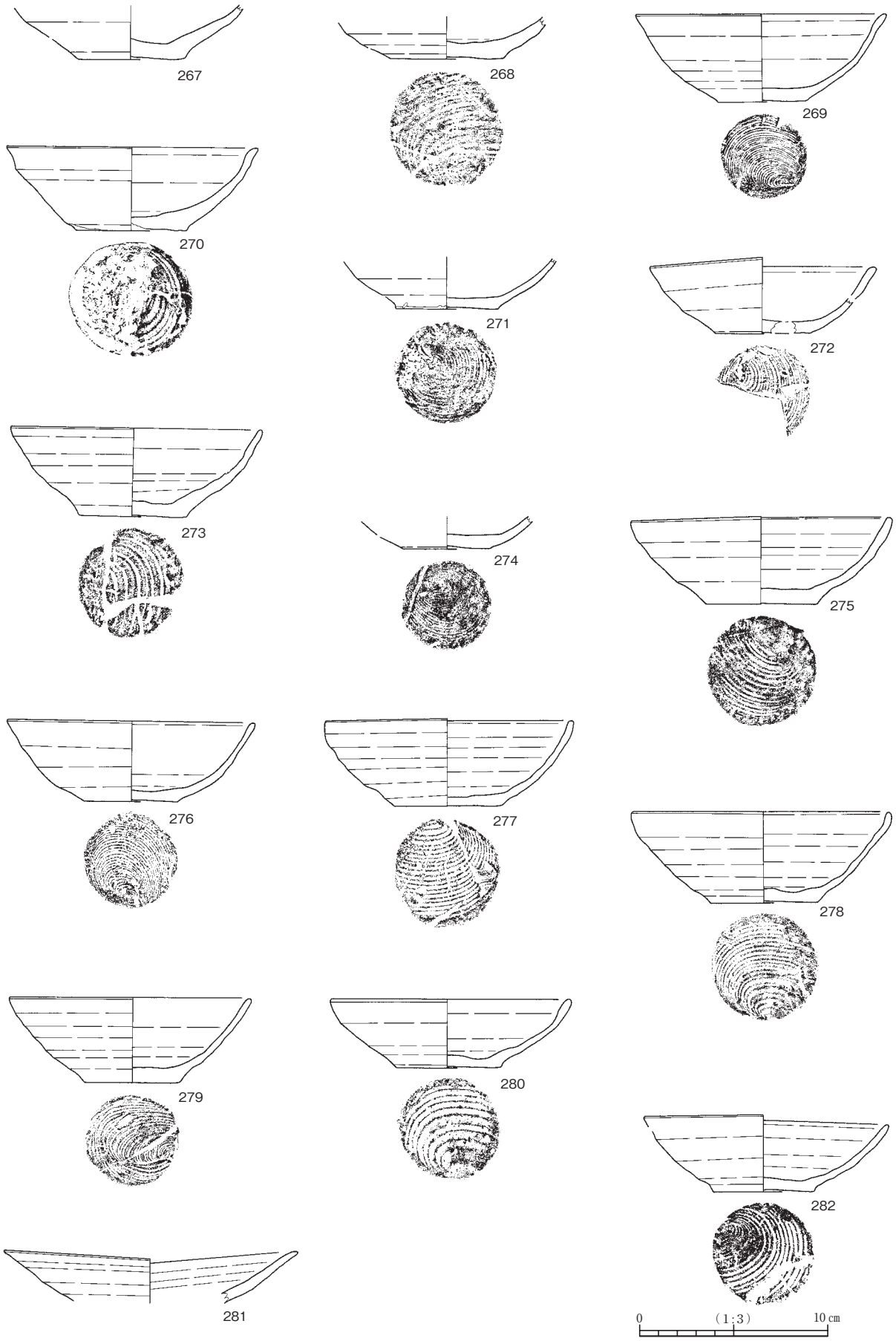
第97図　出土遺物（23）



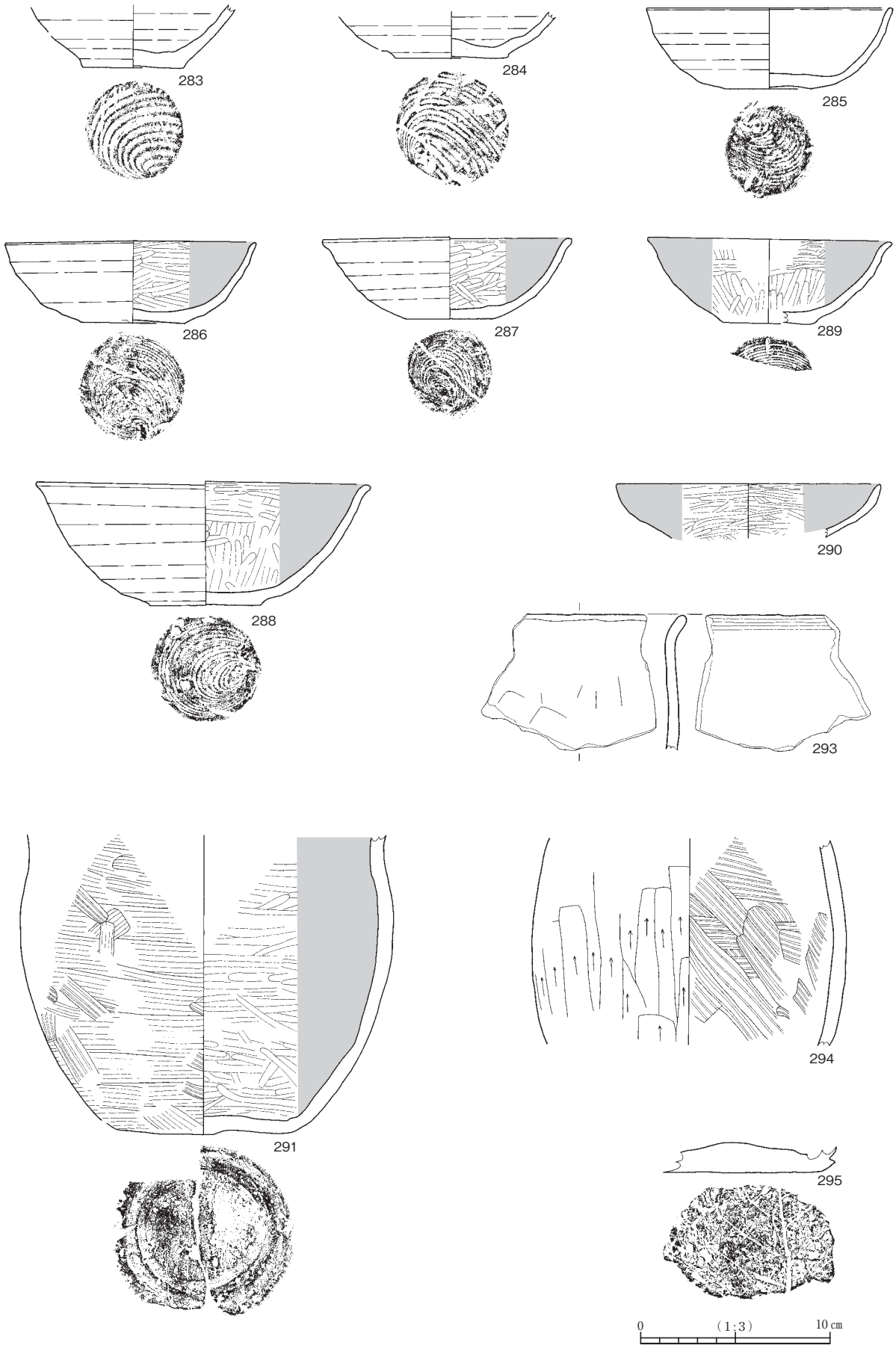
第98図　出土遺物（24）



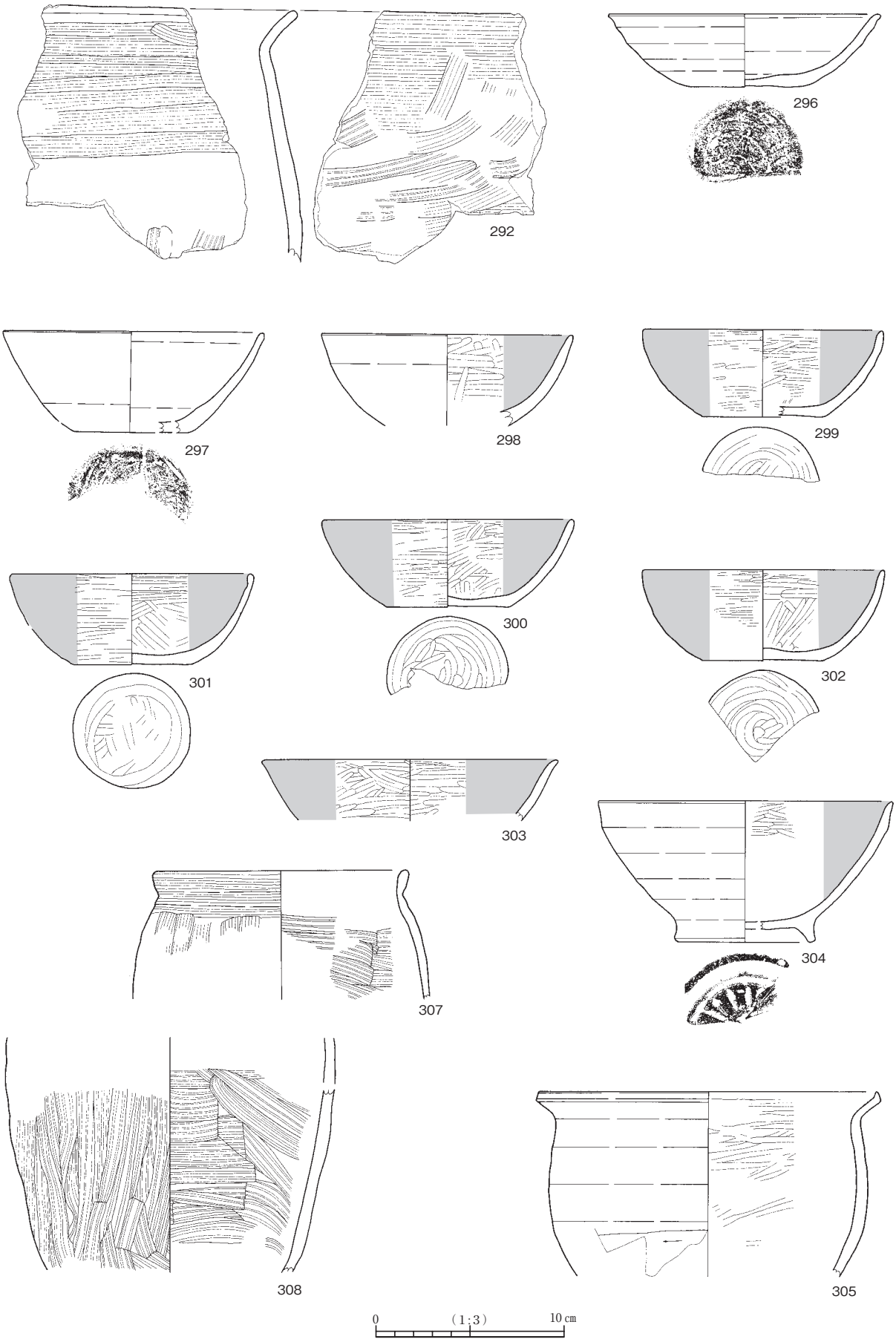
第99図　出土遺物（25）



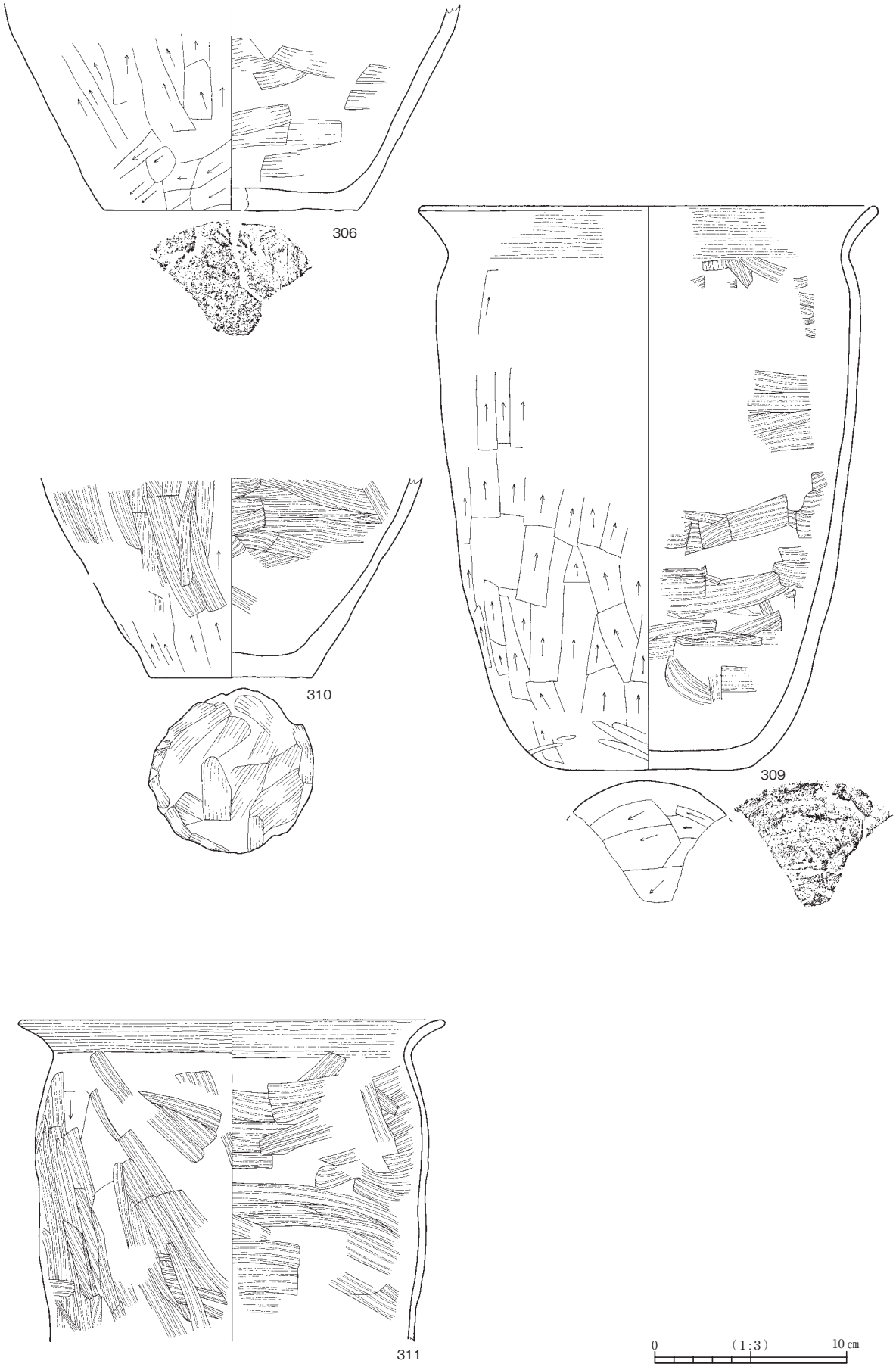
第100図　出土遺物（26）



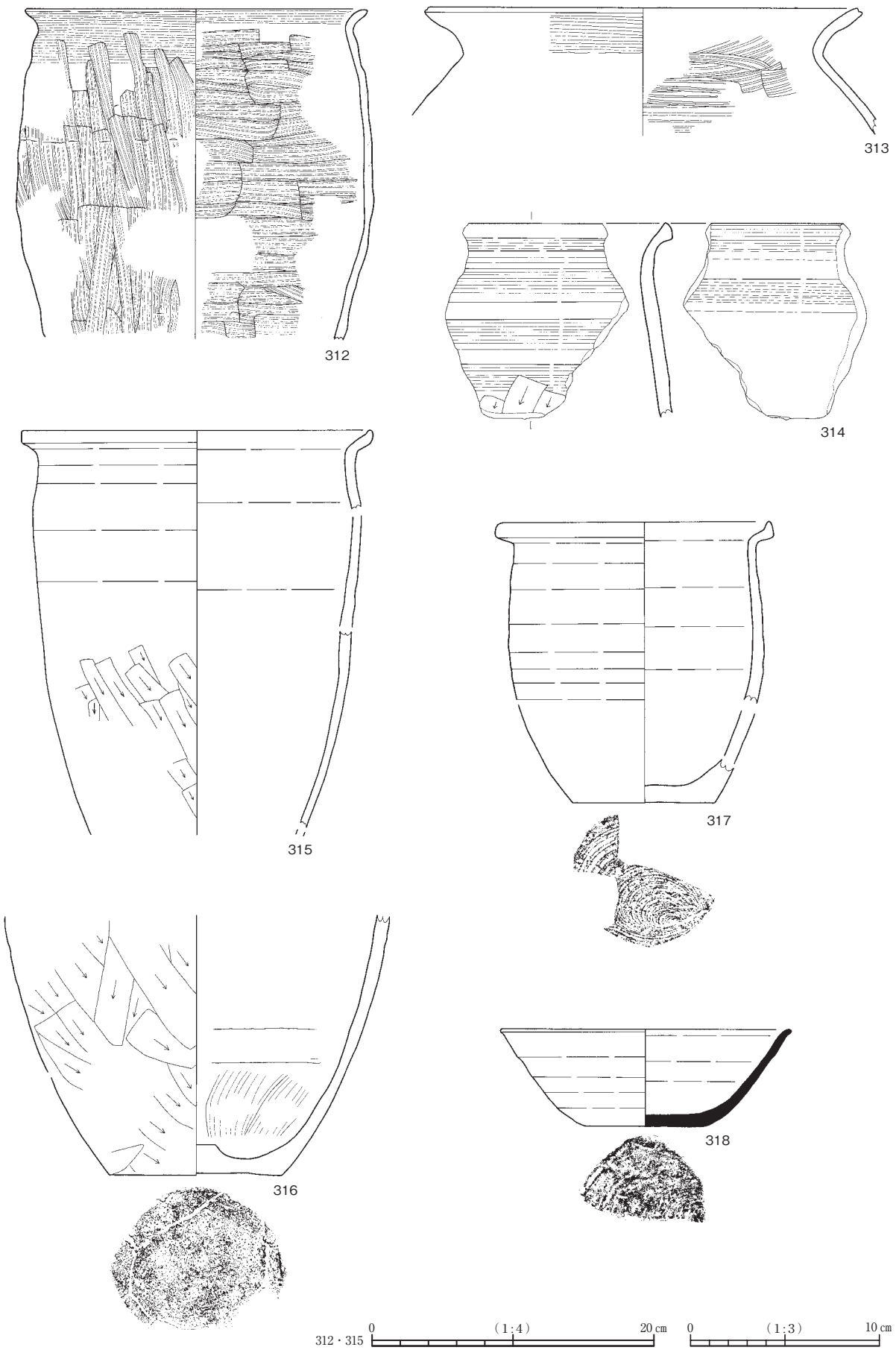
第 101 図　出土遺物（27）



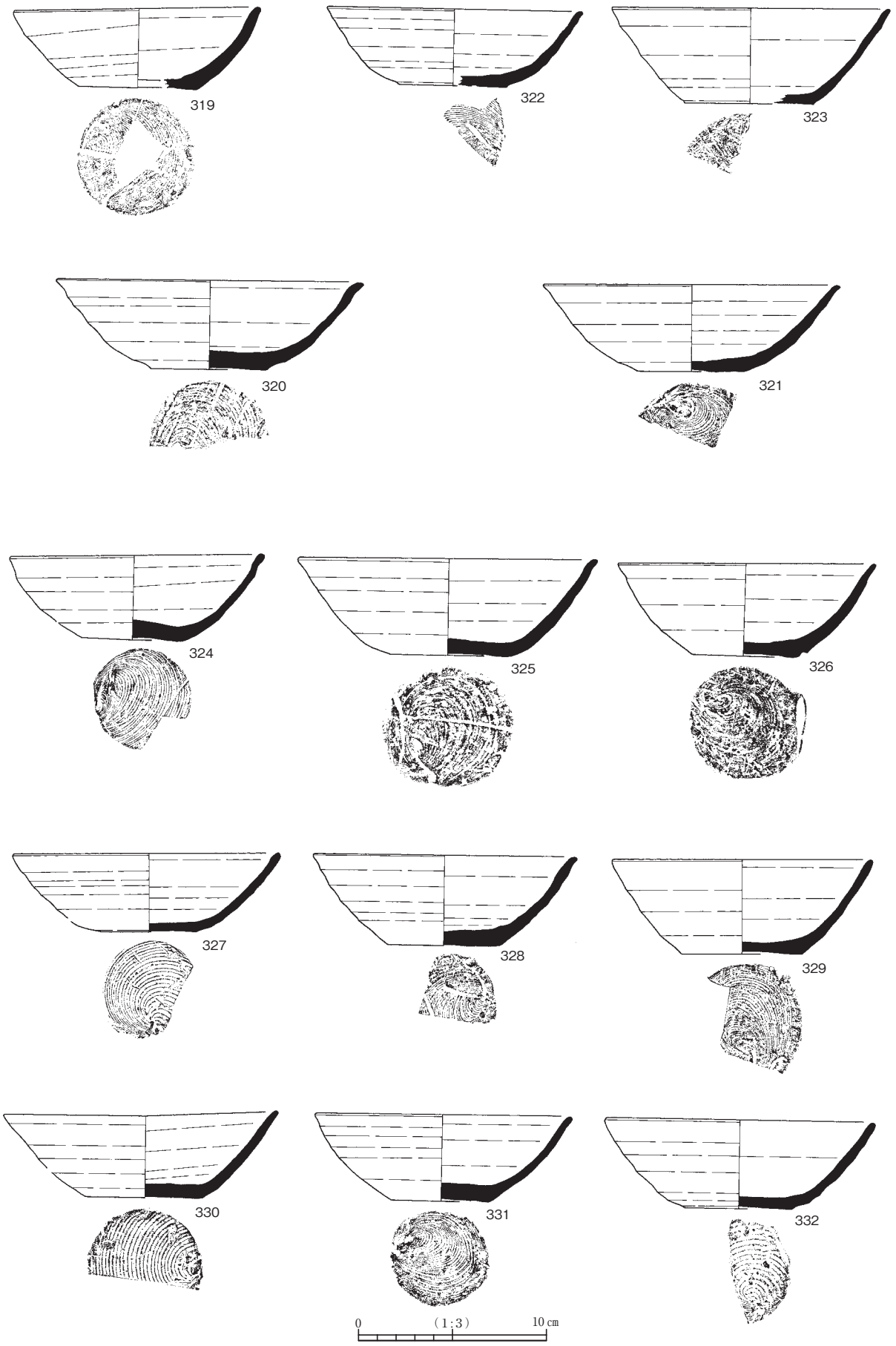
第 102 図　出土遺物（28）



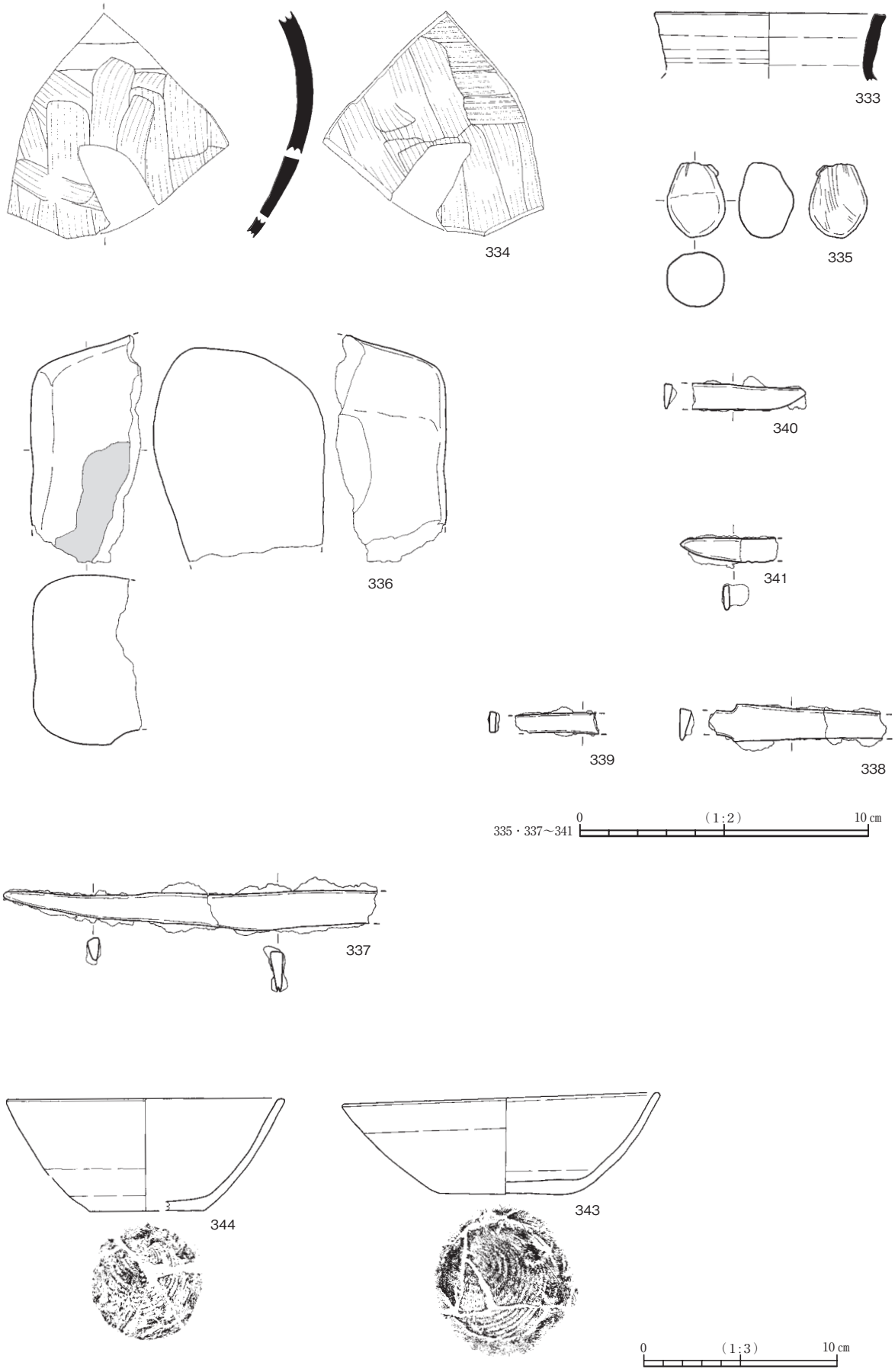
第103図　出土遺物（29）



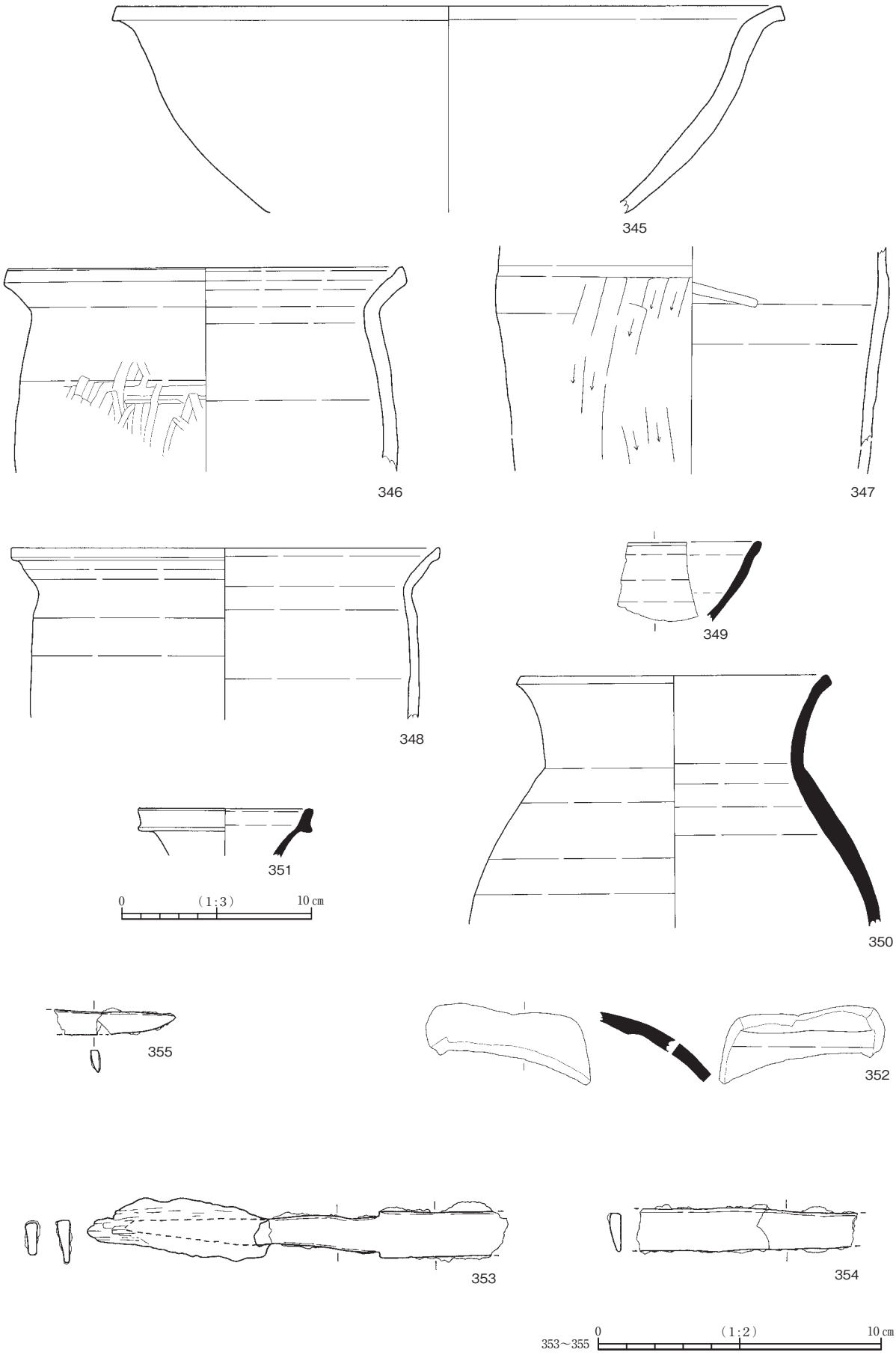
第104図　出土遺物（30）



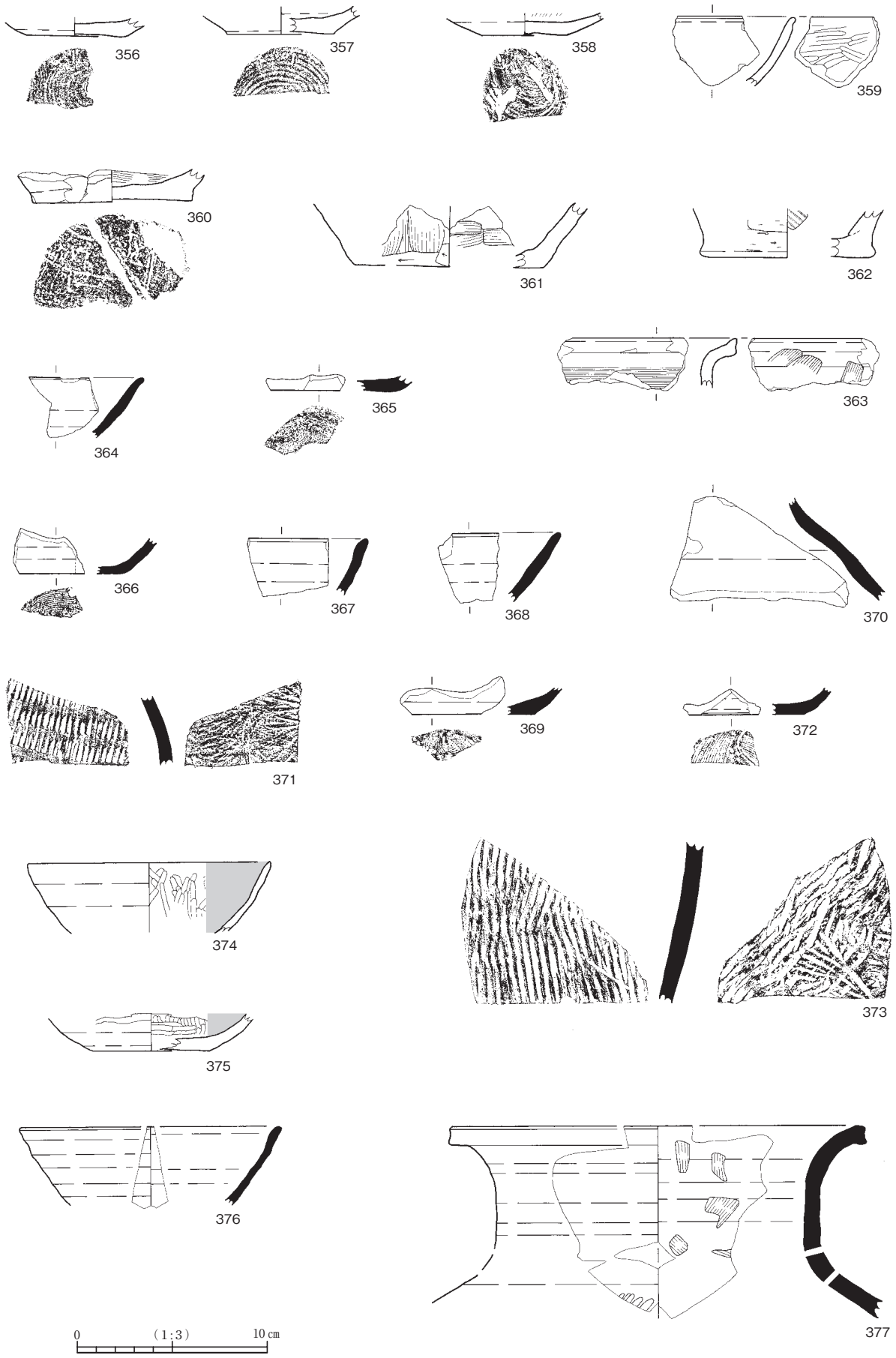
第 105 図　出土遺物（31）



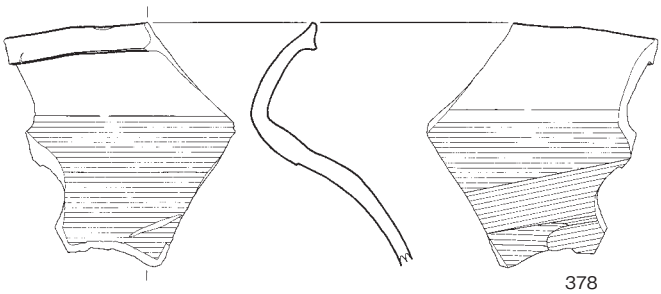
第 106 図　出土遺物（32）

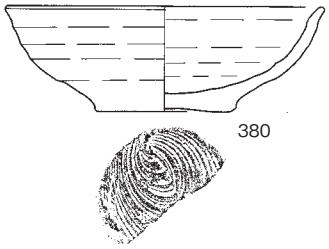


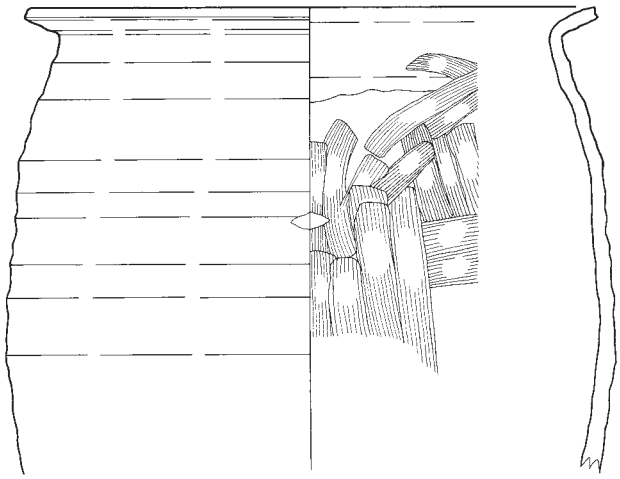
第 107 図　出土遺物（33）

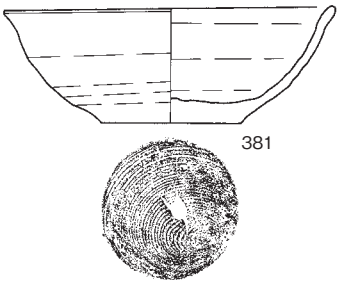


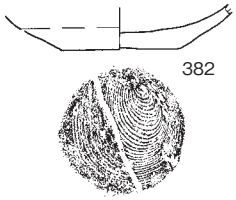
第 108 図　出土遺物（34）

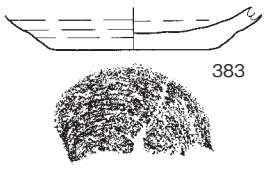


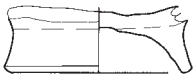


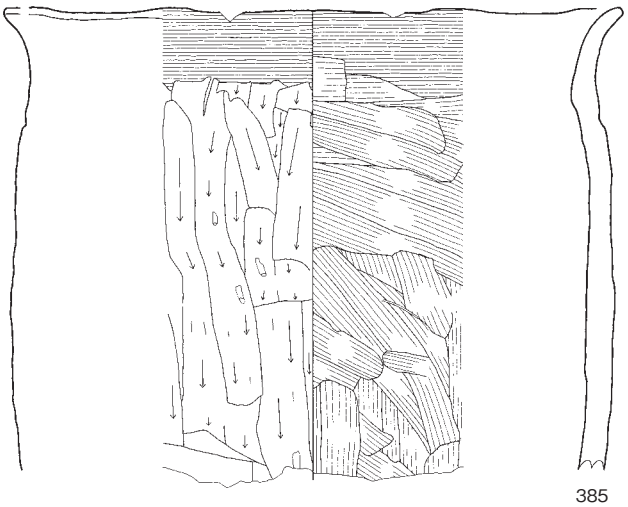


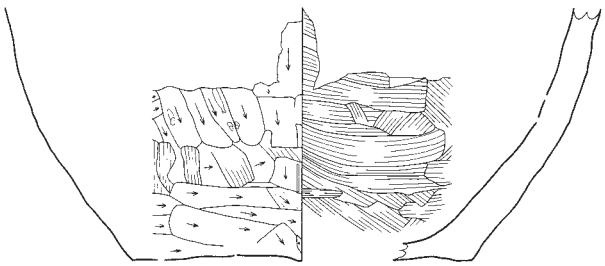


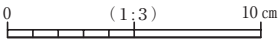




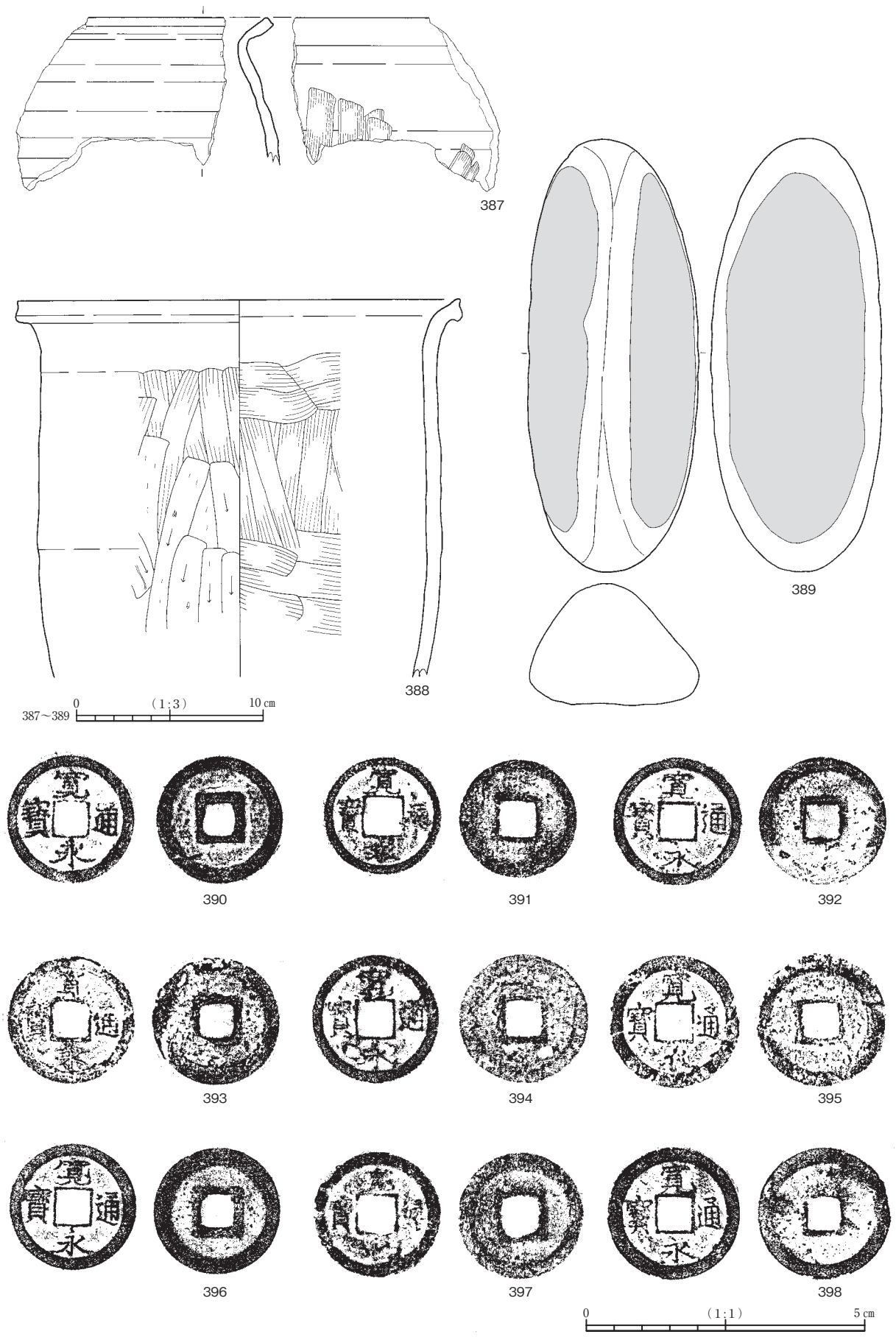




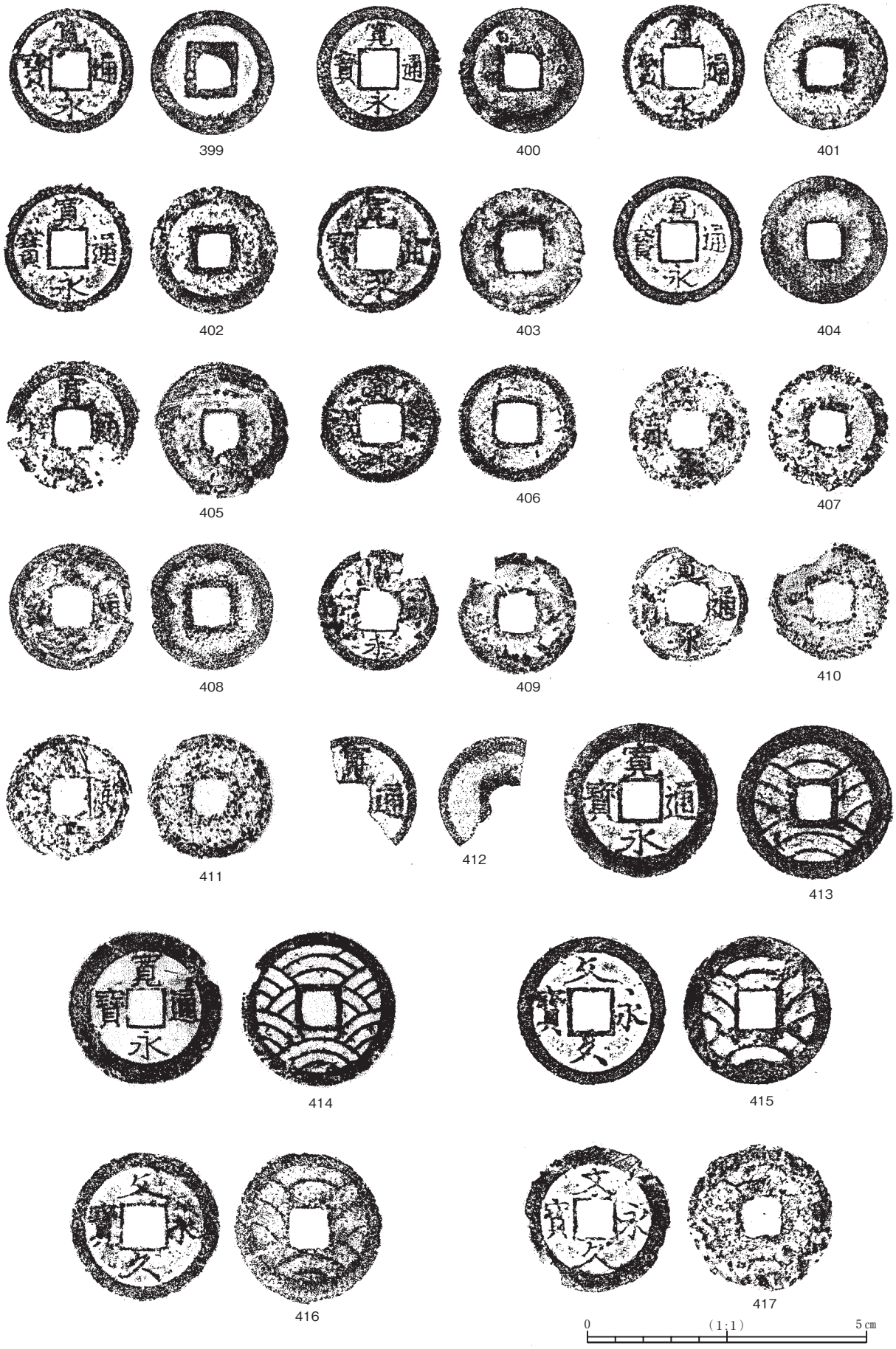




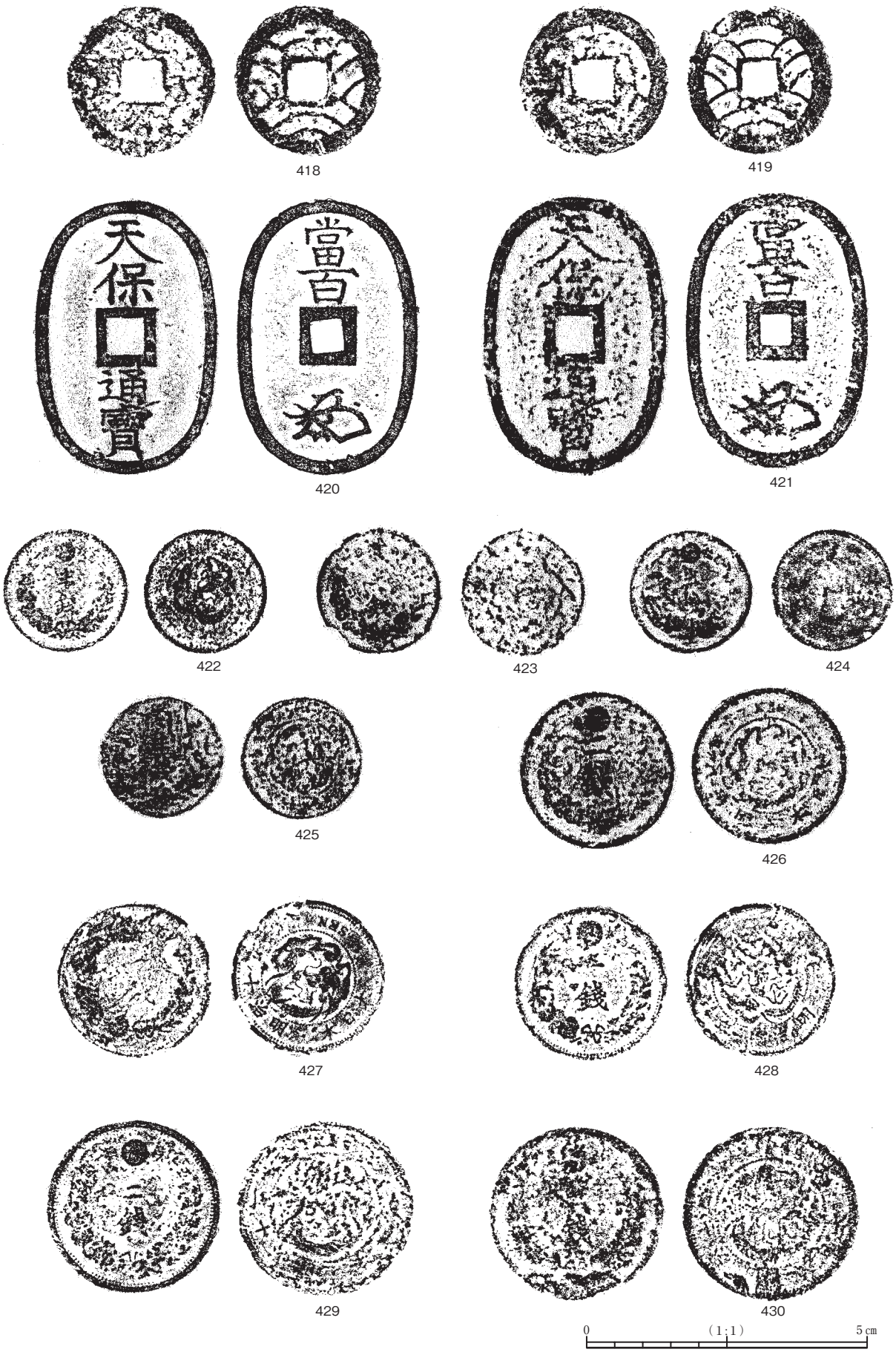
第109図　出土遺物（35）



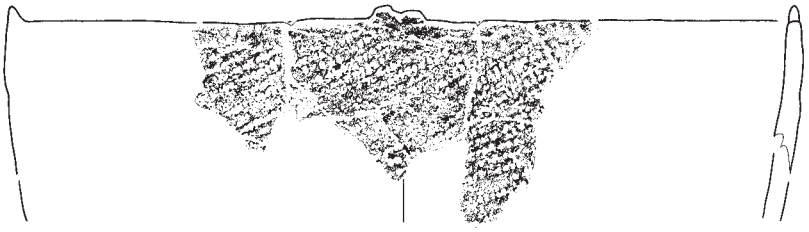
第 110 図　出土遺物（36）



第 111 図　出土遺物（37）



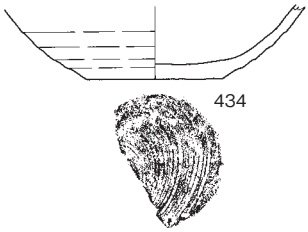
第 112 図　出土遺物（38）



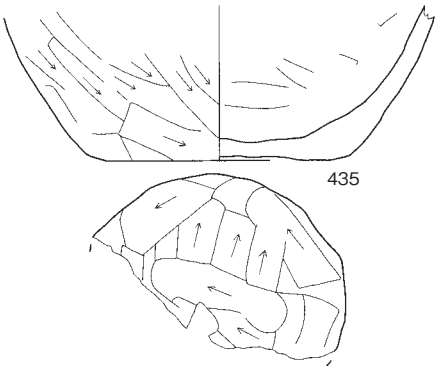
431

432

433



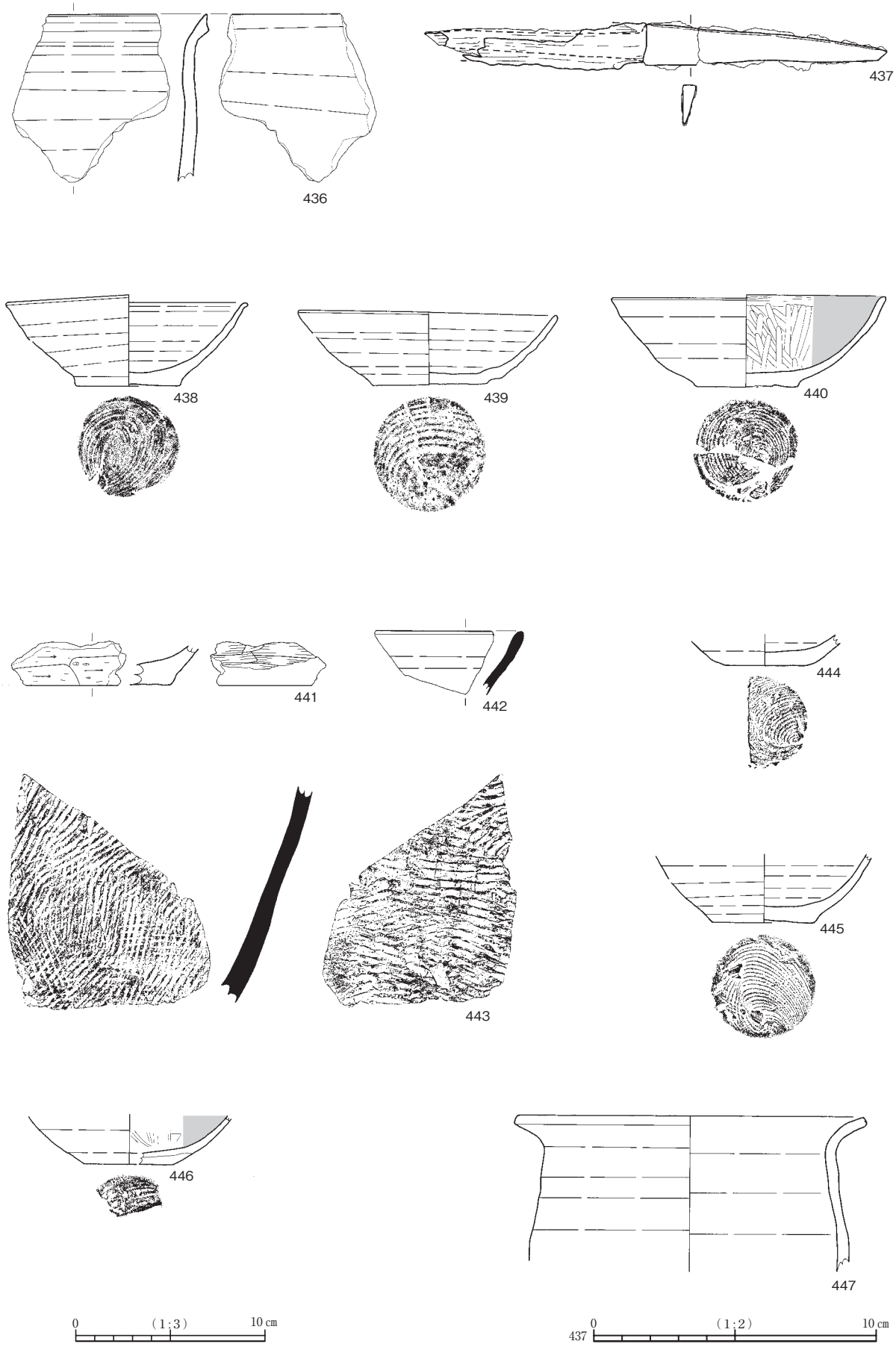
434



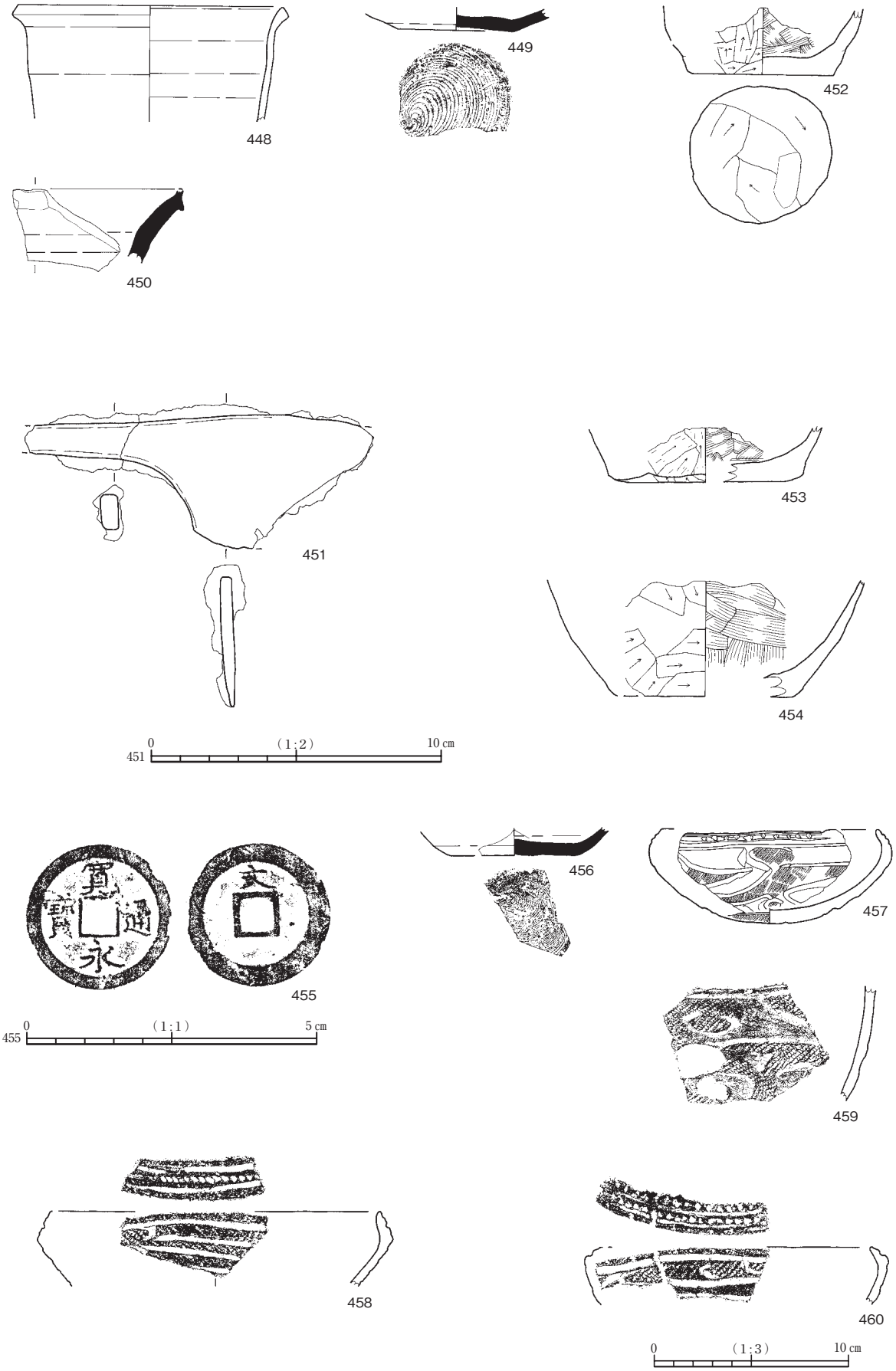
435

0 (1:3) 10cm

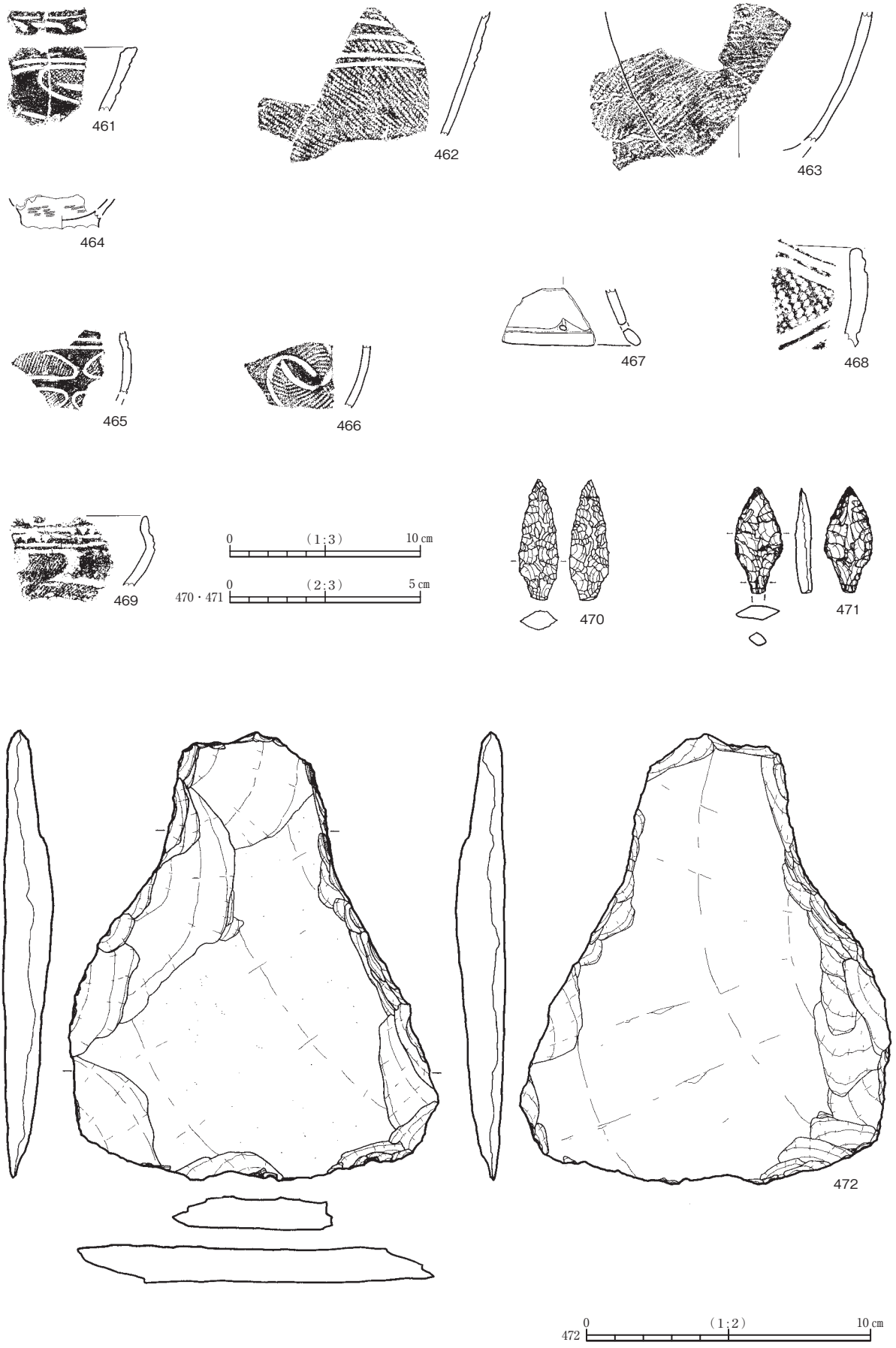
第113図　出土遺物（39）



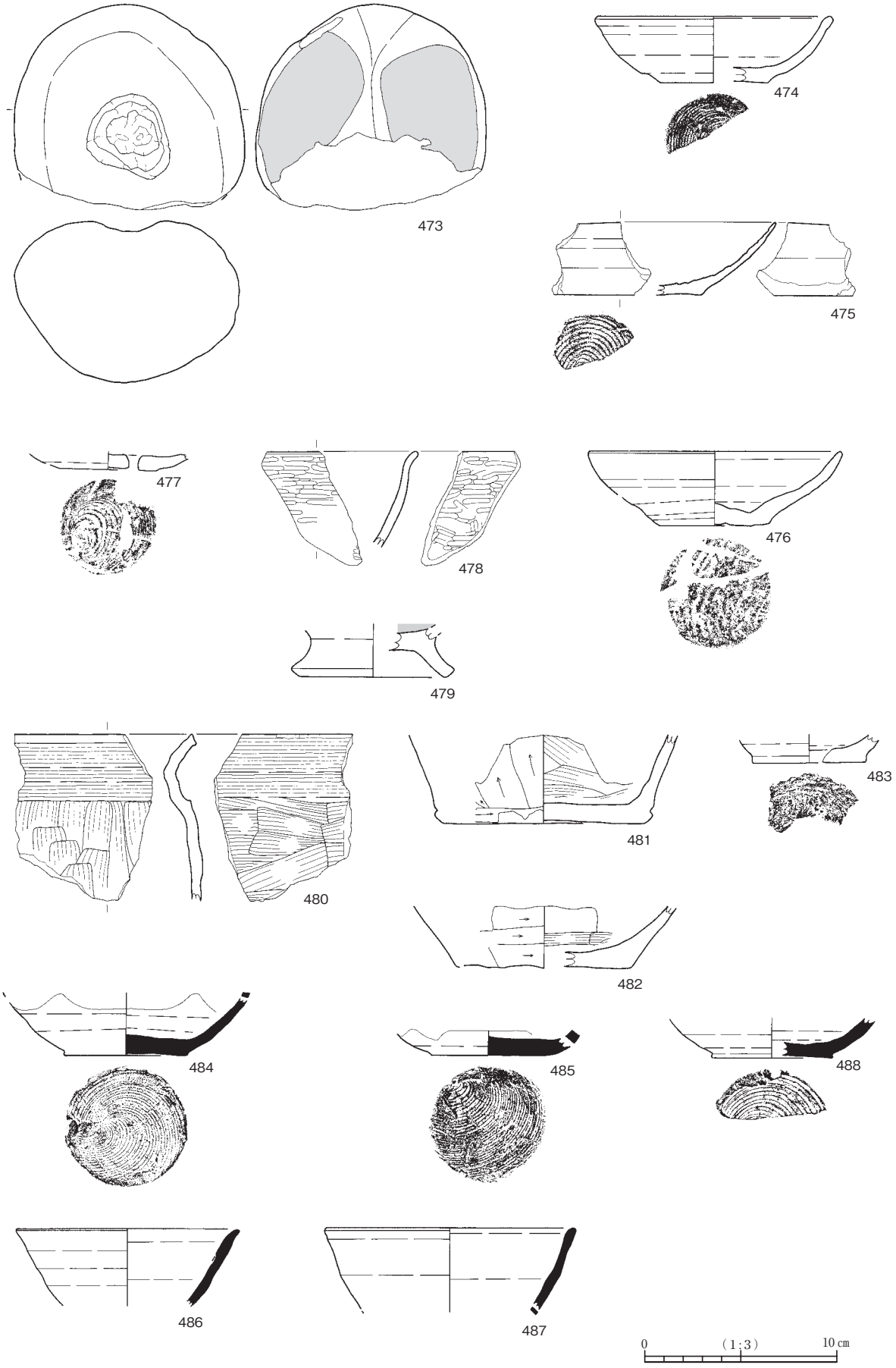
第 114 図　出土遺物（40）



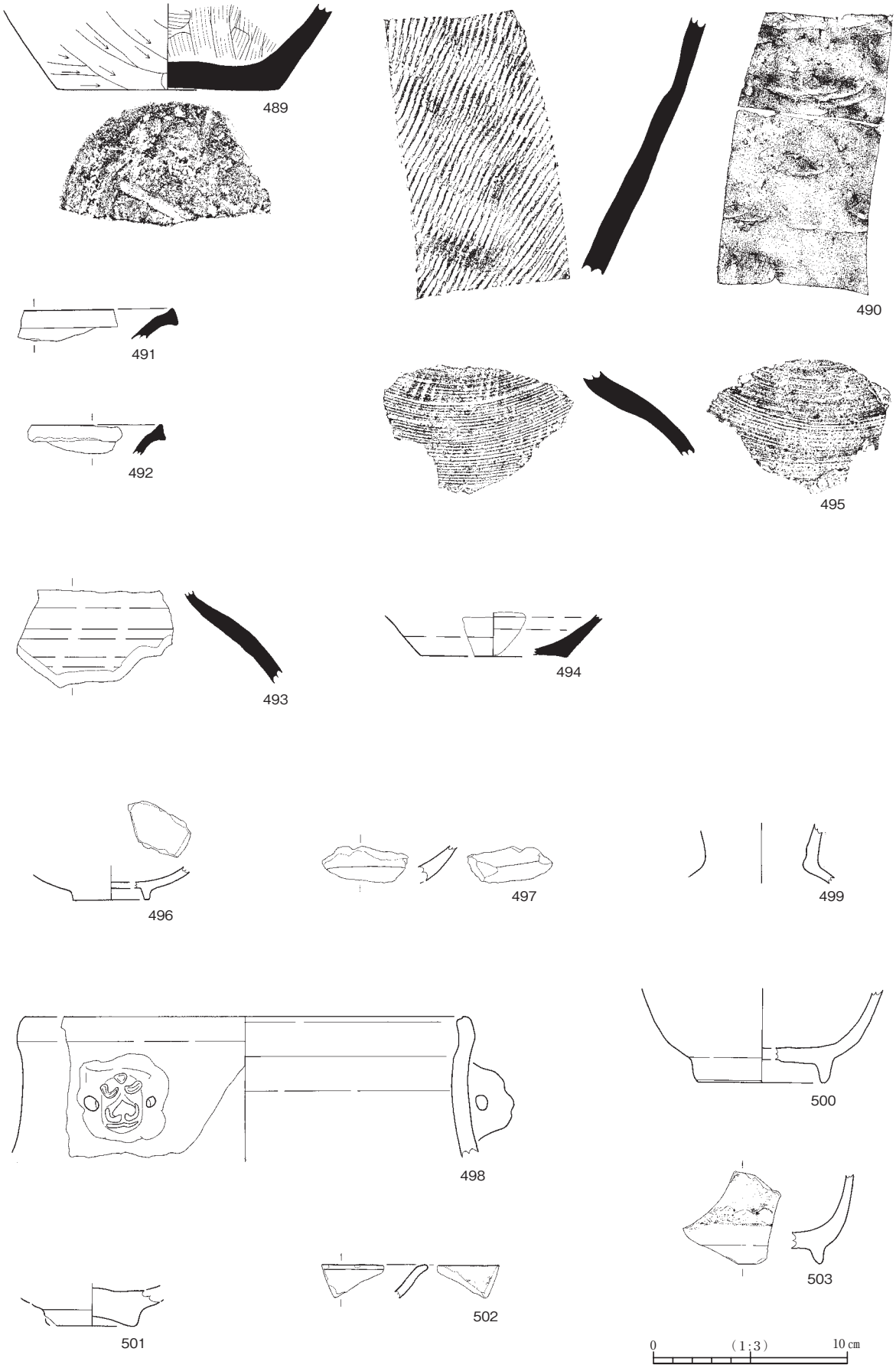
第115図　出土遺物（41）



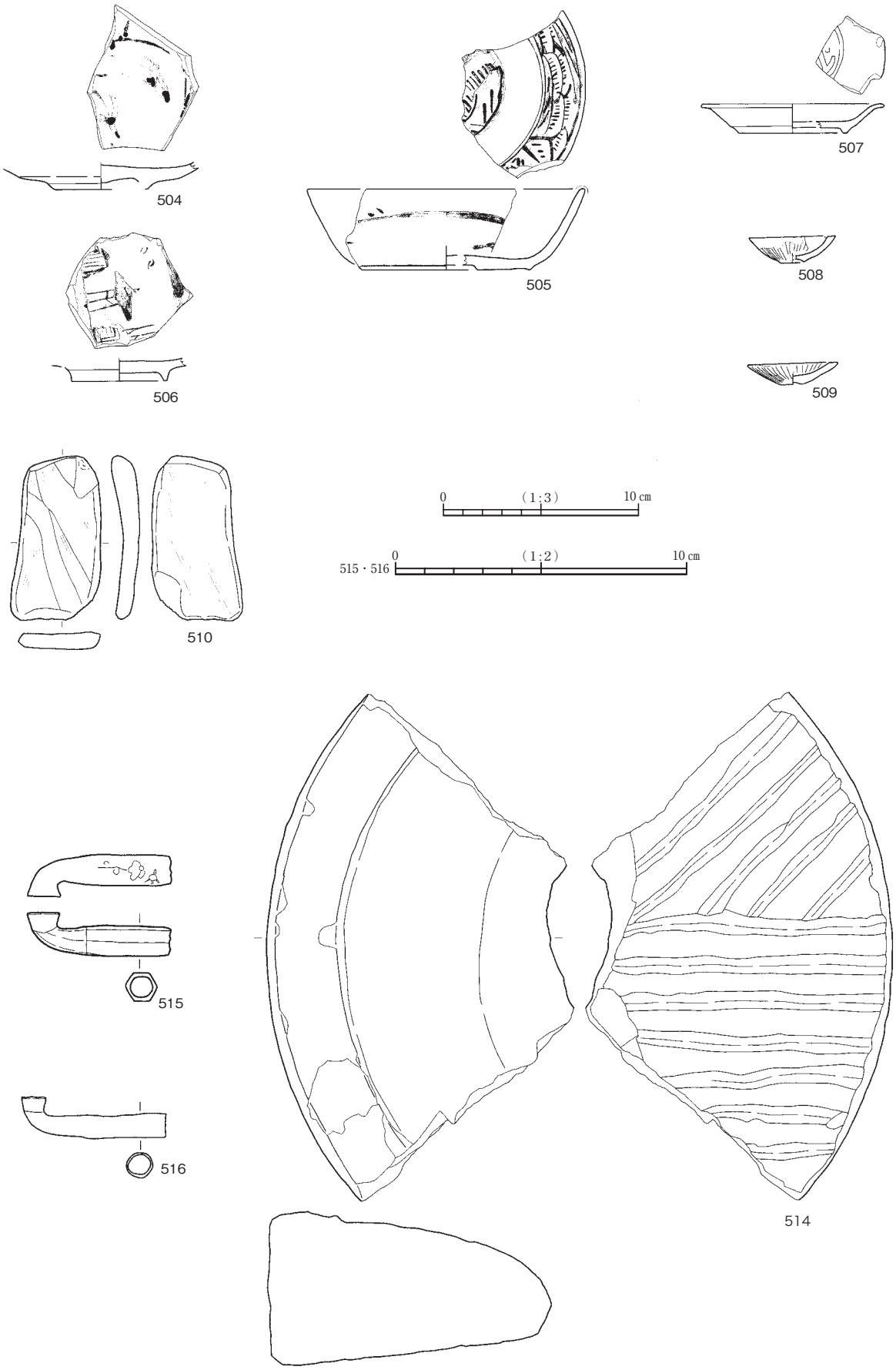
第116図　出土遺物（42）



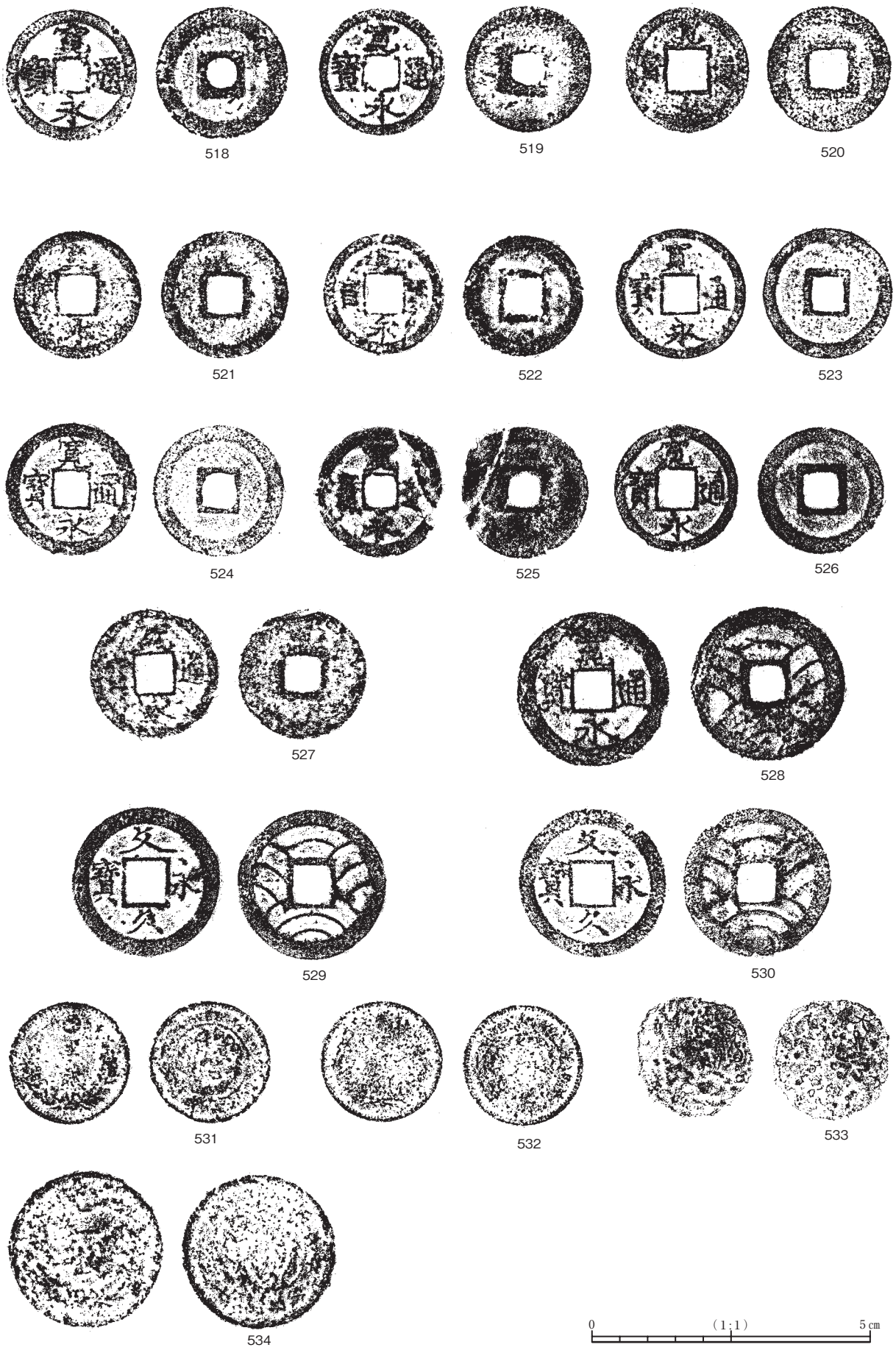
第117図　出土遺物（43）



第118図　出土遺物（44）



第 119 図　出土遺物（45）



第 120 図　出土遺物（46）

第５表　柱穴一覧（1）

№.	区域	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
1	23E	38	35	26	126.785	
2	23E	45	34	18	126.911	
3	23E	39	35	15	126.863	
4	23E	41	32	14	126.894	
5	23E	47	31	16	126.896	
6	23E	49	37	23	126.817	
7	23E	37	31	16	126.889	
8	23E	38	36	23	126.786	
9	23E	42	35	13	126.874	
10	23E	40	40	11	126.859	
11	24A	46	38	28	126.514	黒色シルト主体
12	23E	39	29	29	126.699	
13	24B	32	27	46	126.630	黒褐色シルト主体
14	23E	36	29	18	126.771	
15	23E	36	26	19	126.782	
16	23E	(31)	24	53	126.481	
17	23E	(31)	30	30	126.756	
18	23E	38	(36)	16	126.876	
19	23E	(35)	(16)	15	126.862	
20	23E	32	29	22	126.785	
21	23E	(24)	22	10	126.856	
22	23E	26	21	14	126.782	
23	23E	33	31	13	126.818	
24	23E	34	32	12	126.885	
25	23E	43	26	30	126.657	
26	23E	35	25	13	126.844	
27	23E	35	29	15	126.834	
28	23E	36	35	18	126.836	
29	23E	27	21	10	126.929	
30	23E	38	31	12	126.923	
31	23E	34	30	27	126.611	
32	23E	20	20	26	126.736	
33	23E	32	24	18	126.798	
34	23E	51	35	26	126.754	
35	23E	45	37	25	126.775	
36	23E	37	32	18	126.796	
37	23E	32	30	17	126.831	
38	23E	29	22	29	126.550	
39	23E	26	23	15	126.747	
40	23E	49	39	19	126.866	
41	23E	26	24	36	126.647	
42	23E	56	44	13	126.923	
43	23E	42	34	38	126.689	
44	23E	38	26	12	126.912	
45	23E	26	22	45	126.562	
46	23E	37	32	45	126.527	
47	23E	36	27	22	126.763	
48	23E	33	31	38	126.553	
49	23E	24	22	39	126.571	
50	23E	27	24	29	126.671	
51	23E	34	27	34	126.585	
52	23E	34	23	11	126.867	
53	23E	29	29	26	126.731	
54	23E	54	39	28	126.719	
55	23E	31	26	33	126.622	
56	23E	40	35	31	126.580	
57	23E	40	33	28	126.621	
58	23E	45	37	22	126.621	
59	23E	32	28	11	126.693	
60	23E	42	34	26	126.680	
61	23E	36	34	34	126.623	
62	23E	38	31	48	126.387	
63	23E	47	37	42	126.585	土 3.9g
64	23E	30	26	32	126.675	
65	23E	(28)	21	33	126.685	
66	23E	33	32	20	126.799	
67	23E	32	28	58	126.432	
68	23E	35	29	49	126.512	
69	23E	50	50	31	126.653	
70	23E	26	23	34	126.683	
71	23E	31	25	26	126.768	
72	24C	23	29	29	126.785	黒色シルト主体
73	23E	52	47	38	126.505	2 個？
74	23E	38	36	24	126.778	
75	23E	43	(23)	17	126.859	
76	23E	67	(38)	19	126.796	土 9.5g
77	23E	43	37	22	126.604	土 2.8g
78	23E	34	28	38	126.540	土 9.8g
79	23E	34	28	28	126.727	
80	23E	54	46	25	126.767	

№.	区域	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
81	23E	39	33	34	126.852	
82	23E	33	32	40	126.569	
83	23E	37	34	25	126.643	
84	23E	41	33	47	126.471	
85	23E	36	30	38	126.519	
86	23E	37	33	21	126.669	土 2.8g
87	23E	36	31	34	126.559	須 18.4g
88	23E	33	24	48	126.451	
89	23E	25	21	31	126.563	
90	23E	23	22	30	126.590	
91	23E	29	21	40	126.572	
92	23E	32	31	42	126.499	
93	23E	33	28	42	126.469	
94	23E	38	30	21	126.705	
95	23E	44	37	30	126.623	
96	23E	63	59	19	126.700	
97	23E	35	35	31	126.591	
98	23E	29	22	20	126.589	
99	23E	32	26	20	126.541	
100	23E	36	25	17	126.797	
101	23E	32	24	69	126.276	
102	23E	36	29	51	126.444	
103	23E	33	25	16	126.557	P103 →撹乱 24
104	23E	43	39	18	126.486	
105	23E	37	27	22	126.615	
106	23E	38	37	21	126.593	土 204.7g
107	23E	29	28	40	126.316	
108	23E	25	24	53	126.138	
109	23E	36	26	37	126.520	
110	23E	31	29	18	126.647	
111	23E	33	33	19	126.655	須 5.6g
112	23E	32	29	27	126.665	土 6.8g
113	23E	56	56	21	126.736	土 5.6g
114	23E	38	33	19	126.784	
115	23E	34	31	17	126.780	
116	23E	33	(21)	25	126.746	
117	23E	36	24	26	126.691	
118	23E	40	26	50	126.472	
119	23D	62	42	56	126.475	土 3.2g
120	23D	25	25	34	126.696	
121	23D	27	(17)	38	126.654	
122	23D	41	35	22	126.845	
123	23D	32	32	21	126.836	
124	23D	40	36	30	126.728	
125	23D	42	29	19	126.896	
126	23D	28	24	18	126.858	
127	23D	46	39	23	126.836	土 189.8g
128	23D	41	37	30	126.542	
129	23E	34	25	37	126.503	
130	23E	25	(13)	46	126.548	
131	23E	47	(26)	32	126.355	
132	23E	44	30	47	126.419	
133	24D	34	32	33	126.329	
134	23E	33	24	22	126.577	
135	23E	44	26	41	126.353	
136	23E	44	40	46	126.417	
137	23E	27	21	26	126.574	
138	24D	40	36	35	126.727	
139	23E	83	62	60	126.390	
140	23D	35	33	35	126.687	
141	23D	37	32	14	126.916	
142	23D	44	37	40	126.618	
143	23E	57	40	57	126.282	
144	24D	31	28	24	126.929	
145	23D	63	61	31	126.877	土 144.8g
146	23D	31	27	35	126.745	
147	23D	59	55	19	126.903	
148	23E	47	32	43	126.524	
149	23E	27	24	19	126.735	
150	23E	55	38	21	126.801	
151	23D	62	38	35	126.789	
152	23D	44	41	52	126.600	土 15.9g
153	23D	30	30	25	126.901	
154	23E	39	30	15	126.600	
155	23E	47	41	11	126.459	
156	23D	(28)	37	28	126.813	
157	23E	48	42	60	126.333	
158	23E	51	41	51	126.500	
159	24D	37	34	59	126.261	RB004P2
160	23E	45	37	41	126.543	土 19.2g

第５表　柱穴一覧（2）

№.	区域	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
161	23E	39	35	50	126.481	
162	23E	36	32	42	126.570	土 3.0g、須 13.4g
163	23E	23	21	42	126.558	土 8.0g
164	24D	35	35	42	126.257	
165	23E	27	26	34	126.597	
166	23E	28	22	36	126.588	
167	23E	32	22	36	126.589	
168	23E	(27)	32	18	126.468	
169	23E	35	23	26	126.591	
170	23E	46	43	28	126.649	
171	23E	(20)	32	34	126.546	
172	23D	28	16	54	126.320	
173	23E	(34)	36	62	126.396	
174	23E	23	20	25	126.654	
175	23E	27	25	50	126.321	
176	23E	42	28	22	126.596	
177	23D	32	29	35	126.768	
178	23D	27	25	30	126.808	
179	23D	31	27	26	126.878	
180	23E	30	27	43	126.484	
181	23E	31	28	34	126.557	
182	23E	39	32	31	126.607	
183	23D	32	27	26	126.775	
184	23E	48	42	47	126.460	
185	23D	36	25	16	126.907	
186	23E	29	25	34	126.643	土 18.3g
187	23E	30	25	42	126.573	土 27.4g
188	23B	61	(53)	22	127.090	
189	23B	43	35	12	127.192	
190	23B	38	32	18	127.202	
191	23B	31	28	13	127.238	
192	23B	60	42	20	127.153	
193	23B	59	47	27	127.125	
194	23B	46	42	14	127.185	
195	23B	30	27	25	127.077	
196	23B	38	28	26	127.090	
197	23B	31	25	15	127.223	
198	23B	29	27	14	127.207	
199	24D	35	32	24	126.954	
200	23B	26	22	11	127.239	
201	23B	47	39	14	127.248	
202	23B	44	43	41	126.975	
203	23B	29	23	37	127.006	須 12.7g
204	23B	35	26	13	127.207	
205	23B	40	29	23	127.068	
206	23B	(27)	27	17	127.047	
207	23B	52	47	13	127.068	
208	23B	35	32	42	126.937	土 3.0g、須 21.0g
209	23B	52	41	22	126.890	
210	24D	30	29	30	126.509	土 5.6g
211	24G	31	23	43	126.701	
212	24G	39	32	31	126.902	
213	24G	59	46	31	126.525	
214	24G	(21)	19	31	126.926	
215	24G	46	42	46	126.877	
216	24H	32	26	35	126.665	
217	24H	40	20	33	126.980	
218	23B	25	23	35	126.737	
219	23B	28	23	22	126.858	
220	23B	(24)	36	20	127.041	土 17.8g
221	23B	25	22	6	127.183	
222	23C	26	20	14	127.059	
223	23C	23	21	39	126.828	
224	23C	28	22	13	127.120	土 15.8g
225	23C	26	19	18	127.047	
226	23C	40	(32)	17	127.072	
227	23C	37	30	18	127.038	
228	23E	34	26	26	126.619	
229	23E	25	25	17	126.467	
230	23E	42	36	32	126.400	
231	23E	40	33	27	126.467	
232	23E	(40)	42	30	126.462	
233	23E	(37)	51	39	126.304	
234	23E	37	36	35	126.433	
235	23E	31	29	27	126.505	
236	23E	38	28	22	126.530	
237	23E	45	40	34	126.434	
238	23E	36	32	30	126.469	
239	23E	34	32	22	126.558	
240	24H	38	23	36	126.834	
241	23C	40	29	5	127.240	
242	23C	34	33	17	127.106	
243	23C	45	42	13	127.186	
244	23C	37	25	9	127.245	
245	23C	34	24	12	127.177	
246	23C	36	22	12	127.214	
247	23C	36	30	16	127.200	
248	23C	42	30	14	127.210	
249	23C	57	48	10	127.232	
250	23C	44	37	7	127.263	
251	23C	36	(16)	10	127.278	
252	23C	39	30	9	127.244	
253	23C	45	37	24	127.104	
254	23C	29	25	15	127.225	
255	23C	43	34	12	127.236	
256	23C	32	32	14	127.219	
257	23C	32	32	10	127.200	
258	23C	29	22	10	127.287	
259	23C	56	31	16	127.186	
260	23C	42	30	11	127.226	
261	23C	30	27	11	127.177	
262	23C	44	38	11	127.228	
263	23C	34	29	14	127.219	
264	23C	38	32	14	127.221	
265	23C	50	42	13	127.217	
266	23C	51	49	29	127.045	
267	23C	47	29	10	127.241	
268	23B	48	34	13	127.208	
269	23C	44	30	12	127.182	
270	23C	34	26	8	127.202	
271	23C	17	13	10	127.230	
272	23C	34	25	7	127.218	
273	23C	37	29	14	127.163	
274	23C	31	23	26	127.098	土 1.7g、須 11.3g
275	23C	43	32	28	127.058	
276	23C	45	32	10	127.130	
277	23C	44	39	13	127.143	
278	23C	42	29	10	127.260	
279	23C	36	26	11	127.282	
280	23C	35	27	14	127.247	
281	23C	27	27	32	126.990	
282	23C	46	34	9	127.258	
283	23C	58	53	13	127.141	
284	23C	(27)	27	38	127.012	
285	23C	(11)	34	12	127.220	
286	23C	24	19	8	127.231	
287	23C	43	34	22	127.123	
288	23C	25	23	15	127.193	
289	23C	30	29	13	127.232	
290	23C	39	36	15	127.172	
291	23C	26	21	9	127.230	
292	23C	21	14	11	127.218	
293	23C	26	29	14	127.184	
294	23C	17	16	8	127.242	
295	24H	31	13	24	127.061	
296	24H	31	25	32	126.942	
297	24H	26	18	35	126.958	土 0.7g
298	24H	22	20	34	127.051	
299	24H	60	59	19	127.070	縄 7.7g、石 75.07g
300	24H	23	22	21	127.002	土 1.3g
301	24H	26	25	26	126.974	土 0.7g
302	24H	25	26	27	126.937	
303	24H	33	27	49	126.798	土 4.8g、金 4.07g
304	24H	28	26	26	126.992	
305	24H	22	20	37	126.748	
306	24H	40	40	18	127.102	
307	24I	45	20	23	127.041	
308	24I	25	24	16	126.914	
309	24I	39	37	20	126.766	
310	24J	34	31	26	126.968	土 1.1g
311	24J	27	25	46	126.678	
312	24J	22	20	25	126.826	
313	24J	30	28	23	126.871	土 4.1g
314	24J	26	24	18	126.851	
315	24J	28	27	19	126.862	
316	24J	40	24	35	126.536	
317	24J	27	25	22	126.705	
318	24M	31	30	20	126.821	
319	24M	40	35	22	126.791	
320	24M	30	24	35	126.513	土 5.5g

第５表　柱穴一覧（3）

No.	区域	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
321	24N	40	38	22	126.339	
1	23C	(64)	81	68	126.584	RB001
2	23C	128	98	78	126.510	RB001
3	23C	134	116	68	126.670	RB001
4	23C	106	92	66	126.680	RB001
5	23C	106	94	46	126.828	RB001
6	23C	112	106	68	126.632	RB001
7	23C	156	(98)	86	126.442	RB001
8	23C	124	(56)	64	126.576	RB001
9	23C	84	(50)	72	126.598	RB001
10	23C	94	88	58	126.750	RB001
1	23B	40	35	21	126.876	RB002
2	23B	35	35	35	126.700	RB002
3	23B	34	32	45	126.500	RB002
4	23B	35	33	15	126.664	RB002
5	23B	28	27	19	126.980	RB002
6	23B	44	37	25	126.900	RB002
7	23B	29	28	60	126.520	RB002

No.	区域	長軸	短軸	深さ	底面標高	備考
8	23B	37	34	22	126.926	RB002
1	24H	33	32	57	126.686	RB003
2	24H	32	30	42	126.839	RB003
3	24H	32	28	65	126.598	RB003
4	24H	27	25	44	126.761	RB003
5	24I	36	32	72	126.605	RB003
6	24I	38	32	61	126.766	RB003
7	24H	32	31	58	126.751	RB003
8	24H	32	30	58	126.724	RB003
1	23E	51	45	65	126.374	RB004、P173 → RB004P1
2	23E	53	42	68	126.261	RB004
3	23E	55	41	65	126.257	RB004
4	23E	48	42	14	126.779	RB004
5	24N	47	38	36	126.319	RB004
6	24N	46	39	43	126.323	RB004
7	24N	44	42	42	126.345	RB004
8	24N	43	42	37	126.311	RB004

［長軸・短軸・深さ］単位cm、（　）は残存値　［底面標高］単位ｍ

［備考］新旧関係：旧→新、↔新旧関係不明、縄は縄文土器出土、土は土師器出土、須は須恵器出土

第６表　土器観察表（縄文土器）

掲載番号	遺構名／出土地点	出土層位	器種	部位	法量（cm）			文様等	備考	図版	写真
					口径	底径	器高				
431	ＲＤ021	１層、埋土上部、24 Ⅰ区Ⅲａ層上面	深鉢	口	(31.6)	－	<9.1>	LR ヨコ	胎土に砂粒多い	113	78
432	ＲＤ021	埋土、埋土上部	深鉢	口	(27.6)	－	<2.8>	LR ヨコ	胎土に砂粒多い	113	78
433	ＲＤ021	１層、埋土上部、24 Ⅰ区Ⅲａ層上面、24 Ⅰ区撹乱	深鉢	体	－	－	－	LR ヨコ	胎土に砂粒多い	113	78
457	23 Ｂ区	Ⅰ層	浅鉢	口底	(11.2)	2.1	4.9	LR ヨコ・沈線・刺突（磨消）		115	80
458	23 Ｂ区	Ⅰ層	浅鉢	口体	(17.2)	－	<3.9>	RL ヨコ・沈線・刺突（磨消）		115	80
459	23 Ｂ区	Ⅰ層	鉢	体	－	－	－	LR ヨコ・沈線・刺突（磨消）		115	80
460	23 Ｃ区	Ⅰ層	鉢	口体	(14.0)	－	<3.0>	LR ヨコ・沈線・刺突		115	80
461	23 Ｃ区	Ⅰ層	鉢	口体	－	－	－	LR ヨコ・沈線（磨消）	口縁部に突起	116	80
462	23 Ｃ区	Ⅰ層	鉢	体	－	－	－	RL ヨコ・沈線（磨消）	内外面コゲ	116	80
463	23 Ｃ区	Ⅰ層	鉢	体	－	－	<7.7>	LR ヨコ		116	80
464	23 Ｃ区	Ⅰ層	台付鉢	体底	－	－	<1.8>	LR ヨコ		116	80
465	24 Ｂ区	Ⅲａ層上面	鉢	体	－	－	－	LR ヨコ・沈線（磨消）		116	80
466	24 Ｃ区	Ⅱｂ層	鉢？	体	－	－	－	LR ヨコ・沈線（磨消）	胎土に金雲母含む	116	80
467	24 Ｄ区	Ⅱｂ層	台付鉢	台				沈線・ミガキ		116	80
468	24 Ｇ区	撹乱	深鉢	口	－	－	<5.6>	RL ヨコ・沈線		116	80
469	24 Ⅰ区	撹乱	鉢	口	－	－	<3.8>	LR ヨコ・沈線・刺突		116	80

【部位】口：口縁部　体：体部　底：底部　口底は口縁部から底部まで残存することを意味する
【口径・底径・器高】（　）は推定値、<　>は残存値を表す

第７表　土器観察表（陶磁器）

掲載番号	遺構名／出土地点	出土層位	種類	器種	法量（cm）			胎土	備考	図版	写真
					口径	底径	器高				
496	24 Ｄ区	Ⅲａ層上面	陶器	碗	－	(4.1)	<1.8>	淡黄	灰釉、大堀相馬産、18 Ｃ後	118	81
497	24 Ｈ区	Ⅰ層	陶器	皿	－	－	－	浅黄橙	藁灰釉、唐津産、17 Ｃ代	118	81
498	24 Ｍ区	Ⅰ層	陶器	鉢？	(23.2)	－	<7.1>	赤褐	産地不明、19 Ｃ後半以降、獣面	118	81
499	24 Ｄ区	撹乱	陶器	長頸瓶	－	－	－	灰白	灰釉、猿投窯、９Ｃ頃	118	81
500	24 Ｍ区	Ⅰ層	青磁	碗	－	(6.6)	<4.9>	灰白	波佐見？、17 Ｃ代？	118	82
501	24 Ｄ区	撹乱	青磁	壺？	－	(4.8)	<2.2>	灰白	産地不明、19 Ｃ後半以降	118	82
502	24 Ｈ区	Ⅰ層	青磁	皿	－	－	<1.7>	灰白	草花文？、産地・製作年代不明	118	82
503	24 Ｍ区	Ⅰ層	磁器	碗	－	－	<4.8>	白	梅樹文、肥前産、18 Ｃ代	118	82
504	24 Ｄ区	Ⅰ層	磁器	皿	－	(4.8)	<1.4>	灰白	草花文、肥前産、17 Ｃ代	119	82
505	24 Ｍ区	Ⅰ層	磁器	皿	(14.4)	(8.8)	4.2	灰白	唐草文＋竹文？、波佐見産、18 Ｃ後～ 19 Ｃ初	119	82
506	24 Ｊ区	Ⅰ層	磁器	皿	－	5.0	<1.2>	灰黄	山水文、産地不明、19 Ｃ後半、焼成不良	119	82
507	24 Ｇ区	トレンチⅠ層	磁器	皿	(9.6)	(5.6)	1.5	白	寿文皿、19 Ｃ代	119	82
508	24 Ｇ区	Ⅰ層	磁器	紅皿	(4.6)	(1.2)	1.35	灰白	肥前産、18 Ｃ後半	119	82
509	24 Ｏ区	撹乱	磁器	紅皿	4.7	1.1	1.2	灰白	肥前産、18 Ｃ後半	119	82

【口径・底径・器高】（　）は推定値、<　>は残存値を表す

第８表　石器・石製品観察表

掲載番号	遺構名	層位	器種	法量（cm）			重量（g）	石材／産地／年代	備考	図版	写真
				器長	器幅	器厚					
18	ＲＡ003	埋土	砥石	<10.25>	<4.25>	<2.65>	131.25	デイサイト／奥羽／新生代新第三紀		76	54
19	ＲＡ003	北側埋土下層	碁石状	2.1	1.9	0.6	4.26	頁岩／北上／古生代		76	54
111	ＲＡ014	埋土下位	磨石	<10.05>	11.7	5.7	736.21	安山岩（スコリア）／奥羽／新生代新第三紀～第四紀		84	60
162	ＲＡ018	床面（№７）	磨石	10.1	7.9	4.4	520.56	デイサイト／奥羽／新生代新第三紀		89	62
163	ＲＡ018	床面（№９）	磨石	15.05	11.5	9.1	1952.01	安山岩／奥羽／新生代新第三紀		90	62
164	ＲＡ018	ベルト埋土	敲石	<17.95>	<6.3>	<2.9>	445.22	細粒閃緑岩／北上／中生代白亜紀		89	62
172	ＲＡ019	床面	磨石	11.7	11.25	7.9	1404.72	デイサイト／奥羽／新生代新第三紀		90	63
193	ＲＡ020	南西貼床	砥石	9.0	5.9	1.1	105.37	凝灰岩／奥羽／新生代新第三紀	中砥？	93	64
243	ＲＡ021	Ｓ１	磨石	<17.8>	<14.6>	<10.9>	3464.10	安山岩／奥羽／新生代新第三紀		97	67
244	ＲＡ021	Ｓ２	台石	<30.2>	<17.0>	<12.4>	8600.00	安山岩／奥羽／新生代新第三紀	被熱痕	97	67
264	ＲＡ023	南半埋土下層	砥石	<5.7>	<3.8>	<1.7>	26.62	凝灰岩／奥羽／新生代新第三紀	中砥	99	68
336	ＲＡ026	南西埋土下部	砥石	<11.9>	<5.8>	<9.0>	886.51	デイサイト／奥羽／新生代新第三紀	荒砥～中砥	106	72
389	ＲＤ018	埋土	磨石	23.5	9.3	6.6	1928.45	デイサイト／奥羽／新生代新第三紀		110	75
470	23 Ｅ区	Ⅲａ層上面	石鏃	3.1	1.0	0.5	1.42	頁岩／奥羽／新生代新第三紀		116	80
471	ＲＡ027	燃焼部焼成層	石鏃	<2.8>	1.25	0.4	1.16	頁岩／北上／古生代		116	80
472	24 Ａ区	西側砂礫層	石鏃	15.8	13.0	1.7	352.08	頁岩／北上／古生代		116	80
473	23 Ｅ区	道路側撹乱	磨石	<10.8>	12.2	<8.5>	1479.04	デイサイト／奥羽／新生代新第三紀		117	81
510	24 Ｃ区	Ⅱｂ層	砥石	8.5	4.7	1.5	31.33	安山岩／奥羽／新生代新第三紀	荒砥	119	82
511	24 Ｃ区	撹乱	砥石	17.15	8.75	6.8	1769.38	デイサイト／奥羽／新生代新第三紀	中砥	－	82
512	24 Ⅰ区	撹乱	砥石	17.8	5.2	6.55	887.21	デイサイト／奥羽／新生代新第三紀	中砥	－	82
513	24 調査区	撹乱	砥石	15.6	5.6	5.7	623.22	デイサイト／奥羽／新生代新第三紀	中砥	－	82
514	23 Ｅ区	Ⅰ層	石臼	<26.2>	<15.95>	<7.9>	4209.50	安山岩／奥羽／新生代新第三紀		119	82

【器長・器幅・器厚】<　>は残存値を表す

第９表　土器観察表（土師器・須恵器）

掲載番号	遺構名／出土地点	出土層位	種類	器種	部位	法量（cm）			色調	
						口径	底径	器高	外面	内面
1	RA003	23P2	土師器	坏	体底	-	(5.0)	<1.5>	7.5YR5/6	7.5YR5/6
2	RA003	23 埋土	土師器	坏	体底	-	4.8	<1.6>	7.5YR7/6	10YR7/4
3	RA003	24 南西側壁際埋土下層、24 掘り方埋土、24 南半埋土下層	土師器	坏	復完	13.9	7.0	4.5	7.5YR7/6	7.5YR7/6
4	RA003	24 北半埋土下層、24 ベルト埋土下層	土師器	坏	口底	(12.6)	(5.0)	3.9	7.5YR5/6･10YR5/4	7.5YR5/6･7.5YR5/3
5	RA003	24 北半埋土下層	土師器	坏	口底	(12.6)	4.2	3.9	7.5YR7/6	7.5YR7/6
6	RA003	24 北側埋土下層	土師器	坏	体底	-	5.8	<2.3>	7.5YR7/6	7.5YR7/6
7	RA003	24 南半埋土下層、ベルト埋土下層、検出面カクラン層	土師器	坏	体底	-	6.0	<2.4>	10YR5/2 ～ 6/3	10YR6/3
8	RA003	24 北側埋土上層、北半埋土下層	土師器	坏	口底	(16.0)	(6.0)	5.2	7.5YR5/4	5YR6/6･7.5YR5/4
9	RA003	24 北側埋土上層	土師器	坏	口底	(13.4)	(5.4)	4.0	10YR7/4	N2/0
10	RA003	24 南半埋土下層	土師器	坏	体底	-	-	-	N2/0･2.5Y5/1	N1.5/0
11	RA003	24 南半埋土下層	土師器	坏	口	-	-	-	N2/0	N2/0
12	RA003	23 カマド 1（RP1 ～ 8）	土師器	甕	口底	13.6	(9.0)	15.6	10YR5/4 ～ 5/3･10YR7/3	10YR5/3･7.5YR5/6
13	RA003	24 北側埋土下層	土師器	甕	口体	(16.2)	-	<10.5>	7.5YR5/6	7.5YR6/6
14	RA003	23 床面（№1）	須恵器	甕	頸体	-	-	-	5GY4/1	7.5GY4/1
15	RA003	24 南半埋土上層	須恵器	壺	底	-	-	-	5GY3/1	N5/0
16	RA003	24 南半埋土上層	須恵器	壺	体	-	-	<6.1>	5Y6/1	10GY4/1
17	RA003	24 北半埋土下層	須恵器	壺	頸	-	-	-	5Y5/1	5Y5/1
21	RA004	P3	土師器	坏	体底	-	5.4	<1.1>	7.5YR6/8	7.5YR6/8
22	RA004	煙道（№2）	土師器	甕	口体	-	-	-	10YR3/3	10YR3/3
23	RA004	煙出し	土師器	甕	口体	-	-	-	7.5YR4/6	10YR4/6･7.5YR4/6
24	RA004	煙道（№1・2・4・他）	土師器	甕	口底	-	-	-	10YR5/4	10YR5/3 ～ 6/3･10YR8/4
25	RA004	P1、23B 区検出面上、23B 区北西道路側拡張部表土、北側撹乱	土師器	甕	体底	-	11.2	<5.8>	10YR7/6	7.5YR7/6
26	RA004	煙道（№1）、煙出し	土師器	甕	口体	(20.5)	-	<17.6>	7.5YR6/6 ～ 7/6	7.5YR6/6
27	RA004	埋土	土師器	甕	口体	-	-	-	7.5YR6/8	7.5YR7/8 ～ 6/8
28	RA004	西側拡張部埋土	土師器	小甕	体底	-	8.0	<5.4>	7.5YR6/6 ～ 7/6	7.5YR6/6
29	RA004	埋土	須恵器？	坏	口体	-	-	<4.4>	2.5Y7/2	2.5Y7/2
30	RA004	埋土	須恵器	坏	体底	-	5.6	<3.2>	5Y6/2･10YR6/3	7.5Y6/1･7.5YR6/6
31	RA004	23B 区西側拡張部埋土	須恵器	大甕	体	-	-	-	N3/0･5Y6/1	7.5Y6/1
32	RA004	23B 区西側拡張部埋土	須恵器	壺	体底	-	9.0	<6.4>	N5/0	5P5/1
33	RA012	カマド袖 1（南側）	土師器	坏	口体	16.2	-	<4.4>	5YR7/8	5YR7/8
34	RA012	カマド袖 1（南側）	土師器	坏	体底	-	6.0	<1.9>	5YR7/8	5YR7/8
35	RA012	床面（№8）	土師器	坏	口底	(14.4)	(5.6)	5.5	5YR6/8･10YR6/6	5Y2/1･2.5Y5/4
36	RA012	床面（№4・6）、埋土	土師器	坏	口底	16.5	6.5	6.9	10YR8/3･7.5YR8/4	N1.5/0
37	RA012	P8	土師器	坏	口体	12.7	-	<4.6>	10YR8/3･7.5YR8/4	5GY2/1･7.5Y8/1
38	RA012	カマド袖 1（南側）	土師器	坏	略完	13.1	6.5	4.8	10YR7/4	N2/1
39	RA012	カマドソデ 1（南側）、カマド（№15）、埋土	土師器	坏	略完	13.9	5.7	5.9	10YR8/4	N1.5/0･10YR8/3
40	RA012	カマド（№12）、RD017 埋土	土師器	坏	口底	(13.2)	5.5	5.6	10YR7/4･7.5YR7/4	10YR7/4 ～ 8/4･5GY2/1
41	RA012	カマド埋土、P10、埋土	土師器	坏	口底	(13.2)	6.3	4.6	7.5YR7/6	2.5Y6/4･2.5GY2/1
42	RA012	カマド（№6・11・埋土）、カマドソデ 1（南側）、床面	土師器	甕	口体	(19.0)	-	<24.2>	5YR4/8	5YR4/8
43	RA012	カマドソデ 1（南側）、カマド焼土直上	土師器	甕	体底	-	(8.0)	<12.8>	5YR4/8	5YR4/8
44	RA012	カマド（№3・5・14・17 ～ 20・埋土）、床面、23E 区撹乱 1・2	土師器	甕	口底	(20.0)	(7.6)	29.4	10YR8/4･7.5YR8/4･10YR5/2	10YR8/4･7.5YR8/4
45	RA012	カマド（№5）、袖 1（南側）	土師器	甕	口体	(18.8)	-	<14.2>	10YR5/4	7.5YR5/4
46	RA012	カマド焼土直上	土師器	甕	口体	(19.4)	-	<13.7>	7.5YR7/8･7.5YR8/4	5YR6/8
47	RA012	床面（№2・5）、埋土	土師器	甕	口体	14.1	-	<10.2>	10YR8/3	7.5YR7/4･10YR8/4
48	RA012	（№1）	土師器	小甕	体底	-	8.4	<6.0>	5YR6/8･10YR7/6	10YR7/6
49	RA012	埋土	土師器	小甕	体底	-	6.6	<1.5>	5YR6/8	5YR7/6
50	RA012	カマド	須恵器	坏	口底	(14.4)	(5.8)	4.4	7.5Y5/1	7.5Y5/1
51	RA012	床面（№3）	須恵器	坏	口底	(13.4)	(5.6)	4.5	7.5Y6/1	7.5Y6/1

掲載番号	調整			胎土	備考	分類	図版	写真
	外面	内面	底面					
1	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			Ⅰ C-	75	54
2	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒、RSC		Ⅰ A-	75	54
3	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ⅰ Db	75	54
4	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り→ナデ？	RSC		Ⅰ Ab	75	54
5	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC、1～2㎜砂粒		Ⅰ Ba	75	54
6	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC、1～2㎜砂粒		Ⅰ C-	75	54
7	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母		Ⅰ D-	75	54
8	ヘラケズリ→ミガキ	ミガキ	回転ヘラケズリ	1～2㎜砂粒		Ⅰ Bb	75	54
9	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り			Ⅱ Ba	75	54
10	ミガキ	ミガキ	回転糸切り→ミガキ			Ⅲ B-	75	54
11	ミガキ	ミガキ	-	RSC	10と同一個体か	Ⅲ -b	75	54
12	ハケメ	ヘラナデ	ヘラナデ？	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰ a	75	54
13	→回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		ⅱ d	75	54
14	回転ナデ・タタキメ	アテグ（放射状）	-	1～2㎜砂粒		-	76	54
15	回転ナデ	回転ナデ・ハケメ	ナデ			-	76	54
16	回転ナデ	回転ナデ	-			-	76	54
17	回転ナデ	回転ナデ	-		長頸瓶？	-	76	54
21	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ⅰ C-	76	55
22	ヘラケズリ	ヘラナデ	-	2～3㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰ d	76	55
23	ヘラナデ	ヘラナデ	-	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰ a	76	55
24	ヘラケズリ	ハケメ	-	1～3㎜砂粒、RSC		ⅰ -	76	55
25	ヘラケズリ	ヘラナデ	?	1～2㎜砂粒、RSC		ⅰ -	77	55
26	回転ナデ→ヘラナデ・ヘラケズリ	回転ナデ→ヘラナデ	-	1～3㎜砂粒	内面スス	ⅱ b	77	55
27	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒、RSC		ⅱ a	77	55
28	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		ⅱ -	77	55
29	回転ナデ	回転ナデ	-	RSC		b	77	55
30	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		-	77	55
31	タタキメ	アテグ（平行）	-	1～2㎜砂粒		-	77	55
32	ヘラケズリ	ハケメ	ヘラケズリ？	1～2㎜砂粒		-	77	55
33	回転ナデ	回転ナデ	-	RSC		Ⅰ -c	77	55
34	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ⅰ C-	77	55
35	回転ナデ	ミガキ	再調整？	RSC		Ⅱ Bb	78	55
36	回転ナデ	ミガキ	再調整？			Ⅱ Ba	78	55
37	回転ナデ	ミガキ			内面磨滅	Ⅱ -a	78	55
38	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り→再調整？			Ⅱ Bb	78	55
39	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	RSC		Ⅱ Ba	78	55
40	回転ナデ	ミガキ	再調整	1～2㎜砂粒	内面一部酸化	Ⅱ Ba	78	56
41	回転ナデ	ミガキ	再調整（回転ヘラケズリ）	金雲母、RSC		Ⅱ Ba	78	56
42	ヘラケズリ・ミガキ	ハケメ	-	1～2㎜砂粒、RSC	口：ヨコナデ	ⅰ a	78	56
43	ヘラケズリ・ミガキ	ハケメ	ヘラケズリ	1～2㎜砂粒、RSC		ⅰ -	78	56
44	ヘラケズリ	ハケメ	ヘラケズリ	1～3㎜砂粒	口：ヨコナデ、歪み大	ⅰ a	78	56
45	上：ヘラナデ、下：ヘラケズリ	ヘラナデ	-	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰ a	79	56
46	ハケメ・ヘラナデ	ハケメ	-	1～2㎜砂粒、RSC	口：ヨコナデ	ⅰ d	79	56
47	ヘラケズリ	?	-	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ、内外面磨滅	ⅰ d	79	56
48	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒、RSC		ⅱ -	79	56
49	底付近回転ケズリ	?	回転糸切り	1～2㎜砂粒		ⅱ -	79	56
50	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			Ba	79	56
51	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			Ba	79	57

掲載番号	遺構名／出土地点	出土層位	種類	器種	部位	法量（cm）			色調	
						口径	底径	器高	外面	内面
52	RA012	床面（№10）	須恵器	坏	口底	(14.4)	(5.4)	5.0	5Y6/1	5Y6/1
53	RA012	P5	須恵器	坏	口底	(14.1)	(5.6)	4.3	2.5Y6/2	2.5Y6/2
54	RA012	カマド（№1）	須恵器	大甕	体	-	-	-	5GY2/1・2.5Y8/3	7.5GY3/1
56	RA013	カマド２焼土直上	土師器	坏	口体	(13.8)	-	<4.9>	7.5YR6/6・10YR7/3	2.5Y7/3
57	RA013	カマド２焼土直上、埋土	土師器	坏	略完	13.6	5.2	5.7	5YR6/8	5GY2/1・7.5YR7/8
58	RA013	床面	土師器	坏	体底	-	4.7	<1.1>	10YR7/4	5GY2/1
59	RA013	貼床	土師器	坏	口体	(13.8)	-	<4.2>	10YR7/3	5GY2/1
60	RA013	カマド2、床面、カマド２焼土直上	土師器	甕	口体	(19.4)	-	<16.6>	10YR8/4	7.5YR7/4
61	RA013	カマド２焼土直上	土師器	甕	口体	(15.1)	-	<10.5>	10YR5/3・5YR6/6	10YR6/3
62	RA013	貼床	土師器	甕	口体	(14.0)	-	<7.9>	7.5YR5/6・10YR7/4	10YR6/4
63	RA013	埋土	土師器	甕	体底	-	10.8	<3.8>	10YR6/4	7.5GY2/1
64	RA013	埋土	土師器	甕	体底	-	(11.4)	<4.7>	5YR5/8	5YR5/8
65	RA013	P1、23D 区表土	土師器	甕	口体	(16.3)	-	<10.0>	10YR7/6	10YR7/6
66	RA013	カマド２焼土直上、煙道、P1、埋土	土師器	甕	体底	-	7.7	<12.5>	10YR7/6・5YR6/6	10YR6/4
67	RA013	埋土、23D 区Ⅰ層	土師器	小甕	口底	(12.8)	6.6	9.8	10YR5/3・7.5YR6/4	5YR6/8
68	RA013	東カマド付近埋土上位	須恵器	坏	完	15.3	6.2	5.0	10Y6/1	10Y6/1
69	RA013	カマド２焼土直上、埋土、23D 区表土	須恵器	坏	口底	(14.6)	6.2	4.8	5Y7/2	5Y7/2
70	RA013	東カマド付近埋土上位	須恵器	坏	口底	(14.6)	6.0	4.7	5Y7/1 ～ 7/2	5Y7/1 ～ 7/2
71	RA013	北西埋土	須恵器	大甕	口頸	(37.4)	-	<6.8>	5Y7/1 ～ 7/2	5Y7/1 ～ 7/2
72	RA014	P1、南東埋土上位	土師器	坏	口底	(14.5)	4.9	5.2	10YR7/4・5YR6/6	10YR7/4・5YR6/6
73	RA014	P1	土師器	坏	口底	(11.9)	(5.8)	4.1	10YR5/4・2.5Y5/4・5YR6/8	5YR6/8・10YR6/6
74	RA014	P1	土師器	坏	口底	(11.8)	5.2	3.9	5YR6/8・7.5YR7/4	5YR6/8
75	RA014	P1	土師器	坏	口底	(12.6)	4.9	4.5	10YR7/4	10YR7/4
76	RA014	北西埋土上位、P1	土師器	坏	体底	-	(5.8)	<1.9>	5YR5/8	5YR5/8
77	RA014	P5	土師器	坏	口底	13.8	5.4	5.6	5YR7/6 ～ 6/6	5YR6/8
78	RA014	南東埋土下位、埋土下位～床面、北東埋土上位、貼床	土師器	坏	口底	14.4	4.8	5.0	7.5YR7/4・10YR7/4	5YR7/6・10YR7/4
79	RA014	埋土下位～床面	土師器	坏	体底	-	5.3	<1.5>	10YR6/3 ～ 7/4	2.5Y6/3
80	RA014	南西埋土下位	土師器	坏	口体	(13.8)	-	<4.4>	10YR8/4・7.5YR8/3	5YR5/6
81	RA014	南西埋土下位	土師器	坏	体底	-	(5.6)	<2.9>	7.5YR7/6	7.5YR7/6
82	RA014	南西埋土上位	土師器	坏	完	14.2	5.5	6.2	2.5Y7/3	10YR6/4・2.5Y7/1
83	RA014	南東埋土上位	土師器	坏	体底	-	(5.6)	<2.1>	5YR6/8	5YR6/6
84	RA014	ベルト埋土	土師器	坏	口底	(13.2)	(5.4)	4.4	10YR7/4	10YR5/3・7.5YR5/6
85	RA014	ベルト埋土	土師器	坏	体底	-	(6.6)	<2.0>	7.5YR7/6	7.5YR7/6
86	RA014	P1	土師器	坏	体底	-	5.3	<1.5>	7.5YR6/6	5GY2/1
87	RA014	南東埋土、貼床	土師器	坏	口底	(14.1)	(5.6)	4.2	10YR8/4・2.5Y8/3・7.5YR7/3	5GY2/1
88	RA014	南東埋土下位	土師器	坏	口底	(13.8)	5.3	4.4	2.5GY2/1	2.5GY2/1
89	RA014	南東埋土下位	土師器	坏	口底	(11.0)	(5.8)	4.0	5GY2/1	5GY2/1
90	RA014	P1	土師器	高台付坏	体底	13.5	6.1	5.5	5YR8/4	5YR7/6・7.5YR8/4
91	RA014	南東埋土下位	土師器	高台付坏	口底	(14.6)	-	<5.5>	5YR7/4	N1.5/0
92	RA014	P1、埋土上位、ベルト埋土	土師器	鉢	口底	21.9	7.8	8.6	5YR7/4・10YR8/4	5YR5/4
93	RA014	P1、南東端埋土下位、ベルト埋土	土師器	甕	口体	(24.6)	-	<13.5>	7.5YR7/4	7.5YR4/3・10YR6/4
94	RA014	P1	土師器	甕	口体	(17.4)	-	<8.5>	10YR8/4・10YR6/6	5YR7/6
95	RA014	P1	土師器	甕	口体	-	-	-	10YR8/4・7.5YR7/4	10YR8/4
96	RA014	南東埋土上位	土師器	甕	口体	(16.0)	-	<7.0>	7.5YR8/4・10YR8/3	7.5YR7/4
97	RA014	埋土下位～床面	土師器	甕	口体	(22.4)	-	<8.5>	10YR5/4	10YR7/3・10YR7/6
98	RA014	埋土下位～床面	土師器	甕	口体	-	-	-	10YR6/3	10YR6/3
99	RA014	南東端埋土下位	土師器	甕	口体	-	-	-	10YR8/4 ～ 8/3	10YR8/4
100	RA014	ベルト埋土	土師器	甕	口頸	-	-	-	7.5YR4/3	10YR8/3
101	RA014	北西埋土下位	土師器	甕	体底	-	7.1	<2.1>	2.5Y5/3・7.5YR4/6	10YR6/4
102	RA014	南ベルト埋土	須恵器	坏	体底	-	-	<1.9>	5Y7/1	5Y7/2
103	RA014	南西埋土下位	須恵器	大甕	体	-	-	-	10YR5/1・10YR7/3	10YR5/1
104	RA014	北東埋土下位	須恵器	大甕	体	-	-	-	5GY2/1・10Y6/1	5Y4/1

掲載番号	調整			胎土	備考	分類	図版	写真
	外面	内面	底面					
52	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ae	79	57
53	回転ナデ	回転ナデ	-	RSC		Be	79	57
54	タタキメ	アテグ（平行）	-	1～2㎜砂粒	膨れ	-	79	57
56	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		Ⅰ-a	80	57
57	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り？（磨滅）	金雲母	底部外面「×」印	Ⅱ Bb	80	57
58	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り			Ⅱ-	80	57
59	回転ナデ	ミガキ	-			Ⅱ Ba	80	57
60	ハケメ	ハケメ・ヘラナデ	-	1～3㎜砂粒、RSC	口：ヨコナデ	ⅰ a	80	57
61	ヘラナデ	ヘラナデ	-	1～2㎜砂粒、RSC	口：ヨコナデ	ⅰ a	80	57
62	ヘラナデ	ヘラナデ	-	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰ a	80	57
63	ハケメ	ヘラナデ	ハケメ	1～3㎜砂粒、RSC		ⅰ-	80	57
64	ヘラナデ	ヘラナデ	"ヘラケズリ、小石（砂）付着"	1～3㎜砂粒		ⅰ-	80	57
65	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒	126と同一	ⅱ d	80	57
66	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～3㎜砂粒	123と同一	ⅱ-	80	57
67	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		ⅱ d	80	57
68	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り		器面に凹凸	Ae	80	57
69	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Bd	81	58
70	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Bd	81	58
71	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		-	81	58
72	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り（→磨滅）			Ⅰ Be	81	58
73	回転ナデ	回転ナデ	静止糸切り	1～2㎜砂粒	外面スス	Ⅰ Cb	81	58
74	回転ナデ	回転ナデ	静止糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅰ Cd	81	58
75	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り（→回転ヘラケズリ再調整？）	金雲母		Ⅰ Ee	81	58
76	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ⅰ C-	81	58
77	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒、RSC	底部外面「×」印	Ⅰ Be	81	58
78	回転ナデ	回転ナデ	磨滅（再調整？）	1～2㎜砂粒		Ⅰ Ba	81	58
79	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	金雲母		Ⅰ-	81	58
80	回転ナデ	ミガキ	-	金雲母、1～2㎜砂粒		Ⅰ Ba	81	58
81	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ⅰ D-	81	58
82	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り（磨滅？）	金雲母、1～2㎜砂粒		Ⅰ Bb	81	58
83	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒、RSC		Ⅰ C-	81	58
84	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り			Ⅰ Cd	82	58
85	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ⅰ C-	82	58
86	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	金雲母、RSC		Ⅱ C-	82	58
87	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	金雲母	内面摩滅	Ⅱ Cd	82	58
88	ミガキ、回転ケズリ	ミガキ	再調整（回転ヘラケズリ）	RSC		Ⅲ Bd	82	58
89	ミガキ	ミガキ	再調整（回転ヘラケズリ）	金雲母		Ⅲ Bb	82	58
90	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ⅰ Ce	82	58
91	回転ナデ	ミガキ	-		高台部欠損	Ⅱ Ba	82	58
92	回転ナデ	ミガキ	再調整？	1～2㎜砂粒		Ⅰ	82	58
93	ヘラナデ	ヘラナデ	-	RSC		ⅰ f	82	58
94	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒	沈線？	ⅱ b	82	59
95	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒	沈線？	ⅱ b	82	59
96	回転ナデ	回転ナデ	-	RSC		ⅱ b	82	59
97	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒	沈線？	ⅱ b	83	59
98	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒、金雲母、RSC	沈線？	ⅱ b	83	59
99	回転ナデ	回転ナデ	-	1～3㎜砂粒	沈線？	ⅱ b	83	59
100	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒	頸部に沈線?3条	ⅱ c	83	59
101	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～3㎜砂粒		ⅱ-	83	59
102	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			-	83	59
103	タタキメ	なし	-		焼成不良	-	83	59
104	タタキメ	なし	-			-	83	59

掲載番号	遺構名／出土地点	出土層位	種類	器種	部位	法量（cm）			色調	
						口径	底径	器高	外面	内面
105	RA014	北東埋土下位	須恵器	大甕	体	-	-	-	7.5Y4/1	5Y5/1
106	RA014	南側壁付近埋土下位	須恵器	壺	体底	-	10.4	<22.9>	7.5Y5/1	7.5Y5/1
107	RA014	東ベルト埋土、南西埋土上位、北西埋土上位、東ベルト底面、南西埋土下位	須恵器	壺	体底	-	(10.4)	<21.7>	2.5GY5/1･10Y5/1	10Y5/1
108	RA014	南西埋土下位、南西埋土上位	須恵器	壺	体底	-	10.2	<9.4>	N3/0	10YR2/1
109	RA014	南ベルト埋土	須恵器	壺	体底	-	8.0	<7.6>	5Y5/1･5Y7/2	2.5Y7/2
110	RA014	南ベルト埋土	須恵器	壺？	体底	-	-	<2.5>	7.5Y4/1	10Y5/1
114	RA015	23B 区 RE?（RA015 の 南側）、埋土	土師器	坏	口底	14.4	6.0	4.4	7.5YR7/6	7.5YR7/6
115	RA015	埋土上位、埋土下位	土師器	坏	体底	-	5.0	<1.7>	5YR6/8	7.5YR7/6
116	RA015	埋土上位	土師器	坏	体底	-	4.7	<0.9>	10YR6/4･7.5YR6/4	7.5YR6/4
117	RA015	埋土	土師器	坏	口体	(14.2)	-	<4.9>	10YR7/4	2.5GY2/1
118	RA015	埋土上位	土師器	甕	口体	-	-	-	10YR6/4･10YR5/3	10YR5/2･10YR5/4
119	RA015	床溝	土師器	甕	口体	-	-	-	7.5YR8/6 ～ 8/4	7.5YR8/4 ～ 8/3
120	RA015	床面	土師器	甕	体	-	-	-	10YR5/3	10YR5/3 ～ 6/3
121	RA015	埋土上位	土師器	甕	口体	-	-	-	5YR6/8	10YR7/4･5YR6/8
122	RA015	床面、東壁トレンチ埋土	須恵器	坏	口体	(15.3)	-	<4.0>	5Y7/1	5Y7/1
123	RA015	床面、東壁トレンチ埋土	須恵器	坏	口体	(14.2)	-	<4.4>	5Y7/1･2.5Y7/2	5Y7/2
124	RA015	床面	須恵器	坏	体底	-	(6.8)	<4.0>	5Y7/2･2.5Y8/3･7.5YR7/4	2.5Y7/2
125	RA015	床溝、埋土	須恵器	坏	体底	-	5.2	<3.2>	2.5Y7/3･10YR8/6	5Y6/2
126	RA015	東壁トレンチ埋土	須恵器	坏	口底	(15.0)	(5.0)	5.3	2.5Y6/2	5Y6/2
127	RA015	東壁トレンチ埋土	須恵器	坏	体底	-	(6.4)	<1.8>	5Y6/1	5Y6/1
128	RA015	埋土上位	須恵器	坏	体底	-	(7.0)	<4.0>	2.5Y7/2 ～ 8/2	2.5Y7/2 ～ 7/3
129	RA015	埋土上位	須恵器	坏	体底	-	-	<0.9>	10Y5/1	10Y5/1
130	RA015	埋土下位、埋土上位、23B 区北端撹乱	須恵器	大甕	体	-	-	-	5Y7/1 ～ 7/2	10Y5/1
131	RA016	煙出し	土師器	坏	略完	13.8	5.7	5.3	5YR5/6	5YR5/6･7.5YR4/6
132	RA016	カマド燃焼部上、P5 埋土上位、埋土	土師器	坏	口底	(14.8)	(6.0)	5.3	10YR6/6 ～ 6/4	7.5YR5/6･10YR5/4
133	RA016	埋土	土師器	坏	体底	-	(5.9)	<1.3>	2.5GY2/1	5GY2/1
134	RA016	P5 埋土上位	土師器	高台付坏	体底	-	(7.7)	<2.2>	5YR5/6	5YR5/6
135	RA016	埋土	土師器	甕	口体	-	-	-	10YR6/4･7.5YR6/4	10YR6/4
136	RA016	カマド燃焼部上	土師器	甕	口体	-	-	-	10YR8/4･7.5YR8/4	7.5YR8/4
137	RA016	床面（№2）	土師器	甕	体底	-	7.1	<7.2>	7.5YR4/4 ～ 4/6	7.5YR5/6
138	RA016	南側埋土中位	須恵器	大甕	体	-	-	-	5Y5/2	5Y6/1
139	RA016?	埋土、RA017 埋土	土師器	坏	口体	12.9	-	<3.9>	5YR6/6･7.5YR4/6	5YR5/8
140	RA016?	RA017 床面、埋土	土師器	甕	口体	13.2	-	<5.3>	5YR4/6	7.5YR3/2 ～ 3/3
141	RA017	床面（№5①）	土師器	坏	口底	14.8	5.6	5.4	7.5YR7/6	7.5YR7/6
142	RA017	床面	土師器	坏	口底	(15.7)	6.6	5.7	7.5YR4/6･10YR5/4	10YR8/4
143	RA017	埋土	土師器	坏	口底	(14.0)	(7.2)	3.7	10YR6/4	10YR6/4･10YR4/1
144	RA017	床面（№5②）	土師器	坏	略完	13.3	6.2	6.2	10YR7/4	N1.5/0
145	RA017	床面（№1）	土師器	坏	略完	13.7	5.5	5.5	7.5YR7/6	N1.5/0
146	RA017	床面（№3）	土師器	甕	体	-	-	-	10YR7/4	7.5YR8/4
147	RA017	床面（№7）、埋土	土師器	甕	体	-	-	-	7.5YR7/6･10YR8/4	7.5YR7/6
148	RA017	床面（№5・他）、北東埋土	須恵器	坏	口底	13.8	5.4	4.8	2.5Y8/1 ～ 8/2	2.5Y8/2
149	RA017	床面、北西道路側拡張部表土	須恵器	坏	口体	(14.8)	-	<4.7>	10YR8/4	10YR8/4
150	RA018	床面（№6）、埋土	土師器	坏	口底	(14.0)	5.6	5.6	7.5YR5/6	10YR6/4･10YR4/2
151	RA018	煙出底部	土師器	坏	口体	14.2	-	<4.5>	10YR4/1･10YR6/1	5GY2/1･10YR5/4
152	RA018	埋土	土師器	坏	体底	-	(6.0)	<2.3>	10YR7/4	N1.5/0
153	RA018	埋土	土師器	坏	体底	-	(6.8)	<1.6>	7.5YR6/6	5GY2/1
154	RA018	埋土	土師器	甕	口体	-	-	-	10YR7/4	5Y5/1
155	RA018	埋土	土師器	甕	口体	(22.0)	-	<7.3>	10YR6/4 ～ 7/4	10YR7/4 ～ 8/4
156	RA018	床面（№1）	須恵器	坏	略完	13.9	5.5	4.7	10Y5/1	10Y5/1
157	RA018	床面（№2・4・他）、貼床、北西埋土、カマド燃焼部上	須恵器	坏	口底	14.4	6.4	4.5	7.5Y6/1	7.5Y6/1

掲載番号	調整			胎土	備考	分類	図版	写真
	外面	内面	底面					
105	タタキメ	なし	-			-	84	59
106	上：回転ナデ、下：ケズリ、下端・底面：回転ケズリ	回転ナデ	高台状	1～2㎜砂粒		-	84	59
107	上：回転ナデ、下：ケズリ	回転ナデ	ヘラケズリ	1～2㎜砂粒		-	84	59
108	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラケズリ、ナデ		外面ハジケ	-	84	60
109	回転ナデ	ユビナデ	高台状	RSC		-	84	60
110	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒	焼成不良	-	84	60
114	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅰ Ca	85	60
115	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅰ B-	85	60
116	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			Ⅰ -	85	60
117	回転ナデ	ミガキ	-	RSC		Ⅱ Bd	85	60
118	ヘラナデ？	ヘラナデ？	-	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ　ロクロ？	ⅰ a	85	60
119	カキメ？	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒、RSC	沈線？	ⅱ b	85	60
120	カキメ？→ヘラナデ	回転ナデ	-	金雲母、RSC		ⅱ -	85	60
121	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		ⅱ c	85	60
122	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		a	86	60
123	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		Ba	86	60
124	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		B-	86	60
125	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			C-	86	60
126	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Be	86	60
127	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		-	86	60
128	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			C-	86	60
129	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り（→回転ヘラケズリ？）	1～2㎜砂粒		-	86	60
130	タタキメ	アテグ（放射状）	-	1～2㎜砂粒		-	86	60
131	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC	スス付着（灯明皿に転用？）	Ⅰ Ae	86	61
132	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	RSC		Ⅰ Ca	86	61
133	ミガキ	ミガキ	再調整			Ⅲ -	86	61
134	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り→ナデ	金雲母、RSC	高台部に穴３個	Ⅰ -	86	61
135	ヘラナデ	ハケメ	-	1～2㎜砂粒、RSC	口：ヨコナデ	ⅰ a	86	61
136	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		ⅱ b	86	61
137	ヘラケズリ→底付近横位ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラナデ	1～2㎜砂粒	小甕？	ⅰ -	87	61
138	ヘラケズリ	回転ナデ	-	2～3㎜砂粒		-	87	61
139	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒、RSC		Ⅰ -a	87	61
140	ヘラナデ	ハケメ	-	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ、内面スス	ⅰ a	87	61
141	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒、RSC		Ⅰ Ae	87	61
142	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒、RSC		Ⅰ Aa	87	61
143	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り？			Ⅰ Ae	87	61
144	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	RSC		Ⅱ Bd	87	61
145	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	RSC		Ⅱ Bb	87	61
146	回転ナデ・ヘラケズリ	ナデ？	-	1～2㎜砂粒、RSC		ⅱ -	88	61
147	回転ナデ	回転ナデ・ハケメ	-	1～2㎜砂粒、RSC	刻書「生？」	ⅱ -	88	61
148	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ba	88	61
149	回転ナデ	回転ナデ	-			d	88	61
150	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ⅰ Bd	88	62
151	回転ナデ	ミガキ	-	RSC		Ⅱ Ba	88	62
152	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	RSC		Ⅱ -	88	62
153	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅱ C-	88	62
154	ヘラナデ	ヘラナデ	-	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰ d	88	62
155	回転ナデ→ヘラナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒、RSC		ⅱ c	88	62
156	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ba	89	62
157	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Be	89	62

掲載番号	遺構名／出土地点	出土層位	種類	器種	部位	法量（cm）			色調	
						口径	底径	器高	外面	内面
158	RA018	貼床	須恵器	坏	口体	-	-	<3.6>	2.5GY5/1	5Y5/2
159	RA018	北東埋土	須恵器	坏	口体	-	-	<5.1>	5Y7/2	5Y7/2
160	RA018	北東埋土	須恵器	坏	口体	-	-	<3.1>	5Y6/1･N3/0	7.5Y5/1
161	RA018	床面（№3）、北西埋土、煙出し、北側トレンチⅠ層、23B 区中央落込み	須恵器	大甕	口体	(21.4)	-	<9.8>	5Y5/1 ～ 4/1	N4/0
165	RA019	カマド燃焼部上、23B 区中央遺構外（RD018 付近）Ⅰ層	土師器	坏	口体	(15.2)	-	<4.2>	10YR7/6	7.5YR7/6
166	RA019	埋土、カマド燃焼部上	土師器	坏	口底	14.4	5.6	5.0	7.5YR6/4･10YR6/4	10YR6/4 ～ 7/4･N3/0
167	RA019	カマド燃焼部上	土師器	坏	口底	(14.2)	5.1	4.8	10YR5/6	5YR5/6
168	RA019	カマド燃焼部上	土師器	坏	体底	-	4.4	<1.2>	10YR7/6	10YR7/6
169	RA019	埋土	土師器	坏	口底	(15.4)	5.4	5.6	7.5YR7/4･10YR7/4	N3/0･2.5Y8/2
170	RA019	カマド燃焼部上	土師器	坏	口体	(14.5)	-	<3.7>	10YR7/4	2.5GY2/1
171	RA019	南東埋土	須恵器	坏	体底	-	-	<1.9>	2.5Y5/2	2.5Y5/2
173	RA020	24 床面直上、24 北東埋土下層、24 北西貼床、23 埋土	土師器	坏	口底	(13.6)	6.0	5.5	10YR7/4 ～ 7/3	N2/0
174	RA020	24 南東床面直上	土師器	坏	底	-	5.2	<1.7>	7.5YR7/6 ～ 8/4	N2/0
175	RA020	23 埋土	土師器	坏	口底	(13.1)	5.2	4.8	10YR7/4･7.5YR7/6	N2/0
176	RA020	23 埋土	土師器	坏	体底	-	(6.3)	<3.2>	10YR7/4	2.5GY2/1
177	RA020	23 南東埋土	土師器	坏	底	-	5.8	<2.8>	10YR7/4	5GY2/1
178	RA020	24 南西埋土、24 北西埋土下層	土師器	甕	口体	(20.2)	-	<12.5>	5YR6/6･7.5Y5/1	10YR7/6･7.5Y5/1
179	RA020	24 南西埋土	土師器	甕	体底	-	(10.2)	<7.8>	7.5YR6/6 ～ 5YR6/6	7.5YR6/6 ～ 5YR6/6
180	RA020	24 カマド覆土、カマドソデ、煙道埋土	土師器	甕	体	-	-	<8.9>	7.5YR7/6	10YR7/6
181	RA020	23 貼床	土師器	甕	口体	-	-	-	7.5YR6/6 ～ 7/6	10YR8/6
182	RA020	24 貼床	土師器	甕	口	(15.6)	-	<3.3>	10YR8/3	10YR8/2
183	RA020	24 ベルト埋土上層、24 北西埋土上下層、24D 区包含層、24D 区カクラン	土師器	小甕	底	-	6.8	<5.6>	7.5YR7/6	5GY6/8
184	RA020	24 カマドソデ	須恵器	坏	口体	(14.7)	6.6	4.9	2.5Y7/2･10YR7/4	2.5Y7/2
185	RA020	23 床面（№1）、24 南東床面直上、24 南東埋土上層、23 埋土	須恵器	坏	口底	(14.2)	6.2	4.3	5Y4/1	5Y4/1
186	RA020	24 南東床面直上、23 床面（№1）、24 南東埋土	須恵器	坏	口底	(15.4)	6.4	5.4	2.5Y8/3 ～ 8/2	2.5Y8/1
187	RA020	24 南東床面直上、24 南東埋土上層、24 ベルト内埋土下層	須恵器	坏	復完	13.9	6.0	4.6	2.5YR4/1	2.5YR4/1
188	RA020	23 埋土、24 北西床直	須恵器	坏	復完	14.1	6.6	4.6	2.5Y7/1	2.5Y7/2
189	RA020	24 北西埋土下層	須恵器	甕	口	(21.2)	-	<6.7>	2.5Y5/2 ～ 4/1	2.5Y6/2
190	RA020	24 南西埋土下層、24 埋土下層、24 南西埋土上層、24 北西埋土下層、24 床面トレンチ貼床相当層、24 煙出し埋土	須恵器	大甕	体底	-	(37.0)	<40.1>	2.5Y5/1･2.5GY2/1	N4/0
191	RA020	23 埋土	須恵器	長頸壺	口頸	(12.0)	-	<9.3>	2.5Y3/1 ～ 3/2	10YR3/2･5Y4/1
192	RA020	24 南東埋土下層	須恵器	袋物	体	-	-	-	5Y5/1	N5/0
196	RA021	23（RP3）	土師器	坏	略完	13.3	5.1	4.3	7.5YR5/6	7.5YR5/6
197	RA021	23（RP4）	土師器	坏	口底	12.7	4.5	4.3	2.5Y8/3･7.5YR7/6	2.5Y8/3･5YR7/4
198	RA021	23（RP7）	土師器	坏	体底	-	4.2	<2.8>	10YR7/4 ～ 6/4	10YR7/4･7.5YR7/4
199	RA021	23 床直、23 北側埋土	土師器	坏	口体	(12.6)	-	<4.1>	10YR5/4	10YR5/4
200	RA021	23 床面	土師器	坏	体底	-	5.0	<3.0>	10YR8/4	10YR7/6
201	RA021	23 床面	土師器	坏	体底	-	(4.9)	<1.0>	7.5YR5/6	7.5YR5/6
202	RA021	23K1（RP1）	土師器	坏	口底	(15.3)	5.9	<5.3>	7.5YR6/6	7.5YR6/6
203	RA021	23K1	土師器	坏	口体	(14.4)	-	<3.5>	7.5YR7/6	7.5YR7/6
204	RA021	23K1、23 床直、23 南側埋土	土師器	坏	口体	(13.2)	-	<3.6>	7.5YR7/6	7.5YR7/6
205	RA021	23K1（RP2）	土師器	坏	体底	-	(6.4)	<2.8>	10YR5/3 ～ 5/2	10YR5/2･10YR6/3
206	RA021	23K1	土師器	坏	体底	-	6.0	<1.9>	10YR7/4 ～ 8/4	10YR7/4
207	RA021	23K1	土師器	坏	体底	-	(5.5)	<1.7>	10YR7/3 ～ 7/4	10YR6/4
208	RA021	23B 区中央トレンチ、23 南側埋土、23 床直、23 中央埋土	土師器	坏	口底	(12.8)	5.0	<3.7>	7.5YR6/6 ～ 7/6	5YR6/6 ～ 7/6
209	RA021	24 南東埋土下層、24 東側貼床、23 南側埋土	土師器	坏	復完	12.9	5.7	4.5	7.5YR7/6	5YR6/8
210	RA021	24 北東埋土下層	土師器	坏	復完	12.3	5.8	3.9	7.5YR6/6 ～ 10YR7/6	7.5YR6/6 ～ 10YR7/6

掲載番号	調整			胎土	備考	分類	図版	写真
	外面	内面	底面					
158	回転ナデ	回転ナデ	-			a	89	62
159	回転ナデ	回転ナデ	-			e	89	62
160	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		a	89	62
161	回転ナデ・タタキメ	回転ナデ・アテグ（放射状）	-	1～2㎜砂粒		-	89	62
165	回転ナデ	回転ナデ	-	RSC		Ⅰ Ba	90	62
166	回転ナデ	ミガキ	再調整（回転ヘラケズリ）	金雲母、1～2㎜砂粒		Ⅰ Ba	90	62
167	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	金雲母、1～2㎜砂粒		Ⅰ Be	90	62
168	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅰ -	90	63
169	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅱ Bd	90	63
170	回転ナデ	ミガキ	-	金雲母		Ⅱ -a	90	63
171	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	2～3㎜砂粒		-	90	63
173	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅱ Be	90	63
174	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り			Ⅱ -	90	63
175	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り			Ⅱ Dd	91	63
176	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り（再調整？）			Ⅱ D-	91	63
177	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り			Ⅱ B-	91	63
178	ハケメ	ハケメ	-	2～3㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰ a	91	63
179	ヘラケズリ→ハケメ	ハケメ	ヘラナデ	2～3㎜砂粒		ⅰ -	91	63
180	ヘラケズリ	ハケメ	-	2～3㎜砂粒		ⅰ -	91	63
181	回転ナデ・ヘラナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒、RSC		ⅱ a	91	63
182	回転ナデ？	回転ナデ？	-	1～2㎜砂粒		ⅱ a	91	63
183	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	2～3㎜砂粒		ⅱ -	91	63
184	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ba	92	63
185	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ba	92	63
186	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Be	92	63
187	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Bd	92	63
188	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ba	92	63
189	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		-	92	64
190	タタキメ	アテグ	?		膨れ	-	92	64
191	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		-	92	64
192	回転ナデ→ヘラケズリ	ヘラナデ	-	1～2㎜砂粒		-	92	64
196	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母、RSC		Ⅰ Cd	93	65
197	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒、金雲母		Ⅰ Da	93	65
198	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒、RSC		Ⅰ B-	93	65
199	回転ナデ	回転ナデ	-	金雲母		Ⅰ -a	93	65
200	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅰ D-	93	65
201	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母		Ⅰ -	93	65
202	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母、RSC		Ⅰ Cd	93	65
203	回転ナデ	回転ナデ	-			Ⅰ -d	93	65
204	回転ナデ	回転ナデ	-	RSC		Ⅰ -d	93	65
205	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ⅰ C-	93	65
206	回転ナデ	回転ナデ	静止糸切り？	RSC		Ⅰ -	93	65
207	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒、RSC		Ⅰ -	93	65
208	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母、RSC		Ⅰ Cd	93	65
209	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC、1㎜砂粒		Ⅰ Bd	93	65
210	回転ナデ	回転ナデ	静止糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅰ Aa	94	65

掲載番号	遺構名／出土地点	出土層位	種類	器種	部位	法量（cm）			色調	
						口径	底径	器高	外面	内面
211	RA021	23 北側埋土	土師器	坏	口底	(13.2)	(5.6)	<4.6>	10YR6/3･10YR2/1	10YR5/2 ～ 6/2
212	RA021	23 中央埋土	土師器	坏	体底	-	5.7	<1.7>	7.5YR6/4	10YR5/4･7.5YR6/4
213	RA021	23 中央埋土	土師器	坏	体底	-	(5.2)	<1.2>	10YR7/4	10YR7/4
214	RA021	24 埋土	土師器	坏	体底	-	5.6	<1.8>	7.5YR7/6	7.5YR7/6
215	RA021	23B 区中央トレンチ、23 中央埋土	土師器	坏	口底				7.5YR5/6	10YR5/4･10YR3/1
216	RA021	23（RP1）	土師器	坏	完	13.3	5.0	5.0	10YR4/4	10YR5/4
217	RA021	23 北側埋土、23 床面	土師器	坏	口体	(17.0)	-	<4.0>	10YR6/4･7.5Y2/1	5GY2/1
218	RA021	23P1	土師器	坏	体底	-	(5.6)	<2.0>	10YR8/4	5GY2/1
219	RA021	24 貼床	土師器	坏	口体	(15.4)	-	<4.3>	7.5YR6/4	N2/0
220	RA021	23（RP2）、23K1（RP3）、23 北側埋土	土師器	高台付坏	口底	(14.8)	(8.5)	6.3	7.5YR6/4	7.5YR6/4･10YR7/3
221	RA021	23 北側埋土、23 床面	土師器	高台付坏	口底	(13.6)	-	<4.2>	7.5YR4/6	7.5YR5/4
222	RA021	23K1（RP4）	土師器	高台付坏	体底	-	(6.3)	<3.5>	7.5YR7/4	10YR7/4
223	RA021	23 北側埋土	土師器	高台付坏	体底	-	(7.8)	<3.5>	7.5YR5/6 ～ 5/4	10YR5/4
224	RA021	23 南側埋土	土師器	高台付坏	体底	-	(7.2)	<2.9>	10YR7/4	10YR7/4
225	RA021	24 埋土	土師器	高台付坏	体底	-	(5.4)	<2.9>	10YR6/6 ～ 7.5YR6/6	7.5Y4/1･10YR6/6 ～ 7.5YR6/6
226	RA021	24 貼床	土師器	高台付坏	体底	-	-	<3.4>	7.5YR7/6	N2/0
227	RA021	23 床面	土師器	皿？	口体	(12.4)	-	<1.9>	10YR8/4	10YR8/4
228	RA021	23（RP5）、23 北側埋土	土師器	耳皿	略完	(10.1)	5.4	4.6	2.5GY2/1	N1.5/0
229	RA021	23 中央埋土	土師器	甕	口体	-	-	-	7.5YR6/6	7.5YR6/6
230	RA021	23 北側埋土、23K1 埋土、24F 区排土一括	土師器	甕	体底	-	(9.2)	<10.1>	7.5YR5/6･7.5YR3/1	10YR7/4
231	RA021	24K2 埋土	土師器	甕	口	-	-	-	7.5YR7/6 ～ 7.5YR6/8	7.5YR7/6 ～ 7.5YR6/8
232	RA021	23 カマド（RP2 赤･その 2･その 3）、23 北カマド焼土、23 北側埋土	土師器	甕	口体	23.2	-	<24.2>	5YR6/6･10YR7/4	5YR6/6 ～ 6/8
233	RA021	23 北カマド焼土	土師器	甕	口体	(15.1)	-	<4.4>	5YR6/6･7.5Y7/4	10YR7/3･7.5YR6/4
234	RA021	23 東カマド	土師器	甕	口体	-	-	-	10YR6/4･10YR4/3	10YR4/3
235	RA021	23 床面、23 中央埋土、23 北側埋土、23 床直	土師器	甕	口体	(15.7)	-	<12.5>	10YR5/4	10YR5/4
236	RA021	23 床面	土師器	甕	口体	-	-	-	7.5YR6/8	7.5YR7/8
237	RA021	23K1	土師器	甕	口体	-	-	-	10YR8/4	10YR8/4
238	RA021	23 床面	土師器	小甕	口底	(13.6)	6.2	11.9	7.5YR8/4	7.5YR7/4 ～ 8/4
239	RA021	23 中央埋土下位、23 床面、23 中央埋土	須恵器	大甕	体	-	-	-	2.5GY3/1	2.5YR4/1
240	RA021	24 南東埋土下層、24 南西埋土下層	須恵器	大甕	口体	36.0	-	<53.9>	2.5GY5/1	2.5GY5/1
241	RA021	24 北東埋土最下層、23 北側埋土、23 床面、23 中央埋土	須恵器	広口壺	頸底	-	7.2	<12.1>	10Y5/1･GY2/1	10Y5/1
242	RA021	23 床面	須恵器	壺	口	-	-	<2.0>	2.5GY2/1	7.5Y6/1
245	RA022	埋土	土師器	坏	体底	-	(6.4)	<3.3>	7.5YR7/8	N2/0
246	RA023	K2 埋土下部（P20）	土師器	坏	口体	(14.2)	5.0	4.0	10YR7/4	10YR6/3
247	RA023	カマド天井被熱層（P18）	土師器	坏	底	-	(4.8)	<1.3>	10YR6/4･7.5YR4/6	10YR6/4
248	RA023	南半埋土上層、検出面	土師器	坏	口体	(14.6)	(6.6)	4.5	10YR5/4	10YR5/4
249	RA023	カマド南ソデ	土師器	坏	口体	(13.2)	(5.2)	4.7	7.5YR6/8	2.5GY2/1･10YR8/4
250	RA023	埋土下部（P21）	土師器	坏	口底	(16.4)	6.6	6.6	10YR7/4	N2/0･10YR7/4
251	RA023	南半埋土上層、24D 区カクラン	土師器	坏	口底	(14.4)	5.8	5.8	10YR8/2･2.5Y7/3	N2/0
252	RA023	北側貼床	土師器	高台付坏	口体	(14.6)	-	<4.2>	7.5YR5/6	7.5YR5/6
253	RA023	南半埋土上層	土師器	高台付坏	底	-	6.8	<2.9>	5YR6/6･10YR7/4	10YR7/4
254	RA023	カマド支脚	土師器	甕	口底	14.2	-	<12.5>	10YR8/2･10YR6/3	10YR8/3 ～ 8/4
255	RA023	カマド南ソデ、カマドソデ	土師器	甕	体底	-	(10.4)	<12.6>	10YR6/3･10YR2/2	10YR7/4
256	RA023	K1 埋土最下部（P10）、北側埋土上層	土師器	甕	体底	-	7.6	<7.8>	10YR8/4	10YR8/6
257	RA023	カマド崩落土層直上（P6）、北側埋土上層	土師器	甕	口体	-	-	<21.9>	7.5YR6/8	5YR5/8
258	RA023	カマド右ソデ直上（P16・17）、埋土最下層（P3）、埋土下部	土師器	甕	口体	-	-	<21.4>	7.5YR8/6	7.5YR7/6･10YR7/4
259	RA023	北東床直（P14）	土師器	甕	口体	(22.8)	-	<6.7>	7.5YR7/8	7.5YR7/8
260	RA023	カマド構築土直上（P13）、カマド天井被熱層（P19）	土師器	甕	口体	(15.6)	-	<12.9>	7.5YR8/6	5YR6/8
261	RA023	北側埋土上層	土師器	羽釜	口体	-	-	<6.3>	7.5YR7/8	7.5YR7/8

掲載番号	調整			胎土	備考	分類	図版	写真
	外面	内面	底面					
211	回転ナデ	回転ナデ	再調整（回転ヘラケズリ）	金雲母、RSC		Ⅰ Ca	94	65
212	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母		Ⅰ -	94	65
213	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1 ～ 2㎜砂粒、RSC		Ⅰ -	94	65
214	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC、1㎜砂粒		Ⅰ C-	94	65
215	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1 ～ 2㎜砂粒		Ⅰ Ae	94	65
216	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	金雲母	黒色付着物有	Ⅱ Da	94	65
217	回転ナデ	ミガキ	-	RSC		Ⅱ -a	94	65
218	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	RSC		Ⅱ B-	94	65
219	回転ナデ	ミガキ	-	金雲母		Ⅱ -a	94	65
220	回転ナデ	回転ナデ	?	1 ～ 2㎜砂粒		Ⅰ Ba	94	65
221	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母、RSC		Ⅰ Ba	94	65
222	回転ナデ	回転ナデ	?	金雲母、RSC		Ⅰ B-	94	65
223	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母、RSC		Ⅰ -	94	65
224	回転ナデ	回転ナデ	-		器面摩滅	Ⅰ -	94	65
225	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り→回転ナデ	1㎜砂粒		Ⅰ B-	94	65
226	回転ナデ	ミガキ	→回転ナデ	金雲母、RSC		Ⅱ B-	94	65
227	回転ナデ	回転ナデ	-	1 ～ 2㎜砂粒		-	94	65
228	ミガキ	ミガキ	-			-	94	65
229	ヘラケズリ	ヘラナデ	-	1 ～ 2㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰ a	95	66
230	ハケメ	ハケメ→ヘラナデ	木葉痕	RSC、2 ～ 3㎜砂粒		ⅰ -	95	66
231	ヨコナデ・ヘラケズリ→ヘラナデ	ヨコナデ→ヘラナデ	-	1 ～ 2㎜砂粒、RSC		ⅰ e	95	66
232	回転ナデ→ヘラケズリ	回転ナデ→磨滅	-	1 ～ 2㎜砂粒		ⅱ a	95	66
233	回転ナデ	回転ナデ	-	1 ～ 2㎜砂粒		ⅱ b	95	66
234	回転ナデ	回転ナデ	-	金雲母、1 ～ 2㎜砂粒	外面沈線状？	ⅱ b	95	66
235	回転ナデ	回転ナデ	-	1 ～ 2㎜砂粒、金雲母		ⅱ b	95	66
236	回転ナデ	回転ナデ	-	1 ～ 2㎜砂粒		ⅱ d	95	67
237	回転ナデ	回転ナデ	-	1 ～ 2㎜砂粒		ⅱ d	95	67
238	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1 ～ 2㎜砂粒、RSC		ⅱ c	95	67
239	タタキメ	なし	-	1 ～ 2㎜砂粒		-	96	67
240	タタキメ	アテグ・ナデ	-			-	96	66
241	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り		小形	-	96	67
242	回転ナデ	回転ナデ	-		小形、242 と同一個体か	-	96	67
245	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	RSC		Ⅱ B-	97	67
246	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母		Ⅰ Ce	97	67
247	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母少量	破断面摩耗（転用？）	Ⅰ -	97	67
248	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母少量		Ⅰ Ca	97	67
249	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り		内面一部酸化	Ⅱ Ba	97	67
250	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り		内面一部酸化	Ⅱ Ba	97	67
251	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り			Ⅱ Bd	98	67
252	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り→	金雲母少量		Ⅰ Ac	98	67
253	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ⅰ -	98	67
254	ヘラケズリ	ユビナデ	-	2 ～ 5㎜砂粒	支脚	ⅰ d	98	67
255	ヘラケズリ	ヘラナデ	ナデ	2 ～ 3㎜砂粒、金雲母少量		ⅰ -	98	68
256	ヘラケズリ	ハケメ	砂底	2 ～ 3㎜砂粒		ⅰ -	98	67
257	ハケメ	ヘラナデ	-	1 ～ 2㎜砂粒、3 ～ 4㎜砂粒		ⅰ a	98	68
258	ヘラケズリ	ハケメ	-	1 ～ 2㎜砂粒、RSC	口：ヨコナデ	ⅰ a	99	68
259	回転ナデ	回転ナデ	-	1 ～ 2㎜砂粒		ⅱ c	99	68
260	回転ナデ	回転ナデ	-	1 ～ 2㎜砂粒		ⅱ b	99	68
261	回転ナデ	回転ナデ	-	1 ～ 3㎜砂粒		-	99	68

掲載番号	遺構名／出土地点	出土層位	種類	器種	部位	法量（cm）			色調	
						口径	底径	器高	外面	内面
262	RA023	南側東西ベルト、24D 区カクラン	須恵器	坏	口	(12.0)	-	<3.4>	2.5Y6/2	5Y6/1
263	RA023	床面	須恵器	甕	底	-	(9.2)	<7.3>	10BG3/1	N6/0
265	RA024	カマド東側土器集中部、K4 土器集中部上部、K4 土器集中部下部、K4 埋土	土師器	坏	略完	15.5	5.2	5.8	10YR5/2	10YR6/4
266	RA024	カマド東側土器集中部	土師器	坏	口底	(12.7)	5.8	4.2	10YR7/6	7.5YR7/6
267	RA024	カマド東側土器集中部	土師器	坏	体底	-	6.0	<2.9>	10YR8/6･5YR7/6	10YR8/6･5YR7/6
268	RA024	床直	土師器	坏	体底	-	6.2	<2.3>	10YR6/2 ～ 6/3･10YR8/4	10YR6/2 ～ 6/3･10YR8/4
269	RA024	西端床直、南西埋土	土師器	坏	口底	13.6	4.8	4.8	7.5YR8/6	7.5YR7/6
270	RA024	K1 埋土、K4 埋土、K4 南端土器集中部	土師器	坏	口底	13.6	6.0	4.6	2.5YR5/6	2.5YR5/6
271	RA024	K1 埋土	土師器	坏	体底	-	5.6	<2.75>	7.5YR7/4 ～ 8/6･10YR8/4	10YR8/4
272	RA024	K2 埋土、K2 埋土上層、北東埋土最下層、煙道埋土	土師器	坏	復完	(13.0)	5.2	4.1	5YR5/6	5YR5/6
273	RA024	K2 埋土上層、K3 埋土、RA021 を切るカクラン	土師器	坏	口底	13.6	5.9	4.8	7.5YR7/6	7.5YR7/6
274	RA024	K3 埋土	土師器	坏	底	-	4.8	<1.7>	7.5YR7/6･5YR7/6	5YR6/8
275	RA024	K4 土器集中部最下部	土師器	坏	復完	14.1	6.0	4.8	7.5YR7/6･2.5YR6/8	7.5YR7/6
276	RA024	K4 土器集中部下部	土師器	坏	完	13.9 ～ 13.35	5.0	4.4	7.5YR7/6 ～ 6/6	7.5YR6/6
277	RA024	K4 土器集中部下部	土師器	坏	口底	13.4	5.9	4.8	7.5YR7/6	7.5YR7/6
278	RA024	K4 土器集中部上部、K4 土器集中部下部	土師器	坏	完	13.9	5.8	5.0	7.5YR8/6	7.5YR8/6
279	RA024	K4 土器集中部上部、K4 土器集中部下部	土師器	坏	復完	13.0	5.2	4.6	7.5YR7/4･10YR7/4	7.5YR7/4 ～ 7/6
280	RA024	K4 土器集中部上部	土師器	坏	完	13.0	5.7	3.7	7.5YR7/6･2.5YR6/6	7.5YR7/6･2.5YR6/6
281	RA024	K4 土器集中部上部	土師器	坏	口体	15.8	-	<2.8>	7.5YR8/4･10YR8/3	10YR8/3
282	RA024	K4 埋土下層	土師器	坏	口底	(13.2)	5.5	4.2	7.5YR7/6 ～ 6/6	5YR6/6･10YR7/6
283	RA024	K5 土器集中部	土師器	坏	体底	-	5.5	<3.4>	7.5YR7/6	7.5YR7/6
284	RA024	北西埋土下層	土師器	坏	体底	-	6.0	<2.5>	7.5YR7/6	7.5YR7/6
285	RA024	ベルト埋土、K4 土器集中部上部	土師器	坏	口底	(13.2)	4.7	4.4	7.5YR6/6	7.5YR6/4
286	RA024	K4 南端土器集中部	土師器	坏	口底	13.4	5.6	4.4	10YR8/3 ～ 8/2	5GY2/1
287	RA024	K5 土器集中部、北東埋土最下層、埋土下層、K5 埋土下層、RA021 を切るカクラン	土師器	坏	復完	13.4	4.8	4.4	10YR6/6	N1.5/0
288	RA024	埋土、北東埋土、北西貼床、K4 土器集中部上部、ベルトカクラン層	土師器	坏	復完	17.9	6.0	6.7	7.5YR7/6･10YR7/4	N2/0
289	RA024	K4 土器集中部上部	土師器	坏	口底	(13.2)	(5.0)	4.5	2.5GY2/1	N1.5/0
290	RA024	ベルトカクラン層	土師器	坏	口体	(14.2)	-	<2.9>	2.5GY2/1	2.5GY2/1
291	RA024	K3 埋土、カマド覆土、北東埋土最下層	土師器	鉢	体底	-	9.6	<16.0>	10YR8/4 ～ 7/3	N3/0
292	RA024	床直、北西埋土、北西埋土下層	土師器	甕	口体	-	-	-	7.5YR7/6	7.5YR5/4
293	RA024	K2 貼床	土師器	甕	口	-	-	-	10YR7/6	7.5YR6/6
294	RA024	埋土（P5）、（P1）	土師器	甕	体	-	-	<13.0>	7.5YR7/6･10YR6/3	7.5YR7/6
295	RA024	カマド東側土器集中部	土師器	甕	底	-	-	<1.4>	7.5YR7/6	10YR6/4
296	RA026	埋土最下層（P2）、カマド北東埋土	土師器	坏	口底	(14.7)	(5.6)	3.9	5YR6/8･7.5YR7/8	7.5YR7/8
297	RA026	南西埋土下部、南西埋土最下部	土師器	坏	口底	14.1	(6.2)	5.5	7.5YR7/6･10YR8/4	7.5YR7/6
298	RA026	Pit12 埋土	土師器	坏	口体	(13.6)	-	<4.9>	10YR6/6	2.5GY2/1
299	RA026	Pit1 埋土上部、Pit1S 埋土	土師器	坏	口底	(13.0)	(6.4)	4.7	2.5GY2/1	2.5GY2/1
300	RA026	Pit1N 埋土、Pit1 埋土	土師器	坏	口底	(13.6)	(6.6)	4.7	10Y3/1	2.5GY2/1
301	RA026	Pit16 埋土、南西埋土最下部、24G 区カクラン、南西埋土	土師器	坏	口底	(13.0)	6.3	4.9	N1.5/0	N1.5/0
302	RA026	北側中央ブロック焼土層	土師器	坏	口底	(13.0)	(6.4)	4.9	N1.5/0	N1.5/0
303	RA026	南東埋土下部	土師器	坏	口	(16.0)	-	<3.3>	2.5GY2/1	2.5GY2/1
304	RA026	南東埋土下部、西ベルト 3 層	土師器	高台付坏	口底	(15.9)	(7.6)	7.6	10YR6/4	2.5GY2/1･2.5Y5/2
305	RA026	南西埋土下部、Pit1 埋土上部	土師器	鉢	口体	(18.4)	-	<9.9>	10YR7/4	2.5GY2/1
306	RA026	南西床直、南西周溝埋土、南西埋土下部、24G 区カクラン	土師器	甕	体底	-	(13.4)	<10.9>	5YR6/8･7.5YR7/4	5Y3/2
307	RA026	カマド南東床直、南西埋土下部	土師器	甕	口体	(13.8)	-	<7.0>	7.5YR7/6･10YR6/3	10YR8/4

掲載番号	調整			胎土	備考	分類	図版	写真
	外面	内面	底面					
262	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		e	99	68
263	ヘラケズリ	ヘラナデ	ナデ			-	99	68
265	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母		Ⅰ Bd	99	68
266	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅰ Ce	99	68
267	回転ナデ	回転ナデ	不明	2～3㎜砂粒	底部剥落	Ⅰ D-	100	68
268	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC、1～2㎜砂粒		Ⅰ C-	100	68
269	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅰ Ba	100	68
270	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母	底部剥落	Ⅰ Ca	100	68
271	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC、1～2㎜砂粒		Ⅰ D-	100	68
272	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母、RSC		Ⅰ Ba	100	68
273	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ⅰ Cb	100	68
274	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅰ B-	100	69
275	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC	一部剥落	Ⅰ Cb	100	69
276	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母、1～2㎜砂粒		Ⅰ Bd	100	69
277	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC、1～2㎜砂粒		Ⅰ Cb	100	69
278	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ⅰ Cb	100	69
279	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母、RSC		Ⅰ Ce	100	69
280	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC、2～3㎜砂粒		Ⅰ Cb	100	69
281	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒	高台付坏か	Ⅰ -c	100	69
282	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC、1～2㎜砂粒		Ⅰ Ce	100	69
283	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC、1～2㎜砂粒		Ⅰ C-	101	69
284	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		Ⅰ C-	101	69
285	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母、RSC、2～3㎜砂粒		Ⅰ Bd	101	69
286	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅱ Ba	101	69
287	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	2～3㎜砂粒	内面スス付着	Ⅱ Ba	101	69
288	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	RSC、1～2㎜砂粒		Ⅱ Ca	101	69
289	ミガキ	ミガキ	回転糸切り			Ⅲ Ca	101	69
290	ミガキ	ミガキ	-			Ⅲ -b	101	69
291	ヘラナデ→ハケメ	ミガキ	ヘラケズリ→ヘラナデ	RSC、2～3㎜砂粒		Ⅱ	101	69
292	ハケメ	ハケメ・ナデ	-	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰ a	102	70
293	ヘラナデ？	不明	-	RSC	器面摩滅、口:ヨコナデ？	ⅰ d	101	69
294	→ヘラケズリ	ハケメ	-	1～2㎜砂粒		ⅰ -	101	70
295	-	-	木葉痕	1～2㎜砂粒		-	101	70
296	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒、RSC		Ⅰ Ba	102	70
297	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒、RSC		Ⅰ Ba	102	70
298	回転ナデ	ミガキ	-	金雲母		Ⅱ -d	102	70
299	ミガキ	ミガキ	→ミガキ			Ⅲ Bb	102	70
300	ミガキ	ミガキ	回転糸切り→ミガキ			Ⅲ Bd	102	70
301	ミガキ	ミガキ	→ミガキ			Ⅲ Bb	102	70
302	ミガキ	ミガキ	回転糸切り→ミガキ			Ⅲ Bb	102	70
303	ミガキ	ミガキ	-		高台付坏の可能性有	Ⅲ -a	102	70
304	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り→回転ナデ・オサエ	金雲母少量	内面一部酸化	Ⅱ Ba	102	70
305	回転ナデ→回転ヘラケズリ	ミガキ	-	1㎜砂粒		Ⅱ	102	70
306	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラナデ	1～2㎜砂粒、RSC		ⅰ -	103	70
307	ヘラナデ	ハケメ	-	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰ e	102	70

掲載番号	遺構名／出土地点	出土層位	種類	器種	部位	法量（cm）			色調	
						口径	底径	器高	外面	内面
308	RA026	カマド8層、煙道7層、カマド北東埋土、南西埋土、南西埋土下部	土師器	甕	体	-	-	<12.6>	2.5YR4/6	5GY2/1･5Y4/2
309	RA026	煙道7層、Pit1埋土、Pit1埋土上部、南西埋土最下部、埋土、南西埋土下部	土師器	甕	口底	(24.4)	(10.0)	(29.8)	10YR7/4･10YR5/1	10YR7/3
310	RA026	煙道7層、Pit10埋土、Pit1埋土上層、Pit12埋土	土師器	甕	体底	-	8.6	<10.6>	5YR5/6･2.5Y5/3	7.5YR4/6･10YR7/6
311	RA026	Pit1埋土、カマド燃焼部直上	土師器	甕	口体	(22.6)	-	<17.0>	10YR8/6～6/6	10YR7/6
312	RA026	Pit1埋土、北東埋土最下部、南西埋土最下部	土師器	甕	口体	(24.2)	-	<23.7>	2.5Y5/3･5YR5/8	5YR5/8･7.5YR3/3
313	RA026	Pit1S埋土、北西埋土下部	土師器	甕	口体	(23.0)	-	<6.7>	5YR5/6	7.5YR5/4
314	RA026	北東埋土	土師器	甕	口	-	-	<10.5>	7.5YR7/6	7.5YR7/8
315	RA026	南西埋土下部、Pit16埋土、南西埋土最下部、Pit10埋土、Pit1埋土上部、カマド南東埋土、カクラン層、24G区カクラン層	土師器	甕	口体	(25.2)	-	<28.7>	10YR7/4･10YR8/6	5YR7/8
316	RA026	Pit14埋土、Pit1埋土上部、カマドカクラン層、南西床直、南西埋土最下部、南西埋土、南東埋土下部、南西床直カクラン	土師器	甕	体底	-	9.2	<13.8>	10YR7/4	5YR7/8
317	RA026	Pit14埋土、北東埋土、Pit16埋土、南西埋土下部、南西埋土最下部、北西埋土下部、南西床直、Pit1埋土上部、Pit6埋土	土師器	甕	口底	(14.3～16.0)	7.6	15.0	7.5YR7/3～7/4	7.5YR7/6
318	RA026	南西床面直上、南西周溝埋土、南西埋土	須恵器	坏	口底	(15.6)	(6.4)	5.2	5Y8/1	2.5Y8/2
319	RA026	Pit1S埋土、Pit1N埋土	須恵器	坏	復完	13.3	6.4	4.5	5Y7/1	7.5Y7/1
320	RA026	Pit1S埋土、南東周溝埋土、南西埋土	須恵器	坏	口底	(16.6)	(6.2)	4.8	5Y8/1･2.5Y7/3	5Y7/2
321	RA026	Pit1埋土、Pit1埋土上部	須恵器	坏	口底	(16.0)	(6.0)	4.7	2.5Y7/2･7.5YR8/4	2.5Y7/2
322	RA026	Pit1埋土上部	須恵器	坏	口底	(13.8)	(5.9)	4.1	5Y6/2	2.5Y7/4
323	RA026	Pit2埋土、南西埋土下部、Pit1埋土上部、南西埋土	須恵器	坏	口底	15.0	(7.0)	5.1	7.5Y6/1	7.5Y6/1
324	RA026	Pit10埋土、南西埋土下部、カマド南東埋土	須恵器	坏	口底	13.7	5.4	4.8	5Y7/1	5Y7/1
325	RA026	Pit15埋土	須恵器	坏	略完	16.2	6.3	5.3	5Y8/1	5Y8/1
326	RA026	埋土最下部（P1）、Pit1埋土上部、Pit1N埋土、Pit3埋土、Pit1埋土	須恵器	坏	復完	13.9	5.8	5.2	7.5Y5/1	7.5Y5/1
327	RA026	カマド東ベルト埋土、カマド南東埋土、カマド11層ソデ側、カマド右ソデ	須恵器	坏	口底	(14.4)	5.1	4.2	2.5Y6/2	5Y6/2
328	RA026	カマド東ベルト埋土、煙道埋土、北西埋土下部～最下部	須恵器	坏	口底	(14.2)	(6.0)	4.9	5Y5/1･10YR5/3	5Y5/1
329	RA026	西ベルト3層、Pit14埋土、Pit1埋土上部	須恵器	坏	口底	(14.0～15.4)	(6.4)	5.1	7.5Y6/1	7.5Y6/1
330	RA026	南西埋土下層、南西埋土、南西埋土上層	須恵器	坏	口底	14.8	6.2	4.8	2.5Y8/3	2.5Y7/1
331	RA026	南東埋土、南東床直、南東周溝埋土	須恵器	坏	口底	13.9	5.3	4.7	5Y5/1	5Y5/1
332	RA026	南東埋土、Pit1埋土上部、Pit1S埋土、	須恵器	坏	口底	(14.6)	(5.8)	4.8	7.5Y6/1	7.5Y6/1
333	RA026	南西埋土	須恵器	壺	口	(12.2)	-	<3.5>	7.5Y6/1	5GY2/1･7.5YR2/2
334	RA026	南東埋土上部、南東埋土下部	須恵器	袋物	体	-	-	-	7.5YR2/1	5Y4/1
343	RA027	燃焼部周辺埋土	土師器	坏	復完	(16.8)	6.8	5.4	5YR7/4･10YR6/3	5YR7/4･10YR6/3
344	RA027	燃焼部周辺埋土、南東埋土	土師器	坏	口底	(14.6)	6.0	5.9	7.5YR6/8･10YR7/2	7.5YR6/8
345	RA027	燃焼部周辺埋土	土師器	鉢	口体	(35.6)	-	<11.0>	7.5YR6/8	7.5YR6/6
346	RA027	(P5)	土師器	甕	口体	(21.2)	-	<10.9>	5YR6/8	5YR6/8･7.5YR6/3
347	RA027	煙出Pit埋土下部（P2）	土師器	甕	体	-	-	<12.1>	7.5YR7/8･10YR7/6	7.5YR6/6
348	RA027	Pit2埋土	土師器	甕	口体	(23.0)	-	<9.1>	7.5YR7/6･5YR6/8	5YR6/8
349	RA027	西側埋土	須恵器	坏	口	-	-	<4.2>	N5/0	N5/0
350	RA027	床直（P1）	須恵器	広口壺	口体	(16.4)	-	<13.4>	N5/0・2.5GY5/1	5GY4/1
351	RA027	西側埋土	須恵器	壺	口	(12.0)	-	<2.6>	2.5GY2/1	N7/0
352	RA027	Pit4埋土	須恵器	袋物	体	-	-	-	N5/0	10GY4/1
356	RB001	P1	土師器	坏	体底	-	(5.2)	<1.0>	7.5YR5/6	7.5YR6/6
357	RB001	P9	土師器	坏	体底	-	(5.8)	<1.5>	10YR5/3･7.5YR7/6	7.5YR7/6
358	RB001	P4	土師器	坏	体底	-	(4.6)	<1.2>	7.5YR5/6	2.5GY2/1
359	RB001	P5	土師器	坏	口体	-	-	-	10YR6/3	5Y3/1

掲載番号	調整			胎土	備考	分類	図版	写真
	外面	内面	底面					
308	ハケメ	ハケメ	-	1～2㎜砂粒		ⅰ-	102	70
309	ヘラケズリ→ヘラナデ？	ハケメ	ヘラケズリ	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰa	103	71
310	ヘラケズリ→ハケメ	ハケメ	ヘラナデ	2～3㎜砂粒		ⅰ-	103	70
311	ハケメ	ハケメ	-	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰa	103	71
312	ハケメ	ハケメ	-	1～3㎜砂粒、金雲母	口：ヨコナデ	ⅰa	104	71
313	ナデ？	ハケメ	-	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰa	104	71
314	カキメ→ヘラケズリ	カキメ・ナデ？	-	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰa	104	71
315	回転ナデ→ヘラケズリ	回転ナデ	-	1～3㎜砂粒、RSC		ⅱb	104	71
316	→ヘラケズリ	回転ナデ、ヘラナデ	ナデ？	1～3㎜砂粒、RSC		ⅱ-	104	71
317	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～3㎜砂粒		ⅱb	104	72
318	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒	底部摩滅	Ba	104	72
319	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Bd	105	72
320	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ba	105	72
321	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ba	105	72
322	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			Ba	105	72
323	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ba	105	72
324	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			Ba	105	72
325	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～3㎜砂粒		Ba	105	72
326	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ba	105	72
327	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Be	105	72
328	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			Ba	105	72
329	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Be	105	72
330	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			Be	105	72
331	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ba	105	72
332	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Be	105	72
333	回転ナデ	回転ナデ	-		広口壺？	-	106	72
334	ナデ→ヘラケズリ・ヘラナデ	ハケメ→ヘラナデ	-	1～2㎜砂粒		-	106	72
343	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			Ⅰ Ba	106	73
344	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒	器面摩滅	Ⅰ Bd	106	73
345	回転ナデ？	回転ナデ?・ナデ？	-	2～3㎜砂粒	器面摩滅	Ⅰ	107	73
346	回転ナデ→ヘラナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		ⅱb	107	73
347	回転ナデ→ヘラケズリ	回転ナデ・ヘラナデ	-	2～3㎜砂粒		ⅱ-	107	73
348	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒、金雲母		ⅱb	107	73
349	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		a	107	73
350	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		-	107	73
351	回転ナデ	回転ナデ	-			-	107	73
352	回転ナデ	回転ナデ	-			-	107	73
356	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			Ⅰ-	108	74
357	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母、RSC		Ⅰ-	108	74
358	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り			Ⅱ-	108	74
359	回転ナデ	ミガキ	-	金雲母		Ⅱ-a	108	74

掲載番号	遺構名／出土地点	出土層位	種類	器種	部位	法量（cm）			色調	
						口径	底径	器高	外面	内面
360	RB001	P6	土師器	甕	体底	-	(8.6)	<1.7>	7.5YR4/6	7.5YR5/6
361	RB001	P6	土師器	甕	体底	-	(10.0)	<3.4>	10YR8/4	7.5YR8/6
362	RB001	P9	土師器	甕	体底	-	(9.3)	<2.6>	10YR7/3 ～ 7/4	10YR8/4
363	RB001	P10	土師器	甕	口体	-	-	-	10YR6/4･10YR5/2	10YR5/2･7.5YR5/6
364	RB001	P1	須恵器	坏	口体	-	-	-	2.5Y6/2	2.5Y6/2
365	RB001	P1	須恵器	坏	体底	-	-	<0.9>	7.5Y5/1	7.5Y5/1
366	RB001	P1	須恵器	坏	体底	-	-	<2.4>	N2/0	10Y4/1
367	RB001	P8	須恵器	坏	口体	-	-	<3.1>	7.5Y4/1	7.5Y5/1
368	RB001	P9	須恵器	坏	口体	-	-	<3.7>	N4/0	N4/0
369	RB001	P9	須恵器	坏	体底	-	-	<2.1>	5GY5/1	5GY5/1
370	RB001	P4	須恵器	壺	頸体	-	-	-	7.5GY3/1･5YR3/3	5GY3/1
371	RB001	P6	須恵器	壺	体	-	-	-	2.5GY3/1	5GY4/1
372	RD014	埋土	須恵器	坏	体底	-	-	<1.4>	7.5Y6/1	7.5Y6/1
373	RD014	埋土	須恵器	大甕	体	-	-	-	2.5Y6/2	2.5Y7/2
374	RD015	埋土	土師器	坏	口体	(13.0)	-	<3.7>	10YR8/4･5Y2/1	5Y2/1
375	RD015	埋土	土師器	坏	体底	-	(6.2)	<2.0>	7.5YR7/4	5Y2/1
376	RD015	埋土	須恵器	坏	口体	(14.0)	-	<4.2>	5Y6/1	5Y6/1
377	RD015	埋土	須恵器	甕	口頸	(22.2)	-	<9.4>	5Y6/1	5Y6/1
378	RD015	埋土	須恵器	壺	口体	-	-	-	N5/0･7.5YR4/1	5GY3/1
379	RD016	B 区中央トレンチ、RD018 埋土	土師器	甕	口体	(23.0)	-	<18.6>	7.5YR6/6	10YR6/6
380	RD018	埋土	土師器	坏	口底	(12.8)	5.6	4.2	7.5YR6/6	7.5YR6/6
381	RD018	23B 区中央トレンチ、23B 区検出面上、23B 区中央Ⅱ層（RD018 付近）、埋土	土師器	坏	口底	13.3	5.6	<4.7>	7.5YR7/6 ～ 8/6	7.5YR7/8
382	RD018	埋土	土師器	坏	体底	-	5.0	<1.8>	10YR8/4	7.5YR7/4
383	RD018	埋土	土師器	坏	体底	-	(6.2)	<1.7>	10YR6/3	10YR7/3
384	RD018	P2	土師器	高台付坏	体底	-	(6.9)	<2.7>	10YR6/4	10YR6/3 ～ 5/3
385	RD018	23B 区中央トレンチ、埋土	土師器	甕	口体	(24.8)	-	<18.5>	10YR8/4･10YR3/2･7.5YR5/6	5YR5/6･10YR8/3･7.5YR6/6
386	RD018	23B 区中央トレンチ、埋土	土師器	甕	体底	-	(13.6)	<10.1>	10YR6/4･10YR5/3	10YR7/3 ～ 6/3
387	RD018	埋土	土師器	甕	口体	-	-	-	7.5YR7/6･10YR7/4	7.5YR7/4 ～ 7/6
388	RD018	埋土、23B 区検出面上、23B 区中央トレンチ、23B 区中央Ⅱ層（RD018 付近）	土師器	甕	口体	(24.0)	-	<20.5>	7.5YR6/6 ～ 7/6	7.5YR6/6
434	RD024	埋土	土師器	坏	体底	-	(5.4)	<2.9>	5YR7/6	5YR6/8
435	RD024	埋土、RA024 カマド東ソデ内、24EF 区カクラン	土師器	甕	体底	-	(10.4)	<6.2>	10YR8/4 ～ 7/4	7.5YR7/6
436	RD024	埋土	土師器	甕	口	-	-	<9.0>	7.5YR8/6	7.5YR7/6
438	RD025	埋土	土師器	坏	口底	(13.0)	5.6	4.9	7.5YR7/6	7.5YR7/6
439	RD025	埋土	土師器	坏	口底	[13.9]	6.2	(4.1)	10YR7/6	10YR7/6
440	RD025	埋土	土師器	坏	完	14.8	5.6	5.0	10YR6/4	N2/0
441	RE006	埋土	土師器	甕	体底	-	-	<2.3>	5YR6/6	5YR7/8
442	RE006	P2	須恵器	坏	口体	-	-	<3.4>	5Y5/2	5Y5/2
443	RE006	P2	須恵器	大甕	体	-	-	-	N4/0	N5/0
444	RE007	床直（P4）	土師器	坏	底	-	4.8	<1.7>	5YR6/8	7.5YR7/8
445	RE007	北東埋土下部	土師器	坏	体底	-	5.4	<3.7>	10YR7/3	10YR7/4
446	RE007	南北ベルト埋土中層	土師器	坏	体底	-	(4.8)	<2.7>	2.5Y6/3	2.5GY2/1
447	RE007	埋土下部（P3）	土師器	甕	口体	(18.6)	-	<8.2>	7.5YR6/6	7.5YR6/6･10YR6/4
448	RE007	埋土下部（P1）、北東壁際埋土	土師器	甕	口	(13.8)	-	<6.0>	10YR7/4	10YR6/4
449	RE007	北東埋土上部、北東埋土下部	須恵器	坏	底	-	6.0	<1.2>	7.5Y5/1	2.5GY6/1
450	RE007	北東埋土下部	須恵器	甕類	口	-	-	<4.3>	N6/0･7.5Y6/3	2.5GY3/1
452	P127		土師器	甕	体底	-	(7.4)	<3.5>	10YR6/4	7.5YR7/6
453	P145		土師器	甕	体底	-	(10.2)	<2.8>	7.5YR3/3	10YR5/2
454	P145		土師器	甕	体底	-	(9.2)	<6.1>	7.5YR7/6･10YR7/6	7.5YR6/6･10YR7/6
456	P208		須恵器	坏	体底	-	(6.6)	<1.4>	5GY5/1	5GY5/1
474	23B 区	中央（RD018 付近）Ⅱ層	土師器	坏	口底	(12.3)	(5.6)	3.5	10YR5/4･7.5YR7/4	10YR5/4
475	23B 区	中央（RD018 付近）Ⅱ層	土師器	坏	口底	-	-	<3.9>	7.5YR5/6	7.5YR5/6･7.5YR3/1
476	24F 区	カクラン層、RA024 検出面	土師器	坏	口底	(13.4)	6.0	5.0	10YR8/4･5YR8/4	10YR7/6
477	24D 区	カクラン層	土師器	坏	底	-	5.0	<0.9>	10YR7/4	7.5YR6/4

掲載番号	調整			胎土	備考	分類	図版	写真
	外面	内面	底面					
360	-	ヘラナデ	木葉痕	1～2㎜砂粒		ⅰ-	108	74
361	ヘラケズリ	ヘラナデ・ヘラケズリ	ヘラナデ？	1～2㎜砂粒		ⅰ-	108	74
362	ヘラケズリ	ハケメ	ナデ？	1～2㎜砂粒		ⅰ-	108	74
363	回転ナデ	回転ナデ・ヘラナデ	-	金雲母、1～2㎜砂粒		ⅱc	108	74
364	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		a	108	74
365	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		-	108	74
366	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		-	108	74
367	回転ナデ	回転ナデ	-			d	108	74
368	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		e	108	74
369	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			-	108	74
370	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		-	108	74
371	タタキメ	アテグ	-	1～2㎜砂粒		-	108	74
372	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り			-	108	74
373	タタキメ	アテグ（平行）	-	RSC		-	108	74
374	回転ナデ	ミガキ	-			Ⅱ-e	108	74
375	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り（磨滅）		器面摩滅	ⅡB-	108	74
376	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		a	108	74
377	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒、RSC	頸部内面ユビ跡？	-	108	74
378	回転ナデ・カキメ	回転ナデ・カキメ	-	1～2㎜砂粒		-	109	74
379	回転ナデ	回転ナデ→ヘラナデ	-	2～3㎜砂粒、RSC	内面スス	ⅱa	109	75
380	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母		ⅠCa	109	75
381	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		ⅠCa	109	75
382	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒、RSC		Ⅰ-	109	75
383	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅰ-	109	75
384	回転ナデ	回転ナデ	?	金雲母		Ⅰ-	109	75
385	ヘラケズリ	ヘラナデ	-	3～5㎜砂粒	口：ヨコナデ	ⅰd	109	75
386	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラケズリ	3～5㎜砂粒		ⅰ-	109	75
387	回転ナデ	回転ナデ→ヘラナデ	-	2～3㎜砂粒、RSC		ⅱa	110	75
388	中：ヘラナデ、下：ヘラケズリ	ヘラナデ	-	1～2㎜砂粒、RSC	口：回転ナデ	ⅱc	110	75
434	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1㎜砂粒		ⅠB-	113	79
435	ヘラケズリ	ヘラナデ・ヘラケズリ？	ヘラナデ・ヘラケズリ	1～3㎜砂粒		ⅰ-	113	79
436	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒、RSC		ⅱb	114	79
438	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	-		ⅠCa	114	79
439	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜の砂粒		ⅠCe	114	79
440	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	金雲母		ⅡCa	114	79
441	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂底	1～3㎜砂粒		ⅰ-	114	79
442	回転ナデ	回転ナデ	-			d	114	79
443	タタキメ	アテグ	-	1～2㎜砂粒、RSC		-	114	79
444	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		Ⅰ-	114	79
445	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	RSC		ⅠC-	114	79
446	回転ナデ	ミガキ	回転糸切り	金雲母		ⅡB-	114	79
447	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		ⅱa	114	79
448	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		ⅱd	115	79
449	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		-	115	79
450	回転ナデ	回転ナデ	-			-	115	79
452	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラケズリ	1～2㎜砂粒		ⅰ-	115	79
453	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラナデ？	1～3㎜砂粒		ⅰ-	115	79
454	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラナデ	1～2㎜砂粒、RSC		ⅰ-	115	79
456	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		-	115	80
474	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母、RSC		ⅠCa	117	81
475	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母、RSC		ⅠBd	117	81
476	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	-		ⅠCd	117	81
477	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	金雲母	底部穿孔	Ⅰ-	117	81

掲載番号	遺構名／出土地点	出土層位	種類	器種	部位	法量（cm）			色調	
						口径	底径	器高	外面	内面
478	23B 区	中央トレンチ	土師器	坏	口体	-	-	-	2.5Y2/1	2.5Y2/1
479	23B 区	中央トレンチ	土師器	高台付坏	体底	-	(7.6)	<2.8>	7.5YR7/4	2.5GY3/1
480	23B 区	検出面上	土師器	甕	口体	-	-	-	10YR5/4･10YR6/6	10YR6/4
481	23B 区	中央トレンチ	土師器	甕	体底	-	(10.6)	<4.6>	7.5YR5/6	7.5YR5/6
482	23B 区	中央（RD018 付近）表土	土師器	甕	体底	-	(9.0)	<3.2>	7.5YR6/6	5YR7/8
483	24C 区	Ⅰ層	土師器	小甕	底	-	(6.0)	<1.5>	7.5YR6/4	7.5YR6/4
484	23B 区	北端カクラン	須恵器	坏	体底	-	6.6	<3.3>	2.5Y8/3	7.5YR6/6･5Y6/2
485	23C 区	表土	須恵器	坏	体底	-	6.1	<1.3>	7.5Y7/1	5Y7/2
486	24A 区西	砂礫層	須恵器	坏	口	(11.8)	-	<4.1>	5G2/1	5B7/1
487	24A 区西	砂層（RG013 下）	須恵器	坏	口	(13.2)	-	<4.5>	5B6/1	N6/0
488	24A 区西	砂礫層	須恵器	坏	底	-	(6.4)	<2.1>	7.5Y7/1	7.5Y7/1
489	24A 区西	砂層（西 RG013 下）	須恵器	甕	底	-	(11.6)	<4.5>	2.5GY6/1	5Y5/1
490	23C 区	旧駐車場部分表土	須恵器	大甕	体	-	-	-	7.5Y4/1	7.5Y4/1
491	23B 区	耕作痕（RA015 付近）	須恵器	壺	口	-	-	<1.6>	5Y3/2	5Y4/1
492	23B 区	検出面上	須恵器	壺	口	-	-	<1.5>	5GY2/1	5GY3/1
493	23C 区	南側Ⅱ層	須恵器	壺	頸体	-	-	-	5Y4/1 ～ 5/1	5Y5/1
494	23C 区	南側Ⅱ層	須恵器	壺？	体底	-	(7.6)	<2.3>	2.5Y7/2	5Y8/1
495	23D 区	表土	須恵器	壺	頸体	-	-	-	N5/0	N5/0

RSC：赤色スコリア

包含層 = Ⅱｂ層

検出面 = Ⅲａ層上面

第 10 表　土製品観察表

掲載番号	遺構名	出土層位	器種	法量（cm）			備考	図版	写真
				器長	器幅	器厚			
335	RA026	カマド南東埋土	不明	2.7	2.0	1.9	重量 9.44g	106	72

掲載番号	調整			胎土	備考	分類	図版	写真
	外面	内面	底面					
478	ミガキ	ミガキ	-			Ⅲ-a	117	81
479	回転ナデ	ミガキ	?	金雲母、RSC		Ⅱ-	117	81
480	ヘラナデ	ヘラナデ	-	1～2㎜砂粒	口：ヨコナデ、頸部に段	ⅰc	117	81
481	ヘラケズリ	ヘラナデ	?	1～2㎜砂粒、RSC		ⅰ-	117	81
482	ヘラケズリ	ヘラナデ	砂底	1～2㎜砂粒	器面摩滅	ⅰ-	117	81
483	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	-	底部穿孔	ⅱ-	117	81
484	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		B-	117	81
485	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		-	117	81
486	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒	器形歪み有	a	117	81
487	回転ナデ	回転ナデ	-	1～2㎜砂粒		d	117	81
488	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切り	1～2㎜砂粒		C-	117	81
489	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラナデ	1～2㎜砂粒		-	118	81
490	タタキメ	なし	-	1～2㎜砂粒		-	118	81
491	回転ナデ	回転ナデ	-			-	118	81
492	回転ナデ	回転ナデ	-			-	118	81
493	回転ナデ	回転ナデ	-			-	118	81
494	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ？			-	118	81
495	カキメ	カキメ	-	1～2㎜砂粒		-	118	81

第 11 表　金属製品観察表

掲載番号	遺構名／出土地点	層位	器種	法量（cm）			重量（g）	材質	備考	図版	写真
				器長	器幅	器厚					
20	RA003	南半埋土上層	鉄鏃	<8.6>	<4.0>	<0.6>	37.3	鉄	保存処理	76	54
55	RA012	床面（№13）	不明鉄製品（環状）	5.5	3.0	2.0	28.4	鉄	ほぼ完形品、保存処理	79	57
112	RA014	東側床面	鋤先	15.5	15.5	3.0	480.8	鉄	ほぼ完形品、保存処理	85	60
113	RA014	埋土	紡錘車	3.5	3.5	1.5	11.2	鉄	円盤部は残存、軸部は欠損、保存処理	85	60
194	RA020	南西埋土上層	刀子	<5.2>	<2.5>	<0.4>	12.2	鉄	保存処理	93	64
195	RA020	埋土下層	鉄塊	-	-	-	26.0	-		-	64
337	RA026	カマド 11 層（F2）	刀子	<13.1>	<1.9>	<0.8>	15.1	鉄	保存処理	106	73
338	RA026	P19 埋土（F1）	刀子	<6.2>	<1.6>	<0.5>	1.7	鉄	保存処理	106	73
339	RA026	P19 埋土（F1）	刀子	<2.9>	<1.0>	<0.4>	2.9	鉄	保存処理	106	73
340	RA026	南西埋土下部	刀子	<4.0>	<1.2>	<0.4>	3.7	鉄	保存処理	106	73
341	RA026	南西埋土下部	刀子	<3.4>	<1.2>	<0.9>	3.2	鉄		106	73
342	RA026	南西埋土上部	鉄塊	-	-	-	85.1	-		-	73
353	RA027	（F1）	刀子	<15.0>	<2.0>	<0.6>	14.2	鉄	保存処理	107	74
354	RA027	（F1）	刀子	<7.9>	<1.7>	<0.5>	8.5	鉄	353 と同一個体、保存処理	107	74
355	RA027	西埋土	刀子	<4.3>	<1.0>	<0.3>	1.2	鉄	保存処理	107	74
437	RD024	埋土最下層上面	刀子	<16.5>	1.7	0.5	7.8	鉄	保存処理	114	79
451	RG010	埋土（F1）	不明	<12.2>	<5.0>	<1.5>	11.6	鉄	保存処理	115	79
515	24C 区	撹乱	煙管	5.0	1.5	1.1	18.3	銅	雁首	119	82
516	24F 区	撹乱	煙管	5.0	1.5	0.9	5.2	銅	雁首	119	82
517	24MN 区	撹乱	簪	12.7	1.2	0.3	8.6	銅		-	82

【器長・器幅・器厚】　<　> は残存値を表す

第 12 表　銭貨観察表

掲載番号	遺構名／出土地点	層位	銭種	法量（mm）			重量（g）	備考	図版	写真
				器長	器幅	器厚				
390	RD019	埋土	寛永通寶（古寛永）	23.20	23.30	1.10	2.30		110	76
391	RD019	埋土	寛永通寶	21.60	21.55	0.95	1.20		110	76
392	RD019	埋土	寛永通寶	23.55	23.55	1.10	1.80		110	76
393	RD019	埋土	寛永通寶	23.25	23.30	1.05	2.10		110	76
394	RD019	埋土	寛永通寶	23.45	23.45	0.95	1.80		110	76
395	RD019	埋土	寛永通寶	24.05	24.10	1.10	2.00		110	76
396	RD019	埋土	寛永通寶	23.30	23.15	1.20	2.70		110	76
397	RD019	埋土	寛永通寶	23.20	23.25	1.05	1.90		110	76
398	RD019	埋土	寛永通寶	24.35	24.20	1.25	2.90		110	76
399	RD019	埋土	寛永通寶	22.70	22.85	1.25	2.30		111	76
400	RD019	埋土	寛永通寶	22.65	22.95	1.20	2.00		111	76
401	RD019	埋土	寛永通寶	22.95	22.90	1.25	2.10		111	76
402	RD019	埋土	寛永通寶	23.60	23.35	1.45	2.70		111	76
403	RD019	埋土	寛永通寶	23.25	<22.80>	0.95	1.50		111	76
404	RD019	埋土	寛永通寶	23.35	23.35	1.20	2.50		111	76
405	RD019	埋土	寛永通寶	<24.35>	<24.25>	1.40	1.90		111	76
406	RD019	埋土	寛永通寶	21.70	21.75	1.35	1.30		111	76
407	RD019	埋土	寛永通寶	(22.95)	22.15	1.55	2.00		111	76
408	RD019	埋土	寛永通寶	23.15	<22.45>	1.45	2.20		111	77
409	RD019	埋土	寛永通寶	22.10	21.90	1.15	1.00		111	77
410	RD019	埋土	寛永通寶	<21.30>	21.90	1.25	1.30		111	77
411	RD019	埋土	寛永通寶	22.70	23.05	1.35	1.50		111	77
412	RD019	埋土	寛永通寶	-	-	1.20	1.10		111	77
413	RD019	埋土	寛永通寶（四文）	28.40	28.30	1.40	4.90		111	77
414	RD019	埋土	寛永通寶（四文）	27.80	28.15	1.45	4.10		111	77
415	RD019	埋土	文久永寶	26.70	26.90	1.35	3.60		111	77
416	RD019	埋土	文久永寶	27.20	27.05	1.50	3.50		111	77
417	RD019	埋土	文久永寶	27.05	26.45	1.25	2.50		111	77
418	RD019	埋土	文久永寶	27.30	26.55	1.45	3.10		112	77
419	RD019	埋土	文久永寶	26.60	26.65	1.45	2.80		112	77
420	RD019	埋土	天保通寶	49.25	32.70	2.65	18.40		112	77
421	RD019	埋土	天保通寶	49.10	32.75	3.10	21.90		112	77
422	RD019	埋土	半銭	22.50	22.45	1.45	3.20		112	78
423	RD019	埋土	半銭	22.45	22.30	1.95	3.20		112	78
424	RD019	埋土	半銭	22.40	22.35	1.55	3.00		112	78
425	RD019	埋土	半銭	21.95	22.00	1.30	2.70		112	78
426	RD019	埋土	一銭	28.15	28.10	1.75	6.90	明治八	112	78
427	RD019	埋土	一銭	28.05	28.10	1.65	6.00	明治十五	112	78
428	RD019	埋土	一銭	27.90	27.80	1.65	5.60		112	78
429	RD019	埋土	二銭	31.50	31.55	2.40	12.60	明治十二	112	78
430	RD019	埋土	二銭	31.75	31.60	2.25	11.90		112	78
455	P159	埋土	寛永通寶（背文）	25.45	25.40	1.50	2.10		115	80
518	23E 区	撹乱	寛永通寶（古寛永）	24.35	24.20	1.65	4.10		120	83
519	23E 区	道路側撹乱	寛永通寶（古寛永）	23.00	23.05	1.45	2.30		120	83
520	23E 区	道路側撹乱	寛永通寶	22.90	22.70	1.45	2.50		120	83
521	23E 区	道路側撹乱	寛永通寶	23.30	23.30	1.05	2.00		120	83
522	23E 区	表土	寛永通寶	22.20	22.20	1.35	2.40		120	83
523	23E 区	撹乱	寛永通寶	23.90	23.85	1.45	3.10		120	83
524	23E 区	撹乱 13	寛永通寶	24.10	24.15	1.30	2.60		120	83
525	24I 区	カクラン	寛永通寶	24.00	<24.00>	1.20	1.73		120	83
526	24J 区	盛土層	寛永通寶	23.00	23.00	1.20	2.43		120	83
527	24M 区	表土～盛土層	寛永通寶？	23.50	23.50	1.50	1.95		120	83
528	24N 区	T6 盛土層	寛永通寶（四文）	28.00	28.05	1.45	4.08		120	83
529	23E 区	道路側撹乱	文久永寶	27.15	27.20	1.20	3.50		120	83
530	23E 区	道路側撹乱	文久永寶	27.35	27.25	1.45	4.00		120	83
531	23E 区	道路側撹乱	半銭	22.55	22.50	1.45	3.30		120	83
532	23E 区	表土	半銭	22.25	22.15	1.55	3.50		120	83
533	23D 区	撹乱	一銭	22.55	22.20	1.60	2.70	大正	120	83
534	23E 区	ゴミ穴	一銭	28.35	28.55	1.85	7.00		120	83

【器長・器幅・器厚】　<　> は推定値を表す

Ⅵ　ま　と　め

縄　文　時　代

今回の調査ではフラスコ形の土坑、溝状の陥し穴状遺構、土器、石器が確認された。フラスコ形の土坑は３基検出され、３基とも類似した堆積状況を呈している。下部は同質の褐色シルト層が厚く堆積し、短期間に埋没し、上部は人為的に埋め戻されている。この堆積状況は、本遺跡の主体である平安時代の土坑類には見られないもので、同様の堆積状況が確認できる遺構は、縄文時代に帰属する可能性が高い。溝状の陥し穴状遺構は南側の自然流路に面した23Ｅ区に集中している。長軸方向の規則性は見られないが、単独で存在する可能性が少ないことから、調査区の東側に広がる可能性が高い。

平　安　時　代

今回の調査で主体となる時代である。今回の調査で出土した遺構・遺物がほとんど当時代のものである。確認された遺構は竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、住居状遺構、遺物は土師器、須恵器、土製品、石器、金属製品である。

竪穴住居跡は18棟検出された。これらは床面積に着目すると、特大（40㎡以上）、大（20～30㎡）、中（10～20㎡）、小（10㎡以下）に分けられる。特大はＲＡ026の１棟が該当する。柱配置も明瞭で、竪穴部に４本の主柱穴が方形状に配置される（柱配置Ａ）。大はＲＡ012・020・021・023・024の５棟が該当する。柱配置が判明しているものは柱配置ＡとなるＲＡ024と竪穴部のほぼ中央に２本の主柱穴が配置される（柱配置Ｂ）ＲＡ023である。中はＲＡ003・004・019・027の４棟が該当する。柱穴が規則的に配置されるものは確認できない。小はＲＡ013・016～018・025の５棟が該当する。これらの竪穴部には柱穴が確認されていない。また、カマドの構築される位置に注目すると、西壁に構築されるもの、東壁に構築されるもの、北壁に構築されるものがある。西壁に構築されるものは、ＲＡ004・012・017・018・020・023・025・026の８棟が該当し、ＲＡ023が北寄りに構築される以外はほぼ中央部に構築される。東壁に構築されるものは、ＲＡ003カマド１・ＲＡ003カマド２・ＲＡ013カマド１・ＲＡ016・019・ＲＡ021カマド１・ＲＡ027の６（７）棟が該当し、ＲＡ003カマド２・ＲＡ013カマド１・ＲＡ019・027が北寄り、ＲＡ003カマド１・ＲＡ016が南寄り、ＲＡ021カマド１が中央部に構築される。北壁に構築されるものは、ＲＡ013カマド・ＲＡ021カマド２・ＲＡ024の３棟が該当する。ＲＡ021が東寄りで、他２棟は中央に構築される。

これらの竪穴住居跡はカマドの位置に着目すると、大きく２つのグループに分けられる。一つは西壁にカマドを構築する一群で、もう一つは東壁にカマドを構築する一群である。前者をⅠ群、後者をⅡ群とする。Ⅱ群にはさらに北寄りのもの、南寄りのもの、中央のものとあり、Ⅱａ、Ⅱｂ、Ⅱｃ群とする。これらの変遷はⅠ群のＲＡ017とⅡｂ群のＲＡ016、Ⅱａ・Ⅱｂ群のＲＡ003の新旧関係から想定することが可能である。遺構の形態上では、同規模（床面積中または小）で東壁の北寄りにカマドを構築する「Ⅱａ群」や南寄りにカマドを構築する「Ⅱｂ群」から多様な規模ながら西壁中央にカマドを構築する「Ⅰ群」へと移っていったものと考えられる。北壁にカマドを構築する一群は同一住居内の作り替えによるもので、「Ⅱ群」と同時期に存在していた可能性が高い。

掘立柱建物跡は３棟検出された。調査区の南北両端で確認された自然流路を集落の南端・北端と捉えると、３棟の内２棟はほぼ中央に構築されており、その位置関係は直交する関係にある。遺跡内では、標高が高く、遺構の密度が希薄な区域に配置されている。また、ＲＢ 001 は土坑状の大規模な掘り方を有する掘立柱建物であり、本集落の特徴的な遺構であることが想定されるが、調査区域が部分的であるため、その詳細な検討が周辺の調査を待って検討したい。

土坑は 11 基検出された。平面形が円形、楕円形、方形、不整形など様々な形態のものがあるが、遺構の機能を推測可能な遺構はＲＤ 024 とＲＤ 025 の２基のみである。この２基は円形プランのもので、竪穴住居跡に重複もしくは隣接して構築されている。他の土坑と異なり、一定量の土器が出土しており、住居脇に構築された貯蔵穴の可能性が高いと考えられる。

住居状遺構は１棟検出された。カマドが構築されていないため、住居状としたが、規模や構造は竪穴住居跡と類似している。出土遺物から竪穴住居跡と同時期と捉えている。

今回出土した遺物の大半は平安時代を中心とする土師器・須恵器である。これらの土器は竪穴住居跡に伴って出土したものであり、本遺跡の特徴を示しているものと考えられる。出土した器種は土師器坏、土師器高台付坏、土師器皿（耳皿）、土師器鉢、土師器甕、土師器羽釜、須恵器坏、須恵器甕、須恵器壺等である。これらの土器は全体的な特徴から 10 世紀、とりわけ 10 世紀前半に比定されるものが多い。そのため、大きな時間差はないものと考えられるが、本遺跡の特徴を抽出するために、出土遺物の中心となる竪穴住居跡出土の土器について概観する。それぞれの土器の分類は第Ⅳ章を参照して頂きたい。

＜ＲＡ 003 ＞土師器坏Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類、土師器甕ⅰ類・ⅱ類、須恵器甕、須恵器壺で構成される。土師器坏Ⅰ類が主体を占め、器形Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄがある。土師器坏Ⅱ類は器形Ｂ、土師器坏Ⅲ類は器形Ｂがある。土師器坏Ⅰ類以外は少ない。

＜ＲＡ 004 ＞土師器坏Ⅰ類、土師器甕ⅰ類・ⅱ類、須恵器坏、須恵器甕、須恵器壺で構成され、土師器甕ⅰ類が主体を占める。土師器坏は器形Ｃを少量組成するにすぎない。

＜ＲＡ 012 ＞土師器坏Ⅰ類・Ⅱ類、土師器甕ⅰ類・ⅱ類、須恵器坏、須恵器甕で構成され、土師器坏Ⅱ類と土師器甕ⅰ類が主体を占める。土師器坏Ⅰ類は器形Ｃ、土師器坏Ⅱ類は器形Ｂ、須恵器坏は器形Ｂがある。

＜ＲＡ 013 ＞土師器坏Ⅰ類・Ⅱ類、土師器甕ⅰ類・ⅱ類、須恵器坏、須恵器甕で構成され、土師器甕ⅰ類、土師器甕ⅱ類、土師器坏Ⅱ類の順に多い。土師器坏Ⅱ類は器形Ｂ、須恵器坏は器形Ａ・Ｂがある。土師器坏Ⅰ類の器形は不明である。

＜ＲＡ 014 ＞土師器坏Ⅰ類･Ⅱ類･Ⅲ類、土師器高台付坏Ⅰ類･Ⅱ類、土師器鉢Ⅰ類、土師器甕ⅰ類･ⅱ類、須恵器坏、須恵器甕、須恵器壺で構成され、土師器坏Ⅰ類と土師器甕ⅱ類が主体を占める。土師器坏Ⅰ類は器形Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ、土師器坏Ⅱ類は器形Ｃ、土師器坏Ⅲ類は器形Ｂ、土師器高台付坏Ⅰ類は器形Ｃ、土師器高台付坏は器形Ｂがある。他の竪穴住居跡と異なり、器種が豊富であり、土師器高台付坏や土師器鉢を組成する特徴がある。

＜ＲＡ 015 ＞土師器坏Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類、土師器甕ⅰ類・ⅱ類、須恵器坏、須恵器甕で構成され、須恵器坏が主体を占める。土師器坏Ⅰ類は器形Ｂ・Ｃ、土師器坏Ⅲ類は器形Ｂ、須恵器坏は器形Ｂ・Ｃがある。

＜ＲＡ 016 ＞土師器坏Ⅰ類・Ⅲ類、土師器高台付坏Ⅰ類、土師器甕ⅰ類・ⅱ類、須恵器甕で構成される。全体的に遺物量が少ないが、土師器甕ⅰ類が比較的多い。土師器坏Ⅰ類は器形Ａ･Ｃがある。

＜ＲＡ 017 ＞土師器坏Ⅰ類･Ⅱ類､土師器甕ⅱ類､須恵器坏で構成される。全体的に遺物量が少ない。土師器坏Ⅰ類は器形Ａ、土師器坏Ⅱ類は器形Ｂ、須恵器坏は器形Ｂがある。

＜ＲＡ 018 ＞土師器坏Ⅰ類・Ⅱ類、土師器甕ⅰ類・ⅱ類、須恵器坏、須恵器甕で構成される。全体的に遺物量が少ない。土師器坏Ⅰ類は器形Ｂ､土師器坏Ⅱ類は器形Ｂ･Ｃ､須恵器坏は器形Ｂがある。

＜ＲＡ 019 ＞土師器坏Ⅰ類・Ⅱ類、須恵器坏で構成される。遺物量が少ないが、相対的に土師器坏Ⅰ類が多い。土師器坏Ⅰ類は器形Ｂ、土師器坏Ⅱ類は器形Ｂがある。

＜ＲＡ 020 ＞土師器坏Ⅱ類、土師器甕ⅰ類・ⅱ類、須恵器坏、須恵器甕、須恵器壺で構成され、須恵器坏が主体を占める。土師器坏は器形Ｂ・Ｄ、須恵器坏は器形Ｂがある。

＜ＲＡ 021 ＞土師器坏Ⅰ類・Ⅱ類、土師器高台付坏Ⅰ類・Ⅱ類、土師器皿、土師器甕ⅰ類・ⅱ類、須恵器甕、須恵器壺で構成され、土師器坏Ⅰ類、土師器甕ⅱ類の割合が多い。土師器坏Ⅰ類は器形Ａ･Ｂ・Ｃ・Ｄ、土師器坏Ⅱ類は器形Ｂ・Ｄ、土師器高台付坏Ⅰ類・Ⅱ類は器形Ｂがある。

＜ＲＡ 022 ＞土師器坏Ⅱ類で構成されるが、遺物量が圧倒的に少ない。器形Ｂがある。

＜ＲＡ 023 ＞土師器坏Ⅰ類･Ⅱ類､土師器高台付坏Ⅰ類､土師器甕ⅰ類･ⅱ類､土師器羽釜､須恵器坏、須恵器甕で構成され、土師器甕ⅰ類が主体を占める。土師器坏Ⅰ類は器形Ｃ、土師器坏Ⅱ類は器形Ｂ、土師器高台付坏は器形Ａがある。

＜ＲＡ 024 ＞土師器坏Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類、土師器鉢Ⅱ類、土師器甕ⅰ類で構成され、土師器坏Ⅰ類が主体を占める。土師器坏Ⅰ類は器形Ｂ・Ｃ・Ｄ、土師器坏Ⅱ類は器形Ｂ・Ｃ、土師器坏Ⅲ類は器形Ｃがある。

＜ＲＡ 026 ＞土師器坏Ⅰ類･Ⅱ類･Ⅲ類、土師器高台付坏Ⅱ類、土師器鉢Ⅱ類、土師器甕ⅰ類･ⅱ類、須恵器坏で構成され、須恵器坏、土師器甕ⅰ類の順に多い。土師器坏Ⅰ類・Ⅲ類、土師器高台付坏Ⅱ類、須恵器坏とも器形はＢのみである。

＜ＲＡ 027 ＞土師器坏Ⅰ類、土師器鉢Ⅰ類、土師器甕ⅱ類、須恵器坏、須恵器壺で構成される。土師器坏Ⅰ類や土師器甕ⅱ類の割合が高いが､全体的に遺物量が少ない｡土師器坏Ⅰ類は器形Ｂがある。

竪穴住居跡毎の器種組成から、少なくとも以下の３つのグループに分けることが可能である。

＜第１グループ＞土師器坏Ⅰ類、土師器坏Ⅱ類、土師器坏Ⅲ類、土師器高台付坏Ⅰ類、土師器高台付坏Ⅱ類、土師器鉢、土師器甕ⅰ類、土師器甕ⅱ類、須恵器甕、須恵器壺で構成される。ＲＡ 003・014・016・021・024 が該当する。土師器坏Ⅰ類の器形はＣ類を主体とし、Ａ類・Ｂ類・Ｄ類・Ｅ類と多様なものが存在する。このことが一つの特徴となっている。また、ＲＡ 014 で１点須恵器坏が組成するが、他の遺構では須恵器坏が組成しておらず、このことも特徴の一つとしてあげられる。組成の主体は土師器坏Ⅰ類で、その他の坏類の組成比はわずかである。土師器高台付坏を組成する遺構としない遺構が存在し、細分可能である。

＜第２グループ＞土師器坏Ⅰ類、土師器坏Ⅱ類、土師器甕ⅰ類、土師器甕ⅱ類、須恵器坏、須恵器甕で構成される。ＲＡ 012・013・023 が該当する。組成の主体は土師器坏Ⅱ類と土師器甕ⅰ類・ⅱ類で、その他の器種はあまり多く組成しない。土師器坏の器形はＢ類を主体とし、Ｃ類をわずかに含む。器形Ａ類・Ｄ類・Ｅ類は含まれないようである。須恵器坏でも器形はＢ類が主体となっている。土師器では確認できない器形Ａ類が含まれる。ＲＡ 023 のように高台付坏を組成するものも見られる。

＜第３グループ＞土師器坏Ⅰ類、土師器坏Ⅱ類、土師器坏Ⅲ類、土師器甕ⅰ類、土師器甕ⅱ類、須恵器坏、須恵器甕、須恵器壺で構成される。ＲＡ 015・018・020・026 が該当する。須恵器坏が組成

の主体となることが大きな特徴である。坏の器形は、須恵器でも土師器でもＢ類が圧倒的に多数を占めており、Ｃ類・Ｄ類がわずかに含まれる程度である。器形Ａ類は含まれないようである。ＲＡ 026のように高台付坏を組成する遺構も見られる。

上記の他にＲＡ 004・017・019・022・025・027があるが、共通する要素を見いだせなかった。

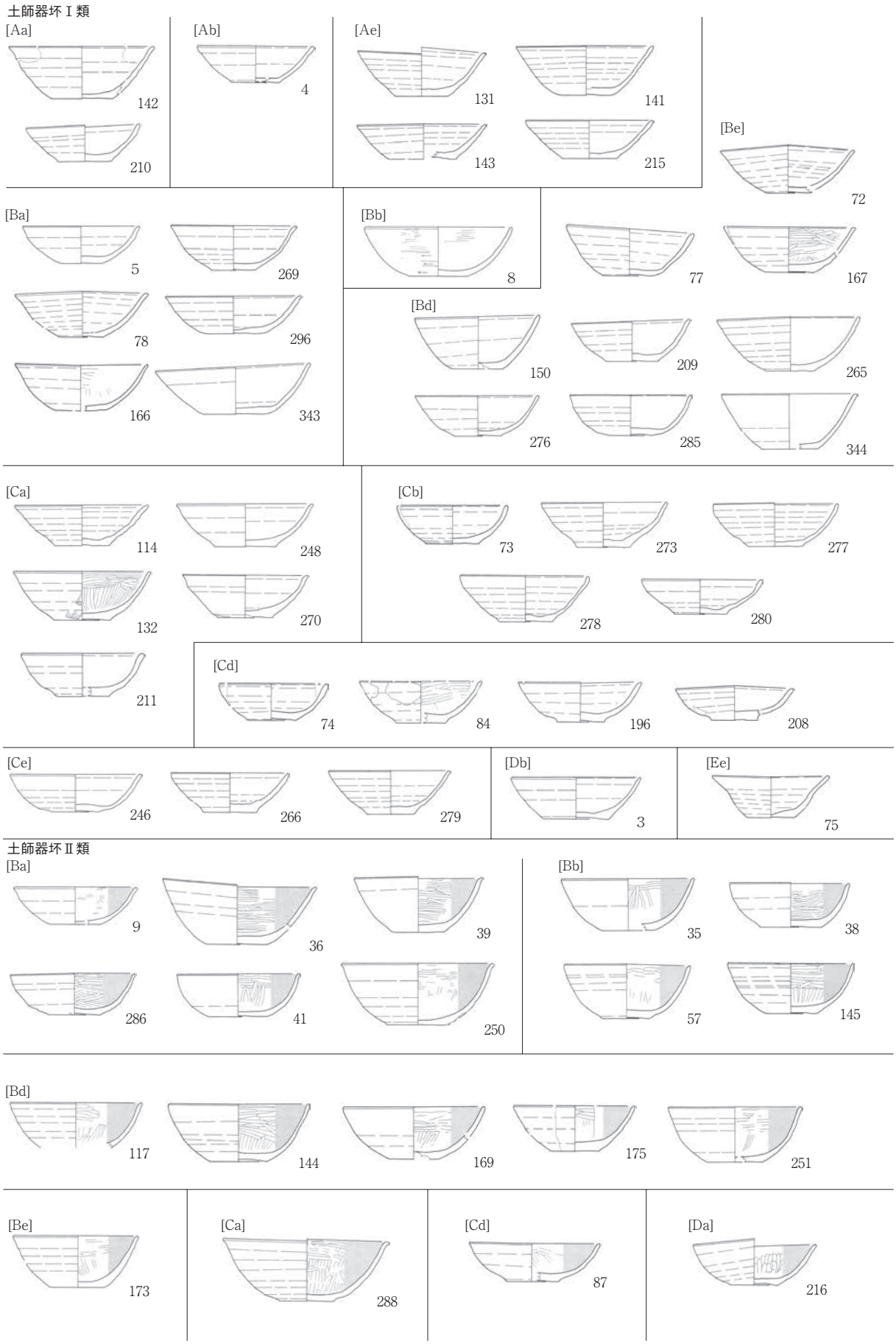
土器組成の傾向から３つのグループに分けたが、第１グループの遺構は竪穴住居跡の形態から分類した「Ⅱ群」のみで、第２グループは「Ⅰ群」と「Ⅱ群」で、第３グループは「Ⅰ群」のみで構成される。このことから、今回の調査区の大きな傾向として、多様な器形を有する土師器坏Ⅰ類を組成する第１グループの「Ⅱ群」の竪穴住居跡から須恵器坏を主体とし、坏の器形Ａ類を組成しない第３グループの「Ⅰ群」の竪穴住居跡への変遷が想定される。

中　　世

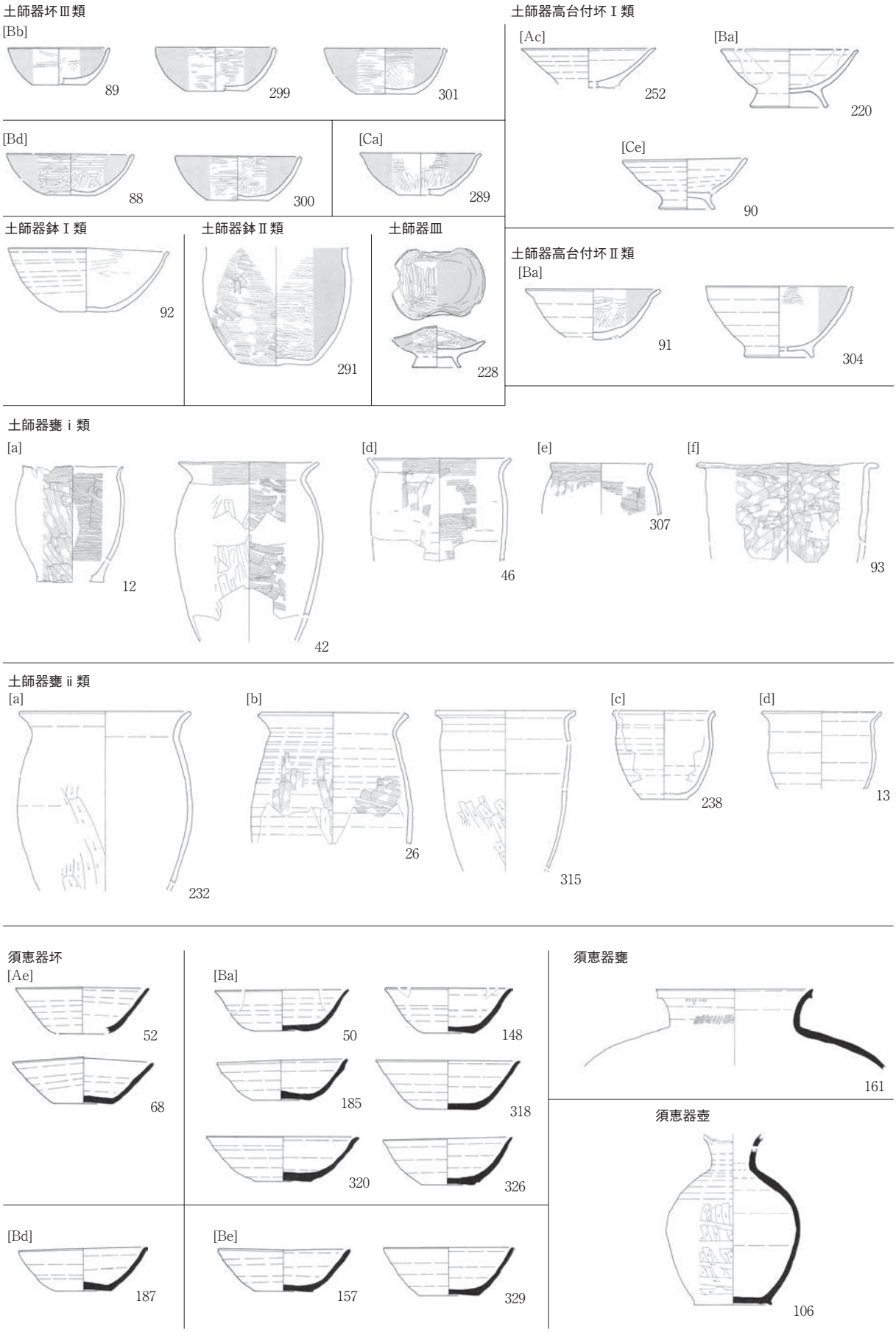
中世に帰属する可能性のある遺構はＲＥ 006竪穴建物跡１棟である。遺構の形態的特徴から当該時代に帰属する可能性が高いが、遺物が伴わないため、詳細な時期は不明である。竪穴建物跡が単独で存在するとは考えにくく、調査区周辺に中世期の遺構が分布するエリアが存在するものと考えられる。

総　　括

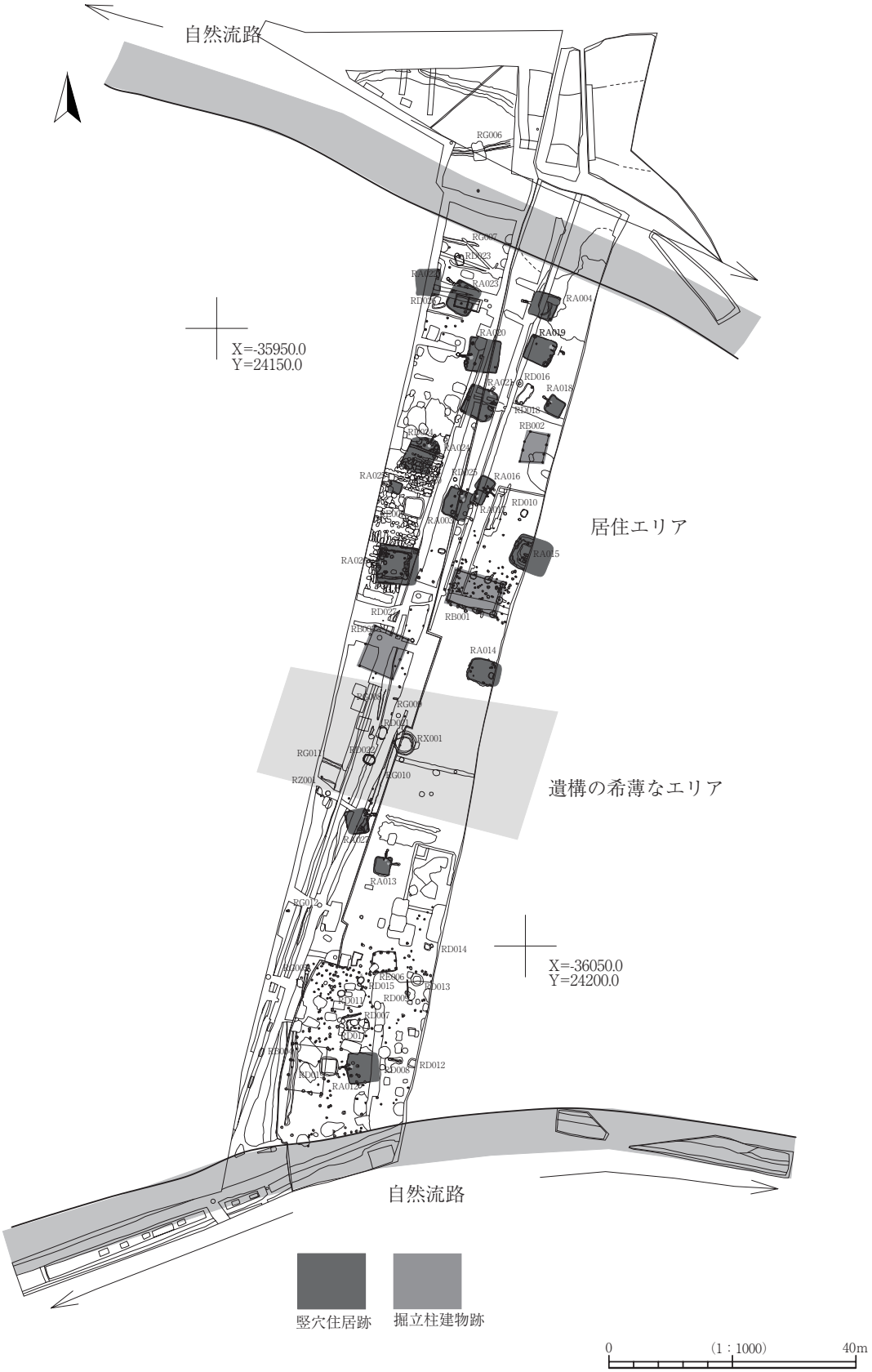
平成22年度までに行われた10度にわたる発掘調査の結果、平安時代の集落跡であることが判明していたが、今回の調査で、平安時代の他、縄文時代、中世、近世と断続的に利用されてきた場所であることが判明した。約49,000㎡の遺跡範囲のうち、今回の調査範囲は6,290㎡で、全体の13％弱に当たる。各時代の様相を解明するためには、更なる調査を待たねばならないが、判明したことを列挙すると次のようになる。①縄文時代には集落として利用された時期と罠猟の場として利用された時期がある。前者は、出土遺物から縄文時代晩期中葉の可能性が高い。今回の調査では居住域は確認できなかったが、隣接する場所に存在するものと考えられる。後者は、遺物が伴わないため、詳細な時期は特定できないが、遺構の形態から中期以降と考えられる。②平安時代は自然流路に挟まれた東西方向に長い微高地に集落が営まれた。微高地中央の標高が高い部分では竪穴住居跡が希薄で、北側の緩斜面に分布が集中している。出土遺物から10世紀前半と考えられる。



第 121 図　土器集成図（1）



第 122 図　土器集成図（2）



第 123 図　平安時代の遺構配置

引用・参考文献（編著者姓の五十音順）

（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書は岩文埋報第〇集と表記している）
赤羽一郎　1987 「常滑」『日本やきもの集成２　東海甲信越』新装版第一刷　平凡社
伊藤博幸　1998 「北上盆地南部」『東北地方の古代集落』第３分冊　第 24 回古代城柵官衙遺跡検討会シンポジウム資料集
井上喜久男　1987 「瀬戸の中世窯」『日本やきもの集成３　瀬戸美濃飛騨』新装版第一刷　平凡社
井上雅孝　1997 「陸奥における 10・11 世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第７号
岩手県立博物館　1982 『岩手の土器』
大川　清・鈴木公雄・工楽善道編　1996 『日本土器事典』雄山閣出版
（公財）岩手県文化振興事業団
2012 『細谷地遺跡第 26 次発掘調査報告書』岩文埋報第 595 集
（財）岩手県文化振興事業団
2006 『本宮熊堂Ａ遺跡第 24 次・本宮熊堂Ｂ遺跡第 25 次発掘調査報告書』岩文埋報第 470 集
2007 『向中野館遺跡第５・６次発掘調査報告書』岩文埋報第 503 集
鈴木道之助　1990 『石器入門事典　縄文』柏書房
永井久美男　1996 『日本出土銭総覧』1996 年版　兵庫埋蔵銭調査会
楢崎彰一　1990 『日本の陶磁古代中世篇５　越前珠洲』中央公論社
野上建紀　2000 「磁器の編年」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
林　謙作　1965 「東北地方」『日本の考古学Ⅱ』河出書房新社
盛岡市教育委員会　2005 『盛岡市内遺跡群－平成 15 年度・平成 16 年度発掘調査概要』
2011 『盛岡市内遺跡群－平成 20・21 年度発掘調査報告書－』
八木光則ほか　1998 「馬淵川流域」『東北地方の古代集落』第１分冊　第 24 回古代城柵官衙遺跡検討会シンポジウム資料集

附編　二又遺跡の自然科学分析

放射性炭素年代測定１（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

二又遺跡は、岩手県盛岡市下飯岡１地割 55-1（北緯 39° 40′ 29″、東経 141° 06′ 53″付近）に所在し、雫石川南岸の沖積地上に立地する。測定対象試料は、RA014 竪穴住居跡床面上出土炭化物（試料№.1［RA014 炭№.4］：IAAA-111858）、RA018 竪穴住居跡カマド燃焼部上出土炭化物（試料№.2：IAAA-111859）、RA021 竪穴住居跡床面上出土炭化物（試料№.3［RA021 炭№.20］：IAAA-111860）の合計３点である（附表 1）。焼失住居跡と見なされている RA014、RA021 竪穴住居跡からは炭化材が多く出土しており、試料№.1、3 も柱材の破片と捉えられる。試料２は柱材の小破片と考えられている。

2　測定の意義

遺跡内に位置する複数の住居跡の前後関係および集落の継続期間を明らかにする。

3　化学処理工程

（1）　メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
（2）　酸 - アルカリ - 酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と附表１に記載する。
（3）　試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。
（4）　真空ラインで二酸化炭素を精製する。
（5）　精製した二酸化炭素を鉄の触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
（6）　グラファイトを内径 1㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測　定　方　法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５　算　出　方　法

（１）　δ 13C は、試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（附表1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）　^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は δ ^{13}C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を附表１に、補正していない値を参考値として附表２に示した。^{14}C 年代と誤差は、下１桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

（３）　pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も δ ^{13}C によって補正する必要があるため、補正した値を附表１に、補正していない値を参考値として附表２に示した。

（４）　暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（1 σ =68.2%）あるいは２標準偏差（2 σ =95.4%）で表示される。グラフの縦軸が 14C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ ^{13}C 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09 データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として附表２に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

６　測　定　結　果

炭化物の ^{14}C 年代は、RA014 竪穴住居跡床面上出土の試料№.１が 1150 ± 20yrBP、RA018 竪穴住居跡カマド燃焼部上出土の試料№.２が 1270 ± 20yrBP、RA021 竪穴住居跡床面上出土の試料№.３が 1160 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、試料№.１が 830 ～ 962cal AD、試料№.２が 688 ～ 770cal AD、試料№.３が 783 ～ 938cal AD の間に各々複数の範囲で示される。

試料の炭素含有率はすべて 60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

附表１

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C（‰）（AMS）	δ 13C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC（%）
IAAA-111858	№1	RA014 竪穴住居跡 床面上	炭化物	AAA	-25.31 ± 0.31	1,150 ± 20	86.64 ± 0.23
IAAA-111859	№2	RA018 竪穴住居跡 カマド燃焼部上	炭化物	AAA	-26.07 ± 0.38	1,270 ± 20	85.36 ± 0.23
IAAA-111860	№3	RA021 竪穴住居跡 床面上	炭化物	AAA	-27.00 ± 0.48	1,160 ± 20	86.51 ± 0.25

［#4737］

附表２

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用（yrBP）	1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
	Age （yrBP）	pMC （%）			
IAAA-111858	1,160 ± 20	86.58 ± 0.23	1,152 ± 21	830calAD - 837calAD（ 3.2%） 868calAD - 900calAD（29.5%） 918calAD - 962calAD（35.5%）	780calAD - 792calAD（ 3.4%） 805calAD - 905calAD（52.4%） 912calAD - 970calAD（39.6%）
IAAA-111859	1,290 ± 20	85.17 ± 0.22	1,272 ± 22	688calAD - 722calAD（37.2%） 741calAD - 770calAD（31.0%）	675calAD - 776calAD（95.4%）
IAAA-111860	1,200 ± 20	86.15 ± 0.23	1,164 ± 23	783calAD - 788calAD（ 3.7%） 813calAD - 844calAD（21.4%） 858calAD - 896calAD（34.4%） 925calAD - 938calAD（ 8.7%）	778calAD - 900calAD（77.1%） 918calAD - 963calAD（18.3%）

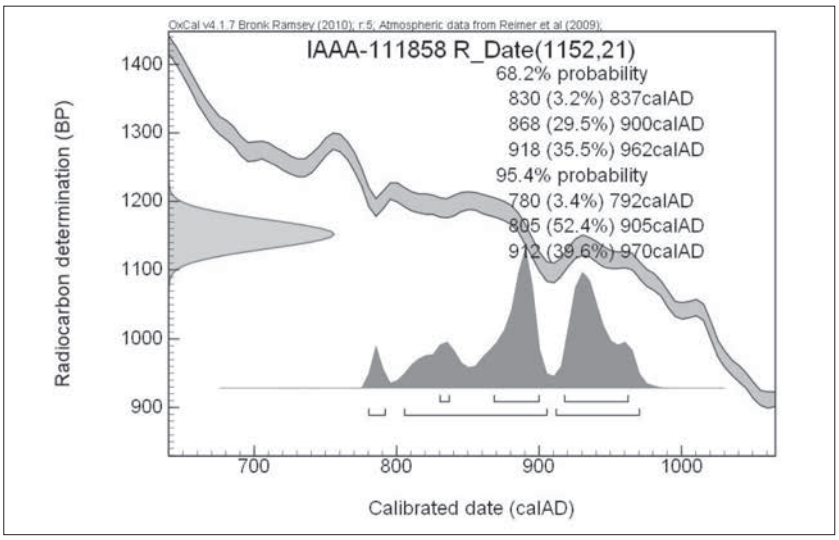
［参考値］

文献

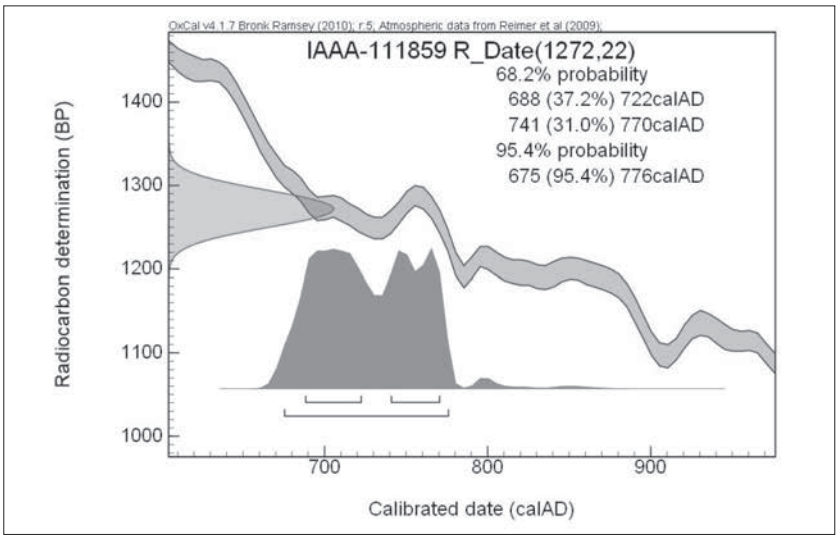
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion：Reporting of 14C data, Radiocarbon 19（3）, 355-363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51（1）, 337-360

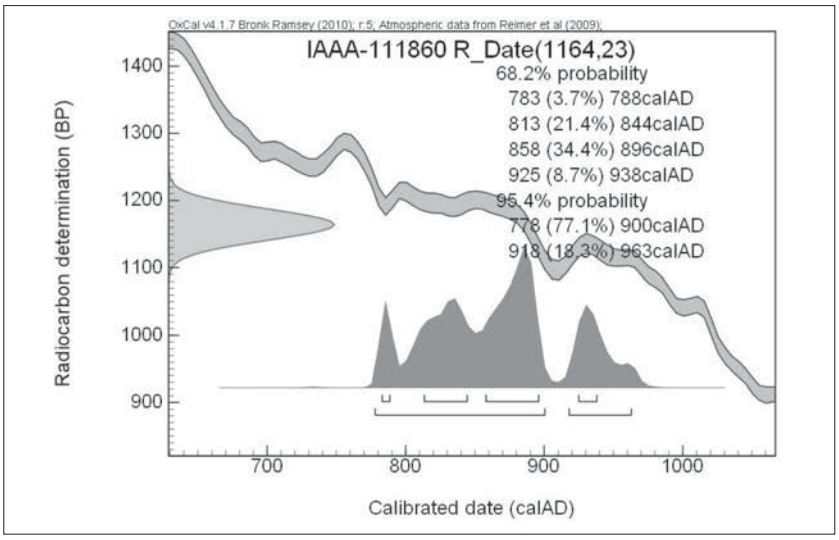
Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51（4）, 1111-1150



試料No. 1



試料No. 2



試料No. 3

放射性炭素年代測定２（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

二又遺跡（第 12 次調査）は、岩手県盛岡市下飯岡 1 地割 55-1（北緯 39° 40′ 31″、東経 141° 06′ 54″付近）に所在し、雫石川南岸の沖積地に立地する。測定対象試料は、RD021 埋土下部出土炭化物（試料№ 1：IAAA-122823）、RD027 埋土上部出土炭化物（試料№ 2：IAAA-122824）の合計 2 点である（附表 3）。炭化物はもろく、調査現場では土壌ごと採取されたが、測定に用いたのは炭化物である。

土坑 RD021 では、埋土下部から炭化物№ 1 が採取され、埋土上部からは粗製の縄文土器が出土した。同じ調査区からは縄文時代晩期の土器片が出土している。土坑 RD027 では、埋土上部から炭化物№ 2 が採取された。他に出土遺物はなく、遺構の時期は不明である。

2　測定の意義

遺構の帰属する年代を判断する資料とする。

3　化学処理工程、4　測定方法、5　算出方法は放射性炭素年代測定 1 を参照して頂きたい。

6　測定結果

試料の ^{14}C 年代は、RD021 埋土下部出土炭化物№ 1 が 2970 ± 30yrBP、RD027 埋土上部出土炭化物№ 2 が 1280 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、№ 1 が 1259 ～ 1130calBC、№ 2 が 681 ～ 770calAD の間に各々複数の範囲で示される。№ 1 は縄文時代晩期前葉頃に相当し（小林編 2008）、№ 2 は古代頃に当たる年代値となっている。

試料の炭素含有率はいずれも 50%を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

附表３

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C（‰）（AMS）	δ ^{13}C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC（%）
IAAA-122823	№ 1	RD021 フラスコ状土坑埋土下部	炭化物	AAA	-25.33 ± 0.41	2,970 ± 30	69.12 ± 0.23
IAAA-122824	№ 2	RD027 土坑埋土上部	炭化物	AAA	-27.66 ± 0.39	1,280 ± 20	85.25 ± 0.26

［#4737］

附表４

測定番号	δ ¹³C 補正なし		暦年較正用（yrBP）	１σ暦年代範囲	２σ暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-122823	2,970 ± 30	69.07 ± 0.22	2,966 ± 26	1259calBC - 1231calBC（19.0%） 1219calBC - 1188calBC（21.6%） 1181calBC - 1155calBC（16.8%） 1146calBC - 1130calBC（10.8%）	1301calBC - 1113calBC（94.7%） 1098calBC - 1089calBC（ 0.7%）
IAAA-122824	1,330 ± 20	84.79 ± 0.25	1,281 ± 24	681calAD - 720calAD（39.3%）	670calAD - 775calAD（95.4%）

［参考値］

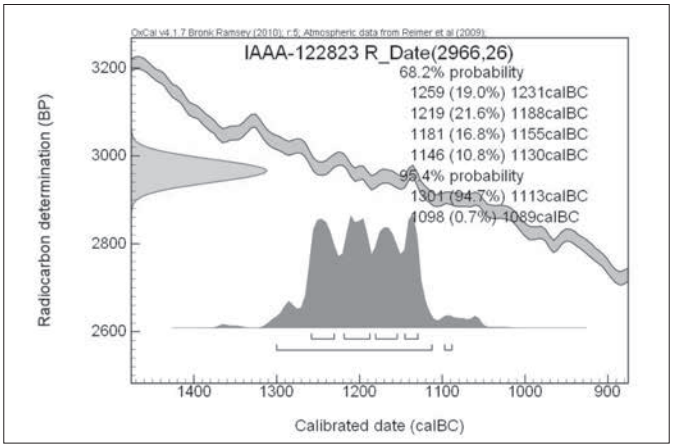
文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51（1）, 337-360

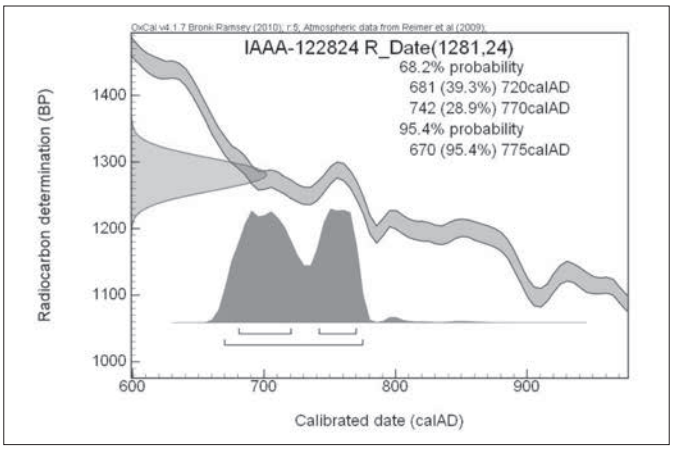
小林達雄編 2008 総覧縄文土器 , 総覧縄文土器刊行委員会 , アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51（4）, 1111-1150

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion：Reporting of 14C data, Radiocarbon 19（3）, 355-363



試料No. 1



試料No. 2

［参考］暦年較正年代グラフ

火 山 灰 分 析

火山灰考古学研究所

1　は　じ　め　に

東北地方岩手県盛岡市とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層や土壌の中には、岩手山、秋田駒ヶ岳、十和田など東北地方の火山のほか、洞爺、浅間、御岳、三瓶、阿蘇、姶良、鬼界など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物（さいせつぶつ）, いわゆる火山灰）が数多く認められる（Arai et al., 1986, 町田・新井 ,1992,2003 など）。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、テフラ層またはテフラ粒子を多く含む可能性のある堆積物が認められた盛岡市二又遺跡でも、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、テフラ検出分析、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析、火山ガラスの屈折率測定を実施して、その起源を明らかにすることになった。

分析の対象となった試料は、試料 1（RA015 埋土上位）および試料 2（23A 区旧河道埋土）の 2 点である。

2　テフラ検出分析

（1）分析試料と分析方法

試料 1（RA015 埋土上位）および試料 2（23A 区旧河道埋土）を対象として、テフラ粒子の量や特徴を定性的に求めるテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

1）2 試料について純度が高い部分から各々 6g を秤量。
2）超音波洗浄により泥分を除去。
3）80゜C で恒温乾燥。
4）実体顕微鏡下でテフラ粒子の相対的な量や特徴を観察。

（2）分　析　結　果

テフラ検出分析の結果を附表 5 に示す。いずれの試料からも、軽石やスコリアは検出されなかった。試料 1（RA015 埋土上位）には、軽石型、分厚い中間型、平板状のいわゆるバブル型の火山ガラスが多く含まれている。軽石型には白色や無色透明、中間型には無色透明や褐色、バブル型には無色透明のものが多い。火山ガラスの最大径は 1.5㎜である。試料 2（23A 区旧河道埋土）にも、軽石型、分厚い中間型、平板状のいわゆるバブル型の火山ガラスが比較的多く含まれている。軽石型には白色や無色透明、中間型には無色透明や褐色、バブル型には無色透明のものが多い。火山ガラスの最大径は 1.8㎜である。

３　テフラ組成分析（火山ガラス比分析・重鉱物組成分析）

（１）分析試料と分析方法

試料１（RA015 埋土上位）および試料２（23A 区旧河道埋土）について、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を行い、火山ガラスの色調形態別含有率や、重鉱物組成を定量的に求めた。分析の手順は次の通りである。

１）テフラ検出分析済みの試料について、分析篩を用いて 1/4 ～ 1/8㎜と 1/8 ～ 1/16㎜の粒子を篩別。

２）偏光顕微鏡下で 1/4 ～ 1/8㎜粒径の 250 粒子を観察し、火山ガラスの色調形態別含有率を求める（火山ガラス比分析）。合わせて軽鉱物と重鉱物の含有率についても明らかにする。

３）偏光顕微鏡下で 1/4 ～ 1/8㎜粒径の重鉱物 250 粒子を観察し、重鉱物組成を求める（重鉱物組成分析）。

（２）分　析　結　果

テフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして附図１に、火山ガラス比と重鉱物組成の内訳を附表６と附表７に示す。試料１（RA015 埋土上位）では、火山ガラスが 40.0%を占める。含まれる火山ガラスは、多い順に繊維束状軽石型（25.2%）、スポンジ状軽石型（8.4%）、中間型（4.0%）、無色透明のバブル型（2.4%）である。また、軽鉱物と重鉱物の含有率は、各々 22.8%と 14.0%で、重鉱物としては多い順に不透明鉱物（黒色で光沢をもつもの：おもに磁鉄鉱 ,45.2%）、斜方輝石（37.6%）、単斜輝石（14.0%）、角閃石（0.4%）が認められる。

試料２（23A 区旧河道埋土）でも、火山ガラスが 43.6%を占める。含まれる火山ガラスは、多い順に繊維束状軽石型（24.8%）、スポンジ状軽石型（11.2%）、中間型（3.6%）、無色透明のバブル型（4.0%）である。また、軽鉱物と重鉱物の含有率は、各々 19.6%と 8.8%で、重鉱物としては多い順に不透明鉱物（黒色で光沢をもつもの：おもに磁鉄鉱 ,45.2%）、斜方輝石（31.2%）、単斜輝石（12.0%）が認められる。

４　屈 折 率 測 定

（１）測定試料と測定方法

テフラ組成分析の対象となった２試料に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製 MAIOT）により屈折率（n）の測定を行って、指標テフラとの同定精度の向上を図った。屈折率測定の対象は、1/8-1/16㎜粒径の火山ガラスである。

（２）測　定　結　果

屈折率測定の結果を附表８に示す。試料１（RA015 埋土上位）に含まれる火山ガラス（30 粒子）の屈折率（n）は、1.496-1.507 である。実際には、この試料の屈折率特性は bimodal で、1.496-1.497 の火山ガラス（3 粒子）と、1.499-1.507（27 粒子）の値からなる。一方、試料２（23A 区旧河道埋土）に含まれる火山ガラス（30 粒子）の屈折率（n）は、1.499-1.508（中央値：1.503）である。

5　考　　察

試料１（RA015 埋土上位）および試料２（23A 区旧河道埋土）に含まれるテフラ粒子は、前者に火山ガラスの屈折率が低いものが少量含まれる傾向にあるものの、火山ガラスの色調形態別組成や最大径、さらに重鉱物の組み合わせなどから、いずれにも同じテフラに由来するテフラ粒子が多く含まれていると推定される。この繊維束状や軽石型の火山ガラスに富み、斜方輝石と単斜輝石が多いいわゆる両輝石型のテフラについては、火山ガラスの屈折率特性も合わせると、915 年に十和田火山から噴出した十和田 a テフラ（To-a, 大池 ,1972, 町田ほか ,1981, 町田・新井 ,1992,2003）の可能性が高い。前者に含まれる低い屈折率の火山ガラスについても、給源に近い十和田火山周辺では比較的多く含まれている。この低い屈折率特性については、噴火年代が新しく、給源近くに堆積した粗粒の火山ガラスの水和が十分進んでいないことが関与している可能性が高い（故新井房夫群馬大学名誉教授談）。したがって、これら屈折率が低い火山ガラスについては、他のテフラからの混在、考古遺物の黒曜石製マイクロチップのほかに、やはり To-a に由来する可能性が考えられる。

なお、これら２試料が採取された堆積物については、分析者が現地の土層を観察していないことから、ここで一次堆積層か否かの判断は難しい。今後、現地調査を含めた分析に期待したい。なお、さらに同定精度を向上させる必要がある場合には、信頼度の高いエレクトロンプローブ X 線マイクロアナライザーを利用した火山ガラスの主成分化学組成が有効と考えられる。

6　ま　と　め

盛岡市二又遺跡で採取されたテフラ試料２点を対象に、テフラ検出分析、テフラ組成分析（火山ガラス比分析・重鉱物組成分析）、火山ガラスの屈折率測定を行った。その結果、いずれからも十和田 a テフラ（To-a,A.D.915 年）に由来する可能性が高いテフラ粒子が多く検出された。

文献

Arai, F., Machida, H., Okumura, K., Miyauchi, T., Soda, T. and Yamagata, K.（1986）Catalog for late Quaternary marker- tephras in Japan　Ⅱ -tephras occurring in northeast Honshu and Hokkaido-. Geogr. Rept.　Tokyo Metropol. Univ., 21, p.223-250.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス . 東京大学出版会 ,276p.

町田　洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス . 東京大学出版会 ,336p.

町田　洋・新井房夫・森脇　広（1981）日本海を渡ってきたテフラ . 科学 ,51,p.562-569.

大池昭二（1972）十和田火山東麓における完新世テフラの編年 . 第四紀研究 ,11,p.232-233.

附表５　テフラ検出分析結果

試料（層位）	軽石・スコリア			火山ガラス			
	量	色調	最大径	量	形態	色調	最大径
試料１（RA015 埋土上位）				***	pm（fb, sp）> md,bw	wh,cl, br	1.5㎜
試料２（23A 区旧河道埋土）				***	pm（fb, sp）> md,bw	wh,cl, br	1.8㎜

bw：バブル型 ,md：中間型 ,pm：軽石型 ,cl：透明 ,wh：白色 , sp：スポンジ状 ,fb：繊維束状 .
****：とくに多い ,***：多い ,**：多い ,*：少ない .

附表６　火山ガラス比分析結果

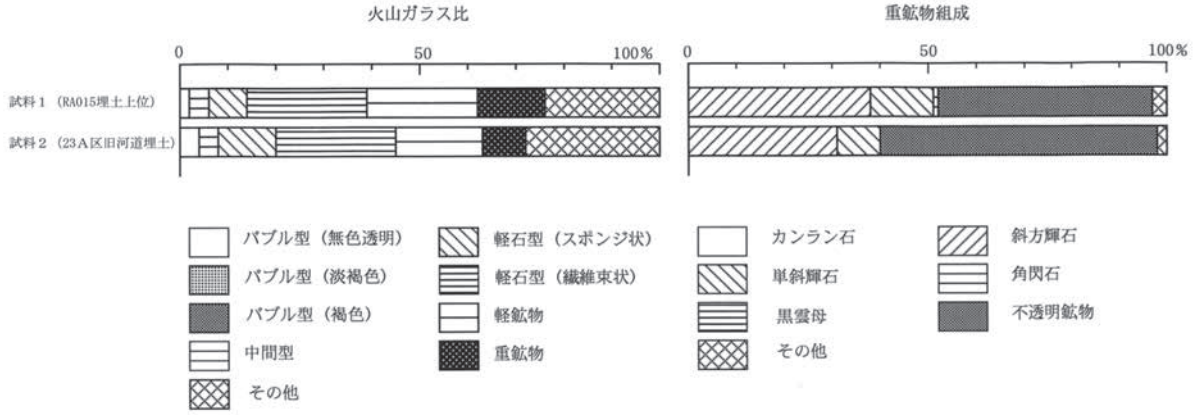
試料	bw（cl）	bw（pb）	bw（br）	md	pm（sp）	pm（fb）	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
試料１（RA015 埋土上位）	6	0	0	10	21	63	57	35	58	250
試料２（23A 区旧河道埋土）	10	0	0	9	28	62	49	22	70	250

bw：バブル型 ,md：中間型 ,pm：軽石型 ,cl：透明 ,wh：白色 , sp：スポンジ状 ,fb：繊維束状 .
数字は粒子数 .

附表７　重鉱物組成分析結果

試料	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合計
試料１（RA015 埋土上位）	0	94	35	1	0	113	7	250
試料２（23A 区旧河道埋土）	0	78	30	0	0	137	5	250

ol：カンラン石 ,opx：斜方輝石 ,cpx：単斜輝石 ,am：角閃石 ,bi：黒雲母 ,opq：不透明鉱物（おもに磁鉄鉱）.
数字は粒子数 .



附図１　テフラ組成ダイヤグラム

附表８　屈折率測定結果

試料（地点・層位）	火山ガラスの屈折率（n）	測定粒子数	文献
二又遺跡・試料１（RA015 埋土上位）	1.496-1.507（1.496-1.497,1.499-1.507）	30	本報告
二又遺跡・試料２（23A 区旧河道埋土）	1499-1.508（1.503）	30	本報告
十和田 a（To-a,915AD）	1.496-1.508（註１）		町田・新井（2003）
	1.500-1.508（註２）		町田・新井（2003）
十和田中掫（To-Cu,6ka）	1.508-1.512		町田・新井（2003）
（安家火山灰 , 岩手県岩泉町）	1.507-1.513		早田ほか（1988）
（吾妻火山灰 , 福島県東吾妻）	1.507-1.512		早田ほか（1988）
鬼界アカホヤ（K-Ah,7.3ka）	1.508-1.516		町田・新井（2003）
肘折尾花沢（Hj-O,11-12ka*1）	1.499-1.504		町田・新井（2003）
十和田八戸（To-H,15ka）	1.505-1.509		町田・新井（2003）
浅間草津（As-K, 15-16.5ka）	1.501-1.503		町田・新井（2003）
浅間板鼻黄色（As-YP,15-16.5ka）	1.501-1.505		町田・新井（2003）
鳴子潟沼上原（Nr-KU）	1.492-1.500		町田・新井（2003）
姶良 Tn（AT, 28-30 ka）	1.499-1.501		町田・新井（2003）
十和田大不動（To-Of, ≧ 32ka）	1.505-1.511		町田・新井（2003）
焼石山形（Yk-Y）	1.500-1.503		町田・新井（2003）
鳴子柳沢（Nr-Y,41-63ka）	1.500-1.503		町田・新井（2003）
阿蘇４（Aso-4,85-90ka）	1.506-1.510		町田・新井（2003）
鳴子荷坂（Nr-N,90ka）	1.500-1.502		町田・新井（2003）
肘折北原（Hj-Kth,90-100ka）	1.499-1.502		町田・新井（2003）
三瓶木次（SK,110-115ka）	1.496-1.498		町田・新井（2003）
洞爺（Toya,112-115ka）	1.494-1.498		町田・新井（2003）

註１：青森地域での屈折率 . 註２：岩手・秋田地域での屈折率 .（）：中央値 .ka：1,000 年前 .*1：放射性炭素（14C）年代 .

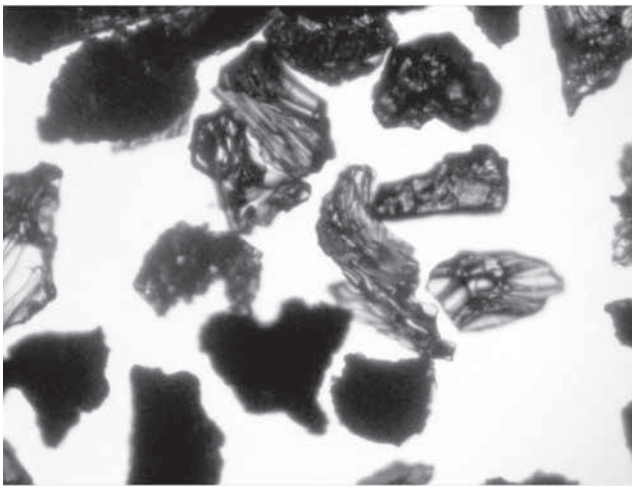
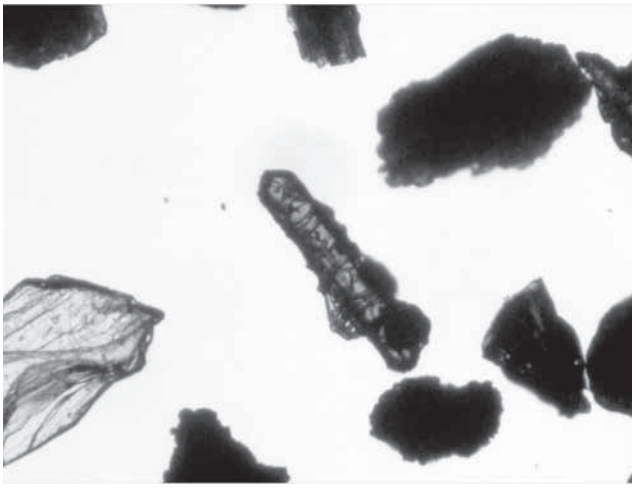
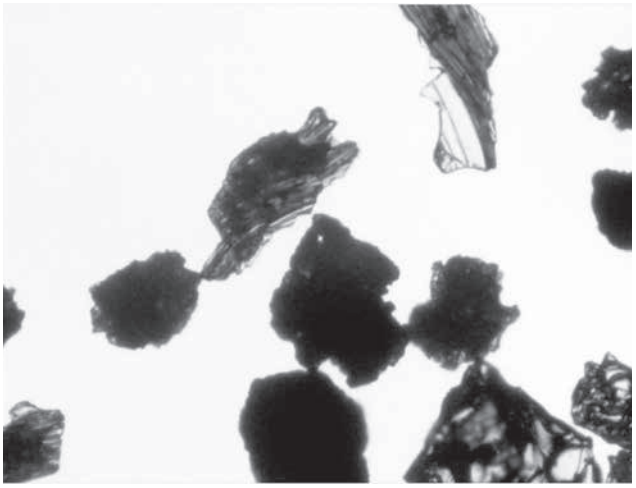


写真１　試料１（RA015 埋土上位）
繊維束状軽石型ガラス：中央付近
スポンジ状軽石型ガラス：中央左
単斜輝石：中央右上



0.2㎜

写真２　試料１（RA015 埋土上位）
斜方輝石：中央



0.2㎜

写真３　試料２（23A 区旧河道埋土）
繊維束状軽石型ガラス：中央左・上
スポンジ状軽石型ガラス：中央右・左

0.2㎜

写真４　試料２（23A 区旧河道埋土）
斜方輝石：中央

写　真　図　版

調査区遠景（南東から）

調査区全体（西から）

写真図版１　航空写真（１）

調査区北側（西から）

調査区南側（西から）

写真図版２　航空写真（２）

A 区北側全景（北から）

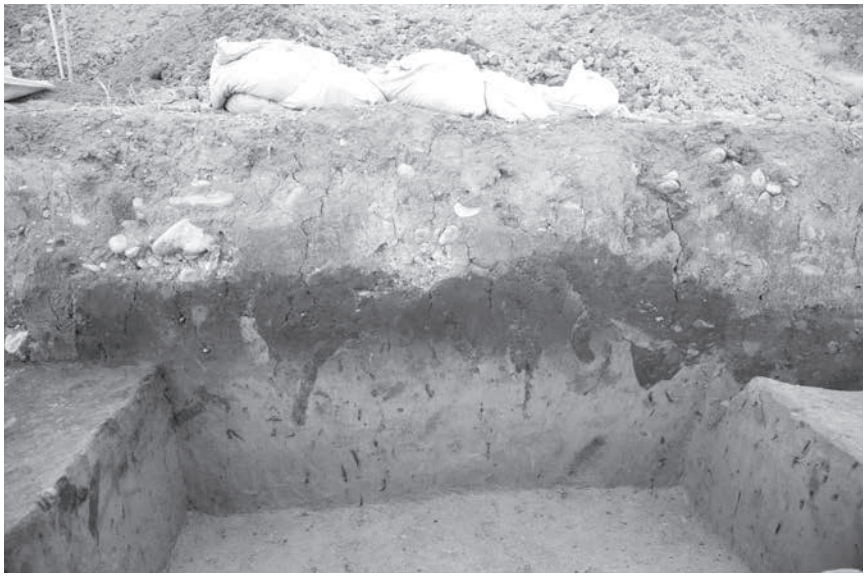
B 区北側調査前状況（北から）

B 区北側全景（北から）

写真図版３　H23 年度調査区（１）

1Ｂ区南側全景（南から）

2Ｂ区南西側全景（南から）



3Ｂ区基本土層断面（西から）

写真図版４　H23 年度調査区（２）

C 区北側全景（北から）

E 区西側全景（北西から）

E 区南側全景（南から）

写真図版 5　H23 年度調査区（3）

E 区南側試掘状況（南から）

E 区南端全景（西から）

E 区南東側全景（東から）

写真図版 6　H23 年度調査区（4）

A 区西全景（南東から）

B 区自然流路全景（南東から）

CD 区全景（北西から）

写真図版 7　H24 年度調査区（1）

G 区全景（北東から）

H 区全景（南から）

J 区全景（南から）

写真図版 8　H24 年度調査区（2）

M 区全景（南から）

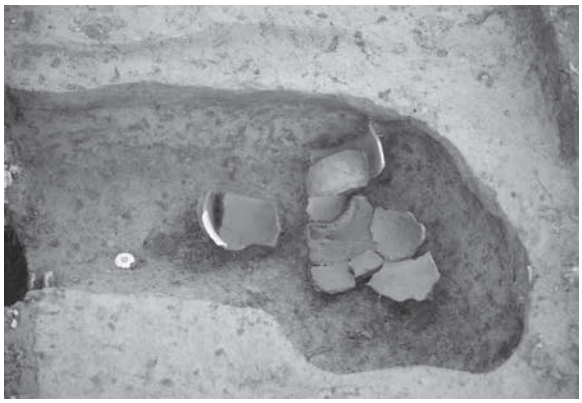
N 区全景（南から）

基本層序（東から）

写真図版 9　H24 年度調査区（3）

全景（北東から）

煙道１遺物出土状況①（南から）



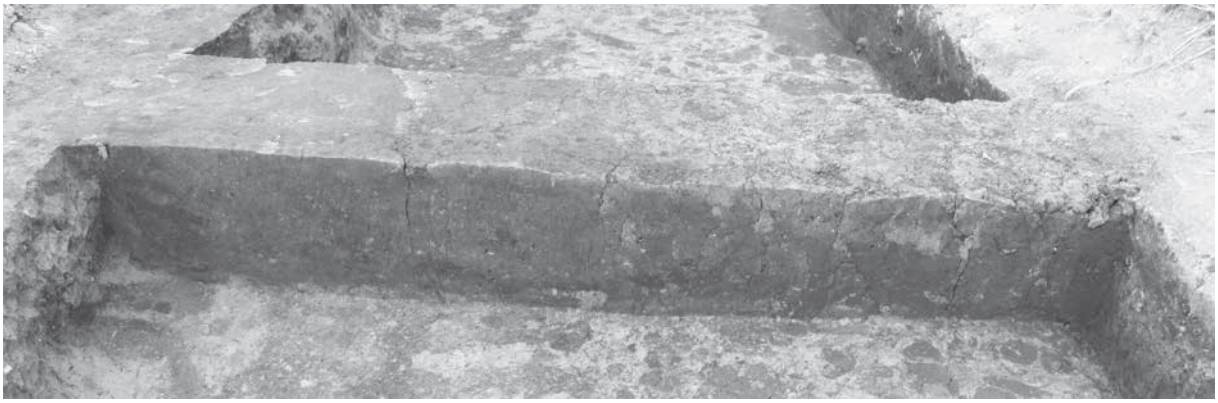
煙道１遺物出土状況②（南から）

煙道１断面（南から）

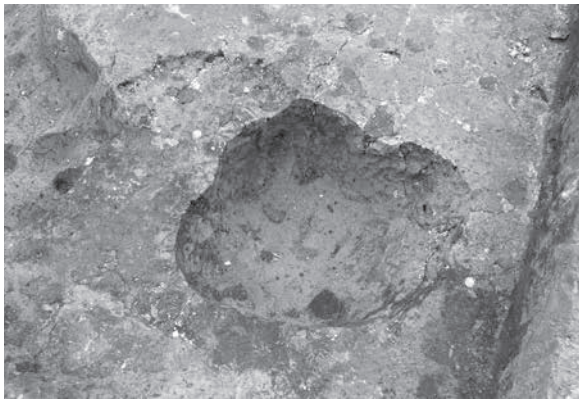
煙道２断面（南から）

写真図版 10　RA003（１）

全景（南から）



断面（南から）



K3 全景（南から）

掘り方断面（南から）

写真図版 11　RA003（2）

全景（東から）

東側全景（東から）

煙道遺物出土状況（南東から）

煙道断面（東から）

煙道遺物取り上げ状況（南東から）

写真図版 12　RA004

全景（東から）

検出（東から）

断面（南東から）

カマド平面（東から）

カマド断面（南から）

写真図版 13　RA012

全景（西から）

断面（南から）

カマド１平面（西から）

カマド２平面（南から）

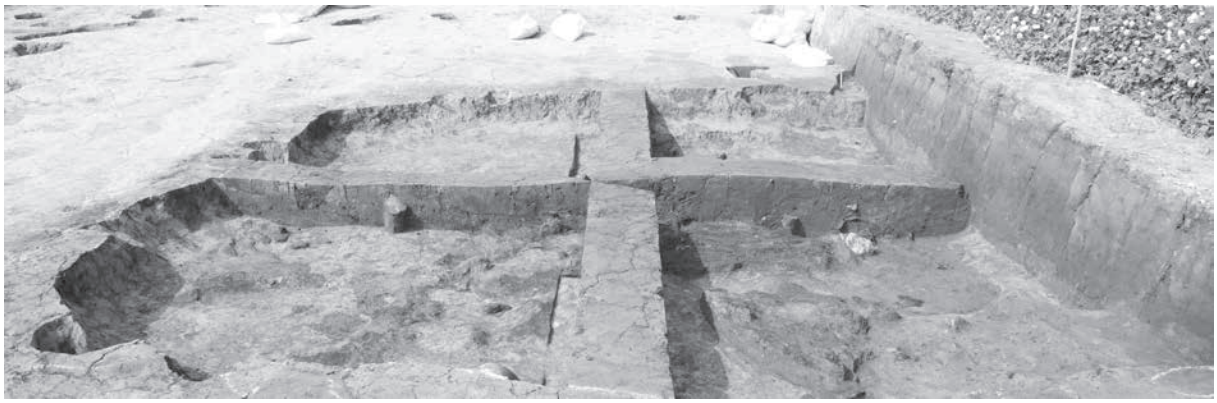
写真図版 14　RA013

全景（西から）

炭化材出土状況（西から）

写真図版 15　RA014（1）

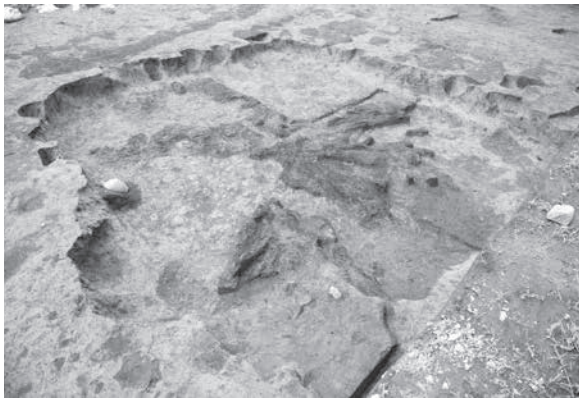
断面（西から）



断面（南から）

検出状況（南東から）

精査状況（南東から）



炭化材出土状況（南東から）

遺物出土状況（北から）

写真図版 16　RA014（2）

全景（西から）

断面（西から）

断面（南から）

検出状況（南東から）

写真図版 17　RA015

東側全景（東から）

全景（東から）

断面（南から）

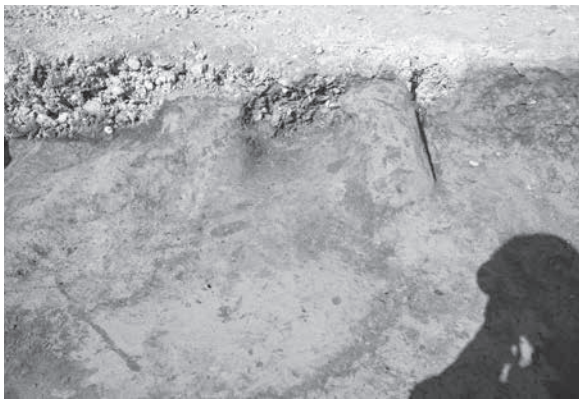
カマド全景（北西から）

カマド断面（南から）

写真図版 18　RA016

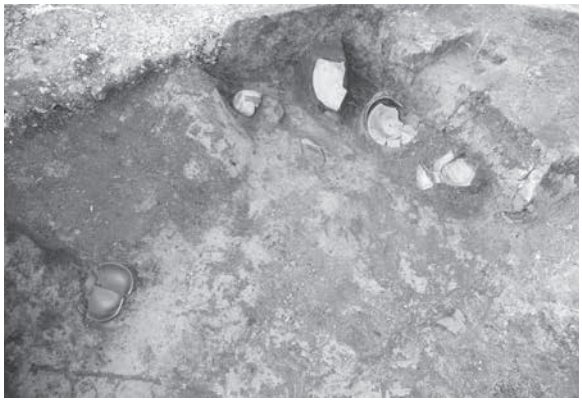
全景（東から）

断面（北から）



カマド全景（東から）

カマド断面（東から）



遺物出土状況（南東から）

写真図版 19　RA017

全景（東から）

断面（南から）

断面（西から）

カマド全景（東から）

煙道断面（南から）

写真図版 20　RA018

東側全景（北西から）

検出状況（北から）

断面（東から）

カマド全景（西から）

煙道断面（南から）

写真図版 21　RA019

東側全景（南東から）

断面（東から）

断面（南から）

実測作業（南東から）

写真図版 22　RA020（1）

全景（南から）

断面（西から）

断面（南から）

写真図版 23　RA020（2）

カマド全景（南東から）

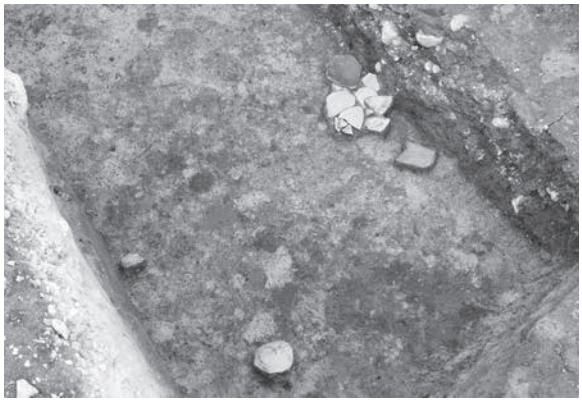
カマド断面（南東から）

燃焼部断面（南から）

K1・K2 全景（東から）

K1・K2 断面（東から）

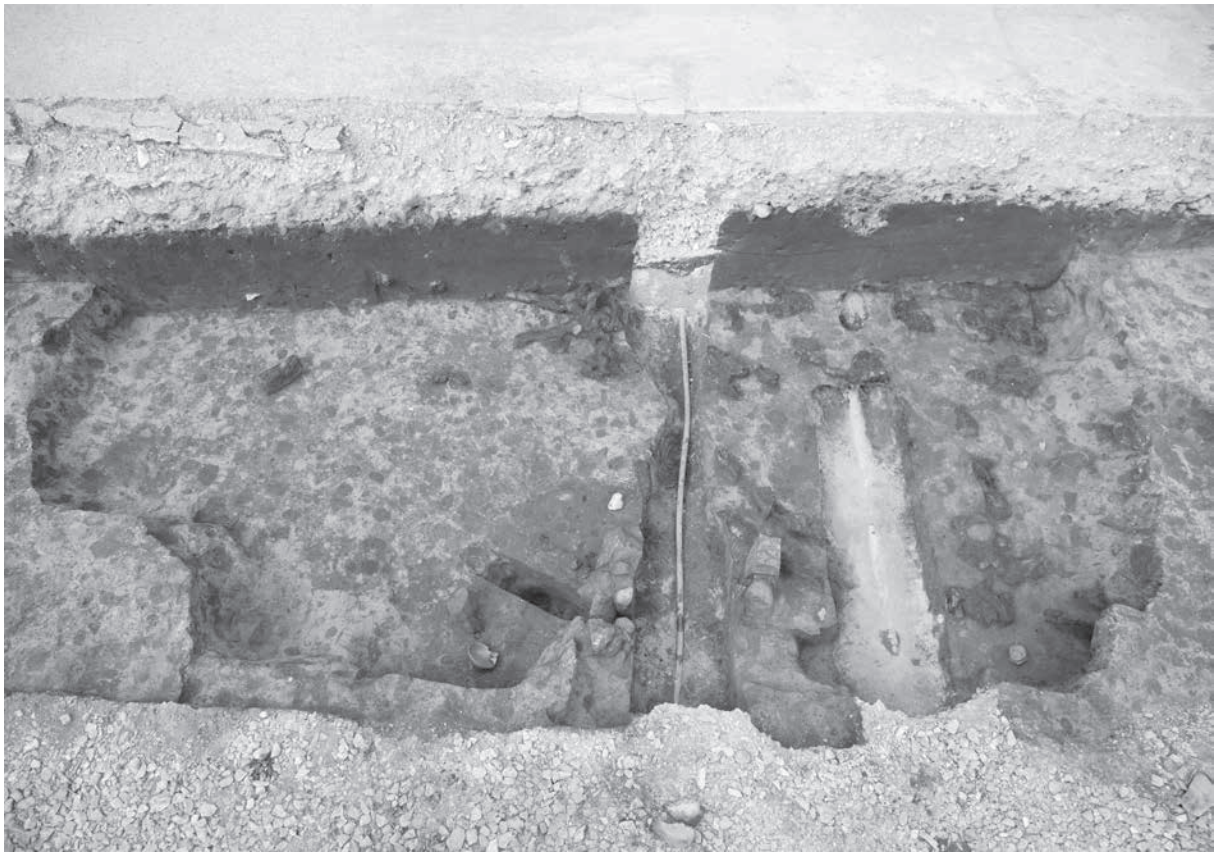
P3 断面（南から）



南東遺物出土状況（南から）

遺物出土状況（南から）

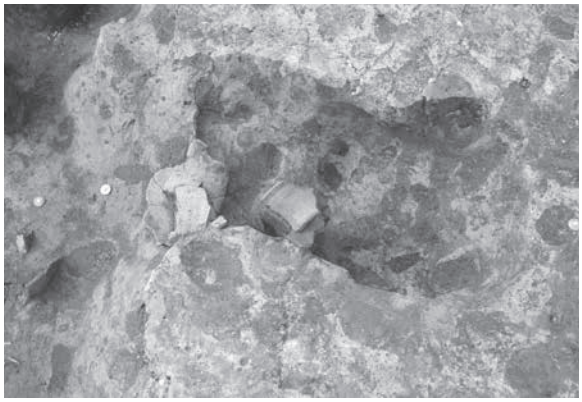
写真図版 24　RA020（3）



遺物出土状況（東から）

断面（東から）

カマド全景（西から）



煙道２遺物出土状況（東から）

K1 遺物出土状況（西から）

写真図版 25　RA021（１）

全景（南から）

断面（南から）

断面（南から）

K2 断面（西から）

南西遺物出土状況（南から）

写真図版 26　RA021（2）

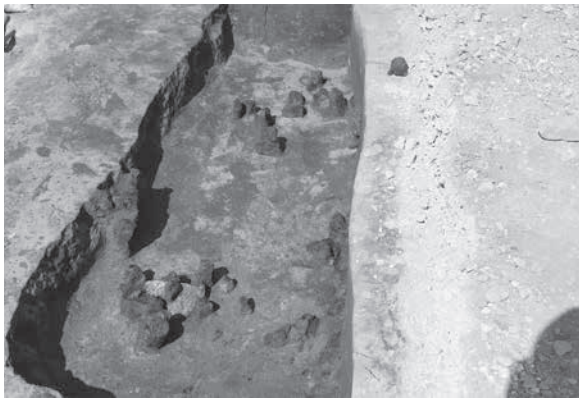
床面炭化材出土状況（西から）

北東炭化材出土状況（南から）

北東炭化材出土状況（南から）

北西炭化材出土状況（南から）

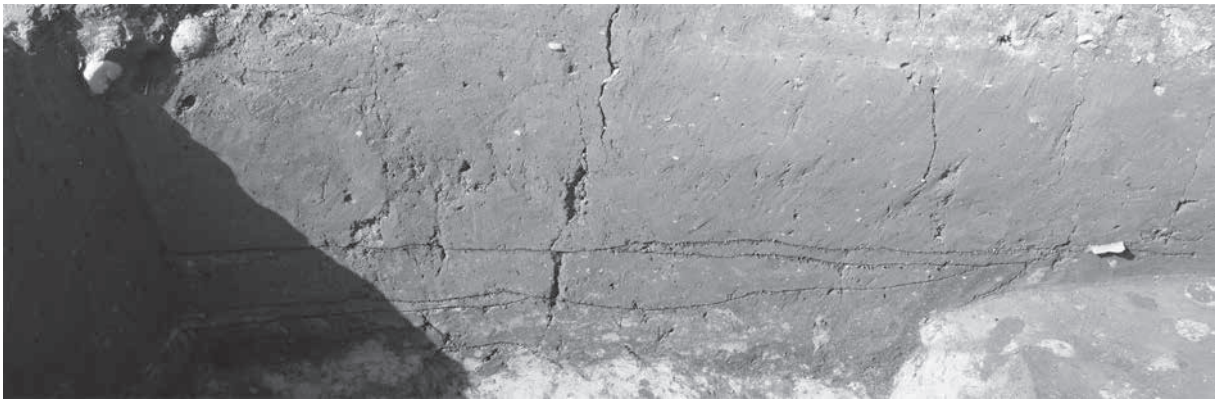
南東炭化材出土状況（東から）



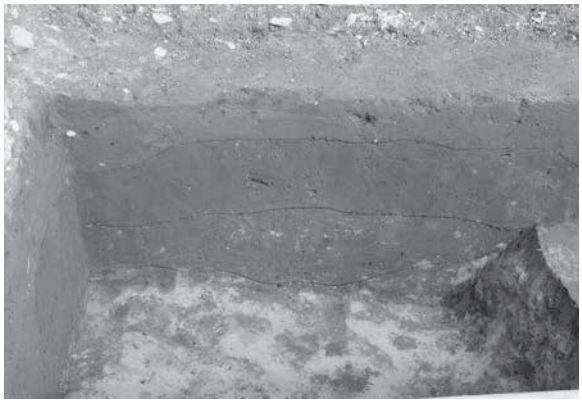
南西炭化材出土状況（南から）

写真図版 27　RA021（3）

全景（東から）



断面（東から）



断面（南から）

作業風景（北西から）

写真図版 28　RA022

全景（東から）

断面（北から）

断面（北から）

断面（北西から）

写真図版 29　RA023（1）

断面（北東から）

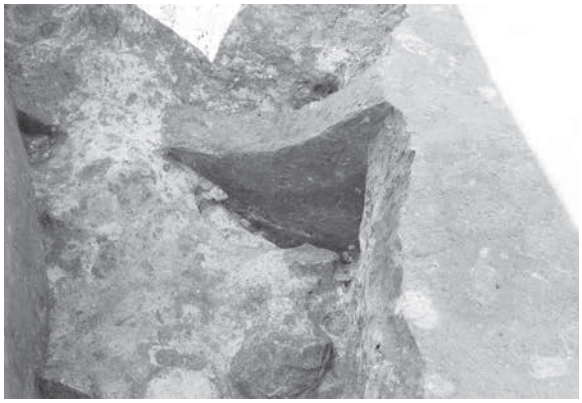
貼床断面（北から）

カマド全景（東から）

カマド袖断面（東から）

煙道断面（北東から）

煙道～煙出断面（北西から）



土坑断面（東から）

写真図版 30　RA023（2）

全景（南から）

断面（南から）

断面（西から）

写真図版 31　RA024（1）

カマド全景（南から）

カマドたち割り（南から）

煙道～煙出断面（東から）

K2・K5 断面（南から）

K4 下部断面（南から）

カマド東側遺物出土状況（南から）

K4・K5 遺物出土状況（南から）

K4 下部遺物出土状況（南から）

写真図版 32　RA024（2）

全景（西から）

断面（東から）

断面（南から）

写真図版 33　RA025

全景（南から）

断面（東から）

断面（南から）

写真図版 34　RA026（1）

カマド全景（東から）

カマド断面西半（南西から）

カマド断面東半（南から）

燃焼部断面（南から）

Pit 断面（南から）

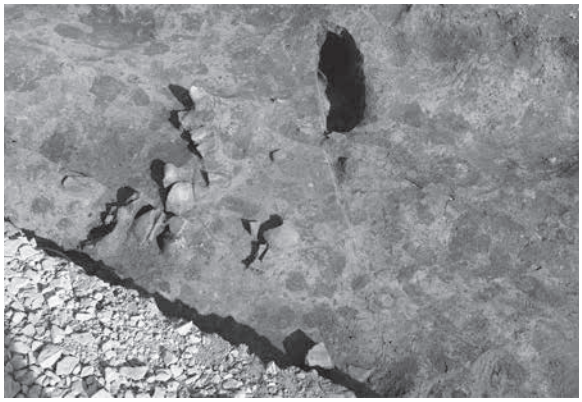
Pit 遺物出土状況（東から）

掘り方全景（南から）

写真図版 35　RA026（2）

全景（南西から）

断面（南西から）



北東遺物出土状況（南西から）

P1 出土状況（東から）

写真図版 36　RA027（1）

カマド全景（南西から）

煙道西側断面（南から）

煙道東側断面（南から）

煙出断面（南から）

燃焼部断面（南から）

カマド袖断面（南西から）

K1 断面（南から）

写真図版 37　RA027（2）

全景（東から）

Ｐ１平面（東から）

Ｐ１断面（東から）

Ｐ２断面１（東から）

Ｐ２断面２（東から）

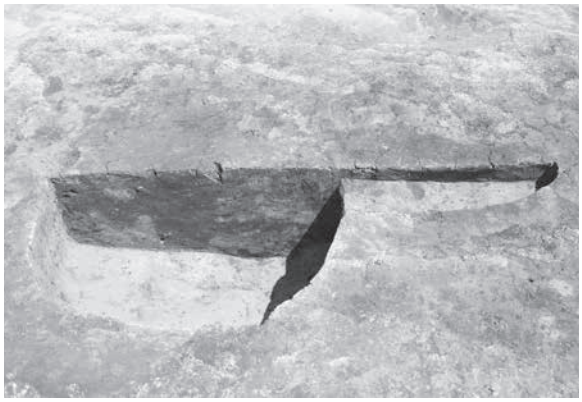
写真図版 38　RB001（１）

Ｐ３断面１（東から）

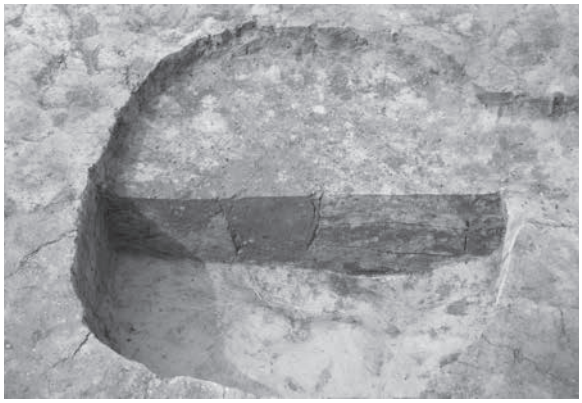
Ｐ３断面２（東から）

Ｐ４断面１（南から）

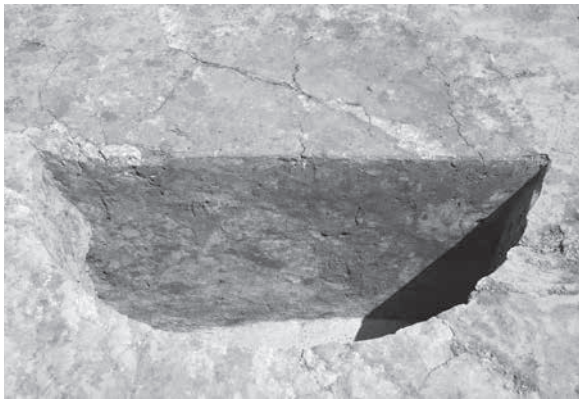
Ｐ４断面２（南東から）



Ｐ５断面１（南から）



Ｐ５断面２（南から）



Ｐ６断面１（南から）

Ｐ６断面２（南から）

写真図版 39　RB001（２）

Ｐ７断面１（東から）

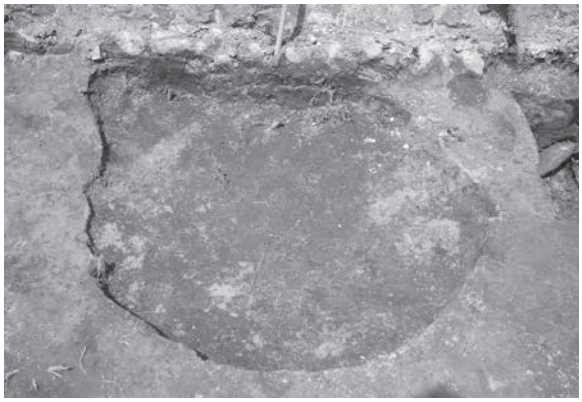
Ｐ７断面２（北から）

Ｐ８断面１（東から）

Ｐ８断面２（南から）

Ｐ９断面１（南から）

Ｐ９断面２（南から）



P10 断面１（東から）

P10 断面２（南から）

写真図版 40　RB001（３）

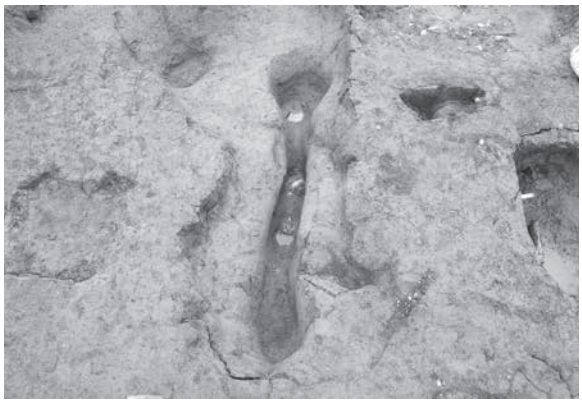
RB003 全景（南から）

RB004 P5 ～ P8 全景（南から）

写真図版 41　RB003・004

RD007 全景（西から）

RD007 断面（西から）



RD008 全景（東から）

RD008 断面（東から）

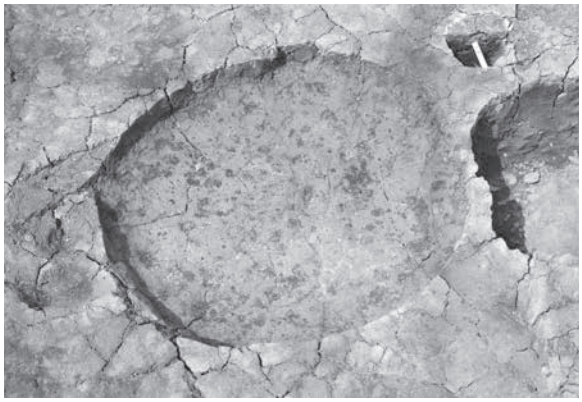
RD009 全景（南から）

RD009 断面（南から）

RD010 全景（南から）

RD010 断面（南から）

写真図版 42　RD（1）

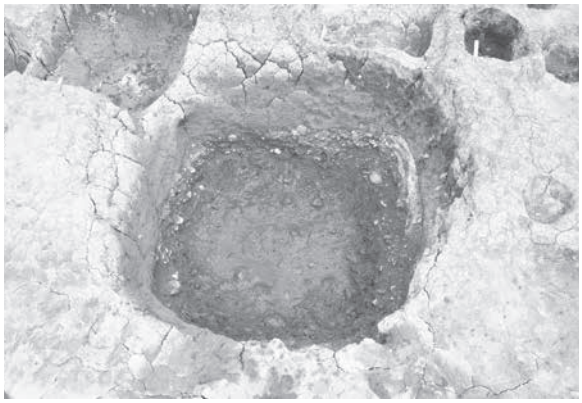


RD011 全景（南から）

RD011 断面（南から）

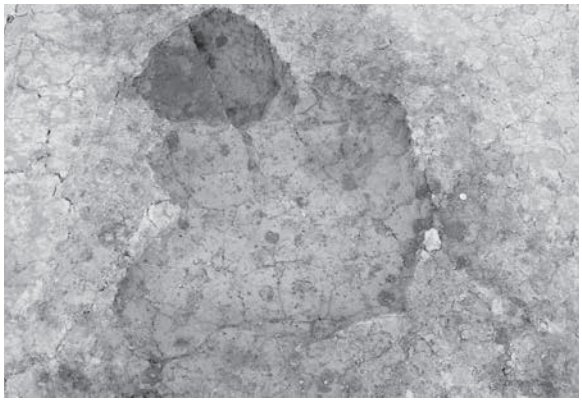
RD012 全景（東から）

RD012 断面（西から）



RD013 全景（南から）

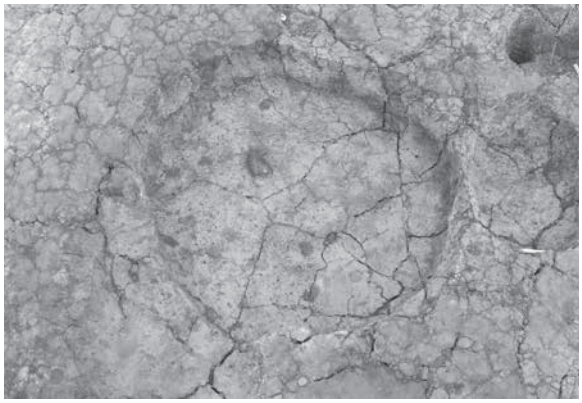
RD013 断面（西から）



RD014 全景（西から）

RD014 断面（西から）

写真図版 43　RD（2）

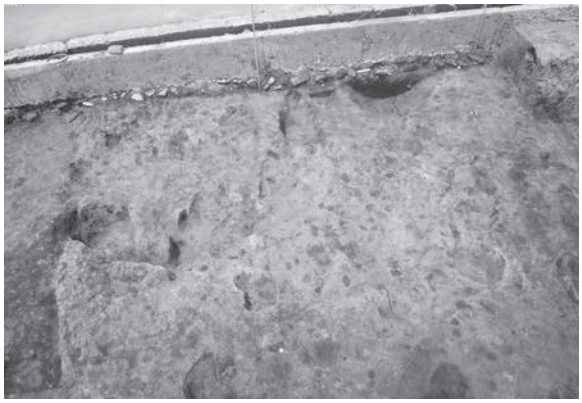


RD015 全景（西から）

RD015 断面（南から）

RD016 全景（東から）

RD016 断面（東から）



RD018 全景（東から）

RD018 断面（南から）

RD019 全景（南から）

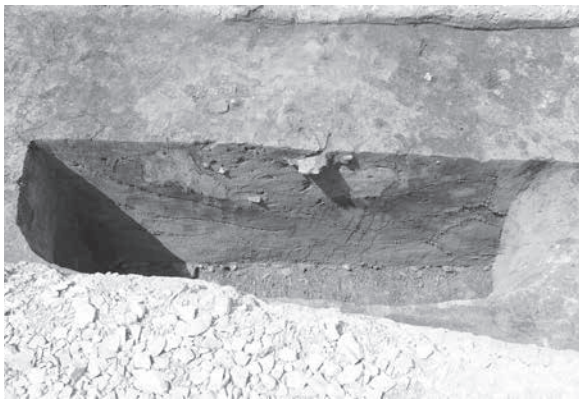
RD019 断面（西から）

写真図版 44　RD（3）

RD020 全景（南から）

RD020 断面（南から）

RD021 全景（南から）



RD021 断面（東から）

RD022 全景（北から）

RD022 断面（東から）

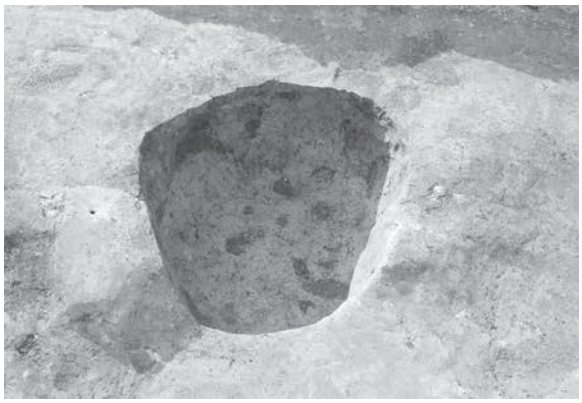
RD023 全景（南西から）

RD023 断面（南から）

写真図版 45　RD（4）

RD024 全景（南から）

RD024 断面（西から）



RD025 全景（南から）

RD025 断面（西から）

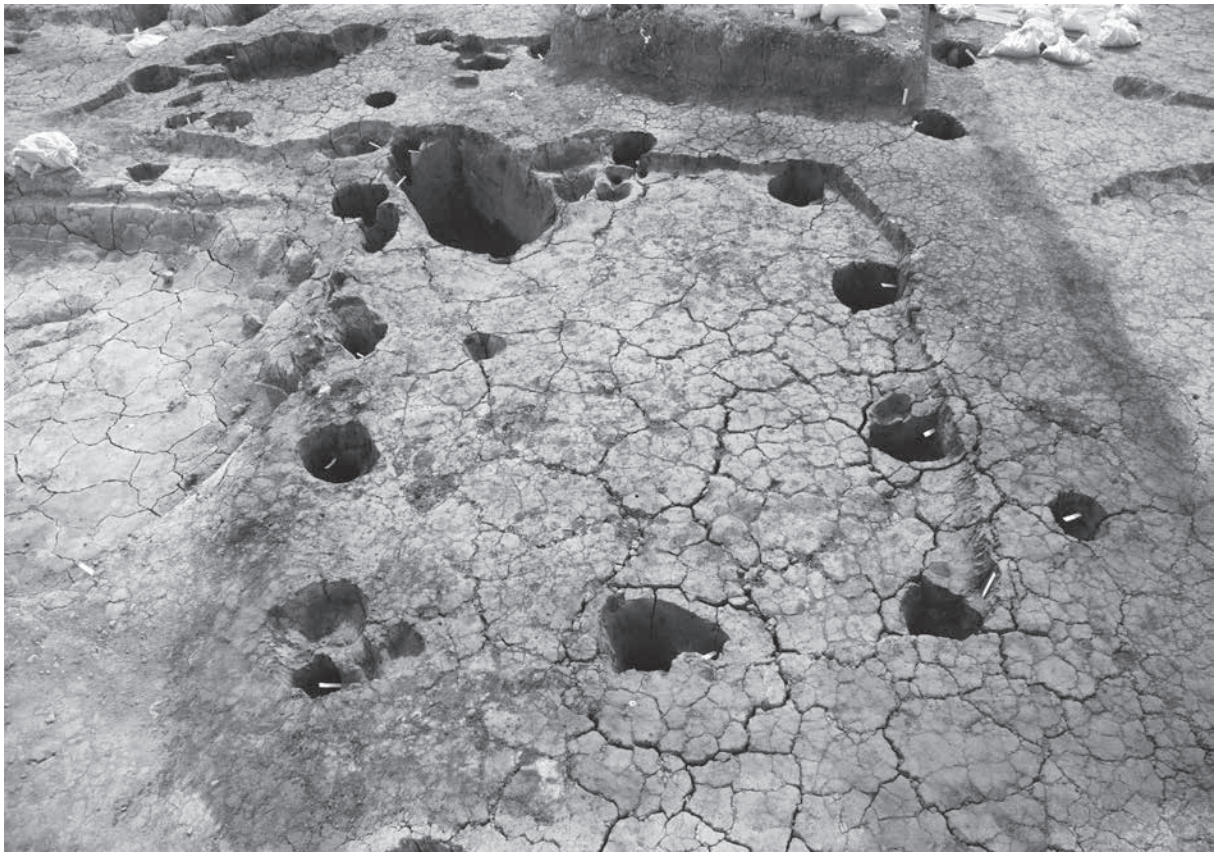
RD026 全景（西から）

RD026 断面（西から）

RD027 全景（北西から）

RD027 断面（西から）

写真図版 46　RD（5）



全景（東から）

断面（西から）

断面（南から）

写真図版 47　RE006

全景（南東から）

断面（東から）

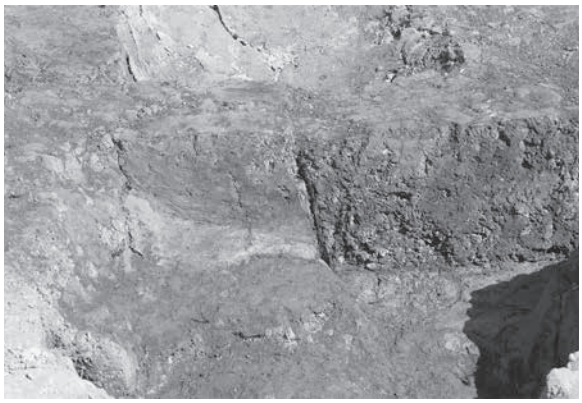
断面（南から）

写真図版 48　RE007

RG005 全景（H23）（南から）

RG005 断面（H23）（南から）

RG005 全景（北から）

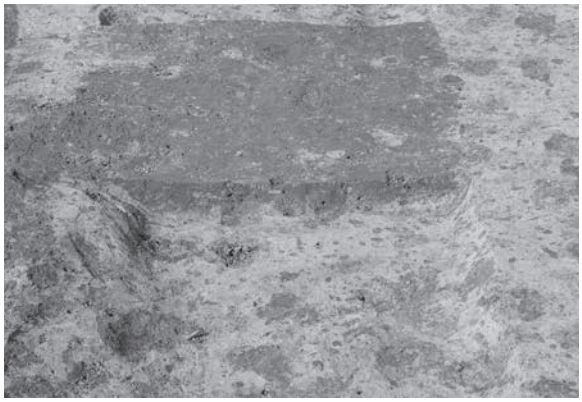


RG005 断面（南から）

RG006 全景（東から）

RG006（東から）

RG007 全景（東から）



RG007 断面（東から）

写真図版 49　RG（1）

RG008 全景（南から）

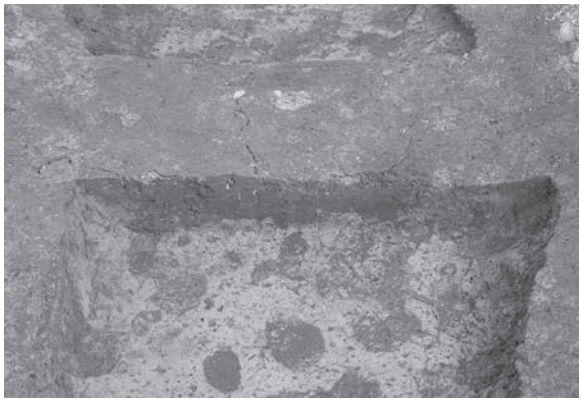
RG008 断面（南から）

RG009 全景（西から）

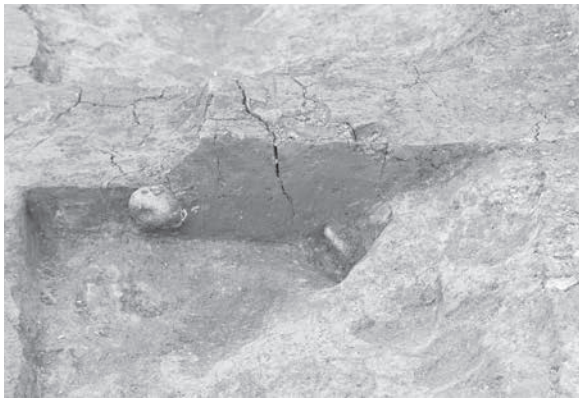
RG009 断面（西から）

RG010 全景（Ｉ区）（南から）

RG010 全景（Ｊ区）（南から）



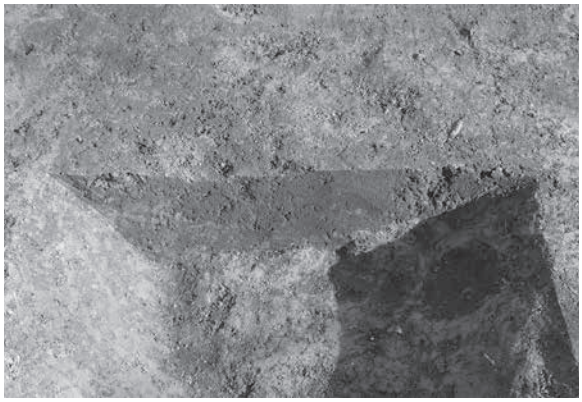
RG010 断面（南から）



RG010 断面（南から）

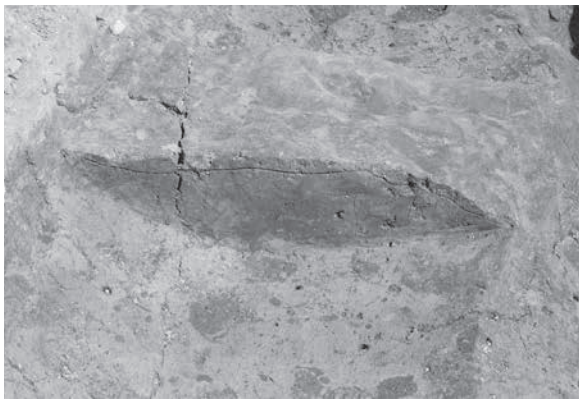
写真図版 50　RG（2）

RG011 全景（東から）



RG011 断面（西から）

RG012 全景（南から）



RG012 断面（南から）

RG013 全景（西から）

RG013 断面（西から）

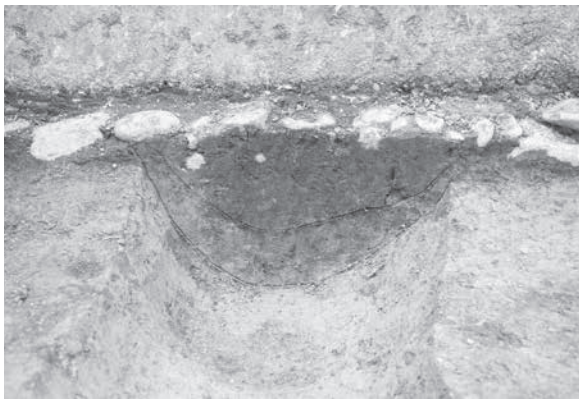
RG013 断面（東から）

写真図版 51　RG（3）

RX001 全景（東から）

RX001 全景（H24）（南から）

RX001 断面（南から）



RX001 断面（東から）

RX001 断面（東から）

RZ001 全景（西から）

RZ001 断面（北から）

RZ001 断面（東から）

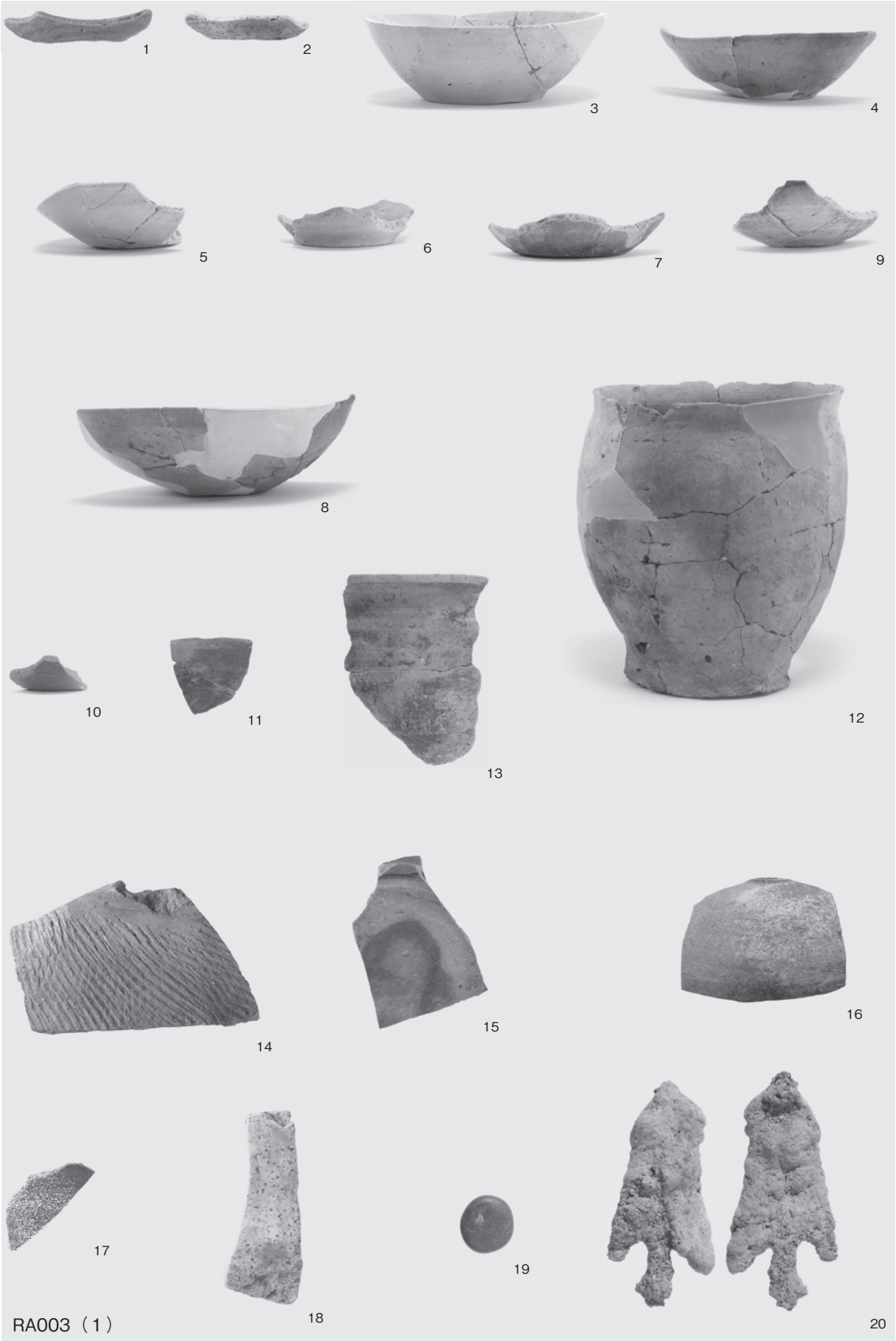
写真図版 52　RX001・RZ001

現地説明会（H23）

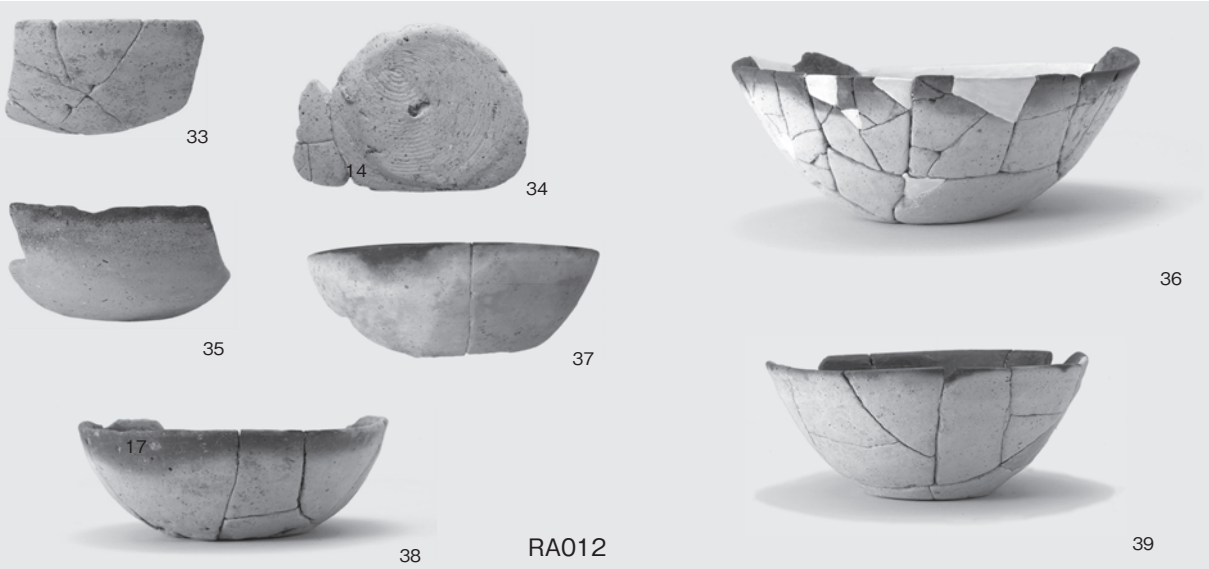
現地説明会（H23）

現地公開（H24）

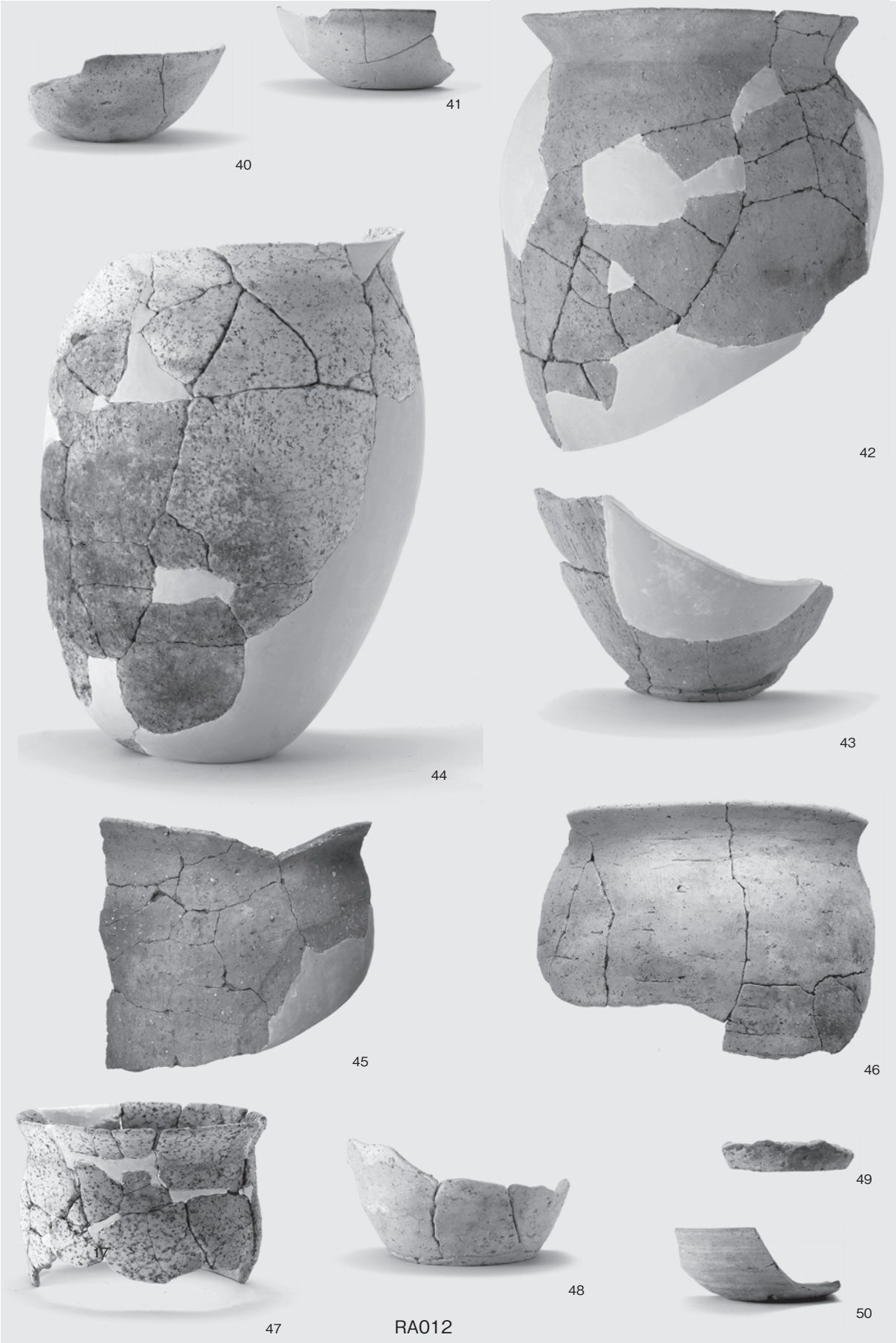
写真図版 53　現地説明会・現地公開



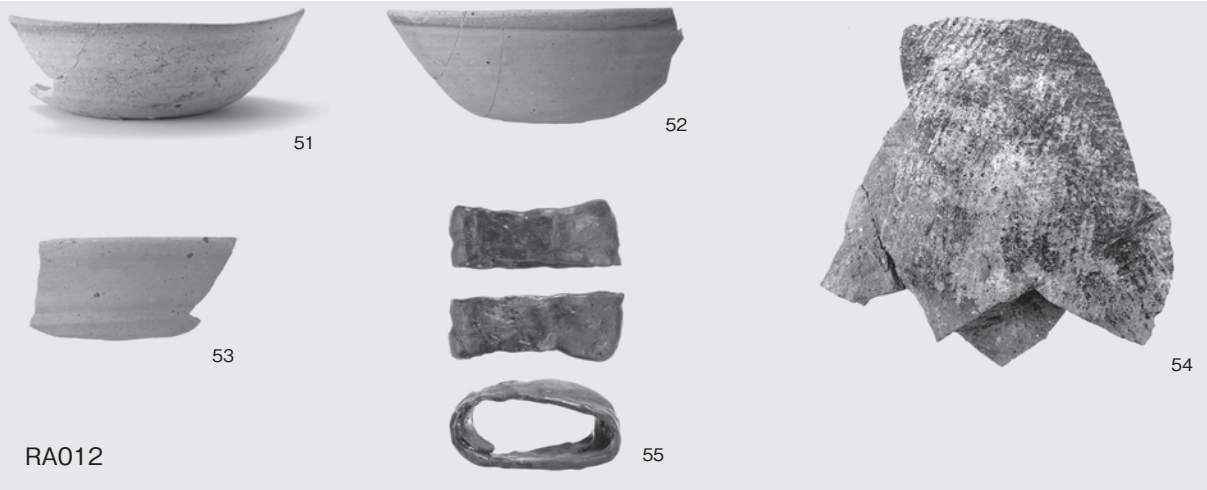
写真図版 54　出土遺物（1）



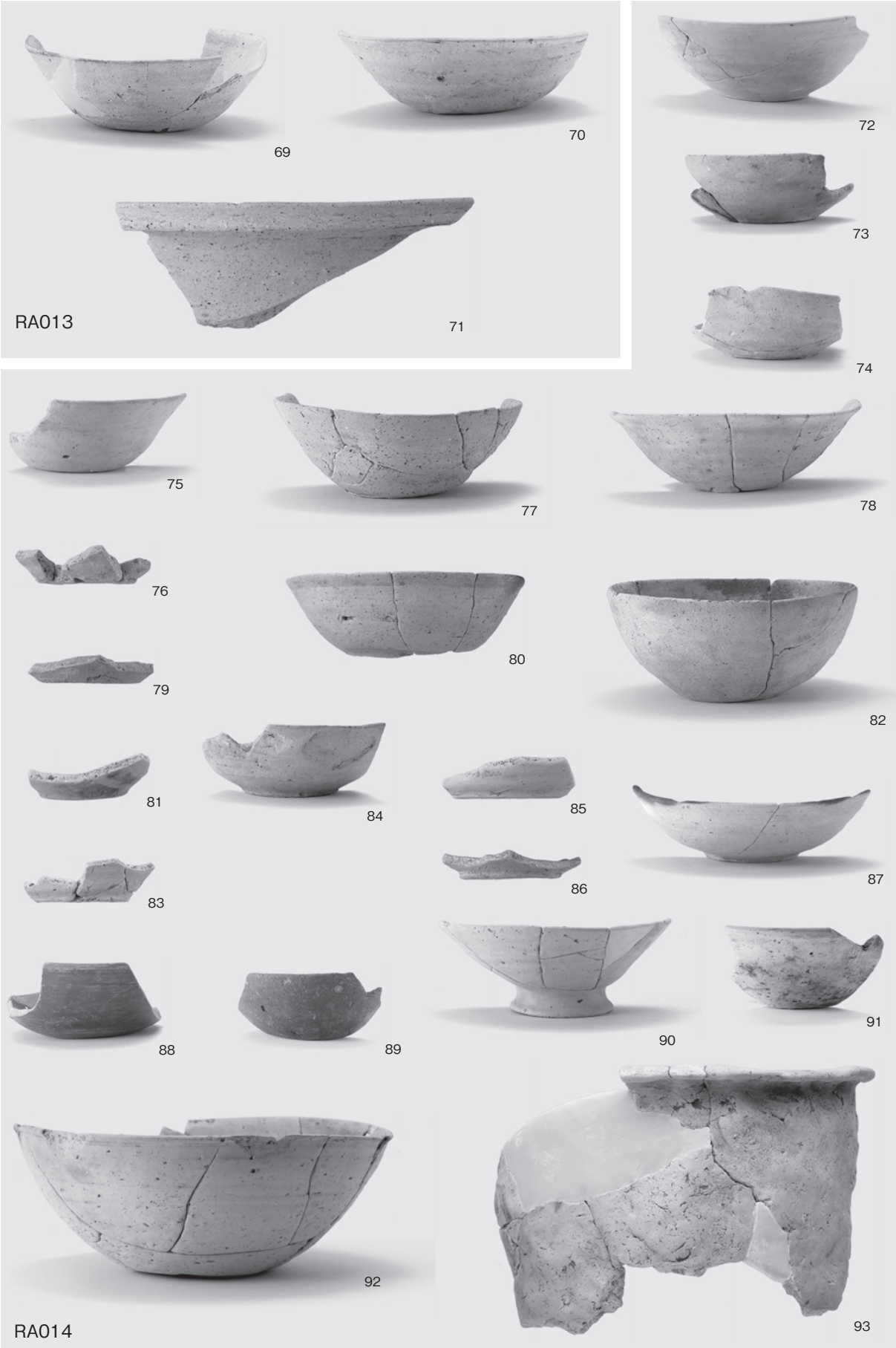
写真図版 55　出土遺物（2）



写真図版 56　出土遺物（3）

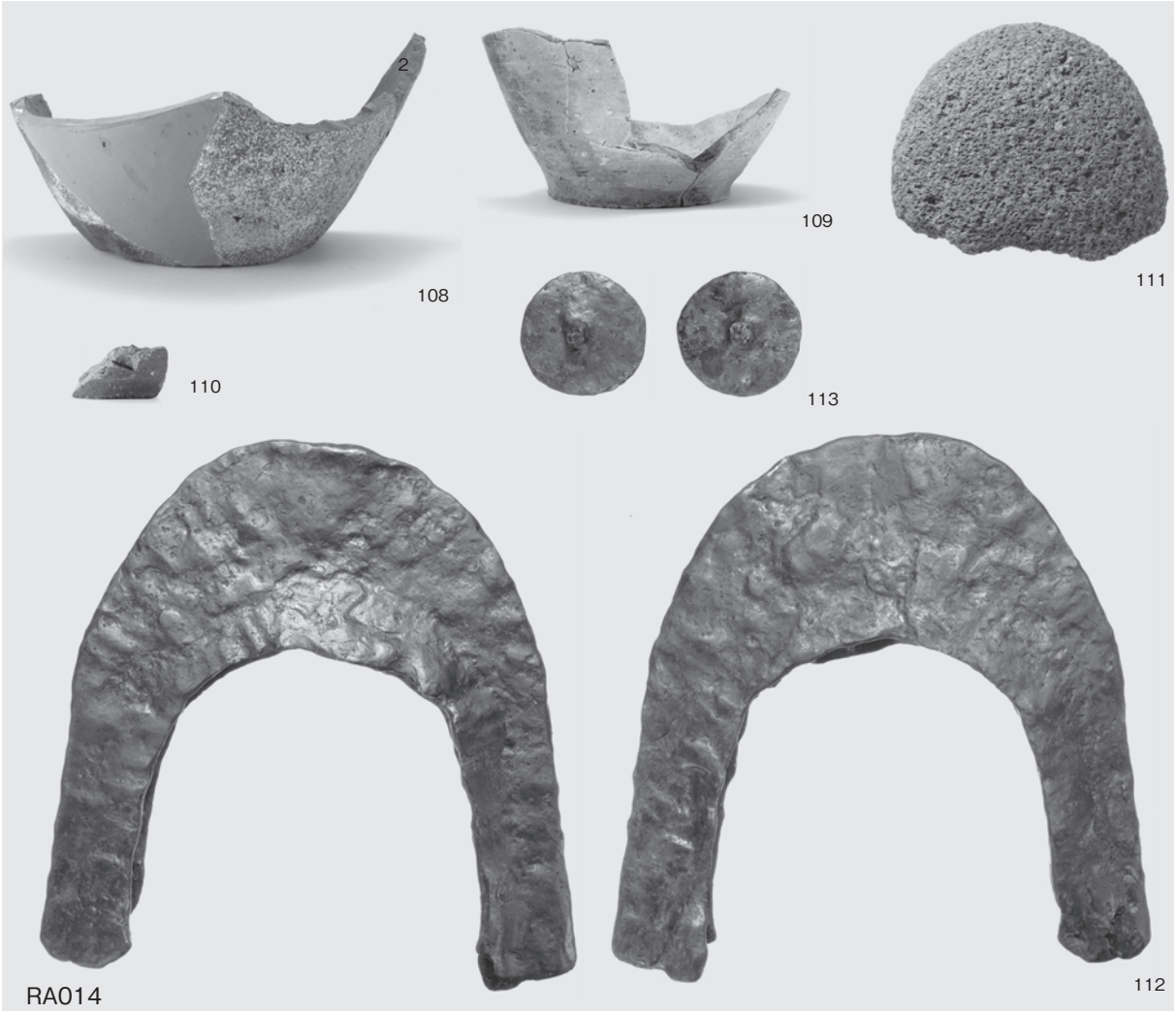


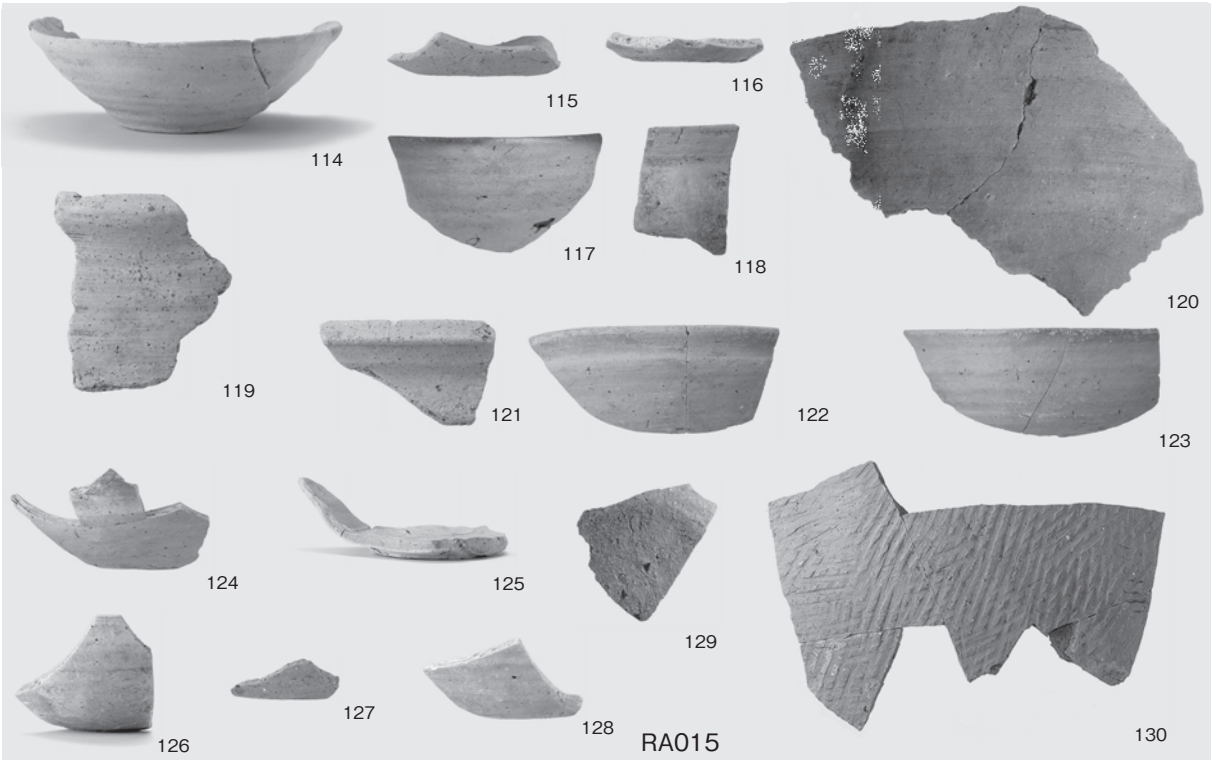
写真図版 57　出土遺物（4）



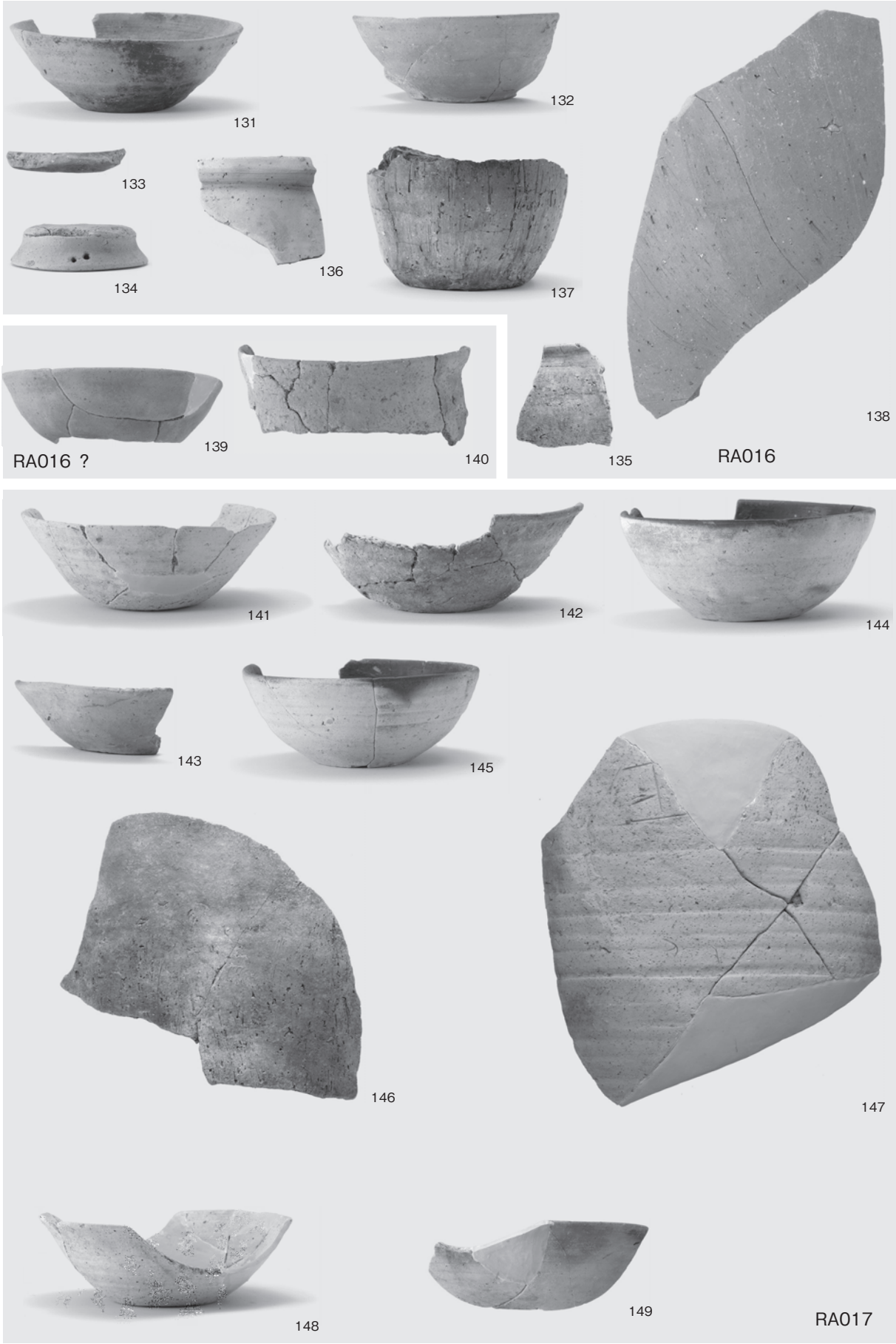
写真図版 58　出土遺物（5）

写真図版 59　出土遺物（6）

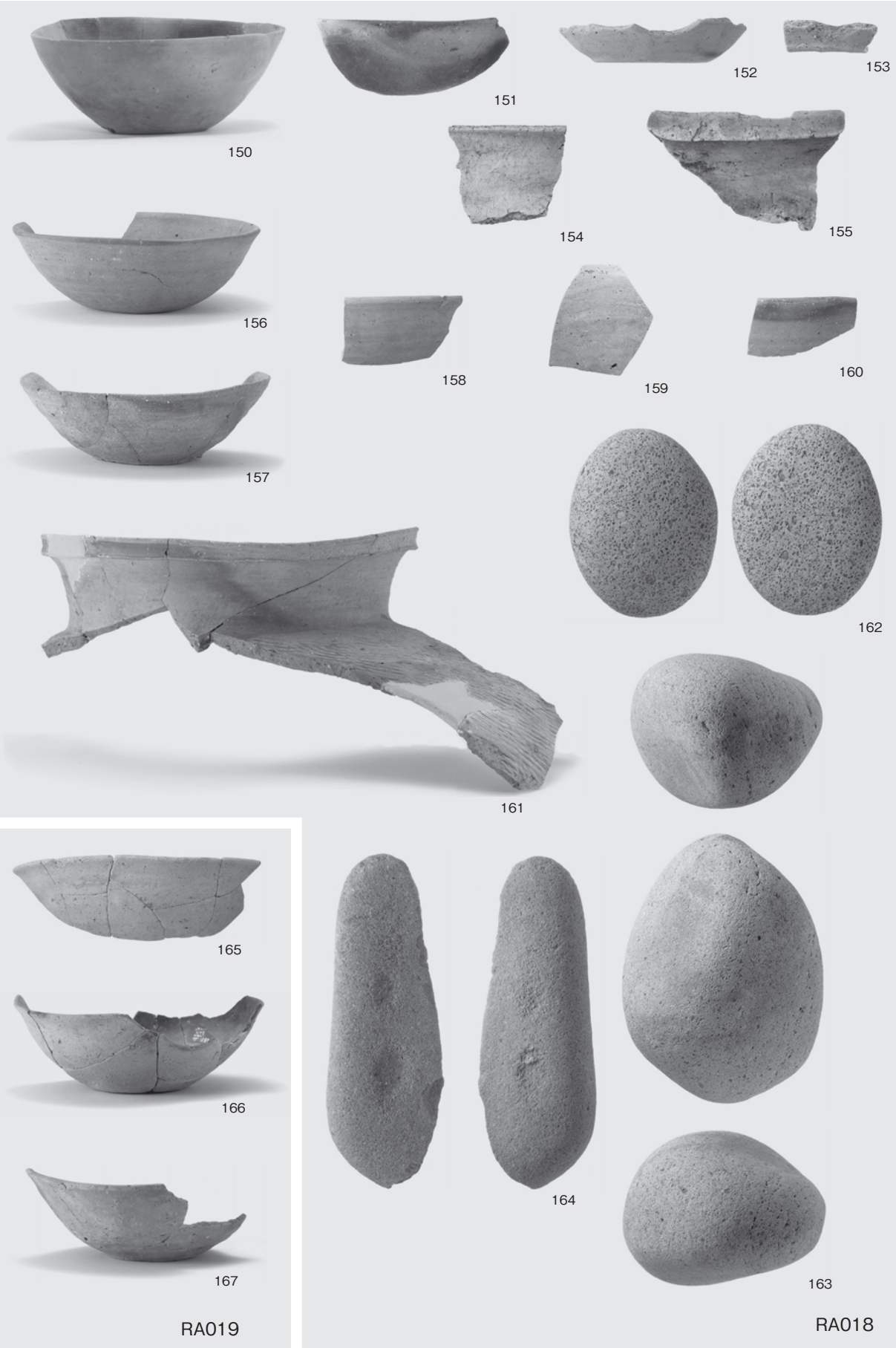




写真図版 60　出土遺物（7）

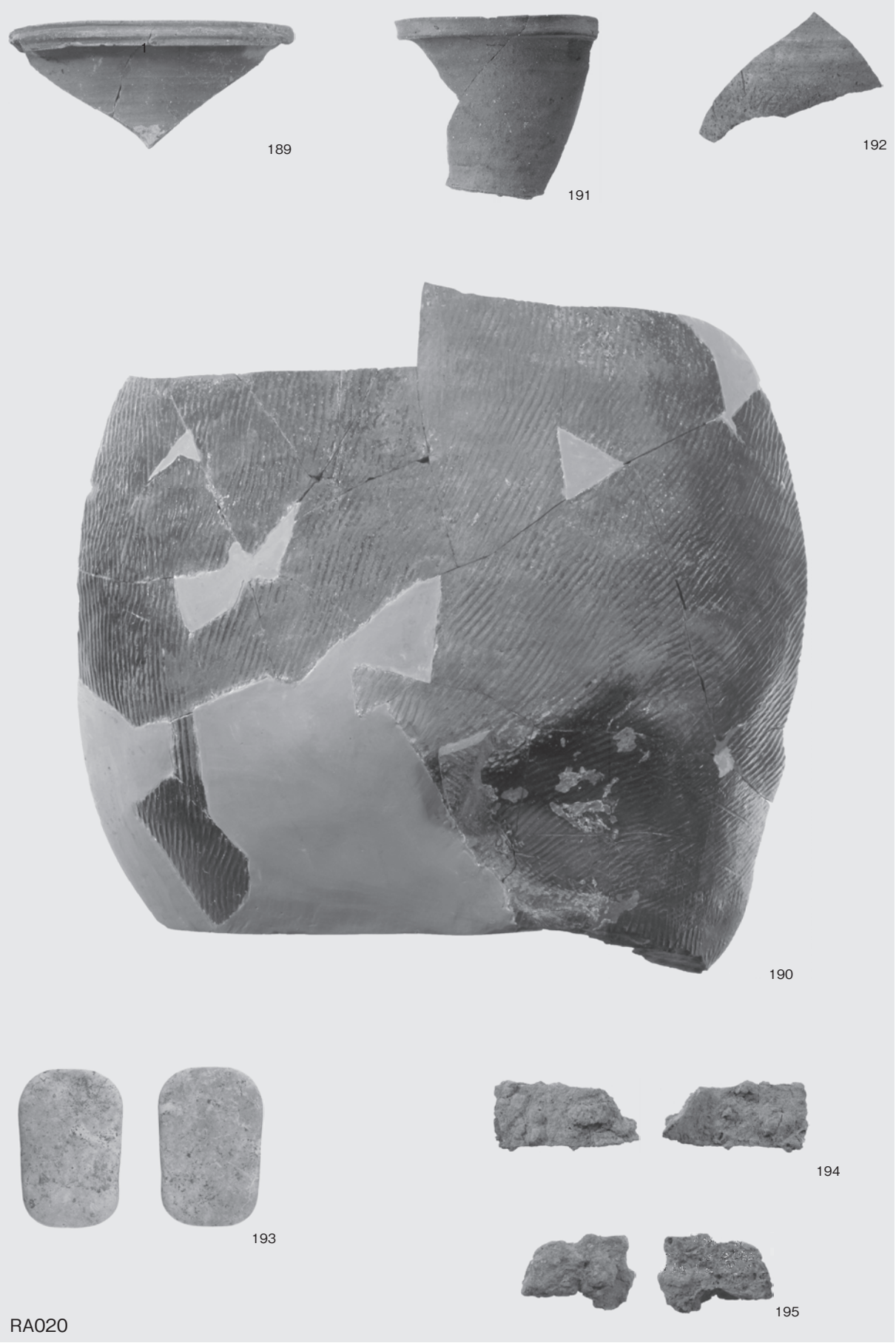


写真図版 61　出土遺物（8）

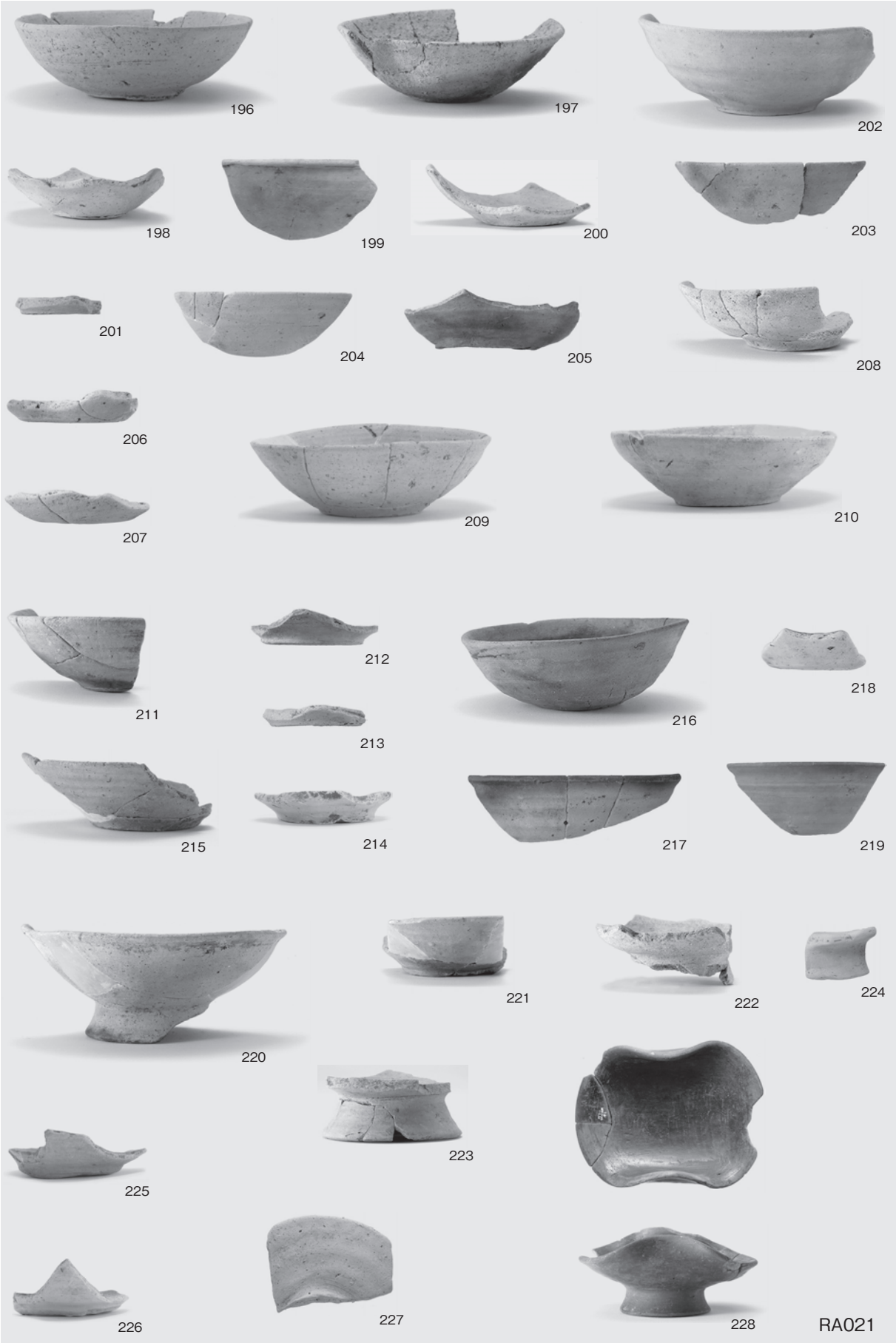


写真図版 62　出土遺物（9）

写真図版 63　出土遺物（10）

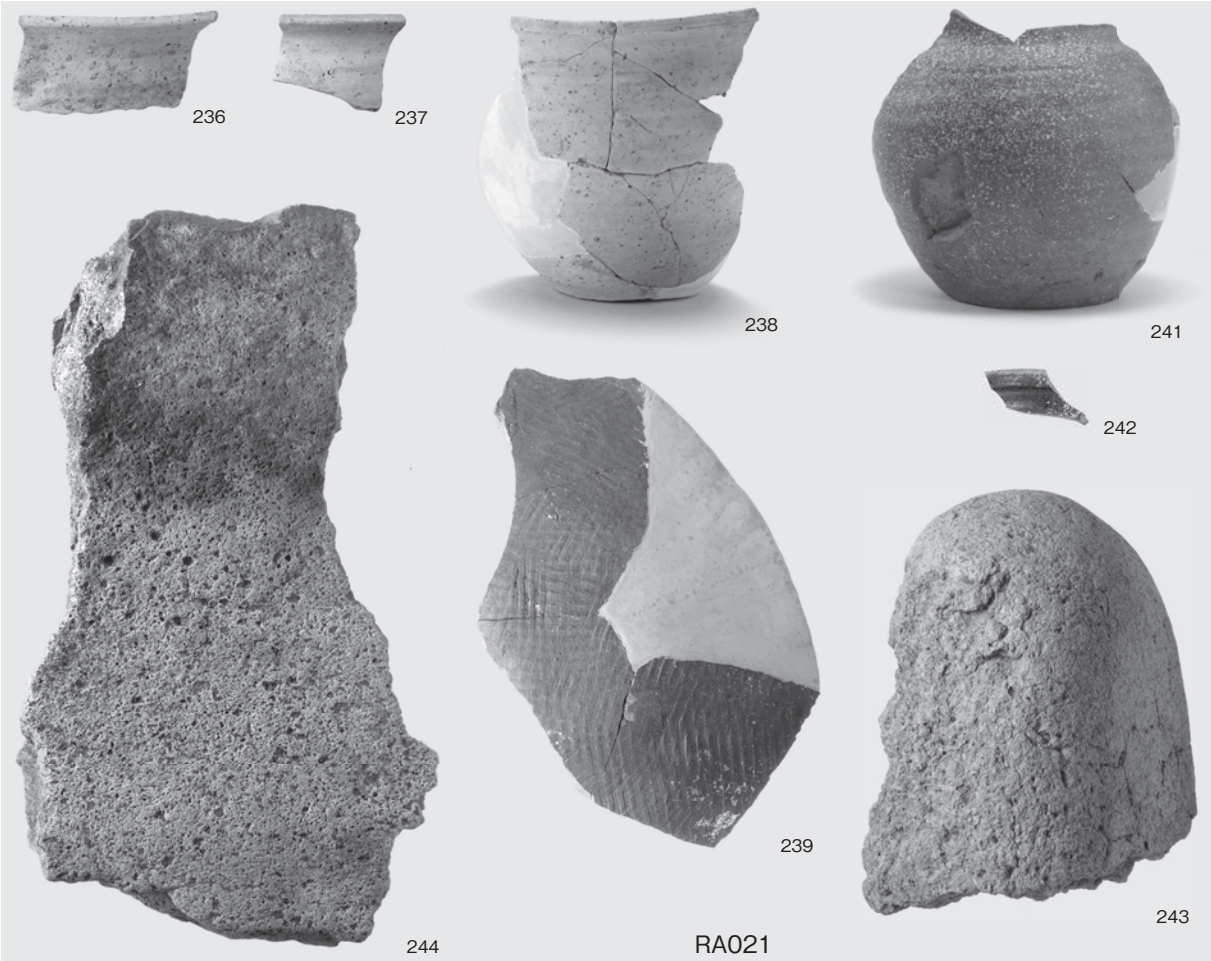


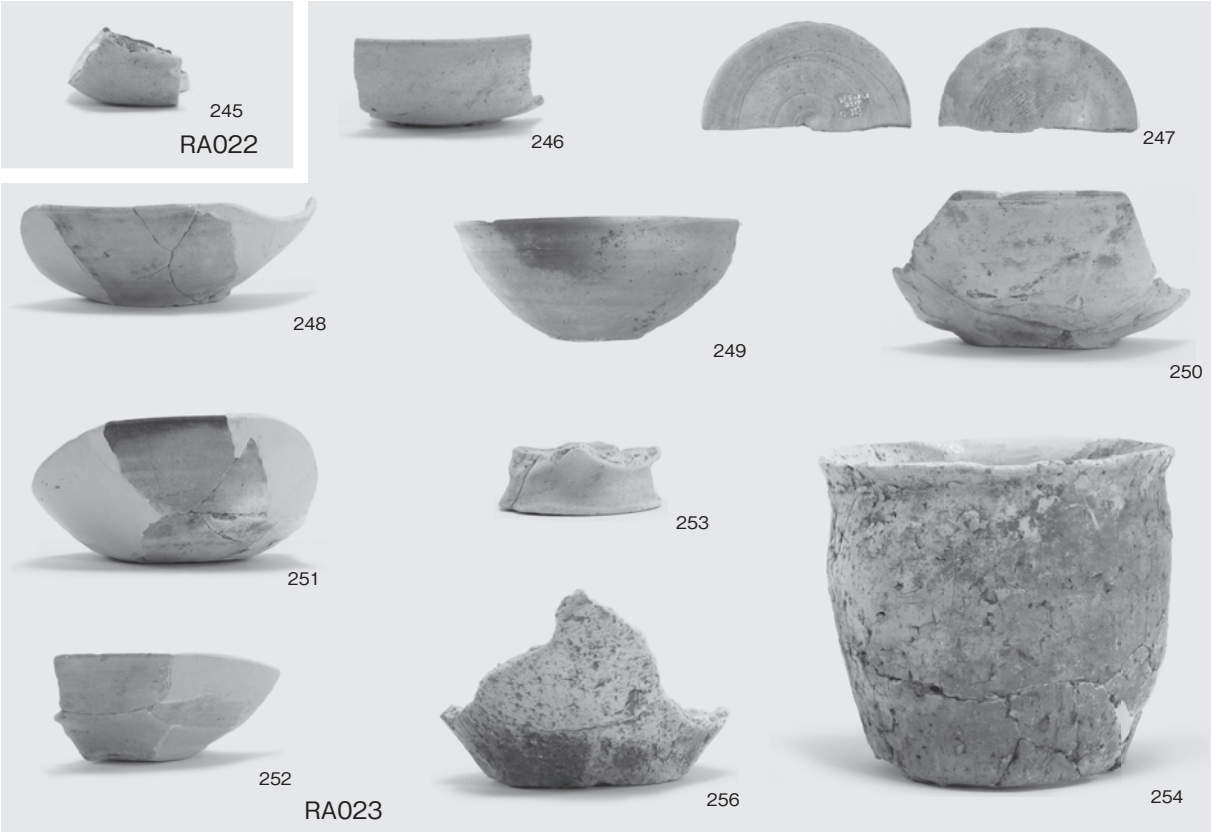
写真図版 64　出土遺物（11）



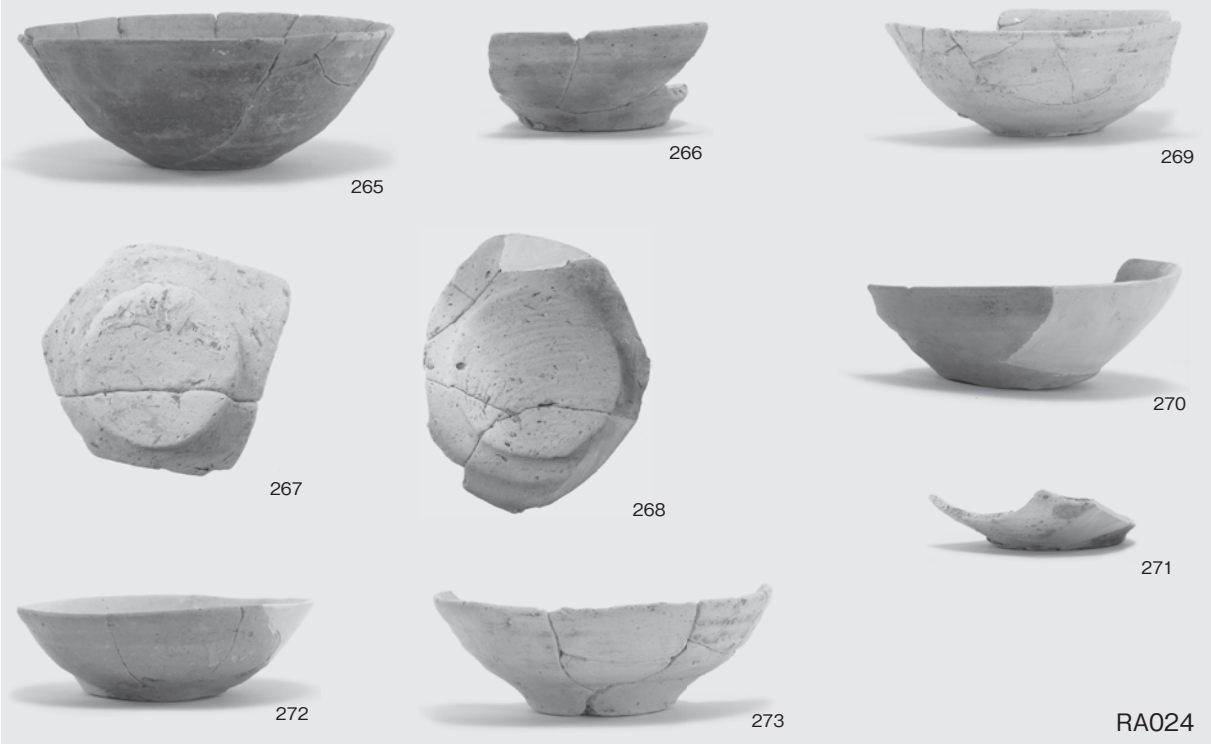
写真図版 65　出土遺物（12）

写真図版 66　出土遺物（13）

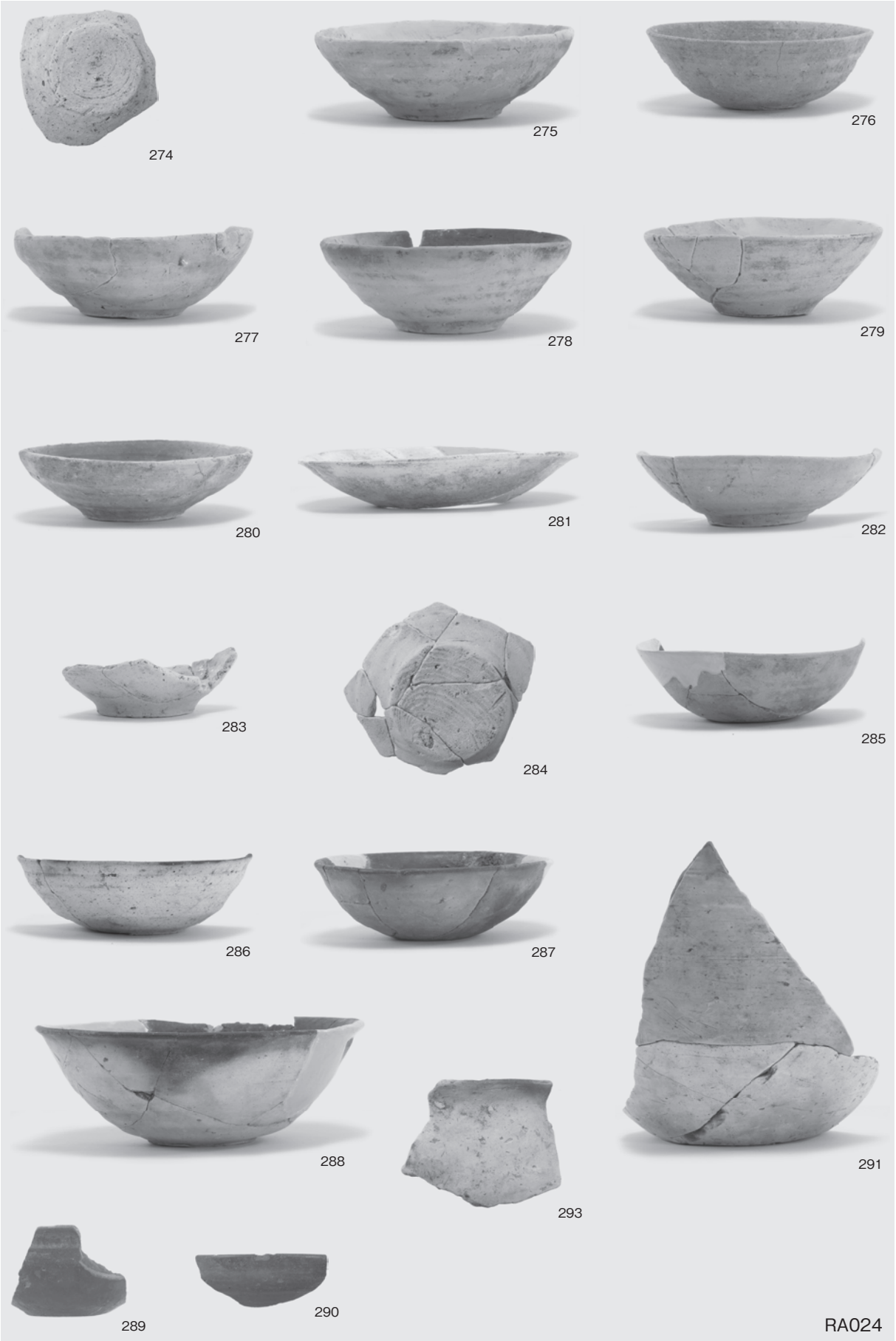




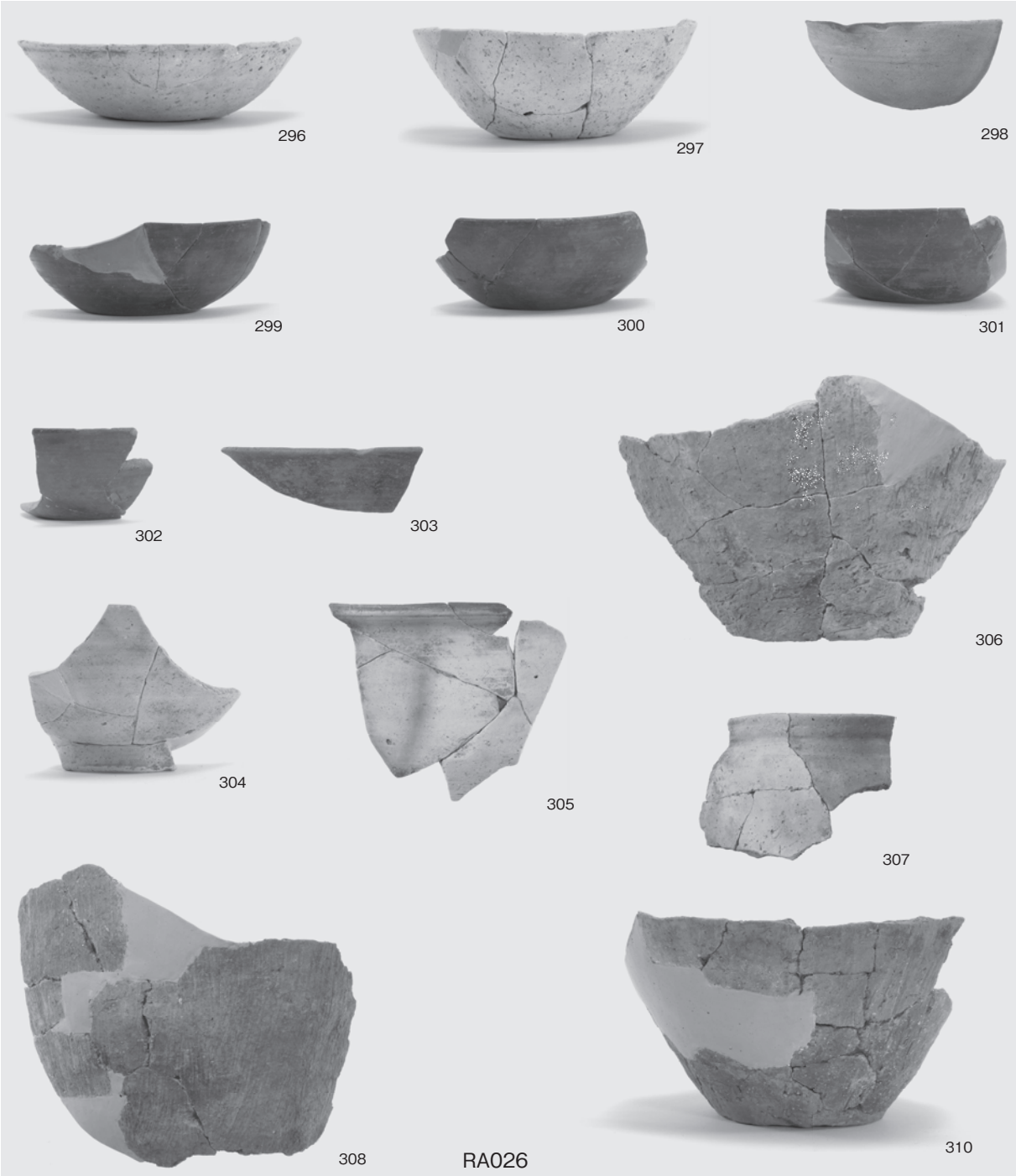
写真図版 67　出土遺物（14）



写真図版 68　出土遺物（15）

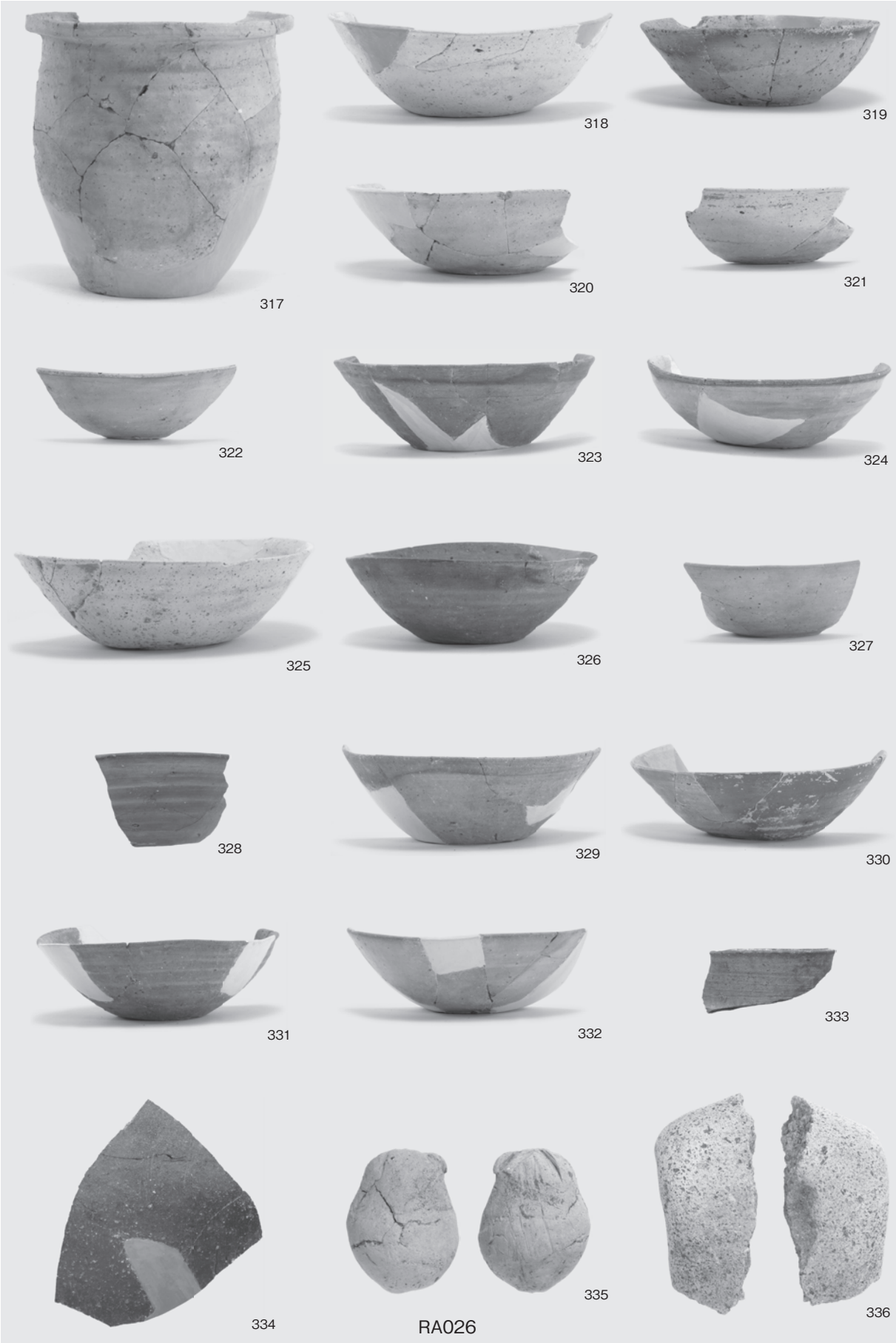


写真図版 69　出土遺物（16）

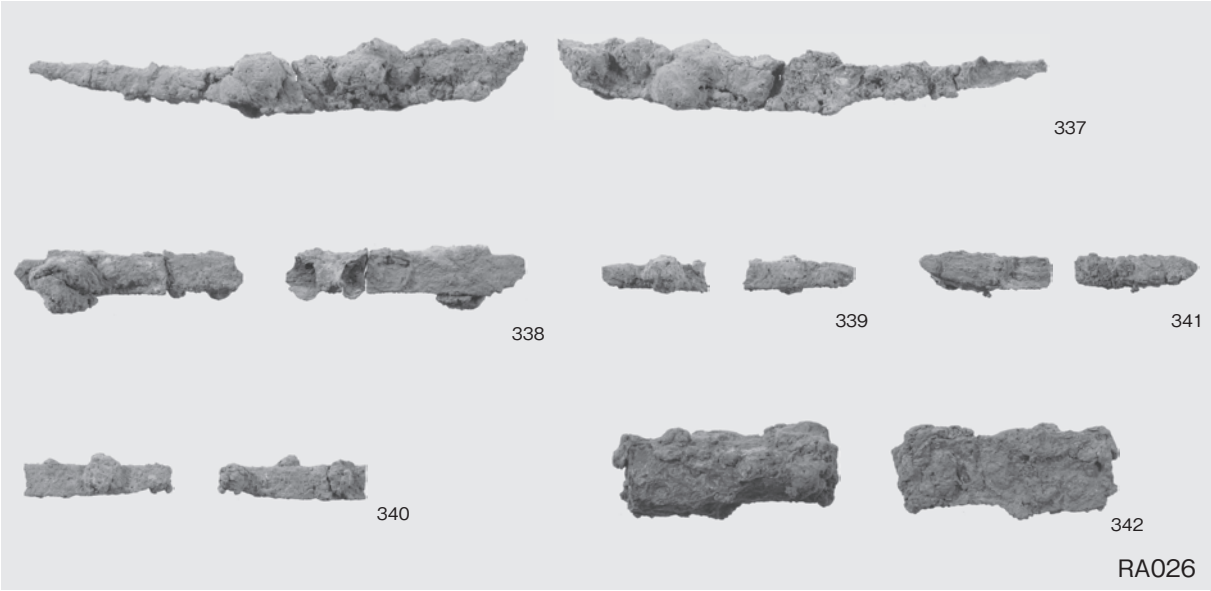


写真図版 70　出土遺物（17）

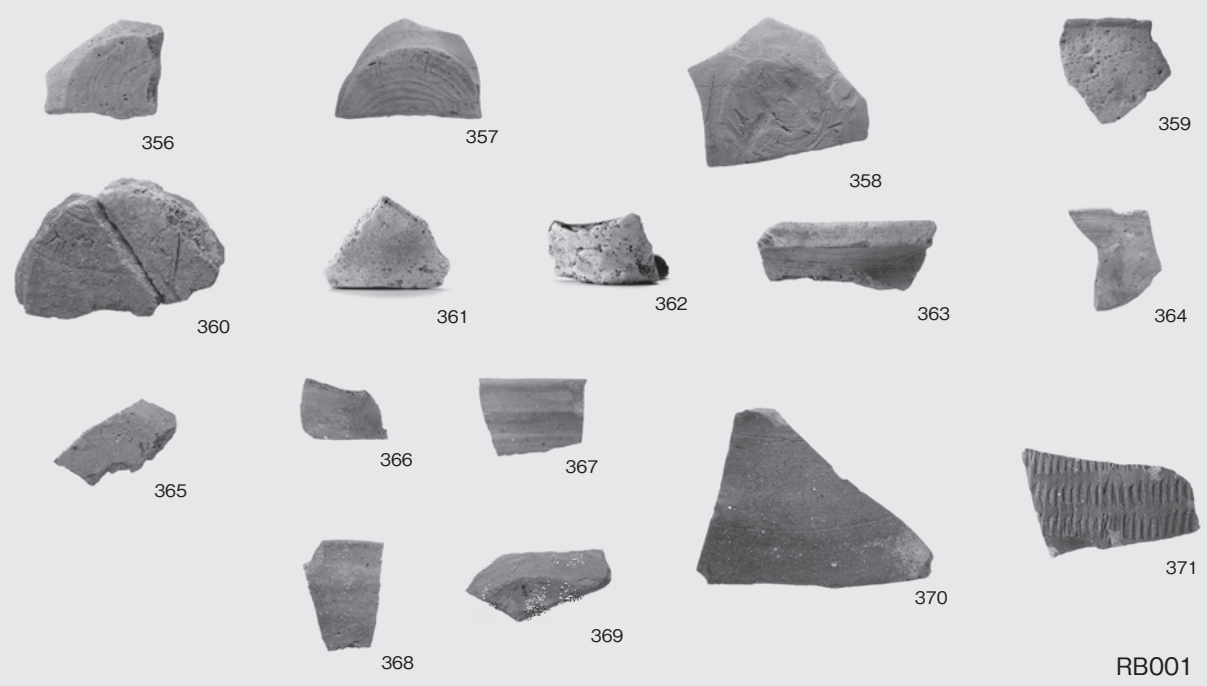
写真図版 71　出土遺物（18）

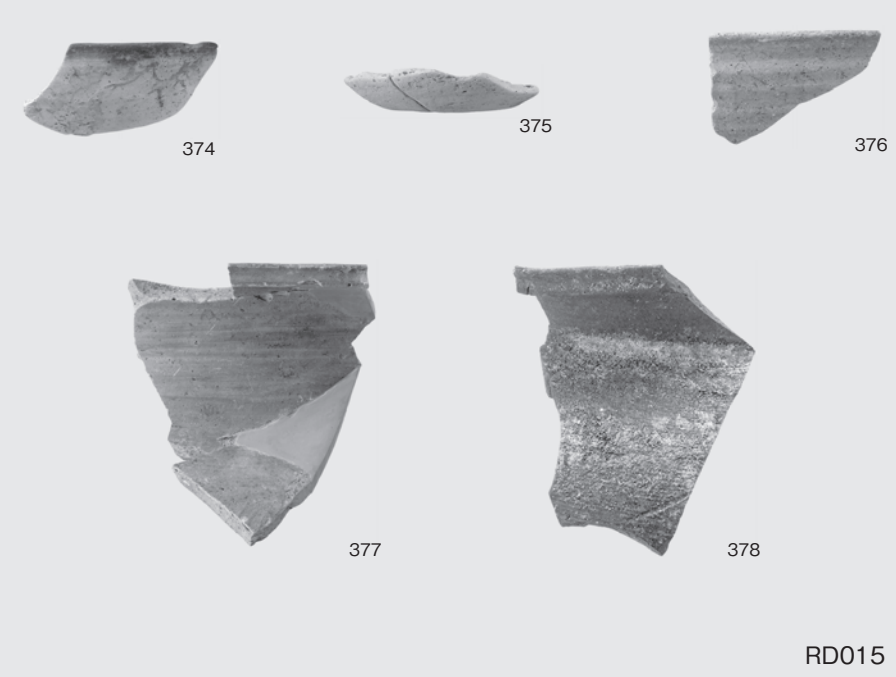


写真図版 72　出土遺物（19）



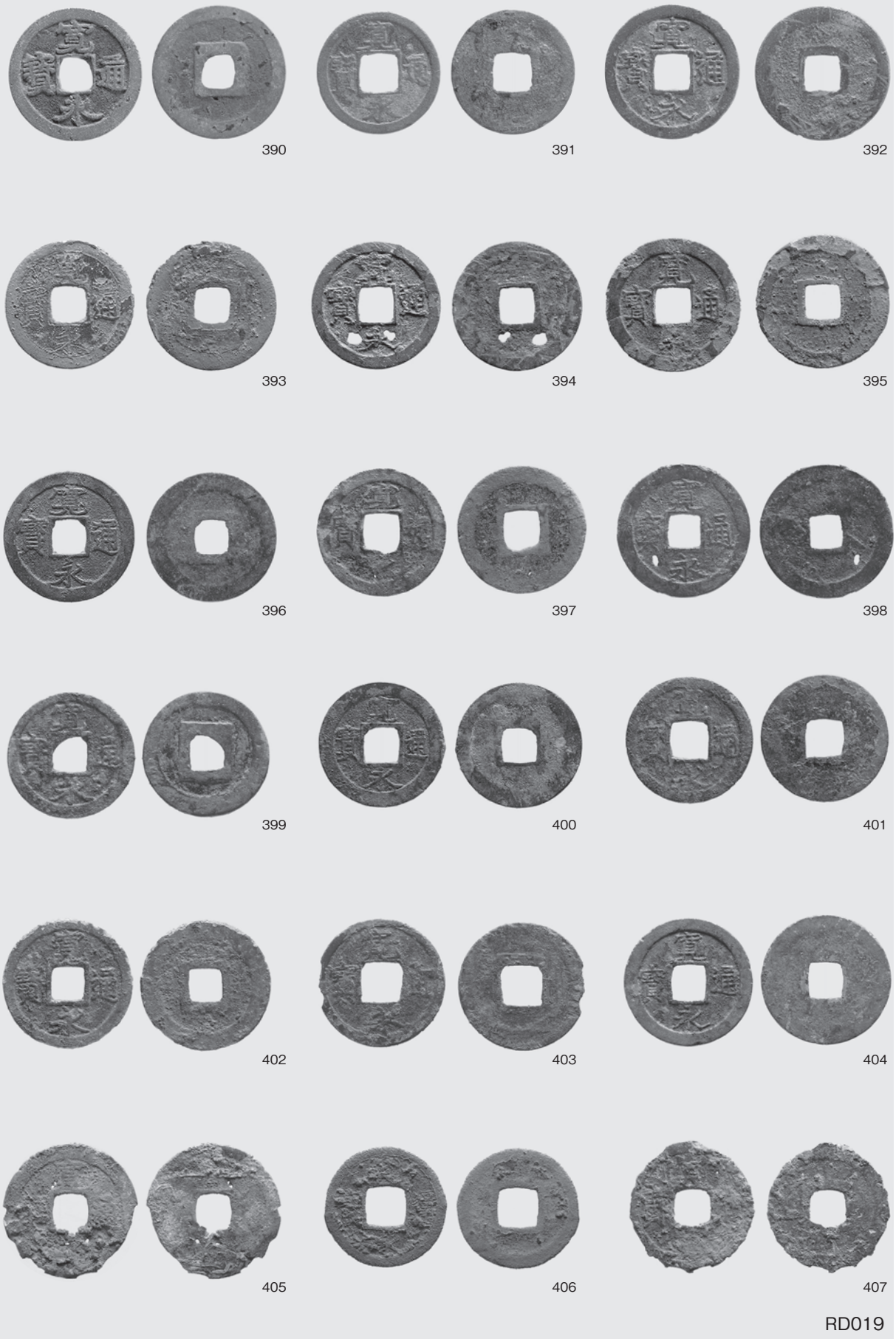
写真図版 73　出土遺物（20）



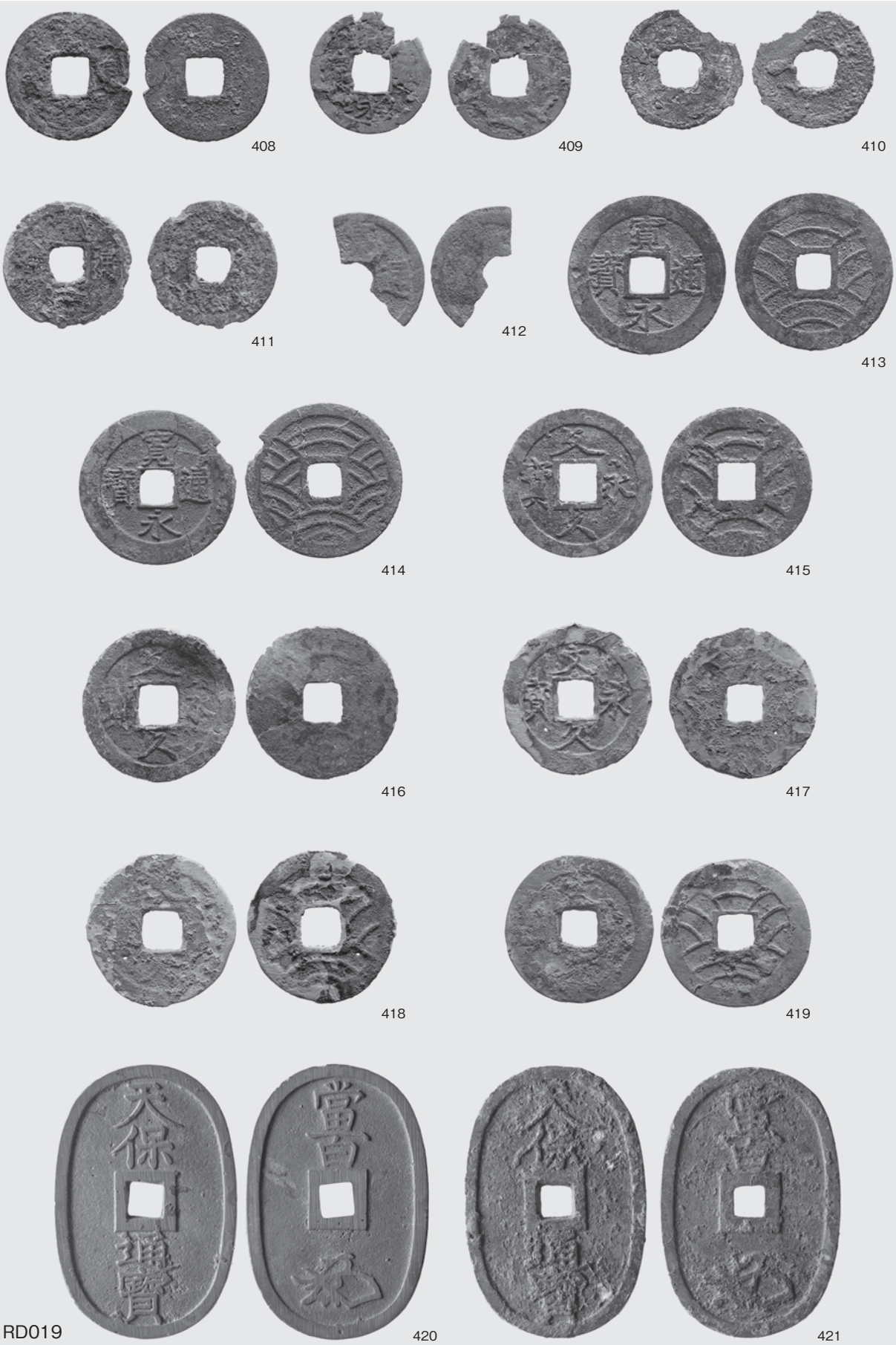


写真図版 74　出土遺物（21）

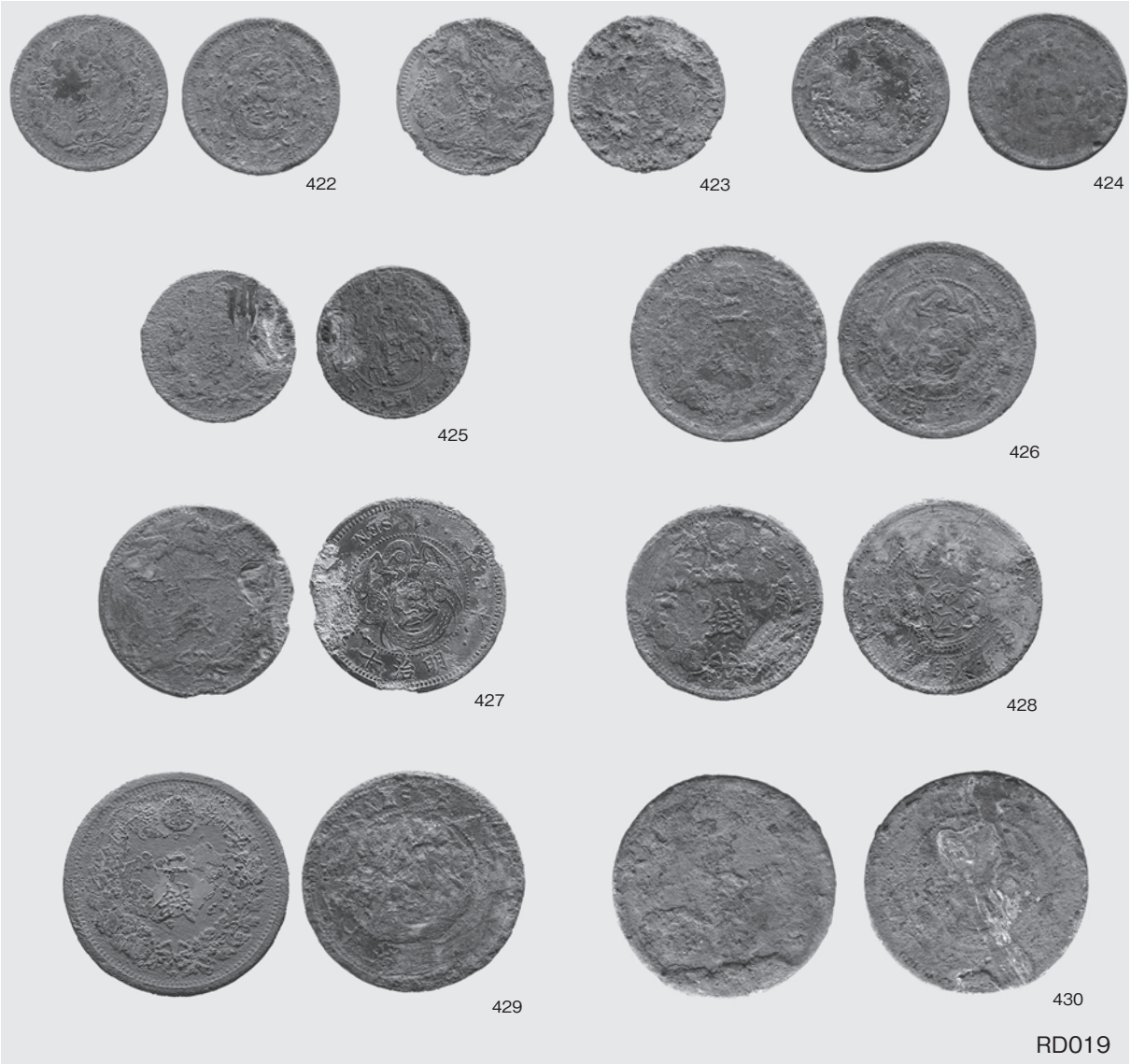
写真図版 75　出土遺物（22）

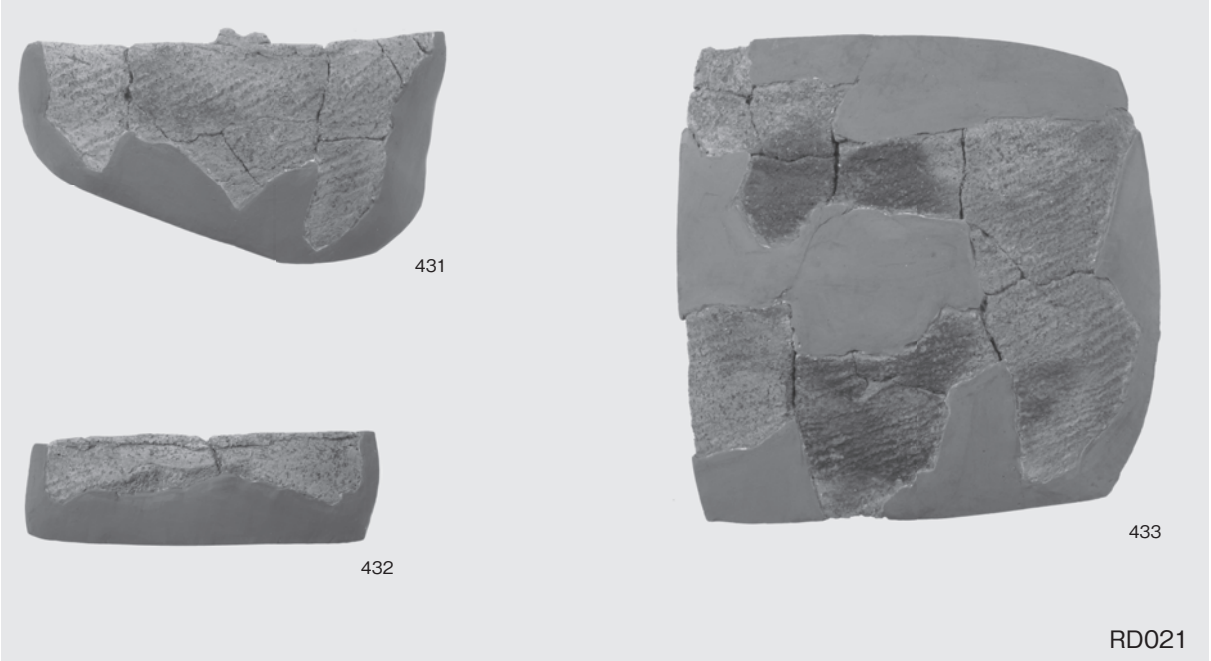


写真図版 76　出土遺物（23）

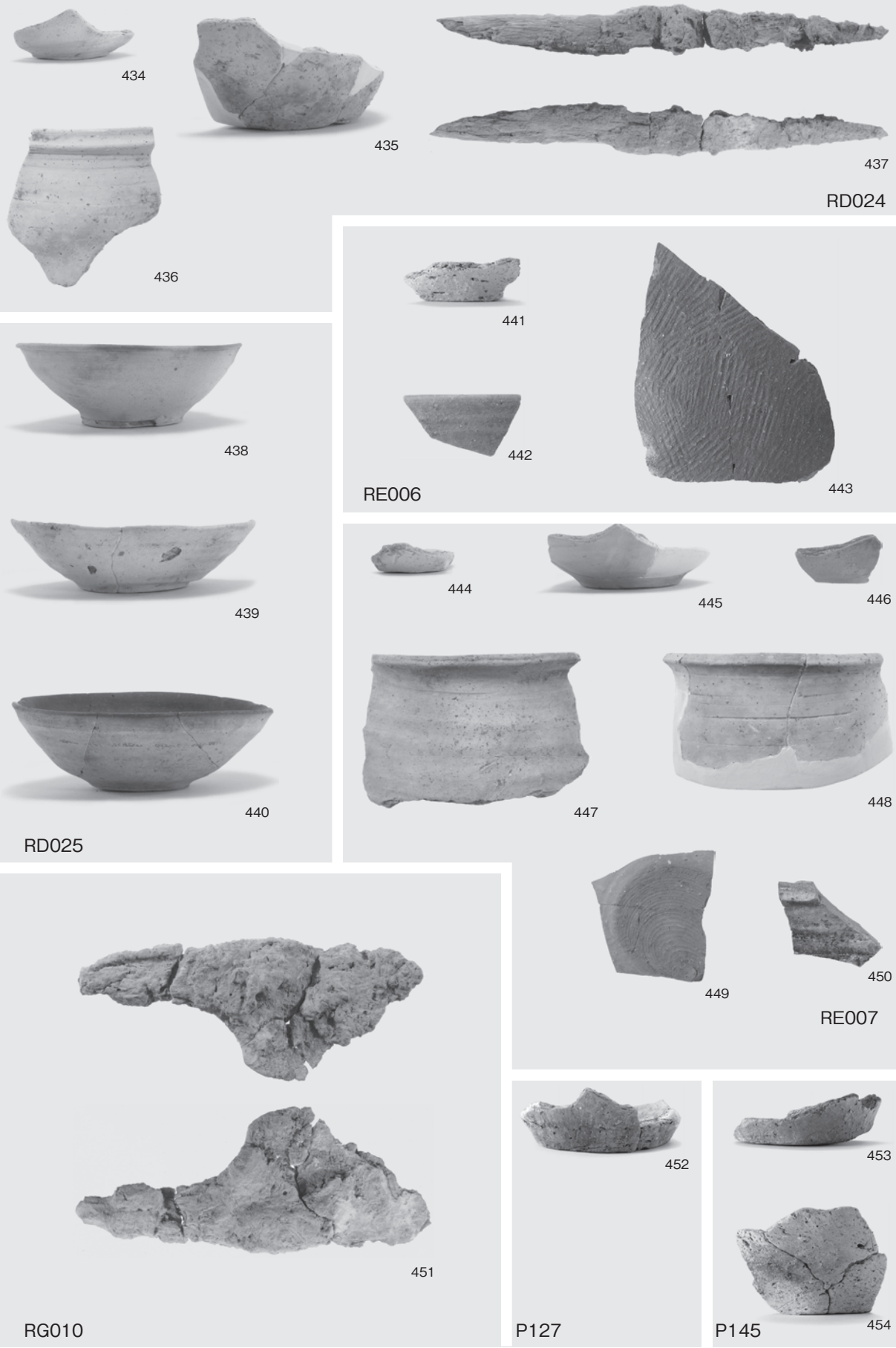


写真図版 77　出土遺物（24）

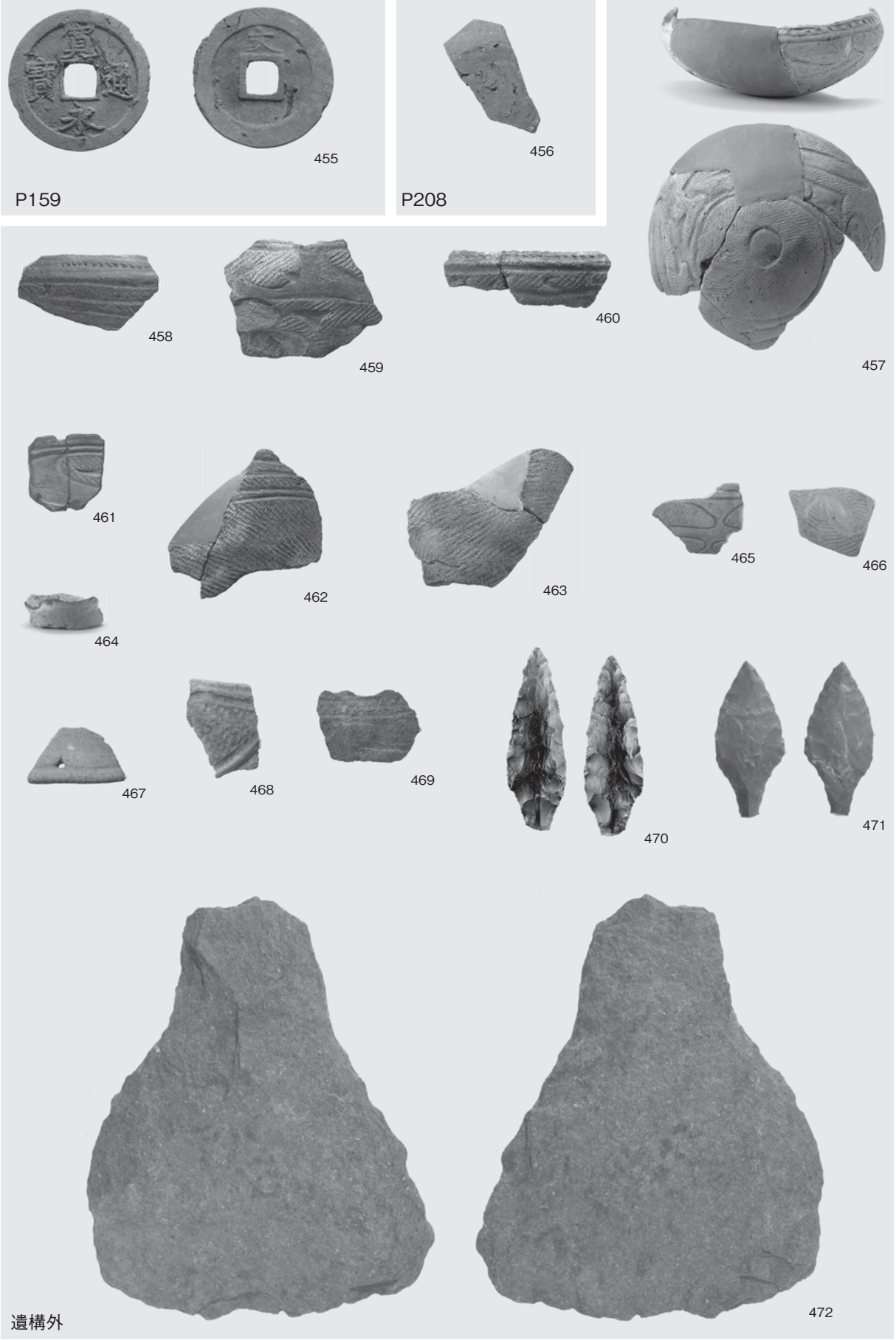




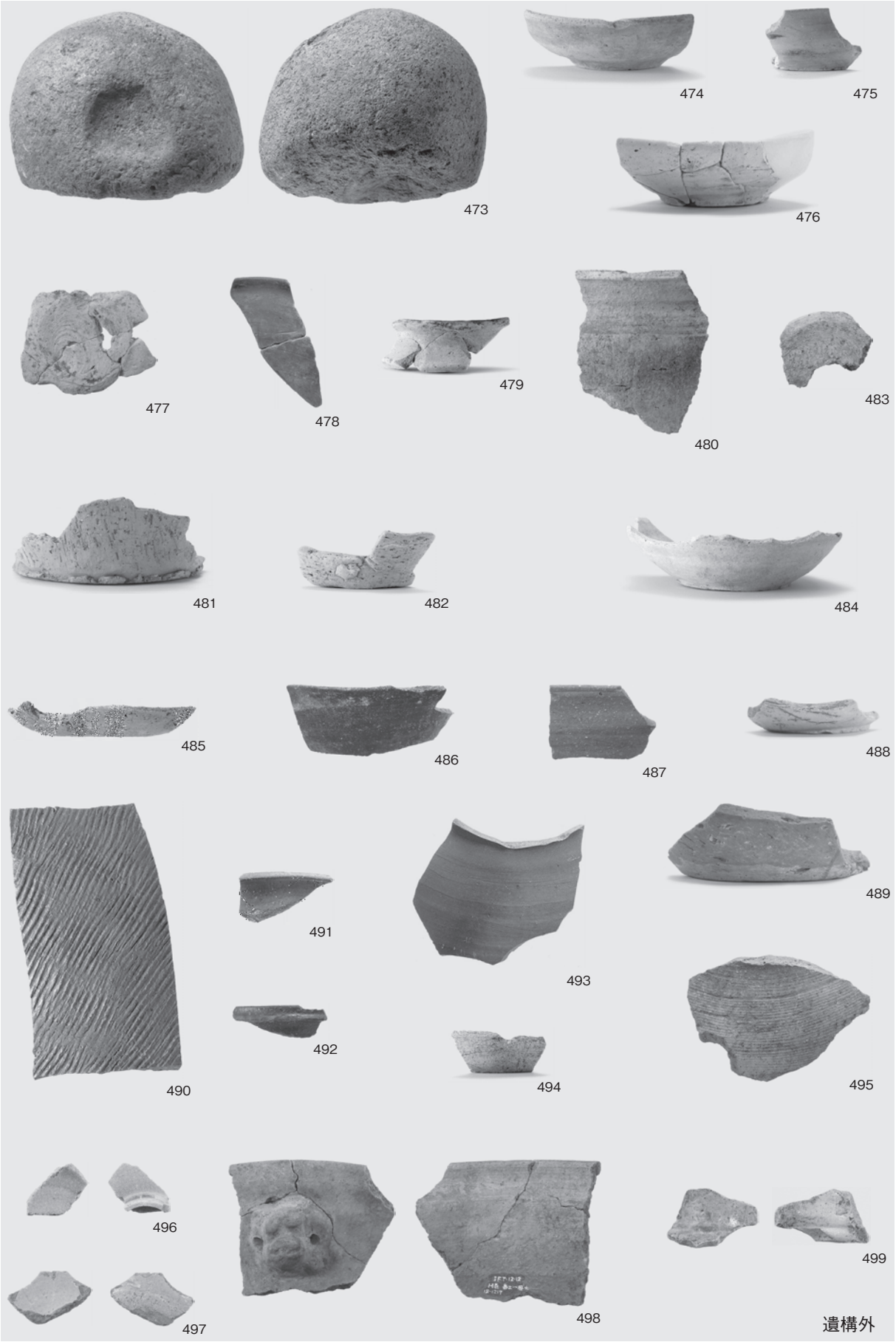
写真図版 78　出土遺物（25）



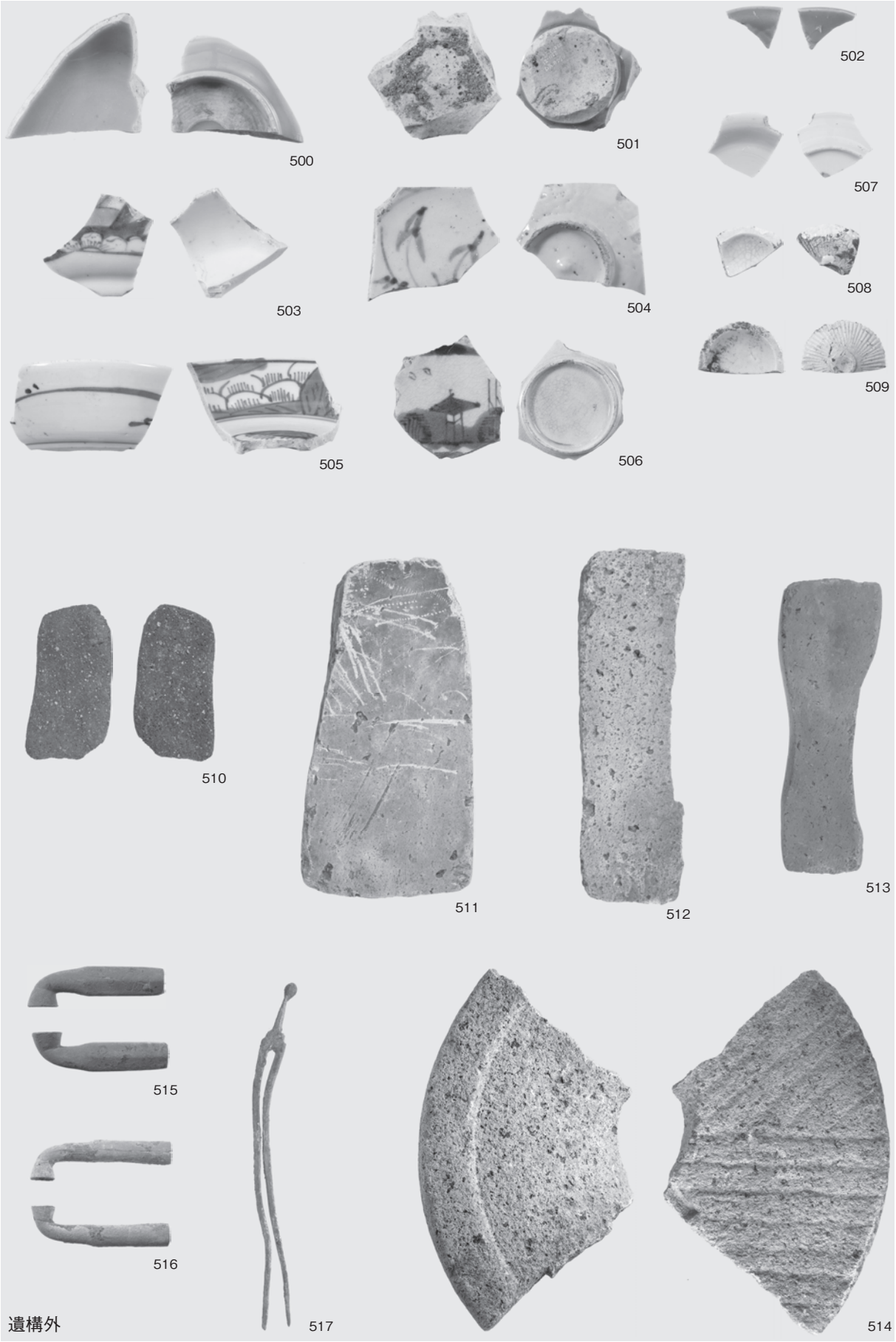
写真図版 79　出土遺物（26）



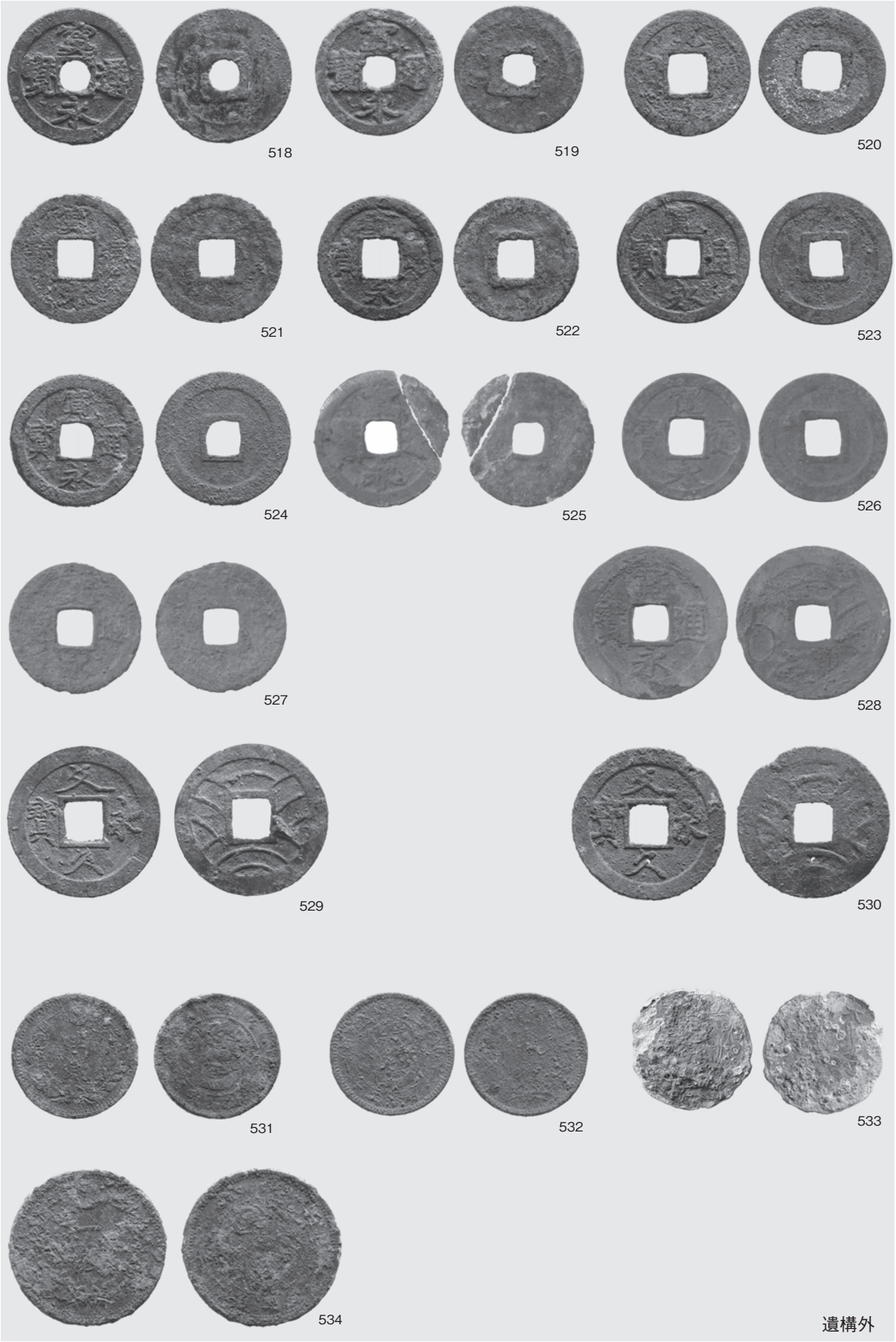
写真図版 80　出土遺物（27）



写真図版 81　出土遺物（28）



写真図版 82　出土遺物（29）



写真図版 83　出土遺物（30）

近代以降の陶磁器 1

近代以降の陶磁器 2

近代以降の陶器

写真図版 84　出土遺物（31）

報告書抄録

ふりがな	ふたまたいせきだいじゅういち・じゅうにじはっくつちょうさほうこくしょ
書名	二又遺跡第11・12次発掘調査報告書
副書名	主要地方道盛岡和賀線道路改良工事関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第623集
編著者名	北村忠昭、川又晋
編集機関	（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　TEL（019）638-9001
発行年月日	2014年3月24日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
二又遺跡 （第11･12次）	岩手県盛岡市下飯岡1地割55-1 ほか	03201	LE26-0024	39度 40分 29秒	141度 06分 53秒	2011.05.06 ～ 2011.08.31 2011.09.16 ～ 2011.10.14	3,460㎡	主要地方道盛岡和賀線道路改良工事
						2012.07.17 ～ 2011.11.01	2,830㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
二又遺跡 （第11･12次）	集落跡	縄文時代	土坑6基	縄文土器小コンテナ1箱、石器	縄文時代晩期中葉の可能性が高い貯蔵穴確認
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡18棟、掘立柱建物跡3棟、土坑11基、住居状遺構1棟	土師器・須恵器大コンテナ11箱、土製品、石器、金属製品	10世紀前半を中心とする南北を自然流路に挟まれた集落跡
	集落跡	中世	竪穴建物跡1棟	陶器	
	散布地	近世	掘立柱建物跡1棟	陶器、磁器、金属製品、銭貨	
		時期不明	土坑4基、溝跡9条、円形周溝1条、不明遺構1基、柱穴状土坑329個	陶器、磁器、金属製品、銭貨	

要約

二又遺跡は盛岡市役所から南西方向約4.5kmに位置し、雫石川右岸の低位段丘上に立地する。平成8年度以降、平成22年までに10度の発掘調査が行われており、竪穴住居跡をはじめとする平安時代の集落跡が確認された。

今回の調査では、調査区の北側と南側に旧河道と考えられる自然流路が確認され、その自然流路に挟まれた微高地上に10世紀前半を中心とする集落跡が確認された。集落は竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑で構成され、竪穴住居跡は北側にまとまって確認された。掘立柱建物跡は微高地のほぼ中央部に分布し、そのうち、1棟は掘り方が1mを超す柱穴で構成されるものが確認された。集落のシンボル的な建物と想定される。遺構は調査区外にも広がっており、分布は微高地上に東西に広がるものと想定される。

この他に、縄文時代の遺構・遺物も確認された。確認されたのは、貯蔵穴であるフラスコ形の土坑と土器・石器で、集落の中心となる竪穴住居跡は、今回の調査区では確認されなかった。しかし、隣接する調査区外に竪穴住居跡等の集落の中心部が存在する可能性が高い。また、縄文時代には陥し穴による罠猟も行われていることが確認された。自然流路に沿って陥し穴が構築されているものと考えられる。

上記のように、縄文時代以降現代に至るまで、断続的に利用されてきた土地であることが判明した。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 623 集

二又遺跡第 11・12 次発掘調査報告書

主要地方道盛岡和賀線道路改良工事関連遺跡発掘調査

印　刷　平成 26 年 3 月 20 日
発　行　平成 26 年 3 月 24 日

編　集　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒 020-0853　岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地
電話（019）638－9001

発　行　岩手県盛岡広域振興局土木部
〒 020-0023　岩手県盛岡市内丸 11 番 1 号
電話（019）629－6641

（公財）岩手県文化振興事業団
〒 020-0023　岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号
電話（019）654－2235

印　刷　河北印刷株式会社
〒 020-0015　岩手県盛岡市本町通 2 丁目 8 番 7 号
電話（019）623－4256

ⓒ（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2014